FUJI Xerox

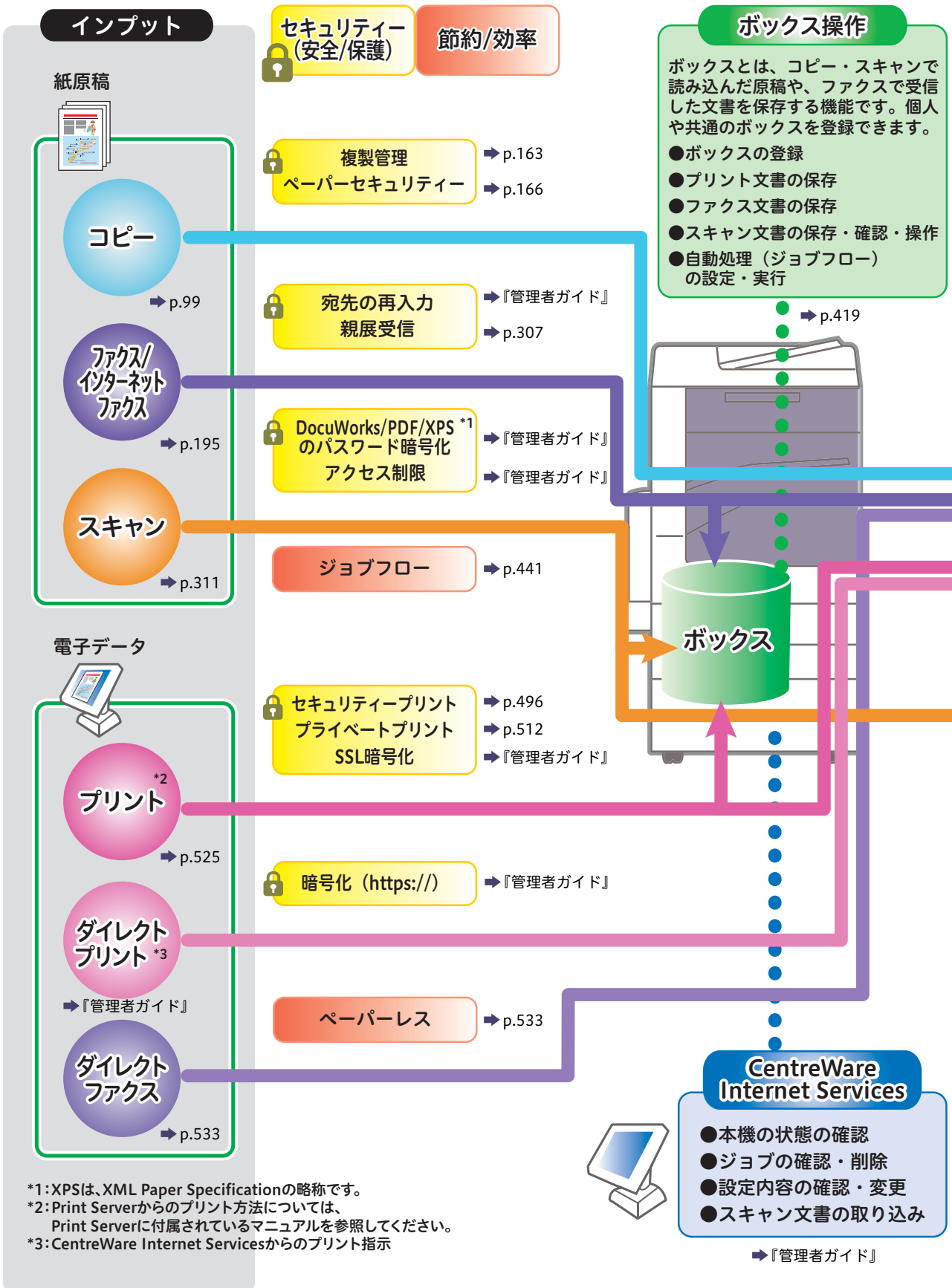
ApeosPort®-V 7080 N
ApeosPort®-V 6080 N
ApeosPort®-V 5080 N
DocuCentre-V 7080 N
DocuCentre-V 6080 N
DocuCentre-V 5080 N

ユーザーズガイド

日常の操作について説明しています。
トラブル対処などの管理操作は
管理者ガイドをご覧ください。

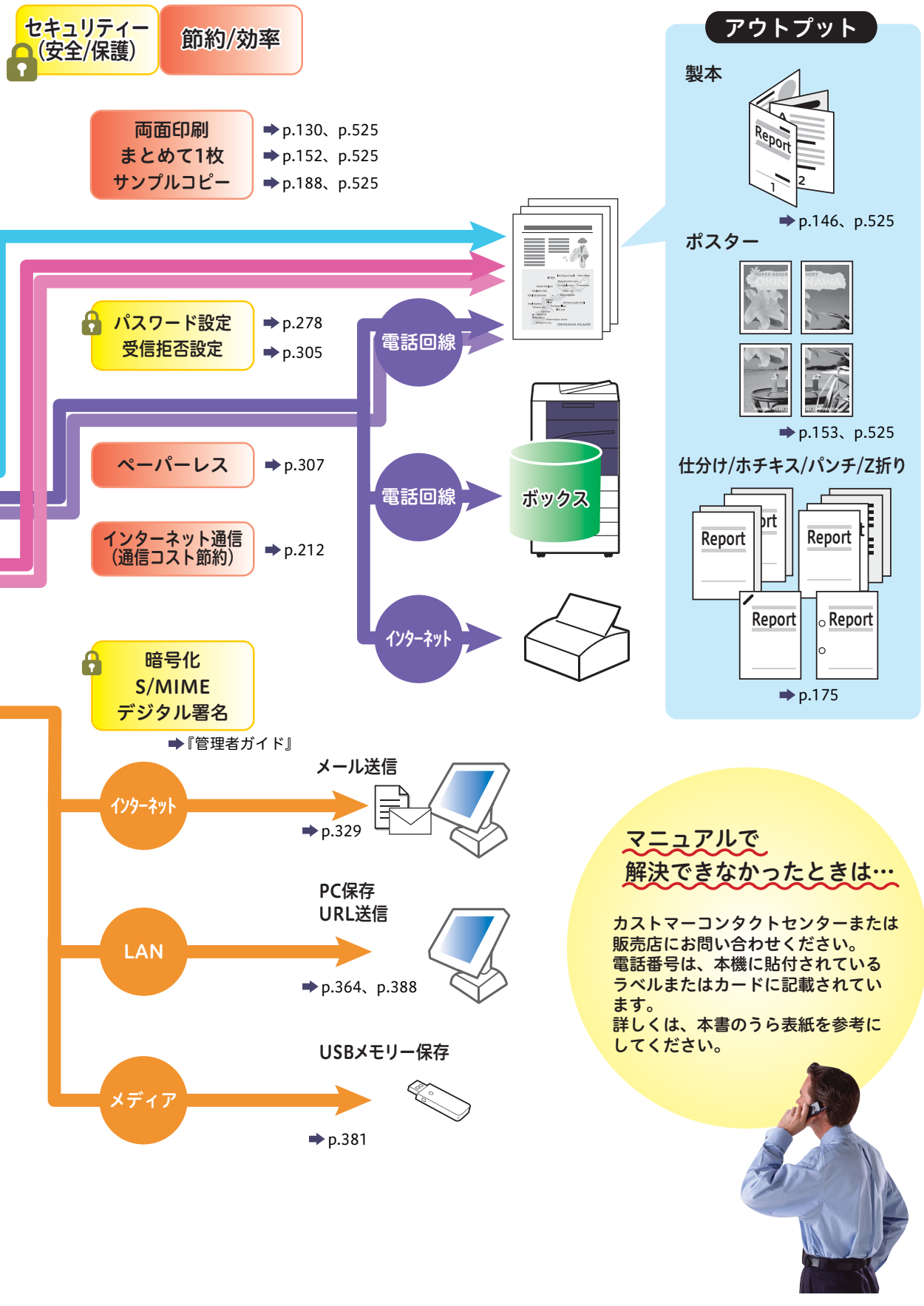
こんな機能があります

ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N は、オフィス内のドキュメント出力や活用を、安全で効果的に実現するために、さまざまな機能を用意しています。



*1：XPSは、XML Paper Specificationの略称です。
*2：Print Serverからのプリント方法については、
Print Serverに付属されているマニュアルを参照してください。
*3：CentreWare Internet Servicesからのプリント指示

機種によっては、オプションが必要な機能があります。オプションについては、弊社の営業担当者にお尋ねください。
ページ番号を記載している機能は、この「ユーザーズガイド」で説明している機能です。今まで使わなかった機能など、是非ご利用ください。



マニュアルで解決できなかったときは…

カストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
電話番号は、本機に貼付されているラベルまたはカードに記載されています。
詳しくは、本書のうら表紙を参考にしてください。

Microsoft、Windows、Microsoft Network、Windows Server、Windows Vista および Internet Explorer は、
米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Adobe、Acrobat、PostScript、PostScript 3 および PostScript ロゴは、
Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
Macintosh および Mac OS は、Apple Inc. の商標です。
BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）の商標です。
RSA および BSAFE は、EMC コーポレーションの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。
Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。
ライセンスについては、「ライセンスについて」（P.22）に記載しています。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

万一本体の記憶媒体（ハードディスク等）に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータ等が消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この取扱説明書のなかで⚠と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

本機には偽造防止機能が搭載されているため、まれに原稿によっては適切なコピーやスキャンデータが得られないことがあります。

データセキュリティキットを輸出（又は非居住者との間で役務取引）する場合は我が国の外国為替及び外国貿易法及びこれに付随する法令等ならびに米国輸出管理規制を遵守してください。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。
万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
ApeosPort、ApeosWare、DocuLyzer、および DocuWorks は、
富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。
CentreWare は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

目次

1 お使いいただく前に

はじめに 16
マニュアル体系 17
本書の使い方 19
本書の構成 19
本書の表記 20
ライセンスについて 22
RSA BSAFE について 22
Heimdal について 22
JPEG コードについて 22
Libcurl について 23
FreeBSD について 23
OpenLDAP について 24
DES 暗号について 26
AES 暗号について 26
TIFF (libtiff) について 26
ICC Profile (Little cms) について 26
XML Paper Specification (XPS) について 26
EDICT および COMPDIC について 27
Cyrus SASL 28
newlib について 29
Qt について 49
LGPL 適用ソフトウエアについて 49
その他 Qt で使用するライセンスについて 59

2 機械の構成

各部の名称と働き 62
電源について 71
主電源を入れる 71
電源を入れる 72
電源を切る 73
主電源を切る 75
リモート操作で電源を切る 76
ブレーカーについて 77
節電機能について 78
節電状態に移行する 78
節電状態から復帰する 79
操作パネル 80
大型カラー操作パネルについて 84
画面やボタンの表示について 87
メニュー画面について 88
タッチパネルの使い方 94

文字の入力方法について 97
冷却モードについて 98

3 コピー

コピー操作の流れ 100
Step1 原稿をセットする 100
Step2 機能を選択する 103
Step3 部数を入力する 105
Step4 コピーを開始する 105
Step5 ジョブの状態を確認する 107

コピー中の操作 108
コピーを中止する 108
部数を変更する 110
割り込みをする 110

らくらくコピー 112
用紙トレイ（コピーする用紙のトレイを選択する） 112
倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする） 114
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする） 114
コピー濃度（コピー濃度を調整する） 115
2 枚→ 1 枚（2 枚の原稿を 1 ページにまとめてコピーする） 115
ホチキス左上 1 ヵ所 116

コピー 117
倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする） 118
用紙選択（コピーする用紙を選択する） 121
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする） 124
仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り
（仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折りを指定して排出する） 125
まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする） 125
コピー濃度（コピー濃度を調整する） 125

画質調整 126
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 126
コピー濃度 / シャープネス（コピー濃度 / 画像のシャープさを調整する） 127
地色除去（原稿の背景にある色を除去する） 128

読み取り方法 129
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする） 130
ページ連写（見開き原稿を左右に分割してコピーする） 131
ブック両面（見開き原稿を分割して両面コピーする） 133
原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする） 134
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る） 136
わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする） 137
コピー位置 / とじしろ（画像の位置を移動してコピーする） 139
鏡像 / ネガポジ反転（画像を反転してコピーする） 141
原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する） 142
自動画像回転（たてよこに画像を回転させてコピーする） 143

出力形式 145
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする） 146
製本（中とじ冊子になるようにコピーする） 146

表紙付け（表紙を付けてコピーする）.....150
まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）.....152
ポスター（複数の用紙に分けて拡大コピーする）.....153
画像繰り返し（1 枚の用紙に画像を繰り返してコピーする）.....154
アノテーション（スタンプ / 日付 / ページ番号を付けてコピーする）.....156
複製管理（背景に管理番号を印字する）.....163
ペーパーセキュリティー（原稿のセキュリティー管理をする）.....166
インデックス紙コピー（インデックス用紙にコピーする）.....168
排出面指定（用紙の排出面を設定する）.....169
紙折り指定（用紙を二つ折り / 三つ折りにして排出する）.....170
ダブルコピー（1 枚の原稿を 1 枚の用紙に繰り返してコピーする）.....171
OHP 合紙（OHP フィルムの間に用紙を差し込む）.....172
仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り
（仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折りを指定して排出する）.....175
ID カードコピー（ID カードのおもてとうらをコピーする）.....181

ジョブ編集.....183

ビルドジョブ（異なる設定の原稿をまとめてコピーする）.....183
サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする）.....188
大量原稿（原稿を追加する）.....190
フォーム合成（原稿を合成してコピーする）.....191
抽出 / 削除（指定した領域を抽出 / 削除してコピーする）.....192
ジョブメモリー（ビルドジョブ用ジョブメモリーを呼び出す）.....194

4 ファクス

ファクス操作の流れ.....196

Step1 原稿をセットする.....196
Step2 機能を選択する.....199
Step3 宛先を指定する.....201
Step4 ファクスを開始する.....203
Step5 ジョブの状態を確認する.....204

ファクス中の操作.....206

ファクスを中止する.....206
原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する.....208
読み取りの設定を変更する.....211

インターネットファクスについて.....212

インターネットファクスの特長.....212
インターネットファクスを送信する.....214
インターネットファクスを受信する.....216
便利な機能を使う.....217

IP ファクス（SIP）について.....220

企業内ネットワーク（イントラネット）を利用する.....220
次世代ネットワーク（NGN）を利用する.....222
IP ファクス（SIP）の特長.....223
ほかのファクスとの違い.....224
IP ファクス（SIP）を送信する.....225
IP ファクス（SIP）を受信する.....226

らくらくファクス.....227

ダイヤル入力で宛先を指定する.....228

短縮宛先番号で宛先を指定する 228
ワンタッチボタンで宛先を指定する 229
プレビュー（原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する） 231
送信画質（読み取る解像度を指定して送信する） 231
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 232
両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する） 232

ファクス / インターネットファクス 234

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）（ファクスの種類を指定して送信する） 235
内線 / 外線（回線を指定して送信する） 235
複数の宛先に送信する 235
宛先表を使って宛先を指定する 236
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する） 236
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する） 241
短縮宛先番号で宛先を指定する 242
宛先の新規登録（宛先表に登録する） 243
ワンタッチボタンで宛先を指定する 246
キーボードで宛先を指定する 247
リダイヤルで宛先を指定する 248
回線（ポート）を指定する 249
特殊記号を入力する 251
指定した宛先を削除 / 確認する 252
プレビュー（読み込んだ原稿を確認する） 252
送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する） 253
両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する） 253
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 255
送信画質（読み取る解像度を指定して送信する） 255

読み取り方法 257

両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する） 257
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 257
送信画質（読み取る解像度を指定して送信する） 258
読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定して送信する） 258
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る） 259
ページ連写（見開き原稿を左右に分割して送信する） 260
読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定して送信する） 262
送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する） 263

送信オプション 264

モニターレポート / 開封確認 / 配送確認（送信結果を確認する） 264
通信モード（通信モードを選択する） 266
優先通信 / 時刻指定（優先させて通信する / 時刻を指定して送信する） 268
発信元記録（こちらの名前や番号を付けて送信する） 270
送信シート（表紙を付けて送信する） 271
インターネットファクス件名（インターネットファクスの件名を指定する） 273
インターネットファクスコメント（メール本文）（インターネットファクスの本文を編集する） 273
送信先部数（送信先で複数部プリントする） 275
並列合成送信（複数の原稿を 1 枚に合成して送信する） 277
親展通信（親展通信する） 278
F コード通信（F コード通信をする） 281
インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する） 285

暗号化（S/MIME で暗号化してインターネットファクスを送信する）.....286
デジタル署名
（S/MIME でデジタル署名してインターネットファクスを送信する）.....287
オンフック / その他.....288
ポーリング（相手先の文書を取り出す）.....288
ポーリング予約（相手先が取り出せるファクス文書を蓄積する）.....291
オンフック（相手先の応答を確認して送信する）.....292
同報.....294
同報送信（複数の宛先に送信する）.....294
中継同報（中継局を介して同報送信する）.....295
リモート中継同報（遠隔地に中継同報する）.....299
中継同報を利用できる機種について.....302
受信について.....305
自動受信と手動受信を切り替える.....305
自動で受信する.....306
手動で受信する.....306
親展受信について.....307
FAX 情報サービスについて.....308
受話器を使用する（受話器がある場合）.....308
受話器を使用しない（受話器がない場合）.....309
ファクシミリ通信網を利用する.....310

5 スキャン

スキャン操作の流れ.....312
Step1 原稿をセットする.....312
Step2 機能を選択する.....315
Step3 スキャンを開始する.....319
Step4 ジョブの状態を確認する.....321
Step5 スキャンデータを取り込む.....321
スキャン中の操作.....322
スキャンを中止する.....322
原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する.....323
読み取りの設定変更をする.....328
スキャナー（メール送信）.....329
宛先表について.....330
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）.....331
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）.....334
宛先の新規登録（宛先表に登録する）.....338
ワンタッチボタン（アドレスを指定する）.....340
キーボード（アドレスを指定する）.....341
送信者アドレスを追加（送信者のアドレスを追加する）.....342
宛先名 / メールアドレス（宛先の削除 / 確認 / 変更する）.....343
送信者（送信者のアドレスを設定する）.....344
件名（件名を設定する）.....345
本文（本文を入力する）.....346
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....346
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....346

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....347
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....349
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....349
スキャナー（PC 保存）.....364
転送プロトコル（転送プロトコルを選択する）.....365
宛先表について.....366
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）.....366
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）.....368
宛先の新規登録（宛先表に登録する）.....369
ワンタッチボタン（保存先 PC を指定する）.....373
ネットワーク参照（ネットワークを参照して保存先 PC を指定する）.....374
転送先の指定（保存先 PC を指定して転送する）.....375
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....378
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....378
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....378
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....378
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....378
スキャナー（ボックス保存）.....379
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....380
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....380
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....380
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....380
スキャナー（USB メモリー保存）.....381
保存先（USB メモリー内の保存先を指定する）.....385
保存先詳細（USB メモリー内の保存先の詳細を表示する）.....386
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....387
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....387
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....387
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....387
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....387
スキャナー（URL 送信）.....388
宛先（認証ユーザーのメールアドレスを表示する）.....389
送信者（認証ユーザーのメールアドレスを表示する）.....389
件名（件名を設定する）.....389
本文（本文を入力する）.....389
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....389
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....390
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....390
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....390
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....390
スキャナー（WSD）.....391
PC から（コンピューターからスキャンを開始する）.....392
本体から（本機でスキャンしたデータをコンピューターに保存する）.....394
画質調整 396
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....397
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....397
印画紙スキャン（カラーの印画紙写真をスキャンする）.....397
読み込み濃度 / シャープネス（スキャン濃度や画像のシャープさを調整する）.....398

地色除去 / コントラスト
（原稿の背景にある色を除去する / コントラストを調整する）.....398
裏写り防止（原稿の裏写りを防止する）.....399
色空間（色空間を設定する）.....400
読み取り方法.....402
読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）.....403
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....403
ページ連写（見開き原稿を左右に分割してスキャンする）.....404
読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）.....405
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）.....406
わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してスキャンする）.....408
読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする）.....409
原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）.....410
出力形式.....411
画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）.....412
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....413
開封確認（MDN）（開封確認を要求する）.....413
分割送信（分割して送信する）.....414
ファイル名（送信する文書のファイル名を指定する）.....414
返信先アドレス（返信先のアドレスを設定する）.....415
ファイル名重複時の処理（ファイル名が重複したときの処理を設定する）.....416
文書名（保存する文書名を指定する）.....417
暗号化（S/MIME で暗号化してメールを送信する）.....418
デジタル署名（S/MIME でデジタル署名してメールを送信する）.....418

6 ボックス操作

親展ボックス操作の流れ.....420
Step1 ［ボックス操作］画面を表示する.....420
Step2 親展ボックスを選択する.....421
Step3 親展ボックスの文書を確認 / 選択する.....421
Step4 親展ボックスの文書を操作する.....422
親展ボックスを選択する.....422
親展ボックスの文書を確認 / 操作する.....423
親展ボックスの文書の内容を確認する.....426
親展ボックスの文書をプリントする.....429
ジョブフローを設定 / 実行する.....433
［ジョブフローの関連付け］画面について.....435
ジョブフローの操作制限について.....439

7 ジョブフロー

ジョブフロー操作の流れ.....442
Step1 ［ジョブフロー］画面を表示する.....442
Step2 ジョブフローを選択する.....443
Step3 ジョブフローを確認 / 変更する.....443
Step4 ジョブフローを実行する.....443
ジョブフローを選択 / 変更する.....444

8 ジョブメモリー

ジョブメモリーの概要 450
ジョブメモリーの登録 / 削除 / 変更 451
ジョブメモリーを登録する 452
ジョブメモリー登録時の注意 453
ビルドジョブ用ジョブメモリーを登録する 455
ジョブメモリーを削除する 456
ジョブメモリーの名称を登録 / 変更する 456
ジョブメモリーのアイコンを設定する 457
ジョブメモリーの呼び出し 459
ビルドジョブ用ジョブメモリーを呼び出す 460

9 外部アクセス

外部アクセスの概要 462
外部サービスに接続する 462
メニュー画面に登録されたボタンを使って接続する 464

10 BMLinkS

BMLinkS の概要 466
BMLinkS ストレージサービスへのスキャン文書の保存 467
ネットワーク保存先 469
画質調整 470
読み取り方法 470
出力形式 470
BMLinkS ストレージサービスにある文書のプリント 471
プリント文書 473
応用プリント 475

11 文書プリント

文書プリントの概要 478
対応ファイル 478
メディアプリント使用時の注意 479
USB メモリーの挿入 481
文書プリント 485
ファイルの選択 485
［一覧から選択］画面 486
プリントオプションの設定 487
文書プリント 487
インデックスプリント 488

12 ジョブ確認

ジョブ確認の概要 490

実行中 / 実行待ちのジョブを確認する 491
完了したジョブを確認する 493
保存文書をプリント / 削除する 495
セキュリティープリント 496
サンプルプリント 500
時刻指定プリント 504
認証プリント 507
プライベートプリント 512
ポーリング予約ボックス 516
ファクス未送信文書 518
プリント待ち / 操作待ちジョブを強制的にプリントする 520
異常終了したときの処理方法 521

13 コンピューターからの操作

機能の紹介 524
最新ソフトウェアの入手方法について 524
プリント 525
主なプリント機能について 525
プリントするための準備をする 527
プリントする 527
メールプリント 529
メールプリントするための準備をする 529
メールを受信する 529
メールを転送する 530
ジョブ属性を指定してメールプリントする 531
ファクス送信 533
主なダイレクトファクス機能について 533
ダイレクトファクスするための準備 534
ファクスを送信する 534
宛先を指定する 535
宛先を登録する 536
ファクス宛先表ツールを利用する 538
送信シートを付けて送信する 540
スキャンデータの取り込み 542
TWAIN 対応アプリケーションから取り込む 542
親展ボックスビューワー 3 から取り込む 545
CentreWare Internet Services を利用して取り込む 549
CentreWare Internet Services 552

14 付録

保守サービスについて 558
トータルサービス契約 558
スポット保守サービス方式 558
補修用性能部品の保有期間について 558
用語集 559

索引 569

1　お使いいただく前に

この章では、本書の使い方、ライセンスについて説明しています。

- はじめに 16
- マニュアル体系 17
- 本書の使い方 19
- ライセンスについて 22
- Qt について 49



はじめに

このたびは ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N（以降、本機と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書には、本機の操作方法および使用上の注意事項を記載しています。本機の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、本書を最後までお読みください。

なお、本書の内容は、お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

ネットワーク環境の設定方法については、『管理者ガイド』をお読みください。プリント機能のオプション製品については、それぞれのオプション製品に同梱されているマニュアルも併せてお読みください。

本書は、読み終わったあとも必ず保管してください。本機をご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

弊社は、製品の研究開発から廃棄にいたる事業活動全般において、地球環境の保全を経営の重要課題のひとつに位置づけております。これまでも環境負荷を低減するために、生産施設におけるフロンの全廃など、さまざまな活動を展開してまいりました。
また、お客様の身近なところでは、複写機やプリンターで使用した用紙、消耗品のカートリッジやパーツなどのリサイクルを推進することにより、今後も資源の保護に積極的に取り組んでまいります。

マニュアル体系

本機には、次のマニュアルを用意しています。

本機同梱マニュアル

■はじめにお読みください

安全にお使いいただくための注意事項や、操作中に気をつけていただきたい注意制限事項などについて説明しています。必ずお読みください。

■使い方がわかる本

本機での主な機能や、操作方法、トラブルの対処方法、問い合わせの多い項目などについて説明しています。

本書だけで、コピー、プリント、ファクス、スキャンの基本的な操作ができます。

■設定がわかる本を活用しよう

『設定がわかる本』の便利な機能の設定のしかたを探せます。

■設定がわかる本（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル））

ファクス、スキャン、プリント、認証など、本機やコンピューターで事前に設定が必要な項目などについて説明しています。

『設定がわかる本を活用しよう』の設定メニューを見ると、設定したい項目を簡単に見つけることができます。

■ユーザーズガイド＜本書＞、管理者ガイド（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル））

『ユーザーズガイド』では、コピー / プリント / ファクス / スキャン機能の操作方法などについて説明しています。

『管理者ガイド』では、用紙のセット方法、日常の管理、仕様設定、トラブル対処、ネットワークの設定方法などについて、管理者向けに説明しています。

■セキュリティ機能補足ガイド（メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル））

本機を管理するシステム管理者を対象に、セキュリティー機能に関する設定手順と環境条件を説明しています。

データセキュリティキット（オプション）を装着し、セキュリティー機能を利用する場合にお読みください。

■マニュアル（HTML）

プリンタードライバーのインストール手順、プリンターの環境設定方法などについて説明しています。本機に同梱されているメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っています。

■プリンタードライバーのヘルプ

プリントの操作方法や、機能などについて説明しています。

■CentreWare Internet Services のヘルプ

コンピューターのブラウザーから本機への各種設定や、スキャン文書を取り込む操作などについて説明しています。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

オプション製品マニュアル

本機ではオプション製品を用意しています。オプション製品には、取扱説明書が同梱されているものがあります。

オプション製品マニュアルでは、オプション製品の操作方法、ソフトウエアのインストール手順などについて説明しています。

本書の使い方

本書は、本機をはじめてご使用になるかたを対象に、コピー / プリント / ファクス / スキャン機能の操作などについて記載しています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

■1 お使いいただく前に

本書の使い方、ライセンスについて説明しています。

■2 機械の構成

各部の名称、電源の入 / 切、タッチパネルディスプレイの使い方、節電機能の解除方法など、本機の基本的な操作について説明しています。

■3 コピー

コピーの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■4 ファクス

ファクスの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■5 スキャン

スキャンの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■6 ボックス操作

親展ボックスの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■7 ジョブフロー

外部で作成したジョブフローを使う操作について説明しています。

■8 ジョブメモリー

操作のステップを記憶させる、ジョブメモリーについて説明しています。

■9 外部アクセス

外部サービスに接続する操作について説明しています。

■10 BMLinkS

BMLinkS を使う操作について説明しています。

■11 文書プリント

文書ファイルをプリントするメディアプリントの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■12 ジョブ確認

ジョブの状態を確認したり、ジョブを削除したりする方法について説明しています。

■13 コンピューターからの操作

プリント、スキャン文書の取り込み、ダイレクトファクス、CentreWare Internet Services の操作など、コンピューターから行う操作について説明しています。

■14 付録

保守サービスと、本書で使用している用語などについて説明しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や本機のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機械の構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウエアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記
- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足
- 補足事項を記述しています。

参照
- 参照先を記述しています。

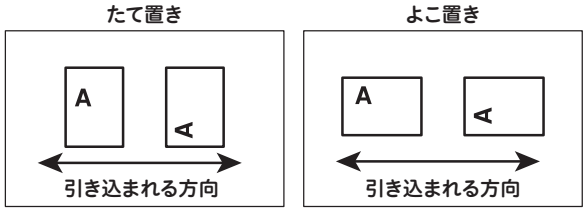
- 本文中では、次の記号を使用しています。

「　　」	• 本書内にある参照先を表しています。 • 機能の名称やタッチパネルディスプレイのメッセージ、入力文字列などを表しています。
『　　』	• 参照するマニュアルを表しています。
［　　］	• 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 • コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウィンドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
〈　　〉ボタン	• 操作パネル上のハードウエアボタンを表しています。
〈　　〉キー	• コンピューターのキーボード上のキーを表しています。
＞	• 操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。 例：「［仕様設定 / 登録］＞［登録 / 変更］＞［ボックス登録］を選択します。」は、「［仕様設定 / 登録］を押して、［登録 / 変更］を押したあと、［ボックス登録］を選択します。」という手順を省略して記載したものです。 • コンピューターで順に項目をクリックする手順を、省略して表しています。 例：「［スタート］＞［検索］＞［他のコンピュータ］で検索します。」は、「［スタート］ボタンをクリックして、［検索］、［他のコンピュータ］を順にクリックして検索します。」という手順を省略して記載したものです。 • 参照先は、次のように表しています。 例：「『管理者ガイド』の「5 仕様設定」＞「共通設定」＞「音の設定」を参照してください。」は、管理者ガイドの「5 章 仕様設定」内の、「共通設定」での「音の設定」を参照することを表しています。

- 本文中では、原稿または用紙の向きを、次のように表しています。

  、、たて置き：
  - 本機の正面から見て、原稿や用紙をたて長にセットした状態を表しています。

  、、よこ置き：
  - 本機の正面から見て、原稿や用紙をよこ長にセットした状態を表しています。



ライセンスについて

ここでは、ライセンスについて説明します。必ずご確認ください。

RSA BSAFE について

本機は、EMC コーポレーションの RSA® BSAFE® ソフトウェアを搭載しています。

Heimdal について

Copyright (c) 2000 Kungliga Tekniska högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

JPEG コードについて

本プリンターのソフトウエアには、the Independent JPEG Group で作成されたコードの一部を利用しています。

Libcurl について

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2006, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.

All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

FreeBSD について

本製品には、FreeBSD のコードの一部が搭載されています。

The FreeBSD Copyright

Copyright 1994-2006 The FreeBSD Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE FREEBSD PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FREEBSD PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The views and conclusions contained in the software and documentation are those of the authors and should not be interpreted as representing official policies, either expressed or implied, of the FreeBSD Project.

OpenLDAP について

Copyright 1998-2006 The OpenLDAP Foundation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

A copy of this license is available in the file LICENSE in the top-level directory of the distribution or, alternatively, at <http://www.OpenLDAP.org/license.html>.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Individual files and/or contributed packages may be copyright by other parties and/or subject to additional restrictions.

This work is derived from the University of Michigan LDAP v3.3 distribution. Information concerning this software is available at <http://www.umich.edu/~dirsvcs/ldap/ldap.html>.

This work also contains materials derived from public sources.

Additional information about OpenLDAP can be obtained at <http://www.openldap.org/>.

Portions Copyright 1998-2006 Kurt D. Zeilenga.

Portions Copyright 1998-2006 Net Boolean Incorporated.

Portions Copyright 2001-2006 IBM Corporation.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

Portions Copyright 1999-2005 Howard Y.H. Chu.

Portions Copyright 1999-2005 Symas Corporation.

Portions Copyright 1998-2003 Hallvard B. Furuseth.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this notice is preserved.

The names of the copyright holders may not be used to endorse or promote products derived from this software without their specific prior written permission. This software is provided "as is" without express or implied warranty.

Portions Copyright (c) 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that this notice is preserved and that due credit is given to the University of Michigan at Ann Arbor. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission. This software is provided "as is" without express or implied warranty.

The OpenLDAP Public License

Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time.

Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Copyright 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

DES 暗号について

This product includes software developed by Eric Young(eay@mincom.oz.au)

AES 暗号について

Copyright (c) 2003, Dr Brian Gladman Worcester, UK. All rights reserved.

This product uses published AES software provided by Dr Brian Gladman under BSD licensing terms.

TIFF (libtiff) について

Lib TIFF copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics. Inc.

ICC Profile (Little cms) について

Little cms copyright (c) 1988-2004 Marti Maria

XML Paper Specification (XPS) について

This product may incorporate intellectual property owned by Microsoft Corporation. The terms and conditions upon which Microsoft is licensing such intellectual property may be found at http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=52369.

EDICT および COMPDIC について

The Japanese-English dictionaries（EDICT and COMPDIC）edited by The Electronic Dictionary Research and Development Group under the coordination of Professor James William Breen at Monash University are used in the advanced scan kit option of Fuji Xerox.

These Japanese-English dictionary files are licensed to customers under the terms and conditions of a Creative Commons Attribution-Share Alike License. Prior to use, be sure to check the terms and conditions of this license at the URL below. Use of these Japanese-English dictionaries is not permitted unless you agree to the terms and conditions of this license.

Furthermore, care should be taken because at the point in time that you begin to use these Japanese-English dictionaries as specified in the said license, you accept and agree to be bound by the terms and conditions of this license.

The Japanese-English dictionaries are provided to customers on an as-is basis, and Fuji Xerox and the original supplier make no representations of warranties of any kind.

- Original Author Information（extracted from

  http://www.csse.monash.edu.au/~jwb/edrdg/licence.html）

  Copyright over the documents covered by this statement is held by James William BREEN and The Electronic Dictionary Research and Development Group at

  Monash University.
- Monash University License Information

  http://www.csse.monash.edu.au/~jwb/edrdg/licence.html
- Information Regarding EDICT and COMPDIC

  http://www.csse.monash.edu.au/~jwb/edict.html

  http://www.csse.monash.edu.au/~jwb/compdic_doc.html
- Information Regarding the Creative Commons Attribution-ShareAlike License

  http://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.5/legalcode

Cyrus SASL

Copyright (c) 1998-2003 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any other legal details, please contact

   Office of Technology Transfer

   Carnegie Mellon University

   5000 Forbes Avenue

   Pittsburgh, PA 15213-3890

   (412) 268-4387, fax: (412) 268-7395

   tech-transfer@andrew.cmu.edu
4. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (http://www.cmu.edu/computing/)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

newlib について

The newlib subdirectory is a collection of software from several sources.

Each file may have its own copyright/license that is embedded in the source file. Unless otherwise noted in the body of the source file(s), the following copyright notices will apply to the contents of the newlib subdirectory:

(1) Red Hat Incorporated

Copyright (c) 1994-2009 Red Hat, Inc. All rights reserved.

This copyrighted material is made available to anyone wishing to use, modify, copy, or redistribute it subject to the terms and conditions of the BSD License. This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY expressed or implied, including the implied warranties of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. A copy of this license is available at http://www.opensource.org/licenses. Any Red Hat trademarks that are incorporated in the source code or documentation are not subject to the BSD License and may only be used or replicated with the express permission of Red Hat, Inc.

(2) University of California, Berkeley

Copyright (c) 1981-2000 The Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(3) David M. Gay (AT&T 1991, Lucent 1998)

The author of this software is David M. Gay.

Copyright (c) 1991 by AT&T.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose without fee is hereby granted, provided that this entire notice is included in all copies of any software which is or includes a copy or modification of this software and in all copies of the supporting documentation for such software.

THIS SOFTWARE IS BEING PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY. IN PARTICULAR, NEITHER THE AUTHOR NOR AT&T MAKES ANY REPRESENTATION OR WARRANTY OF ANY KIND CONCERNING THE MERCHANTABILITY OF THIS SOFTWARE OR ITS FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE.

The author of this software is David M. Gay.

Copyright (C) 1998-2001 by Lucent Technologies
All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that the copyright notice and this permission notice and warranty disclaimer appear in supporting documentation, and that the name of Lucent or any of its entities not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

LUCENT DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE,

INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS.

IN NO EVENT SHALL LUCENT OR ANY OF ITS ENTITIES BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

(4) Advanced Micro Devices

Copyright 1989, 1990 Advanced Micro Devices, Inc.

This software is the property of Advanced Micro Devices, Inc (AMD) which specifically grants the user the right to modify, use and distribute this software provided this notice is not removed or altered. All other rights are reserved by AMD.

AMD MAKES NO WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, WITH REGARD TO THIS SOFTWARE. IN NO EVENT SHALL AMD BE LIABLE FOR INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES IN CONNECTION WITH OR ARISING FROM THE FURNISHING, PERFORMANCE, OR USE OF THIS SOFTWARE.

So that all may benefit from your experience, please report any problems or suggestions about this software to the 29K Technical Support Center at 800-29-29-AMD (800-292-9263) in the USA, or 0800-89-1131 in the UK, or 0031-11-1129 in Japan, toll free. The direct dial number is 512-462-4118.

Advanced Micro Devices, Inc.
29K Support Products
Mail Stop 573
5900 E. Ben White Blvd.
Austin, TX 78741
800-292-9263

(5)

(6)

(7) Sun Microsystems

Copyright (C) 1993 by Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Developed at SunPro, a Sun Microsystems, Inc. business.
Permission to use, copy, modify, and distribute this software is freely granted, provided that this notice is preserved.

(8) Hewlett Packard

(c) Copyright 1986 HEWLETT-PACKARD COMPANY

To anyone who acknowledges that this file is provided "AS IS" without any express or implied warranty:

Permission to use, copy, modify, and distribute this file for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice and this notice appears in all copies, and that the name of Hewlett-Packard Company not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

Hewlett-Packard Company makes no representations about the suitability of this software for any purpose.

(9) Hans-Peter Nilsson

Copyright (C) 2001 Hans-Peter Nilsson

Permission to use, copy, modify, and distribute this software is freely granted, provided that the above copyright notice, this notice and the following disclaimer are preserved with no changes.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

(10) Stephane Carrez (m68hc11-elf/m68hc12-elf targets only)

Copyright (C) 1999, 2000, 2001, 2002 Stephane Carrez (stcarrez@nerim.fr)

The authors hereby grant permission to use, copy, modify, distribute, and license this software and its documentation for any purpose, provided that existing copyright notices are retained in all copies and that this notice is included verbatim in any distributions. No written agreement, license, or royalty fee is required for any of the authorized uses.

Modifications to this software may be copyrighted by their authors and need not follow the licensing terms described here, provided that the new terms are clearly indicated on the first page of each file where they apply.

(11) Christopher G. Demetriou

Copyright (c) 2001 Christopher G. Demetriou

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(12) SuperH, Inc.

Copyright 2002 SuperH, Inc. All rights reserved

This software is the property of SuperH, Inc (SuperH) which specifically grants the user the right to modify, use and distribute this software provided this notice is not removed or altered. All other rights are reserved by SuperH.

SUPERH MAKES NO WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, WITH REGARD TO THIS SOFTWARE. IN NO EVENT SHALL SUPERH BE LIABLE FOR INDIRECT, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES IN CONNECTION WITH OR ARISING FROM THE FURNISHING, PERFORMANCE, OR USE OF THIS SOFTWARE.

So that all may benefit from your experience, please report any problems or suggestions about this software to the SuperH Support Center via e-mail at softwaresupport@superh.com.

SuperH, Inc.

405 River Oaks Parkway

San Jose

CA 95134

USA

(13) Royal Institute of Technology

Copyright (c) 1999 Kungliga Tekniska Hogskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden).
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of KTH nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY KTH AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL KTH OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(14) Alexey Zelkin

Copyright (c) 2000, 2001 Alexey Zelkin <phantom@FreeBSD.org>
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(15) Andrey A. Chernov

Copyright (C) 1997 by Andrey A. Chernov, Moscow, Russia.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(16) FreeBSD

Copyright (c) 1997-2002 FreeBSD Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(17) S. L. Moshier

Author: S. L. Moshier.

Copyright (c) 1984,2000 S.L. Moshier

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose without fee is hereby granted, provided that this entire notice is included in all copies of any software which is or includes a copy or modification of this software and in all copies of the supporting documentation for such software.

THIS SOFTWARE IS BEING PROVIDED "AS IS", WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY. IN PARTICULAR, THE AUTHOR MAKES NO REPRESENTATION OR WARRANTY OF ANY KIND CONCERNING THE MERCHANTABILITY OF THIS SOFTWARE OR ITS FITNESS FOR ANY PARTICULAR PURPOSE.

(18) Citrus Project

Copyright (c) 1999 Citrus Project,
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(19) Todd C. Miller

Copyright (c) 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com>
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(20) DJ Delorie (i386)

Copyright (C) 1991 DJ Delorie

All rights reserved.

Redistribution, modification, and use in source and binary forms is permitted provided that the above copyright notice and following paragraph are duplicated in all such forms.

This file is distributed WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

(21) Free Software Foundation LGPL License (*-linux* targets only)

Copyright (C) 1990-1999, 2000, 2001 Free Software Foundation, Inc.

This file is part of the GNU C Library.

Contributed by Mark Kettenis <kettenis@phys.uva.nl>, 1997.

The GNU C Library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

The GNU C Library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with the GNU C Library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA

02110-1301 USA.

(22) Xavier Leroy LGPL License (i[3456]86-*-linux* targets only)

Copyright (C) 1996 Xavier Leroy (Xavier.Leroy@inria.fr)

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Library General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Library General Public License for more details.

(23) Intel (i960)

Copyright (c) 1993 Intel Corporation

Intel hereby grants you permission to copy, modify, and distribute this software and its documentation. Intel grants this permission provided that the above copyright notice appears in all copies and that both the copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation. In addition, Intel grants this permission provided that you prominently mark as "not part of the original" any modifications made to this software or documentation, and that the name of Intel Corporation not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software or the documentation without specific, written prior permission.

Intel Corporation provides this AS IS, WITHOUT ANY WARRANTY, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Intel makes no guarantee or

representations regarding the use of, or the results of the use of, the software and documentation in terms of correctness, accuracy, reliability, currentness, or otherwise; and you rely on the software, documentation and results solely at your own risk.

IN NO EVENT SHALL INTEL BE LIABLE FOR ANY LOSS OF USE, LOSS OF BUSINESS, LOSS OF PROFITS, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND. IN NO EVENT SHALL INTEL'S TOTAL LIABILITY EXCEED THE SUM PAID TO INTEL FOR THE PRODUCT LICENSED HEREUNDER.

(24) Hewlett-Packard (hppa targets only)

(c) Copyright 1986 HEWLETT-PACKARD COMPANY

To anyone who acknowledges that this file is provided "AS IS" without any express or implied warranty:

Permission to use, copy, modify, and distribute this file for any purpose is hereby granted without fee, provided that the above copyright notice and this notice appears in all copies, and that the name of Hewlett-Packard Company not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

Hewlett-Packard Company makes no representations about the suitability of this software for any purpose.

(25) Henry Spencer (only *-linux targets)

Copyright 1992, 1993, 1994 Henry Spencer. All rights reserved.

This software is not subject to any license of the American Telephone and Telegraph Company or of the Regents of the University of California.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose onany computer system, and to alter it and redistribute it, subject to the following restrictions:

1. The author is not responsible for the consequences of use of this software, no matter how awful, even if they arise from flaws in it.

2. The origin of this software must not be misrepresented, either by explicit claim or by omission. Since few users ever read sources, credits must appear in the documentation.

3. Altered versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software. Since few users ever read sources, credits must appear in the documentation.

4. This notice may not be removed or altered.

(26) Mike Barcroft

Copyright (c) 2001 Mike Barcroft <mike@FreeBSD.org>
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(27) Konstantin Chuguev (--enable-newlib-iconv)

Copyright (c) 1999, 2000

Konstantin Chuguev. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

iconv (Charset Conversion Library) v2.0

(28) Artem Bityuckiy (--enable-newlib-iconv)

Copyright (c) 2003, Artem B. Bityuckiy, SoftMine Corporation.
Rights transferred to Franklin Electronic Publishers.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT

(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(29) IBM, Sony, Toshiba (only spu-* targets)

(C) Copyright 2001,2006,
International Business Machines Corporation,
Sony Computer Entertainment, Incorporated,
Toshiba Corporation,

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the names of the copyright holders nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(30) - Alex Tatmanjants (targets using libc/posix)

Copyright (c) 1995 Alex Tatmanjants <alex@elvisti.kiev.ua>
at Electronni Visti IA, Kiev, Ukraine.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(31) - M. Warner Losh (targets using libc/posix)

Copyright (c) 1998, M. Warner Losh <imp@freebsd.org>
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(32) - Andrey A. Chernov (targets using libc/posix)

Copyright (C) 1996 by Andrey A. Chernov, Moscow, Russia.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(33) - Daniel Eischen (targets using libc/posix)

Copyright (c) 2001 Daniel Eischen <deischen@FreeBSD.org>.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT

(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(34) - Jon Beniston (only lm32-* targets)

Contributed by Jon Beniston <jon@beniston.com>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(35) - ARM Ltd (arm and thumb variant targets only)

Copyright (c) 2009 ARM Ltd
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the company may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ARM LTD "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR

PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL ARM LTD BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(36) - Xilinx, Inc. (microblaze-* and powerpc-* targets)

Copyright (c) 2004, 2009 Xilinx, Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Xilinx nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(37) Texas Instruments Incorporated (tic6x-* targets)

Copyright (c) 1996-2010 Texas Instruments Incorporated
http://www.ti.com/

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

(38) National Semiconductor (cr16-* and crx-* targets)

Copyright (c) 2004 National Semiconductor Corporation

The authors hereby grant permission to use, copy, modify, distribute, and license this software and its documentation for any purpose, provided that existing copyright notices are retained in all copies and that this notice is included verbatim in any distributions. No written agreement, license, or royalty fee is required for any of the authorized uses.

Modifications to this software may be copyrighted by their authors and need not follow the licensing terms described here, provided that the new terms are clearly indicated on the first page of each file where they apply.

(39) - Adapteva, Inc. (epiphany-* targets)

Copyright (c) 2011, Adapteva, Inc.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of Adapteva nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Qt について

本機は Qt を使用しています。使用しているライセンスは以下になります。

（1）GNU LESSER GENERAL PUBLIC License Version 2.1

（2）その他のライセンス

ライセンス条件に基づき、ソースコードの入手を希望される方は、以下の弊社公式サイトから入手できます。

http://www.fujixerox.co.jp/etc/oss/mfd_ui/

LGPL 適用ソフトウエアについて

本製品は GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1 に基づき許諾されるフトウエアを含んでいます。

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright（C）1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software（and charge for this service if you wish）; that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) The modified work must itself be a software library.

b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

（For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.）

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library（or with a work based on the Library）on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License.（If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.）Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library（or a portion or derivative of it, under Section 2）in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code,

even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library（because it contains portions of the Library）, rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions（ten lines or less in length）, then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work.（Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.）

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a）Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work（which must be distributed under Sections 1 and 2 above）; and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable

"work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library.（It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.）

b）Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that（1）uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and（2）will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c）Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d）If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e）Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed（in either source or binary form）with the major components（compiler, kernel, and so on）of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate

distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY

IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

その他 Qt で使用するライセンスについて

DES (des.cpp), FreeType 2 (freetype) version 2.3.6, HarfBuzz (harfbuzz), JavaScriptCore, WebCore (WebKit), Easing Equations by Robert Penner, Shift-JIS Text Codec, ISO 2022-JP (JIS) Text Codec, EUC-JP Text Codec, EUC-KR Text Codec, GBK Text Codec, Big5-HKSCS Text Codec, Big5 Text Codec, QImage, The qtmain Library, QRegion, QDate::weekNumber(), QLocale, TSCII Text Codec, Drag and Drop, QtSvg Module, Phonon Module, QtXmlPatterns Module, Parts of the QCrashHandler class, Parts of the Q3PolygonScanner class used in Qt for Embedded Linux, Parts of the internal QImageSmoothScaler::scale() function use code based on pnmscale.c by Jef Poskanzer, src/corelib/io/qurl.cpp, Parts of the FreeType library, Included in the build system of the FreeType library, Parts of WebKit used by the QtWebKit module

2　機械の構成

この章では、各部の名称、電源の入 / 切、タッチパネルディスプレイの使い方など、本機の構成と基本的な操作について説明しています。

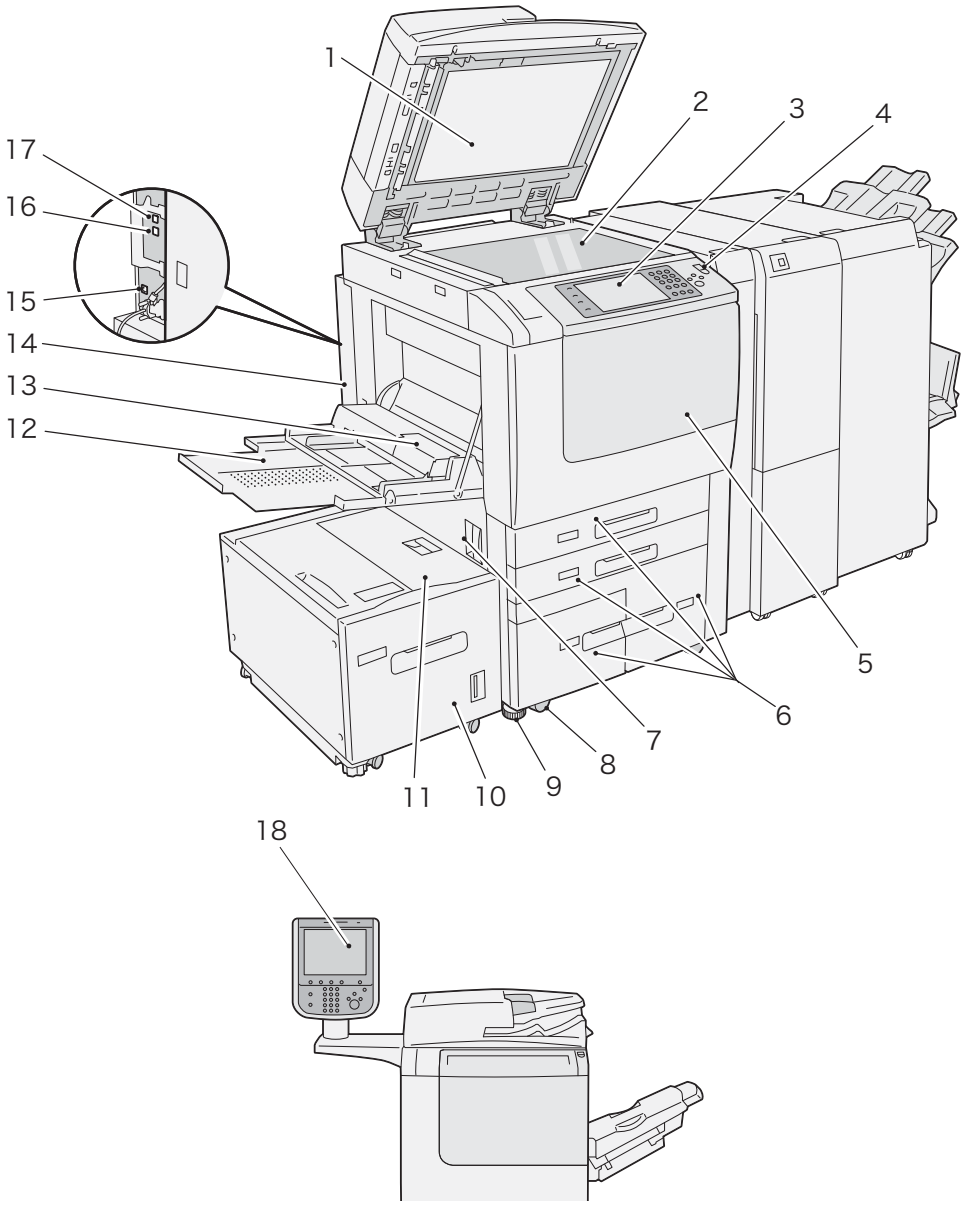
- 各部の名称と働き 62
- 電源について 71
- ブレーカーについて 77
- 節電機能について 78
- 操作パネル 80
- メニュー画面について 88
- タッチパネルの使い方 94
- 文字の入力方法について 97
- 冷却モードについて 98



各部の名称と働き

本機の、各部の名称と働きについて説明します。

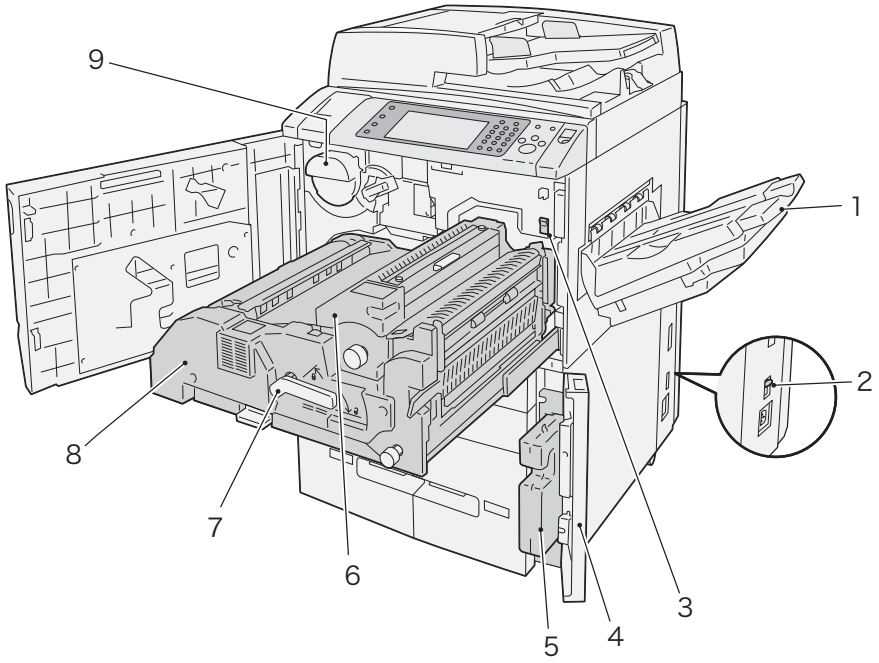
■本体、大容量給紙トレイ（1 段）（オプション）



番号	名　　称	働　　き
1	原稿カバー	原稿を押さえます。
2	原稿ガラス	原稿をセットします。
3	操作パネル	操作に必要なボタン、ランプ、タッチパネルディスプレイがあります。 参照 • 詳しくは、「操作パネル」(P.80) を参照してください。
4	電源スイッチ	本機の電源を入 / 切します。 参照 • 詳しくは、「電源について」(P.71) を参照してください。

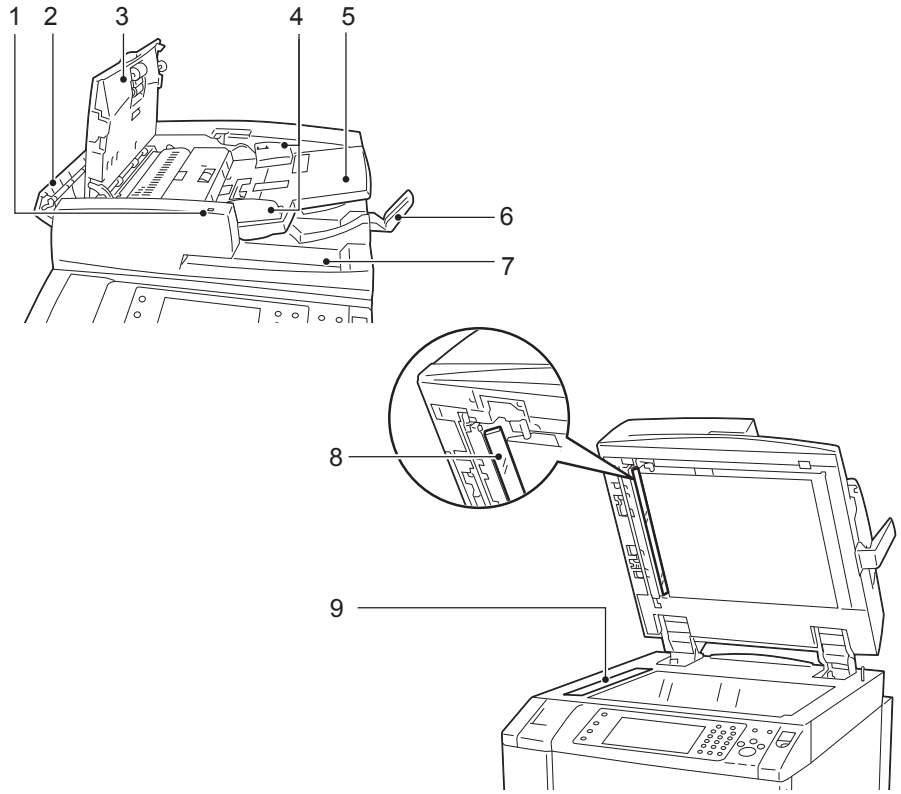
番号	名　　称	働　　き
5	正面カバー	紙づまりの処置や、消耗品を交換するときに開けます。
6	用紙トレイ 1、2、3、4	用紙をセットします。
7	左側面下部カバー	紙づまりを処置するときに開けます。 用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））が装着されている場合は、用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））を左に移動してから開けます。
8	キャスター	本機の移動時に使用します。本機の設置後はロックしてください。
9	アジャスターフット	本機の転倒を防止します。本機の設置後、床に接するまで時計回りに回転させます。
10	用紙トレイ 6（オプション）	用紙をセットします。
11	用紙トレイ 6 上面カバー	紙づまりを処置するときに、用紙トレイ 6（大容量給紙トレイ（1 段））を左に移動してから開けます。
12	用紙トレイ 5（手差し）	用紙トレイ 1 ～ 4、6、7 にセットしていない用紙、またはできない用紙（厚紙などの特殊用紙）にコピーまたはプリントするときに使用します。
13	用紙トレイ 5（手差し） 上面カバー	紙づまりを処置するときに開けます。
14	左奥カバー	インターフェイスケーブルを接続するときに開けます。
15	セカンダリーイーサネット コネクター （オプション）	セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着している場合、1000BASE-T インターフェイスケーブルを接続します。
16	USB2.0 インターフェイス コネクター（オプション）	USB ケーブルを接続します。
17	10BASE-T/100BASE-TX コネクター	ネットワークケーブルを接続します。Gigabit イーサネット（オプション）を追加することで、Gigabit Ethernet インターフェイスコネクターとしても使用できます。
18	大型カラー操作パネル （オプション）	操作に必要なボタン、ランプ、タッチパネルディスプレイがあります。 **参照** • 詳しくは、「大型カラー操作パネルについて」（P.84）を参照してください。

■内部、右側面部



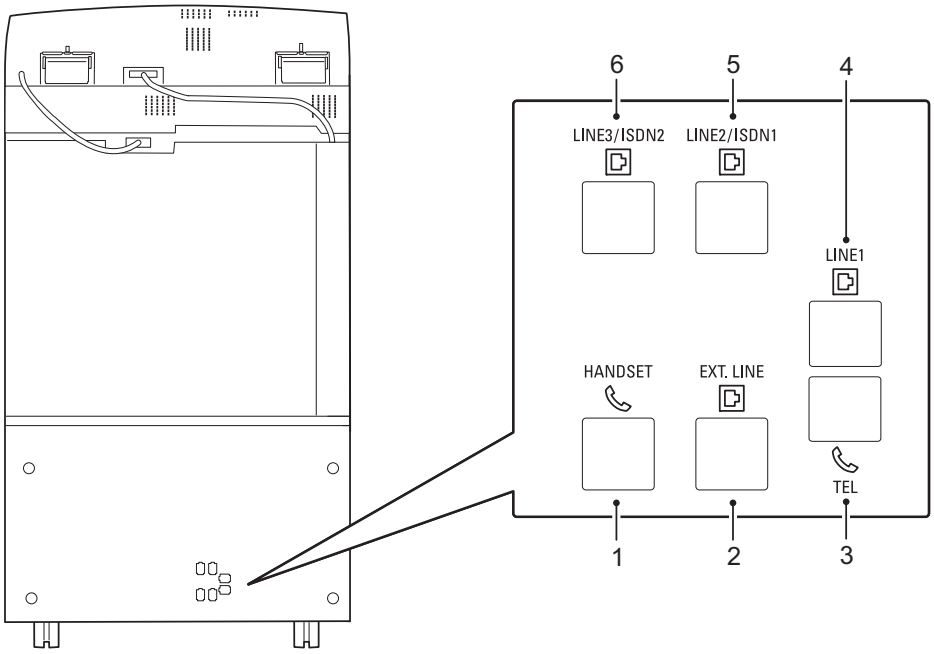
番号	名　　称	働　　き
1	排出トレイ	ここに用紙が排出されます。 通常の排出トレイ（シンプルキャッチトレイ）と、オフセット排出ができるトレイ（オフセットキャッチトレイ（オプション））があります。 オフセットキャッチトレイを装着している場合で、A4 サイズ以下の用紙を排出するときは、延長トレイを格納してください。
2	ブレーカースイッチ	漏電を検知すると、自動的に電源を遮断します。
3	主電源スイッチ	本機の主電源を入 / 切します。主電源については、必ず、機械管理者の指示に従ってください。 主電源を切る場合は、必ず電源を先に切ってください。 参照 • 詳しくは、「電源について」(P.71) を参照してください。
4	トナー回収ボトルカバー	トナー回収ボトルを取り出すときに開けます。
5	トナー回収ボトル	使用済みのトナーを回収するボトルです。
6	定着ユニット	トナーを用紙に定着させる部分です。 高温時に不用意に触れないように注意してください。
7	レバー	転写ユニットを引き出すためのレバーです。
8	転写ユニット	ドラム上のトナー画像を用紙に転写する部分です。紙づまりの処置をするときに引き出します。
9	トナーカートリッジ	トナー（画像形成剤）が入っています。

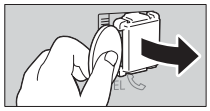
■自動両面原稿送り装置



番号	名　　称	働　　き
1	確認ランプ	原稿が正しくセットされたことを表します。
2	左カバー	上面カバーを開けると同時にわずかに開きます。 原稿づまりを処置するときは、さらに大きく開けてください。
3	上面カバー	原稿づまりを処置するときに開けます。
4	原稿ガイド	原稿の端をそろえます。
5	原稿送りトレイ	原稿をセットします。
6	原稿受けストッパー	排出された原稿の飛び出しを防ぎます。
7	原稿受け	原稿が排出されます。
8	裏面読み取りガラス	原稿の裏面を読み取ります。
9	原稿読み取りガラス	原稿の表面を読み取ります。

■電話回線接続部

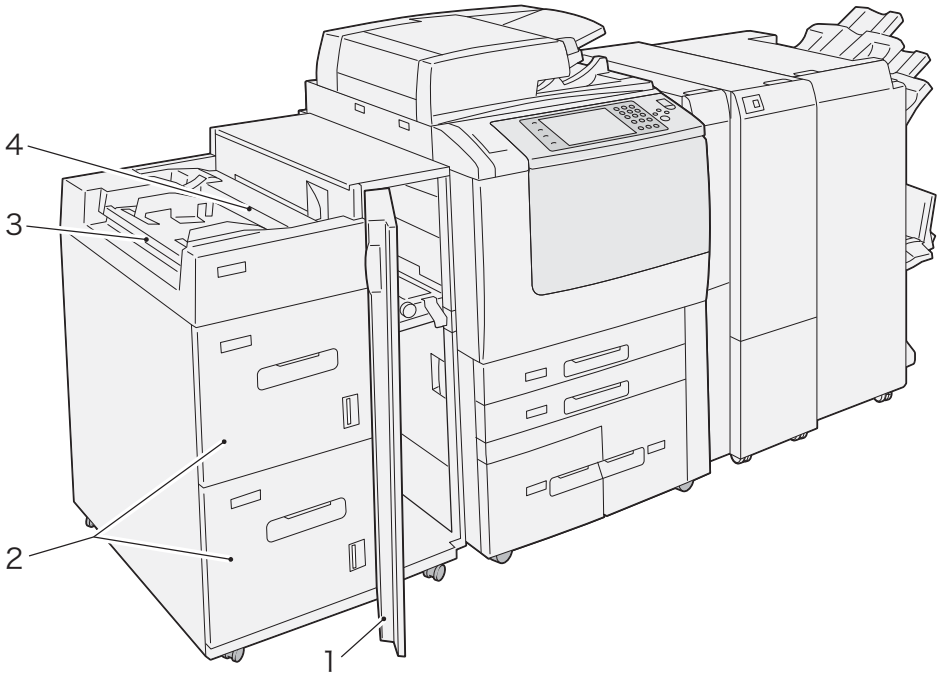


番号	本機のカバーに刻印されている名称	タッチパネルディスプレイに表示される名称	働　き
1	HANDSET	-	使用しません。
2	EXT.LINE	-	使用しません。
3	TEL	-	ハンドセット（オプション）を使用する場合は、ここに接続します。お手持ちの電話を接続することもできます。 電話機以外の機器(FAX等)は接続しないでください。 **補足** • TEL 端子を使う時は、コインなどを使って、カバーを外してください。 
4	LINE 1	回線 1	一般回線（内線も可）を接続します。
5	LINE 2/ISDN 1	回線 2	一般回線（内線も可）を接続します。ISDN 接続機能はありません。
6	LINE 3/ISDN 2	回線 3	一般回線（内線も可）を接続します。ISDN 接続機能はありません。

補足

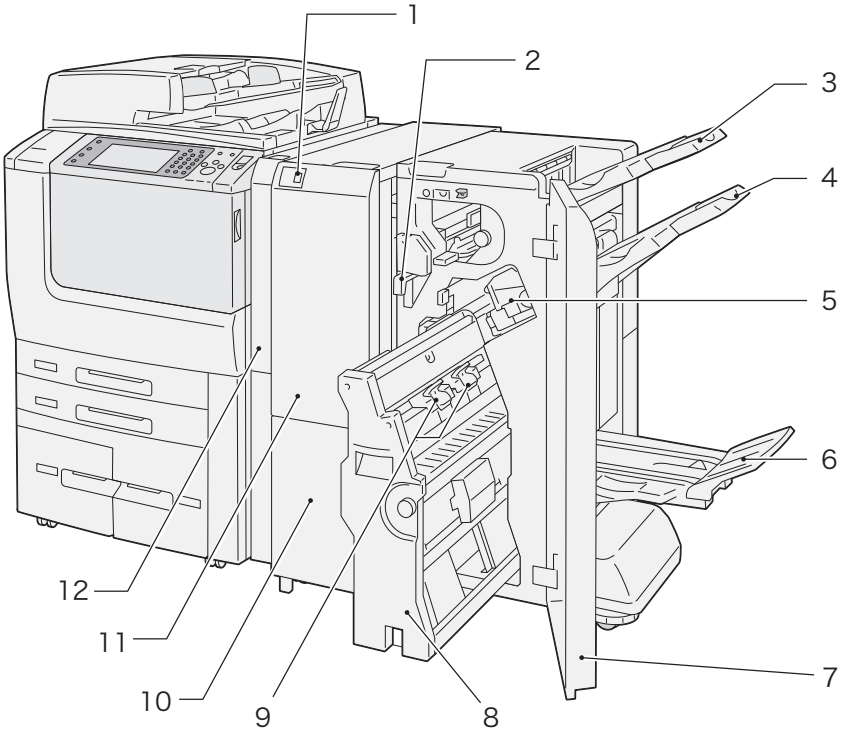
- ファクス機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- LINE 2（回線 2)、LINE 3（回線 3）はオプションです。
- HANDSET、EXT.LINE の接続部は使用しません。
- ISDN 接続機能はありません。
- TEL 端子へ接続した受話器から通話できるのは、LINE 1 に接続した回線だけです（LINE 2、LINE 3 に対して、受話器からの通話はできません)。

■大容量給紙トレイ（2段）（オプション）



番号	名　　称	働　　き
1	大容量給紙トレイ（2段）の正面カバー	左側面下部カバーでの紙づまりの処置をするときに開けます。
2	用紙トレイ 6、7	用紙をセットします。
3	用紙トレイ 5（手差し）	用紙トレイ 1 ～ 4、6、7 にセットしていない用紙、またはできない用紙（厚紙などの特殊用紙）をコピーまたはプリントするときに使用します。
4	用紙トレイ 5（手差し）上面カバー	紙づまりを処置するときに開けます。

■フィニッシャー C3（オプション）、中とじフィニッシャー C3（オプション）、紙折りユニット CD1（オプション）

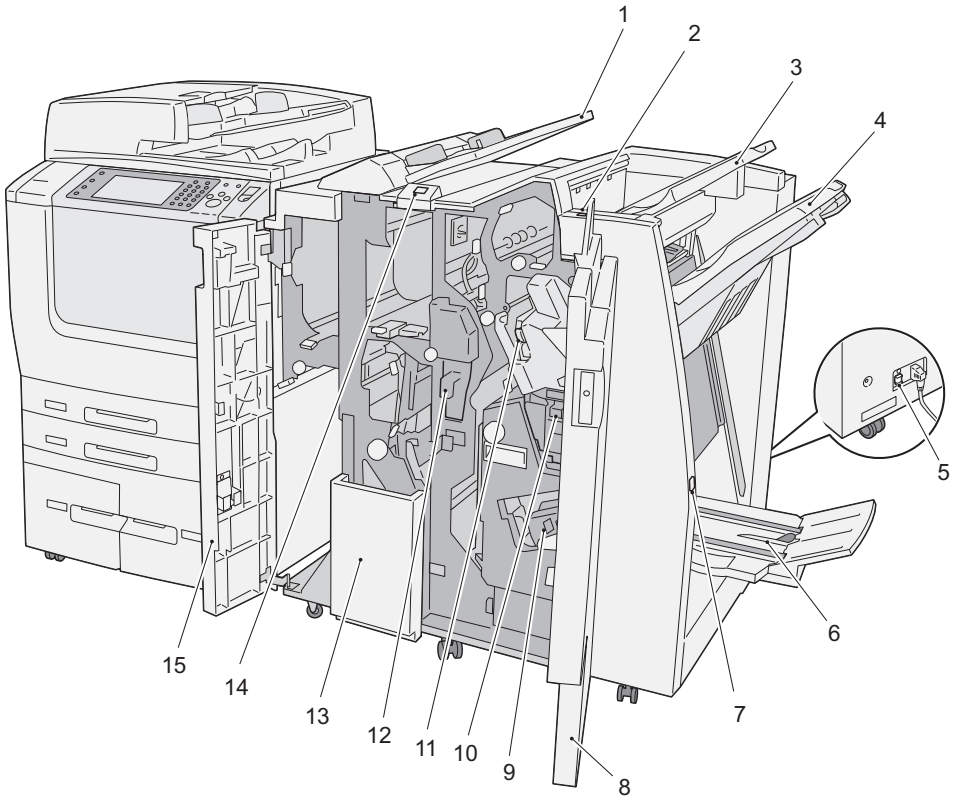


番号	名　　称	働　　き
1	三つ折り排出トレイボタン（紙折りユニット装着時）	三つ折り排出トレイが開きます。
2	パンチダストボックス	パンチくずが入ります。パンチくずを捨てるときに取り出します。
3	排出トレイ	用紙が排出されます。
4	フィニッシャートレイ	用紙が排出されます。
5	平とじ用ホチキスカートリッジ	平とじするときに使用するホチキスが内蔵されています。ホチキス針の交換や針づまりの処置のときに取り出します。
6	製本トレイ	中とじ製本された冊子が排出されます。
7	フロントカバー	紙づまりの処置、ホチキス針の交換、針づまりの処置、パンチくずを捨てるときに開けます。
8	中とじユニット	用紙を二つ折りにしたり、二つ折りしたものにホチキスをとめる装置です。
9	中とじ用ホチキスカートリッジ	中とじするときに使用するホチキスが内蔵されています。ホチキス針の交換や針づまりの処置のときに取り出します。
10	三つ折り排出トレイ（紙折りユニット装着時）	三つ折りされた用紙が排出されます。
11	紙折りユニットカバー（紙折りユニット装着時）	紙づまりの処置のときに開けます。
12	トランスポートユニットS1フロントカバー	紙づまりの処置のときに開けます。

補足

- フィニッシャー C3、中とじフィニッシャー C3 はオプションです。フィニッシャー C3、D2 共通の説明をしているときは、「フィニッシャー」と表します。

■フィニッシャー D2（オプション）、中とじフィニッシャー D2（オプション）



番号	名　　称	働　　き
1	用紙トレイ T1 （インターポーザー）	表紙や合紙用の用紙をセットします。ここにセットした用紙には、コピーやプリントできません。
2	カール補正ボタン	用紙がカールしている場合に、カールを補正できます。
3	排出トレイ	用紙が排出されます。
4	フィニッシャートレイ	用紙が排出されます。
5	リセットボタン	漏電を検知すると、自動的に電源を遮断します。
6	製本トレイ（中とじフィニッシャー D2 のみ）	［折り］、［折り＋ホチキス］を指定した場合に用紙が排出されます。
7	製本排出ボタン（中とじフィニッシャー D2 のみ）	製本トレイに排出された用紙を、取り出し位置まで移動します。
8	右カバー	紙づまり、ホチキス針の交換 / 針づまり、パンチ穴の切りくずを捨てるときに開けます。
9	中とじホチキスカートリッジ（中とじフィニッシャー D2 のみ）	中とじ用のホチキスカートリッジが 2 つあります。ホチキス針の交換、針づまりのときに取り出します。
10	ホチキスダストボックス	ホチキスの針くずが入ります。
11	ホチキスカートリッジ	ホチキス針が内蔵されています。ホチキス針の交換、針づまりの処置のときに取り出します。
12	パンチダストボックス	パンチ穴の切りくずが入ります。切りくずを捨てるときに取り出します。
13	三つ折り排出トレイ （紙折りユニット D2 を装着している場合）	［紙折り指定］で、［外三つ折り］、［内三つ折り］を指定した場合に用紙が排出されます。

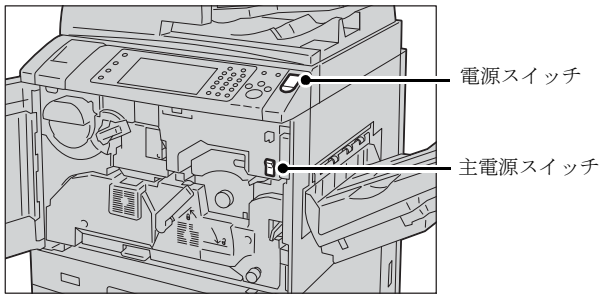
番号	名　　称	働　　き
14	三つ折り排出トレイボタン（紙折りユニット D2 を装着している場合）	三つ折り排出トレイが開きます。
15	左カバー	紙づまりを処置するときに開けます。

補足

- フィニッシャー D2、中とじフィニッシャー D2 はオプションです。フィニッシャー C3、D2 共通の説明をしているときは、「フィニッシャー」と表します。

電源について

本機には、電源スイッチと主電源スイッチがあります。



■電源スイッチ

本機を動作させるときに、電源スイッチを押して、電源を入れます。ウォームアップが終了すると、各機能の操作ができるようになります。

■主電源スイッチ

主電源スイッチの［〇］側を押すと、操作パネルの右側にある〈主電源〉ランプが消灯し、本機の電源が完全に切れます。ファクス機能をお使いの場合、主電源を切るとファクスのメモリーに蓄積されている内容が消去されることがあるので、ケーブルの接続や清掃などを除き、通常は主電源スイッチを切らないでください。

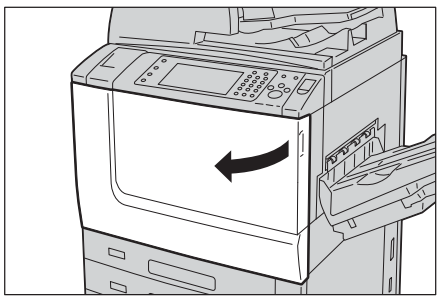
主電源を入れる

主電源の入れかたについて説明します。

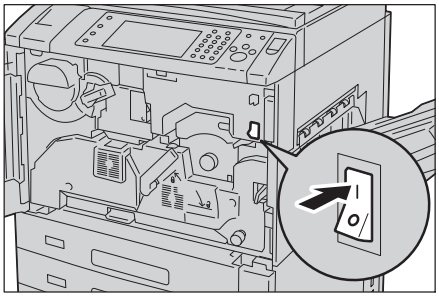
注記
- 主電源を入れた直後に、主電源を切らないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。

1 電源プラグが電源コンセントにしっかり差し込まれているかを確認します。

2 正面カバーを開けます。



3 主電源スイッチの［｜］側を押して、主電源を入れます。



操作パネルの〈主電源〉ランプが点灯します。

4 正面カバーを閉じます。

電源を入れる

電源の入れかたについて説明します。

電源スイッチを入れてから 30 秒ほどでコピー、またはプリントできる状態になります。本機の構成によっては 30 秒以上かかることがあります。

長時間使用しない場合や、1 日の終わりには電源を切ってください。

また、節電機能を使用すると、本機の電力を節約できます。

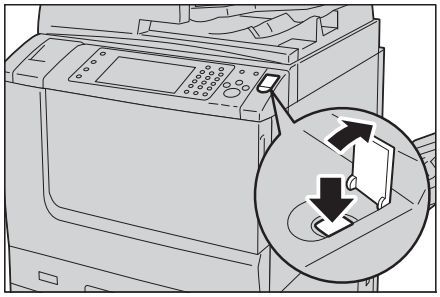
参照

- 節電機能については、「節電機能について」(P.78) を参照してください。

注記

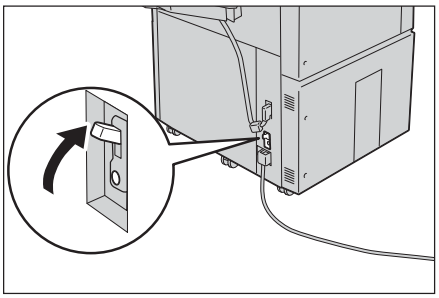
- 電源を切った場合、本機のすべての機能は停止します。ファクス受信などで、終日使用する場合は、電源を切らないでください。

1 電源スイッチを押して、電源を入れます。



補足

- 「お待ちください ...」が表示されているときは、本機のウォームアップ中です。この間は、使用できません。
- 電源が入らない場合は、次のことを確認してください。
  - 電源プラグが入っているか
  - 主電源が入っているか
  - ブレーカースイッチが「ON」（上側）になっているか



電源を切る

電源の切りかたについて説明します。

注記

- 電源を切った場合、本機のすべての機能は停止します。ファクス受信などで、終日使用する場合は、電源を切らないでください。

補足

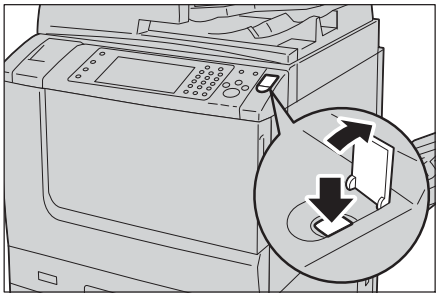
- 指定した時刻に自動的に電源がオフになるように設定することもできます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「節電モードの設定」>「電源の自動制御」を参照してください。

1 コピー、またはプリントが完全に終了していることを確認します。また、〈データ〉ランプが点滅していないことを確認します。

注記

- 次の状態の場合は、電源を切らないでください。電源を切ると、処理中のデータが消去されることがあります。
  - データの受信が行われている
  - プリント処理が行われている
  - コピーが行われている
  - スキャンが行われている
- 用紙排出終了後、5 秒たってから、電源を切ってください。

2 電源スイッチを押して、電源を切ります。



注記

- 電源スイッチを切ったあとも、しばらくの間は本機内部で電源オフ処理をしています。画面が消えて＜節電＞ボタンの点滅が終わるまで、主電源を切らないでください。
- 電源スイッチを切ったときに、画面が消えても、操作パネル上の〈節電〉ボタンだけが点滅を続けることがあります。本機内の温度に応じて、約 30 ～ 60 分間の本機内の冷却を行ったあとに、〈節電〉ボタンが消灯します。〈節電〉ボタンが消灯するまでは、主電源を切らないでください。

補足

- 電源を切ったあとに、再度、電源を入れる場合は、画面消灯後、15 秒待ってから入れてください。

主電源を切る

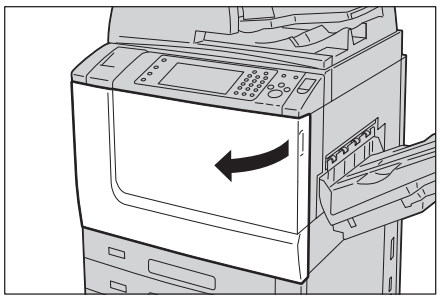
主電源の切りかたについて説明します。

注記
- タッチパネルディスプレイ画面が表示されているとき、または〈節電〉ボタンが点滅しているときは、主電源を切らないでください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、主電源を切ってから抜いてください。ハードディスクやメモリーが破損したり、故障の原因になることがあります。

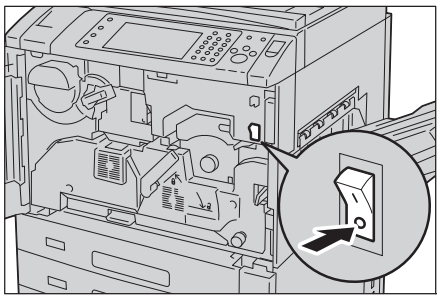
1 電源が切れていることを確認します。

2 タッチパネルディスプレイ画面が消えていること、〈節電〉ボタンが消灯していることを確認します。

3 正面カバーを開けます。



4 主電源スイッチの［○］側を押して、主電源を切ります。



操作パネルの〈主電源〉ランプが消灯します。

5 正面カバーを閉じます。

リモート操作で電源を切る

リモート操作による電源の切りかたについて説明します。

補足

- リモート操作で電源を切るには、機械管理者 ID とパスワードが必要です。機械管理者 ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。

1 コンピューターから CentreWare Internet Services に接続します。

参照

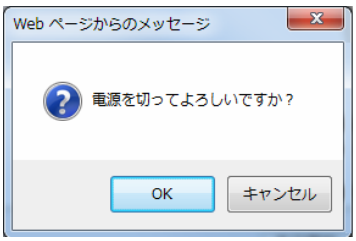
- CentreWare Internet Services については、「CentreWare Internet Services の起動」(P.555) を参照してください。

2 ［電源を切る］を選択します。

補足

- ジョブがある場合には、電源オフを受け付けません。

3 ［OK］を選択します。





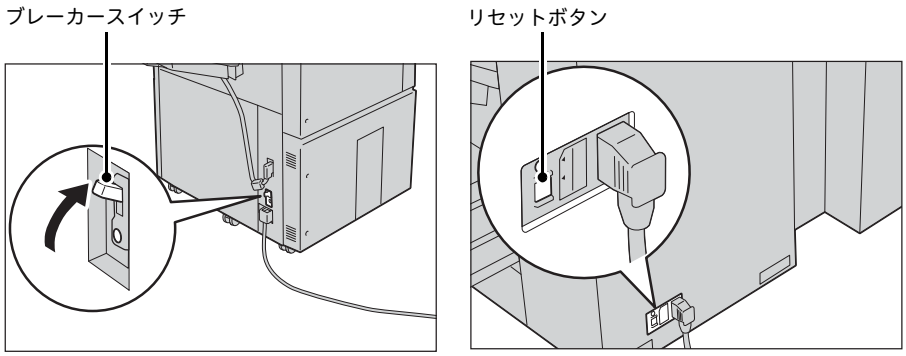
ブレーカーについて

本機には漏電ブレーカーが付いています。

機械に漏電が起こったときに、電気回路を自動的に遮断して、漏電による事故や火災などを防ぐための装置です。

少なくとも１カ月に１回、ブレーカーの動作点検を行ってください。

本体のブレーカースイッチは、上側になっている状態が「ON」、下側になっている状態が「OFF」です。フィニッシャー D2 および中とじフィニッシャー D2 のリセットボタンは、奥に押し込まれた状態が「ON」、押し込まれていない状態が「OFF」です。



本体

フィニッシャー D2
中とじフィニッシャー D2

通常、ブレーカースイッチおよびリセットボタンは「ON」になっています。

ブレーカースイッチまたはリセットボタンが「OFF」になっている場合は、異常の可能性がありますので、弊社のカストマーサポートセンターまたは販売店までご連絡ください。

参照

- ブレーカーの動作点検については、『はじめにお読みください』を参照してください。

節電機能について

本機には、消費電力量を下げて電力を節約する「節電機能」があります。

節電機能には、「低電力モード」と「スリープモード」があります。

■低電力モード

操作パネルや定着部の電力を下げます。

■スリープモード

ハードディスクなどの電力供給も停止して、低電力モードより、さらに消費電力を下げます。

節電状態に移行する

節電状態に移行すると、タッチパネルディスプレイは消灯して、操作パネルの〈節電〉ボタンが点灯します。

節電状態には、次の操作または状況により移行します。

- 操作パネルの〈節電〉ボタンを押す
- 節電状態に移行する時間まで、本機を操作しなかったとき、ジョブが実行されなかったとき、プリントやファクスデータを受信しなかったとき

参照

- 節電状態までの移行時間の変更については、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「節電機能について」>「節電モード移行時間を変更する」を参照してください。

補足

- 用紙詰まりや、消耗品交換などエラー表示中は、節電状態に移行しません。
- 認証中に節電状態に移行すると、認証は解除されます。
- 〈節電〉ボタンを押した場合、約 5 秒後に節電状態になります。
- タッチパネルディスプレイが消灯してすぐに〈節電〉ボタンを押した場合や、本機が節電状態に完全に移行していない場合は、節電解除に時間がかかったりすることがあります。本機が節電解除の操作を受け付ける状態になるまで、数秒待ってから再度〈節電〉ボタンを押してください。
- ファクスの設定で、白紙スキップ機能が有効に設定されている場合は、〈節電〉ボタンを押しても節電状態にはなりません。白紙スキップ機能については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「白紙スキップ機能」を参照してください。

節電状態から復帰する

節電状態からは、次の操作または状況により復帰します。

- 操作パネルの〈節電〉ボタンを押す
- プリントやファクスなどのジョブを受信する
- CentreWare Internet Services の［新しい設定を適用］ボタンを押す
- 原稿カバーを開ける

補足

- スリープモードに移行している場合、節電状態から復帰するには、低電力モードより時間がかかります。

また、次のオプションや別売品を装着しているときは、低電力モードの場合のみ、次の操作で自動復帰します。

- IC カードリーダー（オプション）にカードをタッチする
- IC Card Gate（別売）にカードをタッチする
- Coinkit（別売）に硬貨を投入する
- Dispenser 2（別売）にカードを挿入する
- Adaptor-Box に接続されたキースイッチを操作する
- Connection BOX 1 for EM （別売）にカードをタッチする
- e-MoneyCashier 2（別売）にカードまたは携帯電話をセットする

補足

- スリープモードの場合は、復帰できません。上記のオプションや別売品を装着しているときは、低電力モードからスリープモードへの移行時間を長めに設定することで自動復帰が利用可能になります。
- IC カードリーダー（オプション）の装着時に、スリープモードに移行した場合、節電状態からの復帰時間が通常より長くなることがあります。

使用する部分のみ節電を解除する

本機には、節電状態から復帰する場合、使用する機能に必要な部分だけに電力を供給して、消費電力を節約する機能が搭載されています。

参照

- 使用する部分のみ節電を解除するかどうかの設定は、『機械管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「節電モードの設定」>「節電解除の制御」を参照してください。

〈節電〉ボタンを押しても、タッチパネルディスプレイは点灯しますが、原稿読み取り部や出力部は節電状態から復帰しません。その後、タッチパネルディスプレイで機能を選択することで、機能の実行に必要な部分に電力を供給します。

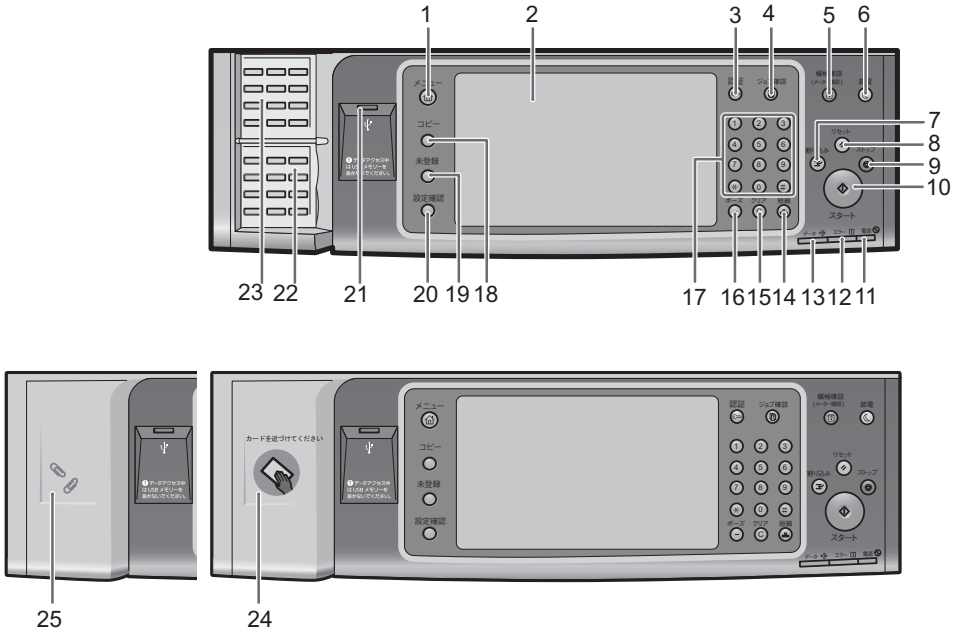
補足

- プリントジョブやファクス受信プリントジョブを受信した場合は、タッチパネルディスプレイは点灯せず、出力部のみ節電状態から復帰してプリントを開始します。
- 蓄積プリントジョブ（セキュリティープリント、時刻指定プリント、課金認証プリント、プライベートプリント）、ダイレクトファクス、ファクス親展受信などのジョブを受信した場合や、CentreWare Internet Services から親展ボックスを利用する場合は、タッチパネルディスプレイは点灯せず、ハードディスクのみ節電状態から復帰します。

また、節電状態での用紙セットや、消耗品交換では、用紙や新しい消耗品の情報を本機は取得できません。〈節電〉ボタンを押し、〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押してから用紙のセット、消耗品の交換を行ってください。

操作パネル

操作パネルの各部の名称と働きについて説明します。



番号	名　　称	働　　き
1	メニューボタン	メニュー画面を表示させるときに押します。 **補足** • メニュー画面に表示させる機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」を参照してください。
2	タッチパネルディスプレイ	操作に必要なメッセージや各機能のボタンが表示されます。タッチパネルディスプレイに直接触れて、画面の指示や機能の設定をします。
3	認証ボタン	機械管理者モード、または認証 / 集計管理モードでユーザー認証されているときに点灯します。 機械管理者モード、認証モード、または集計管理モードに入るための、ユーザー ID の入力画面が表示されます。 認証状態でこのボタンを押すと、認証状態を解除できます。
4	ジョブ確認ボタン	実行中のジョブを確認 / 中止、保存されている文書を確認 / プリント、終了したジョブを確認できます。
5	機械確認（メーター確認）ボタン	機械状態、メーター、消耗品の確認、およびレポートのプリントができます。 **補足** • 消耗品の交換時に、〈機械確認〉ボタンを押すことで、出力部の節電状態が解除され、消耗品の最新の状態が確認できます。
6	節電ボタン	しばらく使用しないときに、本機は消費電力量を下げて節電モードに入り、点灯します。節電モードを解除するとき、または節電状態にするときは、〈節電〉ボタンを押します。

番号	名　　称	働　　き
7	割り込みボタン	連続コピー中やプリント中に、実行中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させたいときに押します。割り込み中は、〈割り込み〉ボタンが点灯します。再度、〈割り込み〉ボタンを押すと、割り込みが解除され、元の作業を再開できます。 参照 • 割り込みについての注意 / 制限は、『管理者ガイド』の「16 付録」>「注意 / 制限事項について」>「割り込み時の注意 / 制限」を参照してください。
8	リセットボタン	表示されている各サービスの状態を初期状態に戻すときに押します。電源を入れたときと同じ状態になります。
9	ストップボタン	コピーや通信作業を一時停止するときに押します。
10	スタートボタン	原稿の読み込みを開始するときに押します。
11	主電源ランプ	主電源が入っているときに点灯します。 補足 • 主電源が入っていない状態で電源を入れても本機の電源は入りません。
12	エラーランプ	システムエラーが起きたときに点滅します。 紙づまり、用紙切れ、トナー切れなど、システムエラー以外で機械に異常が発生したときには点灯します。 参照 • 〈エラー〉ランプが点滅したときは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 • 〈エラー〉ランプが点灯しているときは、『管理者ガイド』の「15 トラブル対処」>「機械本体のトラブル」を参照してください。
13	データランプ	本機からデータを送信中や、クライアントからのデータを受信中に、点滅します。また、機械内部に文書を蓄積しているときや、ファクス受信文書のプリント待ち、ファクス親展受信文書がボックス内に蓄積されているときは点灯します。 参照 • 蓄積されているスキャン文書は、［親展ボックス登録リスト］で確認できます。親展ボックス登録リストについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「レポート / リストの出力」>「親展ボックス登録リスト」を参照してください。 • 蓄積されているファクス文書は、［蓄積文書リスト］で確認できます。蓄積文書リストについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「レポート / リストの出力」>「ジョブ確認 / 通信管理レポート」>「蓄積文書リスト」を参照してください。 • 〈データ〉ランプの点灯パターンを変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「データランプの点灯パターン」を参照してください。
14	短縮ボタン	ファクスやメールなどで、短縮宛先番号で宛先を指定するときに押します。
15	クリア（C）ボタン	〈数字〉ボタンで入力した数値をキャンセルするときに押します。
16	ポーズ（-）ボタン	宛先を入力するときに、番号の間にポーズを入れるときに押します。
17	数字ボタン	コピー枚数や暗証番号などの数値を入力するときに押します。
18	登録 1（コピー）ボタン	工場出荷時は、「コピー」が登録されています。 ボタンを押すと、コピー機能の初期画面が表示されます。 参照 • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」を参照してください。

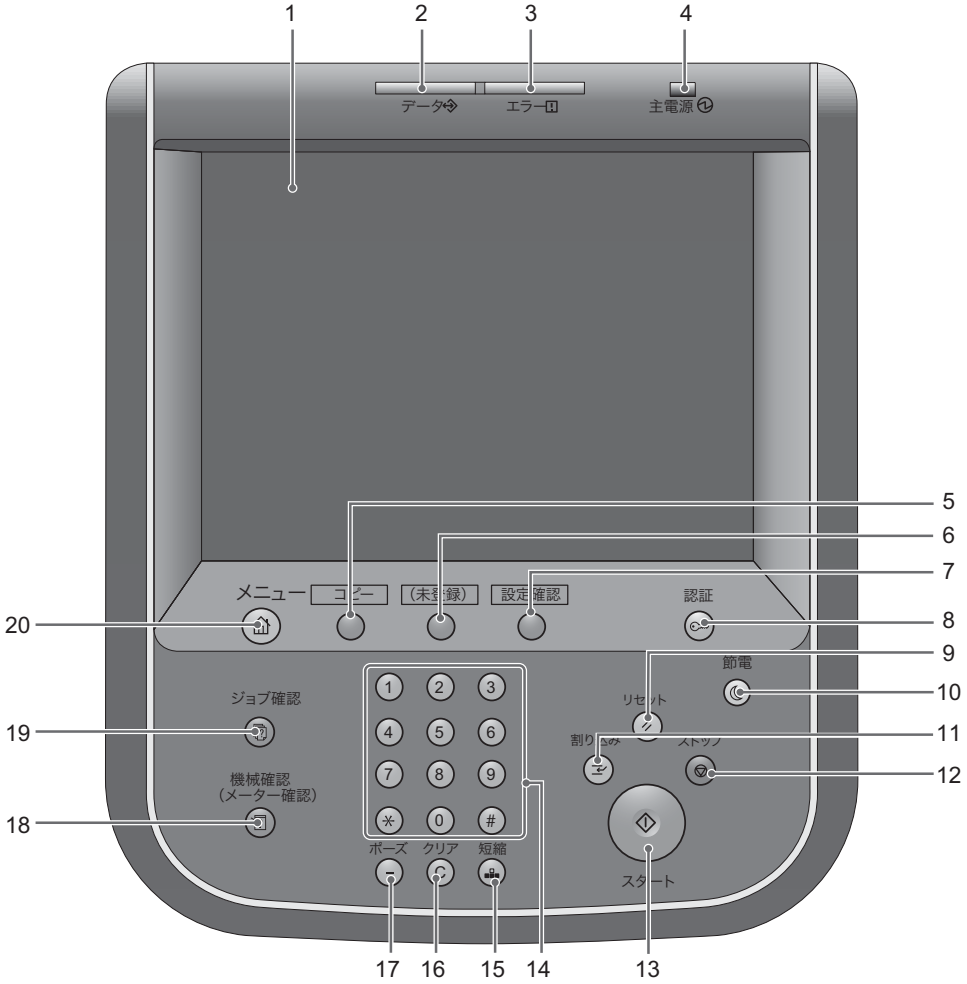
番号	名　　称	働　　き
19	登録 2（ファクス）ボタン	工場出荷時は、「ファクス」が登録されています。 ボタンを押すと、ファクス機能の初期画面が表示されます。 **補足** • お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」を参照してください。
20	登録 3（設定確認）ボタン	工場出荷時は、「設定確認」が登録されています。 ［設定確認］画面ではコピー、ファクス、スキャンの各機能に対して、初期状態から設定変更されている機能の状態を一覧表示して確認できます。ファクスやメール送信などの宛先情報も確認できます。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」を参照してください。
21	USB メモリー差込口	USB2.0 用のメモリー差込口です。USB メモリーは、直接差し込んでください。 **注記** • メモリーカードリーダーや USB メモリーのケーブルは接続できません。メモリーカードリーダーや USB メモリーのケーブルは、USB 増設キット（オプション）に差し込んでください。 なお、USB2.0 用のメモリー差込口に USB メモリーを接続している場合は、同時にメモリーカードリーダーを接続することはできません。 **補足** • お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
22	ワンタッチパネル （ファクス取り付け機のみ）	ワンタッチボタンのパネルです。 パネルをめくって 1 ～ 54 を表示します。 ワンタッチパネルの番号は、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。 •［タイプ 1］ 1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応） •［タイプ 2］ 1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応） **補足** • 工場出荷時は、［タイプ 1］で登録されています。 • お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」を参照してください。

番号	名　　称	働　　き
23	ワンタッチボタン （ファクス取り付け機のみ）	宛先やジョブメモリーをワンタッチで指定できます。ワンタッチボタンによる宛先指定は、ファクス、インターネットファクス、スキャナー（メール送信）、およびスキャナー（PC 保存）で使用できます。 ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。 •［タイプ 1］ 1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応） •［タイプ 2］ 1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応） **補足** • 工場出荷時は、［タイプ 1］で登録されています。 • お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」を参照してください。
24	本体内蔵型 IC カードリーダー	IC カードでユーザー認証するときに使います。 IC カードをタッチすると、登録されたユーザー情報が本体に読み込まれ、機械がユーザー認証します。 **補足** • お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 • 機械が低電力モードで節電中に IC カードをタッチすると、節電状態は解除されます。ただし、スリープモードに移行した場合は解除されません。詳しくは、「節電状態から復帰する」(P.79) を参照してください。
25	クリップトレイ	クリップやホチキスの針などを置くときに使います。

大型カラー操作パネルについて

大型カラー操作パネル（オプション）を取り付けると、画面の表示位置を変えることができます。

ここでは、大型カラー操作パネルの各部の名称と働きについて説明します。



補足

- ワンタッチパネルに対応していないため、ワンタッチボタンでの宛先指定はできません。

番号	名　　称	働　　き
1	タッチパネルディスプレイ	操作に必要なメッセージや各機能のボタンが表示されます。タッチパネルディスプレイに直接触れて、画面の指示や機能の設定をします。

番号	名　　称	働　　き
2	データランプ	本機からデータを送信中や、クライアントからのデータを受信中に、点滅します。また、機械内部に文書を蓄積しているときや、ファクス受信文書のプリント待ち、ファクス親展受信文書がボックス内に蓄積されているときは点灯します。 **参照** • 蓄積されているスキャン文書は、［親展ボックス登録リスト］で確認できます。親展ボックス登録リストについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「レポート / リストの出力」>「親展ボックス登録リスト」を参照してください。 • 蓄積されているファクス文書は、［蓄積文書リスト］で確認できます。蓄積文書リストについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「レポート / リストの出力」>「ジョブ確認 / 通信管理レポート」>「蓄積文書リスト」を参照してください。 •〈データ〉ランプの点灯パターンを変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「データランプの点灯パターン」を参照してください。
3	エラーランプ	システムエラーが起きたときに点滅します。 紙づまり、用紙切れ、トナー切れなど、システムエラー以外で機械に異常が発生したときには点灯します。 **参照** •〈エラー〉ランプが点滅したときは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 •〈エラー〉ランプが点灯しているときは、『管理者ガイド』の「15 トラブル対処」>「機械本体のトラブル」を参照してください。
4	主電源ランプ	主電源が入っているときに点灯します。 **補足** • 主電源が入っていない状態で電源を入れても本機の電源は入りません。
5	登録 1（コピー）ボタン	工場出荷時は、「コピー」が登録されています。 ボタンを押すと、コピー機能の初期画面が表示されます。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「操作パネルの設定変更」>「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」を参照してください。
6	登録 2（ファクス）ボタン	工場出荷時は、「ファクス」が登録されています。 ボタンを押すと、ファクス機能の初期画面が表示されます。 **補足** • お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」を参照してください。
7	登録 3（設定確認）ボタン	工場出荷時は、「設定確認」が登録されています。 ［設定確認］画面ではコピー、ファクス、スキャンの各機能に対して、初期状態から設定変更されている機能の状態を一覧表示して確認できます。ファクスやメール送信などの宛先情報も確認できます。 **参照** • ボタンへの登録内容を変更するには、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「操作パネルの設定変更」>「〈登録〉ボタンに機能を割り当てる」を参照してください。

番号	名　　称	働　　き
8	認証ボタン	機械管理者モード、または認証 / 集計管理モードでユーザー認証されているときに点灯します。 機械管理者モード、認証モード、または集計管理モードに入るための、ユーザー ID の入力画面が表示されます。 認証状態でこのボタンを押すと、認証状態を解除できます。
9	リセットボタン	表示されている各サービスの状態を初期状態に戻すときに押します。電源を入れたときと同じ状態になります。
10	節電ボタン	しばらく使用しないときに、本機は消費電力量を下げて節電モードに入り、点灯します。節電モードを解除するとき、または節電状態にするときは、〈節電〉ボタンを押します。
11	割り込みボタン	連続コピー中やプリント中に、実行中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させたいときに押します。割り込み中は、〈割り込み〉ボタンが点灯します。再度、〈割り込み〉ボタンを押すと、割り込みが解除され、元の作業を再開できます。 **参照** • 割り込みについての注意 / 制限は、『管理者ガイド』の「16 付録」 >「注意 / 制限事項について」>「割り込み時の注意 / 制限」を参照してください。
12	ストップボタン	コピーや通信作業を一時停止するときに押します。
13	スタートボタン	原稿の読み込みを開始するときに押します。
14	数字ボタン	コピー枚数や暗証番号などの数値を入力するときに押します。
15	短縮ボタン	ファクスやメールなどで、短縮宛先番号で宛先を指定するときに押します。
16	クリア（C）ボタン	〈数字〉ボタンで入力した数値をキャンセルするときに押します。
17	ポーズ（-）ボタン	宛先を入力するときに、番号の間にポーズを入れるときに押します。
18	機械確認（メーター確認）ボタン	機械状態、メーター、消耗品の確認、およびレポートのプリントができます。
19	ジョブ確認ボタン	実行中のジョブを確認 / 中止、保存されている文書を確認 / プリント、終了したジョブを確認できます。
20	メニューボタン	メニュー画面を表示させるときに押します。 **参照** • メニュー画面に表示させる機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」 >「操作パネルの設定変更について」 >「操作パネルの設定変更」 >「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」を参照してください。

画面やボタンの表示について

本機では、次のとおり、タッチパネルディスプレイ画面に表示する機能やボタン機能を変更、または登録できます。

補足

- 機械管理者によって、次の画面やボタンが変更されていることがありますので、変更内容に従ってご使用ください。

初期表示画面の変更

電源を入れたときと、節電状態を解除したときに表示する機能を設定できます。

自動リセット後の画面の変更

自動リセット後の画面を、操作中の画面にするかメニューにするかを設定できます。

〈登録〉ボタンへの登録

操作パネルの〈登録〉ボタン「登録 1」～「登録 3」に、機能を割り当てることができます。

〈登録〉ボタンによく使う機能を登録しておくと、機能を切り替えるときに、メニュー画面に戻らなくても、直接機能の画面を表示できます。

補足

- 工場出荷時は、1 番めのボタンには「コピー」、2 番めのボタンには「ファクス」、3 番めのボタンには「設定確認」が登録されています。

メニュー画面の変更

メニュー画面に表示される機能の種類やボタンの配置を変更できます。メニュー画面は、操作パネルの〈メニュー〉ボタンを押すと表示されます。

参照

- メニュー画面の変更方法は、『管理者ガイド』の「1 お使いいただく前に」>「操作パネルの設定変更について」>「機能ボタン / 補助機能ボタンの配列を変更する」を参照してください。

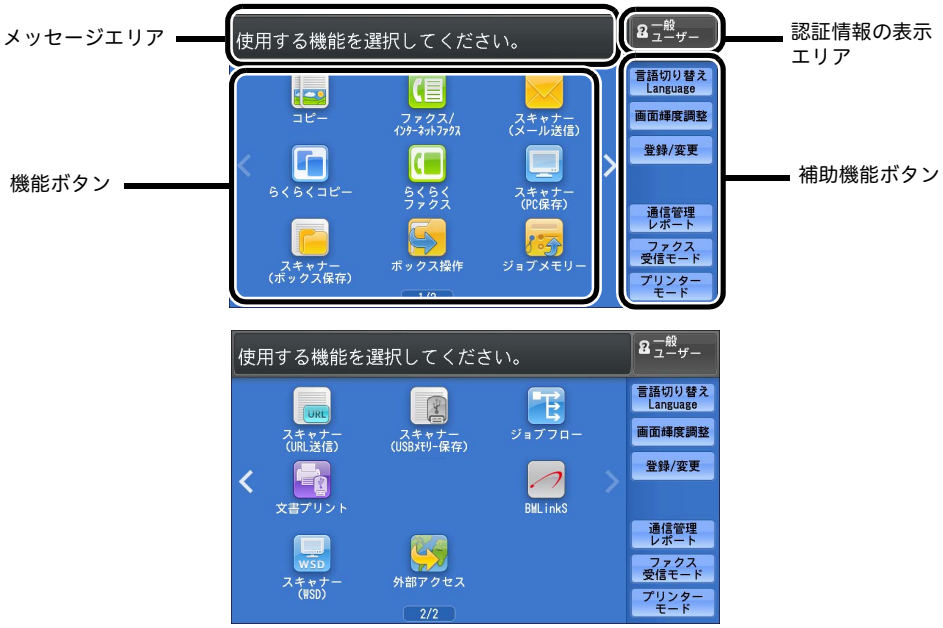
メニュー画面について

〈メニュー〉ボタンを押して表示される画面について、説明します。

メニュー画面でドラッグまたはフリック操作をすると画面の切り替えができます。

補足

- ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。



補足

- フリック / ダブルタップ操作を無効に設定している場合は、次のようなメニュー画面が表示されます。この場合は、[▲] [▼] ボタンで画面を切り替えます。フリック / ダブルタップ操作を無効にする設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」を参照してください。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

メッセージエリア

メッセージが表示されます。

認証情報の表示エリア

画面右上の認証情報の表示エリアを押すと、機械管理者モード、認証モード、または集計管理モードに入るための、ユーザー ID の入力画面が表示されます。

認証されると、認証状態が表示されます。

補足

- 操作パネルの〈認証〉ボタンを押しても認証モードにログインできます。
- 認証状態からログアウトするには、操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。タッチパネルディスプレイ右上の認証情報の表示エリアを押して、ポップアップメニューから［認証解除］を選択してもログアウトできます。

参照

- 認証モード、または集計管理モードについては、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」を参照してください。

機能ボタン

機能を設定します。

■コピー

コピー機能を設定します。

参照

- 詳しくは、「コピー」(P.99) を参照してください。

■ファクス / インターネットファクス

ファクス機能を設定します。

参照

- 詳しくは、「ファクス」(P.195) を参照してください。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■スキャナー（メール送信）

スキャンしたデータをメールに添付して送ります。

参照

- 詳しくは、「スキャナー（メール送信）」(P.329) を参照してください。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■らくらくコピー

コピー機能を設定します。基本的な機能が 1 画面にまとまっているので、簡単に設定できます。

参照

- 詳しくは、「らくらくコピー」(P.112) を参照してください。

■らくらくファクス

ファクス機能を設定します。基本的な機能が 1 画面にまとまっているので、簡単に設定できます。

参照
- 詳しくは、「らくらくファクス」(P.227) を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■スキャナー（PC 保存）

スキャンしたデータを FTP や SMB プロトコルを使ってネットワーク上のコンピューターに転送します。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（PC 保存）」(P.364) を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■スキャナー（ボックス保存）

スキャンしたデータを本機の親展ボックスに保存します。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（ボックス保存）」(P.379) を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ボックス操作

本機の親展ボックスに保存されている文書を操作します。

参照
- 詳しくは、「ボックス操作」(P.419) を参照してください。

■ジョブメモリー

ジョブメモリーの操作をします。

ジョブメモリーとは、よく使う機能の設定を記憶させておき、ボタン 1 つで呼び出せる機能です。

参照
- 詳しくは、「ジョブメモリー」(P.449) を参照してください。

■スキャナー（URL 送信）

スキャンしたデータを一時的に保存し、取り出し用と削除用 URL を本文に添付してメールで送ります。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（URL 送信）」(P.388) を参照してください。

補足
- このメニューは、ユーザー認証機能を使用している場合に表示されます。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■スキャナー（USB メモリー保存）

スキャンしたデータを USB メモリーに保存します。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（USB メモリー保存）」（P.381）を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ジョブフロー

本機に登録したジョブフローを使ってスキャンします。

ジョブフローとは、スキャン文書などの、配信方法や配信先など一連の処理の流れをあらかじめ本機に設定しておくことによって、定型的な配信作業を効率化することができる機能です。

参照
- 詳しくは、「ジョブフロー」（P.441）を参照してください。

■文書プリント

USB メモリーに保存されている文書（PDF、TIFF、XML Paper Specification（XPS）、DocuWorks（XDW、XBD）、JPEG（JFIF））ファイルを取り込んでプリントします。スキャナーの「USB メモリー保存」機能を使って保存したデータのプリントもできます。

参照
- 詳しくは、「文書プリント」（P.477）を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■BMLinkS

BMLinkS を使用して、BMLinkS ストレージサービスへ文書を保存したり、BMLinkS ストレージサービスにある文書をプリントします。

BMLinkS とは、Business Machine Linkage Service の略で、OA 機器でジョブや機器の制御を統一的に行うための標準仕様のことです。

参照
- 詳しくは、「BMLinkS」（P.465）を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■スキャナー（WSD）

補足
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

本機にセットした原稿をコンピューターからの操作でスキャンし、保存できます。また、本機の操作パネルで、ネットワーク上にあるコンピューターを選択して、スキャンデータを保存することもできます。

参照
- 詳しくは、「スキャナー（WSD）」（P.391）を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■外部アクセス（ApeosPort シリーズのみ）

本機に組み込まれたブラウザーから、ネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり表示したりします。

参照
- 詳しくは、「外部アクセス」（P.461）を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

補助機能ボタン

ジョブ以外の補助的な機能を設定します。

■言語切り替え Language

本機で表示する言語を［日本語］か［English］（英語）のどちらにするか設定します。

ここで設定した言語は、本機の電源を切 / 入すると無効になります。

注記
- ［English］に設定する場合は、ASCII 文字以外の文字は入力しないでください。
- メニュー画面の［言語切り替え Language］で英語に切り替えた場合、宛先名やジョブフローの［内容確認］などが日本語で作成されていると正しく表示されないことがあります。日本語以外に設定しているときに、CentreWare Internet Services を使って、日本語を含んだ CSV ファイル*をインポートすると、文字化けが発生したり、正しくインポートできない場合があります。
  * CSV ファイル：表計算ソフトやデータベースソフトがデータを保存するときに使う、カンマ（,）で区切ったファイル形式

補足
- 本機の電源を入れたときの標準言語は、［仕様設定 / 登録］の［初期表示言語］で設定します。初期表示言語の設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」>「初期表示言語」を参照してください。

■画面輝度調整

画面の明るさを調整します。

■自動プリントを禁止する / 自動プリントを許可する

時間帯でプリント禁止の設定をしているときに一時的にプリントを許可したり、プリント禁止を解除しているときに一時的にプリントを禁止したりします。

参照
- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「プリント禁止の設定」を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■登録 / 変更

親展ボックス、ジョブフロー、宛先表などの登録や変更をします。

参照
- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」を参照してください。

■通信管理レポート

送受信が正常に終了したかどうかを確認するためのレポートをプリントします。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「16 付録」>「**通信管理レポート**」を参照してください。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ファクス受信モード

ファクスの受信モードを設定します。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「ファクス受信モード」を参照してください。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■プリンターモード

プリンターモードの設定を変更したり、登録したりします。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「プリンターモード」を参照してください。

タッチパネルの使い方

本機のタッチパネルディスプレイでは、［▲］［▼］ボタンを押して操作する以外に、次のような操作でページの切り替えやリストのスクロールなどができます。

補足

- 本機の操作パネルは、画面を押す力に反応する感圧式タッチパネルです。画面に触れる力を加減して操作してください。
- フリック / ダブルタップ操作の有効 / 無効を切り替えることができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」を参照してください。

■ドラッグ

タッチパネルディスプレイに軽く触れたままで、目的の位置まで指を移動させます。

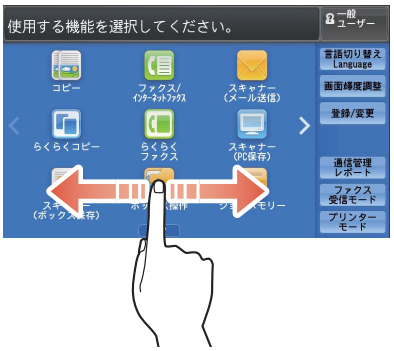
メニュー画面では、左右にドラッグするとページの切り替えができます。

リスト表示画面では、上下にドラッグするとリストのスクロールができます。

機能選択画面やボックス操作画面では、上下にドラッグまたはフリック操作するとページの切り替えができます。

補足

- ドラッグ操作中に指を離すとスクロールが止まります。
- メニュー画面では、ドラッグの動作が十分でないと、ページが切り替わらない場合があります。
- リスト表示画面では、リスト上、またはスクロールバーのドラッグによるリストのスクロールができます。





■フリック操作

タッチパネルディスプレイをはらうように指を動かします。

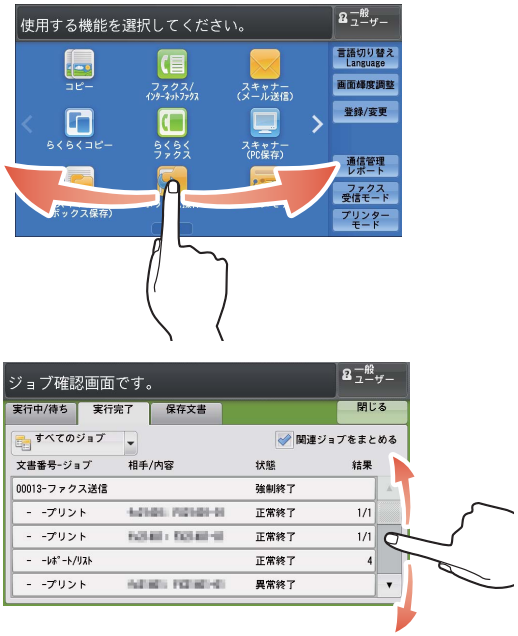
メニュー画面では、左右にフリック操作するとページの切り替えができます。

リスト表示画面では、上下にフリック操作するとリストのスクロールができます。

機能選択画面やボックス操作画面では、上下にドラッグまたはフリック操作するとページの切り替えができます。

補足

- フリック操作の場合は、指を離した後でも少しの間スクロールが継続します。



■タップ / ダブルタップ

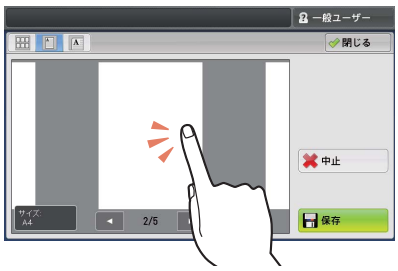
タッチパネルディスプレイに軽く触れ、すぐに指を離します。 2 回連続で同じ位置をタップする操作をダブルタップと呼びます。

プレビュー画像をダブルタップすると、画像サイズの拡大表示ができます。

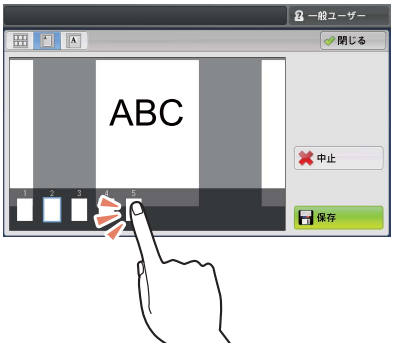
プレビューエリアをタップすると、サムネールバーの表示 / 非表示の切り替えができます。

補足

- ピンチアウト / ピンチイン（2 本の指で画面をつまむように動かす操作）による画面サイズの拡大 / 縮小はできません。

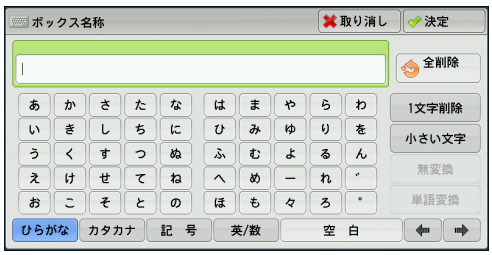


サムネールバーの任意のサムネールをタップすると、選択したサムネールが表示されます。



文字の入力方法について

操作中に、文字を入力する画面が表示されることがあります。ここでは、文字を入力する方法について説明します。



入力できる文字は、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、英字、記号です。

項目	説明
ひらがなの入力	［ひらがな］を押します。 小さいひらがな（っ、ゃ、ゅ、ょなど）を入力するときは、［小さい文字］を押します。元に戻すときは、もう一度［小さい文字］を押します。
カタカナの入力	［カタカナ］を押します。 小さいカタカナ（ッ、ャ、ュ、ョなど）を入力するときは、［小さい文字］を押します。元に戻すときは、もう一度［小さい文字］を押します。 カタカナの半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
漢字の入力	ひらがなを入力したあと、［単語変換］を押します。［漢字変換］画面に該当する漢字が表示されるので、目的の漢字を選択します。 ［▼］で次の候補の漢字に進み、［▲］で前に表示した漢字に戻ります。 変換しない場合は、［無変換］を押します。
アルファベットや数字の入力	［英 / 数］を押します。 アルファベットの大文字を入力するときは、［シフト］を押します。元に戻すときは、もう一度［シフト］を押します。 アルファベットや数字の半角文字を入力するときは、［半角］を押します。元に戻すときは、もう一度［半角］を押します。
記号の入力	［記号］を押します。
スペースの入力	［空白］を押します。
濁点、半濁点の入力	[゛]、[゜]を押します。
文字の消去	1 文字ずつ消去するときは、［1 文字削除］を押します。 全文字を消去するときは、［全削除］を押します。

注記

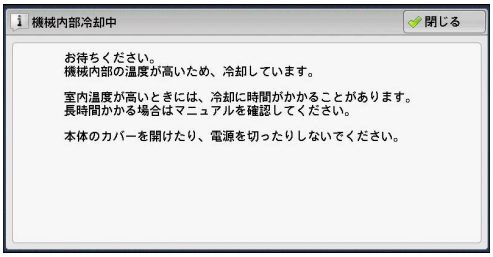
- 設定項目によって、入力できない文字やキーは表示されません。
- 「・」中黒は入力できません。

参照

- 入力できる漢字は、『管理者ガイド』の「16 付録」>「表示できる漢字一覧」を参照してください。

冷却モードについて

本機の内部が高温になった場合に、自動的に冷却モードに移行します。冷却モード中は、次の画面が表示されます。



機器内部の冷却が終了すると、上記の画面は閉じます。画面が消えるまでお待ちください。

室内温度が高い場合は、冷却に時間がかかるため、室内の温度を下げてください。

補足

- 冷却モード中を示す画面の［閉じる］ボタンを押して画面を閉じることもできますが、冷却モードは解除されないため、本機は操作できません。画面左上に表示された冷却中を示すメッセージが消えるまで、お待ちください。

冷却モード中は、機器内部のファンが動作して放熱するため、正面カバーを開けたり、電源を切ったりしないでください。

3 コピー

この章では、コピー機能と操作について説明します。

- コピー操作の流れ.....100
- コピー中の操作.....108
- らくらくコピー.....112
- コピー.....117
- 画質調整.....126
- 読み取り方法.....129
- 出力形式.....145
- ジョブ編集.....183



コピー操作の流れ

ここでは、基本的なコピー操作の流れについて説明します。

参照先は、次のとおりです。

Step1 原稿をセットする 100
Step2 機能を選択する 103
Step3 部数を入力する 105
Step4 コピーを開始する 105
Step5 ジョブの状態を確認する 107

Step1 原稿をセットする

原稿をセットする手順には、次の 2 つの方法があります。

■原稿送り装置

- 1 枚もの
- 複数枚の原稿

■原稿ガラス

- 1 枚もの
- 本などの冊子

補足

- 1 つのジョブで本機が読み込める枚数は 999 枚です。本機が読み込める原稿枚数を超えると、原稿の読み込みを中止します。表示されたメッセージに従って、読み込み済みの原稿をプリントするか、ジョブをキャンセルしてください。また、以下の機能を選択している場合は、読み込み済みの原稿はプリントできません。
  - 「表紙付け（表紙を付けてコピーする）」(P.150)
  - 「アノテーション（スタンプ / 日付 / ページ番号を付けてコピーする）」(P.156)
  - 「複製管理（背景に管理番号を印字する）」(P.163)

原稿送り装置

原稿送り装置には、最小サイズが 139.7×139.7mm（定形サイズの場合は、A5、A5□）、最大サイズが 297×432mm（定形サイズの場合は、A3、11×17 インチ）の 1 枚もの、または複数枚の原稿をセットできます。

自動検知できる原稿は定形サイズだけです。定形サイズ以外の原稿は、［原稿サイズ入力］で任意のサイズを入力します。

参照

- 自動検知できる原稿サイズや任意のサイズの入力方法は、「原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする）」(P.134) を参照してください。
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

原稿送り装置にセットできる枚数は、次のとおりです。

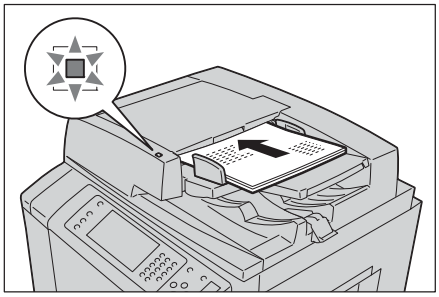
質量	枚数
38 ～ 80g/m^2	250 枚
81 ～ 128g/m^2	150 枚
129 ～ 200g/m^2	100 枚

注記
- 折り目、しわのある原稿、切り貼り原稿、カール紙、裏カーボン紙は、紙づまりの原因になりますので、原稿ガラスにセットしてください。
- 質量が 38 ～ 49g/m^2 の原稿の両面読み込みはできません。

参照
- サイズが異なる原稿を一度にコピーする場合は、「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」（P.136）を参照してください。

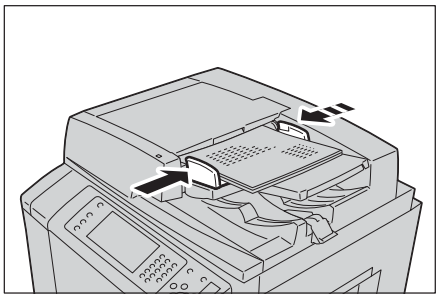
1 原稿をセットする前に、クリップやホチキスを外します。

2 コピーする面（両面原稿の場合はおもて面）を上に向けて、原稿送り装置の中央にセットします。

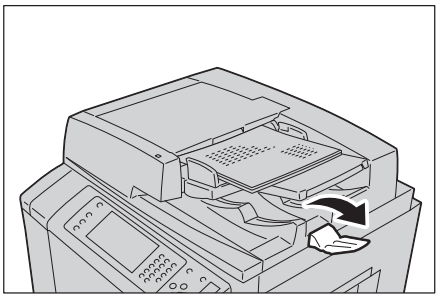


補足
- 原稿をセットすると、確認ランプが点灯します。確認ランプが点灯していない場合は、再度、原稿をセットしてください。

3 原稿ガイドを移動して、原稿の両側に合わせます。



4 原稿受けストッパーを開きます。



原稿ガラス

原稿ガラスには、最大で 297×432mm（定形サイズの場合は、A3、11×17 インチ）までの 1 枚もの、または本などの原稿をセットできます。

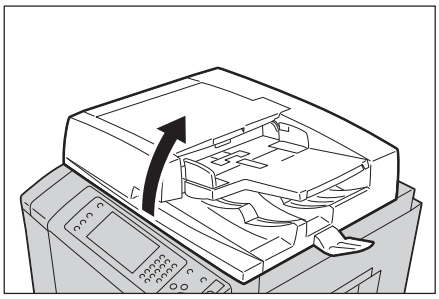
注記
- 原稿ガラスを使用した場合、作業終了後に、原稿カバーを閉じてください。

原稿ガラスで自動検知できる原稿は定形サイズだけです。定形サイズ以外の原稿は、［原稿サイズ入力］で任意サイズを入力します。

参照
- 自動検知できる原稿サイズや任意のサイズの入力方法は、「原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする）」(P.134) を参照してください。
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

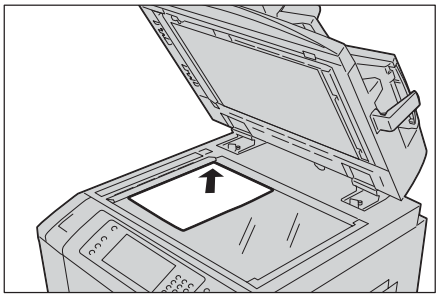
> ⚠注 意
> 書籍などの厚手の原稿をコピーするとき、原稿を強く押さえないでください。原稿ガラスが割れてケガの原因となるおそれがあります。

1 原稿カバーを開けます。



注記
- 画面が表示される前に原稿をセットすると、サイズを正しく検知できないことがあります。

2 コピーする面を下に向けて、原稿ガラスの左奥の角に合わせて原稿をセットします。



3 原稿カバーを閉じます。

補足

- 定形サイズの原稿をセットした場合、メッセージエリアに原稿のサイズが表示されます。詳しくは、「メッセージエリア」(P.89) を参照してください。

Step2 機能を選択する

原稿をコピーする手順には、次の 2 つの方法があります。

■らくらくコピー

基本的な機能だけで簡単にコピーできます。

■コピー

詳細な機能を設定してコピーできます。

ここでは、機能を選択する手順について、［コピー］画面で説明します。

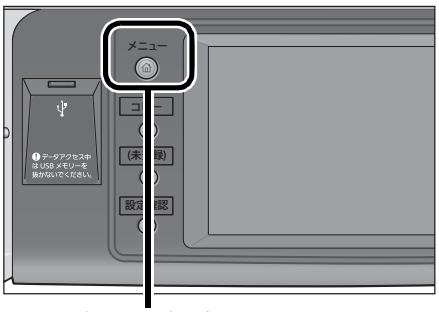
参照

- ［らくらくコピー］については、「らくらくコピー」(P.112) を参照してください。

補足

- 表示される機能は、機械の構成によって異なります。
- 本機で、認証機能、または集計管理機能を使用している場合は、User ID やパスワードが必要になることがあります。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。

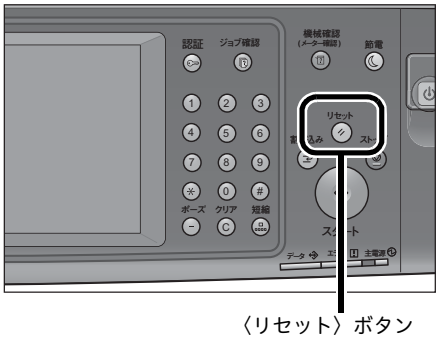


〈メニュー〉ボタン

2 ［コピー］を押します。



3 前回の設定が残っている場合は、〈リセット〉ボタンを押します。



〈リセット〉ボタン

4 必要に応じて、各タブから設定する機能を選択します。



各機能の参照先は、次のとおりです。

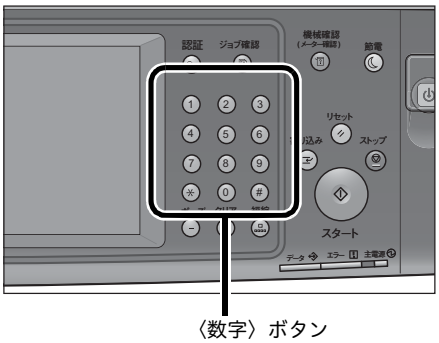
参照

- 「コピー」(P.117)
- 「画質調整」(P.126)
- 「読み取り方法」(P.129)
- 「出力形式」(P.145)
- 「ジョブ編集」(P.183)

Step3 部数を入力する

コピー部数を入力する手順について説明します。コピー部数は、999 部まで入力できます。

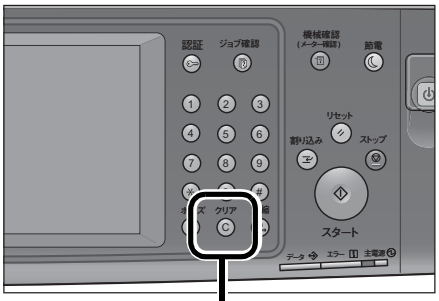
1 〈数字〉ボタンでコピー部数を入力します。



〈数字〉ボタン

入力した部数はディスプレイの右上に表示されます。

2 入力を間違えた場合は、〈クリア（C)〉ボタンを押して、入力し直します。

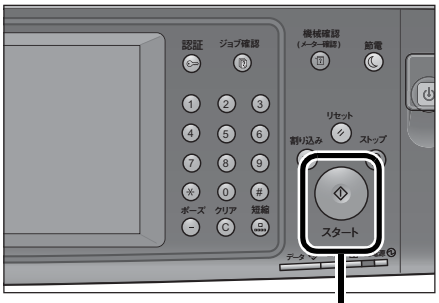


〈クリア〉ボタン

Step4 コピーを開始する

コピーを開始する手順について説明します。

1 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

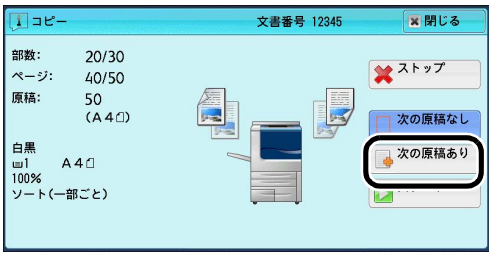
注記

- 原稿送り装置にセットした場合は、原稿搬送中に原稿を押さえないでください。
- 複製制限コードが検出された原稿は、コピーできません。詳しくは、「ペーパーセキュリティー（原稿のセキュリティー管理をする)」(P.166) を参照してください。
- コピー中に次のジョブの設定ができます。

■次の原稿があるとき

複数枚の原稿や複数の束の原稿を 1 つにまとめるときは、原稿の読み取り中にタッチパネルディスプレイに表示される画面の［次の原稿あり］を押します。複数の原稿をまとめてコピーできます。

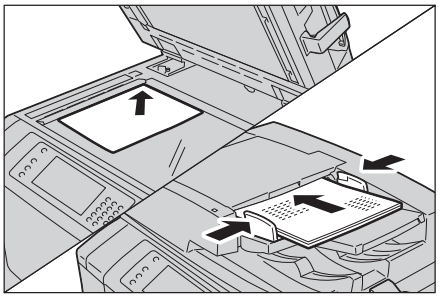
2 原稿の読み取り中に、［次の原稿あり］を押します。



補足

- 原稿送り装置を使っているときは、最初にセットした原稿をすべて読み取ってから、次の原稿をセットします。
- ［次の原稿あり］が表示されているときに一定時間操作しないと、次の原稿がないと自動的に判断し、コピーが始まります。
- ［ストップ］を押したときに表示される［部数変更 ...］を押すと、部数を変更できます。

3 次の原稿をセットします。



4 〈スタート〉ボタンを押します。

さらに原稿が続くときは、手順 3 と 4 を繰り返します。

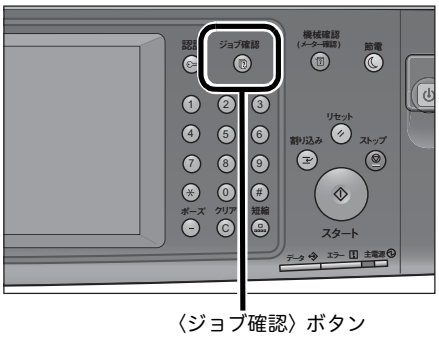
5 すべての原稿を読み取ったら、［次の原稿なし］を押します。



Step5 ジョブの状態を確認する

コピーを開始したが出力されないときは、ジョブの実行待ち状態です。次の手順でジョブがどうのような状態か確認できます。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

2 ジョブの状態を確認します。



補足

- ジョブが画面に表示されていないときは、[▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

コピー中の操作

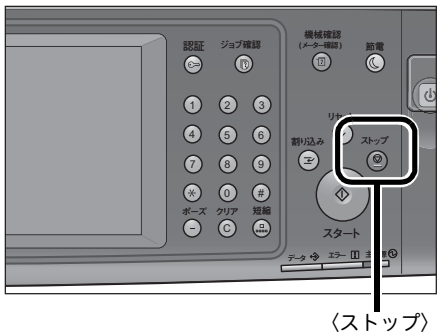
コピー中にできる操作について説明します。参照先は、次のとおりです。

コピーを中止する.....108
部数を変更する.....110
割り込みをする.....110

コピーを中止する

コピーを中止する手順について説明します。

1 操作パネルの〈ストップ〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押します。



〈ストップ〉ボタン

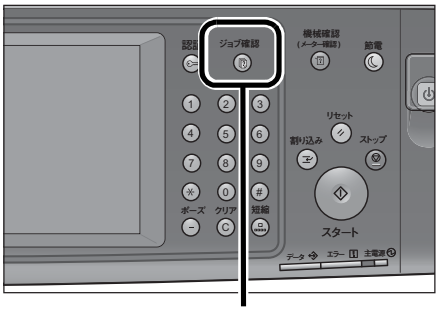


2 ［中止］を押します。



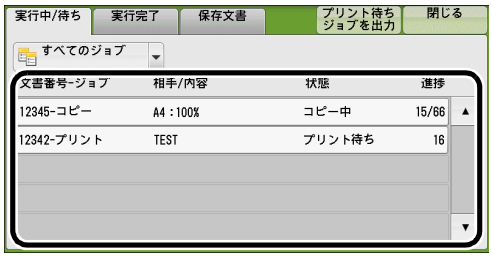
■[ストップ]または[中止]の画面が表示されない場合

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

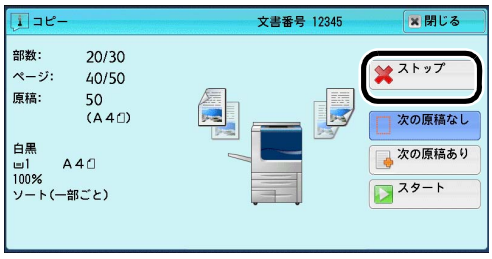
2 中止するジョブを選択します。



補足

- ジョブが画面に表示されていないときは、[▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- ジョブが画面に表示されていないときは、ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 [ストップ]を押します。



4 [中止]を押します。



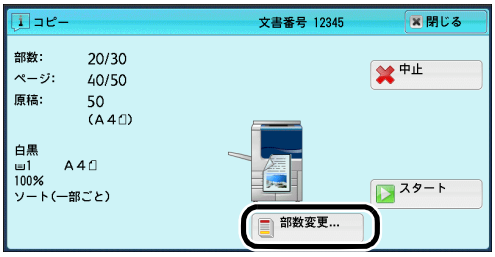
部数を変更する

原稿の読み込み / コピー中に、部数を変更できます。

1 操作パネルの〈ストップ〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押します。



2 ［部数変更 ...］を押します。



3 〈数字〉ボタンで部数を入力します。

すでに出力された部数を含んだ、変更後の部数を入力します。部数を減らすときは、すでに出力された部数よりも少ない数は入力できません。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

補足

- すでに出力された部数と同じ数値を入力して〈スタート〉ボタンを押しても、コピーは実行されません。

割り込みをする

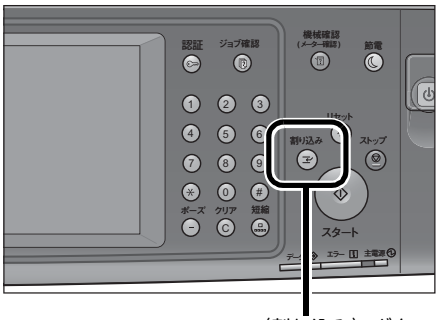
連続コピー中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させることができます。

注記

- 〈割り込み〉ボタンは、すべての原稿を読み取ったあとに押してください。原稿の読み取り中や［次の原稿あり］が選択されている状態では、割り込みは受け付けません。
- 原稿ガラスを使用した、部数の指定が 10 部以下のコピー動作中は、〈割り込み〉ボタンを押しても割り込みが受け付けられない場合があります。

1 〈割り込み〉ボタンを押します。

〈割り込み〉ボタンが点灯し、割り込み可能な状態になったことを示します。



〈割り込み〉ボタン

2 割り込んでコピーする原稿をセットし、必要に応じて、機能を設定します。

3 〈数字〉ボタンで部数を入力します。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

5 割り込みコピーが終了したら、〈割り込み〉ボタンを押します。

〈割り込み〉ボタンが消灯し、割り込みが解除されたことを示します。

補足

- 原稿ガラスに割り込んだ原稿をセットした場合は、原稿を取り除いてください。

6 〈スタート〉ボタンを押します。

一時中断していたコピーが再開します。

らくらくコピー

コピー機能は、［コピー］と［らくらくコピー］の 2 つの画面で設定できます。
ここでは、［らくらくコピー］画面で設定できる機能について説明します。
［らくらくコピー］画面では基本的な機能で簡単にコピーできます。

用紙トレイ（コピーする用紙のトレイを選択する）.....112
倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）.....114
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）.....114
コピー濃度（コピー濃度を調整する）.....115
2 枚→ 1 枚（2 枚の原稿を 1 ページにまとめてコピーする）.....115
ホチキス左上 1 ヵ所.....116

1 メニュー画面で［らくらくコピー］を押します。



2 ［らくらくコピー］画面から、設定する機能を選択します。



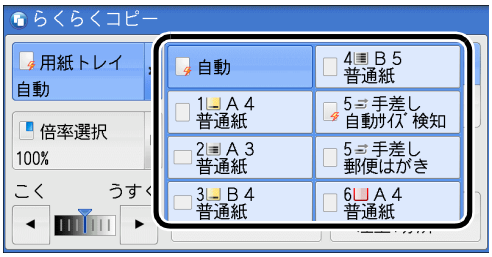
用紙トレイ（コピーする用紙のトレイを選択する）

コピーする用紙のトレイを選択します。

1 ［用紙トレイ］を選択します。



2 コピーする用紙トレイを選択します。



■自動

原稿サイズと設定した倍率を基に、適切な用紙トレイが自動的に選択されます。

補足

- ［自動］を選択した場合は、［倍率選択］で［自動 %］以外が指定されます。

■トレイ 1 ～ 4、トレイ 6（オプション）、トレイ 7（オプション）

あらかじめ設定されている用紙トレイから選択します。

■トレイ 5 手差し 自動サイズ検知

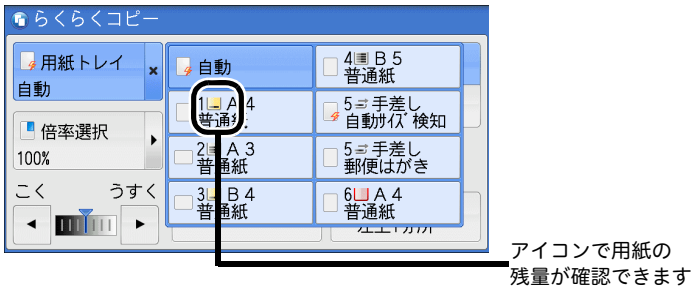
手差しトレイの用紙サイズが自動的に認識されます。

■トレイ 5 手差し 郵便はがき

手差しトレイから郵便はがきにコピーする場合に選択します。

用紙の残量表示について

各用紙トレイの選択項目に表示されるアイコンで、用紙の残量を確認できます。



 : 用紙が 25 ～ 100% セットされていることを表します。

 : 用紙の残量が 25% 以下で、少なくなっていることを表します。

 : 用紙切れ、またはセットされていないことを表します。

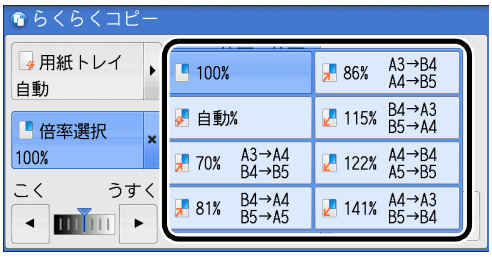
倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）

倍率を選択して、拡大コピーや縮小コピーができます。

1 ［倍率選択］を選択します。



2 コピーする倍率を選択します。



■100%

原稿と同じ大きさでコピーします。

■自動 %

原稿サイズと［用紙トレイ］で指定したサイズから倍率を自動的に計算し、指定したサイズに原稿が収まるようにコピーします。

補足

- ［自動 %］を選択した場合は、［用紙トレイ］で［自動］以外が指定されます。

■定形変倍

あらかじめ設定されている倍率から選択します。

両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）

片面や両面の原稿を、用紙の両面や片面にコピーできます。

1 任意の項目を選択します。



■片面→片面

片面原稿を用紙の片面にコピーします。

■片面→両面

片面原稿を用紙の両面にコピーします。

■両面→両面

両面原稿を用紙の両面にコピーします。

コピー濃度（コピー濃度を調整する）

コピーの濃度を、7 段階で調整できます。

1 ［◀］［▶］で、濃度を調整します。



2 枚→ 1 枚（2 枚の原稿を 1 ページにまとめてコピーする）

2 枚の原稿を 1 ページにまとめてコピーできます。

［2 枚→ 1 枚］を選択すると、自動的に［倍率選択］の［自動 %］が選択されます。本機が自動的に倍率を設定して、選択した用紙に画像が収まるようにコピーします。

補足

- ［倍率選択］で［自動 %］を解除した場合（倍率を選択し直した場合）、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。
- ［用紙トレイ］で選択するトレイは、［自動］以外を選択してください。
  用紙トレイが［自動］の場合は、A4 サイズのトレイが選択されます。A4 サイズのトレイがない場合は、［自動解除時のトレイ］に従って選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「コピー動作制御」>「自動解除時のトレイ」を参照してください。

参照

- 4 枚、8 枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーする方法は、「まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）」（P.152）を参照してください。

1 ［2 枚→ 1 枚］を押します。



ホチキス左上 1 ヵ所

コピーした原稿の左上 1 ヶ所にホチキス留めをして、排出できます。

ホチキスで留められる枚数は、フィニッシャー C3/ 中とじフィニッシャー C3 の場合は、2 ～ 50 枚（P 紙・J 紙）です。フィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚（オプション）を装着している場合は、最大で 65 枚（90g/m^2 以下、用紙束の厚さ 7.2mm 以下）留めることができます。フィニッシャー D2/ 中とじフィニッシャー D2 の場合は、2 ～ 100 枚（P 紙・J 紙）です。

ホチキス留めができる用紙は、普通紙、再生紙、うら紙、うす紙（52 ～ 63g/m^2）、厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）、穴あき紙、インデックス紙（106 ～ 200g/m^2）、ユーザー定義 1 ～ 5 の用紙です。

フィニッシャー D2/ 中とじフィニッシャー D2 の場合は、留める枚数に応じてホチキスの針がカットされます。用紙の種類など使用条件によっては、針が曲がって留められることがあります。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［ホチキス左上 1ヵ所］を押します。



コピー

コピー機能は、［コピー］と［らくらくコピー］の 2 つの画面で設定できます。

ここでは、［コピー］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）.....114
用紙選択（コピーする用紙を選択する）.....121
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）.....124
仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り（仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折りを指定して排出する）.....125
まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）.....125
コピー濃度（コピー濃度を調整する）.....125

参照

- ［コピー］画面に表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「基本コピー画面の表示機能」を参照してください。

1 メニュー画面で［コピー］を押します。



2 ［コピー］画面で機能を選択します。



倍率選択（拡大 / 縮小してコピーする）

倍率を選択して、拡大コピーや縮小コピーができます。

1 倍率を選択します。

〈数字〉ボタンで数値を入力するか、［+］［－］を押して、直接倍率を指定することもできます。



■100%

原稿と同じ大きさでコピーします。

■自動 %

原稿サイズと［用紙選択］で指定した用紙サイズから倍率を自動的に計算し、選択した用紙に原稿が収まるようにコピーします。

補足

- ［自動 %］を選択した場合は、［用紙選択］で［自動］以外が指定されます。

■倍率（3 ～ 4 段目）

あらかじめ設定されている倍率から選択します。

参照

- 表示する倍率は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「コピー設定」>「プリセットボタンの設定」>「倍率ボタン」を参照してください。

■他の倍率 ...

［他の倍率］を選択すると、［倍率選択］画面が表示されます。［定形変倍 / ズーム］、［たてよこ独立変倍］、［寸法指定変倍］の設定ができます。

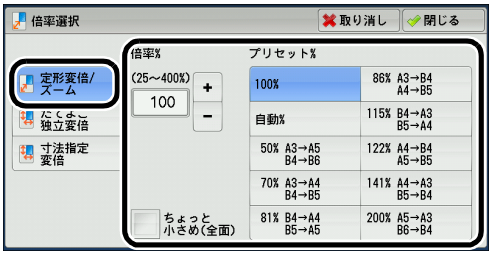
参照

- ［倍率選択］画面での設定方法は、「［定形変倍 / ズーム］を選択した場合」(P.118)、「［たてよこ独立変倍］を選択した場合」(P.120)、「［寸法指定変倍］を選択した場合」(P.120) を参照してください。

［定形変倍 / ズーム］を選択した場合

あらかじめ設定されている定形の倍率から選択したり、倍率を直接入力したりできます。

1 倍率を選択するか、数値を入力します。



■倍率 %

25 ～ 400% の範囲で 1% 単位に設定します。〈数字〉ボタンで数値を入力するか、[+] [－] を押して数値を設定します。100% に設定すると、原稿と同じ大きさでコピーします。

定形サイズ原稿から定形サイズ用紙に拡大 / 縮小コピーをするときのコピー倍率は次のとおりです。

コピー / 原稿	A6	B6	A5	B5	A4	B4	A3
A6	100%	122%	141%	173%	200%	245% *	283% *
B6	82%	100%	116%	142%	164%	200% *	232% *
A5	71%	86%	100%	122%	141%	174% *	200% *
B5	58%	70%	81%	100%	115%	141% *	163% *
A4	50%	61%	70%	86%	100%	122% *	141% *
B4	41%	50%	58%	70%	81%	100%	115%
A3	35%	43%	50%	61%	70%	86%	100%

＊用紙トレイにセットした用紙の向きに合わせて、原稿の向きを⏍にセットしてください。

■プリセット %

次の中から倍率を選択します。

- 100%

  原稿と同じ大きさでコピーします。

- 自動 %

  原稿サイズと［用紙選択］で指定したサイズから倍率を自動的に計算し、指定したサイズに原稿が収まるようにコピーします。

補足

- ［自動 %］を選択した場合は、［用紙選択］で［自動］以外が指定されます。

- 定形変倍

  あらかじめ設定されている倍率から選択します。

参照

- 表示する倍率は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「コピー設定」>「固定倍率ボタン」を参照してください。

■ちょっと小さめ（全面）

画像が欠けないように、選択した倍率よりも少しだけ縮小してコピーします。選択すると、チェックマークが付きます。

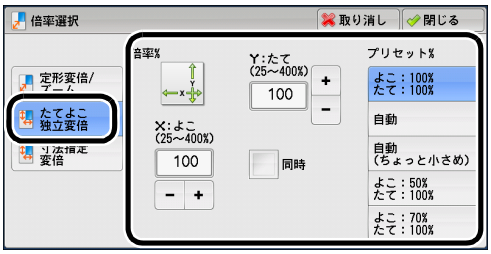
注記

- ［ちょっと小さめ（全面）］を選択した場合に、原稿わくを消したくないときは、わく消し量を 0mm に指定してください。なお、わく消し量を 0mm にすると、原稿によってはコピーの端が汚れたりすることがあります。わく消し量は、［読み取り方法］画面で設定できます。詳しくは、「わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする）」（P.137）を参照してください。

［たてよこ独立変倍］を選択した場合

たてとよこに、それぞれ異なる倍率を指定して、たて長やよこ長に変形できます。

1 任意の項目を選択します。



■倍率 %

- X: よこ Y: たて
  ［+］［－］を押して数値を指定するか、〈数字〉ボタンで数値を入力します。

■同時

たてとよこの数値を同じ値ずつ変更できます。

■プリセット %

- よこ：100% たて：100%
  原稿と同じ大きさでコピーします。
- 自動
  たてとよこの倍率を、用紙サイズに合わせて自動設定してコピーします。
- 自動（ちょっと小さめ）
  たてとよこの倍率を用紙サイズに合わせて自動設定し、画像が欠けないように、少しだけ縮小してコピーします。
- よこ：××% たて：××%
  たてとよこの倍率を設定された値でコピーします。

［寸法指定変倍］を選択した場合

たてとよこをそれぞれ異なる寸法で指定できます。

原稿のサイズとコピー後のサイズをそれぞれ指定すると、入力されたサイズによって、自動的にたてとよこの倍率が、それぞれ 25 ～ 400% の範囲内で計算されます。

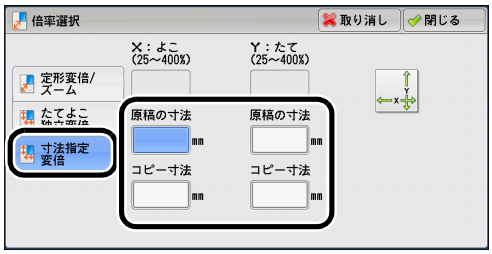
補足

- ［寸法指定変倍］画面では倍率を設定します。［原稿の寸法］と［コピー寸法］は、倍率を計算するために入力する項目です。［原稿の寸法］、［コピー寸法］で入力した値は、原稿の読み取りサイズや用紙サイズには反映されません。必ず、原稿の読み取りサイズを設定してください。また、必要に応じて用紙トレイを設定してください。

参照

- 原稿の読み取りサイズの設定方法は、「原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする）」（P.134）を参照してください。用紙トレイの設定方法は、「用紙選択（コピーする用紙を選択する）」（P.121）を参照してください。

1 ［X：よこ］の［原稿の寸法］を押して、〈数字〉ボタンで原稿のよこの値を入力します。



2 ［X：よこ］の［コピー寸法］を押して、〈数字〉ボタンでコピー後のよこの値を入力します。

3 同様に、［Y: たて］の［原稿の寸法］、［コピー寸法］を入力します。

■X: よこ Y: たて

［原稿の寸法］、［コピー寸法］の設定によって自動的に計算された倍率結果が表示されます。

■原稿の寸法

たてとよこの原稿サイズを 1 ～ 999mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

■コピー寸法

コピー後のたてとよこのサイズを 1 ～ 999mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

用紙選択（コピーする用紙を選択する）

コピーする用紙のトレイを選択します。

1 用紙のサイズや種類を確認し、トレイを選択します。



■自動

原稿サイズと設定した倍率を基に、適切な用紙トレイが自動的に選択されます。

補足

- ［自動］を選択した場合は、［倍率選択］で［自動 %］以外が指定されます。

■トレイ（2 ～ 5 項目め）

あらかじめ設定されている用紙トレイから選択します。

参照

- ［コピー］画面に表示されるトレイを変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「コピー設定」>「プリセットボタンの設定」>「用紙トレイボタン」を参照してください。

■他のトレイ ...

［他のトレイ ...］を選択すると、［用紙選択］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［用紙選択］画面」(P.122) を参照してください。

用紙の残量表示について

各用紙トレイの選択項目に表示されるアイコンで、用紙の残量を確認できます。



: 用紙が 25 ～ 100% セットされていることを表します。

: 用紙の残量が 25% 以下で、少なくなっていることを表します。

: 用紙切れ、またはセットされていないことを表します。

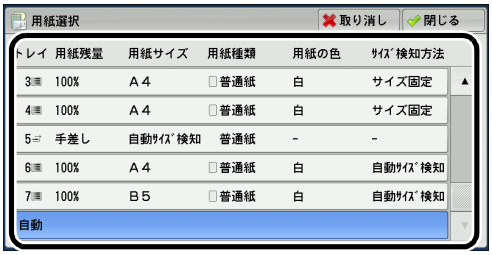
［用紙選択］画面

［コピー］画面に表示されていない用紙トレイを選択できます。

1 用紙トレイを選択します。

補足

- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。



■トレイ

トレイを選択します。［手差し］を選択すると、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。［トレイ 5（手差し）］設定画面で、普通紙以外の用紙、非定形サイズの用紙を設定できます。

補足

- トレイ 6、トレイ 7 はオプションです。

参照

- 用紙の設定方法は、「［トレイ 5（手差し）］画面」(P.123) を参照してください。

■用紙残量

用紙の残量が表示されます。

■用紙サイズ

用紙サイズが表示されます。

■用紙種類

用紙の種類が表示されます。

■用紙の色

用紙の色が表示されます。

参照

- 設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「用紙 / トレイの設定」>「用紙トレイのサイズ / 用紙種類 / 属性設定」を参照してください。

■サイズ検知方法

用紙サイズの検知の方法が表示されます。

参照

- 設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

[トレイ 5（手差し)] 画面

手差しトレイにセットする用紙について設定します。

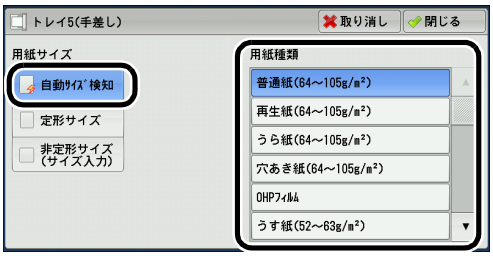
参照

- セットできる用紙については、『管理者ガイド』の「2 用紙のセット」>「用紙について」を参照してください。

1 用紙のサイズと種類を選択します。

補足

- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- [自動サイズ検知] ができるのは、定形サイズの用紙をセットしたときだけです。



■用紙サイズ

[自動サイズ検知]、[定形サイズ]、[非定形サイズ（サイズ入力)] から選択します。

[自動サイズ検知] を選択した場合は、用紙サイズを自動的に認識します。

参照

- [定形サイズ] を選択した場合は、「[定形サイズ] を選択した場合」(P.124)、[非定形サイズ（サイズ入力)] を選択した場合は 「[非定形サイズ（サイズ入力)] を選択した場合」(P.124) を参照してください。

■用紙種類

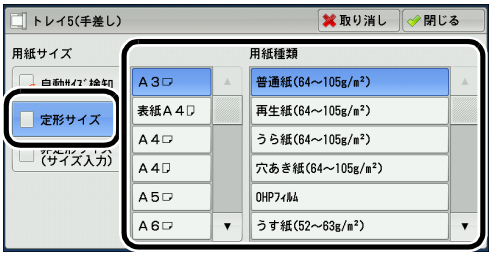
用紙の種類を選択します。

［定形サイズ］を選択した場合

定形サイズを選択して表示されるリストから、用紙サイズを選択します。

1 用紙サイズ、用紙種類を選択します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

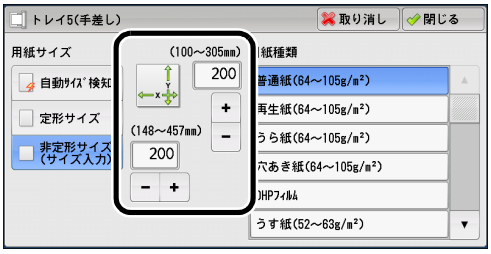


［非定形サイズ（サイズ入力)］を選択した場合

［非定形サイズ（サイズ入力)］を押して表示される画面で、たてよこのサイズを入力します。

よこ方向（X）148 ～ 457mm、たて方向（Y）100 ～ 305mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

1 ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、用紙サイズを入力します。



2 用紙の種類を選択します。

補足
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）

この機能は、［読み取り方法］画面の［両面 / 片面選択］と同じです。

参照
- 詳しくは、「両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする)」(P.130) を参照してください。

仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り（仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折りを指定して排出する）

この機能は、［出力形式］画面の［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］と同じです。

参照

- 詳しくは、「仕分け/ホチキス/パンチ/Z折り（仕分け/ホチキス/パンチ/Z折りを指定して排出する）」（P.175）を参照してください。

まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）

この機能は、［出力形式］画面の［まとめて 1 枚（N アップ）］と同じです。

参照

- 詳しくは、「まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）」（P.152）を参照してください。

コピー濃度（コピー濃度を調整する）

コピーの濃度を、7 段階で調整できます。［コピー］画面、［画質調整］画面、および［らくらくコピー］画面にある［コピー濃度］は同じです。

1 ［◀］［▶］で、濃度を調整します。



画質調整

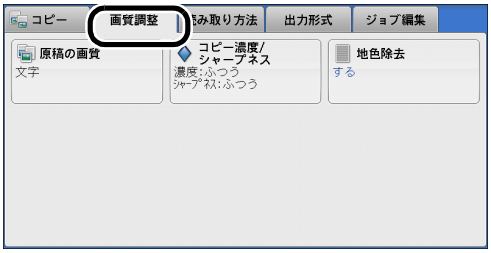
［画質調整］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....126
コピー濃度 / シャープネス（コピー濃度 / 画像のシャープさを調整する）.....127
地色除去（原稿の背景にある色を除去する）.....128

1 メニュー画面で［コピー］を押します。



2 ［画質調整］画面で、機能を選択します。



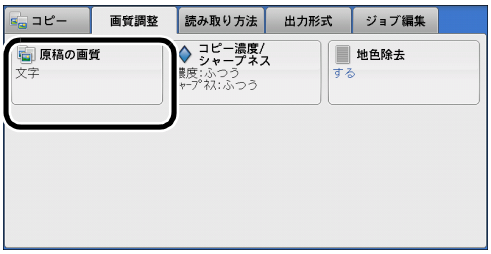
補足

- 色の再現性が悪い場合は、自動階調補正を実行してください。詳しくは、『管理者ガイド』の「3 日常の管理」＞「自動階調補正を行う」を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

写真原稿、文字原稿などをコピーする場合、それぞれの原稿に応じた画質でコピーできます。原稿の種類に合わせて画質タイプを選択すると、原稿に、より忠実な画質にコピーできます。

1 ［原稿の画質］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■文字 / 写真

文字と写真が混在した原稿をコピーするときに選択します。原稿の文字領域と写真領域を自動的に判断し、領域ごとに画質タイプが設定されます。

■文字

文字をはっきりとコピーするときに選択します。グラフ、イラストなどの場合も、はっきりとしたコピーになります。

■写真

写真をコピーするときに選択します。

■鉛筆文字

鉛筆で書かれたような、文字が薄い原稿を、濃くはっきりコピーします。

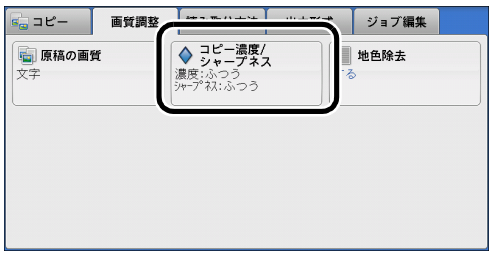
コピー濃度 / シャープネス（コピー濃度 / 画像のシャープさを調整する）

コピー濃度を調整したり、画像のシャープさを調整したりしてコピーできます。

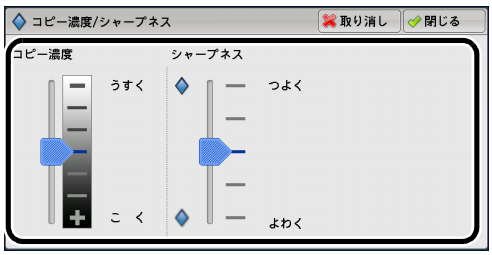
補足

- ［コピー濃度 / シャープネス］の［コピー濃度］と、［コピー］画面の［コピー濃度］は同じ働きです。

1 ［コピー濃度 / シャープネス］を押します。



2 任意の項目を調整します。



■コピー濃度

［うすく］～［こく］の範囲で、7 段階のコピー濃度を選択できます。

［こく］に近づくほど色を濃くコピーします。［うすく］に近づくほど色を薄くコピーします。

■シャープネス

［つよく］～［よわく］の範囲で、5 段階のシャープネスを選択できます。

［つよく］に近づくほど画像の輪郭が強調されます。［よわく］に近づくほど画像の輪郭をぼかしたようになります。

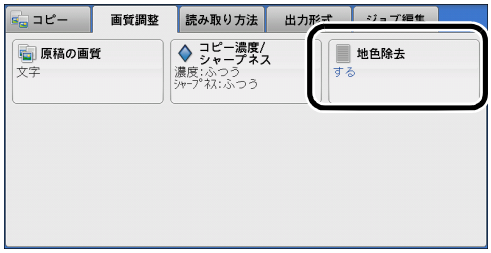
地色除去（原稿の背景にある色を除去する）

新聞や地色原稿などの原稿の下地（背景）の色を除いてコピーできます。

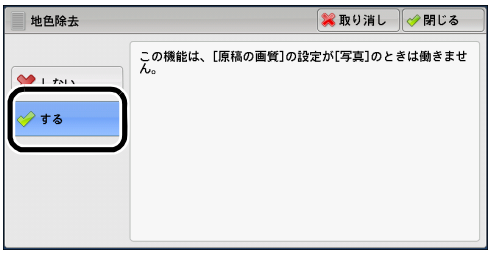
補足

- ［原稿の画質］の設定が［写真］の場合、［地色除去］の機能は働きません。

1 ［地色除去］を押します。



2 ［する］を選択します。



■しない

原稿の下地の色はそのままでコピーします。

■する

新聞や地色原稿などの原稿の下地（背景）の色を除いてコピーします。

読み取り方法

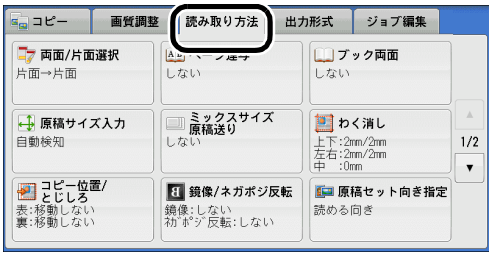
［読み取り方法］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）.....130
ページ連写（見開き原稿を左右に分割してコピーする）.....131
ブック両面（見開き原稿を分割して両面コピーする）.....133
原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする）.....134
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）.....136
わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする）.....137
コピー位置 / とじしろ（画像の位置を移動してコピーする）.....139
鏡像 / ネガポジ反転（画像を反転してコピーする）.....141
原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）.....142
自動画像回転（たてよこに画像を回転させてコピーする）.....143

1 メニュー画面で［コピー］を押します。



2 ［読み取り方法］画面で、機能を選択します。





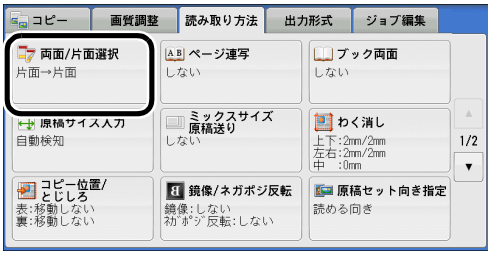
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 画面を縦方向にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

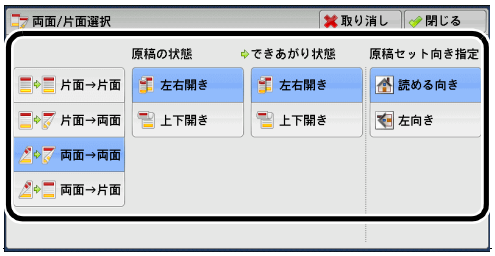
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）

片面や両面の原稿を、用紙の両面や片面にコピーできます。

1 ［両面 / 片面選択］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■片面→片面

片面原稿を用紙の片面にコピーします。

■片面→両面

片面原稿を用紙の両面にコピーします。
複数の片面原稿を両面にコピーするときなどに選択します。

■両面→両面

両面原稿を用紙の両面にコピーします。

■両面→片面

両面原稿を用紙の片面にコピーします。

■原稿の状態

［両面→両面］または［両面→片面］を選択したときに表示されます。

- 左右開き
  原稿のおもてとうらで、イメージの上下が同じときに選択します。
- 上下開き
  原稿のおもてとうらで、イメージの上下が逆転しているときに選択します。

■できあがり状態

［片面→両面］、［両面→両面］を選択したときに表示されます。

- 左右開き
  コピー結果のおもてとうらで、イメージの上下を同じにしたいときに選択します。

- 上下開き

  コピー結果のおもてとうらで、イメージの上下を逆転させたいときに選択します。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

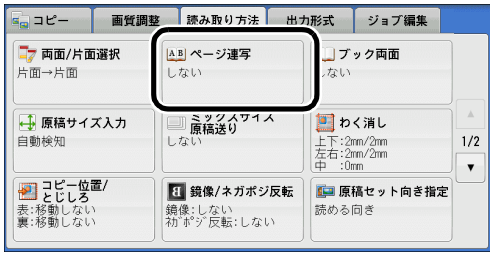
ページ連写（見開き原稿を左右に分割してコピーする）

本などの冊子の見開きページを、別々の用紙にページ順にコピーします。
原稿の左右ページを分けてコピーするときに便利です。

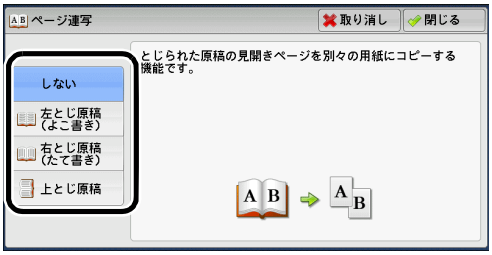
補足

- この機能は、原稿送り装置では使用できません。
- 定形サイズ以外の原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。

1 ［ページ連写］を押します。



2 任意の項目を選択します。

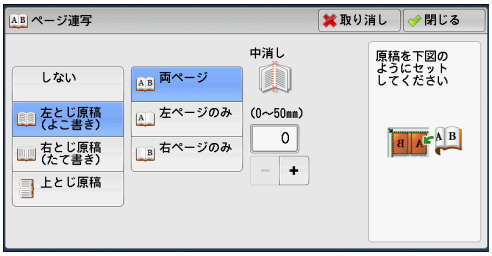


■しない

ページ連写をしません。

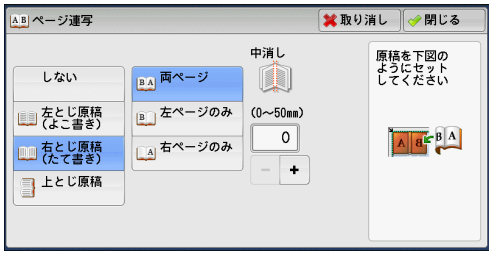
■左とじ原稿（よこ書き）

左ページから始まる見開き原稿の、左ページからコピーします。



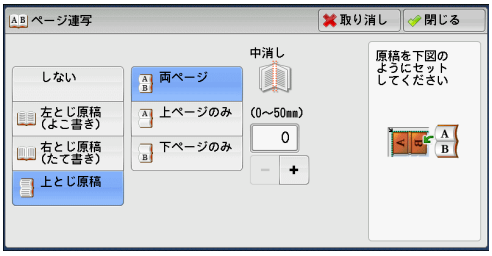
■右とじ原稿（たて書き）

右ページから始まる見開き原稿の、右のページからコピーします。



■上とじ原稿

上ページから始まる見開き原稿の、上のページからコピーします。



■両ページ

見開き原稿の両方のページをページ順にコピーします。

■左ページのみ

左ページだけをコピーします。[左とじ原稿（よこ書き）]または[右とじ原稿（たて書き）]を選択している場合に選択できます。

■右ページのみ

右ページだけをコピーします。[左とじ原稿（よこ書き）]または[右とじ原稿（たて書き）]を選択している場合に選択できます。

■上ページのみ

上ページだけをコピーします。[上とじ原稿]を選択している場合に選択できます。

■下ページのみ

下ページだけをコピーします。[上とじ原稿]を選択している場合に選択できます。

■中消し

見開き原稿の中央部の影を消します。中消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

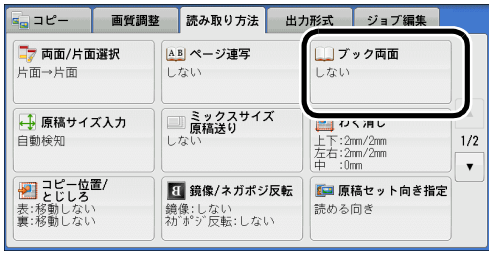
ブック両面（見開き原稿を分割して両面コピーする）

製本された本などの見開きページを、原稿と同じ見開き状態になるようにページを割り当てて両面コピーできます。また、見開きページの左右で開始ページと終了ページを指定できます。

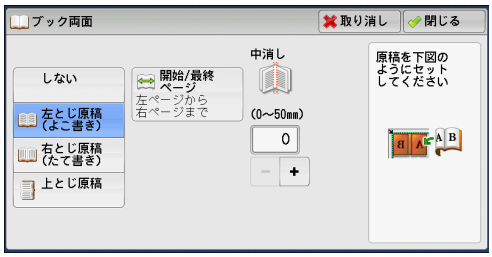
補足

- 定形サイズ以外の原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。
- 原稿は原稿ガラスにセットしてください。

1 ［ブック両面］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

ブック両面をしません。

■左とじ原稿（よこ書き）

左ページから始まる見開き原稿の、左ページから両面コピーします。

■右とじ原稿（たて書き）

右ページから始まる見開き原稿の、右のページから両面コピーします。

■上とじ原稿

上ページから始まる見開き原稿の、上のページから両面コピーします。

■開始 / 最終ページ

［ブック両面 - 開始 / 最終ページ］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［ブック両面 - 開始 / 最終ページ］画面」(P.134) を参照してください。

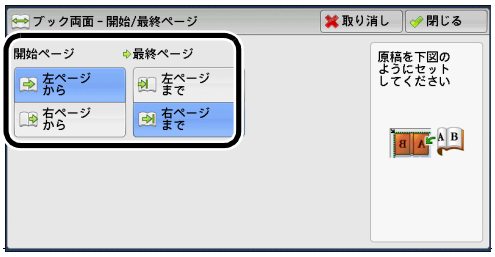
■中消し

見開き原稿の中央部の影を消します。中消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

［ブック両面 - 開始 / 最終ページ］画面

コピーする範囲を、開始ページと最終ページで設定できます。

1 ［開始ページ］、および［最終ページ］を設定します。



■開始ページ

- ［左ページから］/［右ページから］
  ［左とじ原稿（よこ書き）］または［右とじ原稿（たて書き）］の場合に選択できます。
- ［上ページから］/［下ページから］
  ［上とじ原稿］の場合に選択できます。

■最終ページ

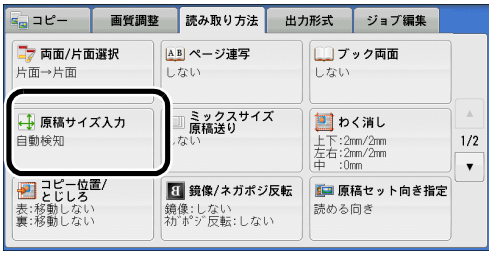
- ［左ページまで］/［右ページまで］
  ［左とじ原稿（よこ書き）］または［右とじ原稿（たて書き）］の場合に選択できます。
- ［上ページまで］/［下ページまで］
  ［上とじ原稿］の場合に選択できます。

原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする）

原稿の読み取りサイズを指定できます。

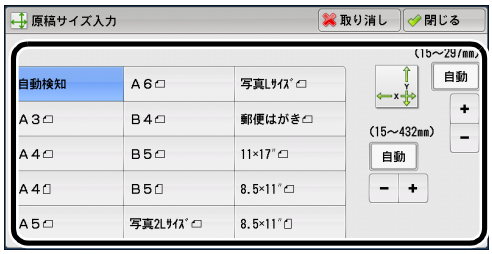
非定形サイズの原稿を読み取るときや、セットしている原稿とは異なるサイズでコピーするときは、原稿サイズを指定します。余白を付けたり、余分な部分を削除したりしてコピーできます。

1 ［原稿サイズ入力］を押します。



2 任意の項目を選択します。

非定形サイズを指定するときは、X 方向、Y 方向の値を指定します。



■自動検知

原稿サイズを自動的に検知します。

原稿サイズを自動的に認識します。自動で認識できる原稿サイズは、次のとおりです。

	原稿送り装置	原稿ガラス
自動検知できる原稿サイズ	B5、B5、B4、A5、A5、A4、A4、A3、8.5×11 インチ、8.5×11 インチ、11×17 インチ、十六開、八開	B6、B6、B5、B5、B4、A6、A5、A5、A4、A4、A3

補足

- 原稿サイズを自動検知できないときは、原稿サイズを入力する画面が表示されます。

参照

- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

■定形サイズ

あらかじめ設定されている定形サイズから選択します。

参照

- 表示する原稿サイズは変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「コピー設定」>「原稿サイズボタン」を参照してください。

■サイズ入力

非定形サイズの原稿を読み取るときや、セットしている原稿とは異なるサイズでコピーするときは、読み取りたいサイズを入力します。

サイズは、原稿ガラスのよこ方向（[X]）に 15 ～ 432mm、たて方向（[Y]）に 15 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位に指定します。原稿ガラスの周りにある目盛を参考にすると便利です。

注記

- 原稿送り装置にセットしている場合、たて方向（[Y]）の読み取るサイズの基点は、中央になります。たとえば、読み取りたいサイズを 100mm に指定すると、原稿の半分から上方向に 50mm、下方向に 50mm が読み取るサイズになります。

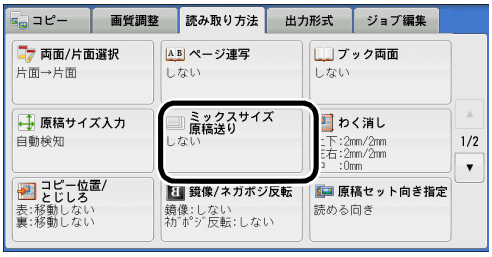
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）

いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズにコピーしたり、１つのサイズにそろえてコピーしたりできます。この機能を使う場合は、原稿送り装置に原稿をセットします。

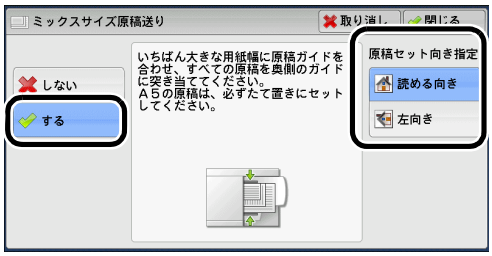
注記

- 原稿はよこ置きにセットしてください。ただし、A5 の原稿は必ずたて置きにセットしてください。
- B5 の原稿を、A4 たて置きまたは A3 の原稿と一緒にセットする場合、B5 の原稿はたて置きにしてください。
- 紙づまりの原因になるので、左上の角をきちんとそろえてセットしてください。
- 推奨する組み合わせは、A4 たてと A3 よこ、B5 たてと B4 よこです。推奨以外の組み合わせでは、原稿が斜めに引き込まれるなどして正しく読み取れないことがあります。

1 ［ミックスサイズ原稿送り］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

同じサイズの原稿をコピーする場合に選択します。

■する

異なるサイズの原稿をコピーする場合に、本機が自動的にそれぞれの原稿サイズを認識します。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- ［原稿セット向き指定］は、1 枚めの原稿で設定した向きを基準とします。1 枚めの原稿を基準に、2 枚め以降の原稿の向きをセットしてください。
- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする）

原稿カバーを開いたままコピーしたり、冊子になっている原稿をコピーするときに、用紙の周りや中央のとじ部分に黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してコピーできます。

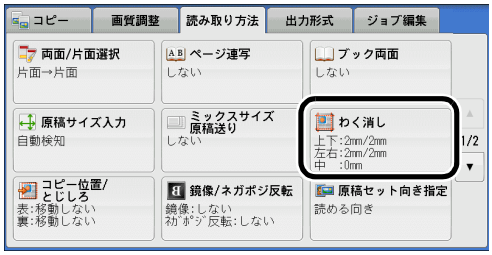
補足

- 両面原稿の場合は、原稿のおもて面とうら面には同じわく消し量が設定されます。
- ［倍率選択］を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大 / 縮小されます。
- 製本機能のとじしろ量を設定している場合でも、わく消し量は影響を受けません。
- 原稿ガラスを使用して、片面原稿を両面コピー（［両面 / 片面選択］で［片面→両面］を選択）する場合、［わく消し］で［4 辺独立］を選択して、［両面原稿のうら面］を［おもて面と対称］に指定しても、［おもて面と対称］は無効になります。その場合は、［両面 / 片面選択］で［両面→両面］を選択して、コピーしてください。

参照

- わく消しの幅を［0mm］に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域については、『管理者ガイド』の「16 付録」>「プリント可能領域」を参照してください。

1 ［わく消し］を押します。



2 任意の項目を設定します。



■標準

上下 / 左右に 2mm のわく消し量が設定されます。

■4 辺同一

原稿の上下左右と、冊子または見開き原稿などの中央部の影を消します。上下左右消し、中消しの 2 種類を、個別に必要な量だけ消すことができます。

■4 辺独立

原稿の上下左右と、冊子または見開き原稿などの中央部の影を消します。上消し、下消し、左消し、右消し、中消しの 5 種類を、個別に必要な量だけ消すことができます。

■対辺同一

原稿の上下左右と、冊子または見開き原稿などの中央部の影を消します。上下消し、左右消し、中消しの 3 種類を、個別に必要な量だけ消すことができます。

■消し量

必要な量だけ消すことができます。

- 上下左右消し

  原稿の上下左右の影を消します。原稿をセットした向きに対して、上下左右のわくを消します。わく消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

- 上下消し（上消し / 下消し）

  原稿の上下の影を消します。原稿をセットした向きに対して、上下のわくを消します。わく消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

- 左右消し（左消し / 右消し）

  原稿の左右の影を消します。原稿をセットした向きに対して、左右のわくを消します。わく消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

- 中消し

  冊子、または見開き原稿などの中央部の影を消します。中消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを指定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

■両面原稿のうら面

［4 辺独立］を選択した場合に設定できます。おもて面とうら面の消し量を同じにするかどうかを設定します。

- おもて面と同じ

  おもて面とうら面の消し量を同じにします。

- おもて面と対称

  おもて面とうら面の消し量を左右対称になるようにします。

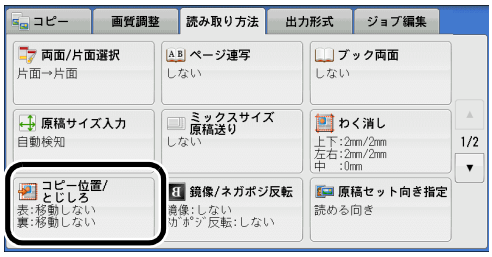
コピー位置 / とじしろ（画像の位置を移動してコピーする）

原稿イメージの位置を上下左右へ移動したり、原稿の中心を用紙の中心へ移動してコピーできます。また、上下左右に余白（とじしろ）を付けて、コピーすることもできます。両面にプリントする場合は、［おもて面］、［うら面］それぞれに移動する位置を設定できます。

補足

- イメージの移動量は、用紙に対して設定されます。倍率選択で拡大 / 縮小を設定していても影響を受けません。

1 ［コピー位置 / とじしろ］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■移動しない

原稿イメージの位置を移動しません。

■センター移動

原稿の中心が用紙の中心に合うように移動します。

■コピー位置 / とじしろ調整

とじしろの量を指定できます。上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

- おもて面

  ［コピー位置 / とじしろ - おもて面］画面が表示されます。

  参照

  - 詳しくは、「［コピー位置 / とじしろ - おもて面］画面」(P.140) を参照してください。

- うら面

  ［コピー位置 / とじしろ - うら面］画面が表示されます。

  参照

  - 詳しくは、「［コピー位置 / とじしろ - うら面］画面」(P.141) を参照してください。

- おもて面と対称

  うら面の設定を、おもて面と対称の位置にするときにチェックします。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足
- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

［コピー位置 / とじしろ - おもて面］画面

おもて面のコピー位置 / とじしろを設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■移動しない

原稿イメージの位置を移動しません。

■センター移動

原稿の中心が用紙の中心に合うように移動します。移動する位置を、上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます

■コーナー移動

原稿イメージを用紙の端または各コーナーに移動します。移動する方向は、8 種類から選択できます。移動する位置を、各コーナーより上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

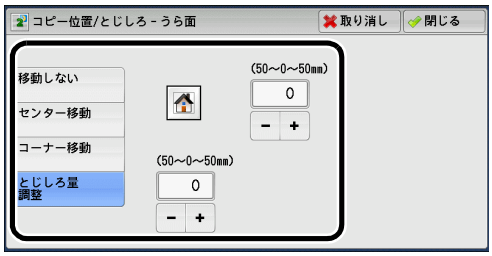
■とじしろ量調整

とじしろの量を調整します。上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

［コピー位置 / とじしろ - うら面］画面

うら面のコピー位置 / とじしろを設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■移動しない

原稿イメージの位置を移動しません。

■センター移動

原稿の中心が用紙の中心に合うように移動します。移動する位置を、上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

■コーナー移動

原稿イメージを用紙の端、または各コーナーに移動します。移動する方向は、8 種類から選択できます。移動する位置を、上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

■とじしろ量調整

とじしろの量を調整します。上下左右に 0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

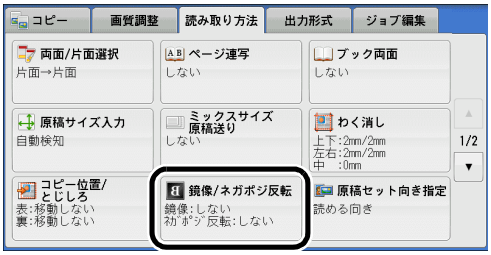
鏡像 / ネガポジ反転（画像を反転してコピーする）

原稿イメージの左右を反転したり、原稿イメージのカラーモードでネガポジを反転させてコピーできます。

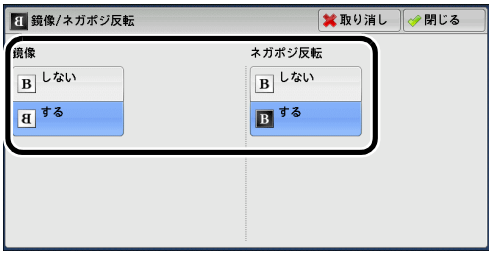
補足

- ［ネガポジ反転］と［わく消し］を同時に設定したとき、わく消し領域は「白」になります。

1 ［鏡像 / ネガポジ反転］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■鏡像

原稿イメージの左右を反転させます。

■ネガポジ反転

原稿イメージの濃度（明度）を白黒反転させます。

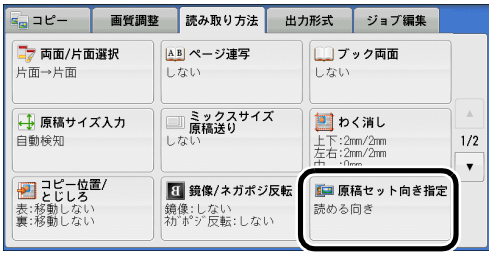
原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

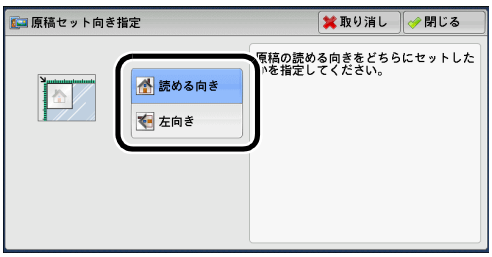
補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

1 ［原稿セット向き指定］を押します。



2 原稿をセットした方向に合わせて、［読める向き］または［左向き］を押します。



■読める向き

原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

■左向き

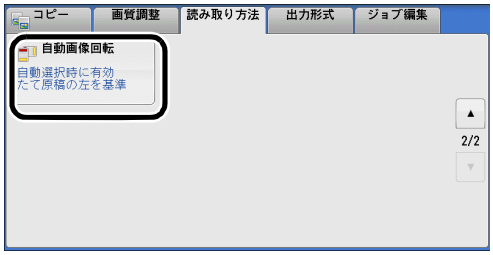
原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

自動画像回転（たてよこに画像を回転させてコピーする）

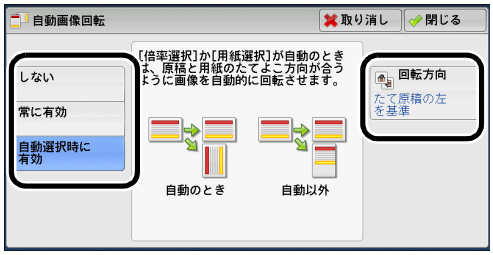
セットした原稿と、用紙トレイにセットされている用紙のたてよこ方向が異なるときに、自動的に原稿のイメージを回転させて、原稿と用紙のたてよこを合わせてコピーします。また、たて原稿とよこ原稿が混在している場合、どこを基準に回転させるかを選択できます。

自動画像回転機能では、A4、および 8.5×11 インチ以下の用紙にコピーするときだけ、回転の対象になります。

1 ［自動画像回転］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

原稿と用紙のたてよこが異なっても、そのままコピーします。

■常に有効

原稿と用紙のたてよこ方向が合うように、原稿のイメージを自動的に回転させます。

■自動選択時に有効

［倍率選択］の［自動 %］または［用紙選択］の［自動］を選択した場合、原稿と用紙のたてよこ方向が合うように、原稿のイメージを自動的に回転させます。

■回転方向

［自動画像回転 - 回転方向］画面が表示されます。

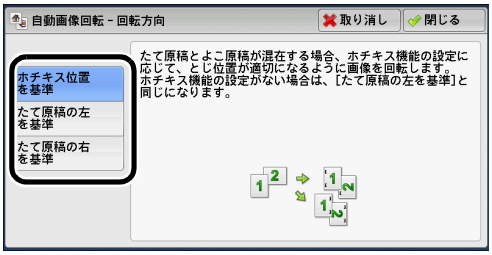
参照

- 詳しくは、「［自動画像回転 - 回転方向］画面」(P.144) を参照してください。

［自動画像回転 - 回転方向］画面

回転させる基準位置を設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■ホチキス位置を基準

フィニッシャーを装着している場合、［ホチキス位置を基準］が表示されます。たて原稿とよこ原稿が混在する場合、ホチキス機能の設定に応じて、とじ位置が適切になるように自動的に画像を回転させます。

■たて原稿の左を基準

たて原稿とよこ原稿が混在する場合、たて原稿の左とよこ原稿の上が合うように回転させます。

■たて原稿の右を基準

たて原稿とよこ原稿が混在する場合、たて原稿の右とよこ原稿の上が合うように回転させます。

出力形式

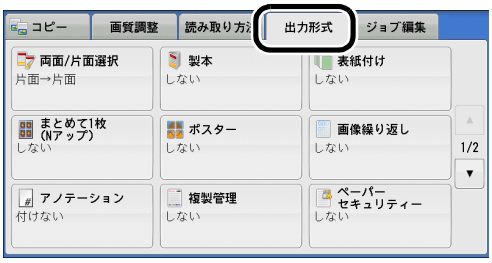
［出力形式］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

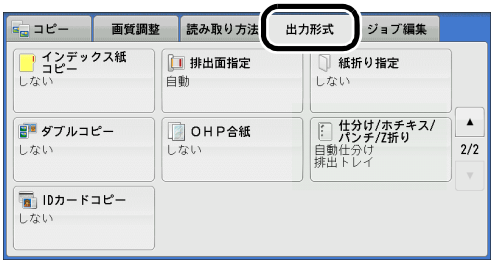
両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）.....146
製本（中とじ冊子になるようにコピーする）.....146
表紙付け（表紙を付けてコピーする）.....150
まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）.....152
ポスター（複数の用紙に分けて拡大コピーする）.....153
画像繰り返し（1 枚の用紙に画像を繰り返してコピーする）.....154
アノテーション（スタンプ / 日付 / ページ番号を付けてコピーする）.....156
複製管理（背景に管理番号を印字する）.....163
ペーパーセキュリティー（原稿のセキュリティー管理をする）.....166
インデックス紙コピー（インデックス用紙にコピーする）.....168
排出面指定（用紙の排出面を設定する）.....169
紙折り指定（用紙を二つ折り / 三つ折りにして排出する）.....170
ダブルコピー（1 枚の原稿を 1 枚の用紙に繰り返してコピーする）.....171
OHP 合紙（OHP フィルムの間に用紙を差し込む）.....172
仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り （仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折りを指定して排出する）.....175
ID カードコピー（ID カードのおもてとうらをコピーする）.....181

1 メニュー画面で［コピー］を押します。



2 ［出力形式］画面で、機能を選択します。





補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 画面を縦方向にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）

この機能は、［読み取り方法］画面の［両面 / 片面選択］と同じです。

参照

- 詳しくは、「両面 / 片面選択（両面 / 片面にコピーする）」(P.130) を参照してください。

製本（中とじ冊子になるようにコピーする）

複数ページにコピーされた用紙を、冊子（中とじ冊子）になるようにページ順を割り付けてコピーできます。また、製本するときに、中とじしろを設定したり、表紙を付けたりできます。

中とじフィニッシャー C3（オプション）、または中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合は、用紙を二つ折りにしたり、二つ折りにしたものをホチキスで留めたりできます。

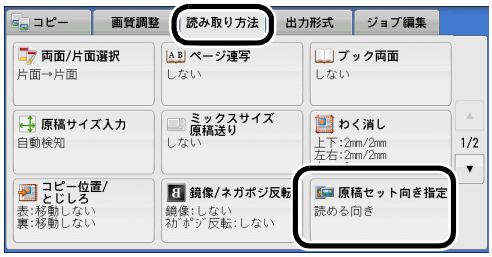
注記

- セットした原稿の向きと、［読み取り方法］画面の［原稿セット向き指定］の設定が同じになっているか、確認してください。

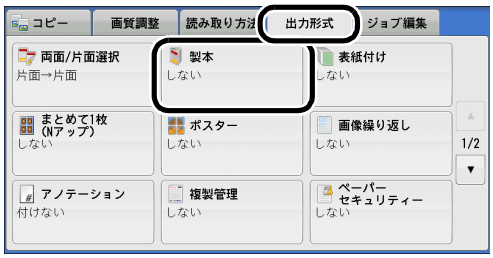
補足

- 4 枚の原稿を 1 枚の用紙にコピーするので、原稿の枚数が 4 の倍数にならない場合は、残りのページは白紙ページになります。
- ［用紙選択］が［自動］の場合は、自動的に［自動解除時のトレイ］で設定した用紙トレイが選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「コピー動作制御」>「自動解除時のトレイ」を参照してください。
- この機能はお使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

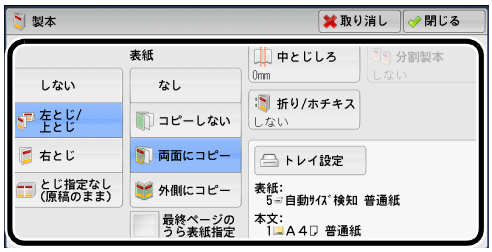
1 ［読み取り方法］画面の［原稿セット向き指定］で原稿の向きを指定します。



2 ［出力形式］画面で、［製本］を押します。



3 任意の項目を選択します。



■しない

製本をしません。

■左とじ / 上とじ

左とじまたは上とじになるようにコピーします。

■右とじ

右とじになるようにコピーします。

■とじ指定なし（原稿のまま）

読み込んだ原稿のままコピーし、折り / ホチキスだけを設定して排出できます。原稿をページ順に割り付ける必要がない場合に選択してください。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■表紙

冊子に表紙を付けることができます。

- なし

  表紙を付けません。

- コピーしない

  白紙の表紙が付けられます。

- 両面にコピー

  おもて表紙側の表裏に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。

- 外側にコピー

  おもて表紙とうら表紙の外側だけに原稿の 1 ページめと最終ページを並べてコピーします。

- 最終ページのうら表紙指定

  原稿の最終ページをうら表紙として冊子の最終ページになるようにコピーします。最終ページをうら表紙にする場合は、チェックします。[分割製本] を使用して冊子を分割するときは、最終分割セットの最終ページにコピーします。

補足
- 原稿枚数によって、最終ページの前ページが白紙ページになることがあります。

■中とじしろ

[製本 - 中とじしろ] 画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「[製本 - 中とじしろ] 画面」(P.149) を参照してください。

■分割製本

[製本 - 分割製本] 画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「[製本 - 分割製本] 画面」(P.149) を参照してください。

■折り / ホチキス

[製本 - 折り / ホチキス] 画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「[製本 - 折り / ホチキス] 画面」(P.149) を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■トレイ設定

[製本 - トレイ設定] 画面が表示されます。

[表紙トレイ]、および [本文に使用するトレイ] から、使用する用紙トレイを選択します。表紙と本文に使用するトレイは、同じサイズでたて向きにセットされているトレイを選択してください。

参照
- [手差し] を選択した場合は、[トレイ 5 (手差し)] 画面が表示されます。詳しくは、「[トレイ 5 (手差し)] 画面」(P.123) を参照してください。

［製本 - 中とじしろ］画面

0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

1 ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、中とじしろの値を指定します。



［製本 - 分割製本］画面

原稿の枚数が多いときに、冊子が厚くならないように分割して製本する機能です。

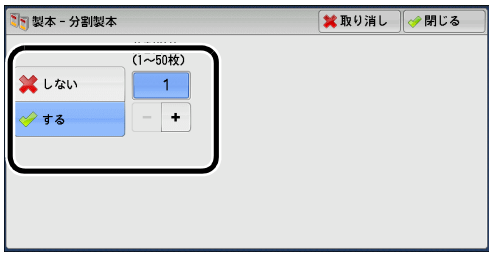
それぞれを二つ折りにしたものを重ね合わせて冊子になるようにコピーできます。

枚数は、1 ～ 50 枚の範囲で 1 枚単位に指定できます。

補足

- ホチキス留めをする場合は、分割枚数を 1 ～ 15 枚の範囲で指定します。

1 ［する］を押します。



2 ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、分割枚数を指定します。

［製本 - 折り / ホチキス］画面

中とじフィニッシャー C3（オプション）、または中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合は、［折り］または［折り + ホチキス］を指定できます。

1 任意の項目を選択します。



■しない

折り / ホチキスをしません。

■折り

二つ折りにして排出します。処理できる用紙枚数は、5 枚までです。5 枚を超える場合は、5 枚ごとに排出されます。

■折り＋ホチキス

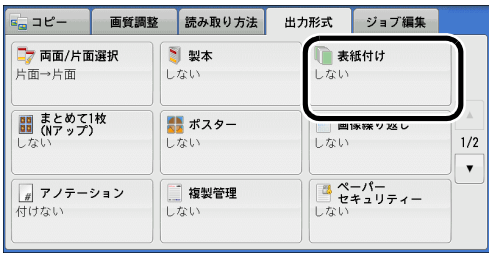
中央をホチキスで留め、二つ折りにして排出します。処理できる用紙枚数は、中とじフィニッシャー C3（オプション）を装着している場合は 2 ～ 16 枚（90g/m^2 の場合）です。中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合は 2 ～ 15 枚です。

表紙付け（表紙を付けてコピーする）

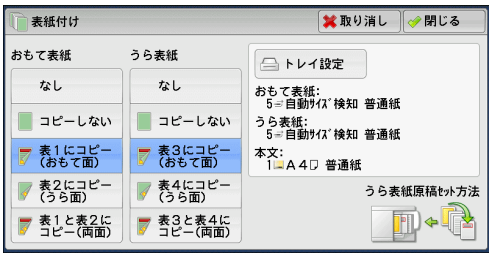
表紙を付けてコピーできます。

原稿の先頭ページに別の用紙（色紙 / 厚紙など）を使って、おもて表紙やうら表紙としてコピーできます。

1 ［表紙付け］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■おもて表紙

原稿の先頭ページに、表紙用の別の用紙を付けてコピーします。

- なし

  表紙を付けません。
- コピーしない

  白紙の表紙が付けられます。
- 表 1 にコピー（おもて面）

  表紙のおもて面に原稿の 1 ページめをコピーします。
- 表 2 にコピー（うら面）

  表紙のうら面に原稿の 1 ページめをコピーします。
- 表 1 と表 2 にコピー（両面）

  表紙の両面に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。

■うら表紙

原稿の最終ページに、表紙用の別の用紙を付けてコピーします。

- なし
  表紙を付けません。
- コピーしない
  白紙の表紙が付けられます。
- 表 3 にコピー（おもて面）
  表紙のおもて面に原稿の 1 ページめをコピーします。
- 表 4 にコピー（うら面）
  表紙のうら面に原稿の 1 ページめをコピーします。
- 表 3 と表 4 にコピー（両面）
  表紙の両面に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。

■トレイ設定

［表紙付け - トレイ設定］画面が表示されます。

使用するトレイを設定できます。

- おもて表紙トレイ
  おもて表紙に使用するトレイを設定します。
- うら表紙トレイ
  うら表紙に使用するトレイを設定します。
- 本文に使用するトレイ
  本文に使用するトレイを設定します。

参照

- 手差しトレイに設定する場合は、［表紙付け - トレイ設定］画面で［手差し］を選択してください。［手差し］を選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」(P.123) を参照してください。

補足

- 表紙付けを選択しているときは、［トレイ 5（手差し）］の［自動サイズ検知］は選択できません。

■おもて表紙枚数

［おもて表紙］を［コピーしない］に設定しているときに表示されます。白紙のおもて表紙の枚数を指定できます。

■うら表紙枚数

［うら表紙］を［コピーしない］に設定しているときに表示されます。白紙のうら表紙の枚数を指定できます。

まとめて 1 枚（N アップ）（複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする）

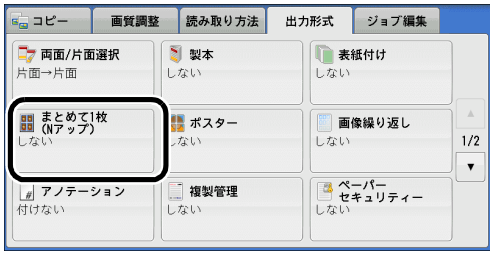
2 枚、4 枚、8 枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーできます。

［まとめて 1 枚（N アップ）］を選択すると、自動的に［倍率選択］の［自動 %］が選択されます。本機が自動的に倍率を設定して、選択した用紙に画像が収まるようにコピーします。

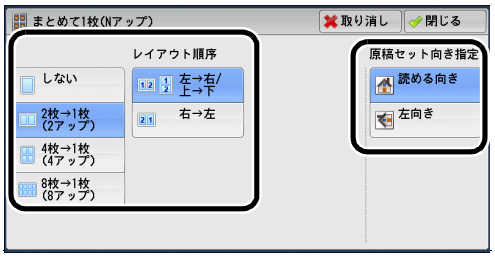
補足

- ［倍率選択］で［自動 %］を解除した場合（倍率を選択し直した場合）、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。
- コピー位置を設定した場合、まとめられた原稿全体に対して移動が実行されます。そのため、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。
- ［わく消し］を設定した場合、まとめる原稿に対してそれぞれ、わく消しが実行されます。
- ［コピー］画面の［用紙選択］で選択する用紙トレイは、［自動］以外を選択してください。［用紙選択］が［自動］の場合は、自動的に［自動解除時のトレイ］で設定した用紙トレイが選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「コピー動作制御」>「自動解除時のトレイ」を参照してください。

1 ［まとめて 1 枚（N アップ）］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

まとめて 1 枚（N アップ）をしません。

■2 枚→ 1 枚（2 アップ）

2 枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーします。

■4 枚→ 1 枚（4 アップ）

4 枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーします。

■8 枚→ 1 枚（8 アップ）

8 枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーします。

■レイアウト順序

原稿をまとめたときに、どのようにレイアウトするかを選択できます。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットするときは、必ず［左向き］を選択してください。

ポスター（複数の用紙に分けて拡大コピーする）

原稿を何枚かの用紙に分割して、拡大コピーできます。

分割されたコピーを貼り合わせることで、大きなサイズのポスターが作成できます。コピーされた用紙には切り貼りができるように、のりしろ分があります。のりしろ分は、10mm に固定されています。

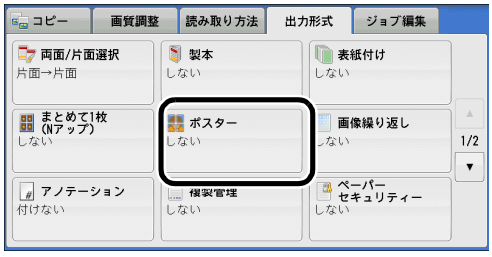
注記

- セットした原稿の向きと、［読み取り方法］画面の［原稿セット向き指定］の設定が同じになっているか、確認してください。

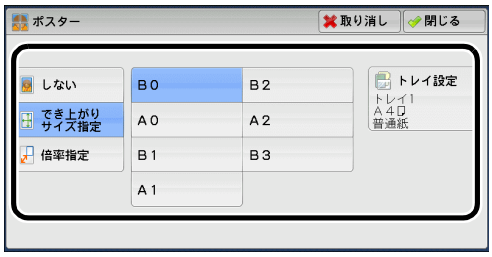
補足

- この機能は、原稿送り装置では使用できません。

1 ［ポスター］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

拡大コピーをしません。

■でき上がりサイズ指定

用紙サイズを選択できます。

■倍率指定

参照
- 詳しくは、「[倍率指定]を選択した場合」(P.154) を参照してください。

■トレイ設定

[ポスター - トレイ設定]画面が表示されます。使用する用紙トレイを選択します。

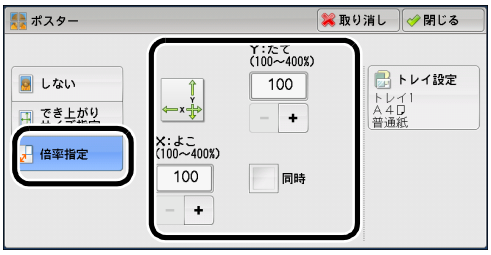
補足
- 手差しトレイに設定する場合は、[ポスター - トレイ設定]画面で[手差し]を選択してください。

参照
- [手差し]を選択した場合は、[トレイ 5 (手差し)]画面が表示されます。詳しくは、「[トレイ 5 (手差し)]画面」(P.123) を参照してください。

[倍率指定]を選択した場合

たてとよこをそれぞれ異なる倍率で指定できます。

1 [+][−]または〈数字〉ボタンで、たてとよこの倍率をそれぞれ指定します。



■X: よこ Y: たて

たてとよこの倍率を 100 ～ 400% の範囲で 1% 単位に指定します。

■同時

たてとよこの数値を同じ数ずつ変更できます。

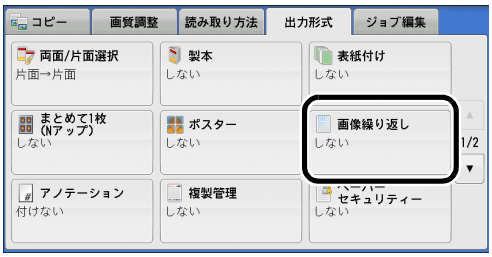
画像繰り返し（1 枚の用紙に画像を繰り返してコピーする）

1 枚の用紙に原稿イメージを指定した個数分だけ、繰り返してコピーできます。

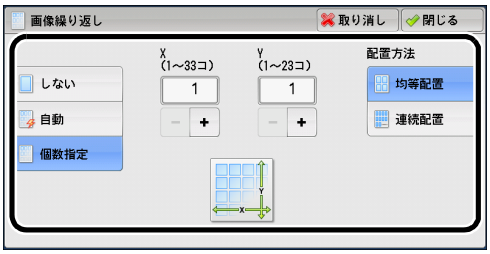
倍率が自動に指定されている場合、繰り返したイメージが選択した用紙に収まるようにコピーされます。また、原稿イメージの配置方法も指定できます。

補足
- 原稿イメージと同じ大きさに繰り返してコピーする場合は、用紙に収まるように個数が指定されます。
- [用紙選択]が[自動]の場合は、自動的に[自動解除時のトレイ]で設定した用紙トレイが選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「コピー動作制御」>「自動解除時のトレイ」を参照してください。

1 ［画像繰り返し］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

画像繰り返しをしません。

■自動

原稿サイズ、用紙サイズ、倍率から本機が自動的に個数を設定し、原稿イメージを用紙に繰り返してコピーします。

補足

- 指定した用紙サイズより原稿イメージが大きい場合、コピーできません。

■個数指定

原稿イメージを、用紙のたてとよこにそれぞれ指定した個数だけ繰り返してコピーします。指定できる個数は、よこ方向（[X]）は 1 ～ 33 個、たて方向（[Y]）は 1 ～ 23 個です。

■配置方法

- 均等配置

  指定した数のイメージを、均等に用紙に配置します。

- 連続配置

  指定した数のイメージを、すき間なく用紙に配置します。

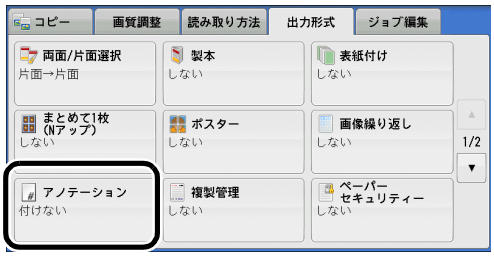
アノテーション（スタンプ / 日付 / ページ番号を付けてコピーする）

用紙に、スタンプ、日付、ページ番号を付けてコピーできます。スタンプの種類や日付、ページ番号、印字位置は、あらかじめ用意されている形式から選択できます。

補足

- 拡大 / 縮小の設定をしても、アノテーションのイメージや文字の大きさは変更されません。
- スタンプ、日付、ページを同時に指定する場合は、それぞれの位置が重なっていないかを確認してからコピーすることをお勧めします。
- ［まとめて 1 枚（N アップ）］を設定している場合は、合成後のイメージに対してアノテーションが付きます。
- ［画像繰り返し］、［製本］を設定している場合は、個々のイメージに対してアノテーションが付きます。
- 機械管理者モードで［強制アノテーション］の［レイアウトテンプレートの関連付け］でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、ここで設定するスタンプ、日付、ページ番号が印字されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「強制アノテーション」を参照してください。

1 ［アノテーション］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■スタンプ

［アノテーション - スタンプ］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［アノテーション - スタンプ］画面」(P.157) を参照してください。

■日付

［アノテーション - 日付］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［アノテーション - 日付］画面」(P.158) を参照してください。

■ページ番号

［アノテーション - ページ番号］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［アノテーション - ページ番号］画面」(P.159) を参照してください。

■文字付きページ番号

［アノテーション - 文字付きページ番号］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［アノテーション - 文字付きページ番号］画面」(P.161) を参照してください。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

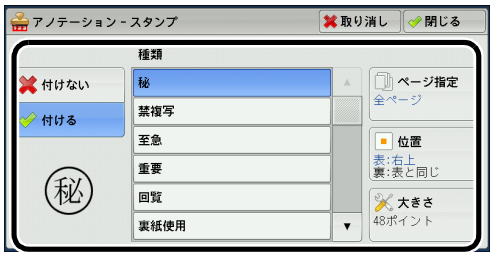
- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

［アノテーション - スタンプ］画面

スタンプの種類や位置を設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■付けない

スタンプを付けません。

■付ける

スタンプを付けます。

■種類

スタンプに使用する文字列を選択できます。あらかじめ設定されている 8 種類の文字列、または機械管理者モードで登録した文字列から指定できます。

参照

- 文字列の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「複製管理」>「文字列登録 1 ～ 3」を参照してください。

■ページ指定

［アノテーション - スタンプ - ページ指定］画面が表示されます。

スタンプを先頭ページだけに付けるか、全ページに付けるかを選択できます。

■位置

［アノテーション - スタンプ - 位置］画面が表示されます。

スタンプを付ける位置を 9 種類から選択できます。

また、うら面のスタンプを付ける位置を［おもて面と同じ］、［おもて面と対称］から選択できます。

■大きさ

［アノテーション - スタンプ - 大きさ］画面が表示されます。

スタンプの大きさを 3 種類から選択できます。また、スタンプの大きさは、6 ～ 64 ポイントの範囲で 1 ポイント単位に指定できます。

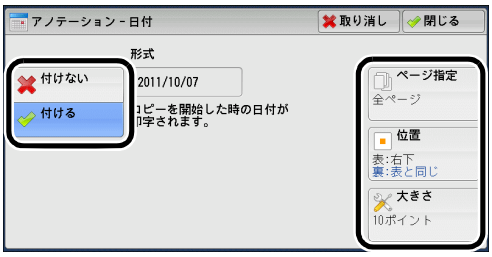
［アノテーション - 日付］画面

日付を付けてコピーできます。プリントされる日付は、プリントを開始した日になります。

参照

- プリントされる日付の表示形式は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「共通設定」>「複製管理」>「印字する日付の形式」を参照してください。

1 任意の項目を選択します。



■付けない

日付を付けません。

■付ける

日付を付けます。

■ページ指定

［アノテーション - 日付 - ページ指定］画面が表示されます。

日付を先頭ページだけに付けるか、全ページに付けるかを選択できます。

■位置

［アノテーション - 日付 - 位置］画面が表示されます。

日付をプリントする位置を 6 種類から選択できます。

また、うら面のスタンプを付ける位置を［おもて面と同じ］、［おもて面と対称］から選択できます。

■大きさ

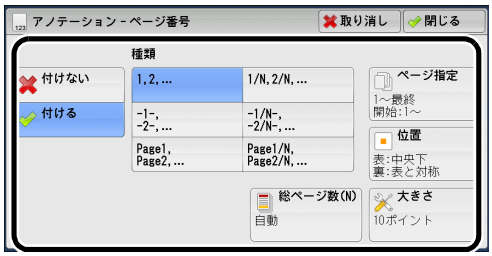
［アノテーション - 日付 - 大きさ］画面が表示されます。

スタンプの大きさを 3 種類から選択できます。また、6 ～ 24 ポイントの範囲で 1 ポイント単位に指定できます。

［アノテーション - ページ番号］画面

ページ番号を付ける位置や種類を設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■付けない

ページ番号を付けません。

■付ける

ページ番号を付けます。

■種類

- 1,2,...

  ページ番号だけを付けます。

- -1-,-2-,...

  ページ番号の左右にハイフンを付けます。（例：-1-, -2-）

- Page1, Page2,...

  ページ番号の先頭に「Page」を付けます。（例：Page1, Page2）

- 1/N,2/N,...

  ページ番号の右側に総ページ数を付けます。（例：1/50, 2/50）

  ［1/N, 2/N,...］を選択した場合、［総ページ数（N）］で設定した値が有効になります。

- -1/N-, -2/N-,...

  ページ番号の右側に総ページ数を付け、ページ番号と［総ページ数（N）］の左右にハイフンを付けます。（例：-1/50-, -2/50-）

  ［-1/N-, -2/N-,...］を選択した場合、［総ページ数（N）］で設定した値が有効になります。

- Page1/N, Page2/N,...

  ページ番号の先頭に「Page」を付け、ページ番号の右側に総ページ数を付けます。（例：Page1/50, Page2/50）

  ［Page1/N, Page2/N,...］を選択した場合、［総ページ数（N）］で設定した値が有効になります。

- 総ページ数（N）

  ［アノテーション - ページ番号 - 総ページ数（N）］画面が表示されます。

  - 自動

    原稿枚数を自動的にカウントして、総ページ数とします。

  - 数字指定

    総ページ数を 1 ～ 999 の範囲で指定できます。

■ページ指定

［アノテーション - ページ番号 - ページ指定］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［アノテーション - ページ番号 - ページ指定］画面」(P.160) を参照してください。

■位置

［アノテーション - ページ番号 - 位置］画面が表示されます。

ページ番号を付ける位置を 6 種類から選択できます。

また、うら面のスタンプを付ける位置を［おもて面と同じ］、［おもて面と対称］から選択できます。

■大きさ

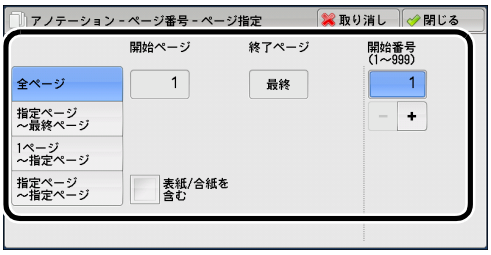
［アノテーション - ページ番号 - 大きさ］画面が表示されます。

スタンプの大きさを 3 種類から選択できます。また、6 ～ 24 ポイントの範囲で 1 ポイント単位に指定できます。

［アノテーション - ページ番号 - ページ指定］画面

ページ番号を付けるページを設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■全ページ

全ページにページ番号を付けます。

■指定ページ～最終ページ

ページ番号を付けるときの開始ページを、1 ～ 999 の範囲で指定できます。

補足
- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、開始ページの番号を入力します。

■1 ページ～指定ページ

ページ番号を付けるときの終了ページを、1 ～ 999 の範囲で指定できます。開始ページは「1」に固定されます。

補足
- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、終了ページの番号を入力します。

■指定ページ～指定ページ

ページ番号を付けるときの開始ページと終了ページを、1 ～ 999 の範囲で指定できます。

補足
- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、開始ページと終了ページの番号を入力します。

■表紙 / 合紙を含む

［全ページ］を選択した場合に設定できます。表紙または合紙を含む場合、チェックします。

■開始番号

ページ番号を付けるときの開始番号を、1 ～ 999 の範囲で指定できます。

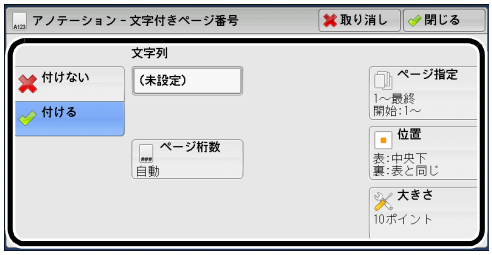
補足

- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、開始番号を入力します。

［アノテーション - 文字付きページ番号］画面

任意の文字列とページ番号を付けるページを設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■付けない

文字列とページ番号を付けません。

■付ける

文字列とページ番号を付けます。

■文字列

表示されるキーボードで任意に文字列を設定できます。全角で 8 文字以内で設定できます。

■ページ桁数

［アノテーション - 文字付きページ番号 - ページ桁数］画面が表示されます。

ページの桁数を付けることができます。自動または桁数を指定できます。1 ～ 9 桁の範囲で 1 桁単位に指定できます。

■ページ指定

［アノテーション - 文字付きページ番号 - ページ指定］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［アノテーション-文字付きページ番号-ページ指定］画面」（P.162）を参照してください。

■位置

［アノテーション - 文字付きページ番号 - 位置］画面が表示されます。

文字付きページ番号を付ける位置を 6 種類から選択できます。

また、うら面の文字付きページ番号を付ける位置を［おもて面と同じ］、［おもて面と対称］から選択できます。

■大きさ

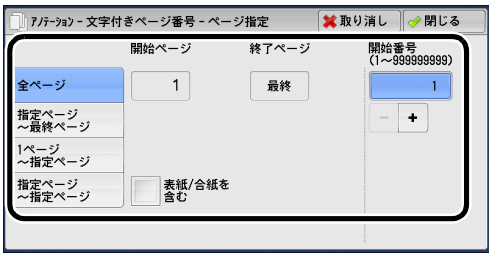
［アノテーション - 文字付きページ番号 - 大きさ］画面が表示されます。

文字付きページ番号の大きさを 3 種類から選択できます。また、6 ～ 24 ポイントの範囲で 1 ポイント単位に指定できます。

［アノテーション - 文字付きページ番号 - ページ指定］画面

文字付きページ番号を付けるページを設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■全ページ

全ページにページ番号を付けます。

■指定ページ～最終ページ

ページ番号を付けるときの開始ページを、1 ～ 999 の範囲で指定できます。

補足

- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、開始ページの番号を入力します。

■1 ページ～指定ページ

ページ番号を付けるときの終了ページを、1 ～ 999 の範囲で指定できます。開始ページは「1」に固定されます。

補足

- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、終了ページの番号を入力します。

■指定ページ～指定ページ

ページ番号を付けるときの開始ページと終了ページを、1 ～ 999 の範囲で指定できます。

補足

- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、開始ページと終了ページの番号を入力します。

■表紙 / 合紙を含む

［全ページ］を選択した場合に設定できます。表紙または合紙を含む場合、チェックします。

■開始番号

ページ番号を付けるときの開始番号を、［ページ桁数］で桁数を指定していない場合は 1 ～ 999999999 の範囲で、桁数を指定した場合は指定した桁数の範囲で指定できます。

補足
- ［+］［－］または〈数字〉ボタンで、開始番号を入力します。

注記
- コピー中にページ番号が指定した桁数（［ページ桁数］を指定していない場合は 999999999）を超えると、コピーはキャンセルされます。

複製管理（背景に管理番号を印字する）

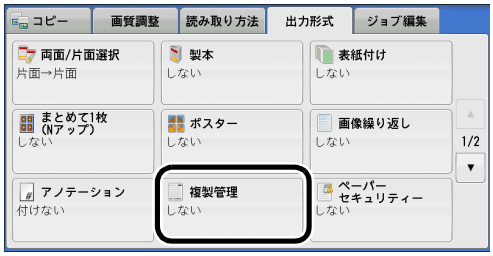
コピーされた用紙の背景全体に管理番号（部単位に連続した番号）を薄く印字できます。

たとえば、開始番号を「1」に設定すると、1 部めのすべてのページには「1」、2 部めのすべてのページには「2」が印字されます。

会議で配布する機密文書などの複写を抑制するため、配布するコピーと配布した人を関連づけるための通し番号として利用できます。

補足
- 機械管理者モードで［強制アノテーション］の［レイアウトテンプレートの関連付け］でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、複製管理のデータが印字されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「強制アノテーション」を参照してください。
- ［強制複製管理 - コピー］を［する］にすると、［複製管理］が［する］に固定され、変更できなくなります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「複製管理」を参照してください。

1 ［複製管理］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■管理番号

- 付けない

  管理番号を印字しません。

- 付ける

  管理番号を印字します。管理番号の開始番号を入力します。1 ～ 999 の範囲で指定できます。〈数字〉ボタンで数値を入力するか、[+] [−] を押して数値を指定します。

■文字列

［複製管理 - 文字列］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［複製管理 - 文字列］画面」(P.164) を参照してください。

■ユーザー登録 No.

ユーザー管理または集計管理を使用している場合は、ユーザー登録 No. を印字します。ただし、ユーザー認証されていない場合は、何も印字されません。

補足
- ［ユーザー登録 No.］は、認証 / 集計管理機能で、ユーザー登録した No.（ユーザー管理番号）です。
- ユーザー認証されているかどうかは、操作パネルの〈認証〉ボタンが点灯していることで確認できます。

■日時

コピーを開始したときの日時を印字できます。

参照
- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「複製管理」>「印字する日付の形式」を参照してください。

■シリアル番号

本機のシリアル番号を印字できます。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足
- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

■隠し印刷

［複製管理 - 隠し印刷］画面が表示されます。

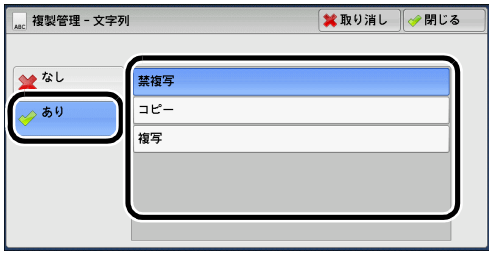
参照
- 詳しくは、「［複製管理 - 隠し印刷］画面」(P.165) を参照してください。

補足
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

［複製管理 - 文字列］画面

印字する文字列を選択します。

1 ［あり］を押します。



2 任意の文字列を選択します。

■なし

文字列を印字しません。

■あり

文字列を印字します。複製管理に使用する文字を選択できます。あらかじめ設定されている 3 種類の文字列、または機械管理者モードで登録した文字列から指定できます。

参照

- 文字列の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「複製管理」>「文字列登録 1 ～ 3」を参照してください。

［複製管理 - 隠し印刷］画面

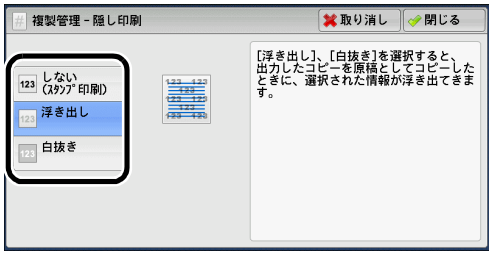
隠し印刷の設定ができます。

隠し印刷を設定すると、コピー全面に背景が印字され、その中に［複製管理］画面の［管理番号］、［文字列］、［ユーザー登録 No.］、［日時］、［シリアル番号］で指定した文字列が埋め込まれてコピーされます。隠し印刷を設定してコピーしたものを、再度コピーすると、埋め込まれた文字列が［浮き出し］または［白抜き］になります。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 任意の項目を選択します。



■しない（スタンプ印刷）

［複製管理 - 文字列］で指定した文字列はそのまま印字されます。

■浮き出し

隠し印刷を設定してコピーしたものを再度コピーすると、背景に埋め込まれた文字列が浮き出して見えるようになります。

■白抜き

隠し印刷を設定してコピーしたものを再度コピーすると、背景に埋め込まれた文字列が白抜きされて見えるようになります。

参照

- 印字される背景のパターンや文字の大きさ、濃度などは機械管理者モードで設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「複製管理」を参照してください。

ペーパーセキュリティー（原稿のセキュリティー管理をする）

原稿文書に複製抑制の情報を埋め込み、文書の複製を制限したり、デジタルコードを埋め込み、文書を解析（「いつ」「どの機械で」「誰が」出力したかなど）したりして、セキュリティー管理する機能です。

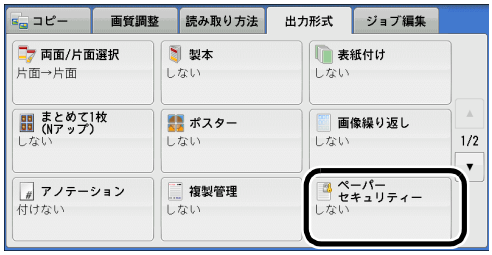
注記

- この機能は、弊社のペーパーセキュリティー機能対応機器同士の間だけで有効となります。
- ペーパーセキュリティー機能による文書の複製制限は、常に機能することを保証するものではありません。原稿や設定条件によっては、機能が有効に働かないことがあります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- ペーパーセキュリティー機能を使用または使用できなかったことによって発生した損害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ペーパーセキュリティー機能により、次のように印字品質が劣化することがあります。
  - 色が濃くなることがあります。
  - 原稿の文字が見えにくいことがあります。
  - 小数点、ピリオドなどの点が見えにくいことがあります。
- 用紙サイズが A5 未満の原稿、背景が白くない原稿、すでに複製管理印刷やペーパーセキュリティー印刷がされている原稿に重複して、ペーパーセキュリティー印刷した原稿では、ペーパーセキュリティーの各機能が正常に動作しないことがあります。
- ペーパーセキュリティー印刷されていない原稿でも、複製制限コードを検出してコピーできないことがあります。この場合は、機械管理者に依頼して、一時的に、ペーパーセキュリティーの検出をしないように設定してもらってください。
- 機械管理者モードで［強制アノテーション］の［レイアウトテンプレートの関連付け］でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、複製抑制の情報が埋め込まれます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「強制アノテーション」を参照してください。
- 出力紙を分析することによって、システム管理者などが出力者の「識別情報」を把握することになります。ペーパーセキュリティー機能を利用したことによる出力者個人のプライバシーに関わる事項については、弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ペーパーセキュリティー機能（複製管理拡張キット（オプション）の機能を含む）を使用した原稿に対して、重ねてペーパーセキュリティー機能を使用した場合は、文書の複製制限、デジタルコードの分析機能、隠し文字の抑制効果は働きません。
- ［ペーパーセキュリティーの検出］を［する］に設定すると、複製制限コードを検出する動作をするため、１枚めのコピーが通常よりも遅くなります。
- ペーパーセキュリティキット（オプション）の隠し印字機能は、プリント濃度、埋め込まれた文字列の表示（白抜き）、文字サイズが固定で、変更できません
- ペーパーセキュリティー機能と複製管理機能を同時に使用することはできません。

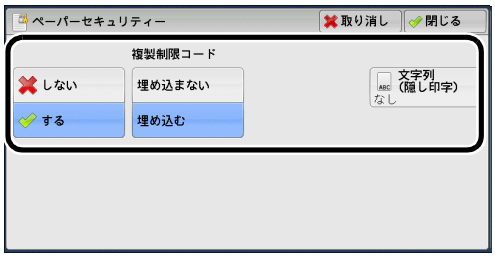
補足

- デジタルコードの解析には、弊社アプリケーション PaperSecurity Analyzer（別売）が必要です。PaperSecurity Analyzer の操作方法は、アプリケーション付属のマニュアルを参照してください。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［ペーパーセキュリティー］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

原稿のセキュリティー管理をしません。

■する

原稿のセキュリティー管理をします。機能ボタンが表示されるので、必要に応じて、任意の項目を設定します。

■複製制限コード

- 埋め込まない

  複製制限コードは埋め込まれませんが、デジタルコードが文書に埋め込まれます。出力した文書の複製は制限されません。

- 埋め込む

  複製制限コードとデジタルコードが文書に埋め込まれます。出力した文書の複製が制限されるので、コピーはできません。

注記

- 設定された複製制限コードは、ファクス操作、およびスキャン操作でも同様の制限になります。

■文字列（隠し印字）

［ペーパーセキュリティー - 文字列（隠し印字）］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［ペーパーセキュリティー - 文字列（隠し印字）］画面」(P.167) を参照してください。

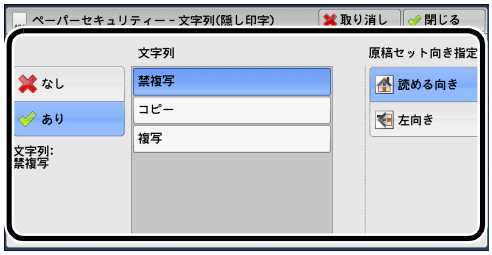
［ペーパーセキュリティー - 文字列（隠し印字）］画面

隠し印字の設定ができます。

隠し印字を設定すると、用紙全面に指定した文字列が埋め込まれてコピーされます。

隠し印字を設定してコピーした用紙を、再度コピーすると、ペーパーセキュリティキット（オプション）装着の有無にかかわらず、埋め込まれた文字列が白抜きになります。

1 任意の項目を選択します。



■なし

隠し文字列を印字しません。

■あり

隠し文字列を印字します。

用紙に埋め込む文字を選択できます。あらかじめ設定されている 3 種類の文字列、または仕様設定で登録した文字列から指定できます。

参照

- 文字列の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「ペーパーセキュリティー」>「隠し印字の設定」>「文字列登録 1 ～ 3」を参照してください。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

インデックス紙コピー（インデックス用紙にコピーする）

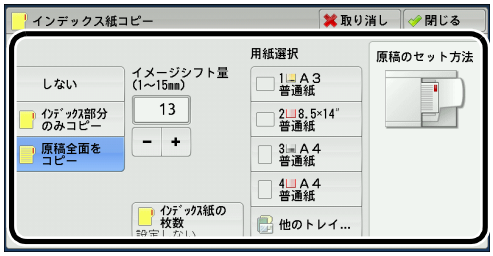
インデックス用紙のタブ位置に合うように、原稿イメージのシフト量を指定してコピーできます。

コピーできるインデックス用紙のサイズは、A4□、および 8.5×11 インチ□です。

使用できる用紙トレイは、トレイ 1、2、トレイ 5（手差し）だけです。トレイ 1、2 に用紙をセットする場合は、コピーする面を下にして、タブがない方を左側に向けてください。トレイ 5 に用紙をセットする場合は、コピーする面を上にして、タブがない方を差し込み口に向けてください。

1 ［インデックス紙コピー］を押します。

2 任意の項目を選択します。



■しない

インデックス紙コピーをしません。

■インデックス部分のみコピー

原稿の端にあるイメージだけをインデックス用紙のタブ部分にコピーします。

原稿の端にあるイメージが、インデックス用紙のタブ部分にコピーされるように、［イメージシフト量］を指定します。シフトした部分のイメージだけをコピーし、そのほかの部分のイメージはコピーされません。

■原稿全面をコピー

原稿全体のイメージをインデックス用紙にコピーします。

原稿の端にあるイメージを、インデックス用紙のタブ部分にプリントする場合は、［イメージシフト量］を指定します。

■イメージシフト量

シフト量を 1 ～ 15mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

■インデックス紙の枚数

インデックス紙の枚数を指定します。

■用紙選択

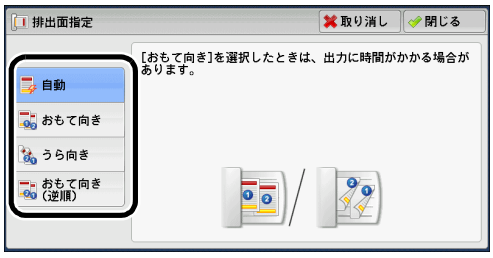
インデックス用紙をセットするトレイを選択します。

排出面指定（用紙の排出面を設定する）

コピーした用紙の排出面を設定できます。

1 ［排出面指定］を押します。

2 任意の項目を選択します。



■自動

自動的に排出面が決まります。

■おもて向き

コピーした面を上にして、ページ順をそろえて排出します。

■うら向き

コピーした面を下にして、ページ順をそろえて排出します。

■おもて向き（逆順）

コピーした面を上にして、ページを逆順にして排出します。

補足

- おもて向き（逆順）は機械管理者モードで設定したときに表示されます。

紙折り指定（用紙を二つ折り / 三つ折りにして排出する）

コピーした用紙を折って排出できます。

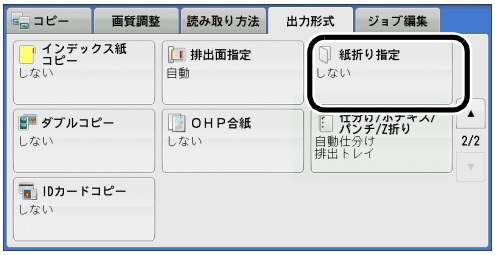
中とじフィニッシャー C3（オプション）または中とじフィニッシャー D2（オプション）を装着している場合は、用紙を二つ折りにして排出できます。

紙折りユニット CD1（オプション）または紙折りユニット CD2（オプション）を装着している場合は、用紙を外三つ折りおよび内三つ折りにして排出できます。

補足

- 用紙の向きは、□限定となります。□にセットされている用紙トレイを選択してください。
- 外三つ折り、内三つ折りができる用紙は、A4 と 8.5×11 インチです。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［紙折り指定］を押します。



2 任意の項目を選択します。

■しない

紙折りをしません。

■外三つ折り

外側に三つ折りにします。



（内側に印字）



（外側に印字）

■内三つ折り

内側に三つ折りにします。


（内側に印字）


（外側に印字）

■二つ折り

二つ折りにして製本トレイに排出します。

■印字指定位置

- 内側に印字

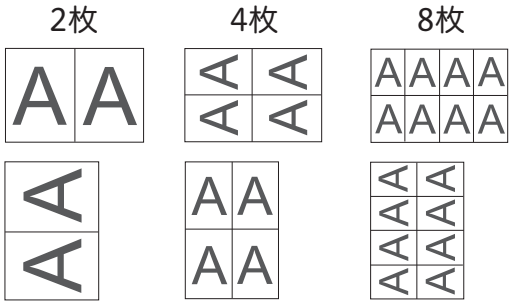
  外三つ折り、内三つ折り、または二つ折りをした結果、イメージが内側になるようにコピーします。

- 外側に印字

  外三つ折り、内三つ折り、または二つ折りをした結果、イメージが外側になるようにコピーします。

ダブルコピー（1 枚の原稿を 1 枚の用紙に繰り返してコピーする）

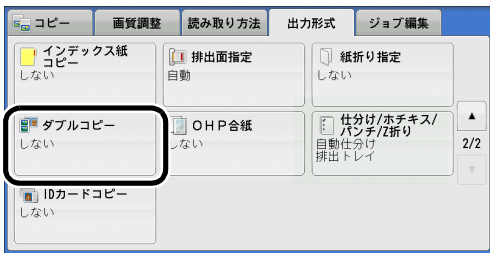
1 枚の原稿を、1 枚の用紙上に指定した枚数に合わせて均等分割して、同じ画像を繰り返しコピーします。枚数は、2 枚、4 枚、8 枚から選択できます。



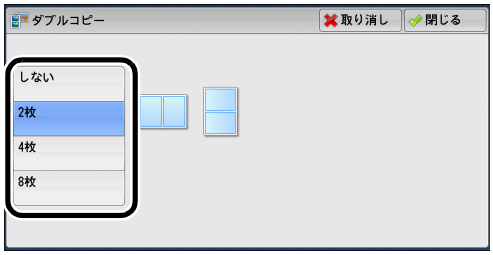
補足

- ［倍率選択］で［自動 %］以外を設定した場合、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。

1 ［ダブルコピー］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

ダブルコピーをしません。

■2 枚

1 枚の用紙に 2 つ繰り返してコピーします。

■4 枚

1 枚の用紙に 4 つ繰り返してコピーします。

■8 枚

1 枚の用紙に 8 つ繰り返してコピーします。

OHP 合紙（OHP フィルムの間に用紙を差し込む）

OHP フィルムの間に、合紙をはさんで排出できます。配布用のコピーも、必要な部数だけ同時にプリントできます。

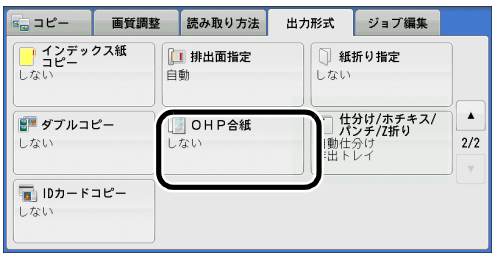
注記

- カラー用 OHP フィルム（白枠が付いています）を使用すると、故障や紙づまりの原因になります。

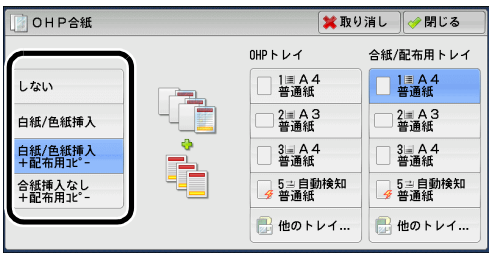
補足

- A4 の OHP フィルムを用紙トレイ 5（手差し）にセットする場合、たて向きにセットすることをお勧めします。
- OHP フィルムと、合紙用（および配布用）の用紙は、同じ向きでセットしてください。

1 ［OHP 合紙］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

OHP 合紙をしません。

■白紙 / 色紙挿入

OHP フィルムを 1 枚コピーするたびに、合紙を挿入します。コピーできる部数は、1 部だけです。

■白紙 / 色紙挿入 + 配布用コピー

OHP フィルムを 1 枚コピーするたびに、合紙を挿入します。配布用のコピーも、必要な部数だけ同時にプリントします。

■合紙挿入なし + 配布用コピー

OHP フィルムにコピーし、配布用のコピーも必要な部数だけ同時にプリントします。

■OHP トレイ

OHP 用トレイを設定します。［他のトレイ ...］を選択すると、［OHP 合紙 - OHP トレイ設定］画面が表示されます。使用するトレイを設定できます。

補足

- 手差しトレイに設定する場合は、［OHP 合紙 -OHP トレイ設定］画面で［手差し］を選択してください。このとき、［用紙サイズ］は［自動サイズ検知］以外を選択してください。
- ［OHP トレイ］では、いずれかの用紙トレイを選択してください。用紙トレイの自動選択はされません。
- ［OHP トレイ］と、［合紙トレイ］［合紙 / 配布用トレイ］［配布用コピートレイ］では、同じ用紙トレイを指定できません。

参照

- ［手差し］を選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」（P.123）を参照してください。

■合紙トレイ

合紙用トレイを設定します。［他のトレイ ...］を選択すると、［OHP 合紙 - 合紙トレイ設定］画面が表示されます。

使用するトレイを設定できます。

補足

- 手差しトレイに設定する場合は、［OHP 合紙 - 合紙トレイ設定］画面で［手差し］を選択してください。このとき、［用紙サイズ］は［自動サイズ検知］以外を選択してください。
- ［合紙トレイ］では、いずれかの用紙トレイを選択してください。用紙トレイの自動選択はされません。
- ［OHP トレイ］と［合紙トレイ］では、同じ用紙トレイを指定できません。

参照

- ［手差し］を選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」（P.123）を参照してください。

■合紙 / 配布用トレイ

合紙用トレイおよび配布用トレイを設定します。［他のトレイ ...］を選択すると、［OHP 合紙 - 合紙 / 配布用トレイ設定］画面が表示されます。

使用するトレイを設定できます。

補足

- 手差しトレイに設定する場合は、［OHP 合紙 - 合紙 / 配布用トレイ設定］画面で［手差し］を選択してください。このとき、［用紙サイズ］は［自動サイズ検知］以外を選択してください。
- ［合紙 / 配布用トレイ］では、いずれかの用紙トレイを選択してください。用紙トレイの自動選択はされません。
- ［OHP トレイ］と［合紙 / 配布用トレイ］では、同じ用紙トレイを指定できません。

参照

- ［手差し］を選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」（P.123）を参照してください。

■配布用コピートレイ

配布用コピートレイを設定します。［他のトレイ ...］を選択すると、［OHP 合紙 - 配布用コピートレイ設定］画面が表示されます。

使用するトレイを設定できます。

補足

- 手差しトレイに設定する場合は、［OHP 合紙 - 配布用コピートレイ設定］画面で［手差し］を選択してください。このとき、［用紙サイズ］は［自動サイズ検知］以外を選択してください。
- ［配布用コピートレイ］では、いずれかの用紙トレイを選択してください。用紙トレイの自動選択はされません。
- ［OHP トレイ］と［配布用コピートレイ］では、同じ用紙トレイを指定できません。

参照

- ［手差し］を選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」（P.123）を参照してください。

仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り（仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折りを指定して排出する）

コピーの排出方法を設定できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 装着しているオプションによって、表示される項目が異なります。

オフセットキャッチトレイ（オプション）またはフィニッシャー（オプション）を装着している場合は、区切りがわかるように排出位置を交互にずらして、用紙を排出できます。

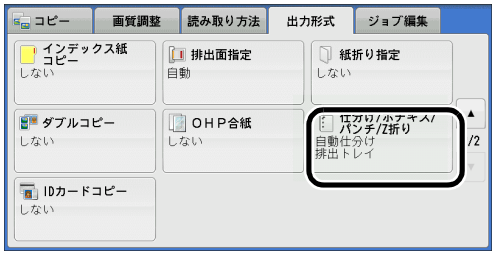
フィニッシャー（オプション）を装着している場合は、1 部ずつホチキス留めをしたりパンチ穴を開けたりして、用紙を排出できます。

紙折りユニット CD1（オプション）または紙折りユニット D2（オプション）を装着している場合は、用紙を Z 折りにして排出できます。

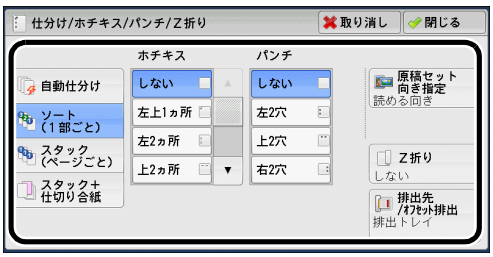
⚠注意

- まれに排出された用紙に針くずが付着される場合がありますので、指などにケガをしないように十分にご注意ください。
- 穴があいた用紙（市販の穴あき用紙など）の穴がある位置に、ホチキスを留めないでください。飛び出した針により、ケガの原因となるおそれがあります。

1 ［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■自動仕分け

原稿送り装置に原稿をセットした場合、ソートで排出されます。

原稿ガラスに原稿をセットして、ブック両面、表紙付け、OHP 合紙の［白紙 / 色紙挿入＋配布用コピー］または［合紙挿入なし＋配布用コピー］、製本、ホチキス、ビルドジョブ、サンプルコピー、大量原稿を設定している場合、ソートで排出されます。

■ソート（1 部ごと）

コピーした用紙を 1 部ごとにまとめて、ページ順に並べて排出できます。

■スタック（ページごと）

コピーした用紙をページごとにまとめて、入力した部数を排出できます。

■スタック + 仕切り合紙

コピーした用紙をページごとにまとめて、まとまった用紙と用紙の間に、仕切り合紙をはさんで排出できます。

■仕切り合紙トレイ

［スタック + 仕切り合紙］を選択したときに、仕切り合紙に使用するトレイを選択します。

参照
- 詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」(P.123) を参照してください。

■ホチキス

ホチキスで留める位置を設定できます。ホチキスで留められる枚数は、フィニッシャー C3/ 中とじフィニッシャー C3 の場合は、2 ～ 50 枚（P 紙・J 紙）です。フィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚（オプション）を装着している場合は、最大で 65 枚（90g/m^2 以下、用紙束の厚さ 7.2mm 以下）留めることができます。フィニッシャー D2/ 中とじフィニッシャー D2 の場合は、2 ～ 100 枚（P 紙・J 紙）です。
また、ホチキス留めができる用紙は、普通紙、再生紙、うら紙、うす紙（52 ～ 63g/m^2）厚紙 1（106 ～ 200g/m^2）、穴あき紙、インデックス紙（106 ～ 200g/m^2）、ユーザー定義 1 ～ 5 の用紙です。

フィニッシャー D2/ 中とじフィニッシャー D2 の場合は、留める枚数に応じてホチキスの針がカットされます。用紙の種類など使用条件によっては、針が曲がって留められることがあります。

注記
- セットした原稿の向きと、［読み取り方法］画面の［原稿セット向き指定］の設定が同じになっているか、確認してください。
- 次の場合、画面に表示されるホチキスの位置と実際にホチキス留めされる位置が異なります。
  ・原稿を読める向き（天が上）にセットして、右 1 か所にホチキス留めした場合
  ・原稿を左向き（天が左）にセットして、左 1 か所にホチキス留めした場合

■パンチ

パンチ穴を開ける位置を設定できます。

設定できる位置は、装着しているフィニッシャーによって異なります。

注記
- セットした原稿の向きと、［読み取り方法］画面の［原稿セット向き指定］の設定が同じになっているか、確認してください。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足
- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

■Z 折り

用紙を Z 折にして排出できます。

Z 折りができる用紙サイズは、B4、A3、11×17 インチです。異なるサイズの原稿をまとめてセットする場合は、奥行き（たて方向）の幅が同じになる用紙（例：A4 たてと A3、B5 たてと B4）を組み合わせてください。また、A4 たてと A3、B5 たてと B4 でコピーした場合は、それぞれ大きいサイズの用紙（A3 と B4）だけを Z 折りします。

■排出先 / オフセット排出

排出先が選択できる場合に表示されます。

排出先のトレイを選択します。排出先のトレイとオフセットの動作を選択する場合は、［詳細設定 ...］を選択します。

参照
- ［詳細設定 ...］を選択すると、［排出先 / オフセット排出］画面が表示されます。詳しくは、「［排出先 / オフセット排出］画面」(P.177) を参照してください。

■オフセット排出

排出先が選択できない場合に表示されます。

参照
- 詳しくは、「［オフセット排出］画面」(P.177) を参照してください。

［排出先 / オフセット排出］画面

排出先のトレイとオフセットの動作を選択します。

■オフセット排出

［オフセット排出］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［オフセット排出］画面」(P.177) を参照してください。

［オフセット排出］画面

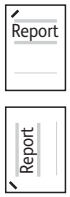
オフセットの動作を選択します。

オフセットとは、用紙の区切りがわかるように、まとまりごとに少しずらして排出する機能のことです。用紙のまとまりを、セット単位、ジョブ単位、指定したページ単位、指定した部数単位で設定します。

補足
- オフセットの動作を［本体設定に従う］に設定した場合は、本体の設定に従って用紙が排出されます。本体の設定を変更するには、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「コピー機能設定初期値」>「排出先」を参照してください。

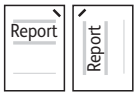
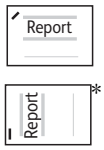
用紙サイズとホチキスする位置

- フィニッシャー C3（オプション）/ 中とじフィニッシャー C3（オプション）

	左上 1 か所	右上 1 か所	左 2 か所	上 2 か所	右 2 か所
A4□、B5□、 8×10 インチ□、 8.5×11 インチ□、 十六開□					
A4、 8×10 インチ、 8.5×11 インチ、 8.5×13 インチ、 8.5×14 インチ、					
A3、B4、 11×17 インチ、 八開					

* 画面に表示されるホチキスの向きと、実際にホチキスされる向きが異なる場合があります。実際には、上図のようにホチキスされます。

• フィニッシャー D2（オプション）/ 中とじフィニッシャー D2（オプション）

	左上 1 か所	右上 1 か所	左 2 か所	上 2 か所	右 2 か所
A4					
B5、8×10 インチ、8.5×11 インチ、十六開					
A3					
A4、B4、8.5×11 インチ、8.5×13 インチ、8.5×14 インチ、11×17 インチ、八開					

	左中央 1 か所	上中央 1 か所	右中央 1 か所
A4、B5、8×10 インチ、8.5×11 インチ、十六開			
A 4 、A 3 、B 4 、8.5×11 インチ、8.5×13 インチ、8.5×14 インチ、11×17 インチ、八開			

	左 4 か所	**上 4 か所**	**右 4 か所**
A4、レター（8.5×11 インチ）			

* 画面に表示されるホチキスの向きと、実際にホチキスされる向きが異なります。実際には、上図のようにホチキスされます。

用紙サイズとパンチする位置

- フィニッシャー C3 / 中とじフィニッシャー C3

  - 2 穴

	左 2 穴	上 2 穴	右 2 穴
A4□、B5□、7.25×10.5 インチ□、8×10 インチ□ 8.5×11 インチ□、十六開□			
A4、A3、B4、8×10 インチ、8.5×11 インチ、8.5×13 インチ、8.5×14 インチ、11×15 インチ、11×17 インチ、八開			

  - 3 穴

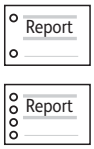
	左 3 穴	上 3 穴	右 3 穴
A4□、B5□、7.25×10.5 インチ□、8×10 インチ□ 8.5×11 インチ□、十六開□			
A3、B4、11×15 インチ、11×17 インチ、八開			

  - 4 穴

	左 4 穴	上 4 穴	右 4 穴
A4□、7.25×10.5 インチ□、8.5×11 インチ□、十六開□			
A3、B4、11×15 インチ、11×17 インチ、八開			

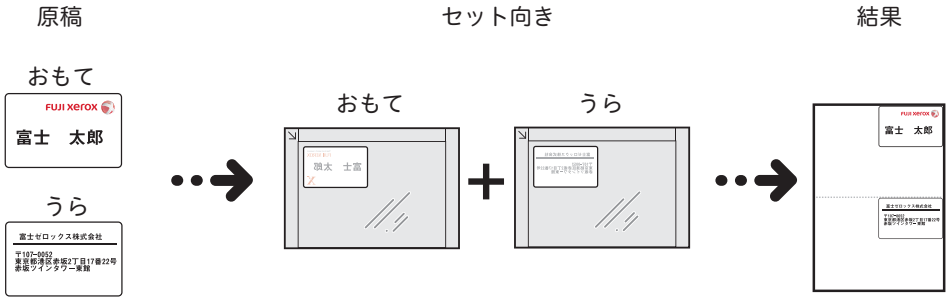
- フィニッシャー D2 / 中とじフィニッシャー D2

	左 2/4 穴	上 2/4 穴	右 2/4 穴
A4□、B5□、8.5×11 インチ□、十六開□			

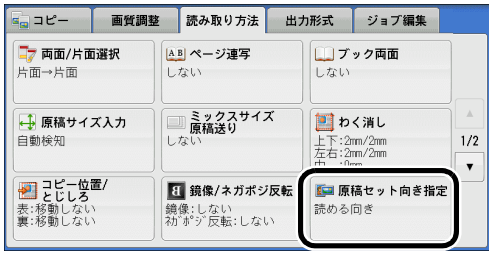
	左 2/4 穴	上 2/4 穴	右 2/4 穴
A4、A3、B4、8.5×14 インチ、 11×17 インチ、八開			

ID カードコピー（ID カードのおもてとうらをコピーする）

ID カードのように原稿サイズを自動で検知できない原稿を、おもてとうらの両面を 1 枚の用紙に並べてコピーできます。



1 ［読み取り方法］画面の［原稿セット向き指定］で原稿の向きを指定します。



2 原稿を原稿ガラスの左上奥の角から少し離してセットし、カバーを閉じます。

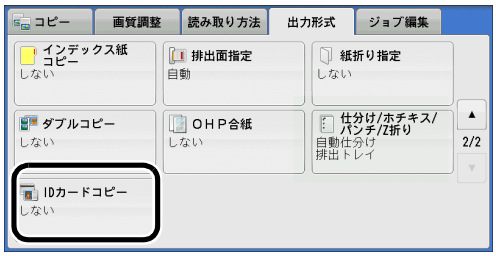
注記

- 原稿は、必ず原稿ガラスにセットしてください。原稿送り装置では使用できません。
- 原稿のセット向きは正しく設定してください。
- 画像が欠ける場合は、原稿を内側に少しずらしてセットしてください。
- ID カードコピーの倍率を縮小に設定すると、縮小率によっては、原稿のセット向きと異なる向きにコピーされる場合があります。ID カードコピー時の倍率については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「コピー設定」>「コピー動作制御」>「ID カードコピー選択時の倍率」を参照してください。

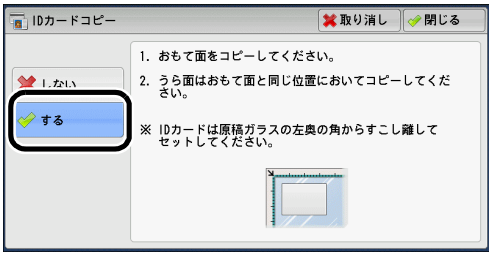
参照

- 原稿のセット向きについては「原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）」(P.142) を参照してください。

3 ［出力形式］画面の［ID カードコピー］を押します。



4 ［する］を押します。



■しない

ID カードコピーをしません。

■する

ID カードコピーをします。

ジョブ編集

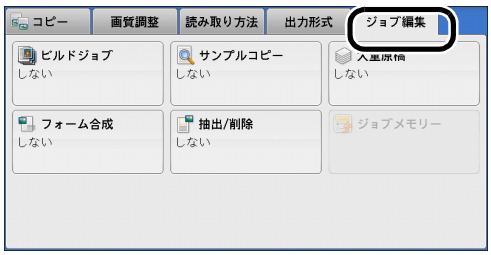
［ジョブ編集］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

ビルドジョブ（異なる設定の原稿をまとめてコピーする）.....183
サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする）.....188
大量原稿（原稿を追加する）.....190
フォーム合成（原稿を合成してコピーする）.....191
抽出 / 削除（指定した領域を抽出 / 削除してコピーする）.....192
ジョブメモリー（ビルドジョブ用ジョブメモリーを呼び出す）.....194

1 メニュー画面で［コピー］を押します。



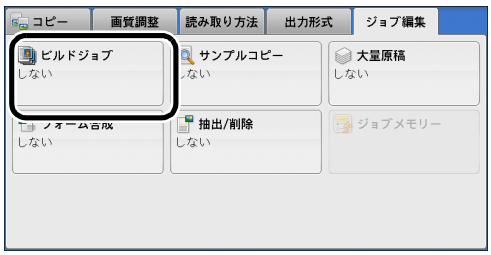
2 ［ジョブ編集］画面で、機能を選択します。



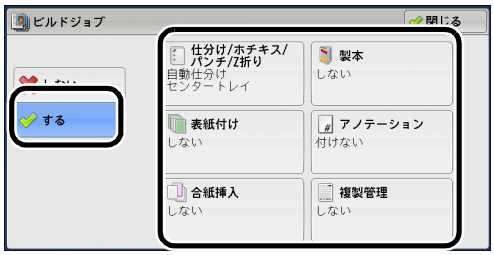
ビルドジョブ（異なる設定の原稿をまとめてコピーする）

原稿のページまたは束ごとに設定を変更して保存しながら、最終的に 1 つのジョブとして、異なる設定の原稿をまとめてコピーできます。

1 ［ビルドジョブ］を押します。



2 ［する］を押します。



3 任意の項目を設定します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■しない

ビルドジョブをしません。

■する

ビルドジョブをします。機能ボタンが表示されるので、必要に応じて、任意の項目を設定します。

注記

- ここで設定した機能は、コピー途中で取り消しや変更はできません。

参照

- 設定できる機能は、「ビルドジョブで設定できる機能について」(P.184) を参照してください。

ビルドジョブで設定できる機能について

■仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り

参照

- 詳しくは、「仕分け/ホチキス/パンチ/Z折り（仕分け/ホチキス/パンチ/Z折りを指定して排出する）」(P.175) を参照してください。

■製本

参照

- 機能については、「製本（中とじ冊子になるようにコピーする）」(P.146) を参照してください。

■表紙付け

注記

- ビルドジョブの表紙にはコピーできません。

参照

- 詳しくは、「表紙付け（表紙を付けてコピーする）」(P.150) を参照してください。

■アノテーション

参照

- 詳しくは、「アノテーション（スタンプ / 日付 / ページ番号を付けてコピーする）」(P.156) を参照してください。

■合紙挿入

参照
- 詳しくは、「[ビルドジョブ - 合紙挿入］画面」(P.187) を参照してください。

■複製管理

参照
- 詳しくは、「複製管理（背景に管理番号を印字する)」(P.163) を参照してください。

■ペーパーセキュリティー

参照
- 詳しくは、「ペーパーセキュリティー（原稿のセキュリティー管理をする)」(P.166) を参照してください。

ビルドジョブ実行中の［コピー］画面

ビルドジョブ実行中に表示される画面について説明します。



■章分け ...

［ビルドジョブ - 章分け］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「[ビルドジョブ - 章分け］画面」(P.186) を参照してください。

■合紙挿入 ...

［ビルドジョブ - 合紙挿入］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「[ビルドジョブ - 合紙挿入］画面」(P.187) を参照してください。

■部数変更...

［ビルドジョブ - 部数変更］画面で、〈数字〉ボタンで部数を変更します。

■設定変更...

コピー画面が表示され、次に読み込む原稿の設定を変更できます。機能を設定したあと、操作パネルの〈スタート〉ボタンを押すと原稿の読み込みを開始します。前の画面に戻るときは、〈#〉ボタンを押します。

ジョブメモリー（ビルドジョブ用）を呼び出す場合

ビルドジョブ実行中に、ジョブメモリーを呼び出すことができます。

1) ［設定変更 ...］を押します。

2) ［ジョブ編集］タブを選択します。

3) ［ジョブメモリー］を押します。

4) 呼び出したい機能が登録されている、ジョブメモリーの番号を選択します。

参照

- ジョブメモリーの登録方法は、「ビルドジョブ用ジョブメモリーを登録する」(P.455) を参照してください。

■中止

ビルドジョブ機能で蓄積した原稿データをクリアして、ビルドジョブをキャンセルできます。

補足

- 操作パネルの〈クリア（C)〉ボタン、および〈リセット〉ボタンでも同様の操作になります。
- 原稿の読み取り中は、［ストップ］と表示されます。［ストップ］を押すと、原稿の読み取りを停止できます。画面の［スタート］または操作パネルの〈スタート〉ボタンで、再スタートできます。

■次の原稿なし

原稿の読み込みを終了する場合に選択します。コピーが開始されます。

■次の原稿あり

次の原稿がある場合に選択します。ビルドジョブ機能を使用しているときは、選択された状態になっています。

■スタート

次の原稿をセットして、［スタート］を押すと、続けて次の原稿の読み込みができます。

補足

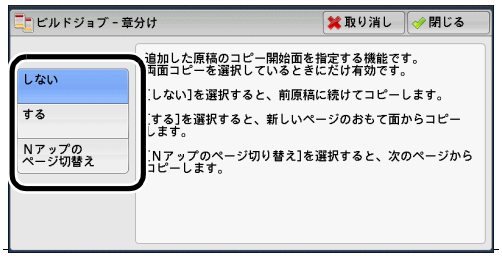
- 操作パネルの〈スタート〉ボタンでも同様の操作になります。

■サンプルコピー

複数部数の指定をしたときに、最初の 1 部だけをプリントして、できあがり状態を確認できます。確認後は、続けて残りの部数をコピーするか、中止するかを選択できます。

［ビルドジョブ - 章分け］画面

1 任意の項目を選択します。



■しない

次の原稿を、前の原稿に続けてコピーします。

■する

次の原稿を、新しい用紙のおもて面からコピーします。

■N アップのページ切替え

［まとめて 1 枚（N アップ）］機能ですべての原稿がそろう前に章分けしても、次の原稿を、用紙のうら面に続けてコピーします。

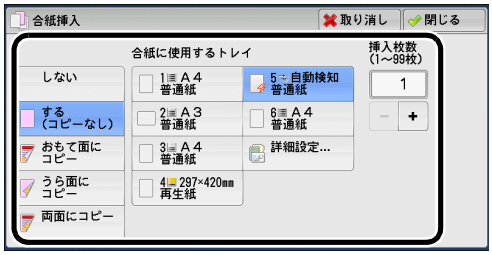
［ビルドジョブ - 合紙挿入］画面

原稿の束ごとに、合紙を挿入できます。必要に応じて、合紙の挿入枚数を 1 ～ 99 枚の範囲で指定できます。

補足

- 原稿の束ごとに設定を変更できます。設定を変更しない場合は、直前の原稿の束での設定が使用されます。

1 任意の項目を選択します。



■しない

合紙を挿入しません。

■する（コピーなし）

白紙の合紙を挿入します。

原稿をセットして〈スタート〉ボタンを押すと、原稿の先頭に、合紙として白紙が挿入されます。

■おもて面にコピー

原稿の 1 ページめを合紙用紙のおもて面にコピーし、2 ページめ以降を本文用紙にコピーします。

［まとめて 1 枚（N アップ）］を設定している場合は、原稿の 1 ページから N ページ（2、4、8）が合紙用の原稿となります。

また、原稿が 1 枚の場合は、合紙用紙だけにコピーされます。

■うら面にコピー

原稿の 1 ページめを合紙用紙のうら面にコピーし、2 ページめ以降を本文用紙にコピーします。

［まとめて 1 枚（N アップ）］を設定している場合は、原稿の 1 ページから N ページ（2、4、8）が合紙用の原稿となります。

また、原稿が 1 枚の場合は、合紙用紙だけにコピーされます。

■両面にコピー

原稿の 1 ページめと 2 ページめを合紙用紙の両面にコピーし、3 ページめ以降を本文用紙にコピーします。

［まとめて 1 枚（N アップ）］を設定している場合は、原稿の 1 ページから N ページ（2、4、8）×2 ページが合紙用の原稿となります。

また、原稿が 2 枚の場合は、合紙用紙だけにコピーされます。

補足

- セットした原稿が1枚で、次にセットする原稿の1ページめと合わせて合紙用紙の両面にコピーする場合は、次の原稿をセットするときに［ビルドジョブ - 合紙挿入］画面で［しない］を選択してください。［しない］以外が選択されていると、新たな合紙設定と認識して、合紙は片面のままとなり、次にセットされた原稿の 1 ページめと 2 ページめを合紙原稿として合紙用紙の両面にコピーされます。

■合紙に使用するトレイ

合紙に使用するトレイを選択できます。

参照

- ［手差し］を選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」(P.123) を参照してください。

■挿入枚数

合紙の挿入枚数を 1 ～ 99 枚の範囲で設定できます。［する（コピーなし）］を選択している場合に設定できます。

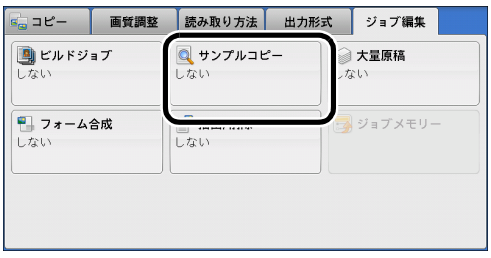
サンプルコピー（できあがり状態を確認してコピーする）

コピーを複数部で設定したときに、1 部をコピーして、できあがり状態を確認してから残りをコピーできます。確認してから残りの部数のコピーを続けるか、コピーを中止するか選択できます。また、部数の変更もできます。サンプルコピーの 1 部は、部数に含まれます。

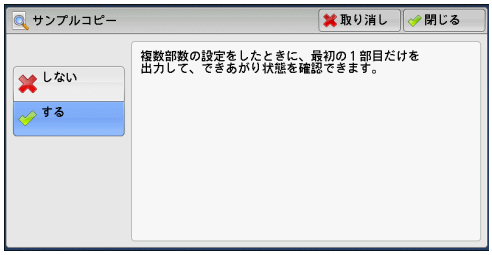
補足

- 1 部をコピーしたあと、放置したまま［自動リセット］の時間が経過すると、残りのコピーを開始するかどうかを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「ジョブ一時停止後の処理」を参照してください。
- 自動リセットについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「自動リセット」を参照してください。

1 ［サンプルコピー］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

サンプルコピーをしません。

■する

サンプルコピーをします。

サンプルコピー実行中の［コピー］画面

サンプルのコピーが終了すると、本機が一時停止し、［コピー］画面が表示されます。



■部数変更 ...

［部数変更］画面が表示され、最初に入力した部数を変更できます。ここでは、すでにコピーされたサンプル分を含む必要部数を、〈数字〉ボタンで入力します。部数を減らすときは、最初に入力した部数とサンプル分（1 部）の間の数を入力します。

補足

- 部数を「1」に変更すると、［スタート］を押しても動作しません。

■設定変更 ...

［設定変更］画面が表示されます。最初に設定した機能の一部を解除できます。解除する場合は、設定解除する機能のチェックを外します。

■中止

残りのコピーを中止します。

■スタート

残りのコピーを開始します。

補足

- 操作パネルの〈スタート〉ボタンでも同様の操作になります。

大量原稿（原稿を追加する）

原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をコピーするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を 1 つのジョブとしてコピーするときに設定します。

この機能を設定すると、原稿送り装置で原稿を読み込んでいるときや、原稿ガラスを使用して原稿を読み込むときに、［次の原稿あり］が選択された状態になります。

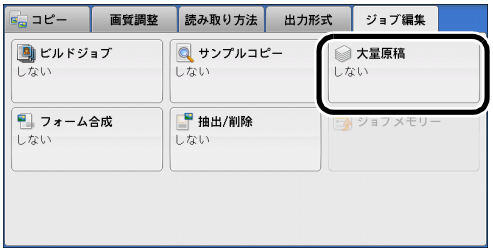
［仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り］で［自動仕分け］を設定していると、原稿はソートで排出されます。

読み込みを終了するときは、［次の原稿なし］を押します。

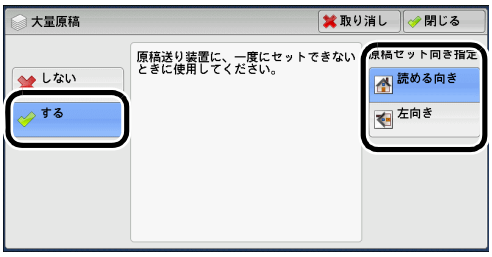
補足

- 次の原稿をコピーせずに、放置したまま［自動リセット］の時間が経過すると、残りのコピーを開始するかどうかを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「ジョブ一時停止後の処理」を参照してください。
- 自動リセットについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「自動リセット」を参照してください。

1 ［大量原稿］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

大量原稿コピーをしません。

■する

大量原稿コピーをします。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

大量原稿実行中の［コピー］画面

コピーを開始すると、［コピー］画面が表示されます。



■中止

蓄積した原稿データを削除して、コピーをキャンセルします。

補足

- 操作パネルの〈クリア（C)〉ボタン、および〈リセット〉ボタンでも同様の操作になります。

■次の原稿なし

原稿の読み込みを終了する場合に選択します。

■次の原稿あり

次の原稿がある場合に選択します。大量原稿機能を使用しているときは、選択された状態になっています。

■スタート

次の原稿をセットして、［スタート］を押すと、続けて次の原稿の読み込みができます。

補足

- 操作パネルの〈スタート〉ボタンでも同様の操作になります。

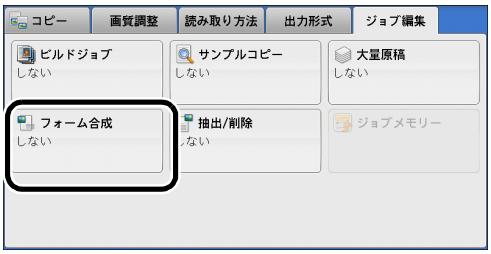
フォーム合成（原稿を合成してコピーする）

1 枚めの原稿を合成用のフォーム原稿として蓄積し、2 枚め以降の原稿と合成してコピーできます。

注記

- この機能は、ペーパーセキュリティーの検出をするように設定されていると、フォーム原稿の種類によっては、機能が有効にならないことがあります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。ペーパーセキュリティーの検出の設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「ペーパーセキュリティー」>「ペーパーセキュリティーの動作制御」を参照してください。

1 ［フォーム合成］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

フォーム合成をしません。

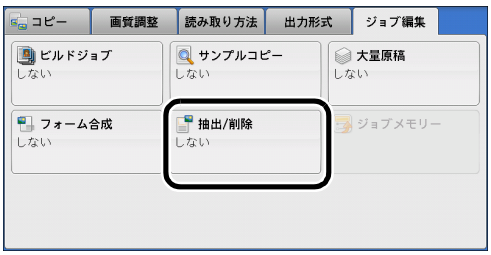
■する

フォーム合成をします。

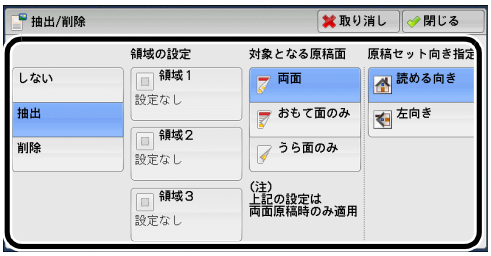
抽出 / 削除（指定した領域を抽出 / 削除してコピーする）

領域を指定して、その部分を抽出または削除してコピーできます。領域は 3 か所まで指定できます。

1 ［抽出 / 削除］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

抽出 / 削除をしません。

■抽出

指定した領域を抽出してコピーします。

■削除

指定した領域を削除してコピーします。

■領域の設定

［抽出 / 削除 - 領域 1（領域 2 または領域 3）の設定］画面が表示されます。最大で 3 か所まで設定できます。

参照

- 詳しくは、「［抽出 / 削除 - 領域 1（領域 2 または領域 3）の設定］画面」（P.193）を参照してください。

■対象となる原稿面

両面原稿の場合、抽出または削除の対象となる原稿の面を指定できます。

- 両面

  原稿の両面を対象にします。

- おもて面のみ

  原稿のおもて面を対象にします。

- うら面のみ

  原稿のうら面を対象にします。

■原稿セット向き指定

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラスまたは原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

［抽出 / 削除 - 領域 1（領域 2 または領域 3）の設定］画面

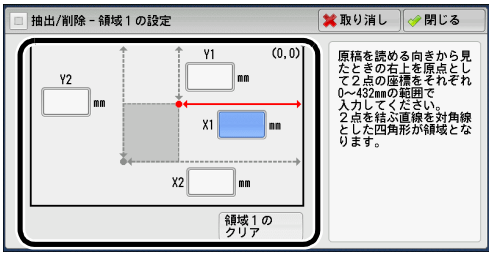
抽出または削除する領域を設定できます。原稿の右上コーナーを原点として、よこ方向を X 軸、たて方向を Y 軸として、X1/Y1、および X2/Y2 の 2 点を結ぶ直線を対角線とした四角形が領域になります。

座標は、0 ～ 432mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

補足

- 原稿を読める向きから見たときの右上コーナーを原点として、2 点の座標をそれぞれ指定してください。
- 複数の領域を指定する場合は、重複して領域を指定することもできます。
- ［倍率選択］を設定している場合は、倍率に連動して領域が縮小 / 拡大されます。

1 ［領域 1］、［領域 2］または［領域 3］を押します。



2 ［X1］を押して、〈数字〉ボタンで X1 の値を入力します。

3 ［Y1］を押して、〈数字〉ボタンで Y1 の値を入力します。

4 ［X2］を押して、〈数字〉ボタンで X2 の値を入力します。

5 ［Y2］を押して、〈数字〉ボタンで Y2 の値を入力します。

補足

- ［X1］［Y1］［X2］［Y2］をすべて［0］にすると、その領域は無効になります。ほかに領域を指定していないと、抽出 / 削除機能は使用できません。
- 〈クリア（C)〉ボタンを押すと、値をクリアします。

■領域 1（領域 2 または領域 3）のクリア

設定した領域 1（領域 2 または領域 3）の値をすべてクリアします。

ジョブメモリー（ビルドジョブ用ジョブメモリーを呼び出す）

ビルドジョブ用のジョブメモリーを呼び出せます。

参照

- 詳しくは、「ジョブメモリーの呼び出し」(P.459) を参照してください。

4 ファクス

この章では、ファクスの機能について説明します。

- ファクス操作の流れ.....196
- ファクス中の操作.....206
- インターネットファクスについて.....212
- IP ファクス（SIP）について.....220
- らくらくファクス.....227
- ファクス / インターネットファクス.....234
- 読み取り方法.....257
- 送信オプション.....264
- オンフック / その他.....288
- 同報.....294
- 受信について.....305
- FAX 情報サービスについて.....308
- ファクシミリ通信網を利用する.....310

補足

- ハンドセット、回線 2、回線 3、および回線 SIP はオプションです。
- ファクス機能を利用するにはオプションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。



ファクス操作の流れ

ここでは、基本的なファクス操作の流れについて説明します。

参照先は、次のとおりです。

Step1 原稿をセットする 196
Step2 機能を選択する 199
Step3 宛先を指定する 201
Step4 ファクスを開始する 203
Step5 ジョブの状態を確認する 204

Step1 原稿をセットする

原稿をセットする手順について説明します。次の 2 つの方法があります。

■原稿送り装置

- 1 枚もの
- 複数枚の原稿

■原稿ガラス

- 1 枚もの
- 本などの冊子

原稿送り装置

原稿送り装置には、最小サイズ 139.7×139.7mm（定形サイズの場合は、A5、A5□）、最大サイズ 297×600mm（長尺）（定形サイズの場合は、A3、11×17 インチ）の 1 枚もの、または複数枚の原稿をセットできます。

原稿送り装置で自動検知できる原稿は、幅が定形サイズの原稿だけです。

参照

- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

次の原稿サイズは、右側の検知後の原稿サイズに読み替えられます。

元の原稿サイズ	検知後の原稿サイズ
8 インチ幅	B5 幅
10 インチ幅	B4 幅

原稿送り装置にセットできる枚数は、次のとおりです。

質量	枚数
38 ～ 80g/m^2	250 枚
81 ～ 128g/m^2	150 枚
129 ～ 200g/m^2	100 枚

注記

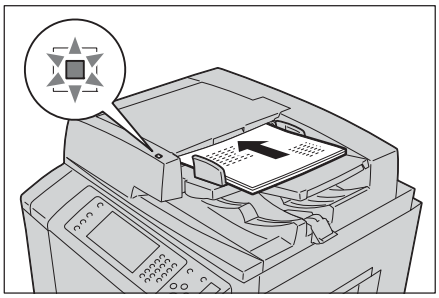
- 折り目、しわのある原稿、切り貼り原稿、カール紙、裏カーボン紙は、紙づまりの原因になりますので、原稿ガラスにセットしてください。
- 質量が 38 ～ 49g/m^2 の原稿の両面読み込みはできません。

参照

- サイズが異なる原稿を一度にファクスする場合は、「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」(P.259) を参照してください。

1 原稿をセットする前に、クリップやホチキスを外します。

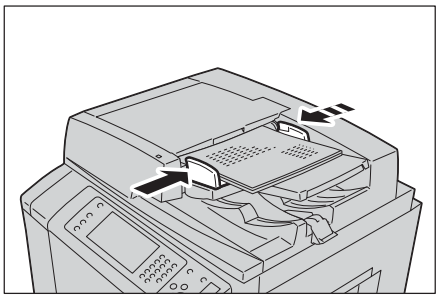
2 ファクスする面（両面原稿の場合はおもて面）を上に向けて、原稿送り装置の中央にセットします。



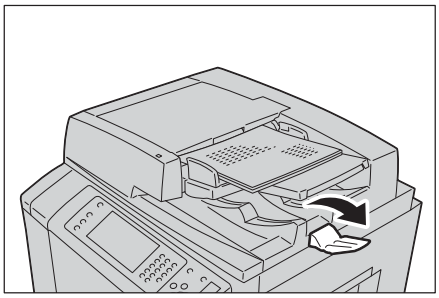
補足

- 原稿をセットすると、確認ランプが点灯します。確認ランプが点灯していない場合は、原稿ガラスで原稿を認識しています。再度、原稿をセットしてください。

3 原稿ガイドを移動して、原稿の両側に合わせます。



4 原稿受けストッパーを開きます。



原稿ガラス

原稿ガラスには、最大で 297×432mm（定形サイズの場合は、A3、11×17 インチ）までの 1 枚もの、または本などの原稿をセットできます。

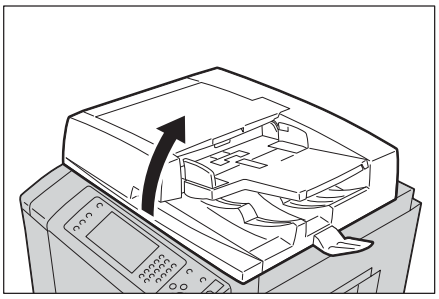
注記
- 原稿ガラスを使用した場合、作業終了後に、原稿カバーを閉じてください。

原稿ガラスで自動検知できる原稿は定形サイズだけです。

参照
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

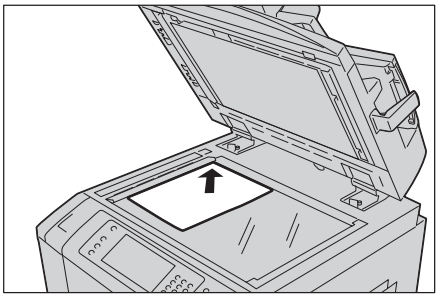
> ⚠注 意
> 書籍などの厚手の原稿をファクスするとき、原稿を強く押さえないでください。原稿ガラスが割れてケガの原因となるおそれがあります。

1 原稿カバーを開けます。



注記
- 原稿は操作パネルの画面が正常に表示されていることを確認してからセットしてください。画面が表示される前に原稿をセットすると、サイズを正しく検知できないことがあります。

2 ファクスする面を下に向けて、原稿ガラスの左奥の角に合わせて原稿をセットします。



補足
- 原稿ガラスに、A5、B5、A4 などの原稿をたて置きにセットした場合、読み取られた画像は 180 度回転して送信されます。

3 原稿カバーを閉じます。

補足
- 定形サイズの原稿をセットした場合、メッセージエリアに原稿のサイズが表示されます。

Step2 機能を選択する

原稿をファクス送信する場合、次の 2 つの方法があります。

■らくらくファクス

基本的な機能だけで簡単にファクスできます。

■ファクス / インターネットファクス

詳細な機能を設定してファクスできます。

ここでは、［ファクス / インターネットファクス］画面で機能を選択する手順について説明します。

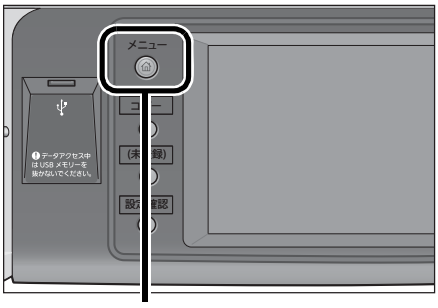
参照

- らくらくファクスについては、「らくらくファクス」(P.227) を参照してください。

補足

- 表示される機能は、機械の構成によって異なります。
- 本機で、認証機能、または集計管理機能を使用している場合、User ID やパスワードが必要なことがあります。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。

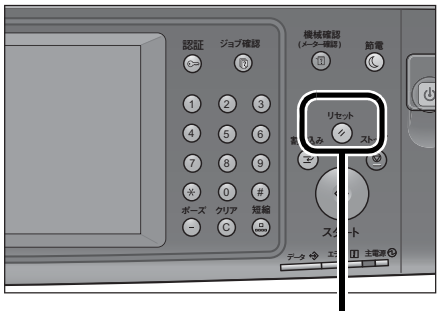


〈メニュー〉ボタン

2 ［ファクス / インターネットファクス］を押します。

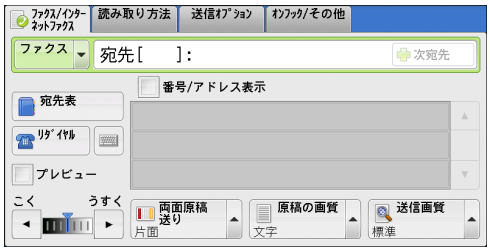


3 前回の設定が残っている場合は、〈リセット〉ボタンを押します。



〈リセット〉ボタン

4 必要に応じて、各タブから、設定する機能を選択します。



参照

- 機能を設定中に〈節電〉ボタンを押すと、両面白紙スキップの機能を使用するかしないかを選択できます。詳しくは、「両面（白紙スキップ）」(P.254) を参照してください。

各タブの参照先は、次のとおりです。

参照

- 「ファクス / インターネットファクス」(P.234)
- 「読み取り方法」(P.257)
- 「送信オプション」(P.264)
- 「オンフック / その他」(P.288)

Step3 宛先を指定する

宛先の指定方法には、ダイヤル入力、短縮宛先番号指定、宛先グループ番号指定の3つの方法があります。〈数字〉ボタン、ワンタッチボタン、宛先表から指定します。

	〈数字〉ボタン	ワンタッチボタン	宛先表
ダイヤル入力	○	×	×
短縮宛先番号指定（短縮ダイヤル）	4桁（0001 ～ 2000）指定	ワンタッチ(1～70)または(1 ～ 60)指定 *	一覧、［あ / か］～［ら / わ］、［英数字］タブから指定
	3桁＋＊指定（nnn0 ～ nnn9） 2桁＋＊指定（nn00 ～ nn99）		
宛先グループ番号指定	# ＋ 2桁	×	○

○：指定可　　×：指定不可
＊ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。
［タイプ1］
1 ～ 70は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の0001 ～ 0070に対応）で、M01 ～ M02は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの1番と2番に対応）
［タイプ2］
1 ～ 60は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の0001 ～ 0060に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの1 ～ 12番に対応）
工場出荷時は、［タイプ 1］で登録されています。ワンタッチボタンへの登録内容の変更方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」を参照してください。

上記の方法を使って、複数の宛先を指定（同報送信）できます。また、それぞれの方法を組み合わせて指定することもできます。

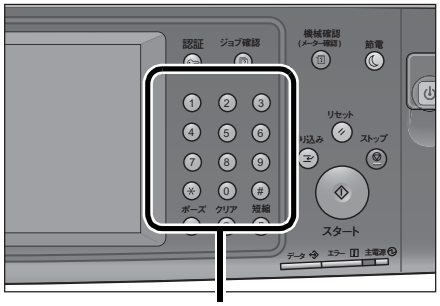
複数の送信が予約されているときに、同一の宛先がある場合、1回の通信で同一の宛先に複数の予約文書を送信できます。この機能を、一括送信といいます。なお、同報、中継同報、親展通信、指定時刻より前の時刻指定通信などの場合は、一括送信できません。リダイヤル、再送、時刻指定送信になった通信ジョブや、認証機能を使用しているときに、別々の部門から同一宛先に送信した場合は、一括送信の対象になりません。

注記
- ファクス送信時は宛先をご確認のうえ、送信してください。

参照
- 同報送信については、「同報送信（複数の宛先に送信する）」(P.294)を参照してください。
- G3増設ポートキット2（オプション）を装着している場合で、回線を切り替えて使用するときは、「回線（ポート）を指定する」(P.249)を参照してください。

ここでは、〈数字〉ボタンでダイヤル入力する場合を例に手順を説明します。

1 宛先を、〈数字〉ボタンでダイヤル入力します。



〈数字〉ボタン

2 複数の宛先を指定する場合は、タッチパネルディスプレイの［次宛先］を押します。



補足

- メッセージエリアの［宛先確認］ボタンを押すと、指定した宛先を確認できます。なお、［宛先確認］ボタンはメモリー残量表示に変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」>「宛先確認ボタン - ファクス / インターネットファクス」を参照してください。
- 入力を間違えた場合は、〈クリア（C）〉ボタンを押して、正しい宛先を指定します。
- 設定によっては、［次宛先］を押したあとに、宛先を入力する画面が表示されることがあります。指定した宛先を、もう一度入力してください。
- ワンタッチボタン、短縮ボタン、宛先表のそれぞれに登録してある番号と〈数字〉ボタンで入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定できます。この機能をチェーンダイヤルといいます。番号の組み合わせが完了したら、［次宛先］を押します。チェーンダイヤルを利用するかどうかは、機械管理者モードで設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」を参照してください。
- 「プレビュー」にチェックを入れると、原稿の読み取り中に、読み込んだ原稿を確認することができます。詳しくは、「原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する」(P.208) を参照してください。

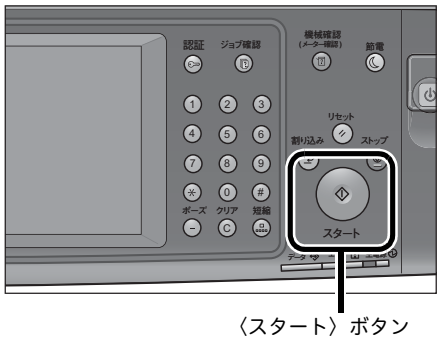
参照

- 宛先表を使って指定する方法は、「宛先表を使って宛先を指定する」(P.236) を参照してください。
- 短縮ダイヤルを使って指定する方法は、「短縮宛先番号で宛先を指定する」(P.242) を参照してください。
- ワンタッチボタンを使って指定する方法は、「ワンタッチボタンで宛先を指定する」(P.246) を参照してください。
- インターネットファクスについては、「インターネットファクスについて」(P.212) を参照してください。
- IP ファクス（SIP）については、「IP ファクス（SIP）について」(P.220) を参照してください。

Step4 ファクスを開始する

ファクスを開始する手順について説明します。

1 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

注記

- 原稿送り装置に原稿をセットした場合は、原稿搬送中に原稿を押さえないでください。
- 複製制限コードが検出された原稿は、ファクスできません。

補足

- 設定によっては、〈スタート〉ボタンを押したあとに、再度宛先を入力する画面が表示されることがあります。送信先に指定した宛先を、もう一度入力してください。
- 問題が発生すると、ディスプレイ上にエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。

■次の原稿があるとき

複数枚の原稿や複数の束の原稿を 1 つにまとめるときは、原稿の読み取り中にタッチパネルディスプレイに表示される画面の［次原稿あり］を押します。複数の原稿をまとめて送信できます。

2 原稿を読み取り中に、［次原稿あり］を押します。



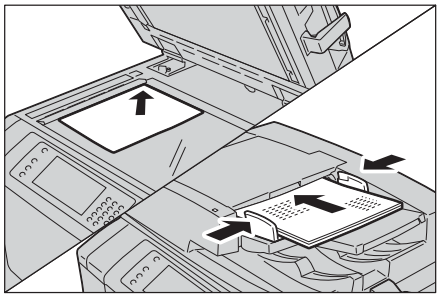
補足

- 原稿送り装置を使っているときは、最初にセットした原稿をすべて読み取ってから、次の原稿をセットします。
- ［次原稿あり］を押したときに表示される［設定変更...］を押すと、次の原稿の読み取り設定を変更できます。
- この画面およびプレビュー画面が表示された状態で、何も操作が行われないまま［自動リセット］の時間が経過した場合に、ジョブを継続するかどうかを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「ジョブ一時停止後の処理」を参照してください。

参照

- 自動リセットについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「自動リセット」を参照してください。

3 次の原稿をセットします。



4 〈スタート〉ボタンを押します。

さらに原稿が続くときは、手順 3 と 4 の操作を繰り返します。

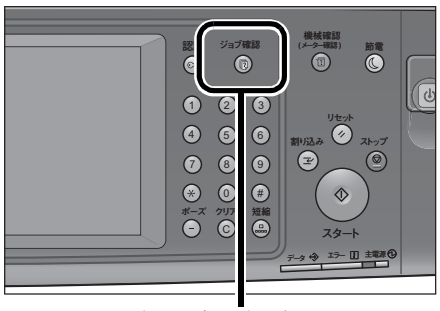
5 すべての原稿を読み取ったら、［送信（次原稿なし）］を押します。



Step5 ジョブの状態を確認する

ファクスしたジョブの状態を確認する手順について説明します。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。

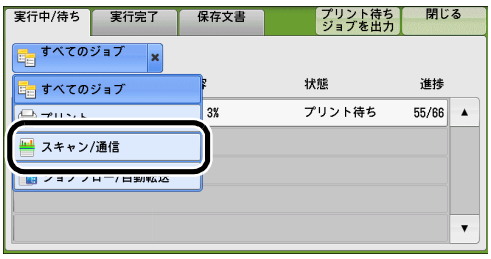


〈ジョブ確認〉ボタン

2 ジョブの状態を確認します。

補足

- ジョブが画面に表示されていないときは、［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ドロップダウンリストから、［スキャン / 通信］を選択して、表示の絞り込みができます。



■未送信になった文書があるとき

未送信になった文書があるときは、［ジョブ確認］画面、または［通信管理レポート］で確認ができます。

参照

- 未送信文書となった文書の再送信、削除方法は、「ジョブ確認」(P.489) を参照してください。

ファクス中の操作

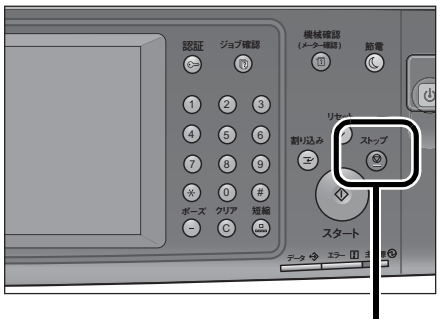
ファクス中にできる操作について説明します。参照先は、次のとおりです。

ファクスを中止する.....206
原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する.....208
読み取りの設定を変更する 211

ファクスを中止する

ファクスを中止する手順について説明します。

1 操作パネルの〈ストップ〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押します。



〈ストップ〉ボタン

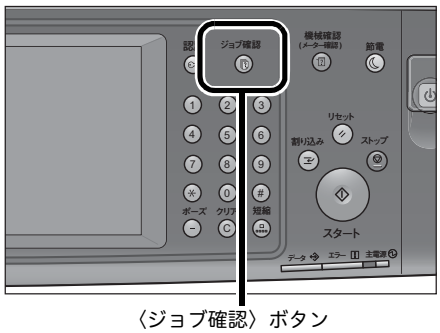


2 ［中止］を押します。



■[ストップ]または[中止]の画面が表示されない場合

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

2 中止するジョブを選択します。



補足

- ジョブが画面に表示されていないときは、[▲]を押して前画面、[▼]を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94)を参照してください。

3 [ストップ]を押します。



4 [中止]を押します。



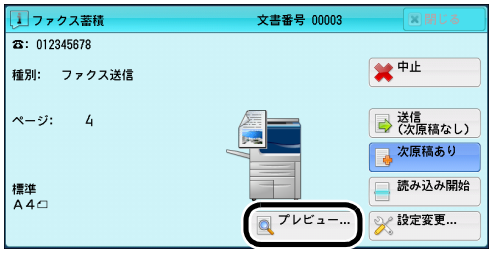
原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する

原稿の読み取り中に、読み込んだ原稿を確認できます。

補足

- ファクスではプレビュー画像の回転（編集）はできません。原稿の向きは自動的に設定されます。
- ［並列合成送信］が［する］に設定されている場合は、原稿のプレビューができません。並列合成送信機能については、「並列合成送信（複数の原稿を 1 枚に合成して送信する）」(P.277)を参照してください。

1 ［らくらくファクス］または［ファクス / インターネットファクス］の基本画面で［プレビュー］をチェックして読み取りを開始すると、以下の画面が表示されます。
読み取り後に、［プレビュー］を押します。プレビュー画面が表示され、直前に読み込んだ原稿の先頭ページが表示されます。



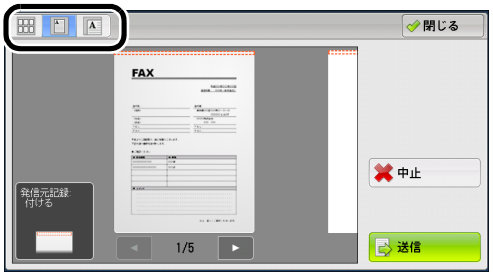
補足

- ジョブを送信するには、［送信（次原稿なし）］を押すか、またはプレビュー画面で［送信］を押してください。［読み込み開始］を押しても実行中のジョブは送信されません。
- ポーリング予約または親展ポーリング予約の場合は、［送信（次原稿あり）］に替わり、［保存（次原稿なし）］が表示されます。
- 白紙スキップ機能の設定によって、［プレビュー］を押せない場合や、直前に読み込んだ原稿の先頭ページが表示されない場合があります。白紙スキップ機能については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「白紙スキップ機能」を参照してください。
- この画面およびプレビュー画面が表示された状態で、何も操作が行われないまま［自動リセット］の時間が経過した場合にジョブを継続するかどうかを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「ジョブ一時停止後の処理」を参照してください。

参照

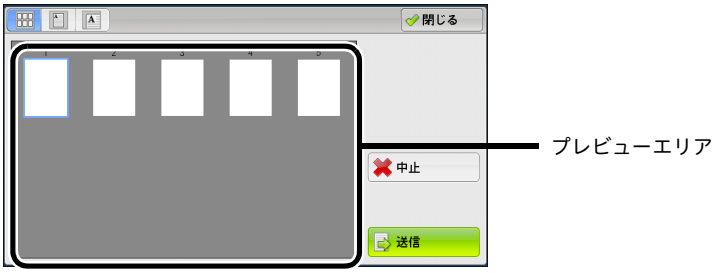
- 自動リセットについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「自動リセット」を参照してください。

2 任意の項目を選択します。



■ (サムネールビュー)

プレビュー画像をサムネールで表示します。



サムネールビューでは、次の操作ができます。

- プレビューエリアを上下にドラッグまたはフリック操作すると表示ページの切り替えができます。
- サムネールをタップするとページビューに切り替わります。

補足

- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■ (ページビュー)

プレビュー画像を全体表示します。

- ページ切り替えボタンを表示している場合



- サムネールバーを表示している場合



ページビューでは、次の操作ができます。

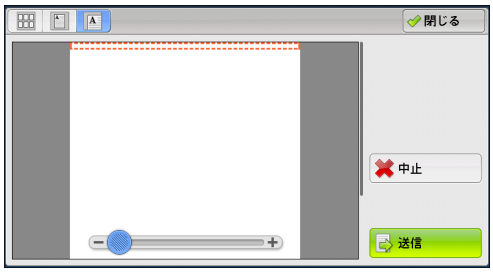
- プレビューエリアを左右にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。
- プレビューエリアの下部をタップすると、ページ切り替えボタンとサムネールバーの表示の切り替えができます。
- プレビューエリアに表示されている前ページ / 後ページをタップすると、タップしたページが中央に表示されます。

- サムネールバーを左右にドラッグまたはフリックすると、サムネールのスクロールができます。タップしたサムネールのプレビュー画像が表示されます。

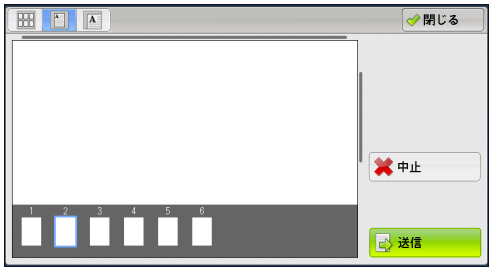
■  （拡大ビュー）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

- スライダーを表示している場合



- サムネールバーを表示している場合



拡大ビューでは、次の操作ができます。

- 拡大した画像を上下左右にドラッグまたはフリック操作すると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- プレビューエリアをタップすると、スライダーとサムネールバーの表示の切り替えができます。
- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- サムネールバーを左右にドラッグまたはフリックすると、サムネールのスクロールができます。タップしたサムネールのプレビュー画像が表示されます。

■中止

プレビュー中のジョブを中止します。

■送信

プレビュー中のジョブを送信します。

補足

- ［閉じる］を押してプレビュー画面を閉じると、手順 1 の画面に戻ります。この画面で［送信（次原稿なし）］を押してもジョブが送信されます。
- ポーリング予約や親展ポーリング予約の場合は、［保存］ボタンが表示されます。［保存］ボタンを押すか、手順 1 の画面で［保存（次原稿なし）］を押すと、プレビュー中のジョブが本機のポーリング予約ボックスまたは親展ボックスに保存されます。

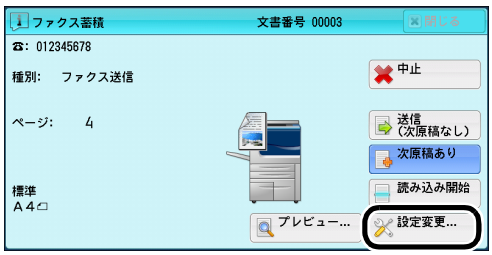
読み取りの設定を変更する

原稿の読み込み中に、読み取りの設定を変更できます。

1 タッチパネルディスプレイの［次原稿あり］を押します。



2 ［設定変更 ...］を押します。



3 ［送信画質］、［読み取りサイズ］、［送信濃度］の設定を変更し、［閉じる］を押します。



参照

- 詳しくは、「送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）」(P.255)、「両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）」(P.253)、「送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）」(P.253）を参照してください。

4 〈スタート〉ボタンを押します。

インターネットファクスについて

インターネットファクスとは、電話回線を経由するファクス通信とは異なり、企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送受信する機能です。

既存の企業内ネットワークやインターネットを経由して通信するため、電話回線を経由するファクスに比べ通信料金を節約できます。

補足

- インターネットファクス機能を使用するには、[ファクス / インターネットファクス] の基本画面で［インターネットファクス］ボタンを表示するために、インターネットファクスに関する各種の設定が必要です。詳しくは、機械管理者またはシステム管理者に確認してください。
- インターネットファクス機能は、カラー文書に対応していません。カラーのインターネットファクス文書（プロファイル：TIFF-C）を受信した場合は、モノクロに変換してプリントされます。カラー文書の送受信には、スキャナー（メール送信）機能をお使いください。

参照

- 本機をネットワークに接続し、ネットワーク環境を設定する方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」、およびメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。

インターネットファクスの特長

本機のインターネットファクスの特長は、次のとおりです。

インターネットファクスを送信する（インターネットファクス送信）

本機で読み取った原稿を、TIFF ファイル形式の添付文書としてインターネットファクス対応機へ送信できます。

注記

- 送信先のインターネットファクス対応機によっては、処理できるTIFFファイルのプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、送信先のインターネットファクス対応機で処理できるプロファイルを確認してください。詳しくは、「インターネットファクスを送信する」(P.214) を参照してください。プロファイルについては、「インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する)」(P.285) を参照してください。
- コンピューターに直接インターネットファクス送信すると、コンピューター上で文書が開けないことがあります。コンピューターに文書を送信する場合は、スキャナー（メール送信）を使用してください。

■インターネットファクスダイレクト

SMTP サーバーを経由せずに、インターネットファクス対応機へ直接送信できます。

補足

- インターネットファクス とインターネットファクスダイレクトは、機械管理者モードで切り替えられます。両方を有効にはできません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「インターネットファクス動作制御」>「送信経路」を参照してください。

■短縮宛先番号にメールアドレスを登録できます

短縮宛先番号に宛先のメールアドレスを登録しておくと、通信するたびにメールアドレスを入力する手間が省けます。

補足

- 短縮宛先番号には、インターネットファクスプロファイル指定、送信に関する設定など、送信時にメールアドレスと共に設定する項目についても指定しておくことができます。

参照

- 短縮宛先番号の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録)」を参照してください。

■同報送信ができます

メールアドレスを複数指定することで、複数の宛先にインターネットファクスを送信できます。また、電話回線を使うファクス送信の宛先、インターネットファクス送信の宛先を混在させ、ファクスとインターネットファクスの同報送信をすることもできます。

補足
- 同報送信は 3 件まで実行されます。4 件め以降は先のジョブが終了してから順次送信されます。

参照
- 宛先の指定方法は、「Step3 宛先を指定する」(P.201)、「宛先表を使って宛先を指定する」(P.236)を参照してください。

■親展ボックスに蓄積された文書を転送できます

親展ボックスに、あらかじめ転送機能と転送先メールアドレスを設定しておくことによって、親展ボックスに蓄積されたファクス文書を、自動的にメールとして転送できます。指定したコンピューターに転送でき、文書を本機まで取りに行く手間が省けます。

参照
- 詳しくは、「親展ボックスに蓄積された文書を転送する」(P.218)を参照してください。

■中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信できます

特定の形式でメールアドレスを指定することによって、ネットワーク上の本機から、インターネットファクス対応機（ファクスゲートウェイといいます）を介して、一般のファクス（インターネットファクス機能を持たないファクス）に対し、ファクス文書を送信できます。

注記
- この機能は、ファクスゲートウェイのメール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。

参照
- ファクスゲートウェイ機能については、「中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する」(P.218)を参照してください。

■インターネットファクス送信時の注意

本機の［ジョブ確認］画面、［ジョブ履歴レポート］、［モニターレポート］に表示される［送信完了］は、本機に設定した SMTP サーバーまで送信できたことを示します。インターネットファクス送信では、インターネット網の途中経路の問題により、受信側にインターネットファクスが到着しないことがあります。このような場合、本機に対しては何も通知がありません。重要な内容を送受信する場合は、電話などによる確認をお勧めします。

参照
- 開封確認（MDN）/ 配送確認（DSN）を設定して送信すると、送信結果のメールを受け取ることができます。詳しくは、「モニターレポート / 開封確認 / 配送確認（送信結果を確認する）」(P.264)を参照してください。

インターネットファクスを受信する（インターネットファクスプリント）

本機は、インターネットファクス対応機から送信されたメールを受信すると、自動的に受信文書をプリントします。

補足
- 受信時に扱える TIFF ファイル形式とプロファイルは次のとおりです。
  ファイル形式：TIFF-FX（RFC2301）プロファイル：TIFF-S、TIFF-F、TIFF-J、TIFF-C
  対応していないプロファイルを受信した場合は、ファイルをプリントできないことがあります。詳しくは、「インターネットファクスを受信する」(P.216)を参照してください。

メールサーバーの制限について

システム環境（メールサーバーの制限など）によっては、大きなサイズの電子メールを送受信できないことがあります。送信メールの分割ページ数を設定するときは、送信側、受信側のシステム環境をそれぞれ確認してください。

送信メールを分割しても 1 ページ分のサイズが大きい場合は、送信画質や原稿の画質を変更してサイズを小さくしてください。

インターネットファクスで使用できない機能

通常のファクス送信で使用できる機能の中で、インターネットファクス送信では、次の機能が使用できません。

- 通信モード
- 優先通信
- 時刻指定
- 送信シート
- 送信先部数
- F コード通信
- 親展通信
- ポーリング
- 手動送信
- 中継同報
- 親展ボックスへの振り分け（ボックスセレクター）
- ダイレクトファクス

参照

- 通信モードと F コード通信は、ファクスゲートウェイ機能を使用した場合に設定できます。ファクスゲートウェイ機能については、「中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する」(P.218) を参照してください。

インターネットファクスを送信する

インターネットファクスを送信する手順について説明します。

注記

- 一般のメールで使用する、CC、BCC、Reply-to 機能は使用できません。

補足

- TIFF 形式に変換してメールの添付文書として送信されます。

1 ［インターネットファクス］を選択します。



2 キーボードボタンを押します。



3 タッチパネルディスプレイに表示されたキーボードを使って、128 文字以内で宛先を指定します。



注記

- ファクス番号を指定した場合は、エラーになり送信されません。
- インターネットファクスダイレクトの宛先では、次の方法でメールアドレスを指定します。
  - ホスト名を指定
    例：local-part@device.domain.jp
    @の右側が FQDN であることが必要です。
  - IP アドレスを指定
    例 :local-part@［192.0.2.1］
    @の右側に IP アドレスを “［”“］” で指定します。

参照

- 短縮宛先番号、ワンタッチボタン、宛先グループ番号、宛先表を使ってメールアドレスを指定できます。詳しくは、「短縮宛先番号で宛先を指定する」(P.242)、「ワンタッチボタンで宛先を指定する」(P.246)、「宛先表を使って宛先を指定する」(P.236) を参照してください。

4 必要に応じて、件名と本文を指定します。

参照

- 件名の指定は「インターネットファクス件名（インターネットファクスの件名を指定する）」(P.273)、本文の指定は「インターネットファクスコメント（メール本文）(インターネットファクスの本文を編集する)」(P.273) を参照してください。

補足

- 原稿の読み取り中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、蓄積できたページまでを送信するか、送信を中断するかを選択する画面が表示されますので、どちらかを選択してください。
- インターネットファクス送信中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、送信が中止され、文書は削除されます。
- プロファイルで TIFF-J を指定した場合、受信側のコンピューターで、添付されている TIFF ファイルを正しく表示できないことがあります。このような場合は、TIFF-S、TIFF-F を指定して送信してください。
- 本機種以外のインターネットファクス対応機に送信した場合、送信先でプリントされないことがあります。受信側のインターネットファクス機能を確認して送信してください。
- インターネットファクスで宛先表から宛先を指定する場合、禁止に設定されているドメインであるか確認します。禁止ドメインに設定されている場合、宛先として指定することはできません。

インターネットファクスを受信する

■受信方法

本機は、インターネットファクス対応機から本機に宛てたメールを受信すると、自動的に受信文書をプリントします。

また、「BOX123@myhost.example.com」のように、メールアドレスに親展ボックスを指定したメールも受信できます。

参照

- 親展ボックスについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ボックス登録」を、ジョブフローについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」を参照してください。

補足

- CentreWare Internet Services で、受信するドメインを制限している場合は、受信を許可しているドメインからのインターネットファクスだけを受信します。受信ドメインの制限については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「その他の設定」>「送受信ドメインの制限」を参照してください。
- ドメインの設定状況は、［送受信ドメイン制限リスト］で確認できます。送受信ドメイン制限リストについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「レポート / リストの出力」を参照してください。

■プリントされるサイズ

受信したインターネットファクスは、基本的に送信側の送信原稿と同じサイズでプリントされます。

補足

- プロファイルに［TIFF-S］が選択されている場合は、A4 となります。

送信原稿と同じサイズの用紙がセットされていない場合や、受信した文書をプリントする用紙トレイを限定している場合の処理などは、通常のファクス文書の受信処理と同じです。

■受信メールについて

受信したメールは、メールヘッダーと添付文書（TIFF ファイル）がそれぞれプリントされます。

- 分割して送信されたメールについて

  CentreWare Internet Services で設定する［送信メールの分割サイズ］の設定によって、本機で読み取った原稿が分割して送信された場合は、分割を示す情報が付加されており、それぞれ別のメールとして扱われます。

- 添付文書（TIFF フォーマット）について

  対応していない形式の添付ファイルを受信した場合、受信したファイルは削除されます。［ジョブ履歴レポート］で異常終了したことを確認できます。

- 親展ボックス番号が未登録の場合について

  指定された親展ボックスが登録されていない場合、受信データは削除されます。［ジョブ履歴レポート］で異常終了した理由を確認できます。

- 親展ボックスの動作について

  メールをプリント、または親展ボックスへ蓄積中に、ファクスのハードディスク容量が足りなくなった時点で、プリント、または親展ボックスへ蓄積中のページは削除されます。

■メールの送受信を制限するには

特定のドメインの送受信を拒否する指定ができます。送受信を許可、または拒否するドメインは、最大 50 ドメインまで登録できます。

メールが来ると、ドメインの設定を確認し、送受信を拒否するドメインや、送受信を許可していないドメインからのメールは受信しません。［ジョブ履歴レポート］で結果を確認できます。（送受信を拒否したメールに関するジョブ履歴は残りません）

参照
- 送受信ドメインの制限については、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「ネットワーク設定」>「その他の設定」>「送受信ドメインの制限」を参照してください。

便利な機能を使う

メールアドレスを使って親展ボックスに送信する

特定の形式でメールアドレスを指定して、インターネットファクス対応機から本機の親展ボックスに送信できます。

本機では、指定されている親展ボックスに受信文書が格納され、［親展受信レポート］がプリントされます。

参照
- この機能は、受信側が SMTP 受信の場合にだけ使用できます。受信側にパスワードを設定していない親展ボックスが登録されている必要があります。親展ボックスの登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ボックス登録」を参照してください。

1 ［インターネットファクス］を選択します。



2 任意の項目を選択します。

3 受信側のメールアドレスを次のように入力します。



【入力例】
- 親展ボックス番号・・・・・・・・・・・ 123（親展ボックス番号の桁数は、受信側の桁数に合わせて入力します。）
- 受信側のホスト名・・・・・・・・・・・ myhost
- 受信側のドメイン名・・・・・・・・・ example.com

注記
- インターネットファクス送信中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、送信が中止され、文書は削除されます。

補足
- 原稿読み取り中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、蓄積できたページまでを送信するか、送信を中断するかを選択する画面が表示されますので、どちらかを選択してください。

中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する

特定の形式でメールアドレスを指定することによって、ネットワーク上の本機から、一般のファクス（インターネットファクス機能を持たないファクス）にファクス文書を送信できます。

この機能では、ネットワークに接続されたインターネットファクス対応機（ファクスゲートウェイ）までは、インターネット経由でメールとして送信されます。インターネットファクス対応機で、受信したメールをファクス文書に変換し、指定したファクスに送信します。このとき、ファクスゲートウェイと一般のファクスが市内料金区域になるように配置することで、通信料金を節約できます。

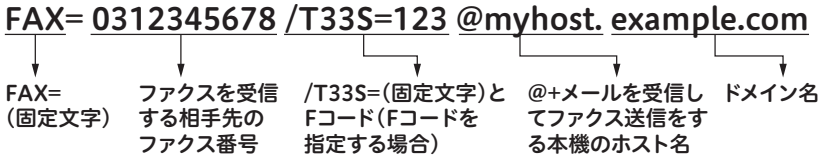
注記
- この機能は、ファクスゲートウェイのメール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。

補足
- ファクスゲートウェイが受信したメールは、正常にファクス送信ができなかった場合も削除されます。
- ［送信オプション］画面の［通信モード］の指定は、ファクスゲートウェイから送信先ファクスの間の通信モードに適用されます。
- 仕様設定の［宛先表によるファクス転送制限］、［ファクス転送時の上限データサイズ］の設定により、ファクス転送を制限できます。

1 ［インターネットファクス］を選択します。

2 任意の項目を選択します。

3 受信側のメールアドレスを次のように入力します。



【入力例】
- ファクス番号 0312345678
- Fコード（必要に応じて） /T33S=123
- 受信側のホスト名 myhost
- 受信側のドメイン名 example.com

注記
- インターネットファクス送信中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、送信が中止され、文書は削除されます。

補足
- 原稿読み取り中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、蓄積できたページまでを送信するか、送信を中断するかを選択する画面が表示されますので、どちらかを選択してください。

親展ボックスに蓄積された文書を転送する

親展ボックスに蓄積されたファクス文書を、自動的にメールの添付文書として転送できます。

FAX 信号方式（弊社独自の通信手順）、F コード方式、DTMF 方式で親展送信されたファクス文書、およびボックスセレクター機能により親展ボックスに蓄積されたファクス文書をメールの添付文書として転送します。

注記
- この機能は、メール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。

参照

- 親展ボックスの転送機能の設定や親展送信、ボックスセレクターによる親展ボックスへの受信、親展ボックスに受信した文書のプリント / 削除方法などは、「親展ボックスの文書を確認 / 操作する」(P.423) を参照してください。
- ボックスセレクター機能の設定方法は、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「ファクス設定」>「受信文書の保存先 / 排出先」を参照してください。

■インターネットファクス転送とは

本機では、親展送信されたファクス文書を受信したり、ボックスセレクター機能によって親展ボックスに蓄積されたファクス文書を、親展ボックスに設定されている転送先へ自動的にメールとして転送できます。

転送機能を使うと、受信したファクス文書をファクス機のところまで取りに行く手間が省けたり、コンピューターの画面に表示して見ることによって、用紙の節約ができます。

■インターネットファクス転送をするには

インターネットファクスの転送機能を使うためには、次の操作が必要です。

- ファクスを送信する側

  FAX 信号方式（弊社独自の通信手順）、F コード方式、DTMF 方式を使って親展送信します。

参照

- 送信方法は、「オンフック / その他」(P.288) を参照してください。

- 親展ボックスにファクスを受信し、インターネットファクスを転送する側

  転送先を指定したジョブフローを作成し、作成したジョブフローを親展ボックスに関連づけます。

参照

- ジョブフローの作成方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」を参照してください。

注記

- 転送先に本機のアドレスを設定しないでください。

補足

- 転送できる宛先は、100 か所までです。
- 「親展ボックス番号」と「暗証番号」は、ファクス送信側で必要となります。設定内容を送信側に知らせてください。
- ファクス受信した画像がJBIG圧縮形式の場合で、転送先のインターネットファクスプロファイルをTIFF-F に設定したときは、MH 圧縮方式に変換して転送されます。また、通常のインターネットファクス送信とは異なり、インターネットファクスプロファイルが TIFF-S の場合、サイズと解像度はそのままの設定で転送されます。
- インターネットファクス受信中に本機のハードディスクがいっぱいになった場合は、受信が中止され、受信途中の文書は削除されます。
- インターネットファクス転送中に転送データに問題が生じた場合は、転送が中止され、文書は親展ボックスに保存されます。
- SMTP でのメール転送に失敗した場合は、受信文書は親展ボックスに保存されます。
- 転送の結果は、［ジョブ履歴レポート］で確認できます。

IP ファクス（SIP）について

IP ファクス（SIP）とは、国際標準 ITU-T 勧告 T.38 に準拠したインターネットファクスの総称です。

IP ファクス（SIP）を利用すると、企業内の IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信したり、NTT が提供するひかり対応ゲートウェイを経由して、次世代ネットワーク（NGN）対応機種同士で通信することができます。

補足

- これらの機能を利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- NGN とは、Next Generation NetWork の略称です。

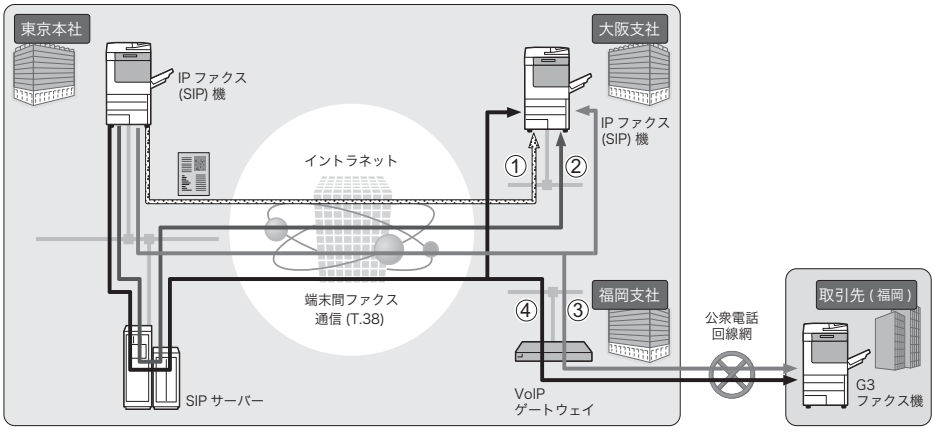
企業内ネットワーク（イントラネット）を利用する

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を経由して、イントラネットに接続された機器同士で文書の送受信ができます。イントラネット内では、文書の送受信による通信費がかからないため、本社と各拠点間などの通信に適しています。また、イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由すれば、イントラネットの外へ送信する場合でも通信費を削減できます。

補足

- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応 IP ファクス搭載複合機種間で交信性を確認しています。対応機については、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- IP ファクス（SIP）の設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「SIP 設定」および「11 IP ファクス（SIP）の設定」を参照してください。

IP ファクス（SIP）は、SIP サーバーや VoIP ゲートウェイと組み合わせることで、次のような通信が可能になります。



■SIP サーバー

SIP サーバーを利用すれば、SIP ユーザー名や電話番号で宛先を指定できます。

SIP サーバーには主に次の機能があります。

- IP ネットワーク上の本機のアドレス情報を受け取り、データベースに登録する（レジストラーサーバー）
- SIP クライアントからのリクエストやレスポンスを中継する（プロキシサーバー）

■VoIP ゲートウェイ

IP ネットワークと公衆電話回線網との間でファクス通信を中継する装置です。G3 ファクス機と通信するときに必要です。

補足

- 動作を確認している SIP サーバーは、Cisco 社製：Cisco MCS 7800 シリーズ（Cisco Unified Communications Manager6.0/6.1/7.1/8.0 搭載機）です。
- 動作を確認している VoIP ゲートウェイは、Cisco 社製：Cisco ISR 2800 シリーズ（Cisco IOS12.4 搭載機）です。
- SIP サーバーおよび VoIP ゲートウェイの設置について詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- IP ファクス（SIP）でサポートされている通信モードは G3 です。

IP ファクス（SIP）には、4 つの接続構成があります。

接続構成によって、宛先の入力形式が異なります。

■IP ファクス（SIP）機のみ（①）

IP ネットワーク（イントラネット）を使って IP ファクス（SIP）機同士で直接通信します。

IP ファクス（SIP）機同士なら、相手先の SIP 本体アドレスを指定して送信します。

宛先入力例：

SIP 本体アドレスの場合　1111@192.0.2.1

■SIP サーバー設置（②）

IP ネットワーク（イントラネット）を使って SIP サーバーを経由し、IP ファクス（SIP）機同士で通信します。

SIP サーバーでアドレス変換を行うので、IP ファクス（SIP）機に対しても、SIP ユーザー名または電話番号を指定して送信できます。

宛先入力例：

SIP ユーザー名の場合　1111

電話番号の場合　0312345678

■VoIP ゲートウェイ設置（③）

IP ネットワーク（イントラネット）上の IP ファクス（SIP）機同士の直接通信に加え、IP ネットワーク上の VoIP ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）機能を持たない G3 ファクス機と通信します。

宛先は、IP ファクス（SIP）機へは相手先の SIP 本体アドレスを、G3 ファクス機へは電話番号を指定して送信します。

宛先入力例：

SIP 本体アドレスの場合　1111@192.0.2.1

電話番号の場合　0312345678

■SIP サーバーと VoIP ゲートウェイ設置（④）

IP ネットワーク（イントラネット）上の SIP サーバーを経由した IP ファクス（SIP）機同士の通信に加え、IP ネットワーク上の VoIP ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）機能を持たない G3 ファクス機と通信します。

SIP サーバーでアドレス変換を行うので、IP ファクス（SIP）機に対しても、SIP ユーザー名または電話番号を指定して送信できます。

G3 ファクス機へは電話番号を指定して送信します。

宛先入力例：

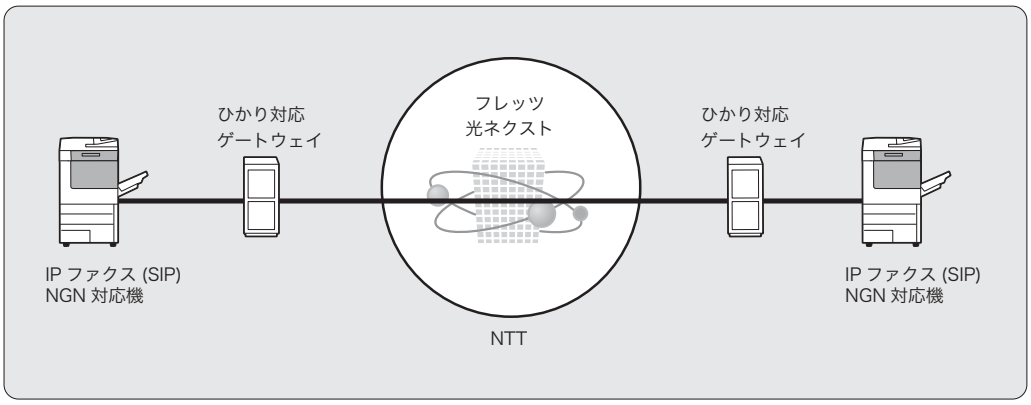
SIP ユーザー名の場合　1111

電話番号の場合　0312345678

次世代ネットワーク（NGN）を利用する

次世代ネットワーク（NGN）とは、従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた、次世代の情報通信ネットワークです。

NTT が提供する「フレッツ光ネクスト」のひかり対応ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）NGN 通信が可能になります。



補足

- NGN とは、Next Generation Network の略称です。
- 弊社の NGN 対応機同士のみ、NGN 通信が可能です（2013 年 8 月現在）。送信相手が NGN 通信に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。
- 次世代ネットワーク（NGN）の設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「次世代ネットワーク（NGN）設定」、「SIP 設定」および「11 IP ファクス（SIP）の設定」を参照してください。

■宛先の指定方法

宛先は、電話番号で指定します。

宛先入力例：　0312345678

IP ファクス（SIP）の特長

IP ファクス（SIP）の特長は、次のとおりです。

一般のファクスに近い使い方ができます

ファクスの種類で［IP ファクス（SIP)］を選択し、送信先に合わせた形式で宛先を入力するほかは、一般のファクスとほぼ同じような操作で文書を送受信できます。

また、リダイヤルや親展通信のほか、一般のファクスで利用できる機能のほとんどを IP ファクス（SIP）でも利用できます。

参照

- 利用できる機能については「ほかのファクスとの違い」(P.224) を参照してください。
- 親展受信した文書の操作については「ファクス / インターネットファクス」(P.234) を参照してください。

通信費が削減できます

■企業内ネットワーク（イントラネット）を利用する場合

イントラネットの範囲内では通信料はかかりません。本社と各拠点間などの文書の送受信に適しています。イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由して、イントラネットの外へ送信する場合でも通信費を削減できます。

■次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合

データ通信に適した料金表が適用されるため、利用状況に合った料金が選択できます。

一般のファクスにも送受信できます

イントラネット内に VoIP ゲートウェイが設置され、IP ファクス（SIP）用に設定されている場合は、公衆電話回線網に接続された G3 ファクス機にも文書を送受信できます。

補足

- VoIP ゲートウェイの設置については、ネットワーク管理者に確認してください。
- 次世代ネットワーク（NGN）は、VoIP ゲートウェイを介した、G3 ファクス機との通信はできません。
- IP ファクス（SIP）でサポートされている通信モードは G3 です。

ダイレクトファクスもできます

アプリケーションで作成した文書を、プリントと同じ操作でコンピューターから直接ファクスする、ダイレクトファクス機能を利用できます。

参照

- ダイレクトファクスの使い方については、「ファクス送信」(P.533) を参照してください。

ジョブフローの転送機能にも利用できます

ジョブフローを登録しておくと、親展ボックス内の文書またはスキャン文書を IP ファクス（SIP）で転送することができます。

ジョブメモリーにも登録できます

IP ファクス（SIP）でよく使う送信の設定をジョブメモリーに登録しておくと、ボタン 1 つで呼び出すことができます。

ほかのファクスとの違い

IP ファクス（SIP）で利用できる主な機能を一般のファクスと比べると、次のようになります。

機能	一般のファクス[*1]	企業内ネットワーク（イントラネット）			次世代ネットワーク（NGN）
		IPファクス（SIP）のみ	SIPサーバー経由	VoIPゲートウェイ経由	IPファクス（SIP）+NGN
リダイヤル	○	○	○	○	○
中継同報[*2]	○	○[*3]	○[*3]	○[*3]	○[*3]
自局名	○	○	○	×	○
通信モード	○	○	○	○	○
優先通信	○	○	○	○	○
時刻指定	○	○	○	○	○
送信シート	○	○	○	○	○
送信先部数	○	○	○	×	○
親展通信	○	○[*4]	○[*4]	○[*5]	○[*4]
Fコード通信	○	○	○	○	○
ポーリング	○	○[*6]	○[*6]	○[*6]	○[*6]
オンフック	○	×	×	×	×
手動送信	○	×	×	×	×
手動受信	○	×	×	×	×
ダイレクトファクス	○	○	○	○	○
電話番号/G3ID別ボックスセレクター	○	○[*7]	○[*7]	○[*7]	○
受信回線別ボックスセレクター	○	○	○	○	○
受信回線別排出先	○	○	○	○	○

○：利用できる　×：利用できない

[*1] 公衆電話回線網に接続された G3 および G4 ファクス機を指します。

[*2] 中継同報指示局としての機能を指します。

[*3] F コード方式の中継同報を利用できます。

[*4] FAX 信号方式および F コード方式で親展通信が利用できます。

[*5] F コード方式の親展通信が利用できます。

[*6] ポーリングおよび親展ポーリング予約を利用できます。

[*7] 企業内ネットワークでの IP ファクス（SIP）利用時に、電話会社との契約によらず、発信者電話番号を取得したい場合は、［仕様設定］>［ファクス設定］>［ファクス動作制御］>［回線 SIP 付加サービス］の［発信電話番号］を［あり］に、自局の電話番号を取得したい場合は、［仕様設定］>［ファクス設定］>［ファクス動作制御］>［回線 SIP 付加サービス］の［ダイヤルイン］を［あり］に設定します。

補足

- 利用できない機能の中には、タッチパネルディスプレイにボタンが表示されないものがあります。

IP ファクス（SIP）を送信する

IP ファクス（SIP）を送信する手順について説明します。

1 ファクスの種類から［IP ファクス（SIP)］を選択します。

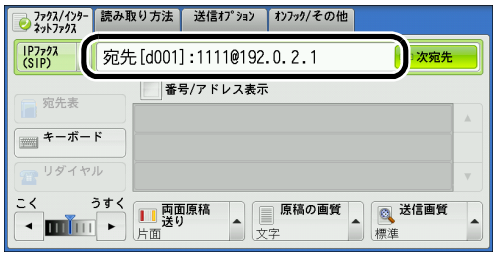


2 必要に応じて、各種機能を設定します。

参照

- 設定できる項目は、「ファクス / インターネットファクス」(P.234) を参照してください。

3 送信したい宛先を指定します。



電話番号の入力例：0312345678

SIP ユーザー名の入力例：1111

SIP 本体アドレスの入力例：1111@192.0.2.1

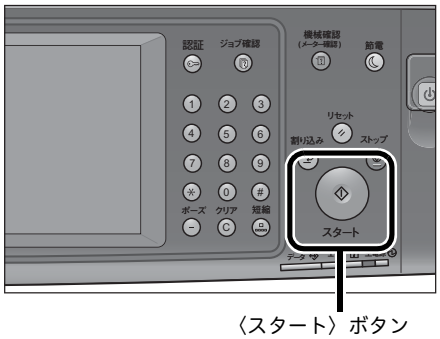
注記

- IP ファクス（SIP）の場合、送信先のファクスの種類や IP ファクス（SIP）の接続構成によって、宛先の入力形式が異なります。詳しくは、「IP ファクス（SIP）について」(P.220) を参照してください。
- 送信前に宛先をご確認のうえ、送信してください。

参照

- キーボードを使って宛先を入力するには、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。
- その他の宛先指定方法は、「ファクス / インターネットファクス」(P.234) を参照してください。
- 同報送信については、「同報送信（複数の宛先に送信する）」(P.294) を参照してください。

4 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

注記

- 原稿送り装置に原稿をセットした場合は、原稿搬送中に原稿を押さえないでください。
- 複製制限コードが検出された原稿は、ファクスできません。

補足

- 設定によっては、〈スタート〉ボタンを押したあとに、再度宛先を入力する画面が表示されることがあります。送信先に指定した宛先を、もう一度入力してください。
- 問題が発生すると、ディスプレイ上にエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。

参照

- 送信できない場合は、『管理者ガイド』の「14 トラブル対処」>「ファクスのトラブル」を参照してください。
- 送信を中止する場合は、「ファクスを中止する」(P.206) を参照してください。

IP ファクス（SIP）を受信する

特別な操作をしなくても、受信した文書は一般のファクスのように自動的にプリントされます。

参照

- 親展受信した文書の操作方法は、「受信について」(P.305) を参照してください。

らくらくファクス

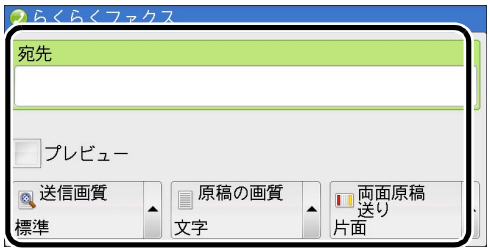
ファクス機能は、［ファクス / インターネットファクス］と［らくらくファクス］の2つの画面で設定できます。
ここでは、［らくらくファクス］画面で設定できる機能について説明します。
［らくらくファクス］では基本的な機能で簡単にファクスできます。

ダイヤル入力で宛先を指定する 228
短縮宛先番号で宛先を指定する 228
ワンタッチボタンで宛先を指定する 229
プレビュー（原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する） 231
送信画質（読み取る解像度を指定して送信する） 231
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する） 232
両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する） 232

1 メニュー画面で［らくらくファクス］を押します。



2 ［らくらくファクス］画面から、設定する機能を選択します。



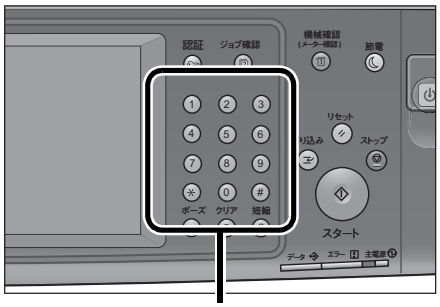
補足

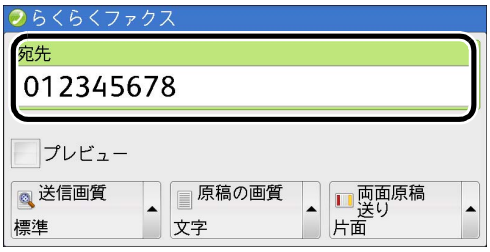
- ［らくらくファクス］では、［送信画質］、［原稿の画質］、［両面原稿送り］を設定して送信できます。［ミックスサイズ原稿送り］は［する］、［原稿の画質］は［文字］、［発信元記録］は［する］で送信されます。このほかの設定をする場合は、メニュー画面の［ファクス / インターネットファクス］で送信してください。
- ファクス機能とらくらくファクス機能との間で、画面の切り替えはできません。メニュー画面に戻ってから選択し直してください。この場合、どちらかの機能で設定した内容はクリアされます。
- ［らくらくファクス］では、外線のみ宛先指定できます。内線の宛先は指定できません。

ダイヤル入力で宛先を指定する

〈数字〉ボタンを使用して宛先を指定します。

1 宛先を、〈数字〉ボタンでダイヤル入力します。

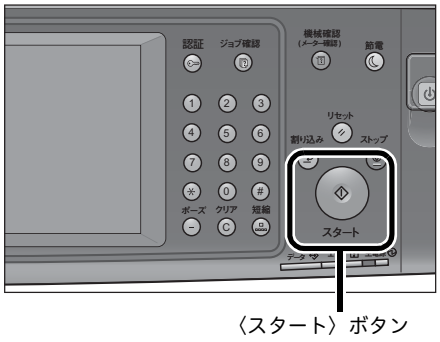




補足

- 入力を間違えたときは、〈クリア（C)〉ボタンを押して、正しい宛先を指定します。

2 〈スタート〉ボタンを押します。



短縮宛先番号で宛先を指定する

短縮宛先番号で宛先を指定できます。短縮宛先は事前に登録しておきます。

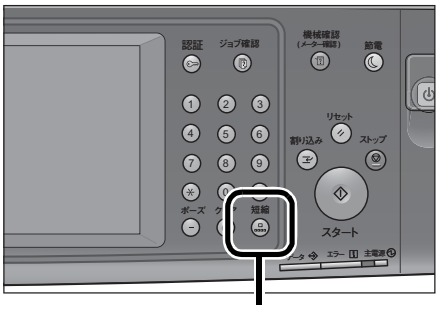
参照

- 短縮宛先番号を指定する場合は、本機側で、その番号に正しく宛先が登録されていることを確認してから実行してください。短縮宛先番号の登録方法について、詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録)」を参照してください。

補足

- 入力を間違えたときは、〈クリア（C)〉ボタンを押して、正しい宛先を指定します。
- らくらくファクスで指定できる宛先は、ファクス番号だけです。インターネットファクス、IP ファクスが登録されている短縮番号は、指定できません。

1 〈短縮〉ボタンを押して、4 桁の短縮宛先番号を入力します。

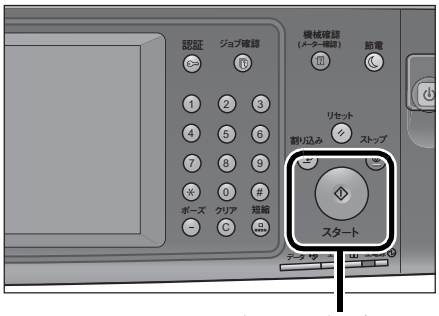


〈短縮〉ボタン

補足

- 入力を間違えたときは、〈クリア（C)〉ボタンを押して、正しい宛先を指定します。

2 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

3 タッチパネルディスプレイに表示された宛先を確認し、［はい（スタートする)］を押します。

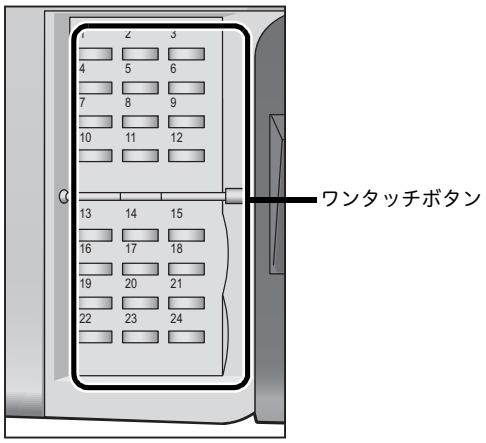
ワンタッチボタンで宛先を指定する

ワンタッチボタンで宛先を指定できます。
ワンタッチボタンは、短縮宛先番号 0001 ～ 0070、または 0001 ～ 0060 に登録されている番号に対応しています。
たとえば、短縮宛先番号 0001 に登録されている場合は、〈1〉を押します。

補足

- ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。工場出荷時は、［タイプ 1］で登録されています。
  - ［タイプ 1］
    1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
  - ［タイプ 2］
    1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応）

1 ワンタッチボタンを押します。タッチパネルディスプレイに、ワンタッチボタンで指定した宛先（番号）が表示されていることを確認します。



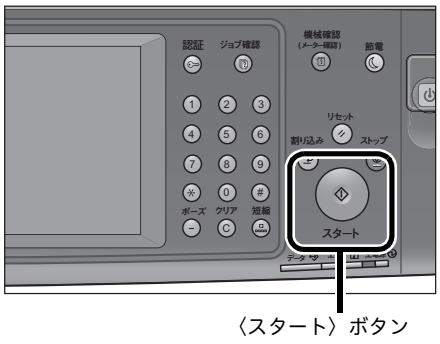
注記

- ワンタッチボタンにはセンサーが付いています。センサーによってワンタッチボタン番号が1～24、25 ～ 48、49 ～ M02 であるか判断しています。ワンタッチボタンを押すときは、パネルをめくりきって、ワンタッチパネルのパネルから手を放した状態で押してください。パネルをめくりながら、ボタンを押さないでください。
- ワンタッチボタンの付近には、ものを載せたり、液体などをこぼしたりしないように注意してください。

補足

- 短縮宛先番号 0025 以降を使用する場合は、ワンタッチパネルのパネルをめくって使用します。
- 入力を間違えたときは、〈クリア（C)〉ボタンを押して、正しい宛先を指定します。

2 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

3 タッチパネルディスプレイに表示された宛先を確認し、［はい（スタートする)］を押します。

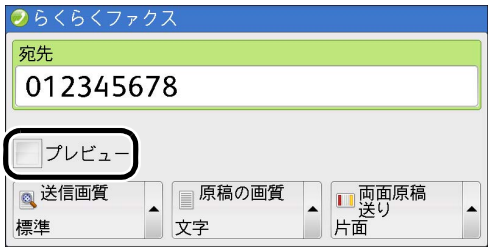
プレビュー（原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する）

ファクス送信する前、原稿の読み取り中に、直前に読み込んだ原稿を確認できます。

1 ［プレビュー］をチェックし、各項目を設定してから〈スタート〉ボタンを押します。

参照

- 詳しくは、「原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する」(P.208) を参照してください。



2 原稿の読み取り中に、直前に読み込んだ原稿を確認します。

送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）

原稿を読み取るときの解像度を設定します。

補足

- 選択した解像度で原稿を読み取っても、送信先に選択した解像度での受信能力がない場合、解像度を自動的に送信先の能力に合わせて送信するため、高画質が得られないことがあります。
- 解像度が高いほど送信に時間がかかるので、通常は［超高画質（400dpi）］までをお勧めします。

参照

- 短縮宛先番号ごとに、［送信画質］を設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

1 ［送信画質］を選択します。



■標準

普通の原稿を送信するときに選択します。
（200×100 画素 /25.4mm 相当）

■高画質

小さな文字や細かい図がある原稿を送信するときに選択します。
（200×200 画素 /25.4mm 相当）

■超高画質（400dpi）

精密な図などがある原稿を送信するときに選択します。
（400×400 画素 /25.4mm）

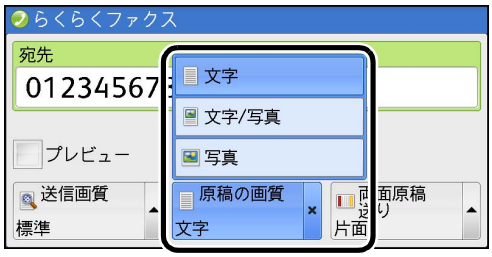
■超高画質（600dpi）

より精密な図などがある原稿を送信するときに選択します。
（600×600 画素 /25.4mm）

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

文字の原稿、写真が入っている原稿など、原稿の内容に応じて画質を選択します。

1 ［原稿の画質］を選択します。



■文字

文字の原稿を送信するときに選択します。

■文字 / 写真

文字と写真が混在した原稿を送信するときに選択します。文字領域と写真領域を自動的に判断し、領域ごとに原稿の画質が設定されます。

■写真

写真の原稿を送信するときに選択します。

補足

- 縮小して読み取ると、写真画像部分に縞模様などが出ることがあります。

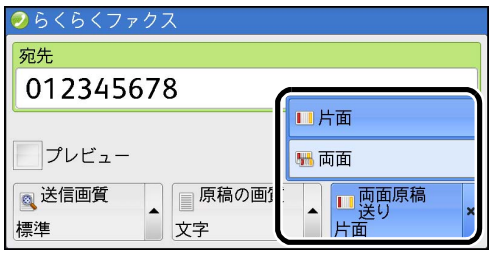
両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）

片面 / 両面原稿を両面や片面に読み取って送信します。

補足

- 両面原稿のうら面は、おもて面と向きが合うように読み取り、データを回転します。

1 ［両面原稿送り］を選択します。



■片面

片面原稿を送信するときに選択します。

■両面

全ページを両面送信するときに選択します。

■両面（白紙スキップ）

白紙ではない原稿面だけを送信したいときに選択します。原稿のおもて、うらを意識せずに送信できます。

注記

- 白紙検知機能を有効にし、ファクス両面読み取りの［両面（白紙スキップ）］を選んだ場合、相手機の状況によっては、ファクス送信時に画像が欠ける場合があります。たとえば、送信側で［両面（白紙スキップ）］を設定し A4 で送信したとき、相手機側で A4 サイズの用紙に印字すると、枠消しにかかる部分の画像が欠けることがあります。
- らくらくファクスで、［両面（白紙スキップ）］を選んだ場合、自動的に［読み取り倍率］が 100% に変更されます。その後、［両面（白紙スキップ）］以外の設定に変更すると、自動的に［読み取り倍率］が［自動 %］に変わります。

補足

- ［両面（白紙スキップ）］を選択すると、［原稿の画質］が［文字］に設定されます。
- ファクスの機能を設定中に〈節電〉ボタンを押すことでも、両面白紙スキップ機能を使用するかしないかを、切り替えられます。
- 原稿によって、白紙かどうかを判定する精度が異なります。たとえば、裏写りする原稿の場合には、白紙の原稿面が白紙として判定されないことがあります。
- ［両面（白紙スキップ）］は、［白紙スキップ機能］が［有効］に設定されている場合に表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「白紙スキップ機能」を参照してください。

ファクス / インターネットファクス

ファクス機能は、［ファクス / インターネットファクス］と［らくらくファクス］の 2 つの画面で設定できます。

ここでは、［ファクス / インターネットファクス］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）（ファクスの種類を指定して送信する）.....235
内線 / 外線（回線を指定して送信する）.....235
複数の宛先に送信する.....235
宛先表を使って宛先を指定する.....236
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）.....236
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）.....241
短縮宛先番号で宛先を指定する.....242
宛先の新規登録（宛先表に登録する）.....243
ワンタッチボタンで宛先を指定する.....246
キーボードで宛先を指定する.....247
リダイヤルで宛先を指定する.....248
回線（ポート）を指定する.....249
特殊記号を入力する.....251
指定した宛先を削除 / 確認する.....252
プレビュー（読み込んだ原稿を確認する）.....252
送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）.....253
両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）.....253
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....255
送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）.....255

参照

- ［ファクス / インターネットファクス］画面に表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス画面表示設定」を参照してください。

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を押します。



2 ［ファクス / インターネットファクス］画面で機能を選択します。

補足

- 機械管理者モードの［ファクス初期表示画面］によっては、［ファクス宛先表］画面が表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス画面表示設定」>「ファクス初期表示画面」を参照してください。

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）（ファクスの種類を指定して送信する）

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）を切り替えて使用できます。

1 ドロップダウンメニューの［ファクス］、［IP ファクス（SIP）］、［インターネットファクス］から選択します。



参照

- G3 増設ポートキット 2（オプション）を装着し、仕様設定の［内線設定］で内線に使用する回線を選択している場合は、「内線 / 外線（回線を指定して送信する）」(P.235) を参照してください。

内線 / 外線（回線を指定して送信する）

オプションの G3 増設ポートキット 2 を装着し、仕様設定の［内線設定］で内線に使用する回線を選択している場合は、［外線］、［内線］を切り替えて使用できます。

1 ドロップダウンメニューの［外線］、［内線］、［IP ファクス（SIP）］、［インターネットファクス］から選択します。



複数の宛先に送信する

同一原稿を一度の操作で複数の宛先に送信する機能を、同報送信といいます。この機能を使用すると、宛先ごとに繰り返し操作する必要がなくなり、送信の手間が省けます。

参照

- 同報送信について詳しくは、「同報送信（複数の宛先に送信する）」(P.294) を参照してください。

宛先表を使って宛先を指定する

宛先表を使って、宛先を指定する方法について説明します。

宛先表には、短縮宛先番号に登録したファクス番号が表示されます。

補足

- ［ファクス宛先表］画面の［宛先の新規登録］を選択して、宛先を登録できます。詳しくは、「宛先の新規登録（宛先表に登録する）」(P.243) を参照してください。

参照

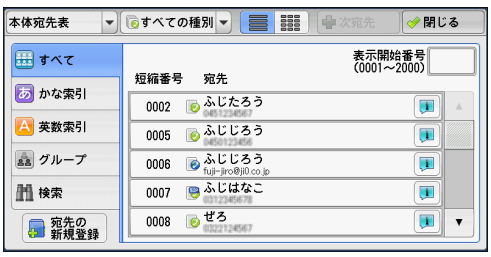
- 短縮宛先番号の登録方法について、詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

宛先表の表示画面

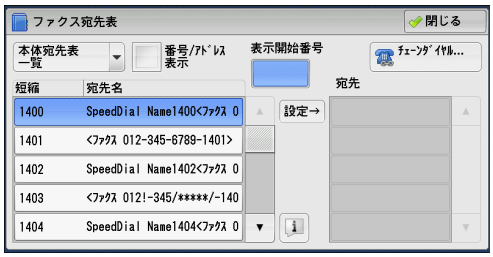
本機には、宛先表の表示画面として、［宛先表タイプ 1］と［宛先表タイプ 2］の 2 種類があります。どちらの画面を表示するかは、機械管理者モードの［宛先表タイプ］で設定できます。

参照

- 宛先表タイプの設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」>「宛先表タイプ」を参照してください。



［宛先表タイプ 1］

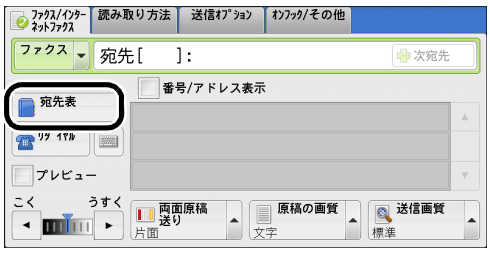


［宛先表タイプ 2］

宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）

宛先表タイプ 1 の画面で宛先を指定する場合を説明します。

1 ［宛先表］を押します。



2 宛先に指定する項目を選択します。



補足

- 宛先表の種類を切り替えるときは、［ファクス宛先表］画面のドロップダウンメニューから、［本体宛先表］、［ディレクトリサービス］のどちらかを選択します。機械管理者モードの設定によって、表示される項目が異なります。

注記

- インターネットファクス /IP ファクス（SIP）で宛先表から宛先を指定する場合、禁止に設定されているドメインでないか確認します。禁止ドメインに設定されている場合、宛先として指定することはできません。

宛先表の使い方

本体宛先表、ディレクトリサービスで宛先のファクス番号を検索できます。また、それぞれの宛先表検索では、キーワードだけを指定する［かんたん検索］と複数の条件を指定できる［詳細検索］のどちらかを利用できます。

■本体宛先表

登録されている宛先が一覧で表示されます。

■ディレクトリサービス

ディレクトリサービスを選択すると、本機に登録されている宛先表ではなく、ネットワーク上のサーバーに登録された宛先表から検索します。

■宛先の種別

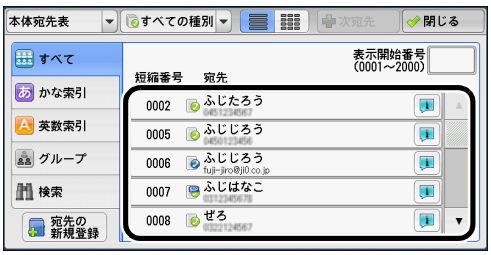
［すべての種別］、［ファクス］、［インターネットファクス］、［IP ファクス（SIP）］から選択します。表示される項目は、搭載している機能によって異なります。

■次宛先

機械管理者モードで、［チェーンダイヤル］を［使用する］に設定している場合に表示されます。［次宛先］を押して、次の宛先を指定します。

［本体宛先表］を選択した場合

1) 宛先の一覧から宛先を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- リストをスクロールしている間は、ボタンは表示されません。スクロールが停止すると、再びボタンが表示されます。

■表示開始番号

短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

■（表示件数切り替えボタン）

ボタンを押して、1 画面に表示する宛先の件数を切り替えます。

■短縮番号

短縮宛先番号が表示されます。

■宛先

登録された宛先や検索された宛先が表示されます。

■ ボタン

宛先の詳細情報を表示します。

■宛先の新規登録

新たに宛先を登録する場合に押します。キーボードや現在登録されている宛先を利用して登録できます。

参照

- 宛先表の新規登録については、「宛先の新規登録(宛先表に登録する)」(P.243)を参照してください。

■すべて

宛先表に登録されているファクス、インターネットファクスの宛先を、一覧で表示します。

■かな索引

宛先表に索引文字が登録されている宛先を、五十音順に表示します。

■英数索引

宛先表に索引文字が登録されている宛先を、アルファベット順に表示します。

■グループ

宛先表に登録されている宛先グループを、一覧で表示します。

参照

- 宛先グループの登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先グループ登録」を参照してください。

■検索

［かんたん検索］または［詳細検索］から選択できます。［かんたん検索］では、指定したキーワードで検索します。［詳細検索］では、条件に一致する宛先を検索します。

補足

- ［詳細検索］では、複数の条件を組み合わせて指定できます。
- ［かんたん検索］では、［宛先名］、［宛先（ファクス番号）］または［宛先（メールアドレス）］のいずれかに、指定したキーワードを含む宛先が検索されます。

［ディレクトリサービス］を選択した場合

補足

- CentreWare Internet Services の［フィルター設定］画面から検索フィルターを有効にすると、［宛先名］、［ファクス番号］、［補助項目］を設定せずにキーワードだけで検索できます（「かんたん検索」）。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

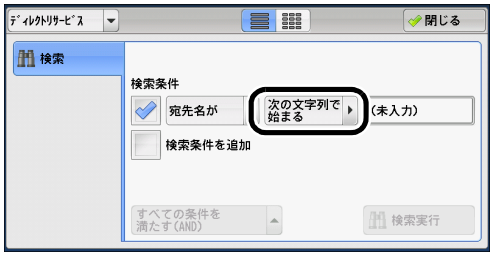
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

1) 左側のドロップダウンリストから、検索対象の項目を選択します。



検索対象は、［宛先名が］、［ファクス番号が］、［インターネットファクスアドレスが］、［IP ファクス（SIP）番号が］から選択できます。

2) 右側のドロップダウンリストから、詳細条件を選択します。



詳細条件は、［次の文字列で始まる］、［次の文字列で終わる］、［次の文字列を含む］、［次の文字列と同じ］、［登録されている］から選択できます。

3) ［登録されている］以外を選択した場合は、入力ボックスを押して、検索文字列を入力します。

補足

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.97）を参照してください。

■検索条件

実行する検索条件を選択して、チェックマークを付けます。

■検索条件を追加

チェックボックスを押すと、新しい検索条件を設定できます。

補足

- 複数の検索条件を設定している場合、［すべての条件を満たす（AND)］または［いずれかの条件を満たす（OR)］を、ドロップダウンリストから選択できます。

■宛先名が

宛先名をキーワードにして検索します。詳細条件を選択して入力ボックスを押すと、キーワードを入力する画面が表示されます。半角で 32 文字、全角で 16 文字以内で、キーワードを入力します。

（例：富士太郎）

■ファクス番号が

ファクス番号をキーワードにして検索します。詳細条件を選択して入力ボックスを押すと、キーワードを入力する画面が表示されます。半角で 60 文字、全角で 30 文字以内で、キーワードを入力します。

■インターネットファクスアドレスが

インターネットファクスのアドレスをキーワードにして検索します。詳細条件を選択して入力ボックスを押すと、キーワードを入力する画面が表示されます。半角で 128 文字以内で、キーワードにするメールアドレスを入力します。

（例：myhost@example.com）

■IP ファクス（SIP）番号が

IP ファクス（SIP）の電話番号、または SIP ユーザー名、SIP 本体アドレスを、キーワードにして検索します。詳細条件を選択して入力ボックスを押すと、キーワードを入力する画面が表示されます。半角で 128 文字以内で、キーワードにするメールアドレスを入力します。

（電話番号の入力例：0312345678）

（SIP ユーザー名の入力例：1111）

（SIP 本体アドレスの入力例：1111@192.0.2.1）

■検索実行

検索が実行されます。該当する宛先が一覧で表示されます。

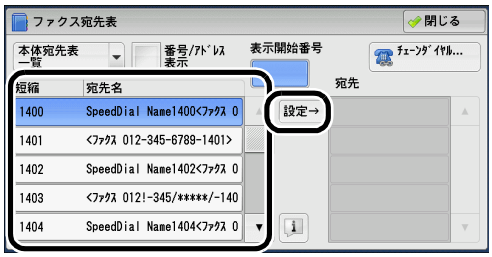
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）

宛先表タイプ 2 の画面で宛先を指定する場合を説明します。

1 ［宛先表］を押します。



2 宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。



補足

- 複数の宛先を指定するときは、連続して指定します。
- 宛先表の種類を切り替えるときは、［ファクス宛先表］画面のドロップダウンメニューから、［本体宛先表一覧］、［本体宛先表　文字 / 番号指定］、［グループ宛先表一覧］、［ディレクトリサービス検索］のどれかを選択します。機械管理者モードの設定によって、表示される項目が異なります。

注記

- インターネットファクス /IP ファクス（SIP）で宛先表から宛先を指定する場合、禁止に設定されているドメインであるか確認します。禁止ドメインに設定されている場合、宛先として指定することはできません。

宛先表の使い方

本体宛先表一覧、本体宛先表 文字 / 番号指定、グループ宛先表一覧、ディレクトリサービス検索で宛先のファクス番号を検索できます。

参照

- 宛先表の短縮宛先番号の開始番号は、機械管理者モードで設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」>「表示開始番号 - ファクス」を参照してください。

■本体宛先表一覧

登録されている宛先が一覧で表示されます。宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■本体宛先表 文字 / 番号指定

短縮宛先番号登録時に指定した文字や番号を、番号、またはグループ名で検索します。宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。

■グループ宛先表一覧

あらかじめ登録した宛先グループ番号で検索します。宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

参照

- 宛先グループの登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先グループ登録」を参照してください。

■ディレクトリサービス検索

ディレクトリサービス検索を選択すると、本機に登録されている宛先表ではなく、ネットワーク上のサーバーに登録された宛先表から検索します。［宛先名］、［ファクス番号］、［補助項目］を任意に設定し、［検索実行］を押します。宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。

■表示開始番号

短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

■ ボタン

詳細を確認したい項目を選択し、 ボタンを押します。

■チェーンダイヤル

ワンタッチボタン、短縮ボタン、宛先表のそれぞれに登録してある番号と〈数字〉ボタンで入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定できます。［次宛先］ボタンは使いません。

■番号 / アドレス表示

チェックボックスをオンにすると、宛先欄に宛先名が表示されません。

短縮宛先番号で宛先を指定する

短縮宛先番号で宛先を指定できます。短縮宛先は事前に登録しておきます。

補足

- ［ファクス宛先表］画面の［宛先の新規登録］を選択して、宛先を登録できます。詳しくは、「宛先の新規登録（宛先表に登録する）」(P.243) を参照してください。
- グループまたはワイルドカードに含まれる短縮宛先番号の中で、すでに回線が指定されている宛先がある場合でも、［ファクス / インターネットファクス］画面の［回線選択］ボタンで回線を指定しているときは、［回線選択］ボタンで指定した回線で送信されます。詳しくは、「［回線選択］ボタンで回線を選択する」(P.250) を参照してください。

参照

- 短縮宛先番号を指定する場合は、本機側で、その番号に正しく宛先が登録されていることを確認してから実行してください。短縮宛先番号の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

ワイルドカード（〈＊〉ボタンまたは［*］）を短縮番号の下 1 桁、または下 2 桁に使用できます。たとえば、次のように複数の宛先を指定できます。

- 下 1 桁に使用する場合

入力例	指定できる短縮番号	指定できる件数
000*	0001 ～ 0009	9 件
001*	0010 ～ 0019	10 件
010*	0100 ～ 0109	10 件
100*	1000 ～ 1009	10 件

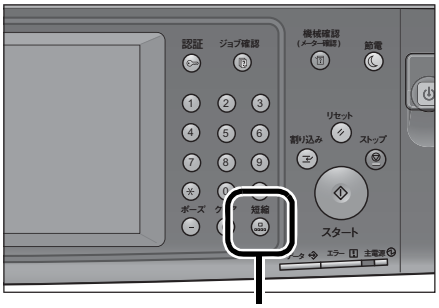
- 下 2 桁に使用する場合

入力例	指定できる短縮番号	指定できる件数
00**	0001 ～ 0099	99 件
01**	0100 ～ 0199	100 件
10**	1000 ～ 1099	100 件

補足

- 一度に指定できる宛先の最大数は、次のとおりです。
  - 短縮宛先番号指定：600 か所
  - 〈数字〉ボタンと短縮宛先番号の組み合わせ：600 か所
- 短縮宛先番号は 4 桁で表示されます。仕様設定で［短縮番号入力の自動確定］を［一定時間経過後確定する］に設定している場合、たとえばアスタリスクを「**」と入力すると、自動的に先頭にゼロ（0）が付き、「00**」と表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「短縮番号入力の自動確定」を参照してください。
- ワイルドカードは短縮番号の下 1 桁、または下 2 桁に使用できます。「*100」、「**10」、「1*00」などは、指定できません。

1 〈短縮〉ボタンを押して、4 桁の短縮宛先番号を入力します。複数の宛先を指定するときは、この手順を繰り返します。



〈短縮〉ボタン

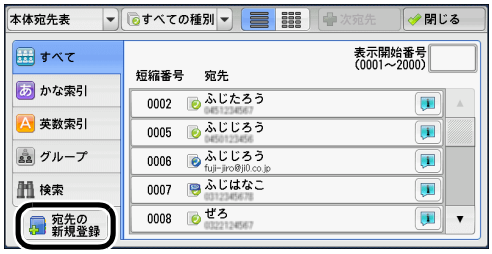
宛先の新規登録（宛先表に登録する）

新たに宛先を入力して登録したり、基本画面で指定している宛先を利用して宛先を登録したりできます。

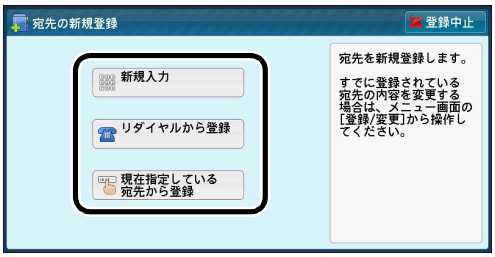
補足

- 機械管理者モードの設定や、すでに登録されている宛先数によっては、［宛先の新規登録］が表示されない場合があります。この場合は、設定状況や宛先登録数について機械管理者に確認してください。

1 ［宛先の新規登録］を押します。



2 宛先の登録方法を選択します。



■新規入力

キーボードを使って新たに保存先を入力します。

■リダイヤルから登録

リダイヤルから、新規登録する宛先を選択します。

補足

- リダイヤル宛先がない場合は選択できません。

■現在指定している宛先から登録

基本画面で指定している宛先から、新規登録する宛先を選択します。

補足

- 指定している宛先が無い場合は選択できません。

［新規入力］を選択した場合

3 タッチパネルディスプレイに表示されたキーボードを使って、宛先を、128 桁以内で入力します。

4 ［次へ］を押します。

補足

- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

［リダイヤルから登録］を選択した場合

3 新規登録する宛先を選択します。

補足

- 短縮番号、グループ、同報宛先は登録できません。

4 ［次へ］を押します。

補足

- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

［現在指定している宛先から登録］を選択した場合

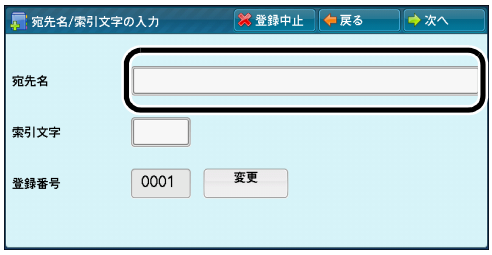
3 新規登録する宛先を選択します。

補足
- 短縮番号、グループ、同報宛先は登録できません。

4 ［次へ］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

5 ［宛先名］を選択して、表示されたキーボードを使って宛先名を入力し、［決定］を押します。



参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

6 索引文字を変更する場合は、［索引文字］を選択して、表示されたキーボードを使って入力し、［決定］を押します。宛先表で検索するときに使用するキーワードとして、ひらがな、英数のうちどれか 1 文字を索引文字として登録できます。

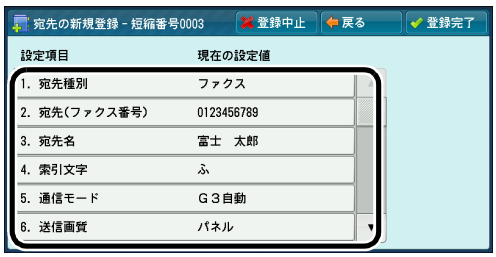
参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

7 登録番号を変更する場合は、［変更］を押して登録する番号を選択し、［決定］を押します。

8 ［次へ］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

9 設定する項目を選択し、設定します。



次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（ファクス番号）
- 宛先（メールアドレス）
- 宛先名

- 索引文字
- 通信モード
- 送信画質
- 送信シート
- 最大蓄積サイズ
- 時刻指定
- 親展通信
- F コード通信
- 中継同報
- 課金情報 - 昼間料金、課金情報 - 夜間料金、課金情報 - 深夜料金
- インターネットファクスプロファイル
- S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）

補足
- ［登録中止］を押すと、入力していた情報は破棄され、［ファクス宛先表］画面に戻ります。

参照
- 表示される項目は、宛先種別によって異なります。設定項目の詳細については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

10 すべての設定が終わったら、［登録完了］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

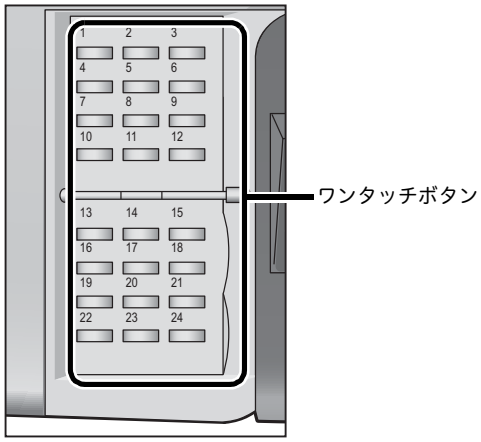
ワンタッチボタンで宛先を指定する

ワンタッチボタンで宛先を指定できます。
ワンタッチボタンは、短縮宛先番号の 0001 ～ 0070、または 0001 ～ 0060 に登録されている番号に対応しています。
たとえば、短縮宛先番号 0001 に登録されている場合は、ワンタッチボタンの〈1〉を押します。

参照
- 短縮宛先番号の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

補足
- ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。
  - ［タイプ 1］
    1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
  - ［タイプ 2］
    1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応）
- 大型カラー操作パネル（オプション）は対応していません。

1 ワンタッチボタンを押します。タッチパネルディスプレイに、ワンタッチボタンで指定した宛先（番号）が表示されていることを確認します。



注記

- ワンタッチボタンにはセンサーが付いています。センサーによってワンタッチボタン番号が 1 ～ 24 、25 ～ 48 、49 ～ M02 であるか判断しています。ワンタッチボタンを押すときは、パネルをめくりきって、ワンタッチパネルのパネルから手を放した状態で押してください。パネルをめくりながら、ボタンを押さないでください。
- ワンタッチボタンの付近には、ものを載せたり、液体などをこぼしたりしないように注意してください。

補足

- 複数の宛先を指定するときは、連続してワンタッチボタンを押します。
- 短縮宛先番号
  0025 以降を使用する場合は、ワンタッチパネルのパネルをめくって使用します。

キーボードで宛先を指定する

キーボードを使用して宛先を指定できます。

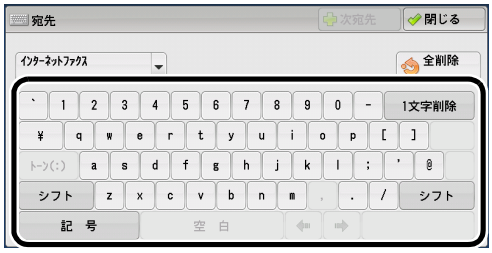
注記

- 機械管理者モードで、特定の宛先への送信が禁止されている場合は、キーボードボタンは使用できません。

1 キーボードボタンを押します。



2 タッチパネルディスプレイに表示されたキーボードを使って、128 文字以内で宛先を指定します。



補足

- 上記の画面で回線番号を指定しても、［ファクス / インターネットファクス］画面の［回線選択］ボタンで回線を指定しているときには、［回線選択］ボタンで指定した回線で送信されます。詳しくは、「［回線選択］ボタンで回線を選択する」(P.250) を参照してください。

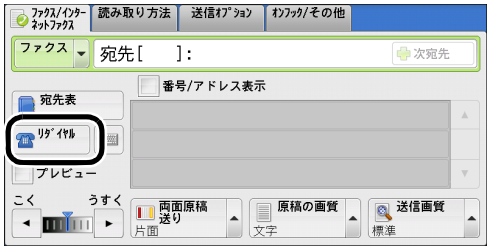
リダイヤルで宛先を指定する

リダイヤルで宛先を指定できます。

注記

- 機械管理者モードで、特定の宛先への送信が禁止されている場合は、［リダイヤル］ボタンは使用できません。

1 ［リダイヤル］を押します。



2 宛先に指定する項目を選択し、［閉じる］を押します。



回線（ポート）を指定する

G3 増設ポートキット 2（オプション）を装着している場合には、回線（ポート）を指定して送信できます。回線ごとに自局情報を登録できるため、回線を使い分けたいときに使用します。

キーボードボタンまたは［回線選択］ボタンから回線を選択することができます。

注記

- 機械管理者モードで、特定の宛先への送信が禁止されている場合は、キーボードボタンは使用できません。

参照

- 自局情報の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「自局情報」を参照してください。

キーボードから回線を指定する

1 キーボードボタンを押します。



2 ［シフト］を押して、［<］、ポート番号、［>］、宛先電話番号の順で入力します。

各ポートに対応している回線は次のとおりです。

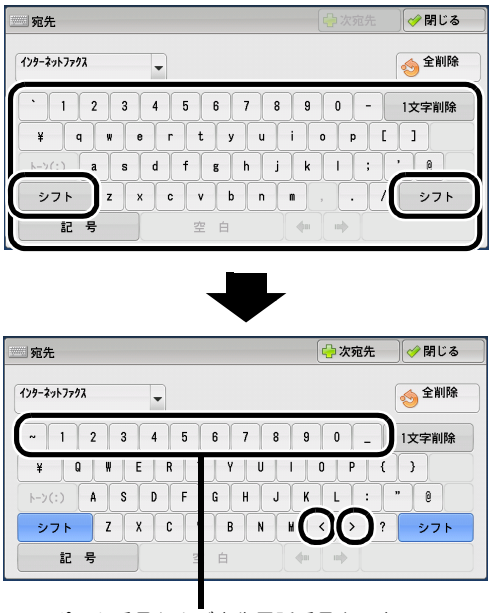
< 1 >：回線 1

< 2 >：回線 2

< 3 >：回線 3

例：回線 1 の場合

< 1 > 03××××××××



ポート番号および宛先電話番号を入力

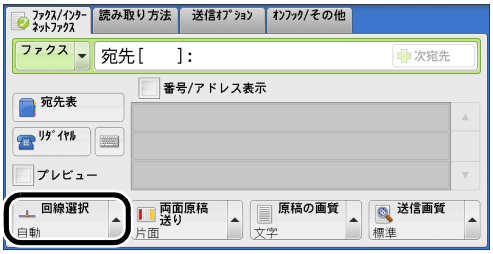
［回線選択］ボタンで回線を選択する

［回線選択］ボタンで回線を選択することができます。

補足

- 内線が設定されている短縮宛先番号を指定した場合や、ドロップダウンメニューから［内線］を選択した場合は、［回線選択］ボタンの設定は優先されず、内線に設定されている回線で送信されます。内線が設定されている短縮宛先番号については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

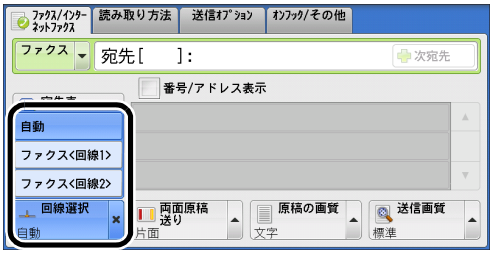
1 ［回線選択］ボタンを選択します。



補足

- ［回線選択］ボタンを表示するには、機械管理者モードの設定が必要です。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス画面表示設定」>「ファクス回線選択の表示」を参照してください。
- ［回線選択］ボタンを表示している場合、送信濃度は［読み取り方法］タブで設定できます。詳しくは、「送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）」(P.263) を参照してください。

ポップアップメニューから回線を選択します。



補足

- 宛先種別が［インターネットファクス］または［IP ファクス（SIP)］の場合、［回線選択］ボタンで回線を選択できますが、設定は無効となり、選択した回線で送信することはできません。
- ユーザーによって任意の回線名を設定することができます。回線名は、全角 13 文字以内で設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス画面表示設定」>「ファクス回線選択の表示」を参照してください。

■機械管理者モードで内線が設定されていない場合

- 自動
- ファクス < 回線 N>

■機械管理者モードで内線が設定されている場合

- 自動
- 外線 < 回線 N>

補足

- 機械管理者モードで内線が設定されている場合は、内線を設定した回線は表示されません。内線設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「内線設定」を参照してください。
- [ファクス < 回線 N>] または [外線 < 回線 N>] を選択した場合は、指定したすべてのファクス宛先または外線宛先に、選択した回線で送信されます。指定した宛先の中に、宛先種別が内線に設定された宛先がある場合は、その宛先のみが内線で送信されます。

特殊記号を入力する

宛先を指定するときに、タッチパネルディスプレイから特殊記号を入力して、次の機能を使用できます。

機能	ボタン	働き	入力方法
外線のダイヤルトーンを検出する	[=] (ダイヤルトーン検出記号)	内線から外線に切り替えるときに、外線のダイヤルトーン（発信音）を検出します。 3 秒以上のポーズが必要な場合に、ポーズ記号よりも確実に待機させることができます。	**1.** [ファクス / インターネットファクス] 画面のキーボードボタンを押して、キーボードを表示します。 **2.** [記号] を押します。 **3.** [=] を押します。 (例) 0=123 …
ポーズを入れる	[−] または 〈ポーズ (-)〉	ポーズを入れる場合に設定します。 (1 ポーズ =3 秒) 繰り返し使用して、6 秒、9 秒･･･のポーズを設定することもできます。	〈ポーズ (-)〉ボタンを押します。「0 」などの外線発信番号のあとに入力します。 (例) 0-123 … 0--123 …
パスワード送信をする	[S]	パスワードを設定すると、パスワードが ID 番号と一致したときだけ送信が始まります。	**1.** [ファクス / インターネットファクス] 画面のキーボードボタンを押して、キーボードを表示します。 **2.** [英 / 数] を押します。 **3.** [S] を押します。 (例) 0312345678S12345678
DTMF 信号を送出する	[!]	DTMF 方式の通信をするときに使用します。	**1.** [ファクス / インターネットファクス] 画面のキーボードボタンを押して、キーボードを表示します。 **2.** [記号] を押します。 **3.** [!] を押します。 (例) 0311123456!123#

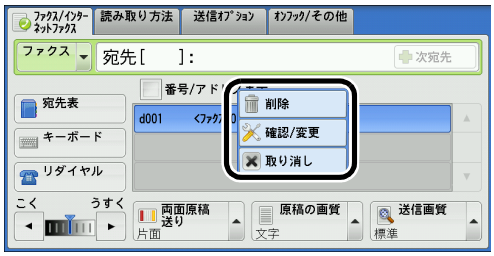
参照

- DTMF 方式を使用する場合、特殊記号を使います。DTMF 方式については、「親展通信（親展通信する）」(P.278)、「同報」(P.294) を参照してください。

指定した宛先を削除 / 確認する

表示されるポップアップメニューで、宛先の削除と確認ができます。

1 選択された宛先から、削除または確認する項目を選択します。



2 ポップアップメニューで、任意の項目を選択します。

■削除

宛先を削除します。

■確認 / 変更

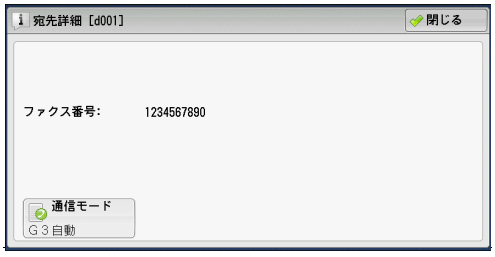
［宛先詳細］画面が表示されます。宛先や短縮番号などの確認ができます。

■取り消し

ポップアップメニューの表示を取り消します。

［宛先詳細］画面

宛先を確認します。



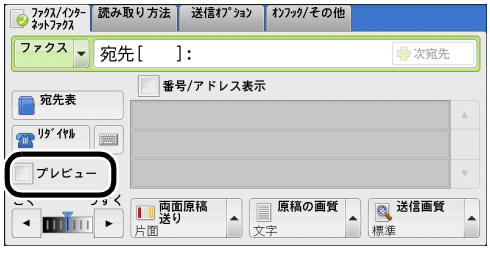
■通信モード

送信先の機能に応じて通信モードを選択します。

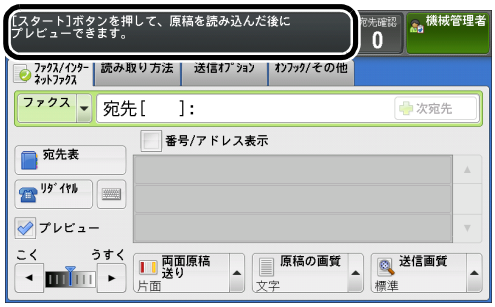
プレビュー（読み込んだ原稿を確認する）

ファクス送信する前、原稿の読み取り中に、直前に読み込んだ原稿を確認できます。

1 ［プレビュー］をチェックします。



以下のようなメッセージが表示されます。各項目を設定してから〈スタート〉ボタンを押します。



参照

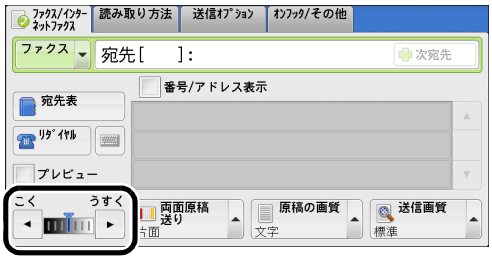
- 詳しくは、「原稿の読み取り中に読み込んだ原稿を確認する」(P.208) を参照してください。

2 原稿の読み取り中に、直前に読み込んだ原稿を確認します。

送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）

送信濃度を 7 段階で調整できます。

1 [◀] [▶] で濃度を調整します。



両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）

片面 / 両面原稿を両面や片面に読み取って送信します。

補足

- 両面原稿のうら面は、おもて面と向きが合うように読み取り、データが回転します。

1 原稿の読み取り方法を選択します。



■片面

片面原稿を送信するときに選択します。

■両面 （左右開き）

両面のおもてとうらで、イメージの上下が同じ場合に選択します。

■両面 （上下開き）

両面のおもてとうらで、イメージの上下が逆転している場合に選択します。

■詳細設定

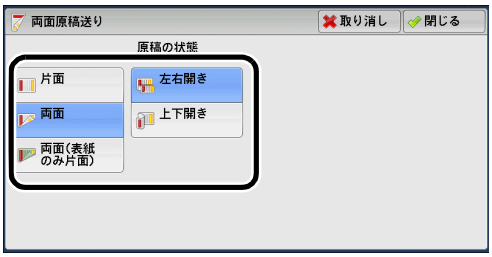
［両面原稿送り］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［両面原稿送り］画面」(P.254) を参照してください。

［両面原稿送り］画面

1 原稿のどの面を送信するか、および原稿の状態を選択します。



■片面

片面原稿を送信するときに選択します。

■両面

全ページを両面送信するときに選択します。

■両面（表紙のみ片面）

1 枚めの原稿だけ片面、それ以外の原稿は両面送信するときに選択します。表紙のうらが白紙になっているときなどに使用します。

■両面（白紙スキップ）

白紙ではない原稿面だけを送信したいときに選択します。原稿がおもてかうらのどちらかを意識せずに送信できます。

注記

- 白紙スキップ機能を有効にし、ファクス両面読み取りの［両面（白紙スキップ）］を選んだ場合、相手機の状況によっては、ファクス送信時に画像が欠ける場合があります。たとえば、送信側で［両面（白紙スキップ）］を設定し、A4 で送信したとき、相手機側で A4 サイズの用紙に印字すると、枠消しにかかる部分の画像が欠けることがあります。

補足

- ［両面（白紙スキップ）］を選択すると、設定が次のように変更されます。
  - ［原稿の画質］：［文字］
  - ［送信濃度］：［ふつう］
  - ［読み取り倍率］：［100%］
- ファクスの機能を設定中に〈節電〉ボタンを押すことでも、両面白紙スキップ機能を使用するかしないかを、切り替えられます。
- 原稿によって、白紙かどうかを判定する精度が異なります。たとえば、裏写りする原稿の場合には、白紙の原稿面が白紙として判定されないことがあります。

参照

- ［両面（白紙スキップ）］は、［白紙スキップ機能］が［有効］に設定されている場合に表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「白紙スキップ機能」を参照してください。

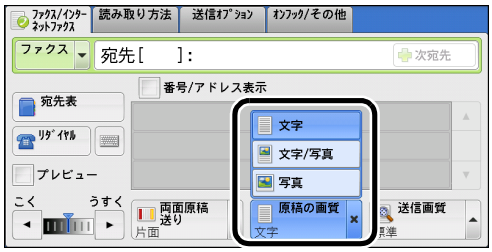
■原稿の状態

［左右開き］は、原稿のおもてとうらで、イメージの上下が同じ場合に選択します。［上下開き］は、原稿のおもてとうらで、イメージの上下が逆転している場合に選択します。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

文字の原稿、写真が入っている原稿など、原稿の内容に応じて画質を選択します。

1 原稿の画質を選択します。



■文字

文字の原稿を送信するときに選択します。

■文字 / 写真

文字と写真が混在した原稿を送信するときに選択します。文字領域と写真領域を自動的に判断し、領域ごとに原稿の画質が設定されます。

■写真

写真の原稿を送信するときに選択します。

補足

- 縮小して読み取ると、写真画像部分に縞模様などが出ることがあります。

送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）

原稿を読み取るときの解像度を設定します。

補足

- 選択した解像度で原稿を読み取っても、送信先に選択した解像度での受信能力がない場合、解像度を自動的に送信先の能力に合わせて送信するため、高画質が得られないことがあります。
- 解像度が高いほど送信に時間がかかるので、通常は［超高画質（400dpi）］までをお勧めします。

参照

- 短縮宛先番号ごとに、［送信画質］を設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

1 送信画質を選択します。



■標準

普通の原稿を送信するときに選択します。
（200×100 画素 /25.4mm 相当）

■高画質

小さな文字や細かい図がある原稿を送信するときに選択します。
（200×200 画素 /25.4mm 相当）

■超高画質（400dpi）

精密な図などがある原稿を送信するときに選択します。
（400×400 画素 /25.4mm）

■超高画質（600dpi）

より精密な図などがある原稿を送信するときに選択します。
（600×600 画素 /25.4mm）

読み取り方法

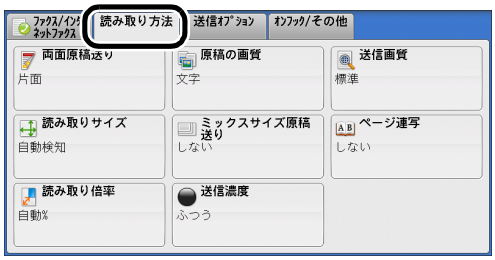
［読み取り方法］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）.....257
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....257
送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）.....258
読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定して送信する）.....258
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）.....259
ページ連写（見開き原稿を左右に分割して送信する）.....260
読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定して送信する）.....262
送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）.....263

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を押します。



2 ［読み取り方法］画面で、機能を選択します。



両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）

この機能は、［ファクス / インターネットファクス］画面の［両面原稿送り］と同じです。

参照
- 詳しくは、「両面原稿送り（原稿の両面を読み取って送信する）」(P.253) を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

この機能は、「ファクス / インターネットファクス」画面の「原稿の画質」と同じです。

参照
- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」(P.232) を参照してください。

送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）

この機能は、［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信画質］と同じです。

参照
- 詳しくは、「送信画質（読み取る解像度を指定して送信する）」(P.231)を参照してください。

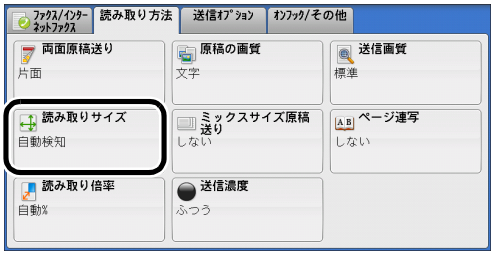
読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定して送信する）

原稿の読み取りサイズを指定して送信できます。

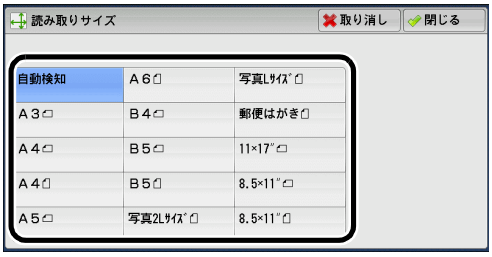
非定形サイズの原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズで読み取りたい場合は、原稿サイズを指定します。余白を付けたり、余分な部分を削除したりして送信できます。

参照
- 読み取りサイズボタンのうち、［自動検知］以外の読み取りサイズの初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「読み取りサイズボタン」を参照してください。

1 ［読み取りサイズ］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■自動検知

原稿サイズを自動で認識します。

	原稿送り装置	原稿ガラス
自動検知できる原稿サイズ	B5、B5□、B4、A5、A5□、A4、A4□、A3、8.5×11 インチ、8.5×11 インチ□、11×17 インチ、十六開□、八開	B6、B6□、B5、B5□、B4、A6、A5、A5□、A4、A4□、A3

補足
- 原稿サイズを自動検知できない場合は、原稿サイズを入力する画面が表示されます。

参照

- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

■定形サイズ

あらかじめ設定されているサイズから選択します。

参照

- 表示する原稿サイズは変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「読み取りサイズボタン」を参照してください。

ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）

いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズの用紙に送信したり、１つのサイズにそろえて送信したりできます。この場合は、原稿送り装置に原稿をセットします。

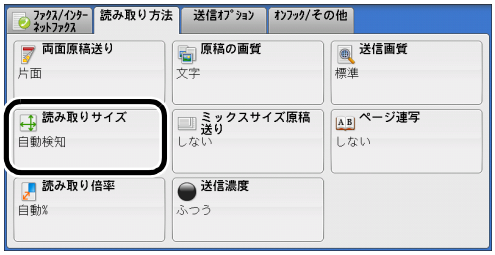
注記

- 原稿はよこ置きにセットしてください。ただし、A5 または B5 の原稿は、原稿サイズを自動検知させるために、必ずたて置きにセットしてください。
- 紙づまりの原因になるので、左上の角をきちんとそろえてセットしてください。
- 推奨する組み合わせは、A4 たてと A3 よこ、B5 たてと B4 よこです。推奨以外の組み合わせでは、原稿が斜めに引き込まれるなどして正しく読み取れないことがあります。

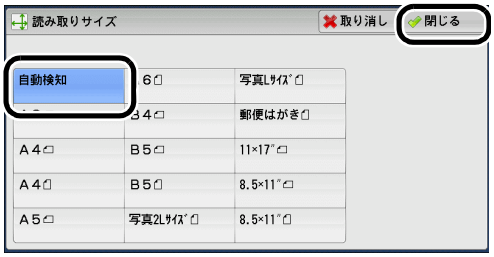
補足

- ミックスサイズ原稿送り機能を使用する場合、［読み取り方法］画面の［読み取りサイズ］を、必ず［自動検知］に設定してください。

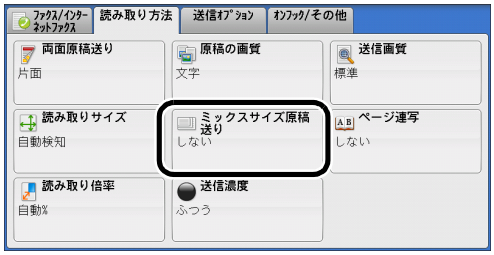
1 ［読み取りサイズ］を押します。



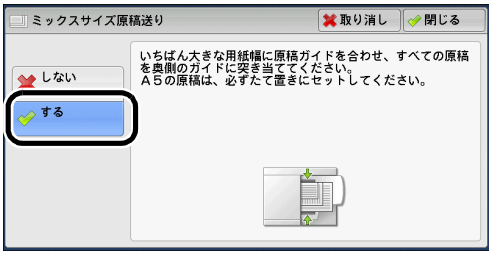
2 ［自動検知］が選択されていることを確認し、［閉じる］を押します。［自動検知］が設定されていなければ、［自動検知］を選択して、［閉じる］を押します。



3 ［ミックスサイズ原稿送り］を押します。



4 ［する］を押します。



■しない

原稿サイズがすべて同じ場合に選択します。

■する

異なるサイズの原稿を送信する場合に、本機が自動的にそれぞれの原稿サイズを認識します。

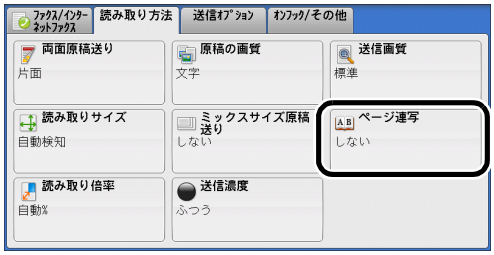
ページ連写（見開き原稿を左右に分割して送信する）

本などの冊子の見開きページを、別々に読み取って送信できます。
原稿の左右ページを分けて送信したいときに便利です。

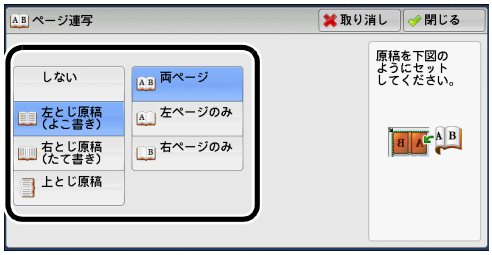
補足

- この機能は、原稿送り装置では使用できません。
- 定形でない原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。

1 ［ページ連写］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

ページ連写をしません。

■左とじ原稿（よこ書き）

左ページから始まる見開き原稿の左ページから読み取ります。

■右とじ原稿（たて書き）

右ページから始まる見開き原稿の右のページから読み取ります。

■上とじ原稿

上ページから始まる見開き原稿の上のページから読み取ります。

■両ページ

両方のページをページ順に読み取ります。

■左ページのみ

左ページだけを読み取ります。［左とじ原稿（よこ書き）］または［右とじ原稿（たて書き）］を選択している場合に選択できます。

■右ページのみ

右ページだけを読み取ります。［左とじ原稿（よこ書き）］または［右とじ原稿（たて書き）］を選択している場合に選択できます。

■上ページのみ

上ページだけを読み取ります。［上とじ原稿］を選択している場合に選択できます。

■下ページのみ

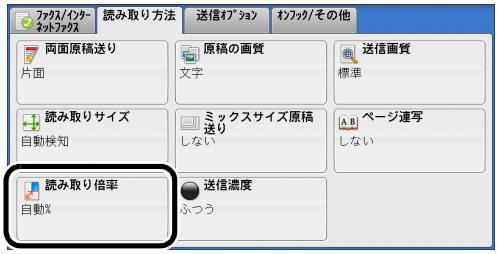
下ページだけを読み取ります。［上とじ原稿］を選択している場合に選択できます。

読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定して送信する）

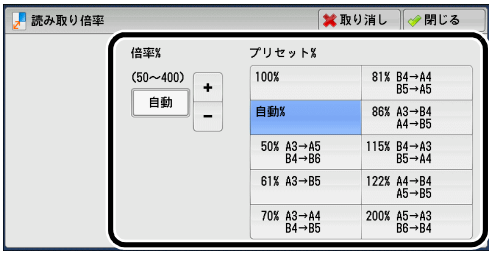
読み取った原稿を指定した倍率に拡大 / 縮小して送信できます。

注記
- 送信先によっては、指定した倍率で送信されないことがあります。

1 ［読み取り倍率］を押します。



2 倍率を選択するか、数値を入力します。



補足
- 倍率を指定した場合は、自動回転送信機能は働きません。

■倍率 %

50 ～ 400% の範囲で 1% 単位に指定します。〈数字〉ボタンで数値を入力するか、［+］［−］を押して数値を指定します。

■プリセット %

- 100%

  原稿と同じ大きさで読み取ります。

- 自動 %

  原稿の読み取り幅が最大蓄積サイズより大きい場合に、最大蓄積サイズに収まるように原稿の向きを自動的に回転させるか、収まるサイズまで縮小して読み取ります。

  最大蓄積サイズは、短縮ダイヤルを使用する場合は短縮宛先番号に登録されているサイズに、短縮ダイヤルを使用しない場合は A3 になります。

補足
- 原稿を自動的に回転させるかどうかは、機械管理者モードで設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「自動回転送信」を参照してください。

- 倍率

  あらかじめ設定されている倍率から選択します。

参照
- ［100%］と［自動 %］以外の読み取り倍率の初期値は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「固定倍率ボタン」を参照してください。

送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）

この機能は、［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信濃度］と同じです。

参照

- 詳しくは、「送信濃度（読み取る濃度を調整して送信する）」(P.253) を参照してください。

送信オプション

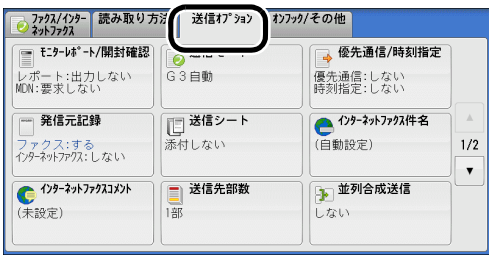
［送信オプション］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

モニターレポート / 開封確認 / 配送確認（送信結果を確認する）.....264
通信モード（通信モードを選択する）.....266
優先通信 / 時刻指定（優先させて通信する / 時刻を指定して送信する）.....268
発信元記録（こちらの名前や番号を付けて送信する）.....270
送信シート（表紙を付けて送信する）.....271
インターネットファクス件名（インターネットファクスの件名を指定する）.....273
インターネットファクスコメント （メール本文）（インターネットファクスの本文を編集する）...273
送信先部数（送信先で複数部プリントする）.....275
並列合成送信（複数の原稿を 1 枚に合成して送信する）.....277
親展通信（親展通信する）.....278
F コード通信（F コード通信をする）.....281
インターネットファクスプロファイル （インターネットファクスプロファイルを指定する）..... 285
暗号化（S/MIME で暗号化してインターネットファクスを送信する）.....286
デジタル署名 （S/MIME でデジタル署名してインターネットファクスを送信する）.....287

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を押します。



2 ［送信オプション］画面で、機能を選択します。



モニターレポート / 開封確認 / 配送確認（送信結果を確認する）

ファクス / インターネットファクスの送信結果を確認できます。

ファクスの送信結果を確認するには、モニターレポートを使用します。［モニターレポート］を設定しておくと、通信が正常に終了した場合にはモニターレポートが、通信が正常に終了しなかった場合には未送信レポートが、自動的にプリントされます。

インターネットファクスの送信結果を確認するには、開封確認（MDN）または配送確認（DSN）のどちらかを使用します。

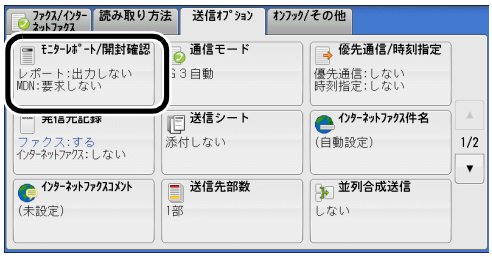
配送確認（DSN）の場合、送信した原稿が、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。開封確認（MDN）の場合、送信した原稿が、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかどうかを確認できます。

補足

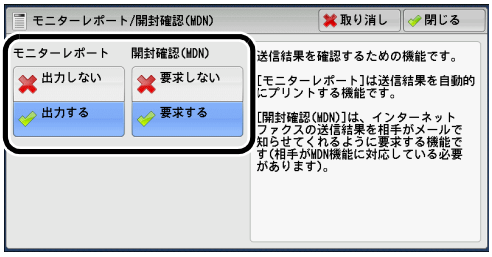
- 開封確認は、相手が MDN 機能に対応している場合に使用できます。配送確認は、相手が DSN 機能に対応している場合に使用できます。
- 開封確認と配送確認のどちらを使用するかは、機械管理者モードで設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「インターネットファクス動作制御」>「送達確認方式」を参照してください。
- 配送確認（DSN）によってメールの到着を確認できるのは、配送確認の機能に対応しているサーバーまでです。また、すべての送信経路にあるメールサーバーが、配送確認の機能に対応していない場合は配送確認できませんが、メール送信は通常どおり行われます。そのため、配送確認の結果が実際のメールの到着結果と異なることがあります。
- ［モニターレポート］を［出力する］に設定して、通信が正常に終了しなかった場合は、［未送信レポート］がプリントされます。

ここでは、MDN 機能を使用している場合を例に説明します。DSN 機能を使用している場合も手順は同じです。

1 ［モニターレポート / 開封確認］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■モニターレポート

- 出力しない

  モニターレポートを出力しません。

- 出力する

  通信が正常に終了した場合にはモニターレポートが、通信が正常に終了しなかった場合には未送信レポートが、自動的に出力されます。

■開封確認（MDN）

- 要求しない

  開封確認の機能を使用しません。

- 要求する

  開封確認の機能を使用します。送信したインターネットファクスの原稿が、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかどうかを確認できます。

■配送確認（DSN）

- 要求しない

  配送確認の機能を使用しません。

- 要求する

  配送確認の機能を使用します。送信したインターネットファクスの原稿が、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。

通信モード（通信モードを選択する）

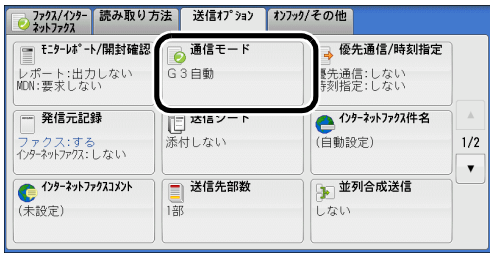
送信先の機能に応じて通信モードを選択します。

G3 は ITU-T で定められたファクス通信の規格です。

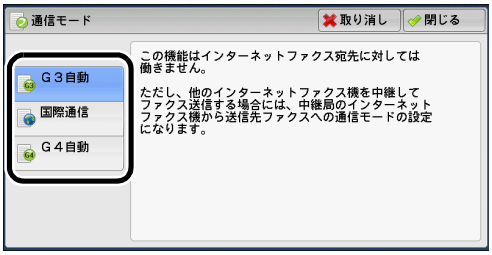
参照

- 短縮ダイヤル、ワンタッチボタン、宛先グループ番号、宛先表などを使って、短縮宛先番号に登録されている宛先を指定する場合は、それぞれの宛先に設定されている通信モードが設定され、変更はできません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- ［通信モード］の初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス機能設定初期値」>「通信モード」を参照してください。

1 ［通信モード］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■G3 自動

送信先が G3 のときに選択します。通常はこの通信モードを選択します。

送信先の受信能力に応じて、G3 Unique ECM → G3 Unique → ITU-T G3 ECM → ITU-T G3 の優先順位で自動的に切り替わります。

■国際通信

国際通信のように、雑音が多い、声が小さいなど、電話回線の状態が良くない地域の場合に選択します。

日本国内において、電話回線の状態が良くない地域に送る場合にも選択します。

■G4 自動

インターネットファクスの場合、この設定はファクスゲートウェイから送信先ファクスの間の設定になります。

国際通信について

国際通信をする場合には、電話会社などの交換機を経由して、海外とのファクス通信ができます。

補足

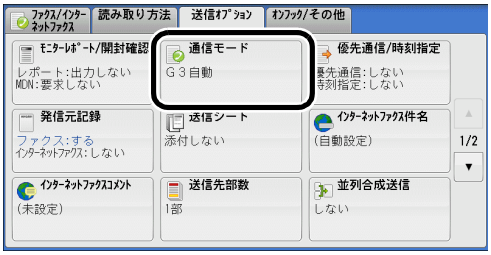
- 国際電話回線は、もともと音声を送るための回線です。音声の通信ではあまり影響のない問題が、ファクス通信にとっては障害になり、回線のノイズで画質が乱れる、通信ができない、回線が中断するなどのトラブルが発生することがあります。このような場合でも、回線が接続されていると通信料金が課金されます。回線トラブル、および通信料金については、電話会社またはご使用になるNCC（新規第 1 種電気通信事業者）にお問い合わせください。
- ［国際通信］を選択すると、より確実に送るために伝送速度が 4800bps 以下になり、通信時間が長くかかることがあります。

電話会社またはご使用になる NCC（新規第 1 種電気通信事業者）の種類と局番

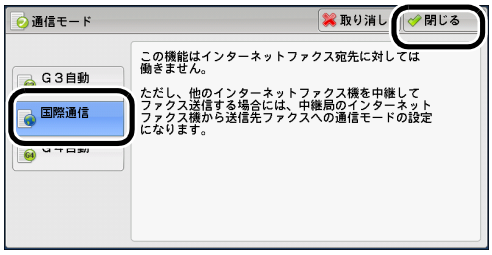
● NTT コミュニケーションズ	0033
● KDDI	001 0051（KDDI のオペレーターを通すとき）
●ソフトバンクテレコム	0061
●フュージョン・コミュニケーションズ	0038
●ぷらら	009191
●ベライゾン ビジネス	0071
● UCOM	0060

ここでは、宛先に直接ダイヤルできる地域の場合を説明します。

1 ［通信モード］を押します。



2 ［国際通信］を押し、［閉じる］を押します。



3 電話会社識別番号、「010」、国番号、地域番号、宛先のファクス番号を次のように入力します。

電話会社識別番号 | 0 | 1 | 0 | 国番号 | 地域番号 | 相手先の電話番号

注記
- 地域によっては、電話会社識別番号を入力したあと、ポーズを入力する必要があります。

補足
- マイラインのサービスを登録している場合は、電話会社識別番号を入力する必要はありません。
- 電話会社識別番号については、各電話会社にお問い合わせください。

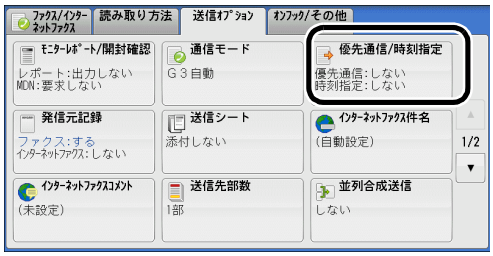
優先通信 / 時刻指定（優先させて通信する / 時刻を指定して送信する）

優先通信をすると、すでに予約されている通信よりも、優先させて送信やポーリングができます。

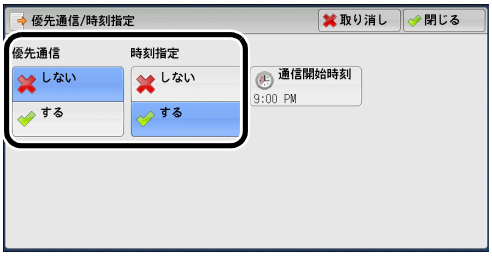
時刻指定では、指定した時刻に通信を開始します。電話料金の安い深夜を利用して通信するときなどに便利です。

補足
- この機能は、インターネットファクスでは使用できません。
- ［優先通信］と［時刻指定］は、組み合わせて設定できます。その場合、設定した時間になると優先して送信されます。

1 ［優先通信 / 時刻指定］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■優先通信

- しない

  優先通信をしません。
- する

  優先通信をします。

補足
- 通信中に優先送信を行う場合は、その通信が終わってから送信されます。
- 再送信となった場合は、設定しているリダイヤル間隔をとったあと、優先して送信されます。
- 同報先、または集信先の 1 つずつを、個別に優先させることはできません。

参照

- 実行待ちの通信を優先させることもできます。詳しくは、「ジョブ確認」(P.489) を参照してください。

■時刻指定

- しない

  時刻指定通信をしません。

- する

  時刻指定通信をします。

補足

- 時刻は 24 時間以内で 1 分単位に指定できます。ただし、日付の指定はできません。
- 短縮宛先番号ごとに、通信の［時刻指定］を設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- 同報送信をする場合で、短縮宛先番号、または宛先グループで宛先を指定したときは、短縮宛先番号に登録されている時刻指定は無効になります。
- 指定時刻に回線が使用中などの理由で送信できなかった場合は、通信可能になると送信します。

■通信開始時刻

［時刻指定 - 通信開始時刻］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［時刻指定 - 通信開始時刻］画面」(P.269) を参照してください。

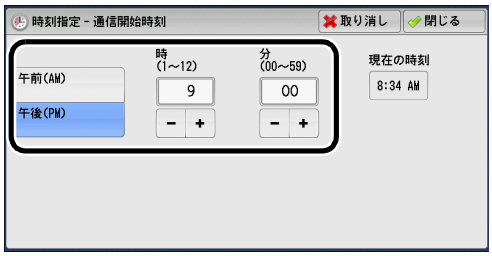
［時刻指定 - 通信開始時刻］画面

通信開始時刻を設定できます。

参照

- ［通信開始時刻］の初期値は機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス機能設定初期値」>「通信開始時刻」を参照してください。

1 ［午前（AM)］または［午後（PM)］を押します。



2 ［時］と［分］を設定します。

注記

- 指定時刻を過ぎてから〈スタート〉ボタンを押した場合は、翌日の指定時刻に通信を開始します。

発信元記録（こちらの名前や番号を付けて送信する）

発信元記録とは、送信先でプリントする文書に通信開始時刻、発信元名、宛先名、G3ID、枚数を付けて送信する機能です。

送信先で、いつどこから送信された文書なのかが確認しやすくなります。

注記

- 発信元記録は、原稿のデータの先端に上書きするため、送信先が受信する文書の先端の情報が 3 ～ 5mm 程度欠けることがあります。

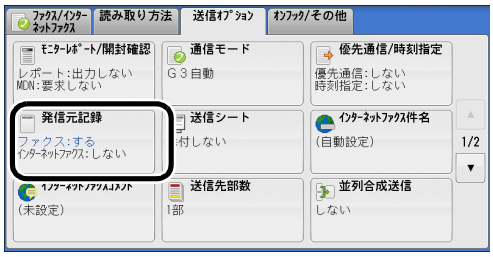
補足

- 再送された文書の場合は、送信日時の左側に「再送」と印字されます。
- 同報送信で発信元記録を付ける場合は、すべての送信先に発信元記録を付けて送信します。
- 通信開始時刻は、本機に設定されている時刻の表示形式（12 時間表示または 24 時間表示）で印字されます。時刻の設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」を参照してください。
- 宛先名は、短縮宛先番号に登録されているものだけが印字されます。
- 回線を指定して送信する場合、選択した回線に登録された発信元名が印字されます。回線を指定しない場合、発信元名は使われる回線の発信元名ではなく、従来からお使いの（本機の）発信元名になります。

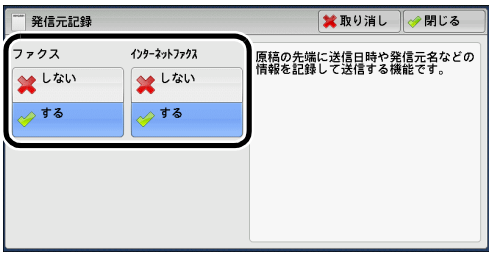
参照

- 発信元名、G3ID については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「自局情報」を参照してください。
- ［発信元記録］の初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス機能設定初期値」>「発信元記録」を参照してください。

1 ［発信元記録］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

発信元記録を付けません。

■する

発信元記録を付けます。

送信シート（表紙を付けて送信する）

送信シートとは、原稿の先頭ページに表紙を付ける機能です。

送信シートには、送信先、コメント、発信元名、本機のファクス番号、送信枚数、送信日時などが記載されます。

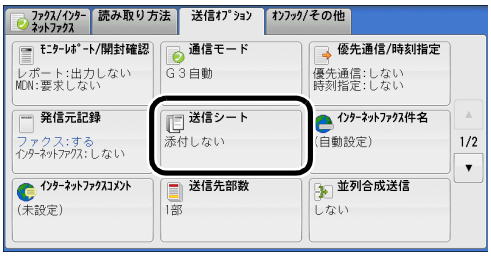
参照

- 短縮宛先番号ごとに、［送信シート］の有無を設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

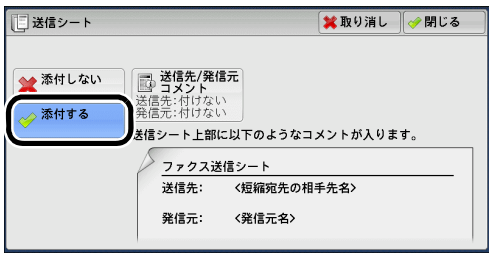
補足

- ［発信元記録］を設定した場合、送信シート自体には発信元記録は記載されません。
- 〈数字〉ボタンでダイヤル入力して同報を指示する場合は、送信シート機能は使用できません。必要な場合は、短縮宛先番号に登録してください。
- 送信シートのサイズおよび解像度は、原稿の 1 ページめと同じ設定になります。

1 ［送信シート］を押します。



2 ［添付する］を押します。



■添付しない

送信シートを添付しません。

■添付する

送信シートを添付します。

■送信先 / 発信元コメント

［送信シート - 送信先 / 発信元コメント］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［送信シート - 送信先 / 発信元コメント］画面」(P.272) を参照してください。

［送信シート - 送信先 / 発信元コメント］画面

送信先および発信元の欄に付けるコメントを選択します。

1 任意の項目を選択します。



■No. 送信先コメント

送信先の欄に登録されているコメントが表示されます。使用するコメントを選択します。コメントを付けない場合は、［付けない］を選択します。

■No. 発信元コメント

発信元の欄に登録されているコメントが表示されます。使用するコメントを選択します。コメントを付けない場合は、［付けない］を選択します。

参照

- コメントの登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「コメント登録」を参照してください。

送信シートの見方

■送信先

短縮宛先番号で指定した場合、短縮宛先番号に登録されている宛先名が記録されます。宛先名が登録されていない場合は、空白になります。

■送信先コメント

［No. 送信先コメント］で指定した番号のコメントが記録されます。

■発信元

登録されている発信元名が記録されます。

■発信元コメント

［No. 発信元コメント］で指定した番号のコメントが記録されます。

■ファクス番号

登録されている自局 ID が記録されます。G3 通信の場合は G3ID が記録されます。

■送信枚数

送信枚数が記録されます。

■送信日時

送信の開始日時が記録されます。

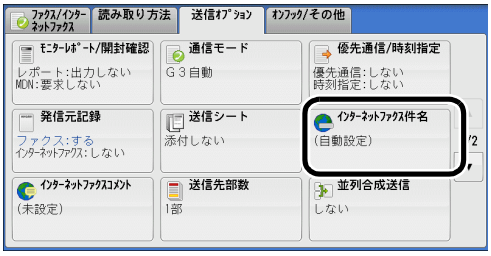
■備考

同報、親展、中継同報指示、再送信された場合に記録されます。

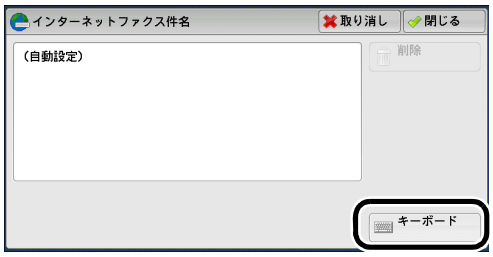
インターネットファクス件名（インターネットファクスの件名を指定する）

インターネットファクスの件名を指定します。何も入力しない場合は、自動的に設定された件名が使用されます。

1 ［インターネットファクス件名］を押します。



2 ［キーボード］を押します。



3 表示されたキーボードを使って、半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で件名を入力します。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

補足

- 件名に何も入力しない場合は、「InternetFAX ; < 発信者情報 > ; < 送信日時 >」に自動的に設定されます。

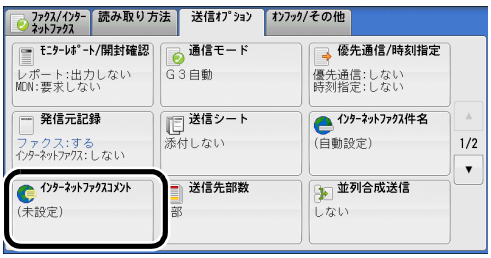
インターネットファクスコメント（メール本文）（インターネットファクスの本文を編集する）

インターネットファクスの本文を編集します。キーボードで文字を入力したり、あらかじめ登録しておいたコメントを挿入したりできます。

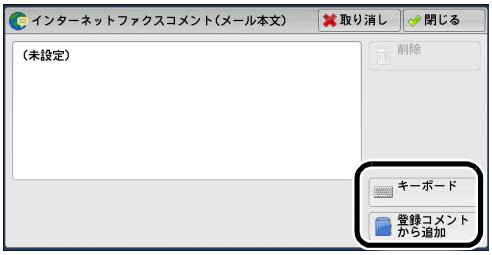
参照

- コメントの登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「コメント登録」を参照してください。

1 ［インターネットファクスコメント］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■削除

設定されているコメントを削除します。

■キーボード

表示されたキーボードを使って、半角で 256 文字、全角で 128 文字以内で本文を入力します。[登録コメントから追加] で選択したコメントに、文字を追加したり削除したりすることもできます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

■登録コメントから追加

登録されているコメントを挿入します。

[インターネットファクスコメント（メール本文）- 登録コメントから追加] 画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「[インターネットファクスコメント（メール本文）- 登録コメントから追加] 画面」(P.274) を参照してください。

[インターネットファクスコメント（メール本文）- 登録コメントから追加] 画面

使用するコメントを選択します。

1 任意の項目を選択します。



■No. コメント内容

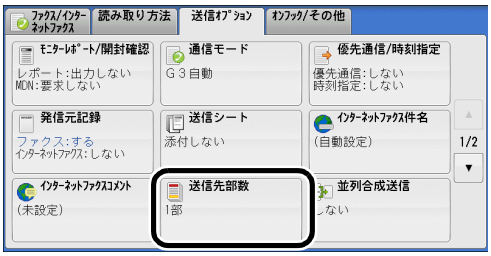
登録されているコメントが表示されます。

参照
- コメントの登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「コメント登録」を参照してください。

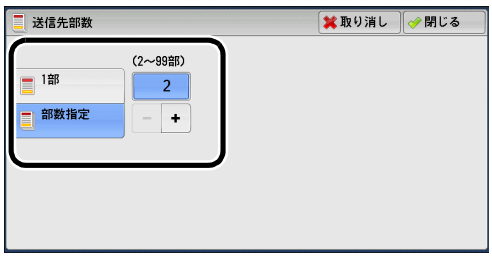
送信先部数（送信先で複数部プリントする）

送信した原稿を、送信先で複数部プリントさせることができます。

1 ［送信先部数］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■1 部

送信先で 1 部プリントします。

■部数指定

送信先でプリントする部数を、2 ～ 99 部の範囲で 1 部単位に指定できます。［+］［－］または〈数字〉ボタンで、部数を指定します。

補足

- IP ファクス（SIP）では、送信先部数を指定できません。

送信先部数機能を使用できる相手機種（ファクス機能装着機）

- ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N
- DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N
- ApeosPort-V 7080/6080/5080
- DocuCentre-V 7080/6080/5080
- ApeosPort-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-V C7780/C6680/C5580
- ApeosPort-V C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV C2263
- ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- DocuCentre-IV C5575/C4475/C3375/C2275
- ApeosPort-IV 4070/3070
- DocuCentre-IV 4070/3070

- ApeosPort-IV 7080/6080/5080
- DocuCentre-IV 7080/6080/5080
- DocuCentre-IV 3060/2060
- DocuColor 1450 GA
- ApeosPort-IV C7780/C6680/C5580
- DocuCentre-IV C7780/C6680/C5580
- ApeosPort-IV C4430
- DocuCentre-IV C4430
- DocuCentre-IV C2260
- ApeosPort-IV C5570/C4470/C3370/C2270
- DocuCentre-IV C5570/C4470/C3370/C2270
- ApeosPort-III 4000/3010
- DocuCentre-III 4000/3010
- ApeosPort-III 7000/6000/5000
- DocuCentre-III 7000/6000/5000
- ApeosPort-III C7600/C6500/C5500
- DocuCentre-III C7600/C6500/C5500
- ApeosPort-III C4405
- DocuCentre-III C4405
- ApeosPort-III C3305/C2205
- DocuCentre-III C3305/C2205
- ApeosPort-III C4405
- DocuCentre-III C4405
- DocuCentre-III 3000/2000
- ApeosPort-III C3300/C2200
- DocuCentre-III C3300/C2200
- ApeosPort-III C4400
- DocuCentre-III C4400
- ApeosPort-II 7000/6000/5000
- DocuCentre-II 7000/6000/5000
- ApeosPort-II C7500/C6500/C5400
- DocuCentre-II C7500/C6500/C5400
- ApeosPort-II 4000/3000
- DocuCentre-II 4000/3000
- ApeosPort-II C4300/C3300/C2200
- DocuCentre-II C4300/C3300/C2200
- ApeosPort C7550 I/C6550 I/C5540 I、DocuCentre C7550 I/C6550 I/C5540 I
- ApeosPort 750 I/650 I/550 I、DocuCentre 750 I/650 I/550 I
- ApeosPort C4535 I/C3626 I/C2521 I、DocuCentre C4535 I/C3626 I/C2521 I

- ApeosPort 450 I/350 I
- DocuCentre 450 I/350 I
- DocuCentre Color f450/f360/f250/a450/a360/a250
- DocuCentre Color 400/320/240/160 シリーズ
- DocuCentre f285/f235/a285/a235 シリーズ
- DocuCentre 280/230 シリーズ
- DocuCentre 402/352 シリーズ
- DocuCentre 401/351/251 シリーズ
- DocuCentre 400/350/250 シリーズ

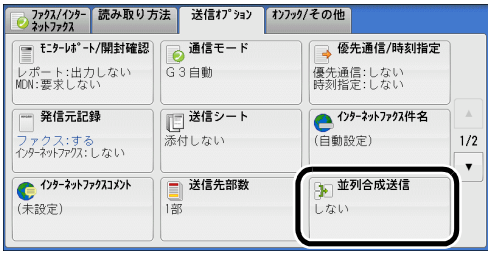
並列合成送信（複数の原稿を 1 枚に合成して送信する）

複数枚の原稿を 1 枚にまとめて送信できます。たとえば、まとめる原稿の枚数を 3 枚に指定し、原稿送り装置に 12 枚の原稿をセットした場合は、4 ページとして蓄積されます。1 枚にまとめられる原稿枚数は、2 ～ 9 枚です。

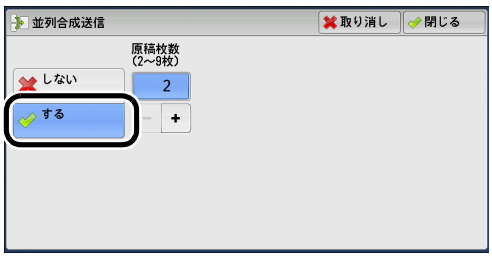
注記

- 原稿を合成した結果原稿が長くなると、受信側で分割されることがあります。
- 指定枚数よりも原稿の枚数が少ない場合は、読み取った分の原稿だけを合成して送信します。

1 ［並列合成送信］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

複数枚の原稿を 1 枚ずつ送信します。

■する

複数枚の原稿を合成して 1 枚にまとめて送信します。［原稿枚数］でまとめる原稿の枚数を指定します。［+］［−］または〈数字〉ボタンで、部数を指定します。

親展通信（親展通信する）

親展通信とは、特定の人以外に見られないように送受信する機能です。

補足

- IP ファクス（SIP）では、FAX 信号方式と F コード方式の親展通信が利用できます。F コード方式の親展通信については、「F コード通信（F コード通信をする）」（P.281）を参照してください。
- IP ファクス（SIP）で VoIP ゲートウェイ経由の場合、FAX 信号方式での親展通信も利用できません。F コード通信のみ利用できます。

■親展送信（FAX 信号方式）

本機側の操作で送信先の親展ボックスに文書を蓄積して、送信先の操作でプリントします。送信先の親展ボックス番号やパスワードの確認が必要です。

■親展ポーリング（FAX 信号方式）

相手先の親展ボックスに蓄積されている文書を、本機からの指示で送信させます。相手先の親展ボックス番号と暗証番号の確認が必要です。

親展受信した文書は、親展ボックスに蓄積されます。親展受信されると〈データ〉ランプが点灯し、親展受信レポートがプリントされます。［親展受信レポート］には、親展ボックス番号、親展ボックス名が記載されています。

注記

- 一度のポーリングで、複数の親展ボックスから、文書を送信させることはできません。

参照

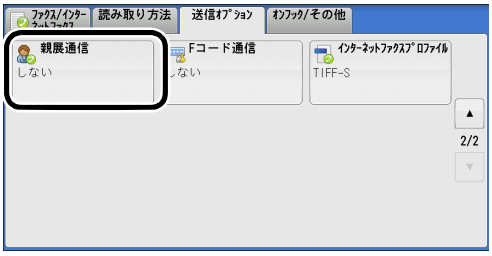
- 親展受信文書のプリント方法は、「親展ボックスの文書をプリントする」（P.429）を参照してください。
- 親展ボックスの設定によっては、親展受信した文書を自動的にプリントします。詳しくは、「ジョブフローを設定 / 実行する」（P.433）を参照してください。
- レポートのプリント設定によっては、親展受信しても、親展受信レポートがプリントされないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「親展受信レポート」を参照してください。

■親展送信（DTMF 方式）

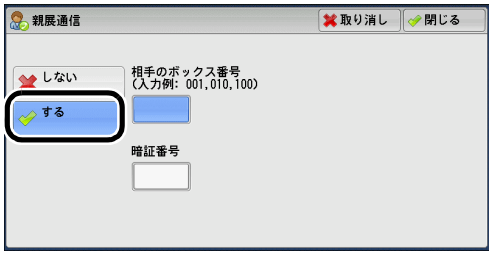
親展送信を DTMF 方式で指示する場合は、送信先の親展ボックス番号の確認が必要です。DTMF 方式で親展送信をする場合、自動と手動の 2 つの方法があります。

親展送信（FAX 信号方式）

1 ［親展通信］を押します。



2 ［する］を押します。



■しない

親展通信を使用しません。

■する

親展通信を使用します。［相手のボックス番号］を指定します。

■相手のボックス番号

［相手のボックス番号］を押して、〈数字〉ボタンで送信先の親展ボックス番号を 3 桁で入力します。

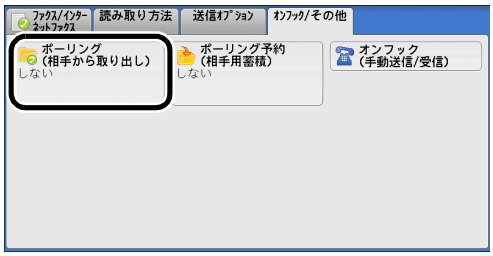
■暗証番号

［暗証番号］を押して、〈数字〉ボタンで送信先の親展ボックスに設定されている暗証番号を 4 桁で入力します。暗証番号が設定されていない場合は、入力は不要です。

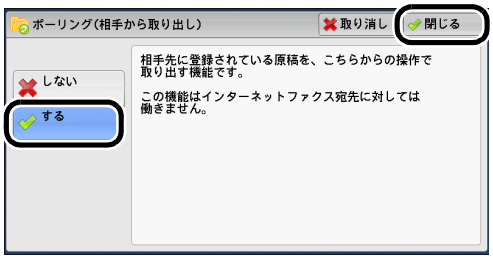
親展ポーリング（FAX 信号方式）

1 ［オンフック / その他］タブを押して、［オンフック / その他］画面を表示します。

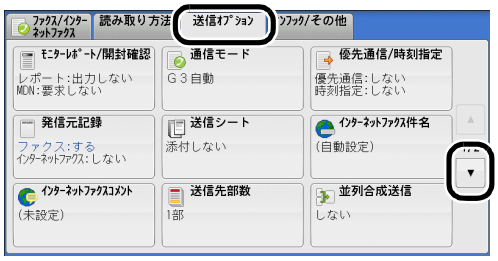
2 ［ポーリング（相手から取り出し）］を押します。



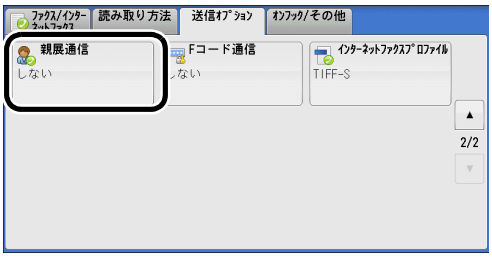
3 ［する］を押し、［閉じる］を押します。



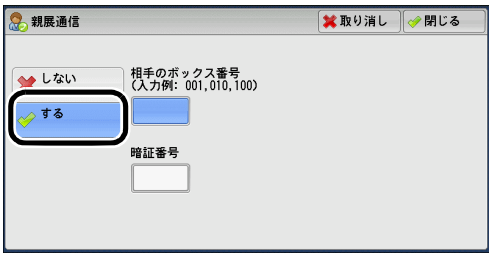
4 ［送信オプション］タブの［▼］を押して次画面を表示します。



5 ［親展通信］を押します。



6 ［する］を押します。



■しない

親展ポーリングを使用しません。

■する

親展ポーリングを使用します。［相手のボックス番号］を指定します。

■相手のボックス番号

［相手のボックス番号］を押して、〈数字〉ボタンで相手先の親展ボックス番号を 3 桁で入力します。

■暗証番号

［暗証番号］を押して、〈数字〉ボタンで相手先の親展ボックスに設定されている暗証番号を 4 桁で入力します。暗証番号が設定されていない場合は、入力は不要です。

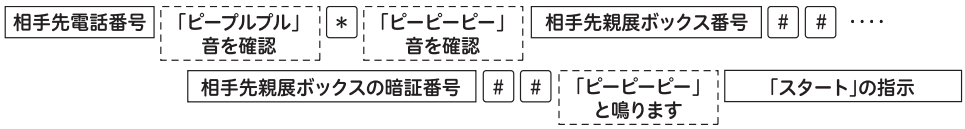
自動で親展送信する（DTMF 方式）

1 ［ファクス / インターネットファクス］画面のキーボードボタンを押して、タッチパネルディスプレイ上にキーボードを表示させ、次の形式で入力します。

相手先電話番号 ! * $ 相手先親展ボックス番号 # # ¥ 相手先親展ボックスの暗証番号 ¥ # # $

手動で親展送信する（DTMF 方式）

1 ［オンフック / その他］タブの［オンフック（手動送信 / 受信）］を押して、タッチパネルディスプレイ上にキーボードを表示させ、次の形式で入力します。



補足

- 「!」や「＊」などの記号は、タッチパネルディスプレイのキーボートを使って入力します。入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97)、および「特殊記号を入力する」(P.251) を参照してください。
- 暗証番号は必要に応じて入力してください。
- 弊社の DTMF 方式機能対応機であれば、通信できます。

参照

- 上記のダイヤル指示の形式を短縮宛先番号に登録し、短縮宛先番号を指定して親展ポーリングすることもできます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

F コード通信（F コード通信をする）

F コード通信とは、ITU-T で標準化された T.30（通信の規格のことです）のサブアドレスの使い方について、情報通信ネットワーク産業協会が定めた通信手順のことです。F コード機能を持つ機種間の通信では、他社機の場合も F コードを使用したさまざまな機能が使用できます。

F コード通信をする場合は、F コードとパスワードを使用します。F コードは、他社ではサブアドレスと呼ぶ場合もあり、登録（入力）が必要です。パスワードは、必要に応じて設定してください。

補足

- F コードを使用する場合は、あらかじめ相手機の F コードを確認する必要があります。
- 本機種間で親展送信、または親展ポーリングをする場合は、FAX 信号方式を使用することをお勧めします。

参照

- 短縮宛先番号ごとに、F コードとパスワードを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- F コード通信で、中継同報 / リモート中継同報もできます。中継同報については、「中継同報（中継局を介して同報送信する）」(P.295)、リモート中継同報については、「リモート中継同報（遠隔地に中継同報する）」(P.299) を参照してください。

F コード通信では、次の機能を使用できます。

■親展送信（F コード方式）

送信先に親展ボックスが設定されている場合に、F コード（サブアドレス）と、必要に応じてパスワードを指定すると、本機から親展送信ができます。

あらかじめ、送信先の F コード（サブアドレス）とパスワードを確認してください。

（例）送信先

F コード（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋送信先の親展ボックス番号

パスワード（必要に応じて）：送信先の親展ボックスの暗証番号

■親展ポーリング（F コード方式）

相手先に親展ボックスが設定されている場合に、F コード（サブアドレス）と、必要に応じてパスワードを指定すると、親展ポーリングができます。

本機が親展ポーリングをする場合は、あらかじめ相手先の F コード（サブアドレス）とパスワードを確認してください。

なお、本機に対して親展ポーリングをする場合は、相手先に次の情報を伝えてください。

F コード（サブアドレス）　：　0（F コード通信を表します）＋送信するデータが格納されている親展ボックス番号

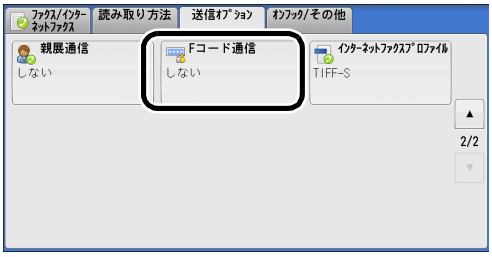
パスワード（必要に応じて）：　送信するデータが格納されている親展ボックスの暗証番号

参照

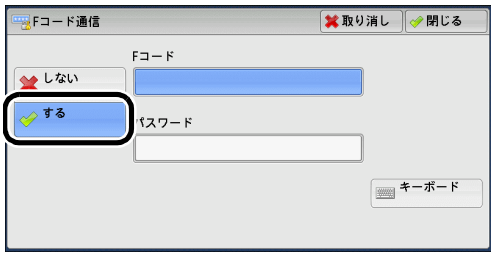
- 親展ボックスの設定によっては、親展受信した文書を自動的にプリントします。詳しくは、「ジョブフローを設定 / 実行する」(P.433) を参照してください。
- レポートのプリント設定によっては、親展受信しても、親展受信レポートがプリントされないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「親展受信レポート」を参照してください。
- 親展受信文書のプリント方法は、「親展ボックスの文書をプリントする」(P.429) を参照してください。

親展送信（F コード方式）

1 ［F コード通信］を押します。



2 ［する］を押します。



3 ［F コード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで F コードを入力します。

補足

- F コードは 20 桁まで入力できます。

4 必要に応じて［パスワード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンでパスワードを入力します。

補足

- パスワードは 20 桁まで入力できます。

■しない

F コード通信を使用しません。

■する

F コード通信を使用します。［F コード］を指定します。

■F コード

［F コード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで F コードを入力します。

補足
- F コードは 20 桁まで入力できます。

■パスワード

［パスワード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンでパスワードを入力します。パスワードが設定されていない場合は、入力は不要です。

補足
- パスワードは 20 桁まで入力できます。

■キーボード

表示されるキーボードを使って、［F コード］または［パスワード］を入力します。

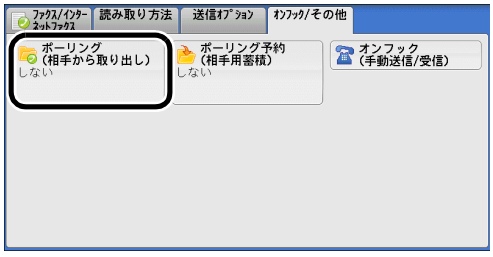
参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

5 相手先を指定して、〈スタート〉ボタンを押します。

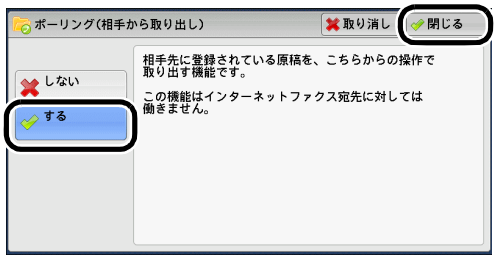
親展ポーリング（F コード方式）

1 ［オンフック / その他］タブを押して、［オンフック / その他］画面を表示します。

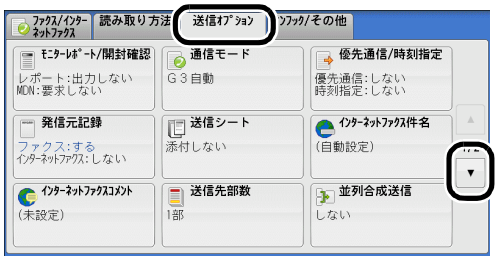
2 ［ポーリング（相手から取り出し）］を押します。



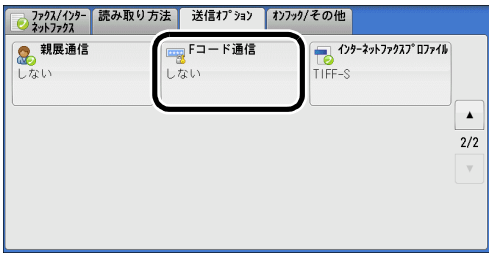
3 ［する］を押し、［閉じる］を押します。



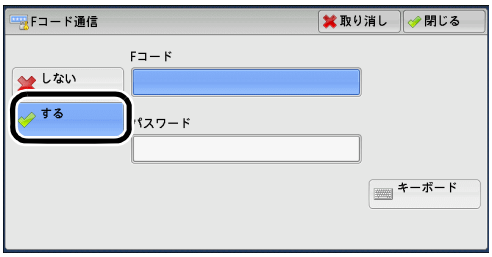
4 ［送信オプション］タブの［▼］を押して次画面を表示します。



5 ［F コード通信］を押します。



6 ［する］を押します。



7 ［F コード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで F コードを入力します。

補足
- F コードは 20 桁まで入力できます。

8 必要に応じて［パスワード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンでパスワードを入力します。

補足
- パスワードは 20 桁まで入力できます。

■しない

親展ポーリングを使用しません。

■する

親展ポーリングを使用します。

■F コード

［F コード］を押し、表示されたキーボードまたは〈数字〉ボタンで F コードを入力します。

補足
- F コードは 20 桁まで入力できます。

■キーボード

表示されるキーボードを使って、［F コード］または［パスワード］を入力します。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

■パスワード

［パスワード］を押し、〈数字〉ボタンでパスワードを入力します。パスワードが設定されていない場合は、入力は不要です。

補足

- パスワードは 20 桁まで入力できます。

9 相手先を指定して、〈スタート〉ボタンを押します。

インターネットファクスプロファイル（インターネットファクスプロファイルを指定する）

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

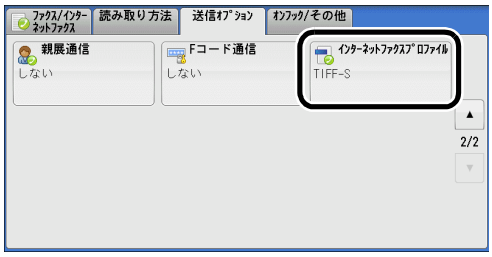
補足

- 送信先によって、処理できるプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、送信先で処理できるプロファイルを確認してください。
- プロファイルと、蓄積原稿サイズと送信画質の組み合わせで、不整合が発生した場合は、プロファイルの指定が優先されます。
- 同報送信をする場合で、宛先ごとにプロファイルが異なるときは、最も小さいサイズが最大蓄積サイズとなります。

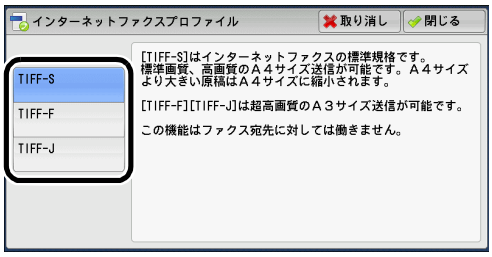
参照

- 短縮宛先番号ごとに、インターネットファクスプロファイルを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- ［インターネットファクスプロファイル］の初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス機能設定初期値」>「インターネットファクスプロファイル」を参照してください。

1 ［インターネットファクスプロファイル］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■TIFF-S

インターネットファクスの標準規格です。A4 より大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 に縮小して送信されます。

- 符号化方式 :MH
- 蓄積原稿サイズ :A4
- 送信画質 : 標準、高画質

補足

- ［ファクス / インターネットファクス］画面の［送信画質］で［超高画質（400dpi)］または［超高画質（600dpi)］を選択している場合は、［TIFF-S］では送信できません。

■TIFF-F

送信画質で超高画質を指定したり、A3、B4 の原稿を送信したりする場合に選択します。

- 符号化方式 :MMR
- 蓄積原稿サイズ :A4、B4、A3
- 送信画質 : 標準、高画質、超高画質（400dpi)、超高画質（600dpi）

補足

- ［TIFF-F］をサポートしない機種と通信した場合は、送信が終了しても、受信側では受信した画像を表示 / プリントすることができません。

■TIFF-J

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

- 符号化方式 :JBIG
- 蓄積原稿サイズ :A4、B4、A3
- 送信画質 : 標準、高画質、超高画質（400dpi)、超高画質（600dpi）

補足

- ［TIFF-J］をサポートしない機種と通信した場合は、送信が終了しても、受信側では受信した画像を表示 / プリントすることができません。

暗号化（S/MIME で暗号化してインターネットファクスを送信する）

S/MIME で暗号化して、インターネットファクスを送信できます。

暗号化してインターネットファクスを送信するときは、暗号化できる証明書が関連づけられたメールアドレスを宛先表から選択してください。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- S/MIME で暗号化してインターネットファクスを送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、『管理者ガイド』の「13 暗号化と署名機能の設定」>「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」を参照してください。
- ［暗号化］の初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス機能設定初期値」>「インターネットファクスの暗号化」を参照してください。

■しない

暗号化しないでインターネットファクスを送信します。

■する

暗号化してインターネットファクスを送信します。

デジタル署名（S/MIME でデジタル署名してインターネットファクスを送信する）

S/MIME でデジタル署名して、インターネットファクスを送信できます。

デジタル署名をすると、インターネットファクスの内容を改変されていないか、正しい送信者から送信されたインターネットファクスかどうかなどを受信者が確認できます。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- S/MIME でデジタル署名をしてインターネットファクスを送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、『管理者ガイド』の「13 暗号化と署名機能の設定」>「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」を参照してください。
- 機械管理者モードで［署名 - インターネットファクス送信］を［常に署名する］または［常に署名しない］に設定している場合は、その値によって［する］または［しない］が表示され、変更できません。［署名 - インターネットファクス送信］については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「セキュリティ設定」>「S/MIME 設定」を参照してください。

■しない

デジタル署名しないでインターネットファクスを送信します。

■する

デジタル署名してインターネットファクスを送信します。

オンフック / その他

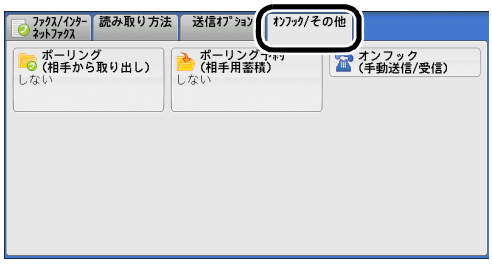
［オンフック / その他］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

ポーリング（相手先の文書を取り出す）.....288
ポーリング予約（相手先が取り出せるファクス文書を蓄積する）.....291
オンフック（相手先の応答を確認して送信する）.....292

1 メニュー画面で［ファクス / インターネットファクス］を押します。



2 ［オンフック / その他］画面で、機能を選択します。



ポーリング（相手先の文書を取り出す）

ポーリングとは、相手先に蓄積されている文書を、本機からの操作で送信させる機能です。通信料金は、本機側の負担になります。

ファクス情報サービスなどを使用するときに使用します。

参照

- ファクス情報サービスを使用する場合は、「受信について」(P.305) を参照してください。

補足

- ポーリングは、相手機によっては使用できないことがあります。
- ［送信オプション］画面の［時刻指定］と組み合わせてポーリングを指示すると、時刻を指定したポーリングができます。

■ポーリング（相手から取り出し）

相手先に蓄積されている文書を、本機からの指示で送信させます。複数の相手先から文書を取り出す集信（マルチポーリング）もできます。

■親展ポーリング（DTMF 方式）

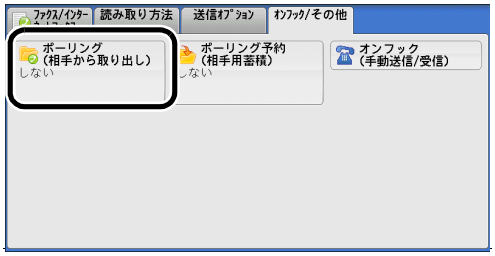
相手先の親展ボックスに蓄積されている文書を、本機からの指示で送信します。相手先に親展ボックスを登録しておく必要があります。通信する文書を親展ボックスに蓄積しておくと、暗証番号の設定によってほかの人に文書を見られることなく通信できます。

注記
- 一度のポーリングで、複数の親展ボックスから、文書を送信させることはできません。

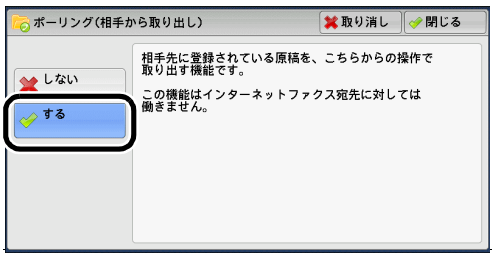
補足
- IP ファクス（SIP）では、DTMF 方式を利用できません。

ポーリング（相手から取り出し）

1 ［ポーリング（相手から取り出し）］を押します。



2 ［する］を押します。



補足
- 集信（マルチポーリング）の場合は、複数の相手先を指定します。

■しない

ポーリングを使用しません。

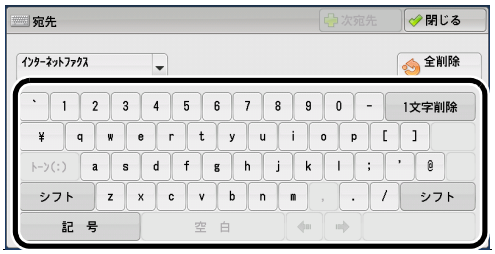
■する

ポーリングを使用します。

3 相手先を指定して、〈スタート〉ボタンを押します。

親展ポーリング（DTMF 方式）

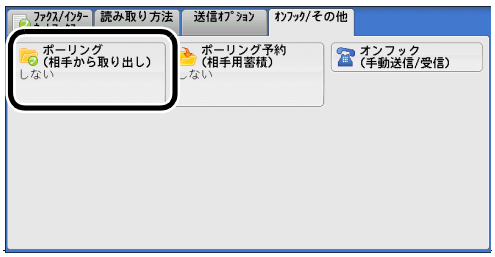
1 ［ファクス / インターネットファクス］画面のキーボードボタンを押して、タッチパネルディスプレイにキーボードを表示します。



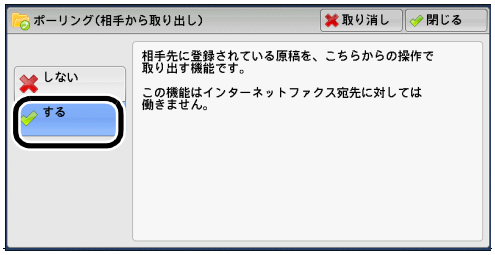
2 自動親展ポーリングまたは手動親展ポーリングに該当する形式を入力し、［閉じる］を押します。

3 ［オンフック / その他］タブを押して、［オンフック / その他］画面を表示します。

4 ［ポーリング（相手から取り出し）］を押します。



5 ［する］を押します。



■しない

親展ポーリングを使用しません。

■する

親展ポーリングを使用します。

■自動で親展ポーリングする場合

相手先電話番号 ! ＊ $ 相手先親展ボックス番号 ＊ ＊ ¥ 相手先親展ボックスの暗証番号 ¥ # # $

■手動で親展ポーリングする場合

相手先電話番号 「ピープルプル」音を確認 ＊ 「ピーピーピー」音を確認 相手先親展ボックス番号 ＊ ＊ ‥‥

相手先親展ボックスの暗証番号 # # 「ピーピーピー」と鳴ります 「スタート」の指示

補足

- 「!」や「＊」などの記号は、タッチパネルディスプレイのキーボートを使って入力します。入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) および「特殊記号を入力する」(P.251) を参照してください。
- 暗証番号は必要に応じて入力してください。
- 弊社の DTMF 方式機能対応機であれば、指示できます。

参照

- 上記のダイヤル指示の形式を短縮宛先番号に登録し、短縮宛先番号を指定して親展ポーリングすることもできます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

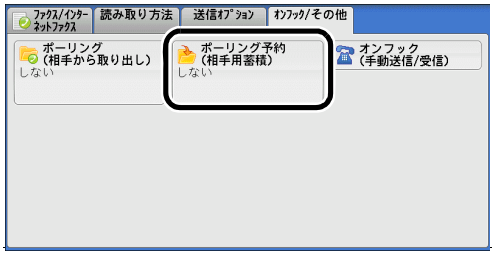
ポーリング予約（相手先が取り出せるファクス文書を蓄積する）

ポーリング予約とは、本機に原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信できるようにすることです。ポーリング予約には、ポーリング予約と親展ポーリング予約の 2 種類の方法があります。

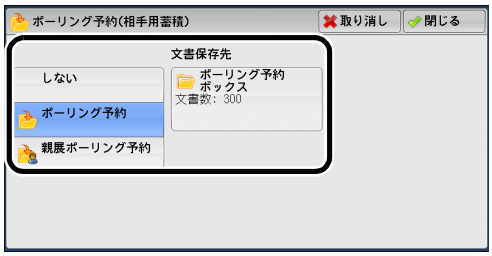
参照

- ポーリング予約文書を、送信後に自動的に削除するように設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「ポーリング予約文書の自動削除」を参照してください。

1 ［ポーリング予約（相手用蓄積）］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

ポーリング予約をしません。

■ポーリング予約

相手先からの指示で送信する文書を、本機のポーリング予約ボックスに蓄積しておきます。

■親展ポーリング予約

相手先からの指示で送信する文書を、本機の親展ボックスに蓄積しておきます。送信する文書を親展ボックスに蓄積しておくと、暗証番号の設定によって、ほかの人に文書を見られることなく送信できます。

参照

- 親展ボックスはあらかじめ登録しておく必要があります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ボックス登録」を参照してください。

■文書保存先

- ［ポーリング予約］を押した場合

  ［ポーリング予約ボックス］が表示されます。［ポーリング予約ボックス］を押すと、［ポーリング予約ボックス］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［ポーリング予約ボックス］画面」(P.292) を参照してください。

- ［親展ポーリング予約］を押した場合

  ［親展ボックス指定］が表示されます。［親展ボックス指定］を押すと、［親展ボックス］画面が表示されます。ポーリング予約文書を保存する親展ボックスを選択します。

参照

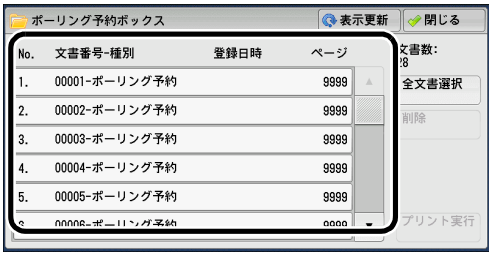
- 親展ボックスを選択する方法は、「親展ボックスを選択する」(P.422)を参照してください。親展ポーリングした文書を確認する方法については「親展ボックスの文書を確認 / 操作する」(P.423) を参照してください。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

［ポーリング予約ボックス］画面

ポーリング予約した文書をプリントしたり削除したりできます。

1 プリント / 削除する文書を選択します。選択できるのは、1 文書、または全文書です。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■表示更新

ポーリング予約ボックス内の文書が更新されます。

■全文書選択

ポーリング予約ボックス内のすべての文書が選択できます。

■削除

選択した文書を削除します。確認の画面が表示されたら、画面の内容を確認して、［はい（削除する）］を押します。

■プリント実行

選択した文書をプリントします。

オンフック（相手先の応答を確認して送信する）

手動送信の場合に使用します。

手動送信とは、受話器（ハンドセット（オプション））またはオンフックの状態で、相手先の応答を確認して送信する方法です。

この場合、ラインモニターの音量を「大」にすることをお勧めします。

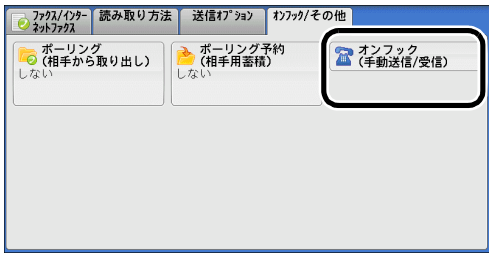
補足

- 複数ページを送信するときに、2 ページめ以降でエラーが発生した場合、1 ページめの文書は異常終了になることがあります。
- IP ファクス（SIP）では、オンフックを利用できません。

参照

- ラインモニターの音量の変更方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ラインモニター音」を参照してください。

1 受話器を上げる、または［オンフック（手動送信 / 受信）］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■送信 / 受信切り替え

ドロップダウンメニューで手動送信と手動受信を切り替えます。

- 手動送信：相手先の応答を確認して送信します。
- 手動受信：ファクス情報サービスなどを、手動で受信するとき使用します。

■英 / 数

アルファベットや数字の画面が表示されます。アルファベットや数字を使って、宛先を指定できます。

補足

- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。
- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、［：］（トーン）は表示されません。ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出したいとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、［：］（トーン）を押します。

■記号

記号の画面が表示されます。

記号を使って、宛先を指定できます。

■回線切断終了（回線切断）

操作を終了します。

同報

ここでは、同報送信と中継同報を設定する手順について説明します。

同報送信（複数の宛先に送信する）.....294
中継同報（中継局を介して同報送信する）.....295
リモート中継同報（遠隔地に中継同報する）.....299
中継同報を利用できる機種について.....302

同報送信（複数の宛先に送信する）

同報送信は、同一原稿を一度の操作で複数の宛先に送信できる機能です。宛先ごとに繰り返し操作する必要がなくなり、送信の手間が省けます。

G3 増設ポートキット 2（オプション）を装着している場合は、増設した回線を使用して、同時に複数の送信をする一斉同報ができます。

同報送信を指示すると、送信終了後に［同報レポート / 集信レポート］がプリントされます。

補足

- ファクス、インターネットファクス、または IP ファクス（SIP）の宛先を混在して指定して、1 つのジョブを同報送信できます（混在同報）。
- 一度に指定できる宛先の最大数は、次のとおりです。
  - 〈数字〉ボタンによるダイヤル入力：200 か所
  - 短縮宛先番号指定：600 か所
  - 〈数字〉ボタンによるダイヤル入力と短縮宛先番号指定の組み合わせ：600 か所
- 複数の宛先の中で、すでに回線が指定されている宛先がある場合でも、［ファクス / インターネットファクス］画面の［回線選択］ボタンで回線を指定しているときは、［回線選択］ボタンで指定した回線で送信されます。詳しくは、「［回線選択］ボタンで回線を選択する」（P.250）を参照してください。
- 短縮宛先番号の0001～0070、または0001～0060はワンタッチボタン1～70、または1～60に対応しています。詳しくは、「操作パネル」（P.80）を参照してください。
- 同報送信をすると、［送信シート］と［親展通信］は、操作パネルで指示しても無効になります。［送信シート］と［親展通信］を使用したい場合は、各宛先を短縮宛先番号に登録し、そのときにそれぞれ設定してください。
- ［モニターレポート］は指定できません。同報 / 集信レポートで、通信結果を確認してください。

■番号 / アドレス表示

チェックボックスをオンにすると、宛先欄に宛先名が表示されません。

■同報する

誤同報送信を抑止するために、複数宛先を指定する前に同報するかどうかの設定を行うことができます。

参照

- ［同報する］は［同報切り替えボタンの表示］が［する］に設定されている場合に表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「同報切り替えボタンの表示」を参照してください。

1 1 つめの宛先を指定します。



補足

- 宛先にファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）を混在させて指定する場合は、ドロップダウンメニューから宛先ごとのファクスの種類を選択します。

2 ［次宛先］を押します。

3 次の宛先を指定します。

4 手順 2 ～ 3 を繰り返します。

5 〈スタート〉ボタンを押します。

6 確認画面が表示されるので、送信する場合は［はい（スタートする）］を押します。

中継同報（中継局を介して同報送信する）

中継同報は、中継局機能を持つファクスを介して、複数の宛先に送る機能です。宛先が遠距離に複数ある場合、その 1 つを中継局にして、そこから複数の宛先に同報します。遠距離に送信先が多い場合、中継同報を使用すると通信料金が軽減できます。

また、中継同報を同時に複数指定することもできます。これをマルチ中継同報と呼びます。

補足

- IP ファクス（SIP）では、F コード方式の中継同報のみ利用できます。

参照

- 中継同報を本機から指示する場合、本機を指示局と呼びます。中継同報の指示局および中継局として使用できる弊社製の機種については、「中継同報を利用できる機種について」（P.302）を参照してください。

中継同報には、次の 3 つの方式があります。

■FAX 信号方式

弊社独自の通信手順を使用しているため、特定の中継同報可能機だけが使用できます。

■DTMF 方式

通信モード G3 で手動送信ができる機種であれば、中継同報を指示できます。

■F コード方式

F コード機能と中継同報機能を持つ機種間であれば使用できます。

中継同報をする前の準備

中継同報をするには、事前に中継局を短縮宛先に登録しておく必要があります。

登録先	登録内容
指示局	FAX 信号方式の場合 中継局を短縮宛先番号（0001 ～ 2000）のどれかに登録し、中継同報を設定します。 • 中継局に登録されている指示局の短縮宛先番号の下位 2 桁を、中継局 ID として登録します。 • 中継局に登録されている中継送信先の短縮宛先番号または宛先グループ番号を、同報宛先として登録します。ワイルドカード「＊」を使うこともできます。 DTMF 方式の場合（G3）/F コード方式の場合 • 登録は必要ありません。ダイヤル指示方式は、短縮宛先番号に登録できます。

補足

- ［ファクス宛先表］画面の［宛先の新規登録］を選択して、宛先を登録できます。詳しくは、「宛先の新規登録（宛先表に登録する）」(P.243) を参照してください。

参照

- 短縮宛先番号の登録方法について、詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- 中継局の登録内容については、中継局側の説明書を参照してください。

FAX 信号方式

1 中継同報が登録されている短縮宛先番号、または宛先グループ番号を指定し、〈スタート〉ボタンを押します。

複数の中継同報を行う場合は、続けて短縮宛先番号、または宛先グループ番号を指定します。

DTMF 方式

DTMF 方式には、自動送信と手動送信の 2 つの方法があります。

■自動送信（受話器を上げずに送信）

1 キーボードボタンを押して、タッチパネルディスプレイ上にキーボードを表示させ、次の形式で入力します。

[中継局電話番号] [!] [＊] [$] [#] [¥] [パスワード] [中継局ID] [¥] [#] [短縮宛先番号] [#] [短縮宛先番号] [#] .... [#] [#] [$]

- パスワード

  事前に登録した 2 桁の数字

補足

- 工場出荷時は、パスワードは設定されていません。パスワードを設定する場合は、弊社の販売店にお問い合わせください。パスワードが設定されていない場合、パスワードの入力は不要です。

- 中継局 ID

  中継局に登録されている指示局の短縮宛先番号の下位 2 桁

- 短縮宛先番号

  中継局に登録されている中継送信先の短縮宛先番号

  ワイルドカード「＊」を使用することもできます。

参照

- 上記のダイヤル指示の形式を短縮宛先番号に登録し、短縮宛先番号を指定して送信することもできます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

2 複数の中継同報を行う場合は、［次宛先］を押して指示します。

補足

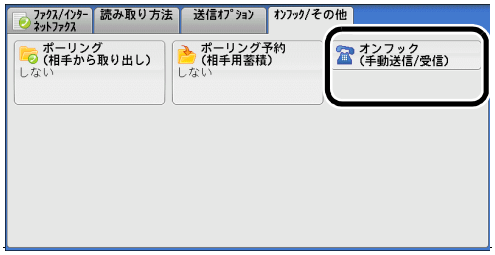
- 中継送信先は、20 か所まで指定できます。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

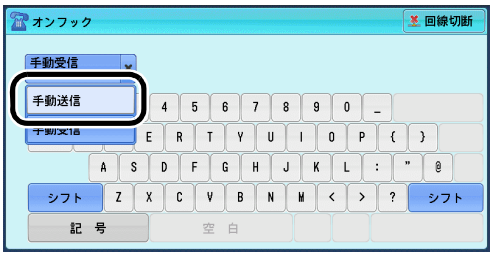
■手動送信（受話器を上げて、またはオンフックで送信）

1 ［オンフック / その他］タブを押して［オンフック / その他］画面を表示します。

2 受話器を上げる、または［オンフック（手動送信 / 受信）］を押します。



3 ドロップダウンメニューで［手動送信］を選択します。



4 タッチパネルディスプレイ上に表示されたキーボードで、次の形式で入力します。

中継局電話番号 「ピープルプル」音を確認 ＊ 「ピーピーピー」音を確認 # パスワード 中継局ID # 短縮宛先番号

.... # # 「ピーピーピー」と鳴ります

補足

- 中継送信先は、20 か所まで指定できます。

F コード方式

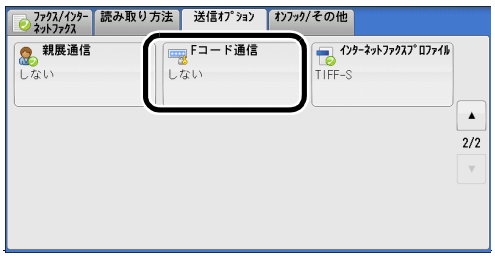
中継局に設定されている F コードと、必要に応じてパスワードを本機側で登録すると、中継同報ができます。

補足

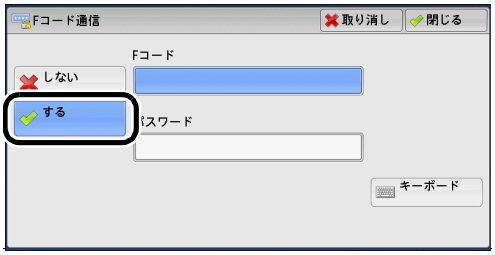
- F コード方式で中継同報をする場合、中継局に受信パスワードを設定しておくと、パスワードが使用できます。
- 中継同報の指示局および中継局として使用できる弊社製の機種間の場合は、FAX 信号方式を使用することをお勧めします。
- 対象となる中継局の F コード（サブアドレス）とパスワードを確認してください。

1 ［送信オプション］タブを押して［送信オプション］画面を表示します。

2 ［F コード通信］を押します。



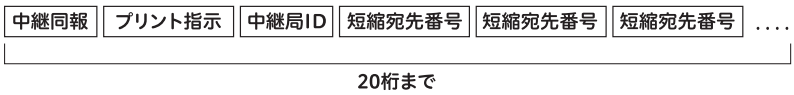
3 ［する］を押します。



4 ［F コード］を押し、〈数字〉ボタンで F コードを入力します。

補足

- F コードは 20 桁まで入力できます。



- 中継同報

  中継局 ID の桁数です。

  1：中継局 ID および短縮宛先番号が 2 桁の場合

  2：中継局 ID および短縮宛先番号が 3 桁の場合

- プリント指示

  中継局でのプリントの有無です。

  1：中継局でのプリントあり

  0：中継局でのプリントなし

- 中継局 ID

  中継局に登録されている指示局の短縮宛先番号です。

  中継局 ID を設定したときは、中継同報した結果を指示局に通知します。

  「00」または「000」を設定したときは、中継同報した結果を指示局に通知しません。

- 短縮宛先番号

  中継送信先を登録している短縮宛先番号です。

中継局でプリントして、指示局（100）に結果を通知し、中継送信先（200、201、202、203）に中継同報する場合

F コードの例：21100200201202203

5 必要に応じて［パスワード］を押し、〈数字〉ボタンでパスワードを入力します。

リモート中継同報（遠隔地に中継同報する）

リモート中継同報は、中継局を 2 つ以上経由して同報送信をする機能です。

中継同報より、大規模かつ遠方に対しての送信が経済的です。

補足

- 2 次中継局からは、複数の同報指示（マルチ中継同報）ができます。
- IP ファクス（SIP）では、F コード方式の中継同報のみ利用できます。

参照

- リモート中継同報の 1 次中継局および 2 次中継局として使用できる弊社製の機種は、「中継同報を利用できる機種について」(P.302) を参照してください。

リモート中継同報には、次の 3 つの方式があります。

■FAX 信号方式

弊社独自の通信手順を使用しているため、特定の中継同報可能機だけが使用できます。

■DTMF 方式

通信モード G3 で手動送信ができる機種であれば、リモート中継同報を指示できます。

■F コード方式

F コード機能と中継同報機能を持つ機種間であれば使用できます。

FAX 信号方式

あらかじめ次の登録が必要です。

登録先	登録内容
指示局	中継局を短縮宛先番号（0001 ～ 2000）のどれかに登録し、中継同報を設定します。 • 1次中継局に登録されている指示局の短縮宛先番号の下位2桁を、中継局IDとして登録します。 • 1次中継局に登録されている2次中継局の短縮宛先番号または宛先グループ番号を、同報宛先として登録します。

参照

- 短縮宛先番号の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- 1 次中継局と 2 次中継局の登録内容は、1 次中継局側、2 次中継局側の説明書を参照してください。

1 リモート中継同報が登録されている短縮宛先番号、または宛先グループ番号を指定し、〈スタート〉ボタンを押します。

DTMF 方式

DTMF 方式には、自動送信と手動送信の 2 つの方法があります。

参照
- 短縮宛先番号の登録方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- 1 次中継局と 2 次中継局の登録内容は、1 次中継局側、2 次中継局側の説明書を参照してください。

補足
- 弊社の DTMF 方式機能対応機であれば、指示ができます。

■自動送信（受話器を上げずに送信）

1 キーボードボタンを押して、タッチパネルディスプレイ上にキーボードを表示させ、次の形式で入力します。

[1次中継局電話番号] [!] [*] [$] [#] [¥] [パスワード] [中継局ID] [¥] [#] [短縮宛先番号] [#] [#] [$]

- パスワード

  事前に登録した 2 桁の数字

補足
- 工場出荷時は、パスワードは設定されていません。パスワードを設定する場合は、弊社の販売店にお問い合わせください。パスワードが設定されていない場合、パスワードの入力は不要です。

- 中継局 ID

  1 次中継局に登録されている指示局の短縮宛先番号の下位 2 桁

- 短縮宛先番号

  1 次中継局に登録されている 2 次中継局の短縮宛先番号

参照
- 上記のダイヤル指示の形式を短縮宛先番号に登録し、短縮宛先番号を指定して送信することもできます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

2 複数の中継同報を行う場合は、［次宛先］を押して指示します。

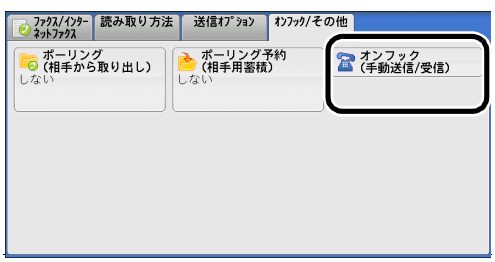
補足
- 中継送信先は、20 か所まで指定できます。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

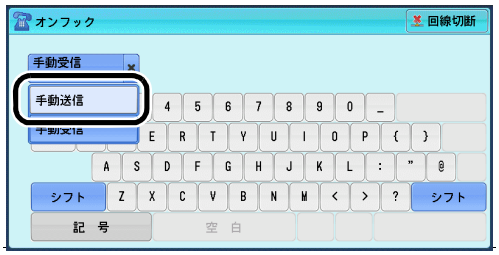
■手動送信（受話器を上げて、またはオンフックで送信）

1 ［オンフック / その他］タブを押して［オンフック / その他］画面を表示します。

2 受話器を上げる、または［オンフック（手動送信 / 受信）］を押します。



3 ドロップダウンメニューで［手動送信］を選択します。



4 タッチパネルディスプレイ上に表示されたキーボードで、次の形式で入力します。

1次中継局電話番号 「ピープルプル」音を確認 ＊ 「ピーピーピー」音を確認 # パスワード 中継局ID # 短縮宛先番号 # #

補足

- 中継送信先は、20 か所まで指定できます。

F コード方式

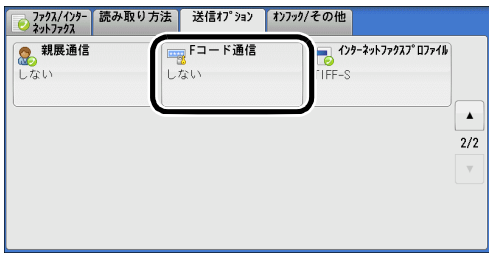
本機からリモート中継同報をする場合は、F コードと必要に応じてパスワードを、1次中継局に確認してください。

補足

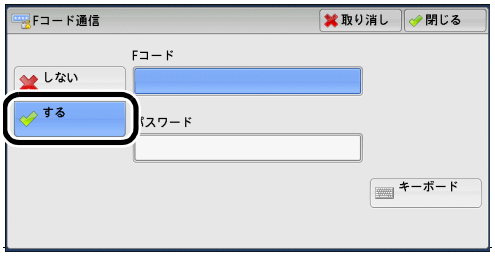
- Fコード方式を使用してリモート中継同報をする場合、1次中継局と2次中継局は、弊社のFコード方式と中継同報機能搭載機種が対象になります。
- 中継同報の指示局および中継局として使用できる弊社製の機種間の場合は、FAX 信号方式を使用することをお勧めします。

1 ［送信オプション］タブを押して［送信オプション］画面を表示します。

2 ［F コード通信］を押します。



3 ［する］を押します。



4 ［F コード］を押し、〈数字〉ボタンで F コードを入力します。

補足

- F コードは 20 桁まで入力できます。



- 中継同報

  1 次中継局 ID の桁数

  1：1 次中継局 ID および短縮宛先番号が 2 桁の場合

  2：1 次中継局 ID および短縮宛先番号が 3 桁の場合

- プリント指示

  1 次中継局でのプリントの有無

  1：1 次中継局でのプリントあり

  0：1 次中継局でのプリントなし

- 1 次中継局 ID

  1 次中継局に登録されている指示局の短縮宛先番号

  1 次中継局 ID を設定したときは、リモート中継同報した結果を指示局に通知します。

  「00」または「000」を設定したときは、リモート中継同報した結果を指示局に通知しません。

- 短縮宛先番号

  2 次中継局を登録している短縮宛先番号です。

5 必要に応じて［パスワード］を押し、〈数字〉ボタンでパスワードを入力します。

中継同報を利用できる機種について

中継同報を使用できる機種について説明します。

■中継同報の指示局および中継局として使用できる機種（ファクス機能装着機）

- ApeosPort-V 7080/7080 N/6080/6080 N/5080/5080 N（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-V 7080/7080 N/6080/6080 N/5080/5080 N（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-V C7775/C6675/C5575/C4475/C3375/C2275（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-V C7780/C6680/C5580（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-V C7780/C6680/C5580（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV C5575/C4475/C3375/C2275（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV C2263（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-IV 4070/3070

- DocuCentre-IV 4070/3070
- ApeosPort-IV 7080/6080/5080（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV 7080/6080/5080（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV 3060/2060（指示局としてのみ使用可能）
- DocuColor 1450 GA（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-IV C7780/C6680/C5580（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV C7780/C6680/C5580（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-IV C4430（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV C4430（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV C2260（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-IV C5570/C4470/C3370/C2270（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-IV C5570/C4470/C3370/C2270（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-III 4000/3010（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-III 4000/3010（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-III 7000/6000/5000（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-III 7000/6000/5000（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-III C7600/C6500/C5500（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-III C7600/C6500/C5500（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-III C4405（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-III C4405（指示局としてのみ使用可能）
- ApeosPort-III C3305/C2205（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-III C3305/C2205（指示局としてのみ使用可能）
- DocuCentre-III 3000/2000
- ApeosPort-III C3300/C2200
- DocuCentre-III C3300/C2200
- ApeosPort-III C4400
- DocuCentre-III C4400
- ApeosPort-II 7000/6000/5000
- DocuCentre-II 7000/6000/5000
- ApeosPort-II C7500/C6500/C5400
- DocuCentre-II C7500/C6500/C5400
- ApeosPort-II 4000/3000
- DocuCentre-II 4000/3000
- ApeosPort-II C4300/C3300/C2200
- DocuCentre-II C4300/C3300/C2200
- ApeosPort C7550 I/C6550 I/C5540 I、DocuCentre C7550 I/C6550 I/C5540 I
- ApeosPort 750 I/650 I/550 I、DocuCentre 750 I/650 I/550 I
- ApeosPort C4535 I/C3626 I/C2521 I、DocuCentre C4535 I/C3626 I/C2521 I
- ApeosPort 450 I/350 I

- DocuCentre 450 I/350 I
- DocuCentre Color f450/f360/f250/a450/a360/a250
- DocuCentre Color 400/320/240/160 シリーズ
- DocuCentre f285/f235/a285/a235 シリーズ
- DocuCentre 280/230 シリーズ
- DocuCentre 402/352 シリーズ
- DocuCentre 401/351/251 シリーズ
- DocuCentre 400/350/250 シリーズ
- DocuColor 1250（ドキュメントゲートファクス機能装着機）（指示局としてのみ使用可能）

■リモート中継同報の1次中継局および2次中継局として使用できる機種（ファクス機能装着機）

- DocuCentre-III 3000/2000
- ApeosPort-III C3300/C2200
- DocuCentre-III C3300/C2200
- ApeosPort-III C4400
- DocuCentre-III C4400
- ApeosPort-II 7000/6000/5000
- DocuCentre-II 7000/6000/5000
- ApeosPort-II C7500/C6500/C5400
- DocuCentre-II C7500/C6500/C5400
- ApeosPort-II 4000/3000
- DocuCentre-II 4000/3000
- ApeosPort-II C4300/C3300/C2200
- DocuCentre-II C4300/C3300/C2200
- ApeosPort C7550 I/C6550 I/C5540 I、DocuCentre C7550 I/C6550 I/C5540 I
- ApeosPort 750 I/650 I/550 I、DocuCentre 750 I/650 I/550 I
- ApeosPort C4535 I/C3626 I/C2521 I、DocuCentre C4535 I/C3626 I/C2521 I
- ApeosPort 450 I/350 I
- DocuCentre 450 I/350 I
- DocuCentre Color f450/f360/f250/a450/a360/a250
- DocuCentre Color 400/320/240/160 シリーズ
- DocuCentre f285/f235/a285/a235 シリーズ
- DocuCentre 280/230 シリーズ
- DocuCentre 402/352 シリーズ
- DocuCentre 401/351/251 シリーズ
- DocuCentre 400/350/250 シリーズ

受信について

受信には、自動受信と手動受信があります。

自動受信は、相手からの送信に対して自動的に受信を開始します。

手動受信は、相手からの送信を手動で受信します。相手先を確認したり、受話器（ハンドセット（オプション））を使って通話してから受信する場合に便利です。

また、G3ID を利用して特定のファクス番号の受信や非通知番号の受信を拒否できます。拒否するファクス番号は最大 50 まで登録できます。

特定ファクス番号の受信拒否：

拒否するファクス番号として登録された中に、送信機から送られてきた G3ID がある場合に受信を拒否します。

非通知番号の受信拒否：

送信機から G3ID が送られてこなかった場合に受信を拒否します。

G3ID は、ナンバーディスプレイサービスなどで通知される発信者番号ではなく、送信機で登録された電話番号などの情報です。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合、手動受信を利用できません。

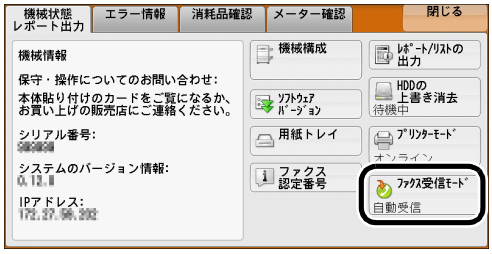
参照

- ［ファクス受信モード］の初期値は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「ファクス受信モード」を参照してください。
- 特定のファクス番号や非通知番号の受信拒否を設定する方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」の「受信制限番号」、および「非通知番号の受信制限」を参照してください。

自動受信と手動受信を切り替える

1 〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押します。

2 ［機械状態 レポート出力］画面の［ファクス受信モード］を押します。



3 ［手動受信］、［自動受信］から選択します。



■手動受信

相手からの送信を手動で受信します。相手先を確認したり、受話器（ハンドセット（オプション））を使って通話してから受信する場合に便利です。

回線を増設している場合は、［手動受信］に設定していても［自動受信］になります。

■自動受信

相手からの送信に対して、自動的に受信を開始します。

自動で受信する

［機械状態 レポート出力］画面の［ファクス受信モード］が自動受信に設定されている場合、2 つの方式があります。

■ファクス自動切り替えに設定されている場合

相手から呼び出しがあったときに、一定時間呼び出し音を鳴らしたあとに自動的にファクス受信を開始します。

参照

- 呼び出し音を鳴らす時間（ファクス切り替え時間）の変更方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ファクス設定」>「ファクス動作制御」>「ファクス自動受信時の受信方式」を参照してください。

■電話 / ファクス自動切り替えに設定されている場合

相手からファクス送信された場合は、自動的にファクス受信し、電話がかかってきた場合は、呼び出し音を鳴らします。呼び出し音が鳴っている間に受話器（ハンドセット（オプション））を取れば会話ができます。

手動で受信する

ファクス受信モードが手動受信に設定されているときに、相手からの呼び出し音が鳴った場合は、受話器（ハンドセット（オプション））を取るか、着信時に表示される画面で［オンフック］を押します。

参照

- ［オンフック］を使用する場合は、ラインモニター音量を［大］にすることをお勧めします。ラインモニターの音量の変更方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ラインモニター音」を参照してください。

1 呼び出し音が鳴ると、着信画面が表示されます。

受話器がある場合は、受話器を取ります。ない場合は、［オンフック］を押します。

2 相手を確認します。相手が電話のときは、受話器を使って通話できます。

相手がファクスのときは、「ポー・ポー・ポー」という音が鳴ります。

補足

- ［オンフック］を使用した場合は、本機のスピーカーから音が聞こえます。ただし、通話はできません。

3 〈スタート〉ボタンを押します。

4 受話器を使用している場合は、操作パネルの〈データ〉ランプが点滅したら、受話器を戻します。

注記

- 受話器は確実に戻してください。受話器が外れていると、「話し中」の状態が続きます。

親展受信について

親展受信を使用して受信した文書は、親展ボックスに蓄積されます。親展受信すると〈データ〉ランプが点灯し、親展受信レポートが出力されます。親展受信レポートには、親展ボックス No.、親展ボックス名称が記載されています。

なお、F コード方式を使用して親展受信する場合は、相手先に次の情報を伝えてください。

F コード（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋蓄積する親展ボックス No.

パスワード（必要に応じて）：蓄積する親展ボックスのパスワード

補足

- IP ファクス（SIP）では、FAX 信号方式と F コード方式が利用できます。
- IP ファクス（SIP）で VoIP ゲートウェイを経由して通信する場合は、FAX 信号方式での親展通信を利用できません。F コード方式の親展通信のみ利用できます。
- DTMF 方式で親展受信できますが、受け付けられる信号は、数字および＊、# だけです。

参照

- レポートのプリント設定によっては、親展受信しても、親展受信レポートがプリントされないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「親展受信レポート」を参照してください。
- 親展受信文書のプリント方法は、「親展ボックスの文書をプリントする」（P.429）を参照してください。

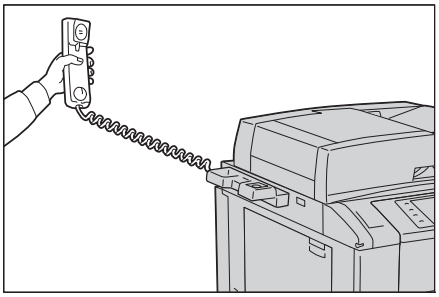
FAX 情報サービスについて

契約内容および詳しい操作方法については、ご使用になる FAX 情報サービス先にお問い合わせください。

受話器を使用する（受話器がある場合）

1 受話器を上げます。

補足
- 受話器（ハンドセット）はオプションです。
- 受話器（ハンドセット）は回線 1 でのみ使用できます。



2 ドロップダウンメニューから［手動受信］を選択します。

3 ファクス情報サービスのファクス番号を指定します。

- 〈数字〉ボタン、短縮宛先番号、ワンタッチボタンなどで指定します。宛先表は使用できません。
- ［英 / 数］または［記号］を押して表示されるキーボードも使用できます。

補足
- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、［トーン（ :)］は表示されません。
- ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出したいとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、［トーン（ :)］を押します。
- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。

4 サービスに接続するとアナウンスが聞こえるので、アナウンスの指示に従って、必要な番号を入力します。

5 入力が終了したら、〈スタート〉ボタンを押します。

補足
- 操作パネルの〈データ〉ランプが点滅して、受信が開始されます。

6 受話器を戻します。

注記
- 受話器は確実に戻してください。受話器が外れていると、「話し中」の状態が続きます。

受話器を使用しない（受話器がない場合）

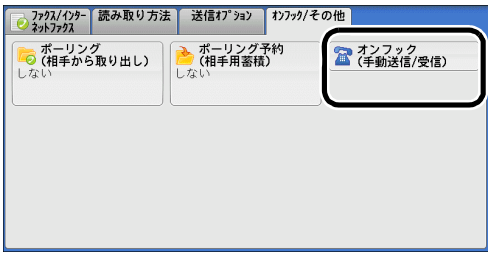
1 ラインモニターの音量を調整します。

音声ガイダンスを聞き取りやすくするために、ラインモニターの音量は最大の［大］に設定することをお勧めします。

参照

- ラインモニターの音量の変更方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ラインモニター音」を参照してください。

2 ［オンフック / その他］画面の［オンフック（手動送信 / 受信）］を押します。



3 ドロップダウンメニューから［手動受信］を選択します。

4 ファクス情報サービスのファクス番号を指定します。

- 〈数字〉ボタン、短縮宛先番号、ワンタッチボタンなどで指定します。宛先表は使用できません。
- ［英 / 数］または［記号］を押して表示されるキーボードも使用できます。

補足

- 回線種別がプッシュ回線に設定されているときは、［:］（トーン）は表示されません。ダイヤル回線を使用している場合に、トーンを送出したいとき（プッシュ回線用のサービスを受けるとき）は、［:］（トーン）を押します。
- サービスの種類によっては、トーン送出を設定しても、サービスが受けられないことがあります。

5 サービスに接続するとアナウンスが聞こえるので、アナウンスの指示に従って、必要な番号を入力します。

6 入力が終了したら、〈スタート〉ボタンを押します。

ファクシミリ通信網を利用する

東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社（以下 NTT と略します）が提供しているファクシミリ通信網を使用して通信ができます。ファクシミリ通信網は、送信したページごとに一定料金がかかる料金体系です。契約内容および詳しいダイヤル方法については、NTT にお問い合わせください。

注記

- ファクシミリ通信網をお使いになるときは、NTT と利用契約を結ぶ必要があります。
- 回線トラブルおよび通信料金については、NTT にお問い合わせください。
- ファクシミリ通信網のサービスの中には、本機の機能と同じ名前の機能があります。これらの機能は本機の機能ではなく、ファクシミリ通信網のサービスのため、特別なダイヤル方法で指定します。
- ファクシミリ通信網を使用した場合、次の機能は使用できません。
  中継同報、親展送信、ポーリング、ポーリング予約

■ファクシミリ通信網の主なサービス

区分			ダイヤル方法
発信の場合	一般電話番号の場合		161・○○ .. ○
	短縮宛先番号の場合		161・＊△△
短縮宛先番号などの登録の場合	短縮宛先番号の登録・変更		162・・# 312 ＊△△○○ .. ○＊△△○○ .. ○＊△△○○ .. ○
	短縮宛先番号の登録確認（宛先グループ単位）		162・# 318 ＊◇＊◇#
	短縮宛先番号の消し方		162・# 319 ＊△△＊△△ .... ＊△△#
	マークシートによる登録		162・# 313
同報通信の場合	個別指定	一般電話に番号の場合	162・# 213○○..○＊○○..○.... ＊○○..○#
		短縮宛先番号の場合	162・# 213 ＊△△＊△△ .... ＊△△#
	宛先グループ指定		162・# 214 ＊◇＊◇ .... ＊◇#
	一括指定		162・# 215 #

「・」「-」ポーズを入力します。

「○○ .. ○」宛先の電話番号を入力します。

「△△」短縮宛先番号を入力します。

「◇」短縮宛先の宛先グループ番号を入力します。

5 スキャン

この章では、スキャンの機能について説明します。

補足

- スキャン機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

参照

- スキャン機能を使用するにはあらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については『管理者ガイド』の「9 スキャン機能の設定」を参照してください。

- スキャン操作の流れ.....312
- スキャン中の操作.....322
- スキャナー（メール送信）.....329
- スキャナー（PC 保存）.....364
- スキャナー（ボックス保存）.....379
- スキャナー（USB メモリー保存）.....381
- スキャナー（URL 送信）.....388
- スキャナー（WSD）.....391
- 画質調整.....396
- 読み取り方法.....402
- 出力形式.....411



スキャン操作の流れ

ここでは、基本的なスキャン操作の流れについて説明します。

参照先は、次のとおりです。

Step1 原稿をセットする 312
Step2 機能を選択する 315
Step3 スキャンを開始する 319
Step4 ジョブの状態を確認する 321
Step5 スキャンデータを取り込む 321

Step1 原稿をセットする

原稿をセットする手順について説明します。次の 2 つの方法があります。

■原稿送り装置

- 1 枚もの
- 複数枚の原稿

■原稿ガラス

- 1 枚もの
- 本などの冊子

注記

- コンピューターから操作するスキャンの場合
  コンピューターを操作するために、原稿をセットしたまま本機から離れる場合は、十分に注意してください。他のユーザーが誤って操作した場合、原稿の紛失および情報漏えいのおそれがあります。できるだけ、本機に近い場所でコンピューターの操作をしてください。また、スキャン完了後は、すべての原稿が揃っていることを確認してください。

原稿送り装置

原稿送り装置には、最小サイズが 139.7×139.7mm（定形サイズの場合は、A5、A5□）、最大サイズが 297×432mm（定形サイズの場合は、A3、11×17 インチ）の 1 枚もの、または複数枚の原稿をセットできます。

自動検知できる原稿は定形サイズだけです。定形サイズ以外の原稿は、［原稿サイズ入力］で任意のサイズを入力します。

参照

- 自動検知できる原稿サイズや任意のサイズの入力方法は、「原稿サイズ入力（原稿の読み取りサイズを指定してコピーする）」(P.134) を参照してください。
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

原稿送り装置にセットできる枚数は、次のとおりです。

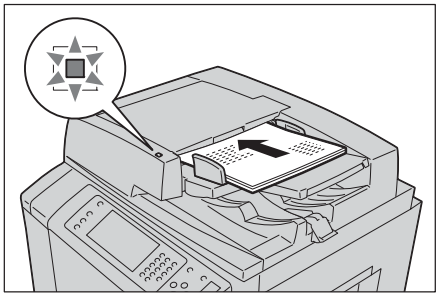
質量	枚数
38 ～ 80g/m^2	250 枚
81 ～ 128g/m^2	150 枚
129 ～ 200g/m^2	100 枚

注記
- 折り目、しわのある原稿、切り貼り原稿、カール紙、裏カーボン紙は、紙づまりの原因になりますので、原稿ガラスにセットしてください。
- 質量が 38 ～ 49g/m^2 の原稿の両面読み込みはできません。

参照
- サイズが異なる原稿を一度にスキャンする場合は、「ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）」(P.406) を参照してください。

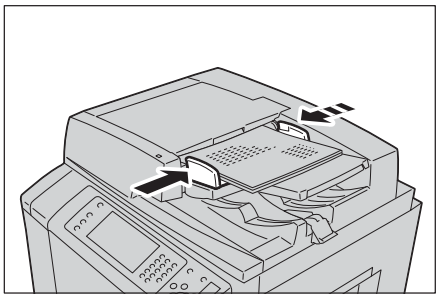
1 原稿をセットする前に、クリップやホチキスを外します。

2 スキャンする面（両面原稿の場合はおもて面）を上に向けて、原稿送り装置の中央にセットします。

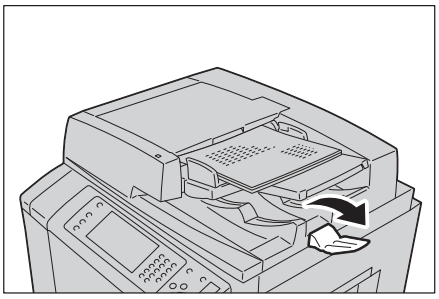


補足
- 原稿をセットすると、確認ランプが点灯します。確認ランプが点灯していない場合は、原稿ガラスで原稿を認識しています。再度、原稿をセットしてください。

3 原稿ガイドを移動して、原稿の両側に合わせます。



4 原稿受けストッパーを開きます。



原稿ガラス

原稿ガラスには、最大で 297×432mm（定形サイズの場合は、A3、11×17 インチ）までの 1 枚もの、または本などの原稿をセットできます。

注記

- 原稿ガラスを使用した場合、作業終了後に、原稿カバーを閉じてください。

原稿ガラスで自動検知できる原稿は定形サイズだけです。定形サイズ以外の原稿は、［読み取りサイズ］で任意のサイズを入力します。

参照

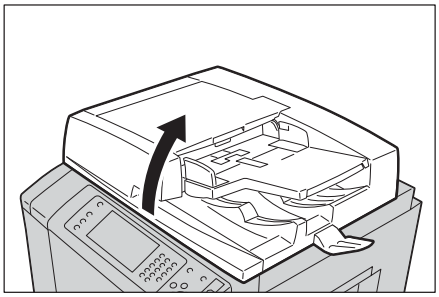
- 自動検知できる原稿サイズや任意のサイズの入力方法は、「読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）」(P.405) を参照してください。
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

> ⚠注 意
> 書籍などの厚手の原稿をスキャンするとき、原稿を強く押さえないでください。原稿ガラスが割れてケガの原因となるおそれがあります。

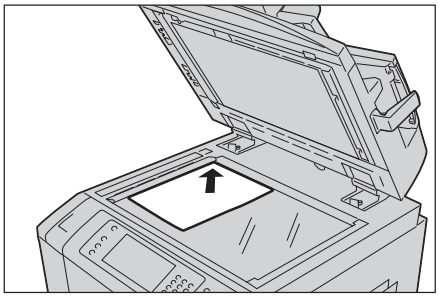
1 原稿カバーを開けます。

注記

- 原稿は、操作パネルの画面が正常に表示されていることを確認してからセットしてください。画面が表示される前に原稿をセットすると、サイズを正しく検知できないことがあります。



2 スキャンする面を下に向けて、原稿ガラスの左奥の角に合わせて原稿をセットします。



3 原稿カバーを閉じます。

Step2 機能を選択する

メニュー画面では、[スキャナー（メール送信）]、[スキャナー（ボックス保存）]、[スキャナー（PC 保存）]、[スキャナー（USB メモリー保存）]、[スキャナー（URL 送信）]、[スキャナー（WSD）] の 6 つのスキャン機能ボタンが用意されています。それぞれの画面で機能を選択できます。

補足

- 表示される機能は、機械の構成によって異なります。
- 集計管理機能を設定している場合、User ID やパスワードの入力が必要なことがあります。User ID やパスワードは機械管理者にお問い合わせください。
- スキャン機能を使用するにはあらかじめネットワークの設定が必要です。ネットワークの設定については、『管理者ガイド』の「9 スキャン機能の設定」を参照してください。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

■スキャナー（メール送信）

スキャンしたデータ TIFF、JPEG、PDF、DocuWorks、XML Paper Specification（XPS）に変換してメールに添付して送信します。

■スキャナー（ボックス保存）

スキャンしたデータを本機の親展ボックスに保存します。

参照

- 親展ボックスは、あらかじめ作成しておきます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「登録 / 変更」>「ボックス登録」を参照してください。

■スキャナー（PC 保存）

スキャンしたデータを FTP や SMB プロトコルを使って、ネットワーク上のコンピューターに転送します。

■スキャナー（USB メモリー保存）

スキャンしたデータを USB メモリーに保存します。

■スキャナー（URL 送信）

スキャンしたデータを一時的に本機に保存し、メールに保存先の URL を添付して送信します。メールを受信したユーザーは、URL からスキャンデータを取り出します。

■スキャナー（WSD）

本機にセットした原稿をコンピューターからの操作でスキャンし、保存できます。また、本機の操作パネルで、ネットワーク上にあるコンピューターを選択して、スキャンデータを保存することもできます。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

スキャン機能と選択できるファイル形式について

スキャン機能	ファイル形式の選択方法	ファイル形式							
		PDF	Docu Works	XPS[*1]	TIFF	JPEG	BMP	PNG	Micro-soft® Office
メール送信	スキャンをするときに操作パネルで選択	○[*2]	○[*3]	○	○	○	×	×	○
PC 保存		○[*2]	○[*3]	○	○	○	×	×	○
USB メモリー保存		○[*2]	○[*3]	○	○	○	×	×	○
URL 送信		○[*2]	○[*3]	○	○	○	×	×	○
ボックス保存	CentreWare Internet Services 使用時	○[*2]	○[*3]	○	○	○	×	×	×
	親展ボックスビューワー 3	×	×	×	○	○	×	×	×
	DocuWorks[*4] 使用時	×	○[*3]	×	×	×	×	×	×
	Adobe® Acrobat®[*4]	○[*2]	×	×	×	×	×	×	×
ジョブフロー	ジョブフロー作成時	○[*2]	○[*3]	○	○	○	×	×	×
WSDスキャン[*6]	Windows®[*5] のスキャンプロファイルで選択	×	×	×	○	○	○	○	×

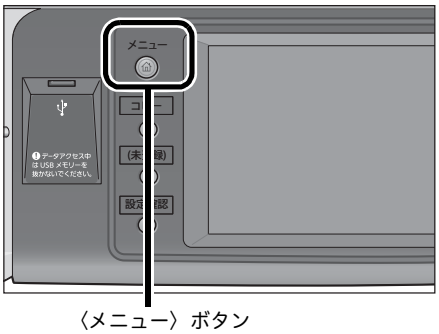
[*1] 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
[*2] Adobe® Acrobat® 4.0 以上
[*3] DocuWorks Ver.4 以降
[*4] TWAIN 対応アプリケーション
[*5] Microsoft® Windows Vista® Service Pack 2 以降
[*6] 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

補足

- 任意でファイル名を指定しない場合、自動で付けられるファイル名は、スキャンをした日時を表しています。また、［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日（YYYYMMDD）の順序は、［仕様設定］>［共通設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［日付］の［日付の形式］で変更できます。

ここでは、［スキャナー（ボックス保存）］を例に説明します。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。

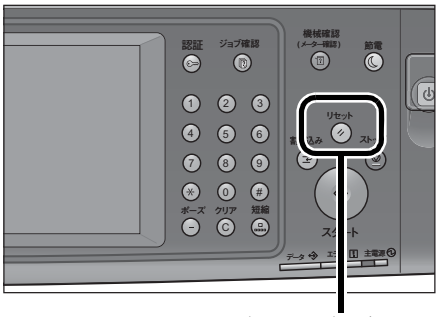


〈メニュー〉ボタン

2 ［スキャナー（ボックス保存）］を押します。

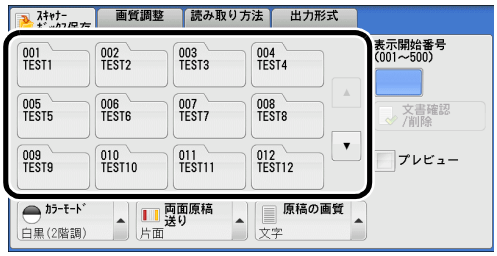


3 前回の設定が残っている場合は、〈リセット〉ボタンを押します。

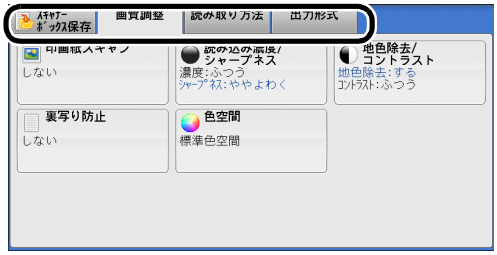


〈リセット〉ボタン

4 保存する親展ボックスを指定します。



5 必要に応じて、各タブから、設定する機能を選択します。



参照

- 各タブの参照先は、次のとおりです。
  - 「スキャナー（ボックス保存）」(P.379)
  - 「画質調整」(P.396)
  - 「読み取り方法」(P.402)
  - 「出力形式」(P.411)
- ほかのスキャン機能を選択したときは、［スキャナー ボックス保存］タブが［スキャナー メール送信］タブ、［スキャナー メール送信］タブ、［スキャナー PC 保存］タブ、［スキャナー USB メモリー保存］タブ、［スキャナー URL 送信］、［スキャナー （WSD）］タブに変わります。
  各機能のタブの参照先は、次のとおりです。
  - 「スキャナー（メール送信）」(P.329)
  - 「スキャナー（PC 保存）」(P.364)
  - 「スキャナー（USB メモリー保存）」(P.381)
  - 「スキャナー（URL 送信）」(P.388)
  - 「スキャナー（WSD）」(P.391)

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

Step3 スキャンを開始する

スキャンを開始する手順について説明します。

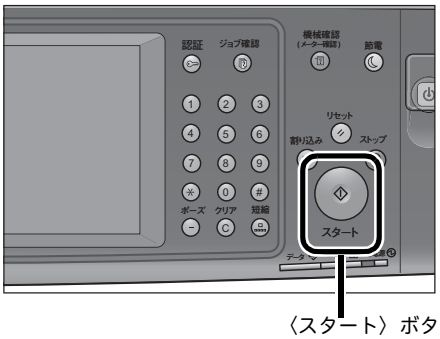
参照

- ［スキャナー（WSD）］画面でスキャンを開始する手順については、「スキャナー（WSD）」(P.391) を参照してください。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

1 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

注記

- 原稿送り装置にセットした場合は、原稿搬送中に原稿を押さえないでください。
- 複製制限コードが検出された原稿は、スキャンできません。

補足

- 問題が発生すると、ディスプレイ上にエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って対処してください。
- スキャン中に次のジョブの設定ができます。

■次の原稿があるとき

複数枚の原稿や複数の束の原稿を 1 つにまとめるときは、原稿の読み取り中にタッチパネルディスプレイに表示される画面の［次原稿あり］を押します。複数の原稿をまとめてスキャンできます。

最大 999 ページまで蓄積できます。

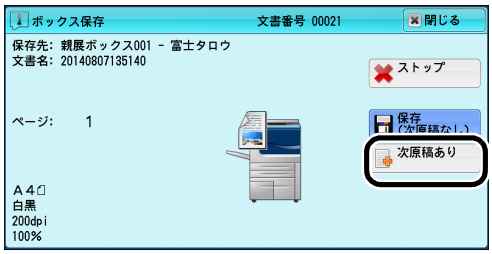
補足

- 原稿のページ数が最大蓄積ページ数を超えた場合、読み取りは中止されます。表示されたメッセージに従って、処理を中止するか、読み込み済みの原稿をひとつのデータとして残すかを、選択してください。

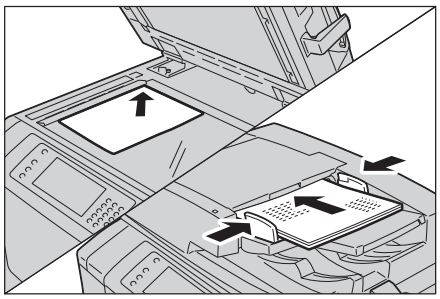
2 原稿を読み取り中に、［次原稿あり］を押します。

補足

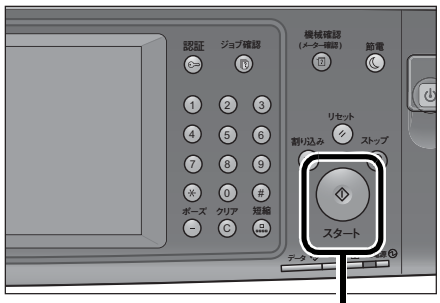
- 原稿送り装置を使っているときは、最初にセットした原稿をすべて読み取ってから、次の原稿をセットします。
- ［次原稿あり］が表示されているときに一定時間操作しないと、次の原稿がないと自動的に判断します。
- ［次原稿あり］を押したときに表示される［読み取り設定変更 ...］を押すと、次の原稿の読み取り設定を変更できます。



3 次の原稿をセットします。



4 〈スタート〉ボタンを押します。
さらに原稿が続くときは、手順 3 と 4 の操作を繰り返します。



〈スタート〉ボタン

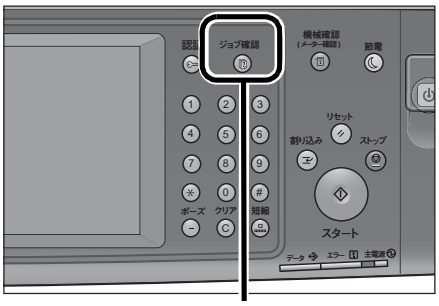
5 すべての原稿を読み取ったら、［保存（次原稿なし）］を押します。



Step4 ジョブの状態を確認する

スキャンしたジョブの状態を確認する手順について説明します。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。

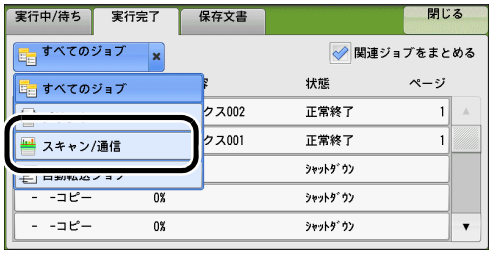


〈ジョブ確認〉ボタン

2 ジョブの状態を確認します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ドロップダウンリストから、［スキャン / 通信］を選択して、表示の絞り込みができます。



Step5 スキャンデータを取り込む

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込みます。取り込むには次の方法があります。

■アプリケーションを使用して取り込む

ネットワークスキャナードライバーを使用します。

参照

- 詳しくは、「TWAIN 対応アプリケーションから取り込む」(P.542) を参照してください。

■親展ボックスビューワー 3 を使用して取り込む

弊社のアプリケーションソフトの親展ボックスビューワー 3 を使用します。

参照

- 詳しくは、「親展ボックスビューワー 3 から取り込む」(P.545) を参照してください。

■CentreWare Internet Services を使用して取り込む

CentreWare Internet Services を使用します。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を利用して取り込む」(P.549) を参照してください。

スキャン中の操作

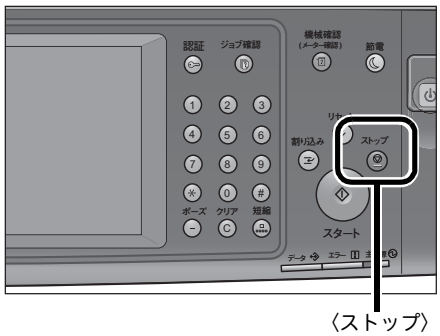
スキャン中にできる操作について説明します。参照先は、次のとおりです。

スキャンを中止する.....322
原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する.....323
読み取りの設定変更をする.....328

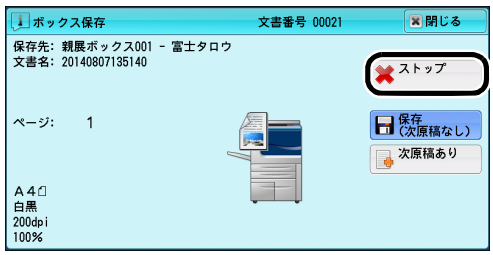
スキャンを中止する

スキャンを中止する手順について説明します。

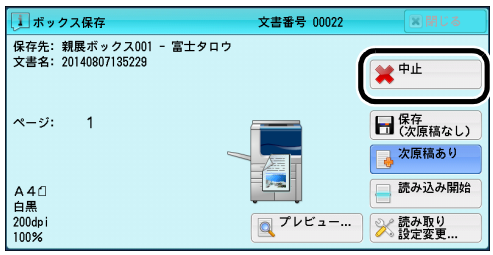
1 操作パネルの〈ストップ〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの［ストップ］を押します。



〈ストップ〉ボタン

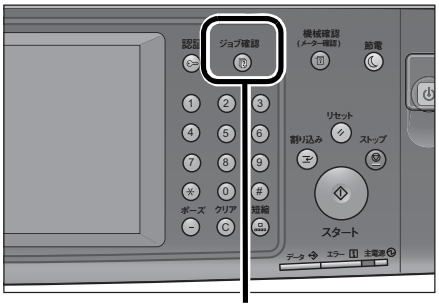


2 ［中止］を押します。



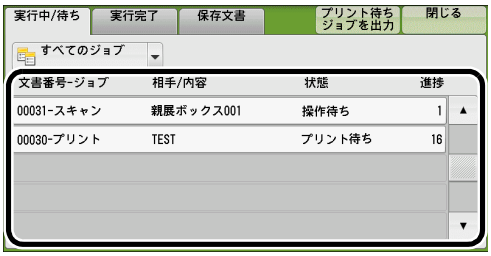
■[ストップ]または[中止]の画面が表示されない場合

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。

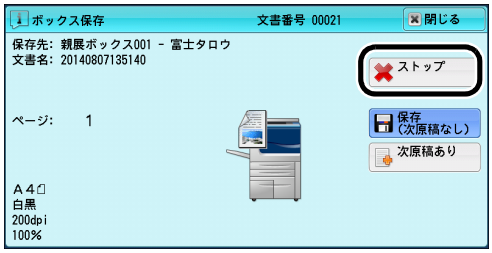


〈ジョブ確認〉ボタン

2 中止するジョブを選択します。



3 [ストップ]を押します。



4 [中止]を押します。

補足

- スキャンを中止すると、すでに親展ボックスに蓄積されているスキャンデータも削除されます。



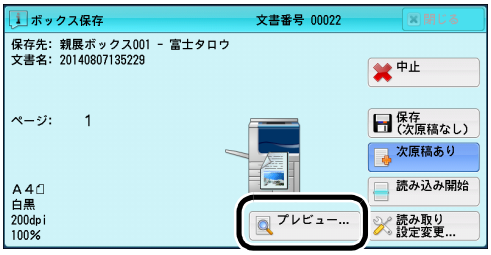
原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する

原稿の読み込み中に、スキャン済みの原稿を確認できます。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

1 スキャンの基本画面で［プレビュー］をチェックして読み取りを開始すると、以下の画面が表示されます。
読み取り後に、［プレビュー］を押します。プレビュー画面が表示され、直前にスキャンした原稿の先頭ページが表示されます。



補足

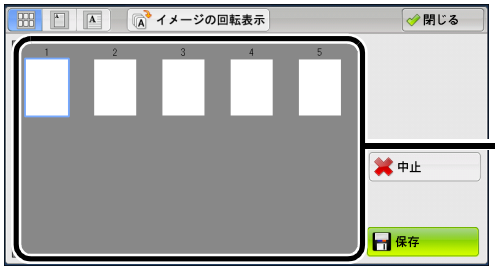
- この画面およびプレビュー画面が表示された状態で、何も操作が行われないまま［自動リセット］の時間が経過した場合にジョブを継続するかどうかを設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「ジョブ一時停止後の処理」を参照してください。
- 自動リセットについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「自動リセット」を参照してください。
- ボックス保存または USB メモリー保存の場合は、［送信（次原稿なし）］に替わり、［保存（次原稿あり）］が表示されます。

2 任意の項目を選択します。



■  **(サムネールビュー)**

プレビュー画像をサムネールで表示します。



サムネールビューでは、次の操作ができます。

- プレビューエリアを上下にドラッグまたはフリックすると表示ページの切り替えができます。
- サムネールをタップするとページビューに切り替わります。

補足

- ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■  **(ページビュー)**

プレビュー画像を全体表示します。

- ページ切り替えボタンを表示している場合



- サムネールバーを表示している場合



ページビューでは、次の操作ができます。

- プレビューエリアを左右にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。
- プレビューエリアをタップすると、ページ切り替えボタンとサムネールバーの表示の切り替えができます。
- プレビューエリアに表示されている前ページ / 後ページをタップすると、タップしたページが中央に表示されます。
- サムネールバーを左右にドラッグまたはフリックすると、サムネールのスクロールができます。タップしたサムネールのプレビュー画面が表示されます。

■ (注意ボタン)

出力結果がプレビュー画像に反映できていない場合、注意ボタンが表示されます。注意ボタンを押すと詳細が確認できます。

出力ファイル形式が Microsoft® Word または Microsoft® Excel の場合で、［ページ向き］が［文字認識による自動正立］に設定されているときは、自動正立に関するメッセージが表示されます。

出力ファイル形式が PDF、DocuWorks、または XPS の場合は、プレビュー画像に反映できていない項目が表示されます。表示される項目は以下の通りです。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- ドラッグ、スクロール、画像またはページの回転をしているときは表示されません。

- 高圧縮 (MRC)
  - 出力形式の［高圧縮 (MRC)］が［する］の場合に表示されます。
- 少数色圧縮
  - ［少数色で圧縮する］が選択されている場合に表示されます。

- 自動正立
  - ［文字認識時のページ向き］が［自動正立する］に設定され、かつ、［文字認識（OCR）］が［する］の場合に表示されます。

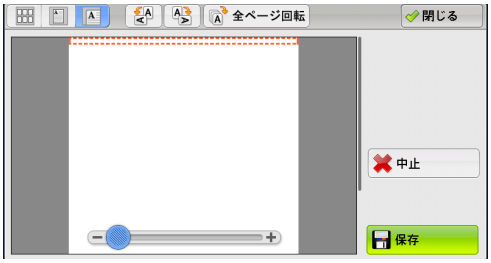
参照

- ［ 文字認識時のページ向き ］の設定方法は、管理者ガイドの「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」>「文字認識時のページ向き」を参照してください。

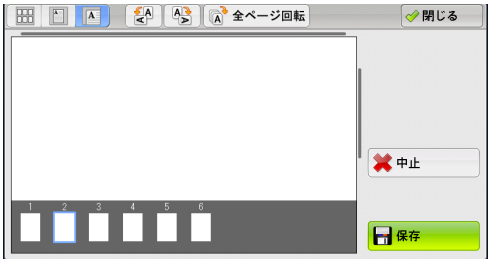
■  （拡大ビュー）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

- スライダーを表示している場合



- サムネールバーを表示している場合



拡大ビューでは、次の操作ができます。

補足

- スキャン（ボックス保存）の場合、出力形式が TIFF または JPEG の場合、またはジョブフローの場合は、［ 左回転 ］、［ 右回転 ］、および［ 全ページ回転 ］ボタンは表示されません。

- 拡大した画像を上下左右にドラッグまたはフリック操作すると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- 画面の下部をタップすると、スライダーとサムネールバーの表示の切り替えができます。
- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- サムネールバーを左右にドラッグまたはフリックすると、サムネールのスクロールができます。タップしたサムネールのプレビュー画面が表示されます。

■  （左回転）

ページを左に 90 度回転させます。

補足

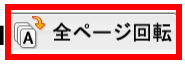
- サムネールビューでは［左回転］ボタンは選択できません。

■  （右回転）

ページを右に 90 度回転させます。

補足

- サムネールビューでは［右回転］ボタンは選択できません。

■  （全ページ回転）

全ページを右に 90 度回転させます。

補足

- 拡大ビューでは［全ページ回転］ボタンは選択できません。

■中止

プレビュー中のジョブを中止します。

■保存 / 送信

ボックス保存または USB メモリー保存の場合は［保存］が表示されます。プレビュー中のジョブを保存します。

メール送信、URL 送信、または PC 保存の場合は［送信］が表示されます。プレビュー中のジョブを送信します。

補足

- ［閉じる］を押してプレビュー画面を閉じると、手順 1 の画面に戻ります。この画面でも、プレビュー中のジョブを保存または送信することができます。ボックス保存または USB メモリー保存の場合は、［保存（次原稿なし）］を押すとジョブが保存されます。メール送信、URL 送信、または PC 保存の場合は、［送信（次原稿なし）］を押すとジョブが送信されます。

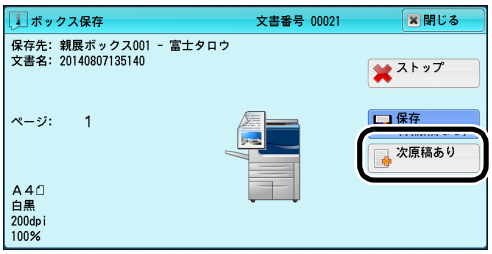
読み取りの設定変更をする

原稿の読み込み中に、読み取りの設定を変更できます。

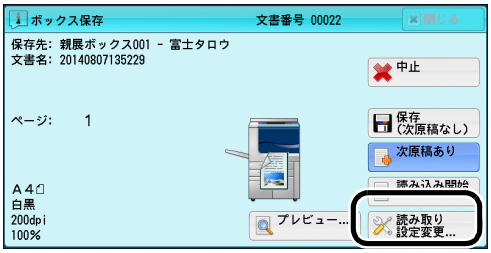
補足

- ［スキャナー（WSD）］では、原稿読み取り中に、読み取りの設定を変更できません。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

1 タッチパネルディスプレイの［次原稿あり］を押します。



2 ［読み取り設定変更 ...］を押します。



3 ［カラーモード］、［原稿の画質］、［読み取り解像度］、［読み込み濃度］、［原稿セット向き指定］、［両面原稿送り］、［読み取りサイズ］を設定します。

各機能の参照先は、次のとおりです。

参照

- 「カラーモード（スキャンの色を選択する）」(P.346)
- 「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」(P.349)
- 「読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）」(P.403)
- 「読み込み濃度 / シャープネス（スキャン濃度や画像のシャープさを調整する）」(P.398)
- 「原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）」(P.410)
- 「両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）」(P.347)
- 「読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）」(P.405)

4 〈スタート〉ボタンを押します。

スキャナー（メール送信）

［スキャナー（メール送信）］画面で、機能を選択する手順について説明します。［スキャナー（メール送信）］画面では原稿をスキャンして、メールに添付して送信できます。ここでは、スキャナー（メール送信）画面について説明します。参照先は、次のとおりです。

宛先表について.....330
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）.....331
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）.....334
宛先の新規登録（宛先表に登録する）.....338
ワンタッチボタン（アドレスを指定する）.....340
キーボード（アドレスを指定する）.....341
送信者アドレスを追加（送信者のアドレスを追加する）.....342
宛先名 / メールアドレス（宛先の削除 / 確認 / 変更する）.....343
送信者（送信者のアドレスを設定する）.....344
件名（件名を設定する）.....345
本文（本文を入力する）.....346
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....346
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....346
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....347
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....349
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....349

補足

- S/MIME で暗号化やデジタル署名をしてメールを送信することもできます。その場合は、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、『管理者ガイド』の「13 暗号化と署名機能の設定」>「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」を参照してください。

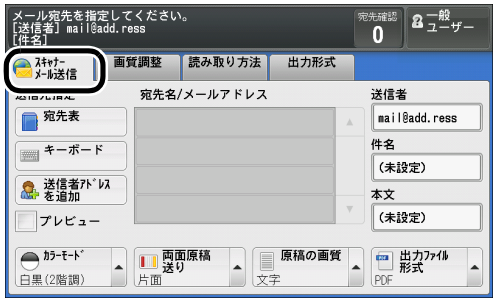
参照

- ［スキャナー（メール送信）］画面で表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「基本画面の表示機能」を参照してください。
- メニュー画面で［スキャナー（メール送信）］を押したときに表示される画面を、［基本スキャナー画面］または［宛先表］から選択できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「メール送信初期表示画面」を参照してください。

1 メニュー画面で［スキャナー（メール送信）］を押します。



2 ［スキャナーメール送信］画面で機能を選択します。



注記

- メール用に設定した宛先だけ使用できます。ファクス用の宛先は使用できません。
- 宛先の指定には、〈数字〉ボタンで指定する短縮宛先番号、ワンタッチダイヤル、宛先グループは使用できません。
- 機械管理者モードの設定によっては、［キーボード］と［送信者アドレスを追加］は表示されません。

補足

- 機械管理者モードの［メール送信初期表示画面］によっては、［メール宛先表］画面が表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「メール送信初期表示画面」を参照してください。

宛先表について

宛先表について説明します。

宛先表から宛先を使用する場合、次の制限があります。

- メール用に設定した宛先だけ使用できます。ファクス用の宛先は使用できません。
- 宛先の指定には、〈数字〉ボタンで指定する短縮宛先番号、宛先グループは使用できません。
- 禁止ドメインに設定されている宛先は指定できません。
- 暗号化してメール送信するときは、暗号化できる証明書が関連づけられた宛先をします。宛先表には、あらかじめ S/MIME 用証明書が関連付けられた宛先を登録する必要があります。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先表登録）」を参照してください。

- 証明書の失効検証を行うには、あらかじめ設定が必要です。

補足

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「ネットワーク設定」>「セキュリティ設定」>「証明書失効確認の設定」を参照してください。

宛先表の表示画面

本機には、宛先表の表示画面として、［宛先表タイプ 1］と［宛先表タイプ 2］の 2 種類があります。どちらの画面を表示するかは、機械管理者モードの［宛先表タイプ］で設定できます。

参照

- 宛先表タイプの設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」>「宛先表タイプ」を参照してください。



［宛先表タイプ 1］

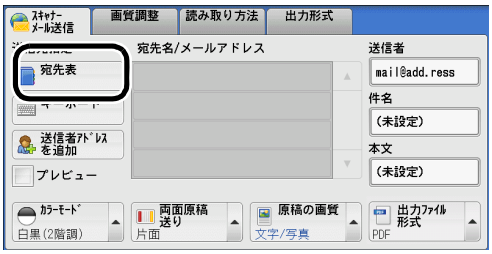


［宛先表タイプ 2］

宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）

宛先表タイプ 1 の画面で宛先を指定する場合を説明します。

1 ［宛先表］を押します。



■宛先確認

メッセージエリアの［宛先確認］ボタンを押すと、指定した宛先を確認できます。なお、［宛先確認］ボタンはメモリー残量表示に変更することもできます。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」>「宛先確認ボタン - メール」を参照してください。

2 使用する宛先表を選択します。



補足

- 機械管理者モードの設定によって、表示される項目が異なります。

■本体宛先表

本機に登録されている宛先が一覧で表示されます。

■ディレクトリサービス

ディレクトリサービスから、宛先を検索できます。

補足

- ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- ［ディレクトリサービス］を表示させるには、機械管理者モードでの設定が必要です。詳しくは、「［ディレクトリサービス］を選択した場合」(P.333) を参照してください。

■IC カード登録アドレス

IC カードに登録されている証明書に記載されているアドレスが表示されます。

補足

- IC カードリーダーを装着している場合に表示されます。

［本体宛先表］を選択した場合

1 宛先を指定し、［宛先］、［Cc］、［Bcc］のどれかをドロップダウンリストから選択します。



補足

- 複数の宛先を指定するときは、連続して指定します。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■（表示件数切り替えボタン）

ボタンを押して、1 画面に表示する宛先の件数を切り替えます。

■番号

短縮宛先番号が表示されます。

■宛先

登録された宛先や検索された宛先が表示されます。

■ボタン

宛先の詳細情報を表示します。

■表示開始番号

短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

■宛先の新規登録

新たに宛先を登録する場合に押します。キーボードや現在登録されている宛先を利用して登録できます。

参照

- 宛先表の新規登録については、「宛先の新規登録（宛先表に登録する）」(P.338) を参照してください。

■すべて

宛先表に登録されているメールの宛先を、一覧で表示します。

■かな索引

宛先表に索引文字が登録されている宛先を、五十音順に表示します。

■英数索引

宛先表に索引文字が登録されている宛先を、アルファベット順に表示します。

■検索

［かんたん検索］または［詳細検索］から選択できます。

［かんたん検索］では、指定したキーワードで検索します。［詳細検索］では、条件に一致する宛先を検索します。

補足

- ［詳細検索］では、複数の条件を組み合わせて指定できます。

［ディレクトリサービス］を選択した場合

補足

- CentreWare Internet Services の［フィルター設定］画面から検索フィルターを有効にすると、［宛先名］、［メールアドレス］、［補助項目］を設定せずにキーワードだけで検索できます（「かんたん検索」）。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

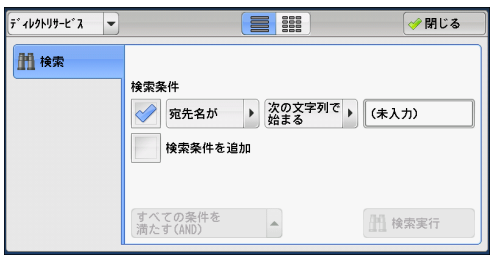
注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

参照

- 検索対象の項目を変更する場合は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」>「ディレクトリサービス」を参照してください。

1 検索条件を指定します。



■  （表示件数切り替えボタン）

ボタンを押して、1 画面に表示する宛先の件数を切り替えます。

■検索条件

チェックマークを付けて、実行する検索条件を指定します。

- 1 つめの検索項目：

  ドロップダウンリストで［宛先名が］、［メールアドレスが］、または［補助項目 X が］（X は 1 ～ 3）を選択します。

補足
- ［宛先名が］を選択すると宛先名をキーワードにして検索できます。2 つめの検索項目を選択し、入力ボックスを押して、半角 32 文字または全角 16 文字以内でキーワードにする宛先名を入力します。
例：富士太郎
- ［メールアドレスが］を選択するとメールアドレスをキーワードにして検索できます。2 つめの検索項目を選択し、入力ボックスを押して、半角 128 文字以内でキーワードにするメールアドレスを入力します。
例：myhost@example.com
- ［補助項目 X が］を選択すると補助項目をキーワードにして検索できます。2 つめの検索項目を選択し、入力ボックスを押して、半角 60 文字または全角 30 文字以内でキーワードを入力します。補助項目の属性名は、機械管理モードの［補助項目 1 ～ 3 の属性名］の設定によって異なります。
詳しくは、「ネットワーク設定」>「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」>「LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定」を参照してください。

- 2 つめの検索項目：

  ドロップダウンリストで［次の文字列で始まる］、［次の文字列で終わる］、［次の文字列を含む］、［次の文字列と同じ］、［登録されている］から選択します。

- 3 つめの検索項目（入力ボックス）：

  入力ボックスを押して、検索文字列を入力します。

補足
- 2 つめの検索項目で、［登録されている］以外を選択した場合に指定できます。

■検索条件を追加

チェックボックスを押すと、新しい検索条件を設定できます。

補足
- 複数の検索条件を設定している場合、［すべての条件を満たす（AND）］または［いずれかの条件を満たす（OR）］を、ドロップダウンリストから選択できます。

■検索実行

検索が実行されます。該当する宛先が一覧で表示されます。

宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）

宛先表タイプ 2 の画面で宛先を指定する場合を説明します。

1 ［宛先表］を押します。

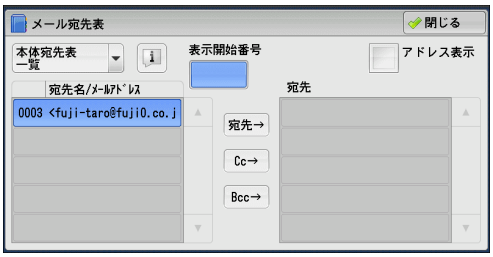


■宛先確認

メッセージエリアの［宛先確認］ボタンを押すと、指定した宛先を確認できます。
なお、［宛先確認］ボタンはメモリー残量表示に変更することもできます。

参照
- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」>「宛先確認ボタン - メール」を参照してください。

2 使用する宛先表を選択します。



補足
- 機械管理者モードの設定によって、表示される項目が異なります。

■本体宛先表一覧

本機に登録されている宛先が一覧で表示されます。

参照
- 詳しくは、「[本体宛先表一覧]を選択した場合」(P.335) を参照してください。

■本体宛先表 文字 / 番号指定

短縮宛先番号登録時に指定した索引文字、または、表示したい短縮宛先番号を指定します。

■本体宛先表検索

本機に登録されている宛先から検索します。

■ディレクトリサービス検索

ディレクトリサービスから、宛先を検索できます。

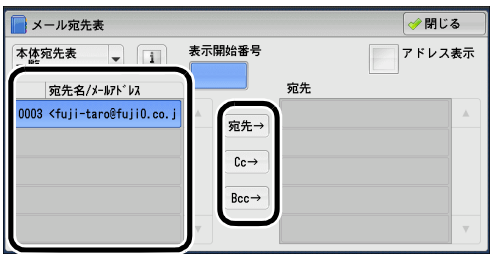
補足
- CentreWare Internet Services の[フィルター設定]画面から検索フィルターを有効にすると、[宛先名]、[メールアドレス]、[補助項目]を設定せずにキーワードだけで検索できます（「かんたん検索」）。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

補足
- ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- [ディレクトリサービス検索]を表示させるには、機械管理者モードでの設定が必要です。

[本体宛先表一覧]を選択した場合

1 宛先を選択し、[宛先→]、[Cc →]、[Bcc →]のどれかを選択します。



補足
- 複数の宛先を指定するときは、連続して指定します。

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ［仕様設定 / 登録］画面の［初期表示言語］を英語表示に設定しているときは、宛先名順、または登録番号順に並び替えができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」>「初期表示言語」を参照してください。

■宛先名 / メールアドレス

登録された宛先や検索された宛先が表示されます。

■宛先→

選択したメールアドレスを宛先に指定します。

■Cc →

選択したメールアドレスを Cc に指定します。

■Bcc →

選択したメールアドレスを Bcc に指定します。

■表示開始番号

短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

■ボタン

選択した宛先の詳細情報を表示します。

■アドレス表示

チェックボックスにチェックすると、登録されている宛先のメールアドレスだけが表示されます。

［本体宛先表 文字 / 番号指定］を選択した場合

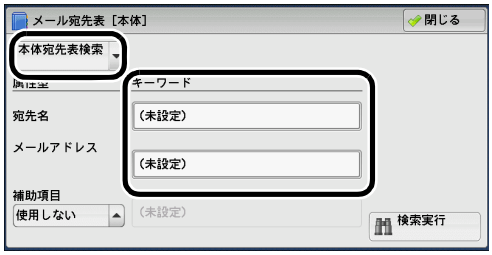
1 索引文字または短縮宛先番号を指定します。



［本体宛先表検索］または［ディレクトリサービス検索］を選択した場合

［本体宛先表検索］を選択したときの画面で説明します。

1 キーワードを入力して、宛先を検索します。



補足

- 複数の検索のキーワードを使った場合、AND の組み合わせで検索されます。

■宛先名

宛先名をキーワードにして検索します。入力ボックスを押して、半角 32 文字または全角 16 文字以内で、キーワードにする宛先名を入力します。

例：富士　太郎

■メールアドレス

メールアドレスをキーワードにして検索できます。入力ボックスを押して、半角 128 文字以内で、キーワードにするメールアドレスを入力します。

例：myhost@example.com

■補助項目

宛先名とメールアドレス以外で検索をする場合に選択します。補助項目を選択し、入力ボックスを押して、半角 60 文字または全角 30 文字以内で、キーワードを入力します。

- 使用しない

  キーワード検索に補助項目を使用しません。

- 補助項目 1（電話番号）

  工場出荷時は、「電話番号」が登録されています。キーワード検索に電話番号を使用できます。

- 補助項目 2（事業所）

  工場出荷時は、「事業所」が登録されています。キーワード検索に事業所名を使用できます。

- 補助項目 3（部署）

  工場出荷時は、「部署」が登録されています。キーワード検索に部署名を使用できます。

参照

- 補助項目の属性名は、機械管理者モードの［補助項目 1 ～ 3 の属性名］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定」を参照してください。

■検索実行

検索が実行されます。該当する宛先が一覧で表示されます。

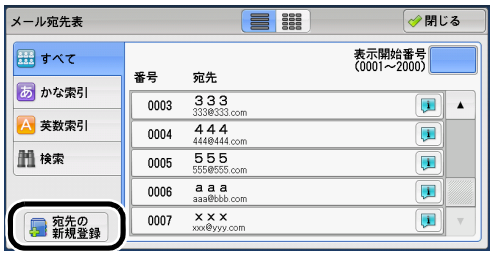
宛先の新規登録（宛先表に登録する）

新たに宛先を入力して登録したり、基本スキャン画面で指定している宛先を利用して宛先を登録したりできます。

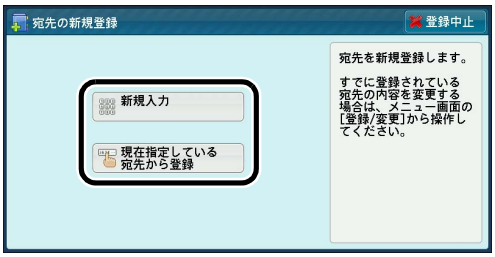
補足

- 機械管理者モードの設定や、すでに登録されている宛先数によっては、［宛先の新規登録］が表示されない場合があります。この場合は、設定状況や宛先登録数について機械管理者に確認してください。

1 ［宛先の新規登録］を押します。



2 宛先の登録方法を選択します。



■新規入力

キーボードを使って新たに宛先を入力します。

■現在指定している保存先から登録

基本スキャン画面で指定している保存先から、新規登録する保存先を選択します。

補足

- 指定している保存先が無い場合は選択できません。

［新規入力］を選択した場合

1 タッチパネルディスプレイに表示されたキーボードを使って、メールアドレスを、半角 128 文字以内で入力します。

2 ［次へ］を押します。

補足

- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

［現在指定している宛先から登録］を選択した場合

1 新規登録する宛先を選択します。

2 ［次へ］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

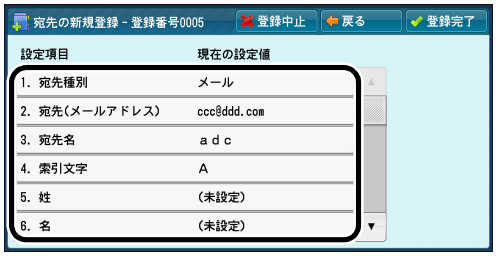
3 ［宛先名］を選択して、表示されたキーボードを使って宛先名を入力し、［決定］を押します。



補足
- 索引文字を変更する場合は、［索引文字］を選択して、表示されたキーボードを使って入力し、［決定］を押します。宛先表で検索するときに使用するキーワードとして、ひらがな、英数のうちどれか 1 文字を索引文字として登録できます。
- 登録番号を変更する場合は、［ 変更 ］を押して登録する番号を選択し、［ 決定 ］を押します。

4 ［次へ］を押します。

5 設定する項目を選択し、設定します。



次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先（メールアドレス）
- 宛先名
- 索引文字
- 姓
- 名
- 補助項目 1
- 補助項目 2
- 補助項目 3
- S/MIME 用証明書（ApeosPort シリーズのみ）

補足
- ［登録中止］を押すと、入力していた情報は破棄され、［ファクス宛先表］画面に戻ります。

参照
- 設定項目の詳細については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

6 すべての設定が終わったら、［登録完了］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

ワンタッチボタン（アドレスを指定する）

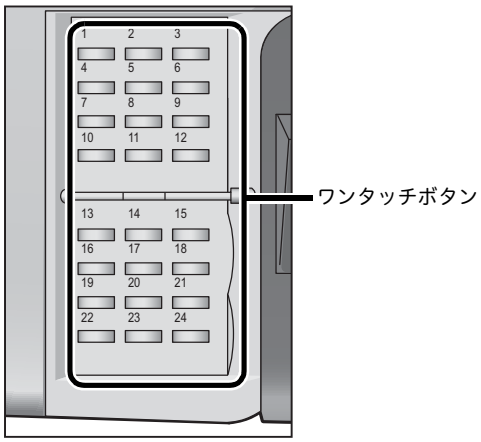
ワンタッチボタンを使用して宛先を指定する場合を説明します。

ワンタッチボタンは、短縮宛先番号 0001 ～ 0070、または 0001 ～ 0060 に登録されている番号に対応しています。たとえば、短縮宛先番号 0001 に登録されている場合は、〈1〉を押します。

補足
- ファクス機能を搭載していない機械には、ワンタッチボタンはありません。

補足
- ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。工場出荷時は、［タイプ 1］で登録されています。
  - ［タイプ 1］
    1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
  - ［タイプ 2］
    1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応）
- ワンタッチボタンは、［スキャナー（メール送信）］画面、［画質調整］画面、［読み取り方法］画面、［出力形式］画面で有効です。ポップアップメニューの表示中や、項目を選択して、画面が切り替わっている状態では、ワンタッチボタンを押しても認識されません。また、［画質調整］画面、［読み取り方法］画面、［出力形式］画面でワンタッチボタンを押すと、自動的に［スキャナー（メール送信）］画面に切り替わります。

1 ワンタッチボタンを押します。タッチパネルディスプレイに、ワンタッチボタンで指定した宛先（アドレス）が表示されていることを確認します。



注記
- ワンタッチボタンにはセンサーが付いています。センサーによってワンタッチボタン番号が1～24、25 ～ 48、49 ～ M02 であるか判断しています。ワンタッチボタンを押すときは、パネルをめくりきって、ワンタッチパネルのパネルから手を放した状態で押してください。パネルをめくりながら、ボタンを押さないでください。
- ワンタッチボタンの付近には、ものを載せたり、液体などをこぼさないように注意してください。

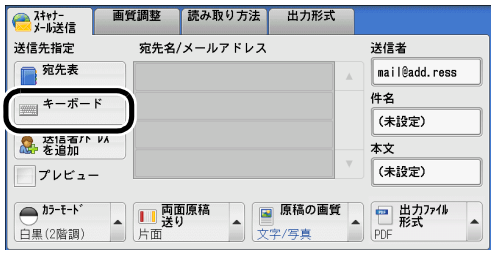
補足
- 短縮宛先番号
  0025 以降を使用する場合は、ワンタッチパネルをめくって使用します。
- 入力を間違えたときは、タッチパネルディスプレイに表示された宛先を選択し、ポップアップメニューで［削除］を押してから、正しい宛先を指定します。

キーボード（アドレスを指定する）

キーボードを使用してメールアドレスの一部分を入力し、該当する文字列を含んだアドレスを検索して指定したり、アドレスを直接入力して指定したりできます。

メールアドレスの一部分を入力して検索する

1 ［キーボード］を押します。



2 メールアドレスの一部分の文字列を入力して、  を押します。



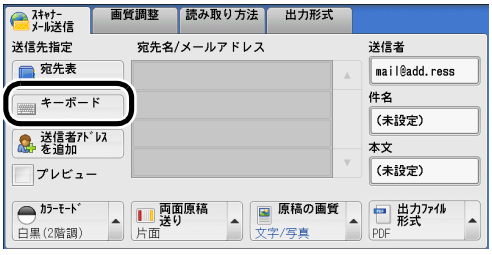
検索結果が表示されます。検索結果後の操作方法は、「宛先表について」(P.366) を参照してください。

補足

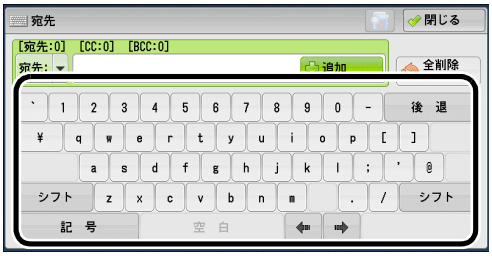
- 検索する宛先表は、初期表示として設定された［本体宛先表］または［ディレクトリーサービス］のどちらかの宛先表です。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」を参照してください。

メールアドレスを直接入力して指定する

1 ［キーボード］を押します。



2 半角 128 文字以内でメールアドレスを入力します。



■宛先 /CC/BCC

ドロップダウンメニューから、宛先の種類（宛先 /CC/BCC）を切り替えます。

■追加

同報送信（複数の宛先に送信する）をする場合に、アドレスを追加できます。

■全削除

入力したメールアドレスをすべて削除します。

■1 文字削除

入力した文字を 1 文字削除します。

■小さい文字

キーボードの大文字 / 小文字を切り替えます。

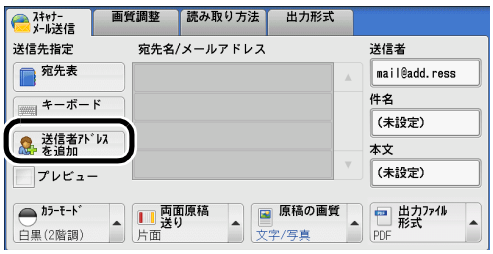
■記号

記号が表示されます。メールアドレスに記号を入力するときに使用します。

送信者アドレスを追加（送信者のアドレスを追加する）

送信者のアドレスを［宛先］、［CC］、［BCC］に追加する場合に設定します。

1 ［送信者アドレスを追加］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■宛先

送信者のアドレスを宛先に追加します。

■CC

送信者のアドレスを CC に追加します。

■BCC

送信者のアドレスを BCC に追加します。

宛先名 / メールアドレス（宛先の削除 / 確認 / 変更する）

表示されるポップアップメニューで、宛先の削除と確認 / 変更ができます。

1 ［宛先名 / メールアドレス］から、削除または確認 / 変更する項目を選択します。

2 ポップアップメニューで、任意の項目を選択します。



■削除

指定した宛先を削除します。

■確認 / 変更

［送信先の確認 / 変更］画面が表示されます。宛先を確認したり、変更したりできます。

補足

- 機械管理者モードの設定によって、［送信先］の編集ができないことがあります。

参照

- 詳しくは、「［送信先の確認 / 変更］画面」（P.343）を参照してください。

■取り消し

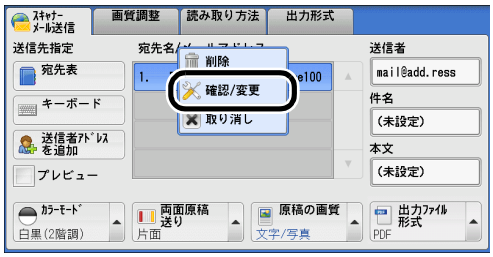
ポップアップメニューの表示を取り消します。

［送信先の確認 / 変更］画面

送信先の確認 / 変更ができます。

1 変更する項目を選択します。

2 ［確認 / 変更］を押します。



3 任意の項目を変更します。

■メールアドレス

宛先を変更する場合は、［メールアドレス］を押すと表示されるキーボードで、変更する宛先を入力します。

■宛先名

宛先名を変更する場合は、［宛先名］を押すと表示されるキーボードで、変更する宛先名を入力します。宛先表から指定した宛先で、宛先表に宛先名が登録されている場合は、その宛先名が表示されます。

■S/MIME 証明書

関連づけられた証明書があるかどうかが表示されます。

S/MIME 通信が有効になっていて、証明書が関連づけられている宛先の場合、［S/MIME 証明書］を押すと、S/MIME 証明書の内容が確認できます。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

参照

- S/MIME 通信については、『管理者ガイド』の「13 暗号化と署名機能の設定」>「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」を参照してください。

送信者（送信者のアドレスを設定する）

送信者のメールアドレスを設定します。アドレスの指定は 1 か所だけです。

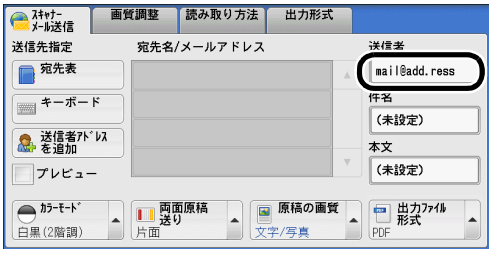
補足

- 本機の認証方式が［本体認証］の場合、ユーザー情報に登録されているメールアドレスが自動的に設定されます。ユーザー情報については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「集計管理」>「ユーザー登録 / 集計確認」を参照してください。
- 機械管理者モードの設定によって、［送信者］の編集ができないことがあります。
- デジタル署名をする場合、署名に使われる情報は、機械管理者モードの設定によって異なります。

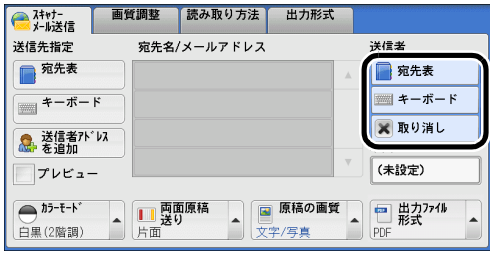
参照

- デジタル署名については、『管理者ガイド』の「13 暗号化と署名機能の設定」>「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」を参照してください。

1 ［送信者］を押します。



2 表示されるポップアップメニューから、任意の項目を選択します。



■宛先表

表示される宛先表から、送信者のメールアドレスを選択します。

参照

- 宛先表については、「宛先表について」(P.330) を参照してください。

■キーボード

表示されるキーボードを使って、送信者のメールアドレスを、半角で 128 文字以内で入力します。

補足

- メールアドレスの一部を入力し、宛先表から検索して指定するには、「キーボード（アドレスを指定する)」(P.341) を参照してください。

■取り消し

ポップアップメニューの表示を取り消します。

件名（件名を設定する）

メールの件名を入力します。

■自動設定

件名は「Scan data from XXX」（XXX には本機のホスト名が入ります）に自動的に設定されます。

■件名を設定する場合

1 ［件名］を押します。

2 表示されたキーボードを使って、半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力します。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

本文（本文を入力する）

メールの本文を入力します。

1 ［本文］を押します。

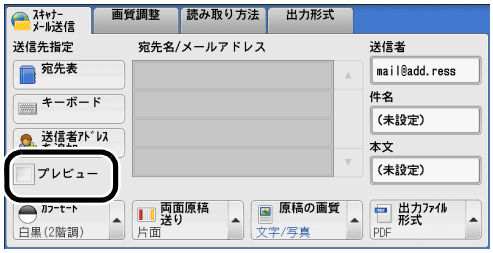
2 表示されたキーボードを使って、半角で 512 文字、全角で 256 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

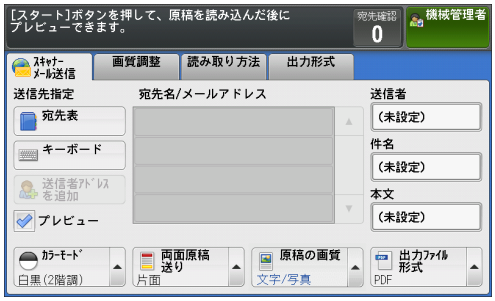
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）

原稿の読み込み中に、スキャン済みの原稿を確認します。

1 ［プレビュー］をチェックします。



以下のようなメッセージが表示されます。各項目を設定してから〈スタート〉ボタンを押します。



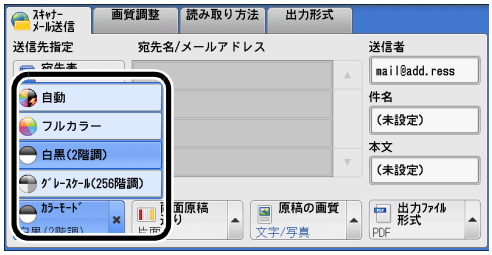
2 原稿の読み込み後に、スキャン済みの原稿を確認できます。

カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定します。

補足
- 機械管理者モードの設定によっては、［カラーモード］が［スキャナーメール送信］画面に表示されない場合があります。その場合は、［画質調整］画面の［カラーモード］で設定してください。

1 ［カラーモード］を押して表示されるメニューから、任意の項目を選択します。



■自動

原稿の色を自動的に判断し、原稿がカラーであればフルカラーで、白黒であれば白黒でスキャンします。

補足

- ［自動］を選択したときに［画質調整］画面で設定できる機能は、カラー原稿の場合は、［カラーモード］の［フルカラー］を選択した状態と同様になり、白黒原稿の場合は［カラーモード］の［白黒（2 階調）］を選択した状態と同様になります。

■フルカラー

カラー原稿を読み取るときに選択します。

■白黒（2 階調）

白黒 2 階調で原稿を読み取ります。［原稿の画質］で原稿の画質タイプを選択できます。

補足

- ［出力ファイル形式］の［高圧縮（MRC）］を［する］に設定した場合、または Microsoft® Office 形式を選択した場合は、［白黒（2 階調）］は選択できません。

■グレースケール（256 階調）

グレースケールで原稿を読み取ります。白黒に濃淡を付けて、段階的に変化する中間調も再現できます。白黒（2 階調）だけでは表現できないグラデーションなどがある場合に適しています。

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）

片面 / 両面原稿を両面や片面にスキャンします。

原稿の綴じ方を設定すると、原稿のおもてとうらの天地をそろえて読み取ります。

補足

- 機械管理者モードの設定によっては、［両面原稿送り］が［スキャナーメール送信］画面に表示されない場合があります。その場合は、［読み取り方法］画面の［両面原稿送り］で設定してください。

1 ［片面 / 両面原稿送り］を押して表示されるメニューから、任意の項目を選択します。



■片面

原稿を片面だけ読み込む場合に選択します。

■両面（左右開き）

両面原稿のおもてとうらで、イメージの上下が同じ場合に選択します。

■両面（上下開き）

両面原稿のおもてとうらで、イメージの上下が逆転している場合に選択します。

■詳細設定 ...

［両面原稿送り］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［両面原稿送り］画面」（P.348）を参照してください。

［両面原稿送り］画面

原稿の状態や原稿をセットする向きを指定できます。

1 任意の項目を選択します。



■片面

原稿の片面をスキャンするときに選択します。

■両面

原稿の両面をスキャンするときに選択します。

■原稿の状態

［両面］を選択すると表示されます。

- 左右開き

  両面原稿のおもてとうらで、イメージの上下が同じ場合に選択します。

- 上下開き

  両面原稿のおもてとうらで、イメージの上下が逆転している場合に選択します。

■原稿セット向き指定

原稿をセットする向きを指定します。

補足
- 実際に原稿をセットする向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

スキャンするときの原稿画質を選択します。

補足

- 機械管理者モードの設定によっては、［両面原稿送り］が［スキャナーメール送信］画面に表示されない場合があります。その場合は、［読み取り方法］画面の［両面原稿送り］で設定してください。

1 ［原稿の画質］を押して表示されるメニューから、任意の項目を選択します。



■文字 / 写真

文字と写真が混在した原稿を読み取るときに選択します。文字領域と写真領域を自動的に判断し、領域ごとに最適な画質で読み取られます。

■文字

文字をはっきり読み取りたいときに選択します。

■写真

写真を読み取るときに選択します。

補足

- ［出力ファイル形式］の［文字認識（OCR）］を［する］に設定した場合は、［写真］は選択できません。

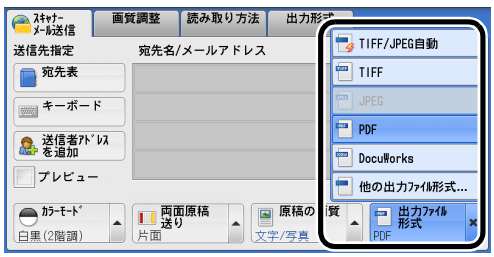
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）

スキャンしたデータの種類を設定します。

補足

- 機械管理者モードの設定によっては、［出力ファイル形式］が［スキャナーメール送信］画面に表示されない場合があります。その場合は、［出力形式］画面の［出力ファイル形式］で設定してください。

1 ［出力ファイル形式］を押して表示されるメニューから任意の項目を選択します。



■TIFF/JPEG 自動

JPEG または TIFF が自動的に選択されます。フルカラーとグレースケールの画像は［JPEG］が、白黒画像は［TIFF］がページごとに設定されます。

■TIFF

TIFF ファイル形式で保存します。

■JPEG

JPEG ファイル形式で保存します。［カラーモード］で［フルカラー］または［グレースケール（256 階調）］を選択した場合に設定できます。

■PDF

PDF ファイル形式で保存します。

補足
- 出力される PDF ファイルのバージョンは、Acrobat® 4.0（PDF 1.3）です。

■DocuWorks

DocuWorks ファイル形式で保存します。

補足
- 出力される DocuWorks 文書を（コンピューター上で）閲覧・印刷するには、次のどれかのソフトウエアが必要です。
  - DocuWorks Ver. 4.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light Ver. 4.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light for Web Ver. 4.0 以降

■他の出力ファイル形式 ...

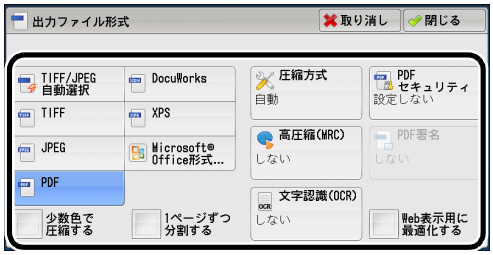
［出力ファイル形式］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［出力ファイル形式］画面」(P.350) を参照してください。

［出力ファイル形式］画面

そのほかの出力ファイル形式を選択できます。

1 任意の項目を選択します。



補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■TIFF/JPEG 自動選択

JPEG または TIFF が自動的に選択されます。フルカラーとグレースケールの画像は［JPEG］が、白黒画像は［TIFF］がページごとに設定されます。

■TIFF

TIFF ファイル形式で保存します。

■JPEG

JPEG 形式で保存します。［カラーモード］で［フルカラー］または［グレースケール（256 階調）］を選択した場合に設定できます。

■PDF

PDF ファイル形式で保存します。

補足

- 出力される PDF ファイルのバージョンは、Acrobat® 4.0（PDF 1.3）です。

■DocuWorks

DocuWorks ファイル形式で保存します。

補足

- 出力される DocuWorks 文書を（コンピューター上で）閲覧・印刷するには、次のどれかのソフトウエアが必要です。
  - DocuWorks Ver. 4.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light Ver. 4.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light for Web Ver. 4.0 以降

■XPS

XPS ファイル形式で保存します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■Microsoft® Office 形式

Microsoft® Word ファイル形式（doc）または Microsoft®Excel® ファイル形式（xls）で保存します。［出力ファイル形式 -Microsoft® Office 形式］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［出力ファイル形式 -Microsoft® Office 形式］画面」（P.362）を参照してください。

注記

- doc または xls フォーマット以外で保存することはできません。
- この出力形式では文字認識（OCR）を行います。ただし、原稿の状態によっては、誤認識されたり図形の情報が一部欠落する可能性があります。
- 本機能は、紙原稿をスキャンして保存後に、変換されたテキストや画像などを適宜編集して再利用することを前提とした、補助機能です。紙原稿上の文字や表、図形、写真を 100% 再現することを保証するものではありません。

補足

- これらの出力形式は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 出力される Microsoft® Word 文書または Microsoft® Excel® ファイルを（コンピューター上で）閲覧・編集・印刷するには、次のどれかのソフトウエアが必要です。
  - Windows 8 の場合：Microsoft® Office 2013
  - Windows 7 の場合：Microsoft® Office 2010
  - Windows Vista の場合：Microsoft® Office 2007
- これらの出力形式は、［カラーモード］で［自動］、［フルカラー］または［グレースケール（256 階調）］、解像度を［300dpi］に設定した場合に利用できます。

■圧縮方式

スキャンしたあとの画像データの圧縮方式を設定します。

補足

- ［自動］を選択すると、次の方式で圧縮されます。
  - 白黒ページで［原稿の画質］が［文字 / 写真］または［文字］のとき：MMR
  - 白黒ページで［写真］のとき：MH
  - グレースケールまたはカラーページのとき：JPEG
- TIFF、DocuWorks、XML Paper Specification（XPS）ファイル形式の場合、［ユーザー指定］を選択すると、白黒ページでは圧縮方式を［MH］、［MMR］から選択できます。
- PDF ファイル形式の場合、［ユーザー指定］を選択すると、白黒ページでは［MH］、［MMR］、［JBIG2（算術符号）］、［JBIG2（ハフマン符号）］から、グレースケール / カラーページでは［JPEG］、［［JPEG + Flate］から選択できます。［JPEG + Flate］を選択すると、JPEG より高い圧縮率で保存されます。
- Microsoft® Office ファイル形式の場合、［圧縮形式］は選択できません。
- グレースケール画像 / フルカラー画像を非圧縮（Raw 形式）で取り出すことはできません。

■高圧縮（MRC）

PDF ファイルまたは DocuWorks ファイル、XPS ファイルを高圧縮形式で保存します。

注記

- スキャナー（メール送信）やスキャナー（PC 保存）の場合、［高圧縮（MRC）］を［する］に設定して保存した結果と、親展ボックスに保存されたデータを CentreWare Internet Services を使って［高圧縮（MRC）］を設定して取り出した結果とでは、画質が異なることがあります。
- DocuWorks 5.0.x 以前 （体験版も含む）では、高圧縮 DocuWorks 文書に対応していません。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 出力される DocuWorks 文書を（コンピューター上で）閲覧・印刷するには、次のどれかのソフトウエアが必要です。
  - DocuWorks 6.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light 5.1 以降
  - DocuWorks Viewer Light for Web 5.1 以降
- この機能は、カラーモードを［自動］、［フルカラー］または［グレースケール（256 階調）］、解像度を［200dpi］または［300dpi］、出力ファイル形式を［PDF］、［DocuWorks］または［XPS］に設定した場合に利用できます。

■文字認識（OCR）

PDF ファイル、DocuWorks ファイル、Microsoft® Word ファイル、または Microsoft® Excel® ファイルに、文字認識するか、しないかを設定します。［文字認識（OCR）］を［する］に設定したときは、文字認識する言語を設定します。

［文字認識（OCR）］を［する］に設定したときは、次の読み取り設定が可能です。

読み取り設定		高圧縮（MRC）［しない］の場合	高圧縮（MRC）［する］の場合
メール送信 / ボックス保存 /PC 保存 / URL 送信 / USB メモリー保存	カラーモード	白黒、自動、フルカラー、グレースケール	自動、フルカラー、グレースケール
	原稿の画質	文字 / 写真、文字	
	ファイル形式	PDF、DocuWorks、Microsoft® Word、Microsoft® Excel®	
画質調整	色空間 *	標準色空間	

読み取り設定		高圧縮（MRC）［しない］の場合	高圧縮（MRC）［する］の場合
読み取り方法	読み取り解像度	200dpi、300dpi	
	読み取り倍率	100% ※［自動 %］には対応していません。	

* ［色空間］は、お使いの機種によっては利用できません。また、機械管理者モードの設定によっては、［色空間］が表示されないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」>「色空間機能の表示」と「色空間（色空間を設定する）」(P.400) を参照してください。

■少数色で圧縮する

色数の少ない原稿を圧縮して保存します。ファイルサイズは［高圧縮（MRC)］を選択して保存した場合よりも小さくなります。

補足

- この機能は、カラーモードを［フルカラー］、解像度を［200dpi］または［300dpi］、出力ファイル形式を［PDF］または［DocuWorks］に設定した場合に利用できます。
- 出力される DocuWorks 文書を（コンピューター上で）閲覧・印刷するには、次のどれかのソフトウエアが必要です。
  - DocuWorks 6.0 以降
  - DocuWorks Viewer Light 5.1 以降
  - DocuWorks Viewer Light for Web 5.1 以降

■サムネールあり

DocuWorks ファイルと XPS ファイルを選択した場合、スキャンデータにサムネールをつけることができます。サムネールとは縮小された小さな画像のことです。表示された絵柄を見ることによって、内容が確認しやすくなります。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■1 ページずつ分割する

1 ページずつ 1 ファイルにして、指定したファイル形式で保存します。

補足

- スキャナー（ボックス保存）、ジョブフロー 、BMLinkS ストレージサービスへの保存を利用した場合、ファイルは分割できません。

■PDF セキュリティ

PDF ファイル形式で保存したデータにセキュリティーを設定して、不正なアクセスを防ぎます。

［出力ファイル形式 -PDF セキュリティ］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［出力ファイル形式 -PDF セキュリティ］画面」(P.356) を参照してください。

■PDF 署名

［出力ファイル形式 -PDF 署名］画面が表示されます。

ファイルに署名を付けることで、ファイルの改変を検出したり、送信者のなりすましを防いだりできます。

Acrobat で署名を検証する場合は、Acrobat の［環境設定］で［電子署名］を選択し、［検証方法］を次のように設定してください。

- Acrobat 6.0.x：Windows 電子認証セキュリティ
- Acrobat 7.0.x：Adobe デフォルトセキュリティ

- Acrobat 8.0.x：Adobe デフォルトセキュリティ

• しない

署名を付けません。

• する

本機の証明書を使用して署名を付けます。

補足

• 装着しているオプションや、機械管理者モードの設定によって、署名に使われる情報が異なります。

• 署名位置

PDF 署名を［する］に設定した場合、署名を表示する位置を選択します。［不可視署名］を設定すると、本機の証明書を使用して、レイアウト上見えない署名を付けます。

補足

• この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■Web 表示用に最適化する

Web ブラウザーで PDF を表示するとき、ページが表示されるまでの時間を短くできます。

■DocuWorks セキュリティ

DocuWorks ファイル形式で保存したデータにセキュリティーを設定して、不正なアクセスを防ぎます。

［出力ファイル形式 -DocuWorks セキュリティ］画面が表示されます。

参照

• 詳しくは、「［出力ファイル形式 -DocuWorks セキュリティ］画面」（P.358）を参照してください。

■DocuWorks 署名

［出力ファイル形式 -DocuWorks 署名］画面が表示されます。

ファイルに署名を付けることで、ファイルの改変を検出したり、送信者のなりすましを防いだりできます。

• しない

署名を付けません。

• する

本機の証明書を使用して署名を付けます。

補足

• 装着しているオプションや、機械管理者モードの設定によって、署名に使われる情報が異なります。

• 署名位置

DocuWorks 署名を［する］に設定した場合、署名を表示する位置を選択します。

補足

• この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■XPS 署名

［出力ファイル形式 -XPS 署名］画面が表示されます。

ファイルに署名を付けることで、ファイルの改変を検出したり、送信者のなりすましを防いだりできます。

- しない

  署名を付けません。

- する

  本機の証明書を使用して署名を付けます。

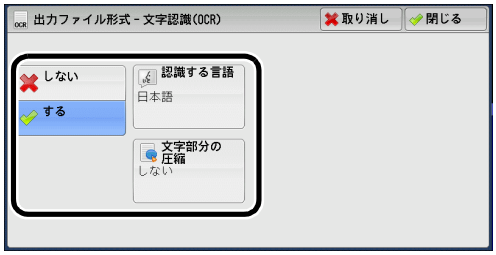
補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- 装着しているオプションや、機械管理者モードの設定によって、署名に使われる情報が異なります。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

［出力ファイル形式 - 文字認識（OCR）］画面

PDF ファイルまたは DocuWorks ファイルに、文字認識するか、しないかを設定します。

1 任意の項目を選択します。



■認識する言語

文字認識する言語を設定します。

補足

- 英語とその他の言語（日本語、韓国語、繁体中国語、簡体中国語）が混在する原稿に対して、両方の言語の文字列を認識するには、［文字認識する言語］を［日本語］、［韓国語］、［繁体中国語］、または［簡体中国語］に設定し、文書を読み取るときに［読み取り解像度］で［300dpi］を指定してください。ただし、英語は［文字認識する言語］を［英語］に設定した場合に比べて認識率が低くなる可能性があります。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■文字部分の圧縮

文字認識を行った場合に、文字部分のデータを圧縮するかしないかを設定します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

注記

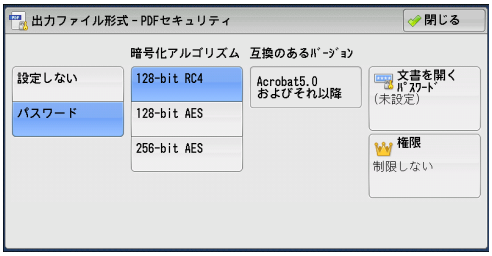
- ［文字認識（OCR）］を［する］に設定したときは次の点に注意してください。
  - 原稿の文字が小さい場合（目安として 10 ポイント以下の場合）、高解像度（300dpi）でスキャンすることをお勧めします。
  - 濃い色の背景に文字がある場合や白抜き文字がある場合、カラースキャンをお勧めします。
  - スキャナー（メール送信）やスキャナー（PC 保存）から［高圧縮（MRC）］と［文字認識（OCR）］を組み合わせて設定して保存した結果と、親展ボックスに保存されたデータを CentreWare Internet Services を使って［高圧縮（MRC）］と［文字認識（OCR）］を組み合わせて取り出した結果とでは、認識率が異なることがあります。
- 次のような場合、正しく機能しないことがあります。
  - 原稿が斜めになっている場合、文字の読める向きが複数混在している場合
  - 原稿の文字に特殊な装飾（イタリック、網がけ、取り消し線など）がある場合

- 原稿全体に特殊な模様やノイズがある場合
- 手書き文字の場合

［出力ファイル形式 -PDF セキュリティ］画面

PDF ファイルに、パスワードによる暗号化や、ファイル操作へのアクセス権を設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■設定しない

ファイルの暗号化、およびファイルへのアクセス権を設定しません。

■パスワード

パスワードを設定することによって、ファイルを暗号化します。

■暗号化アルゴリズム

暗号化方式を設定します。

- 128-bit RC4

  128-bit RC4 方式で暗号化します。この方式で暗号化した場合は、Adobe® Acrobat® 5.0 以降のソフトウエアで開けます。

  注記
  - 128-bit RC4 方式で暗号化し、［PDF 署名］を設定した場合は、Adobe® Acrobat® 6.0 以降のソフトウエアでだけ開けます。

- 128-bit AES

  128-bit AES 方式で暗号化します。この方式で暗号化した場合は、Adobe® Acrobat® 7.0 以降のソフトウエアで開けます。

- 256-bit AES

  256-bit AES 方式で暗号化します。この方式で暗号化した場合は、Adobe® Acrobat® 9.0 以降のソフトウエアで開けます。

■互換のあるバージョン

暗号化するにあたって、互換性のある Adobe® Acrobat® のバージョンが表示されます。

■文書を開くパスワード

［PDF セキュリティ - 文書を開くパスワード］画面が表示されます。

［設定する］を選択してパスワードを設定すると、ファイルを開くときにパスワードが必要になります。

パスワードは、32 文字以内で入力します。

■権限

［PDF セキュリティ - 権限］画面が表示されます。

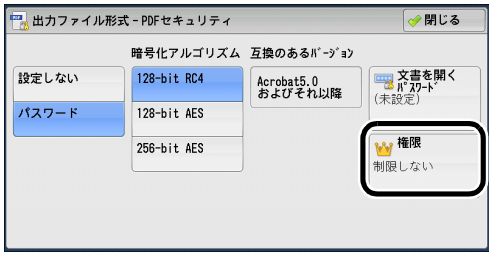
参照

- 詳しくは、「［PDF セキュリティ - 権限］画面」(P.357) を参照してください。

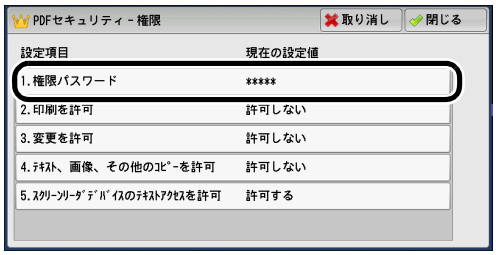
［PDF セキュリティ - 権限］画面

ファイルにアクセス権を設定します。

1 ［権限］を押します。



2 ［権限パスワード］を押します。



3 ［設定する］を押します。

4 権限パスワードを入力し［決定］を押します。

5 同様に［権限パスワードの再入力］を入力し、［決定］を押します。

6 任意の項目を選択します。

■権限パスワード

［PDF セキュリティ - 権限パスワード］画面が表示されます。

パスワードを設定すると、ファイルにアクセス権を設定でき、アクセス権のない操作やアクセス権の変更に、パスワードの入力が必要になります。

パスワードは、32 文字以内で入力します。

■印刷を許可

［権限 - 印刷を許可］画面が表示されます。

ファイルの印刷を許可するか、許可する場合はどのような解像度で印刷できるのかを設定します。

■変更を許可

［権限 - 変更を許可］画面が表示されます。

ページ挿入や注釈の追加など、ファイルの内容を変更できるかどうかを設定します。

■テキスト、画像、その他のコピーを許可

［権限 - テキスト、画像、その他のコピーを許可］画面が表示されます。

ファイル内のテキストや画像など、ファイルの内容をコピーできるかどうかを設定します。

■スクリーンリーダデバイスのテキストアクセスを許可

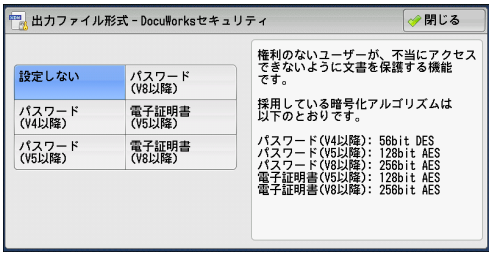
［権限 - スクリーンリーダデバイスのテキストアクセスを許可］画面が表示されます。

［許可する］に設定すると、視覚障害者がスクリーンリーダーなどの PDF 文書を読み上げるソフトウエアを利用できます。

［出力ファイル形式 -DocuWorks セキュリティ］画面

DocuWorks ファイルに、パスワードによる暗号化や、ファイル操作へのアクセス権を設定できます。

1 任意の項目を選択します。



■設定しない

ファイルの暗号化、およびファイルへのアクセス権を設定しません。

■パスワード（V4 以降）

パスワードを設定することによって、56bit DES 方式でファイルを暗号化します。この方式で暗号化した場合は、DocuWorks Ver. 4.0 以降のソフトウエアで開けます。

［開くパスワード］を押してパスワードを設定します。

■パスワード（V5 以降）

パスワードを設定することによって、128bit AES 方式でファイルを暗号化します。この方式で暗号化した場合は、DocuWorks Ver. 5.0 以降のソフトウエアで開けます。

［開くパスワード］を押してパスワードを設定します。

■パスワード（V8 以降）

パスワードを設定することによって、256bit AES 方式でファイルを暗号化します。この方式で暗号化した場合は、DocuWorks Ver. 8.0 以降のソフトウエアで開けます。

［開くパスワード］を押してパスワードを設定します。

■電子証明書（V4 非互換）

証明書を設定することによって、128bit AES 方式でファイルを暗号化します。この方式で暗号化した場合は、DocuWorks Ver. 5.0 以降のソフトウエアで開けます。

［証明書］を押して証明書を設定します。

注記

- Basic　Constraints（基本制約）が存在しない電子証明書を使用して暗号化を行った場合、DocuWorks Ver. 5.0.1、および Ver. 6.0.1 では正しく開けません。このような電子証明書を使用する場合は、DocuWorks Ver. 5.0.2 または Ver. 6.0.2 以降をご使用ください。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- 同一の証明書が重複して表示される可能性があるのは、次の場合です。
  - 本機でジョブフローを作成するときに、同一の証明書を重複して設定した場合
  - 証明書データを LDAP サーバーから取得し、同一の証明書を重複して設定した場合

■電子証明書（V5 以降）

証明書を設定することによって、128bit AES 方式でファイルを暗号化します。この方式で暗号化した場合は、DocuWorks Ver. 5.0 以降のソフトウエアで開けます。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■電子証明書（V8 以降）

証明書を設定することによって、256bit AES 方式でファイルを暗号化します。この方式で暗号化した場合は、DocuWorks Ver. 8.0 以降のソフトウエアで開けます。

［証明書］を押して証明書を設定します。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■暗号化アルゴリズム

暗号化方式が表示されます。

■操作の制限

ファイルに対して、アクセス権を付けたい操作を設定します。アクセス権を付ける場合は、［フルアクセスパスワード］も設定してください。

■開くパスワード

［DocuWorks セキュリティ - 開くパスワード］画面が表示されます。

［設定する］を選択してパスワードを設定すると、ファイルが暗号化され、ファイルを開くときにパスワードが必要になります。また、［操作の制限］で設定したアクセス権が付きます。

パスワードは、32 文字以内で入力します。

■フルアクセスパスワード

［DocuWorks セキュリティ - フルアクセスパスワード］画面が表示されます。

パスワードを設定すると、［操作の制限］で設定したアクセス権を変更する場合に、パスワードが必要になります。

パスワードは、32 文字以内で入力します。

■証明書

［DocuWorks セキュリティ - 証明書］画面が表示されます。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- ［証明書］を押したときに表示される画面は、［宛先表タイプ 1］と［宛先表タイプ 2］の 2 種類あり、どちらの画面が表示されるかは、機械管理者モードの［宛先表タイプ］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」>「宛先表タイプ」を参照してください。

参照

- 詳しくは、「［DocuWorks セキュリティ - 証明書］画面」(P.360) を参照してください。

［DocuWorks セキュリティ - 証明書］画面

暗号化したファイルの開示先や、ファイルへのアクセス権を設定します。

補足

- ［DocuWorks セキュリティ - 証明書］画面で、設定できる暗号化したファイルの開示先は、50 までです。
- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

宛先表タイプ 1 の場合

■証明書一覧画面

- 証明書の種別　宛先名 / メールアドレス

  現在設定されている証明書が一覧で表示されます。［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。［証明書の種別］には、文書を開くための［開く証明書］と、文書の編集などすべての操作を許可するための［フルアクセス証明書］の 2 種類があります。証明書を選択するとポップアップメニューが表示され、［削除］、［アクセス権変更］、［証明書詳細］、［取り消し］から選択できます。［証明書詳細］を選択すると、［証明書詳細］画面が表示され、証明書の発行先、発行者、有効期間などの情報が表示されます。

- すべてを削除

  現在設定されている証明書をすべて削除します。

- 証明書を追加

  ［証明書を追加］を押すと、［証明書宛先表］画面が表示されます。

■［証明書宛先表］画面

証明書宛先表から証明書を選択します。

補足

- 宛先表の種類を切り替えるときは、ドロップダウンメニューから、［本体宛先表］［ディレクトリサービス］、［IC カード登録アドレス］、［本体証明書］のどれかを選択します。
- 機械管理者モードの設定によって、表示される項目が異なります。

■本体宛先表

本機に登録されている宛先が表示されます。

- すべて

  宛先表に登録されているメールの宛先を、一覧で表示します。

- かな索引

  宛先表に索引文字が登録されている宛先を、五十音順に表示します。

- 英数索引

  宛先表に索引文字が登録されている宛先を、アルファベット順に表示します。

- 検索

  ［かんたん検索］または［詳細検索］から選択できます。［かんたん検索］では、指定したキーワードで検索します。［詳細検索］では、条件に一致する宛先を検索します。

補足
- ［詳細検索］では、複数の条件を組み合わせて指定できます。

- 番号 / 宛先名 / メールアドレス

  登録された宛先や検索された宛先の、登録番号、宛先名、メールアドレスが表示されます。

- 表示開始番号

  短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

- ボタン

  証明書の発行先、発行者、有効期間などの情報が表示されます。

■ディレクトリサービス

ディレクトリサービスから、宛先を検索できます。

参照
- CentreWare Internet Services の［フィルター設定］画面から検索フィルターを有効にすると、［宛先名］、［メールアドレス］、［補助項目］を設定せずにキーワードだけで検索できます（「かんたん検索」）。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

補足
- ［ディレクトリサービス検索］を表示させるには、機械管理者モードでの設定が必要です。

■IC カード登録証明書

IC カードに登録されている証明書から、宛先の一覧を表示します。

補足
- この項目は、IC カードリーダーを装着している場合に表示されます。

■本体証明書

本機に登録されている証明書から、宛先の一覧を表示します。

補足
- この項目は、本体証明書が登録されている場合に表示されます。

宛先表タイプ 2 の場合

■本体宛先表一覧

本体宛先表を一覧で表示できます。

■本体宛先表 文字 / 番号指定

短縮宛先番号登録時に指定した索引文字、または、表示したい短縮宛先番号を指定します。

■本体宛先表検索

本機に登録されている宛先から検索します。

■ディレクトリサービス検索

ディレクトリサービスから、宛先を検索できます。

補足

- ［ディレクトリサービス検索］を表示させるには、機械管理者モードでの設定が必要です。

■ボタン

［証明書情報］画面が表示されます。

証明書の発行先、発行者、有効期間などの情報が表示されます。

■宛先名 / メールアドレス /DN

登録された宛先や検索された宛先が表示されます。

■追加

［追加→］を押すと、開く証明書として追加できます。

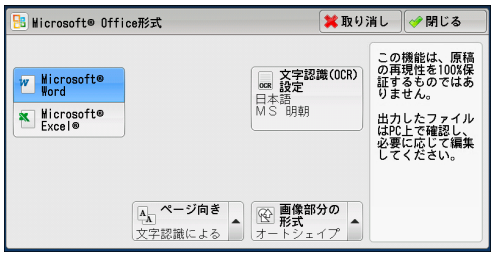
■フルアクセス証明書として追加

文書の操作や編集を含めて、アクセス権を変更できる人（フルアクセス）の証明書を設定して追加します。

［出力ファイル形式 -Microsoft® Office 形式］画面

読み込み時の処理や、画像の保存形式について設定します。

1 任意の項目を選択します。



■Microsoft® Word/Microsoft® Excel®

Microsoft® Word ファイル形式または Microsoft® Excel® ファイル形式を選択できます。

■文字認識（OCR）設定

［Microsoft® Office 形式画面 - 文字認識（OCR）設定］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［Microsoft® Office 形式 - 文字認識（OCR）設定］画面」（P.363）を参照してください。

■ページ向き

セットした原稿と同じ向きでファイルを保存するか、文字認識（OCR）で認識された文字が読める向きでファイルを保存するかを設定します。

注記

- ［原稿セット向き指定に従う］を選択した場合は、［読み取り方法］画面の［原稿のセット向き指定］で実際にセットした原稿の向きを正しく設定してください。

■画像部分の形式

ファイル内の画像を、オートシェイプとして保存するか、図（イメージ）として保存するかを設定します。

［Microsoft® Office 形式 - 文字認識（OCR）設定］画面

文字認識の対象にする言語と、保存するときに使うフォントを設定します。

1 任意の項目を選択します。



■認識する言語

［認識する言語］を押して表示される言語（日本語、韓国語、繁体中国語、簡体中国語、英語）から選択できます。

■認識言語用フォント

［認識する言語］で選択した言語で保存するときに使うフォントを選択します。

■英数字用フォント

原稿内の英数字に対して、認識言語用フォントと異なるフォントを使う場合に選択します。

補足

- Microsoft® Word ファイル形式の場合のみ、英数字用フォントが選択できます。

スキャナー（PC 保存）

［スキャナー（PC 保存）］画面で機能を選択する手順について説明します。［スキャナー（PC 保存）］画面では、スキャンしたデータを FTP や SMB のプロトコルを使って、ネットワーク上のコンピューターに転送できます。ここでは、［スキャナー PC 保存］画面について説明します。参照先は、次のとおりです。

転送プロトコル（転送プロトコルを選択する）.....365
宛先表について.....366
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）.....366
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）.....368
宛先の新規登録（宛先表に登録する）.....369
ワンタッチボタン（保存先 PC を指定する）.....373
ネットワーク参照（ネットワークを参照して保存先 PC を指定する）.....374
転送先の指定（保存先 PC を指定して転送する）.....375
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....378
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....378
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....378
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....378
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....378

補足

- スキャンする前に、コンピューター側でスキャンしたデータを保存する共有フォルダーの作成が必要です。また、FTP プロトコルを使って転送する場合は、FTP サービスの設定が必要です。コンピューター側での設定方法は、OS 付属のマニュアルまたは各社の公式ホームページをご参照ください。対象 OS については、『管理者ガイド』の「16 付録」>「主な仕様」を参照してください。
- Mac OS X 10.7 Lion および OS X 10.8 Mountain Lion の対応状況については、弊社公式サイトで、「Mac OS X 10.7 Lion および OS X 10.8 Mountain Lion 対応状況」の「スキャン時の注意・制限事項」をご確認ください。
- 認証ユーザーに応じて異なる転送先にスキャン文書を転送できる、スキャナー（マイフォルダ保存）は、メニュー画面の［スキャナー（PC 保存）］ボタンから操作します。認証されたユーザーの情報（ユーザー名やスキャン文書の保管場所など）が自動的に設定されて表示されます。

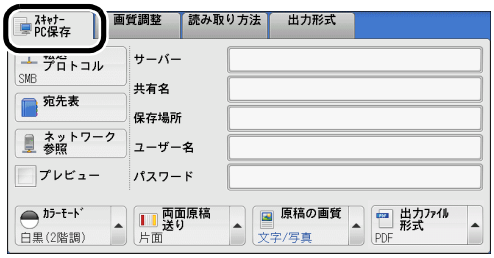
参照

- ［スキャナー（PC 保存）］画面で表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「基本画面の表示機能」を参照してください。
- メニュー画面で［スキャナー（PC 保存）］を押したときに表示される画面を、［基本スキャナー画面］または［宛先表］から選択できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「PC 保存初期表示画面」を参照してください。

1 メニュー画面で［スキャナー（PC 保存）］を押します。



2 ［スキャナー PC 保存］画面で機能を選択します。



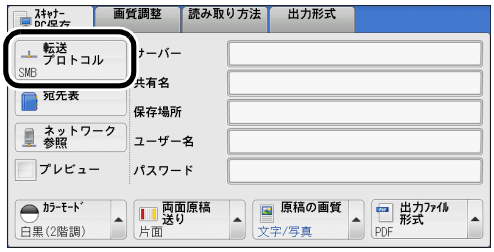
補足

- 機械管理者モードの［PC 保存初期表示画面］によっては、［サーバー宛先表］画面が表示されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」＞「スキャナー設定」＞「スキャナー画面表示設定」＞「PC 保存初期表示画面」を参照してください。
- ［転送プロトコル］の種類によって、表示される項目が異なります。

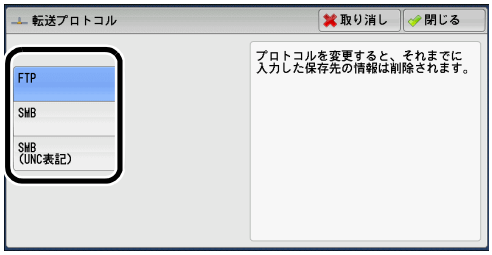
転送プロトコル（転送プロトコルを選択する）

転送に使用するプロトコルを選択します。

1 ［転送プロトコル］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■FTP

FTP プロトコルを使って転送します。

■SMB

SMB プロトコルを使って転送します。

■SMB（UNC 表記）

SMB プロトコル（UNC 表記）を使って転送します。

UNC 表記とは、Universal Naming Convention の略で、「￥￥ホスト名￥共有名￥ディレクトリー名」のように表記します。

宛先表について

宛先表を使用して宛先を指定する場合を説明します。

宛先表から宛先を指定する場合、次の制限があります。

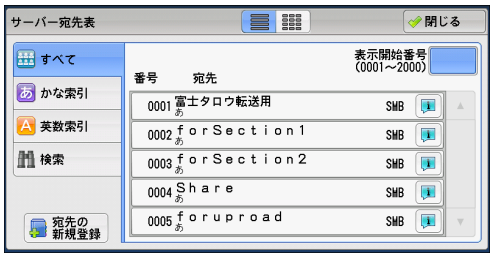
- 宛先の指定には、〈数字〉ボタンで指定する短縮宛先番号、宛先グループは使用できません。

宛先表の表示画面

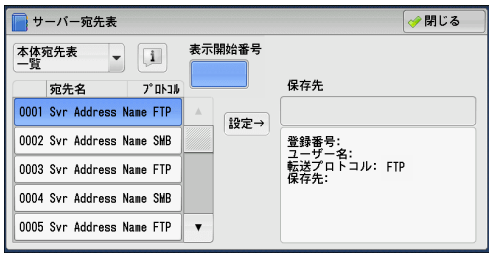
本機には、宛先表の表示画面として、［宛先表タイプ 1］と［宛先表タイプ 2］の種類があります。どちらかの画面を表示するかは、機械管理者モードの［宛先表タイプ］で設定できます。

参照

- 宛先表タイプの設定については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「宛先表設定」>「宛先表タイプ」を参照してください。



［宛先表タイプ 1］

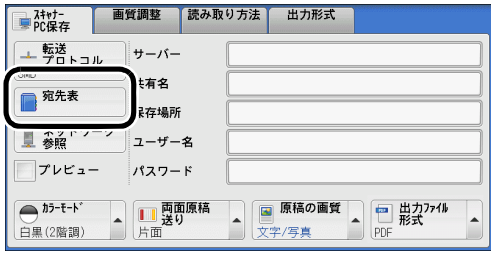


［宛先表タイプ 2］

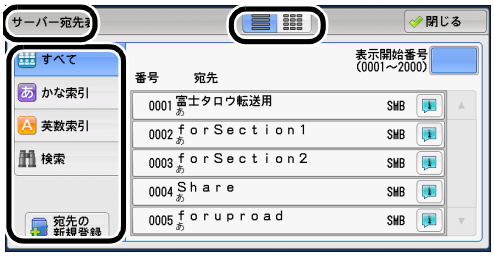
宛先表（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）

宛先表タイプ 1 の画面で宛先を指定する場合を説明します。

1 ［宛先表］を押します。



2 ［宛先］の一覧から保存先を選択します。



注記

- SMB または FTP 用に設定した宛先だけ使用できます。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- リストをスクロールしている間は（注意ボタン）は表示されません。スクロールが停止すると、再び（注意ボタン）が表示されます。

■（表示件数切り替えボタン）

ボタンを押して、1 画面に表示する宛先の件数を切り替えます。

■番号

短縮宛先番号が表示されます。

■宛先

登録された宛先とプロトコルが表示されます。

■ボタン

表示される画面で、［宛先名］や［サーバー名 /IP アドレス］などを確認できます。

■表示開始番号

短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

■宛先の新規登録

新たに宛先を登録する場合に押します。キーボードや現在登録されている宛先を利用して登録できます。

参照

- 宛先表の新規登録については、「宛先の新規登録（宛先表に登録する）」(P.338) を参照してください。

■すべて

宛先表に登録されている、SMB または FTP 用の宛先を、一覧で表示します。

■かな索引

宛先表に索引文字が登録されている宛先を、五十音順に表示します。

■英数索引

宛先表に索引文字が登録されている宛先を、アルファベット順に表示します。

■検索

［かんたん検索］または［詳細検索］から選択できます。

［かんたん検索］では、指定したキーワードで検索します。［詳細検索］では、条件に一致する宛先を検索します。

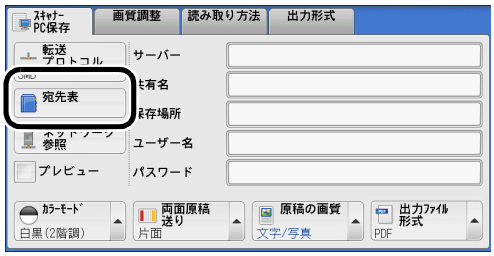
補足

- ［詳細検索］では、複数の条件を組み合わせて指定できます。
- ［かんたん検索］では、［宛先名］、［サーバー名 /IP アドレス］、［共有名（SMB のみ）］または［保存場所］のいずれかに、指定したキーワードを含む宛先が検索されます。

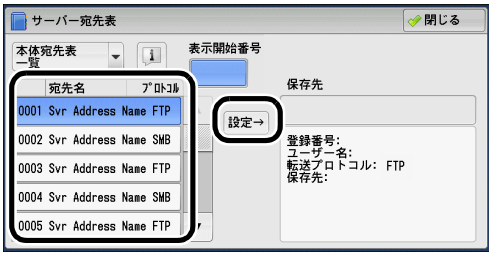
宛先表（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）

宛先表タイプ 2 の画面で宛先を指定する場合を説明します。

1 ［宛先表］を押します。



2 ［宛先］の一覧から保存先を選択します。



補足

- 宛先表の種類を切り替えるときは、［サーバー宛先表］画面のドロップダウンメニューから、［本体宛先表一覧］、［本体宛先表 文字 / 番号指定］のどれかを選択します。

3 ［設定→］を押します。

注記

- SMB または FTP 用に設定した宛先だけ使用できます。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■本体宛先表一覧

本機に登録されている宛先が一覧で表示されます。

［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。

補足

- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■本体宛先表 文字 / 番号指定

短縮宛先番号登録時に指定した索引文字、または、表示したい短縮宛先番号を指定します。

宛先に指定する項目を選択し、［設定→］を押します。

■宛先名　プロトコル

登録された宛先とプロトコルが表示されます。

■設定

宛先に指定する項目を設定します。

■保存先

選択した宛先が保存先に設定されます。

■表示開始番号

短縮宛先番号の途中から表示させたい場合、その開始番号を入力します。

■ボタン

表示される画面で、［宛先名］や［サーバー名 /IP アドレス］などを確認できます。

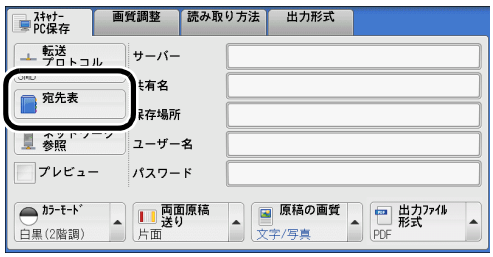
宛先の新規登録（宛先表に登録する）

新たに宛先を入力して登録したり、基本スキャン画面で指定している宛先を利用して宛先を登録したりできます。

補足

- 機械管理者モードの設定や、すでに登録されている宛先数によっては、［宛先の新規登録］が表示されない場合があります。この場合は、設定状況や宛先登録数について機械管理者に確認してください。

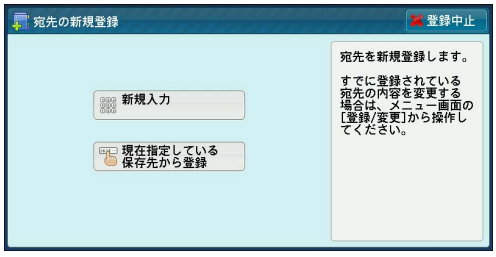
1 ［宛先表］を押します。



2 ［宛先の新規登録］を押します。



3 宛先の登録方法を選択します。



■新規入力

キーボードを使って新たに保存先を入力します。

■現在指定している保存先から登録

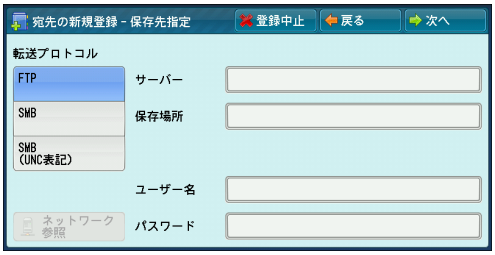
基本スキャン画面で指定している保存先を使って、保存先を登録します。

補足

- この項目を選択すると、保存先情報が表示されます。指定している保存先が無い場合は選択できません。

［新規入力］を選択した場合

4 転送に使用するプロトコルを選択します。



参照

- 転送プロトコルの詳細については、「転送プロトコル（転送プロトコルを選択する）」（P.365）を参照してください。
- ネットワーク参照については、「ネットワーク参照（ネットワークを参照して保存先PCを指定する）」（P.374）を参照してください。

5 設定する項目を選択し、設定します。

■［FTP］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- サーバー
- 保存場所
- ユーザー名
- パスワード

■［SMB］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- サーバー
- 共有名
- 保存場所
- ユーザー名
- パスワード

■［SMB（UNC 表記）］を選択した場合

次の項目が表示されます。

- 保存先
- ユーザー名

- パスワード

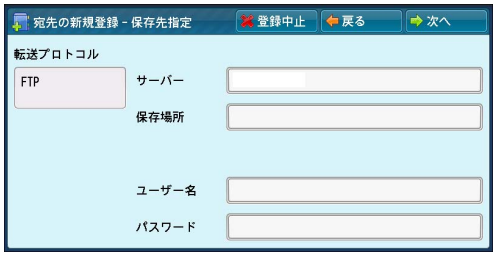
参照
- 設定項目の詳細については、「転送先の指定（保存先 PC を指定して転送する）」（P.375）を参照してください。

6 ［次へ］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

［現在指定している保存先から登録］を選択した場合

4 設定を変更する場合は、設定する項目を選択し、設定します。



補足
- 転送プロトコルは変更できません。

参照
- 設定項目の詳細については、「転送先の指定（保存先 PC を指定して転送する）」（P.375）を参照してください。

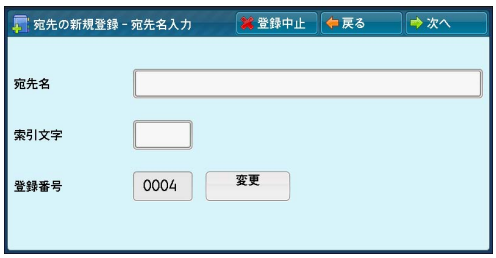
5 表示されたキーボードを使って各項目を入力または変更し、［決定］を押します。

参照
- 設定項目の詳細については、「転送先の指定（保存先 PC を指定して転送する）」（P.375）を参照してください。

6 ［次へ］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

7 ［宛先名］を選択して、表示されたキーボードを使って宛先名を入力し、［決定］を押します。



参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」（P.97）を参照してください。

8 索引文字を変更する場合は、［索引文字］を選択して、表示されたキーボードを使って入力し、［決定］を押します。

宛先表で検索するときに使用するキーワードとして、ひらがな、英数のうちどれか 1 文字を索引文字として登録できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

9 登録番号を変更する場合は、［変更］を押して登録する番号を選択し、［決定］を押します。

10 ［次へ］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

11 設定する項目を選択し、設定します。

次の項目が表示されます。

- 宛先種別
- 宛先名
- 索引文字
- 転送プロトコル
- サーバー名 /IP アドレス
- 共有名（SMB のみ）
- 保存場所
- ユーザー名
- パスワード
- ポート番号

補足
- ［登録中止］を押すと、入力していた情報は破棄され、［サーバー宛先表］画面に戻ります。

参照
- 設定項目の詳細については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

12 すべての設定が終わったら、［登録完了］を押します。

補足
- 前の画面に戻るときは、［戻る］を押します。

ワンタッチボタン（保存先 PC を指定する）

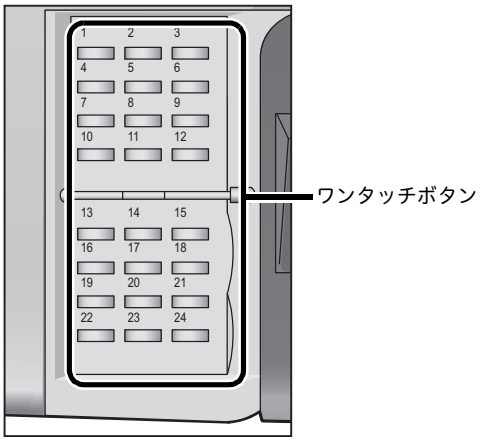
保存先のサーバー名や保存先のサーバーやコンピューターへのログイン時に使用するユーザー名を、ワンタッチボタンから指定できます。

ワンタッチボタンは、短縮宛先番号 0001 ～ 0070、または 0001 ～ 0060 に登録されている番号に対応しています。たとえば、短縮宛先番号 0001 に登録されている場合は、〈1〉を押します。

補足
- ファクス機能を搭載していない機械には、ワンタッチボタンはありません。

補足
- ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。工場出荷時は、［タイプ 1］で登録されています。
  - ［タイプ 1］
    1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
  - ［タイプ 2］
    1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応）
- ワンタッチボタンは、［スキャナー（PC 保存）］画面、［画質調整］画面、［読み取り方法］画面、［出力形式］画面で有効です。ポップアップメニューの表示中や、項目を選択して、画面が切り替わっている状態では、ワンタッチボタンを押しても認識されません。また、［画質調整］画面、［読み取り方法］画面、［出力形式］画面でワンタッチボタンを押すと、自動的に［スキャナー（PC 保存）］画面に切り替わります。

1 ワンタッチボタンを押します。タッチパネルディスプレイに、ワンタッチボタンで指定した宛先（保存先 PC）が表示されていることを確認します。



注記
- ワンタッチボタンにはセンサーが付いています。センサーによってワンタッチボタン番号が1～24、25 ～ 48、49 ～ M02 であるか判断しています。ワンタッチボタンを押すときは、パネルをめくりきって、ワンタッチパネルのパネルから手を放した状態で押してください。パネルをめくりながら、ボタンを押さないでください。
- ワンタッチボタンの付近には、ものを載せたり、液体などをこぼさないように注意してください。

補足
- 短縮宛先番号
  0025 以降を使用する場合は、ワンタッチパネルをめくって使用します。
- 入力を間違えたときは、正しい宛先を指定します。

ネットワーク参照（ネットワークを参照して保存先 PC を指定する）

保存先のサーバー名やフォルダーなどの階層構造が表示され、階層を順番にたどりながら保存先を指定できます。

1 ［ネットワーク参照］を押します。



2 保存先となる宛先を選択します。
［上の階層へ］、［下の階層へ］を押して階層を変更できます。



注記
- SMB での宛先指定だけ使用できます。

補足
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

■保存先

現在の階層構造を確認できます。

■宛先表に登録

［宛先表に登録］画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「［宛先表に登録］画面」(P.374) を参照してください。

■上の階層へ

現在の階層の１つ上の階層に移動します。

補足
- このボタンは、上に階層がない場合は選択できません。

■下の階層へ

現在の階層の１つ下の階層に移動します。

補足
- このボタンは、フォルダーを選択している場合に使用できます。

［宛先表に登録］画面

ネットワーク参照で指定した保存先を宛先表へ登録できます。

1 ［宛先表に登録］を押します。



2 ［決定］を押します。



注記

- ［宛先表に登録］画面では、索引文字は登録されません。索引文字の登録は、［宛先表登録（短縮宛先登録）］画面で行ってください。

参照

- ［宛先表登録（短縮宛先登録）］画面については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

■登録番号

登録番号を変更する場合は、［変更］を押して登録する番号を選択します。

■宛先名

宛先名を変更する場合は、宛先名を押して表示されるキーボードで変更する宛先名を入力します。

補足

- 設定によっては宛先が表示されません。

転送先の指定（保存先 PC を指定して転送する）

転送に使用するプロトコルに応じて各項目を入力し、保存する転送先を指定します。

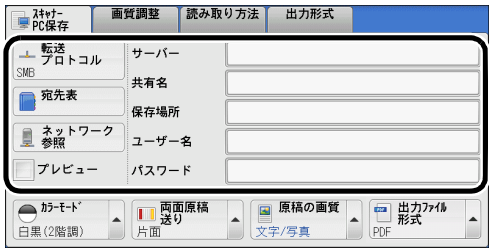
注記

- Windows NT® 以前のネットワーク環境下で、スキャナー（マイフォルダ保存）機能を使用する場合、転送先のユーザー名は、Windows NT 以前の形式（ドメイン名 ¥ ユーザー名）では自動設定されません。スキャンを実行する前に、正しくログインできる形式にユーザー名を変更してください。

補足

- 本機の認証方式が外部認証モードで、CentreWare Internet Services を使ってスキャナー（マイフォルダ保存）を「起動」に設定すると、外部認証時に認証ユーザーに応じて異なる転送先にスキャン文書を転送できます。スキャナー（マイフォルダ保存）は、認証方式は外部認証、プロトコルは SMB のみとなります。設定方法は、CentreWare Internet Services 画面の右上にある［ヘルプ］をクリックして表示されるヘルプを参照してください。

1 設定する項目を押します。



補足

- ［宛先表］を押して宛先表から入力することもできます。
- 選択するプロトコルによって、表示される項目が異なります。

2 表示されるキーボードで各項目を入力します。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

補足

- 入力内容を削除する場合は、［1 文字削除］を押します。

■サーバー

［転送プロトコル］で［FTP］または［SMB］を選択したときに表示されます。サーバー名、またはサーバーの IP アドレスを入力します。保存先が Windows の DFS 名前空間の場合は、ドメイン名もしくはサーバー名を指定します。半角で 64 文字以内で入力できます。

補足

- スキャナー（マイフォルダ保存）を起動している場合、［スキャナー PC 保存］画面で［サーバー］が自動的に設定されています。［サーバー］の内容を変更すると、「マイフォルダ保存」機能は解除されます。［転送プロトコル］の［認証ユーザーの保存場所へ］を選択することで、再度「マイフォルダ保存」機能を利用できます。

- FTP の場合

  サーバー名の入力例：myhost.example.com

  （myhost: コンピューター名、example.com: ドメイン名）

  IP アドレスの入力例：192.0.2.1

- SMB の場合

  サーバー名の入力例：myhost

  IP アドレスの入力例：192.0.2.1

■共有名

［転送プロトコル］で［SMB］を選択したときに表示されます。共有名を入力します。保存先が Windows の DFS 名前空間の場合は、ルート名を指定します。半角で 64 文字、全角で 32 文字以内で入力できます。

補足

- スキャナー（マイフォルダ保存）を起動している場合、［スキャナー PC 保存］画面で［共有名］が自動的に設定されています。［共有名］の内容を変更すると、「マイフォルダ保存」機能は解除されます。［転送プロトコル］の［認証ユーザーの保存場所へ］を選択することで、再度「マイフォルダ保存」機能を利用できます。

■保存場所

［転送プロトコル］で［FTP］または［SMB］を選択したときに表示されます。ディレクトリーを入力します。保存先が Windows の DFS 名前空間の場合は、フォルダー名を指定します。半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力できます。

補足

- フォルダー名は Windows Server® 2003 のリンク名と同じです。
- スキャナー（マイフォルダ保存）を起動している場合、［スキャナー PC 保存］画面で［保存場所］が自動的に設定されています。［保存場所］の内容を変更すると、「マイフォルダ保存」機能は解除されます。［転送プロトコル］の［認証ユーザーの保存場所へ］を選択することで、再度「マイフォルダ保存」機能を利用できます。
- FTP 転送で、保存先が Macintosh または Unix の場合、保存先のフォルダー作成時に、フォルダー名を半角英数字で付けてください。また、本機で保存場所を指定するときも、フォルダー名を半角英数字で指定してください。

- FTP の場合

  入力例：mydoc/Scan

- SMB の場合

  入力例：mydoc￥Scan

■保存先

［転送プロトコル］で［SMB（UNC 表記)］を選択したときに表示されます。「￥￥ホスト名￥共有名￥ディレクトリー名」と入力します。保存先が Windows の DFS 名前空間の場合は、「￥￥ドメイン名￥ルート名￥フォルダー名」もしくは「￥￥サーバー名￥ルート名￥フォルダー名」を指定します。半角で 260 文字、全角で 130 文字以内で入力できます。

■ユーザー名

転送するコンピューターのユーザー名を入力します。転送先でユーザー名を必要としないときは省略できます。

［転送プロトコル］で［FTP］を選択した場合、97 文字以内で入力できます。

［転送プロトコル］で［SMB］を選択した場合、次のような形式で入力できます。

補足

- スキャナー（マイフォルダ保存）機能を起動している場合、［スキャナー PC　保存］画面で［ユーザー名］が自動的に設定されています。

- アクティブディレクトリーの場合

  ユーザー名 @ ドメイン名（ユーザー名：32 文字以内、ドメイン名：64 文字以内）

  入力例：fuji@example.com（fuji: ユーザー名、example.com：ドメイン名）

- Windows NT ドメインの場合

  ドメイン名￥ユーザー名（ドメイン名：64 文字以内、ユーザー名：32 文字以内）

  入力例：example￥fuji（example：ドメイン名、fuji: ユーザー名）

- ワークグループの場合

  ローカルユーザー名（32 文字以内）

  入力例：Fuji-Taro

■パスワード

ユーザー名に対応するパスワードを入力します。半角で 32 文字以内で入力できます。

補足
- スキャナー（マイフォルダ保存）機能を起動している場合、［スキャナー PC　保存］画面で［パスワード］が自動的に設定されています。パスワードを利用しない認証の場合は表示されません。

プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）

原稿の読み込み中に、スキャン済みの原稿を確認できます。

参照
- 詳しくは、「プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）」（P.346）を参照してください。

カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定できます。

参照
- 詳しくは、「カラーモード（スキャンの色を選択する）」（P.346）を参照してください。

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）

両面原稿の両面を自動でスキャンできます。

原稿の綴じ方を設定すると、原稿のうらとおもての天地をそろえて読み取ります。

参照
- 詳しくは、「両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）」（P.347）を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。

参照
- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.349）を参照してください。

出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）

スキャンしたデータの種類を設定します。

参照
- 詳しくは、「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」（P.349）を参照してください。

スキャナー（ボックス保存）

［スキャナー（ボックス保存）］画面で機能を選択する手順について説明します。スキャンしたデータを本機の親展ボックスに保存できます。

ここでは、［スキャナーボックス保存］画面について説明します。

補足

- ［スキャナー（ボックス保存）］を選択した場合、［出力ファイル形式］は指定できません。
- CentreWare Internet Services を使用して親展ボックス内の文書を取り出すとき、ボックスに保存するスキャン文書全体が次の設定になっている場合に、文字認識指定ができます。
  - 画像サイズ：15×15mm ～ 309×432mm
  - カラーモード：自動、フルカラー、グレースケール（256 階調）、白黒（2 階調）（お使いの機種によっては、白黒（2 階調）のみ）
  - 原稿画質：文字 / 写真、文字
  - 色空間：標準色空間
  - 読み取り解像度：200dpi、300dpi
  - 読み取り倍率：100%

参照

- 親展ボックスはあらかじめ登録しておく必要があります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ボックス登録」を参照してください。
- ［スキャナー（ボックス保存）］画面で表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「基本画面の表示機能」を参照してください。

1 メニュー画面で［スキャナー（ボックス保存）］を押します。



2 ［スキャナー（ボックス保存）］画面で機能を選択します。



補足

- 親展ボックスに暗証番号が設定されている場合は、暗証番号を入力する画面が表示されることがあります。暗証番号を入力して［確定］を押してください。暗証番号を忘れた場合は、機械管理者モードで親展ボックスの暗証番号を再設定してください。

■親展ボックス

スキャンしたデータを保存する親展ボックスを選択します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。

■表示開始番号

〈数字〉ボタンで 3 桁の親展ボックスの番号を入力すると、その番号の親展ボックスが先頭に表示されます。

■文書確認 / 削除

親展ボックスを選択してこのボタンを押すと、［親展ボックス - 文書確認 / 削除］画面が表示されます。選択した親展ボックスに保存されている文書の内容を確認したり、削除したりできます。

カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定できます。

参照

- 詳しくは、「カラーモード（スキャンの色を選択する）」（P.346）を参照してください。

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）

両面原稿の両面を自動でスキャンできます。

原稿の綴じ方を設定すると、原稿のうらとおもての天地をそろえて読み取ります。

参照

- 詳しくは、「両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）」（P.347）を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。

参照

- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.349）を参照してください。

プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）

原稿の読み込み中に、スキャン済みの原稿を確認できます。

参照

- 詳しくは、「プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）」（P.346）を参照してください。

スキャナー（USB メモリー保存）

［スキャナー（USB メモリー保存）］画面で機能を選択する手順について説明します。スキャンしたデータを USB メモリーに保存できます。ここでは、［USB メモリー保存］画面について説明します。参照先は、次のとおりです。

保存先（USB メモリー内の保存先を指定する）.....385
保存先詳細（USB メモリー内の保存先の詳細を表示する）.....386
プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）.....387
カラーモード（スキャンの色を選択する）.....387
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....387
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....387
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....387

注記

- USB メモリーを取り外す場合は、操作パネルで、転送中の画面が表示されていないことを確認してください。データの保存中に USB メモリーを取り外すと、USB メモリー内のデータを破壊する場合があります。USB メモリーへの書き込みが終了したかどうかは、［ジョブ確認］画面でも確認できます。

補足

- CentreWare Internet Services 上での設定によっては、本機能を使用できないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「6 CentreWare Internet Services の設定」>「CentreWare Internet Services を使って設定する」を参照してください。
- この機能は、ソフトウエアによって暗号化された USB メモリーには利用できません。
- USB メモリーは次のものを使用してください。
  - フォーマット済みのもの（対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32、VFAT のみです。NTFS、exFAT フォーマットには対応していません。）
  - USB2.0 対応のもの（USB1.1 には対応していません。）
  - 最大容量が 128GB までのもの
- 文書プリントでは、市販のシングルスロット*1 タイプのメモリーカードリーダーを使用できますが、動作保証はできません。マルチスロット*2 のメモリーカードリーダーでは、特定の 1 つのスロットだけしか使用できません。どのスロットを使用できるかはリーダーの機種毎に異なり、お客様が使いたいメディア / メモリーカードのスロットを複合機では使えない場合があります。また、動作保証はできません。

*1 メディア / メモリーカードの挿入口が 1 か所のものです。1 つの挿入口に 1 種類のメディア / メモリーカードだけ挿入できるリーダーと、SD カードと xD ピクチャカードなど、複数種類のものを挿入できるリーダーがあります。

*2 メディア / メモリーカードの挿入口が 2 か所以上あるものです。

参照

- ［スキャナー USB メモリー保存］画面で表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「基本画面の表示機能」を参照してください。

1 操作パネルの USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込みます。

2 次のいずれかの状態になります。

- ［USB メモリー検出］画面が表示される
- ［USB メモリー保存］画面が表示される
- ［文書プリント］画面が表示される

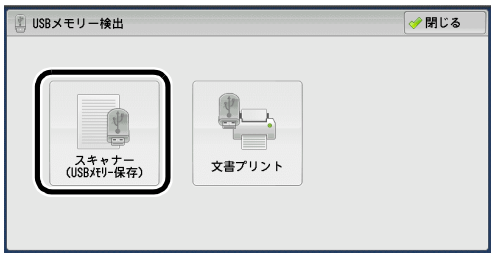
- 画面表示は変わらない

補足

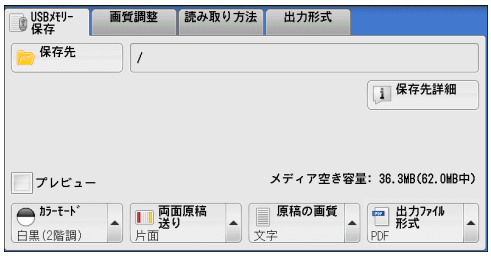
- 上記のうちのどの状態になるかは、設定によって異なります。詳しくは、機械管理者にお問い合わせください。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込みなおすか、メニュー画面で［スキャナー（USB メモリー保存）］を押してください。節電状態を解除する方法は、「節電機能について」（P.78）を参照してください。
- 暗号化されたデータが保存されたUSBメモリーや、本機が対応していないフォーマットのUSBメモリーを差し込んだときでも、上記のいずれかの状態になります。その場合、操作の途中で警告メッセージが表示され、操作は中断されます。
- 市販のメモリーカードリーダーを、本機の USB メモリー差込口に差し込んだ場合も、上記のいずれかの状態になります。メモリーカードリーダーにメディアが挿入されていない状態でも、同じ動作となります。
- 市販のメモリーカードリーダーをお使いで、本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。
- 差し込んだ USB メモリーやメモリーカードリーダーを、差込口から取り外しても、タッチパネルディスプレイの画面表示は変わりません。続けて別の操作を行う場合は、〈メニュー〉ボタンを押すなどして、表示を変更してください。

［USB メモリー検出］画面が表示された場合

1 ［スキャナー（USB メモリー保存）］を押します。

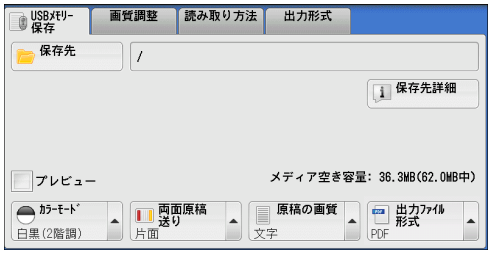


2 ［USB メモリー保存］画面が表示されます。



［USB メモリー保存］画面が表示された場合

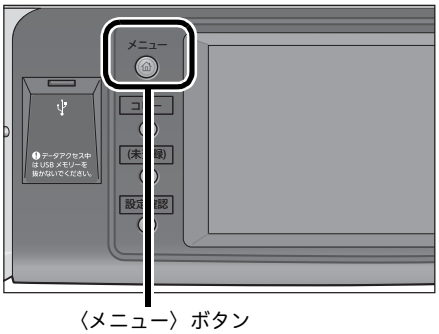
［USB メモリー保存］画面で機能を選択します。



［文書プリント］画面が表示された場合



1 〈メニュー〉ボタンを押して、メニュー画面を表示させます。



〈メニュー〉ボタン

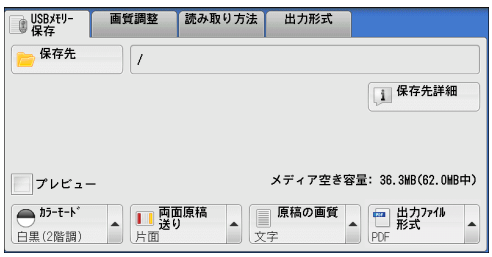
2 メニュー画面で［スキャナー（USB メモリー保存）］を押します。



補足

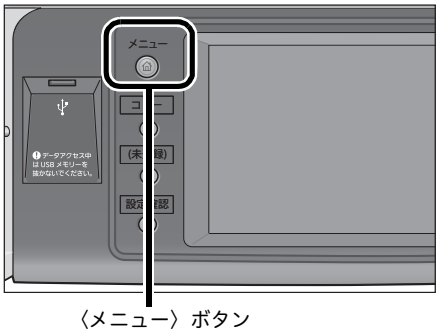
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 ［USB メモリー保存］画面が表示されます。



画面表示が変わらなかった場合

1 メニュー画面以外の画面が表示されたままになっている場合は、〈メニュー〉ボタンを押して、メニュー画面を表示させます。



〈メニュー〉ボタン

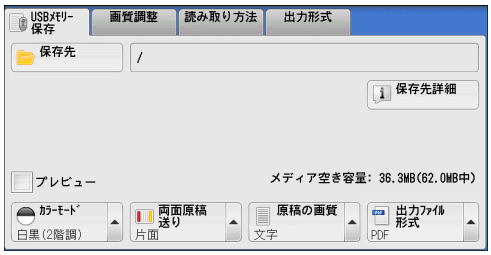
2 メニュー画面で［スキャナー（USB メモリー保存）］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 ［USB メモリー保存］画面が表示されます。



注記

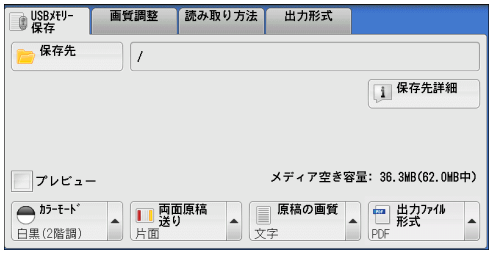
- USB メモリー内のデータは、次のような理由により消失、破損するおそれがありますので、必ず内部のデータをバックアップしてからご使用ください。
  - マニュアルに記載された方法以外で USB メモリーの抜き差しをしたとき
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  - 故障、修理などのとき
  - 天災による被害を受けたとき
- お客様のデータ消失による直接、間接の損害につき、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

保存先を指定しない場合、スキャンデータはルートディレクトリー直下に保存されます。

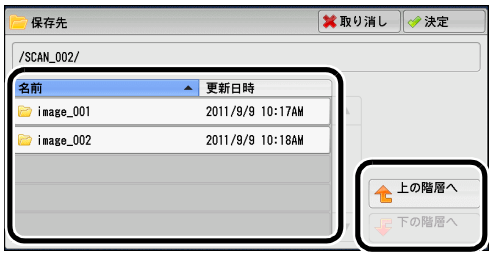
保存先（USB メモリー内の保存先を指定する）

USB メモリー内の保存先を指定します。

1 ［保存先］を押します。



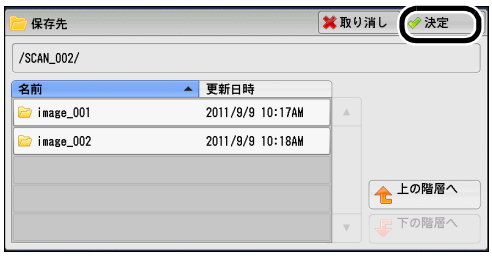
2 保存先となるフォルダーを選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ［名前］または［更新日時］を押すと、それぞれ昇順、または降順でソートできます。
- 保存先リストに表示されるのは最大 900 個までのフォルダー名だけです。ファイル名は表示されません。
- フォルダー名またはファイル名が、日本語で全角 85 文字を超える場合、対象のフォルダー名またはファイル名は表示されません。
- デジタルカメラで使用する「DCIM」フォルダー内は、一覧表示できません。また、保存先として設定できません。
- 本機でサポートしていない文字を含むフォルダー名は、正しく表示されないときがあります。また、そのフォルダーを保存先として設定した場合には、エラーとなります。本機で使用できる文字については、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。
- 日本語モードで下駄記号（〓）の文字を含むフォルダーを保存先として設定した場合は、エラーとなります。
- Windows 環境で作成された半角 8 文字以下のフォルダーまたはファイルは、大文字と小文字の区別ができません。すべて大文字で表示されます。
- 作成するファイルのフルパス（すべての階層のフォルダー名、およびファイル名を含んだ文字列）が 257 文字を超える場合は、エラーとなります。

3 ［決定］を押します。



■上の階層へ

現在の階層の１つ上の階層に移動できます。

補足

- このボタンは、上に階層がない場合は選択できません。

■下の階層へ

現在の階層の１つ下の階層に移動できます。

補足

- このボタンは、フォルダーを選択している場合に使用できます。

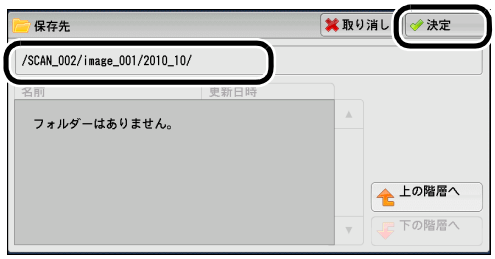
保存先詳細（USB メモリー内の保存先の詳細を表示する）

［保存先詳細］を押すと、［保存先詳細］画面が表示されます。

［保存先詳細］画面

USB メモリー内の保存先フォルダーの階層が表示されます。

1 ［保存先］を指定し、［決定］を押します。



2 ［保存先詳細］を押します。



3 保存先のフルパス（すべての階層のフォルダー名）が文字列で表示されます。



プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）

原稿の読み込み中に、スキャン済みの原稿を確認できます。

参照
- 詳しくは、「プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）」（P.346）を参照してください。

カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定できます。

参照
- 詳しくは、「カラーモード（スキャンの色を選択する）」（P.346）を参照してください。

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）

両面原稿の両面を自動でスキャンできます。

原稿の綴じ方を設定すると、原稿のうらとおもての天地をそろえて読み取ります。

参照
- 詳しくは、「両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）」（P.347）を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。

参照
- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.349）を参照してください。

出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）

スキャンしたデータの種類を設定します。

参照
- 詳しくは、「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」（P.349）を参照してください。

スキャナー（URL 送信）

本機で認証されたユーザーがスキャンをすると、本機はスキャンデータを一時的に保存すると同時に、事前に登録されたユーザーのメールアドレスを自動的に取得して、取り出し用と削除用 URL を本文に添付して送信します。

メール送信時の宛先は、認証ユーザー本人だけです。本機から複数のユーザー宛にメールを送信することはできません。

ユーザーはコンピューターでメールを受信し、ブラウザーを起動して、スキャン文書を取り出せます。

ここでは、［スキャナー URL 送信］画面について説明します。

注記

- 本機に蓄積されているスキャン文書は、機械管理者が設定している文書保存期間を経過すると自動的に削除されます。文書保存期間は、1 ～ 168 時間 の範囲で指定できます。工場出荷時は、3 時間に設定されています。自動削除をしない設定にはできません。
- セキュリティー強化のために、スキャン文書を取り出したあとは削除用の URL にアクセスして本機に蓄積されているスキャン文書を削除してください。

補足

- 文書のバックアップ / リストア、一括削除、ファイル一覧、容量表示などの文書管理機能はありません。
- スキャナー（URL 送信）では、スキャン操作のたびに宛先表からのアドレス指定や親展ボックスの指定を行う必要がなく、簡単にスキャン文書を取り出せます。ただし、本機に保存できる期間や、本機に蓄積できる容量などに制限があります。この制限を回避するには、スキャナー（PC 保存）または、スキャナー（メール送信）をご利用ください。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」の「URL 送信の最大蓄積サイズ」、「URL 送信の文書保存期間」を参照してください。
- ［スキャナー URL 送信］画面で表示される機能は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー画面表示設定」>「基本画面の表示機能」を参照してください。

1 〈認証〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。

2 登録したユーザー ID で本体認証します。

3 メニュー画面で［スキャナー（URL 送信）］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

4 ［スキャナー URL 送信］画面で機能を選択します。



宛先（認証ユーザーのメールアドレスを表示する）

認証されたユーザーの、登録されているメールアドレスが自動的に設定されます。

送信者（認証ユーザーのメールアドレスを表示する）

認証されたユーザーの、登録されているメールアドレスが自動的に設定されます。

件名（件名を設定する）

メールの件名を入力します。

■自動設定

件名は「Scan Reference from XXX」（XXX には本機のホスト名が入ります）に自動的に設定されます。

■件名を設定する場合

1 ［件名］を押します。

2 表示されたキーボードを使って、半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

本文（本文を入力する）

メールの本文を入力します。

1 ［本文］を押します。

2 表示されたキーボードを使って、半角で 512 文字、全角で 256 文字以内で入力します。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定できます。

参照
- 詳しくは、「カラーモード（スキャンの色を選択する）」(P.346) を参照してください。

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）

両面原稿の両面を自動でスキャンできます。

原稿の綴じ方を設定すると、原稿のうらとおもての天地をそろえて読み取ります。

参照

- 詳しくは、「両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）」（P.347）を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。

参照

- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.349）を参照してください。

プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）

原稿の読み込み中に、スキャン済みの原稿を確認できます。

参照

- 詳しくは、「プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）」（P.346）を参照してください。

出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）

スキャンしたデータの種類を設定します。

スキャナー（URL 送信）では、パスワードによる認証なしにユーザーがコンピューター上でスキャン文書を取り出すことができます。

ほかの人に読まれることを防ぐ場合には、スキャンするときに［出力ファイル形式］で、PDF または、DocuWorks ファイル形式を選択し、セキュリティ設定でパスワードの設定をしてください。

参照

- 詳しくは、「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」（P.349）を参照してください。

補足

- ［出力ファイル形式］画面で、［TIFF/JPEG　自動選択］を選択したり、［1 ページずつ分割する］を設定して読み込んだ場合、ZIP 形式のファイルがダウンロードされます。

スキャナー（WSD）

［スキャナー（WSD）］画面で機能を選択する手順について説明します。［スキャナー（WSD）］画面では、本機にセットした原稿を、ネットワーク上のコンピューターからの操作でスキャンできます。また、本機でスキャンしたデータを、ネットワーク上のコンピューターに保存できます。

注記

- コンピューターから操作するスキャンの場合
  コンピューターを操作するために、原稿をセットしたまま本機から離れる場合は、十分に注意してください。他のユーザーが誤って操作した場合、原稿の紛失および情報漏えいのおそれがあります。できるだけ、本機に近い場所でコンピューターの操作をしてください。また、スキャン完了後は、すべての原稿が揃っていることを確認してください。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
- 設定によっては、メニュー画面に［スキャナー（WSD）］が表示されないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「9 スキャン機能の設定」>「スキャナー（WSD）の設定」を参照してください。
- この機能では、Windows Vista Service Pack 2 以降に標準で搭載されているスキャナードライバーが使用されます。そのため、コンピューターに Windows Vista Service Pack 2 以降の OS がインストールされていない場合はご利用いただけません。
- スキャン時の解像度やファイル形式などは、本機の操作パネルでは設定できません。Windows のスキャンプロファイルで設定してください。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

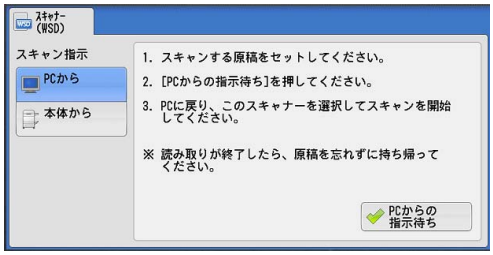
1 メニュー画面で［スキャナー（WSD）］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

2 ［スキャナー（WSD）］画面で機能を選択します。



■スキャン指示

スキャン開始の指示を出す起点を選択します。

- PC から
  コンピューターからの操作でスキャンを開始します。

- 本体から

  本機でスキャンの指示をして、スキャンしたデータを指定したコンピューターに保存します。

■保存先 PC

ネットワーク上のコンピューターとスキャンの処理方法が表示されます。保存先を選択します。

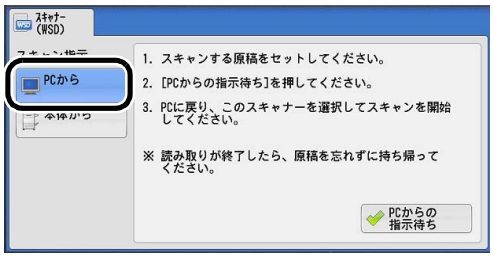
PC から（コンピューターからスキャンを開始する）

ネットワーク上のコンピューターから操作して、本機にセットした原稿をスキャンします。

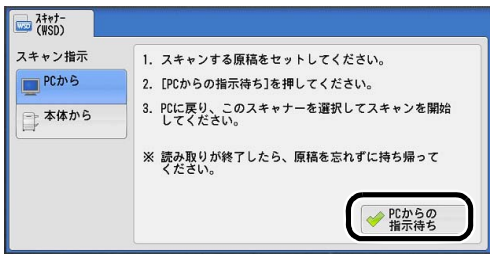
補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

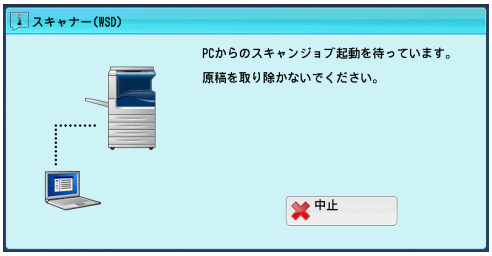
1 ［PC から］を押します。



2 本機に原稿をセットして、［PC からの指示待ち］を押します。



3 タッチパネルディスプレイに、スキャンジョブ起動の待ち受け画面が表示されます。



補足

- ［中止］ボタンを押すと、待ち受け状態は解除され、タッチパネルディスプレイに［原稿取り出し確認］画面が表示されます。

4 コンピューターからスキャンを指示します。

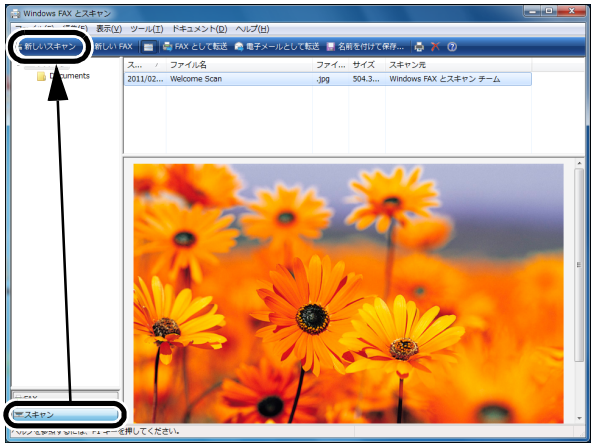
［Windows FAX とスキャン］など、デバイスからの画像読み込みに対応しているアプリケーションを使います。以下では、Windows 7 で［Windows FAX とスキャン］を使用してスキャンを指示する方法を説明します。

補足

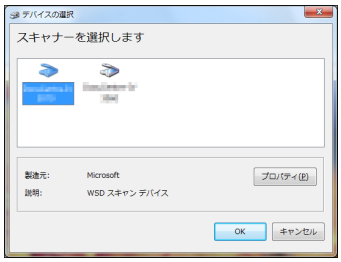
- Windows VistaのHome BasicまたはHome Premiumをご利用の場合、［Windows FAXとスキャン］を使用したスキャン指示はできません。［ペイント］の［カメラまたはスキャナから取り込み］などを使ってスキャンを指示してください。

1）［スタート］ボタンをクリックし、［すべてのプログラム］から［Windows FAX とスキャン］を選択します。

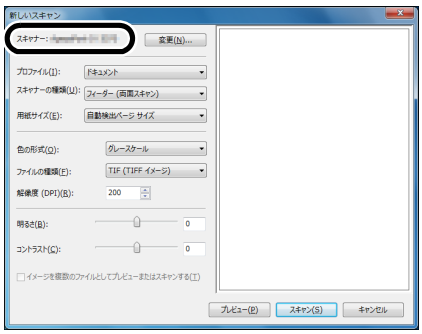
2）［スキャン］をクリックしてから、［新しいスキャン］をクリックします。



3）［デバイスの選択］画面で、本機を選択します。



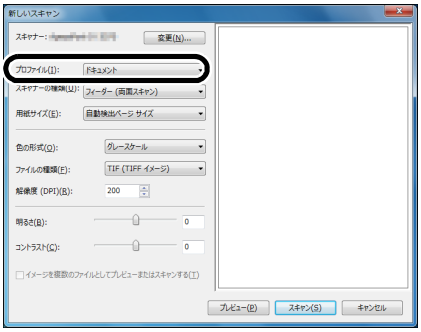
4）［新しいスキャン］画面で、［スキャナー：］の右に本機の機種名が表示されていることを確認します。



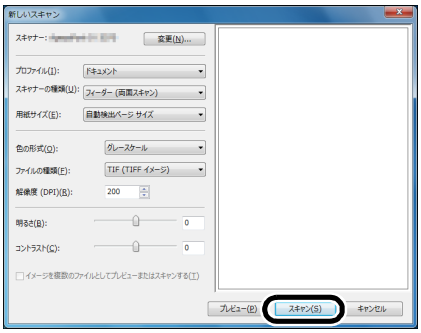
補足

- 本機の機種名が表示されていない場合は、［変更］をクリックして、本機を選択します。

5)［プロファイル］で［ドキュメント］を選択します。

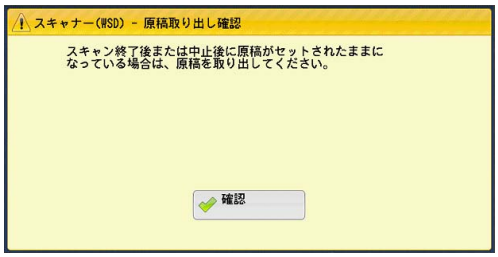


6) 必要に応じて、各項目を設定し、［スキャン］をクリックします。



5 本機で原稿の読み取りが完了すると、スキャンしたデータがコンピューターに転送されます。

6 スキャン完了後、本機のタッチパネルディスプレイには、［原稿取り出し確認］画面が表示されます。セットした原稿を取り出してから、［確認］を押してください。



補足

- コンピューターからの指示待ち画面が表示されていないと、コンピューターから本機を認識できていても、スキャンを開始できません。
- 原稿の読み取り中にタッチパネルディスプレイに表示された［中止］ボタンを押すと、原稿の読み取りは中断され、タッチパネルディスプレイに［原稿取り出し確認］画面が表示されます。
- コンピューターからの指示待ち画面が表示されている間は、節電モードに移行しません。節電モードについては、「節電機能について」(P.78) を参照してください。

本体から（本機でスキャンしたデータをコンピューターに保存する）

本機でスキャンしたデータを、ネットワーク上の指定されたコンピューターに転送します。

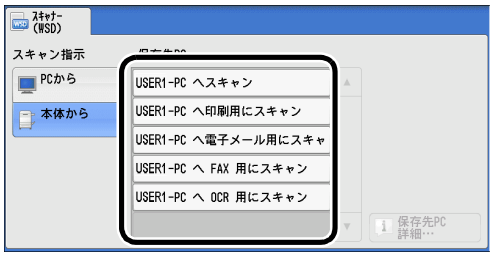
補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

1 本機に原稿をセットして、［本体から］を押します。



2 ［保存先 PC］のリストには、ネットワーク上のコンピューターのコンピューター名と、そのコンピューターでの処理方法（5 種類）が表示されます。用途に合わせてリストから保存先を選択します。



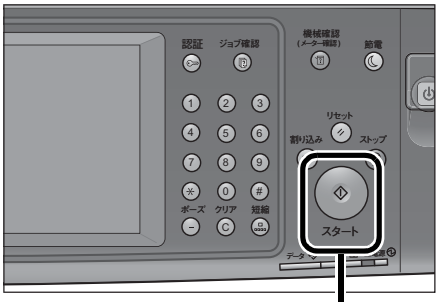
■保存先 PC 詳細

保存先として指定された宛先名と URL が表示されます。

補足

- 処理方法（スキャン、印刷用にスキャン、電子メール用にスキャン、FAX 用にスキャン、OCR 用にスキャン）については、保存後の用途に合わせて適切なものを選択してください。

3 〈スタート〉ボタンを押します。



〈スタート〉ボタン

4 保存先として指定されたコンピューターに、スキャンしたデータが転送されます。

補足

- 原稿の読み取り中に［中止］ボタンを押すと、原稿の読み取りは中断されます。

5 転送先のコンピューターで、転送されたデータを確認します。

画質調整

[スキャナー（メール送信）]、[スキャナー（ボックス保存）]、[スキャナー（PC 保存）]、[スキャナー（URL 送信）]、[スキャナー（USB メモリー保存]に表示される[画質調整]画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

カラーモード（スキャンの色を選択する）.....397
原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）.....397
印画紙スキャン（カラーの印画紙写真をスキャンする）.....397
読み込み濃度 / シャープネス（スキャン濃度や画像のシャープさを調整する）.....398
地色除去 / コントラスト（原稿の背景にある色を除去する / コントラストを調整する）.....398
裏写り防止（原稿の裏写りを防止する）.....399
色空間（色空間を設定する）.....400

1 メニュー画面で［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］、［スキャナー（USB メモリー保存）］のどれかを押します。

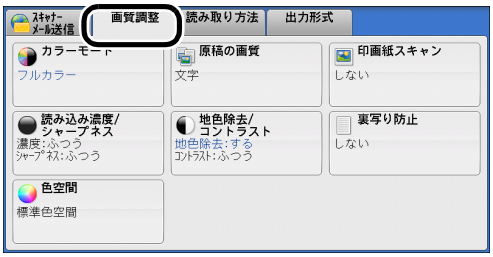




補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

2 ［画質調整］画面で、機能を選択します。



補足

- ［色空間］を表示させるには、機械管理者モードでの設定が必要です。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」>「色空間機能の表示」と「色空間（色空間を設定する）」(P.400) を参照してください。

カラーモード（スキャンの色を選択する）

原稿を読み取るときのカラーモードを設定します。

参照
- 詳しくは、「カラーモード（スキャンの色を選択する）」(P.346) を参照してください。

原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。

参照
- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」(P.349) を参照してください。

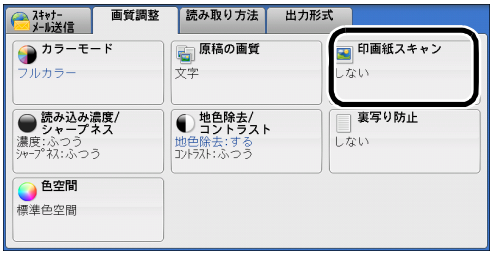
印画紙スキャン（カラーの印画紙写真をスキャンする）

カラーの印画紙写真原稿をスキャンする場合に設定します。

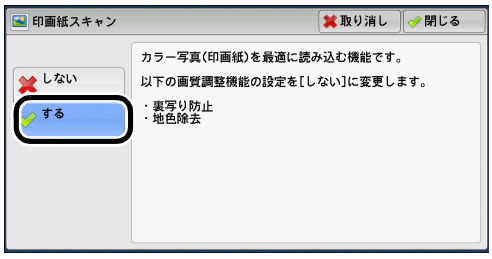
［スキャナーメール送信］画面、［スキャナーボックス保存］画面、［スキャナー PC 保存］画面、［USB メモリー保存］画面、および［スキャナー URL 送信］画面の［カラーモード］が［フルカラー］の場合だけ設定できます。

注記
- この機能は、原稿送り装置では使用できません。
- ［印画紙スキャン］を選択した場合、［裏写り防止］、［地色除去］の機能は使用できません。

1 ［印画紙スキャン］を押します。



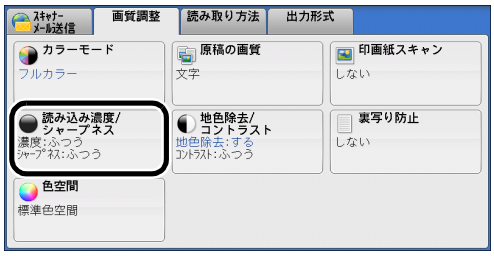
2 ［する］を押します。



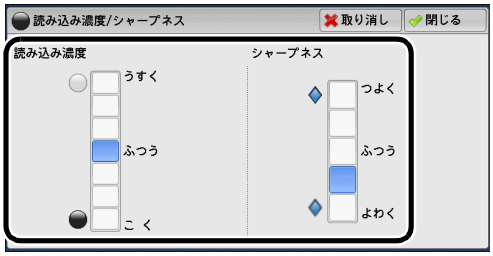
読み込み濃度 / シャープネス（スキャン濃度や画像のシャープさを調整する）

原稿の読み込み濃度を調整したり、画像のシャープさを調整してスキャンできます。

1 ［読み込み濃度 / シャープネス］を押します。



2 任意の項目を調整します。



■読み込み濃度

［うすく］～［こく］の範囲で、7 段階の読み込み濃度を選択できます。

［こく］に近づくほど濃度が濃くなります。［うすく］に近づくほど色が薄くなります。

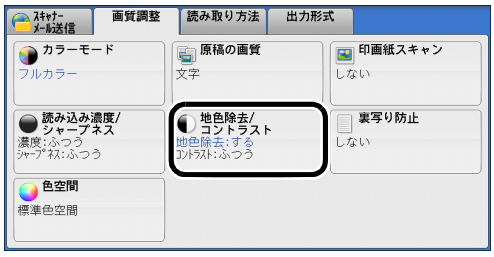
■シャープネス

［つよく］～［よわく］の範囲で、5 段階のシャープネスを選択できます。［つよく］に近づくほど画像の輪郭が強調されます。［よわく］に近づくほど画像の輪郭をぼかしたようになります。

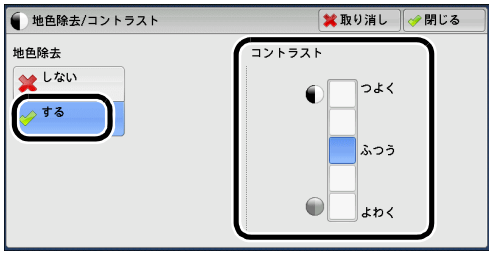
地色除去 / コントラスト（原稿の背景にある色を除去する / コントラストを調整する）

新聞や下地（背景）に色が付いている原稿の下地の色を除いてスキャンできます。また、［スキャナーメール送信］画面、［スキャナーボックス保存］画面、［スキャナー PC 保存］画面、［USB メモリー保存］画面、および［スキャナー URL 送信］画面の［カラーモード］が［フルカラー］、または［グレースケール（256 階調）］の場合は、コントラストも調整できます。

1 ［地色除去 / コントラスト］を押します。



2 ［地色除去］、［コントラスト］を設定します。



■地色除去

- しない

  原稿の下地の色はそのままでスキャンします。

- する

  カラーモードの［白黒（2 階調）］でスキャンした場合は、新聞や地色原稿などの原稿の下地（背景）の色を除いてスキャンします。カラーモードの［フルカラー］の場合、白い原稿の下地を除去します。

■コントラスト

［よわく］～［つよく］の範囲で、5 段階のコントラストを選択できます。［つよく］に近づくほど明るい部分がより明るくなり、暗い部分がより暗くなり、明暗の差が広がります。［よわく］に近づくほど明るい部分と暗い部分の差がなくなります。

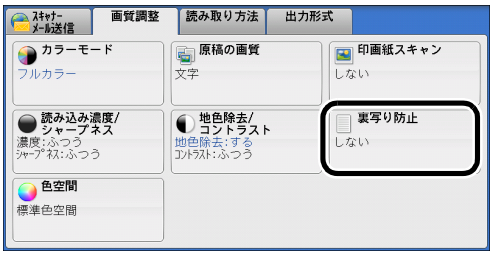
裏写り防止（原稿の裏写りを防止する）

薄い紙に両面にプリントしてある原稿などをスキャンする場合、原稿の裏が写らないようにできます。［スキャナーメール送信］画面、［スキャナーボックス保存］画面、［スキャナー PC 保存］画面、［USB メモリー保存］画面、および［スキャナー URL 送信］画面の［カラーモード］が［フルカラー］と［グレースケール（256 階調）］の場合だけ設定できます。

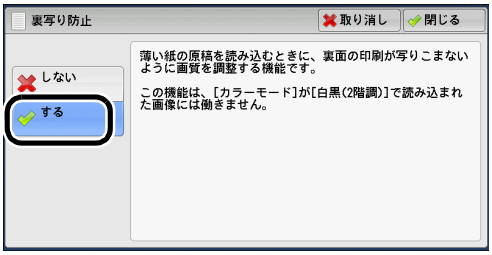
注記

- ［印画紙スキャン］とは同時に使用できません。

1 ［裏写り防止］を押します。



2 ［する］を押します。



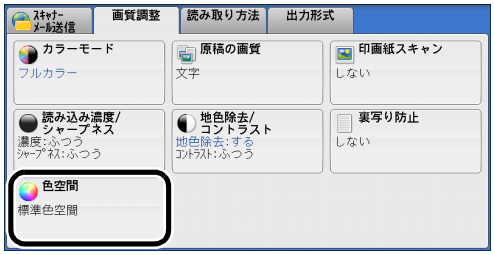
色空間（色空間を設定する）

色空間を指定してスキャンできます。

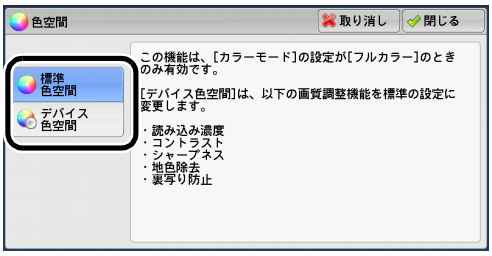
補足

- 色空間は、［カラーモード］が［フルカラー］のときに指定できます。
- ［画質調整］画面に［色空間］機能を表示させるには、仕様設定での設定が必要です。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」>「色空間機能の表示」を参照してください。
- ［出力ファイル形式］の［文字認識（OCR）］を［する］に設定した場合は、［デバイス色空間］は選択できません。

1 ［色空間］を押します。



2 ［標準色空間］または［デバイス色空間］を選択します。



■標準色空間

sYCC に準拠した色表現の基準（色空間）でスキャンされます。

■デバイス色空間

本機独自の色表現の基準（色空間）でスキャンされます。カラーを忠実に再現するために高度な色処理をする場合にご使用ください。

補足

- デバイス色空間用の ICC プロファイルデータは、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に格納されています。色を専門に扱うアプリケーションで、［デバイス色空間］を指定してスキャンしたデータに、特別な加工を行うときなどに、ICC プロファイルが有効です。
- ［デバイス色空間］を指定した場合、次の画質調整機能は標準の設定に変更されます。読み込み濃度、シャープネス、裏写り防止、コントラスト、地色除去
- ［カラーモード］が［自動］のときのカラーページは、［標準色空間］が適用されます。
- ［デバイス色空間］を指定した場合、［両面原稿送り］画面で［両面］を選択できません。

読み取り方法

[スキャナー（メール送信）]、[スキャナー（ボックス保存）]、[スキャナー（PC 保存）]、[スキャナー（URL 送信）]、[スキャナー（USB メモリー保存]に表示される[読み取り方法]画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）.....403
両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）.....403
ページ連写（見開き原稿を左右に分割してスキャンする）.....404
読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）.....405
ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）.....406
わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してスキャンする）.....408
読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする）.....409
原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）.....410

1 メニュー画面で［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］、［スキャナー（USB メモリー保存）］のどれかを押します。

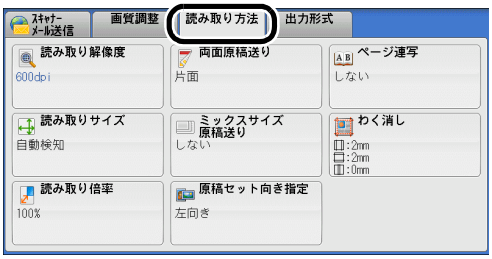




補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

2 ［読み取り方法］画面で機能を選択します。

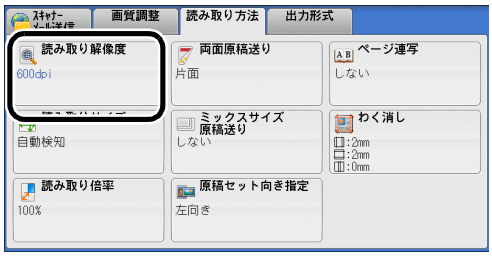


読み取り解像度（読み取る解像度を指定してスキャンする）

原稿を読み取るときの解像度を設定できます。

数値が大きくなるほど、細かく読み取られますが、データ量は大きくなります。データ量が大きいと、読み込み、および送信に時間がかかります。

1 ［読み取り解像度］を押します。



2 任意の項目を選択します。



補足

- ［出力ファイル形式］の PDF ファイル、DocuWorks ファイル、XML Paper Specification（XPS）ファイルの［高圧縮（MRC）］を［する］に設定した場合は、［200dpi］または［300dpi］から選択します。
- ［出力ファイル形式］の PDF ファイル、DocuWorks ファイルの［文字認識（OCR）］を［する］に設定した場合は、［200dpi］または［300dpi］から選択します。
- ［出力ファイル形式］の PDF ファイル、DocuWorks ファイルで［少数色で圧縮する］を設定した場合は、［200dpi］または［300dpi］から選択します。

両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）

両面原稿の両面を自動でスキャンできます。原稿の綴じ方を設定すると、原稿のうらとおもての天地をそろえて読み取ります。

参照

- この機能は、［スキャナーメール送信］画面の［両面原稿送り］と同じです。詳しくは、「［両面原稿送り］画面」(P.348) を参照してください。

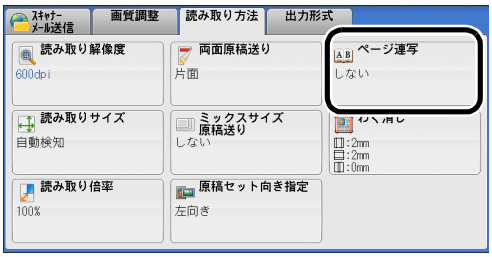
ページ連写（見開き原稿を左右に分割してスキャンする）

本などの冊子の見開きページを、別々の用紙にページ順にスキャンします。
原稿の左右ページを分けてスキャンしたいときに便利です。

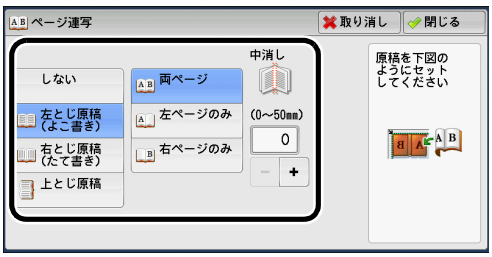
補足

- この機能は、原稿送り装置では使用できません。
- 定形サイズ以外の原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。

1 ［ページ連写］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

ページ連写をしません。

■左とじ原稿（よこ書き）

左ページから始まる見開き原稿の左のページからスキャンします。

■右とじ原稿（たて書き）

右ページから始まる見開き原稿の右のページからスキャンします。

■上とじ原稿

上ページから始まる見開き原稿の上のページからスキャンします。

■両ページ

両方のページをページ順にスキャンします。

■左ページのみ

左ページだけをスキャンします。［左とじ原稿（よこ書き）］または［右とじ原稿（たて書き）］を選択している場合に選択できます。

■右ページのみ

右ページだけをスキャンします。［左とじ原稿（よこ書き）］または［右とじ原稿（たて書き）］を選択している場合に選択できます。

■上ページのみ

上ページだけをスキャンします。［上とじ原稿］を選択している場合に選択できます。

■下ページのみ

下ページだけをスキャンします。［上とじ原稿］を選択している場合に選択できます。

■中消し

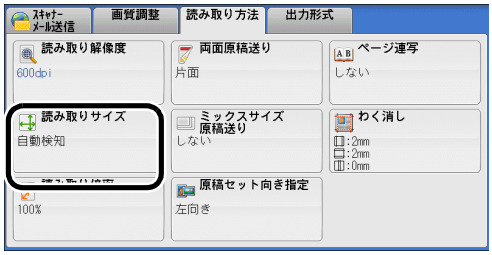
見開き原稿の中央部の影を消します。中消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

読み取りサイズ（原稿の読み取りサイズを指定してスキャンする）

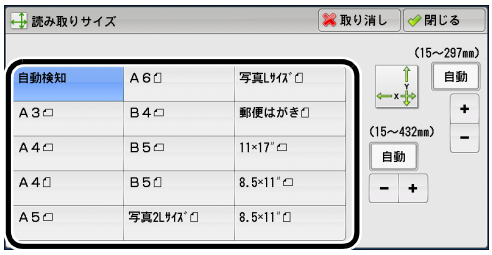
原稿の読み取りサイズを設定できます。

非定形サイズの原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズで読み取りたい場合は、読み取りサイズを指定します。余白を付けたり、余分な部分を削除したりしてスキャンできます。

1 ［読み取りサイズ］を押します。



2 任意の項目を選択します。



非定形サイズを指定する場合は、X 方向、Y 方向の値を指定します。

■自動検知

原稿サイズを自動で認識します。自動で認識できる原稿サイズは、次のとおりです。

	原稿送り装置	原稿ガラス
自動検知できる原稿サイズ	B5、B5、B4、A5、A5、A4、A4、A3、8.5×11 インチ、8.5×11 インチ、11×17 インチ、十六開、八開	B6、B5、B5、B4、A6、A5、A5、A4、A3、8.5×11 インチ、十六開、十六開、八開

補足

- 原稿サイズを自動検知できない場合は、原稿サイズを入力する画面が表示されます。

参照

- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「その他の設定」>「サイズ検知切り替え」を参照してください。

■定形サイズ

あらかじめ設定されているサイズから選択します。

■サイズ入力

非定形サイズの原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズでコピーするときは、読み取りたいサイズを入力します。サイズは、原稿ガラスのよこ方向（[X]）に 15 ～ 432mm、たて方向（[Y]）に 15 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位に指定します。原稿ガラスの周りにある目盛を参考にすると便利です。

補足

- ［出力ファイル形式］画面で、PDF ファイル、DocuWorks ファイル、XML Paper Specification（XPS）ファイルを［高圧縮（MRC）］を［する］に設定した場合、または［少数色で圧縮する］を設定した場合、サイズ入力範囲が変わります。原稿ガラスのよこ方向（[X]）に 50 ～ 432mm、たて方向（[Y]）に 50 ～ 297mm の範囲で 1mm 単位に指定します。

ミックスサイズ原稿送り（サイズが異なる原稿を一度に読み取る）

いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズにスキャンしたり、１つのサイズにそろえてスキャンしたりできます。この場合は、原稿送り装置に原稿をセットします。

注記

- ［カラーモード］の［フルカラー］を選択して、［両面原稿送り］で［両面］を選択する場合、［読み取り解像度］は［400dpi］までにしてください。
- ［両面原稿送り］の［両面］を選択して、A3 原稿を読み取る場合、［読み取り解像度］は［400dpi］までにしてください。［読み取り解像度］で［600dpi］を指定すると、エラーメッセージが表示されます。
- A5 の原稿は、必ずたて置きにセットしてください。
- B5 の原稿を、A4 たて置きまたは A3 の原稿と一緒にセットする場合、B5 の原稿はたて置きにしてください。
- 紙づまりの原因になるので、左上の角をきちんとそろえてセットしてください。
- 推奨する組み合わせは、A4 たてと A3 よこ、B5 たてと B4 よこです。推奨以外の組み合わせでは、原稿が斜めに引き込まれるなどして正しく読み取れないことがあります。

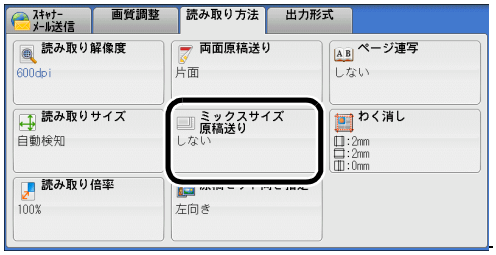
補足

- ［読み取り倍率］を［自動 %］にして、［出力サイズ］でサイズを指定すると、指定したサイズに自動的に拡大 / 縮小してスキャンします。ただし、スキャンした画像の回転処理をしないため、原稿をセットしたときの向きのまま、指定したサイズに収まるように画像を拡大 / 縮小します。たとえ

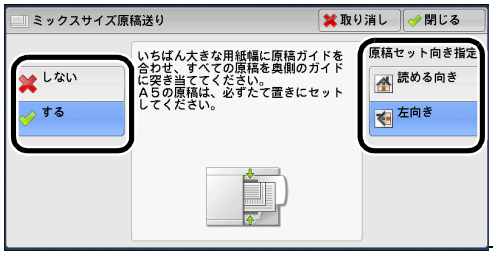
ば、A3 を左向きにセットして出力サイズを A4 たてに指定した場合、A4 たて用紙に対して A5 よこサイズの画像になります。

- 原稿サイズを自動検知できない場合は、原稿サイズを入力する画面が表示されます。

1 ［ミックスサイズ原稿送り］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■しない

原稿サイズがすべて同じ場合に選択します。

■する

異なるサイズの原稿をスキャンする場合に、本機が自動的にそれぞれの原稿サイズを認識します。

■原稿セット向き指定

原稿をセットする向き指定します。

補足

- 実際に原稿をセットする向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

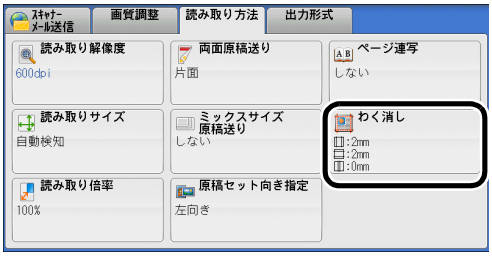
わく消し（原稿の枠やとじしろの影を消してスキャンする）

原稿カバーを開いたままスキャンしたり、冊子になっている原稿をスキャンするときに、スキャンの周りや中央のとじ部分に黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してスキャンできます。

補足

- 両面原稿の場合は、原稿のおもて面とうら面には同じわく消し量が設定されます。
- ［読み取り倍率］を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大 / 縮小されます。

1 ［わく消し］を押します。



2 任意の項目を選択します。



3 ［消し量調整］を選択した場合は、［+］［－］で、上下、左右、中央の消し量を指定します。

4 ［原稿セット向き指定］を選択します。

■標準

上下 / 左右に、2mm のわく消し量が設定されています。

■消し量調整

消し量を調整できます。

- 上下消し

  原稿の上下の影を消します。原稿をセットした向きに対して、上下のわくを消します。わく消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

- 左右消し

  原稿の左右の影を消します。原稿をセットした向きに対して、左右のわくを消します。わく消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で 1mm 単位に指定できます。

- 中消し

  冊子、または見開き原稿などの中央部の影を消します。中消しの幅は、0 ～ 50mm の範囲で、1mm 単位に指定できます。

■原稿セット向き指定

原稿をセットする向きを指定します。

補足

- 実際に原稿をセットする向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

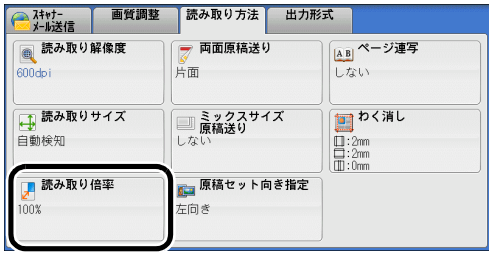
読み取り倍率（原稿を読み取る倍率を指定してスキャンする）

読み取った原稿を指定した倍率に拡大 / 縮小してスキャンします。

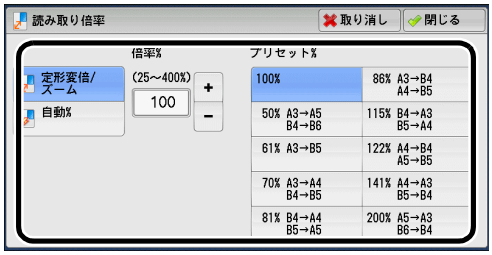
補足

- ［出力ファイル形式］の［文字認識（OCR）］を［する］に設定した場合、および［出力ファイル形式］の［少数色で圧縮する］にチェックした場合は、［読み取り倍率］が［100%］になり、変更できません。

1 ［読み取り倍率］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■定形変倍 / ズーム

あらかじめ設定されている倍率から選択するか、25 ～ 400% の範囲で 1% 単位に倍率を指定します。倍率を入力する場合は、［倍率 %］を押したあと〈数字〉ボタンで数値を入力するか、［+］［−］を押して数値を指定します。

- 倍率 %

  倍率を数値で入力します。100% に設定すると、原稿と同じ大きさで読み取ります。

- プリセット %

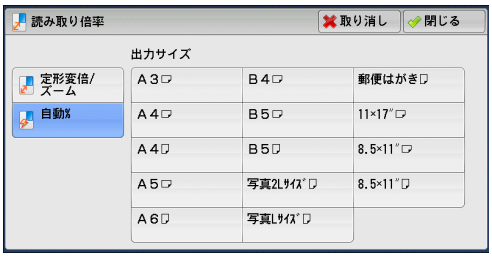
  あらかじめ設定されている倍率から選択します。

参照

- ［100%］以外の、表示する倍率は変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「固定倍率ボタン」を参照してください。

■自動 %

［出力サイズ］で、読み取った原稿を出力するサイズを選択します。選択した［出力サイズ］と原稿サイズから倍率を自動的に計算し、指定したサイズに原稿が収まるようにスキャンします。



補足

- ［自動 %］でスキャンした結果、余白になってしまう部分は、白データになります。

原稿セット向き指定（セットした原稿の向きを指定する）

原稿をセットする向きを指定します。

補足

- 実際に原稿をセットする向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

- 読める向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって奥側にセットする場合に選択します。

- 左向き

  原稿の上の部分を、原稿ガラス、または原稿送り装置に向かって左側にセットする場合に選択します。原稿を左向き（文字が横向き）にセットする場合は、必ず［左向き］を選択してください。

出力形式

［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］、［スキャナー（USB メモリー保存）］に表示される［出力形式］画面で設定できる機能について説明します。参照先は、次のとおりです。

画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）.....412
出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）.....413
開封確認（MDN）（開封確認を要求する）.....413
分割送信（分割して送信する）.....414
ファイル名（送信する文書のファイル名を指定する）.....414
返信先アドレス（返信先のアドレスを設定する）.....415
ファイル名重複時の処理（ファイル名が重複したときの処理を設定する）.....416
文書名（保存する文書名を指定する）.....417
暗号化（S/MIME で暗号化してメールを送信する）.....418
デジタル署名（S/MIME でデジタル署名してメールを送信する）.....418

1 メニュー画面で［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（ボックス保存）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］、［スキャナー（USB メモリー保存）］のどれかを押します。

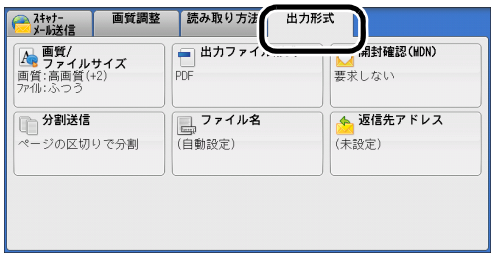




補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

2 ［出力形式］画面で、機能を選択します。



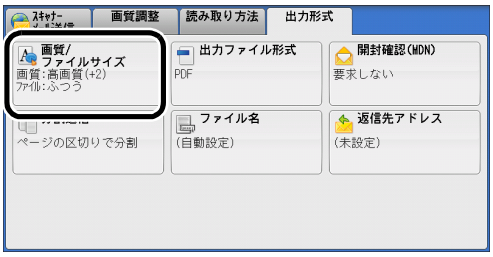
補足

- 選択する機能によって、表示される項目が異なります。上の画面はスキャナー（メール送信）機能の画面です。

画質 / ファイルサイズ（画像の圧縮率を設定してスキャンする）

［スキャナーメール送信］画面、［スキャナーボックス保存］画面、［スキャナー PC 保存］画面、［USB メモリー保存］画面、および［スキャナー URL 送信］画面の［カラーモード］を［フルカラー］、または［グレースケール（256 階調）］でスキャンするときの画像の圧縮率を選択します。

1 ［画質 / ファイルサイズ］を押します。



2 任意のボタンを選択します。



■標準画質

高い圧縮率で保存されます。画質は悪くなりますが、ファイルサイズは小さくなります。

■最高画質

低い圧縮率で保存されます。画質は良くなりますが、ファイルサイズは大きくなります。

出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）

スキャンしたデータの種類を設定します。

参照

- 詳しくは、「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」（P.390）を参照してください。

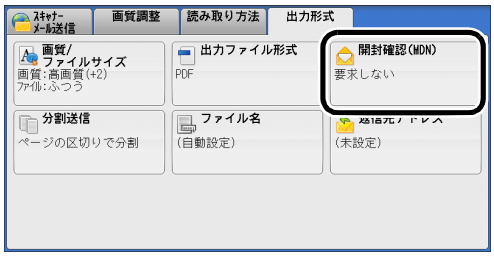
開封確認（MDN）（開封確認を要求する）

［スキャナー（メール送信）］機能を使用する場合、メールの送信結果を相手がメールで知らせてくれるように設定できます。相手が MDN 機能に対応している必要があります。

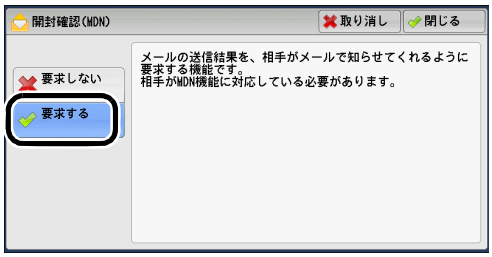
補足

- この機能は、［仕様設定］>［メール / インターネットファクス設定］>［メール送信動作制御］>［開封確認（MDN）機能の使用］を［許可］にしているときだけ表示されます。
- ［分割送信］で複数のメールが送信された場合は、各メールに対して開封確認の要求をします。
- 応答メールの宛先は、［返信先アドレス］が設定されている場合は［返信先アドレス］のアドレスに、設定されていない場合は［スキャナー メール送信］画面の［送信者］のアドレスになります。
- この機能は、相手が開封確認を返す設定になっているときだけ使用できます。

1 ［開封確認（MDN）］を押します。



2 ［要求する］を押します。



■要求しない

開封確認を要求しません。

■要求する

開封確認を要求します。

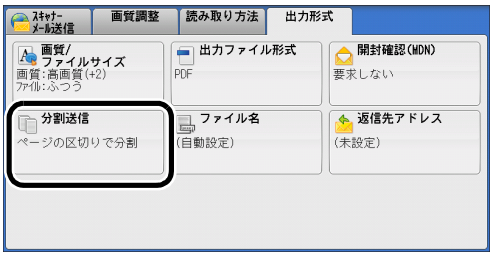
分割送信（分割して送信する）

［スキャナー（メール送信）］機能を使用する場合、添付するデータの量が大きいときに、設定されたページ単位、または一定のデータ量単位で分割して送信できます。

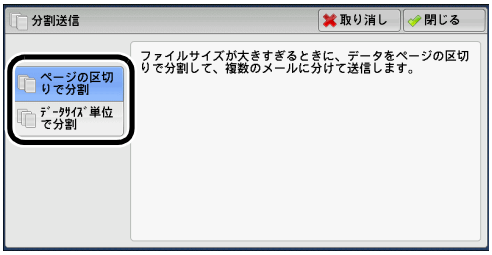
参照

- 分割送信のページ単位については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「メール / インターネットファクス設定」>「メール送信動作制御」>「メールの分割方式」を参照してください。

1 ［分割送信］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■ページの区切りで分割

データをページ単位で分割します。

補足

- ［スキャナーメール送信］画面の［出力ファイル形式］で［PDF］、［DocuWorks］、［XPS］のどれかを選択したとき、または［TIFF］で［1 ページずつ分割する］をチェックしていないときだけ設定できます。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

■データサイズ単位で分割

データを一定のデータ量ごとに分割します。

補足

- ［データサイズ単位で分割］は、受信者が message/partial に対応している場合に選択してください。

ファイル名（送信する文書のファイル名を指定する）

［スキャナー（メール送信）］、［スキャナー（PC 保存）］、［スキャナー（URL 送信）］機能を使用する場合、送信する文書のファイル名を指定できます。

■自動設定

ファイル名は仕様設定で設定したファイル名に自動的に設定されます。

拡張子は、［出力ファイル形式］の種類によって変わります。

- 出力ファイル形式が TIFF の場合：tif

- 出力ファイル形式が JPEG の場合：jpg
- 出力ファイル形式が PDF の場合：pdf
- 出力ファイル形式が XPS（XML Paper Specification）の場合：xps
- 出力ファイル形式が DocuWorks の場合：xdw
- 出力ファイル形式が Microsoft® Word の場合：doc
- 出力ファイル形式が Microsoft® Excel® の場合：xls

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 自動生成されるファイル名については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」>「ファイル名の形式」および「メールに添付するファイル名の日付」を参照してください。

■ファイル名を設定する場合

1 ［ファイル名］を押します。

2 表示されたキーボードを使って入力します。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

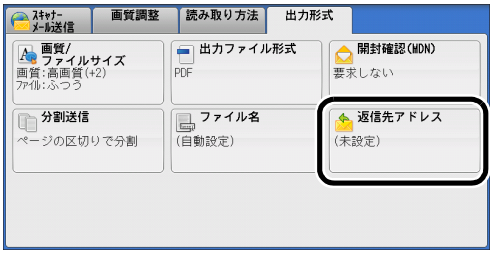
補足

- 1 ページ 1 ファイルで保存される場合、ファイル名の末尾にページ番号が付きます。
- スキャナー（PC 保存）の場合は、半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力します。
- スキャナー（PC 保存）の FTP 転送で、保存先が Macintosh または Unix の場合、ファイル名は半角英数字で指定してください。
- スキャナー（メール送信）の場合は、半角で 28 文字、全角で 14 文字以内で入力します。
- スキャナー（URL 送信）の場合は、半角で 28 文字以内で入力します。

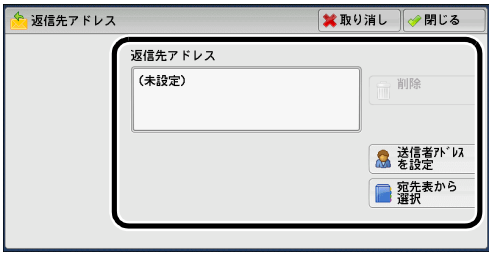
返信先アドレス（返信先のアドレスを設定する）

［スキャナー（メール送信）］機能を使用する場合、返信先のアドレスを設定できます。

1 ［返信先アドレス］を押します。



2 アドレスを設定します。



■返信先アドレス

画面中央のボックスを押すと、キーボードが表示されます。返信先のアドレスを入力できます。

補足

- メールアドレスの一部を入力し、宛先表から検索して指定するには、「キーボード（アドレスを指定する）」(P.341) を参照してください。

■削除

返信先アドレスに入力されたアドレスを削除します。

■送信者アドレスを設定

［スキャナーメール送信］画面の［送信者］に設定されているアドレスが、返信先アドレスに入力されます。

補足

- ［スキャナーメール送信］画面の［送信者］が設定されている場合に、［送信者アドレスを設定］を選択できます。

■宛先表から選択

表示される宛先表から、返信先のアドレスを選択します。

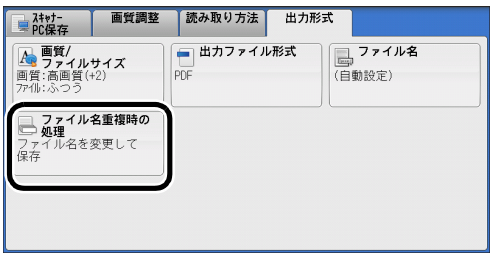
参照

- 詳しくは、「宛先表について」(P.330) を参照してください。

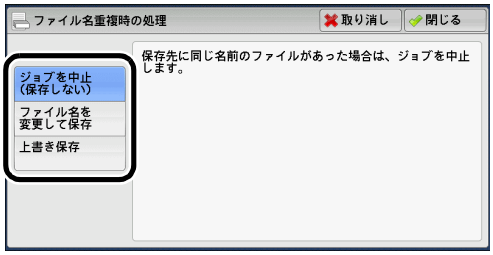
ファイル名重複時の処理（ファイル名が重複したときの処理を設定する）

［スキャナー PC 保存］機能を使用する場合、指定された保存先に、すでに同じ名前のファイルが存在しているときの処理を設定できます。

1 ［ファイル名重複時の処理］を押します。



2 任意の項目を選択します。



■ジョブを中止（保存しない）

転送先に同じ名前のファイルがあった場合、処理を中止してファイルを保存しません。

■ファイル名を変更して保存

転送先に同じ名前のファイルがあった場合に、自動的にファイル名を変更して保存します。ファイル名の末尾に 0001 ～ 9999 の数字を追加します。

■上書き保存

転送先に同じ名前のファイル名があった場合、上書き保存します。

文書名（保存する文書名を指定する）

［スキャナー（ボックス保存）］機能を使用する場合、保存する文書名を指定できます。

■自動設定

ファイル名は仕様設定で設定したファイル名に自動的に設定されます。

補足

- ファイル名が削除された場合は、「(自動設定)」と表示されます。
- 自動生成されるファイル名については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「その他の設定」>「ファイル名の形式」および「メールに添付するファイル名の日付」を参照してください。

■ファイル名を設定する場合

1 ［文書名］を押します。

2 表示されたキーボードを使って半角で 28 文字、全角で 14 文字以内で入力します。

補足

- コンピューターから本機の親展ボックスに蓄積されている文書を取り込む場合、取り込む方法によっては、文書名が反映されないことがあります。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

暗号化（S/MIME で暗号化してメールを送信する）

［スキャナー（メール送信）］機能を使用する場合、S/MIME で暗号化して、メールを送信できます。

暗号化してメールを送信するときは、暗号化できる証明書が関連づけられたメールアドレスを宛先表から選択してください。

補足

- ［暗号化］の初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「スキャナー設定」>「スキャナー機能設定初期値」>「メールの暗号化」を参照してください。
- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

■しない

暗号化しないでメールを送信します。

■する

暗号化してメールを送信します。

デジタル署名（S/MIME でデジタル署名してメールを送信する）

［スキャナー（メール送信）］機能を使用する場合、S/MIME でデジタル署名して、メールを送信できます。

デジタル署名をすると、メールの内容を改変されていないか、正しい送信者から送信されたメールかどうかなどを受信者が確認できます。

この機能を使用するには、あらかじめ本機メールアドレスに証明書を関連づけてください。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

参照

- 本機メールアドレスに証明書を関連づける方法は、『管理者ガイド』の「13 暗号化と署名機能の設定」>「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」を参照してください。

■しない

デジタル署名しないでメールを送信します。

■する

デジタル署名してメールを送信します。

6 ボックス操作

この章では、親展ボックスの機能について説明します。

補足

- ボックス操作機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- 親展ボックス操作の流れ 420
- 親展ボックスを選択する 422
- 親展ボックスの文書を確認 / 操作する 423
- 親展ボックスの文書の内容を確認する 426
- 親展ボックスの文書をプリントする 429
- ジョブフローを設定 / 実行する 433



親展ボックス操作の流れ

ここでは、親展ボックス操作の流れについて説明します。

親展ボックスとは、本機から読み込んだスキャン文書や、ファクス文書、コンピューターから指示したプリント文書を本機内に保存する場所のことです。

また、保存するだけではなく、親展ボックスに格納された文書をメール送信したり、ネットワーク上のコンピューターから取り出すことができます。

定型業務の自動化ができたり、個人ボックスや共有ボックスを登録し使い分けることもできます。

参照先は、次のとおりです。

Step1 ［ボックス操作］画面を表示する.....420
Step2 親展ボックスを選択する.....421
Step3 親展ボックスの文書を確認 / 選択する.....421
Step4 親展ボックスの文書を操作する.....422

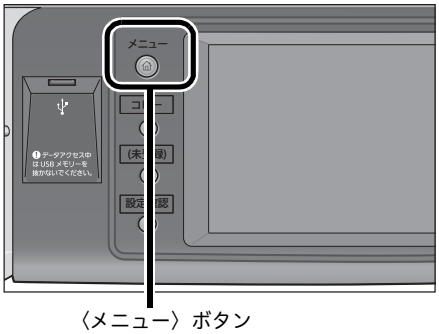
Step1 ［ボックス操作］画面を表示する

［ボックス操作］画面で機能を選択する手順について説明します。

補足

- 表示される機能は、本機の構成によって異なります。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2 ［ボックス操作］を押します。



Step2 親展ボックスを選択する

ユーザー認証機能の設定によって、選択できる親展ボックスに制限があります。

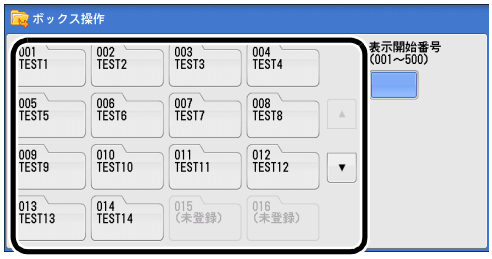
参照

- ユーザー認証機能によって選択できる親展ボックスは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>「ジョブフローと親展ボックスの認証」を参照してください。

1 操作する親展ボックスを選択します。

補足

- 画面を縦方向にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。



2 パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して［確定］を押します。

Step3 親展ボックスの文書を確認 / 選択する

1 本機内に保存した文書の中から、プリントやメール送信などのボックス操作をする文書を選択します。



参照

- ［文書確認 / 操作］画面については、「親展ボックスの文書を確認 / 操作する」(P.423) を参照してください。

Step4 親展ボックスの文書を操作する

［ボックス操作］画面でできることと参照先は、次のとおりです。

親展ボックスを選択する 422
親展ボックスの文書を確認 / 操作する 423
親展ボックスの文書の内容を確認する 426
親展ボックスの文書をプリントする 429
ジョブフローを設定 / 実行する 433

親展ボックスを選択する

ここでは、親展ボックスを選択する手順について説明します。

ユーザー認証機能の設定によって、選択できる親展ボックスに制限があります。

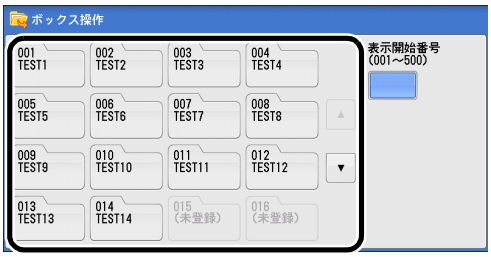
参照

- ユーザー認証機能によって選択できる親展ボックスは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>「ジョブフローと親展ボックスの認証」を参照してください。

1 ［ボックス操作］画面で、親展ボックスを選択します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- 画面を縦方向にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- 親展ボックスにジョブフローが関連づけられていて、自動実行が設定されている親展ボックスには、矢印が表示されます。
- パスワードを入力する画面が表示された場合は、パスワードを入力して［確定］を押してください。



■表示開始番号

〈数字〉ボタンで 3 桁の親展ボックスの番号を入力すると、その番号の親展ボックスが先頭に表示されます。

親展ボックスの文書を確認 / 操作する

選択した親展ボックスに保存されている文書の内容を確認したり、選択したりできます。

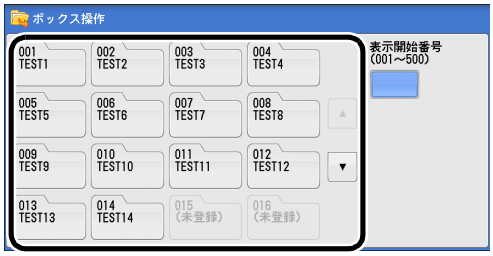
補足

- プリント文書の［ジョブフローの設定 / 実行］はできません。

1 ［ボックス操作］画面で、親展ボックスを選択します。

補足

- 画面を縦方向にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

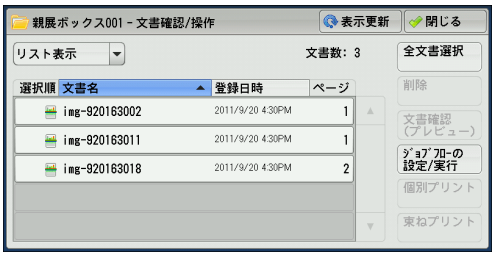


2 文書を選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- リスト表示を選択することもできます。詳しくは、「親展ボックス操作の流れ」の「Step3 親展ボックスの文書を確認 / 選択する」(P.421) を参照してください。
- リスト表示の場合は、以下の画面が表示されます。



- ［文書名］または、［登録日時］を押すと、それぞれ昇順、または降順でソートできます。
- 文書名の左側には、格納されている文書の内容を表すアイコンが表示されます。
  -  ：スキャン文書
  -  ：プリント文書
  -  ：親展ポーリング予約文書
  -  ：ファクス親展受信文書、IP ファクス（SIP）親展受信文書
  -  ：インターネットファクス親展受信文書
- 選択できる文書は、個別の場合 100 文書まで、または全文書です。個別に選択する場合は、選択した順に文書アイコンの左側に数字が表示され、その順番に処理されます。

3 任意の項目を選択します。

■表示更新

最新の情報が表示されます。

■リスト表示

親展ボックスに保存されている文書の文書名や登録日時、ページ数などが、一覧で表示されます。

■サムネール表示

親展ボックスに保存されている文書の画像イメージとファイル名が、一覧で表示されます。

注記

- スキャンした文書を親展ボックスに保存した直後に電源が切れたり、スキャンした文書を親展ボックスに保存し、サムネールを蓄積するときにハードディスクの容量が足りなくなったりすると、親展ボックスに蓄積された文書がサムネールで表示されないことがあります。その場合は、リスト表示で確認してください。
- サムネールで表示する画像イメージは、縮小されて表示されるため、文字やイメージが正しく表示されないことがあります。

補足

- サムネールで表示される画像イメージの向きは、文書が保存されたときの向きのまま表示されます。

■文書数

親展ボックスを選択すると、親展ボックス内に保存されている文書数が表示されます。

■全文書選択

親展ボックス内のすべての文書を選択できます。全文書選択した状態で再度選択すると、選択が解除されます。

■削除

選択した文書を削除します。

■文書確認（プレビュー）

選択した文書をプレビュー表示して、内容を確認できます。

参照

- 詳しくは、「親展ボックスの文書の内容を確認する」（P.426）を参照してください。

■ジョブフローの設定 / 実行

［ジョブフローの設定 / 実行］画面が表示されます。ジョブフローの作成、設定、実行ができます。

参照

- 詳しくは、「ジョブフローを設定 / 実行する」(P.433) を参照してください。

補足

- プリンタードライバーからプリントするときに［ボックス保存］を指定して、親展ボックスに蓄積された文書をプリント文書とよびます。お使いの機種によっては、プリント文書はジョブフローを実行できません。選択した複数の文書の中にプリント文書が含まれている場合、お使いの機種によっては、プリント文書以外の文書にだけジョブフローが実行されます。

■個別プリント

選択した文書を個別にプリントできます。

参照

- 詳しくは、「個別プリント」(P.430) を参照してください。

■束ねプリント

選択した文書を束ねてプリントできます。

参照

- 詳しくは、「束ねプリント」(P.430) を参照してください。

親展ボックスの文書の内容を確認する

選択した文書のプレビューを表示して、内容を確認できます。

補足

- 階調数の多い白黒画像をプレビュー表示すると、青みがかって表示されることがあります。
- イメージログ管理機能を使用している場合は、プレビュー表示に予想外の時間がかかることがあります。

1 ［親展ボックス - 文書確認 / 操作］画面で、文書を選択します。



2 ［文書確認（プレビュー）］を押します。



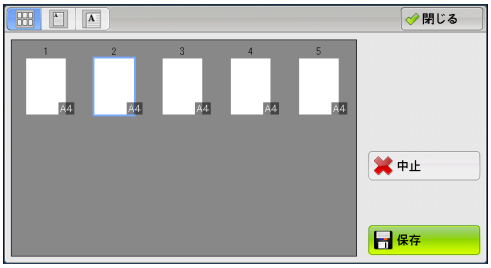
補足

- 複数の文書を選択した場合は、プレビューを表示させたい文書を選択します。

3 任意の項目を選択します。

■  **（サムネールビュー）**

プレビュー画像をサムネールで表示します。



サムネールビューでは、次の操作ができます。

- プレビューエリアを上下にドラッグまたはフリック操作すると表示ページの切り替えができます。
- サムネールをタップするとページビューに切り替わります。

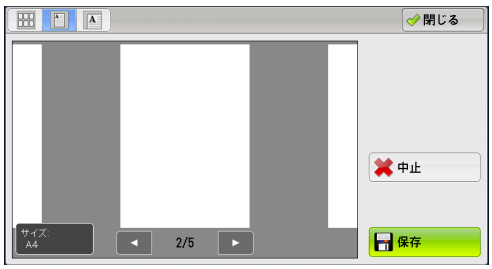
補足

- ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

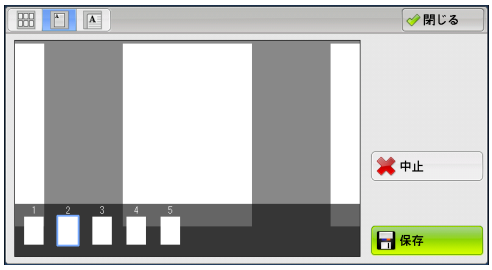
■ (ページビュー)

プレビュー画像を全体表示します。

- ページ切り替えボタンを表示している場合



- サムネールバーを表示している場合



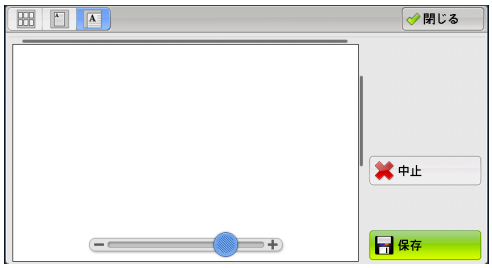
ページビューでは、次の操作ができます。

- プレビューエリアを左右にドラッグまたはフリックするとページの切り替えができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。
- プレビューエリアをタップすると、ページ切り替えボタンとサムネールバーの表示の切り替えができます。
- プレビューエリアに表示されている前ページ / 後ページをタップすると、タップしたページが中央に表示されます。
- サムネールバーを左右にドラッグまたはフリックすると、サムネールのスクロールができます。タップしたサムネールのプレビュー画像が表示されます。

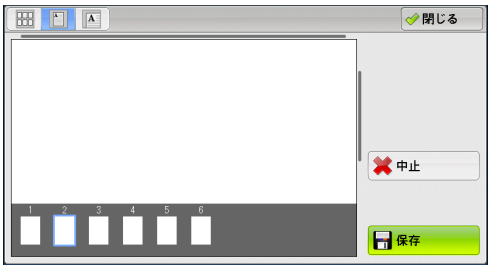
■ (拡大ビュー)

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

- スライダーを表示している場合



- サムネールバーを表示している場合



拡大ビューでは、次の操作ができます。

- 拡大した画像を上下左右にドラッグまたはフリック操作すると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- プレビューエリアをタップすると、スライダーとサムネールバーの表示の切り替えができます。
- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- サムネールバーを左右にドラッグまたはフリックすると、サムネールのスクロールができます。タップしたサムネールのプレビュー画像が表示されます。

■イメージの回転表示（イメージの回転表示）

全てのプレビュー画像を、現在表示されている角度から右に 90 度回転させます。

補足

- プレビュー画像の回転はできますが、回転させた画像を保存することはできません。

■削除

選択した文書を削除します。

■文書名変更

登録されている文書名を変更できます。表示されるキーボードを使用して、文書名を入力します。

■プリント設定変更

プレビュー表示中の文書のプリント設定を変更します。

■プリント実行

プリントします。

補足

- プリントの設定をする場合は、[親展ボックス-文書確認/操作]画面に戻って、[個別プリント]を選択します。詳しくは、「親展ボックスの文書をプリントする」(P.429)を参照してください。

親展ボックスの文書をプリントする

親展ボックス内の文書をプリントできます。

1 ［親展ボックス - 文書確認 / 操作］画面で、文書を選択します。



2 ［個別プリント］または［束ねプリント］を選択します。



補足

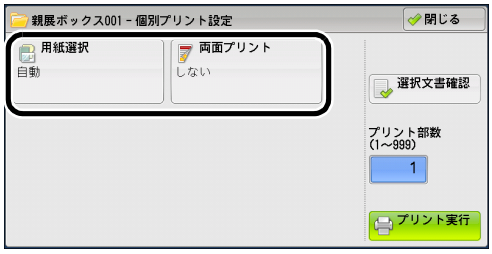
- 複数文書を選択した場合、［束ねプリント］は選択した文書を 1 文書として扱い、［個別プリント］は個別の文書として扱います。

参照

- 個別プリントについては 「個別プリント」（P.430）、 束ねプリントについては 「束ねプリント」（P.430）を参照してください。

3 任意の項目を選択します。

プリントする部数を指定する場合は、〈数字〉ボタンで入力してください。



4 ［プリント実行］を押します。

補足

- 親展ボックスに保存されたプリント文書（プリンタードライバーで［ボックス保存］を指定して親展ボックスに保存された文書）をプリントする場合、プリンタードライバーで指定した機能は、ほとんどが無効になり、操作パネルや CentreWare Internet Services での指定が有効になります。ただし、まとめて 1 枚、プリント位置調整、白紙節約は、プリンタードライバーの指定が有効になります。

個別プリント

個別プリントの設定ができます。

■用紙選択

プリントする用紙が選択できます。

■両面プリント

両面プリントの設定ができます。

■ホチキス / パンチ / 排出先

ホチキス、パンチ、および排出先のトレイの設定ができます。

参照

- ホチキスやパンチを設定した場合の例は、「ジョブフローを設定/実行する」(P.433)を参照してください。

■選択文書確認

［選択文書の確認］画面が表示されます。表示された一覧から文書を選択すると、文書のイメージをプレビュー表示できます。

参照

- 詳しくは、「親展ボックスの文書の内容を確認する」(P.426) を参照してください。

■プリント部数

プリントする部数を設定します。

■プリント実行

プリントします。

束ねプリント

束ねプリントの設定ができます。

束ねプリントを設定すると、複数の文書を選択した場合に、1 つの文書としてプリントできます。文書は、選択した順番に結合されます。100 文書まで束ねられます。

補足

- 両面を指定した場合、奇数ページの文書をプリントすると、最終ページの裏面が白紙ページになります。また、複数文書を選択してプリントすると、選択した各文書の最終ページの裏面が白紙ページになります。
- 複数の文書を束ねた結果、サイズの異なる原稿が混在すると、意図しない向きでプリントされることがあります。
- 束ねプリントは、割り込み中には実行できません。
- 親展ポーリング予約文書、ファクス親展受信文書、インターネットファクス親展受信文書などの、ファクス / インターネットファクス文書は、束ねプリントできません。選択文書中にファクス / インターネットファクス文書が含まれている場合、ファクス / インターネットファクス文書はプリントされず、スキャン / プリント文書だけがプリントされます。

■用紙選択

プリントする用紙が選択できます。

■両面プリント

両面プリントの設定ができます。

■ホチキス / パンチ / 排出先

ホチキス、パンチ、および排出先のトレイの設定ができます。

ホチキスで留められる枚数は、フィニッシャー C3/ 中とじフィニッシャー C3 の場合は、2 ～ 50 枚（P 紙・J 紙）、フィニッシャー D2/ 中とじフィニッシャー D2 の場合は、2 ～ 100 枚（P 紙・J 紙）です。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- フィニッシャー C3 ステープルユニット 65 枚（オプション）を装着している場合は、ホチキスで留められる枚数は、用紙の種類により、最大で 65 枚です。

参照

- ホチキスやパンチを設定した場合の例は、「ジョブフローを設定/実行する」（P.433）を参照してください。

■選択文書確認

［選択文書の確認］画面が表示されます。表示された一覧から文書を選択すると、文書のイメージをプレビュー表示できます。

参照

- 詳しくは、「親展ボックスの文書の内容を確認する」（P.426）を参照してください。

■プリント部数

プリントする部数を設定します。

■プリント実行

プリントします。

ホチキス / パンチを設定した場合

ここでは、［ホチキス］を［左上 1 カ所］、［パンチ］を［左 2 穴］に設定した場合を例に、実際にホチキス / パンチされる位置を、プリント文書（プリンタードライバーで［ボックス保存］を指定して親展ボックスに保存された文書）とスキャン文書に分けて、示します。

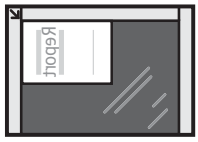
- 親展ボックスに蓄積されたプリント文書をプリントする場合

原稿		
プリントしたときのホチキスの位置		
プリントしたときのパンチ穴の位置		

- 親展ボックスに蓄積されたスキャン文書をプリントする場合

注記

- 原稿をスキャンする場合は、セットした原稿の向きと、［読み取り方法］画面の［わく消し］または［両面原稿送り］にある［原稿セット向き指定］の設定を合わせてください。

原稿				
原稿ガラスでのセット向き				
プリントしたときのホチキスの位置				
プリントしたときのパンチ穴の位置				

ジョブフローを設定 / 実行する

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。ジョブフローは 1000 まで登録できます。

ジョブフローの実行は、親展ボックスに蓄積された文書が対象になります。ジョブフローを実行するには、次の方法があります。

- 親展ボックスに文書が蓄積された時点で自動で実行する方法
- 親展ボックスに保存されている文書を選択して、関連づけられているジョブフローを手動で実行する方法
- 親展ボックスに保存されている文書を選択して、ジョブフローを選択して手動で実行する方法
- ［ジョブフロー］画面でジョブフローを選択して手動で実行する方法（ApeosPort シリーズのみ）

ジョブフローを自動実行するには、親展ボックスにジョブフローを関連づける必要があります。自動実行を設定した親展ボックスに文書が蓄積されると、自動的にジョブフローに従って処理されます。

補足

- ユーザー認証機能を使用していない場合、［ボックス操作］から作成したジョブフローは、ジョブフローを作成した親展ボックスからだけ使用 / 変更 / 複製 / 削除ができます。［ジョブフロー登録］画面には、そのジョブフローは表示されません。ユーザー認証機能を使用している場合は、認証されたユーザーが所有者となっているジョブフローが［ジョブフロー登録］画面に表示されます。

参照

- スキャン文書を対象とするジョブフローは、「ジョブフロー」（P.441）を参照してください。

登録できる機能は、次のとおりです。

- 転送
- メール通知
- プリント

なお、親展ボックスへの蓄積方法によって、機能の組み合わせに制限があります。

参照

- 機能の組み合わせの制限は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」を参照してください。

■転送

各転送方法に、複数の転送先を設定できます。

- FTP

  FTP で転送します。転送先は 2 件まで設定できます。

- SMB

  SMB で転送します。転送先は 2 件まで設定できます。

- メール

  メールで転送します。転送先は 100 件まで設定できます。

- ファクス

  ファクスで転送します。転送先は 100 件まで設定できます。

- インターネットファクス

  インターネットファクスで転送します。転送先は 100 件まで設定できます。

- IP ファクス（SIP）
  IP ファクス（SIP）で転送します。転送先は 100 件まで設定できます。

■メール通知

実行されたジョブの結果を通知できます。

参照
- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」>「ジョブフローの新規作成」を参照してください。

■プリント

親展ボックスに蓄積された文書をプリントします。

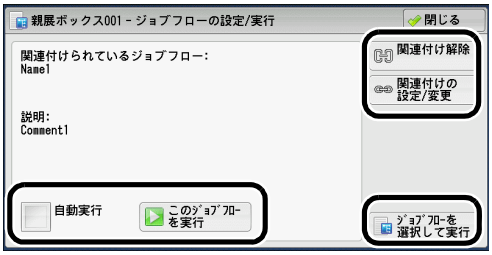
1 ［親展ボックス - 文書確認 / 操作］画面で、文書を選択します。



2 ［ジョブフローの設定 / 実行］を押します。



3 任意の項目を選択します。



■自動実行

親展ボックスに蓄積される文書に対するジョブフローの自動実行の設定をします。
チェックし、文書が蓄積されると自動的にジョブフローが実行されます。

■このジョブフローを実行

親展ボックス内の文書を選択して、このボタンを押すと親展ボックスに関連づけられているジョブフローが実行されます。

注記

- ジョブフロー実行後、ジョブ確認画面またはジョブ履歴レポートをプリントして、実行結果を確認してください。ジョブ履歴レポートについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「ジョブ履歴レポート」を参照してください。

■関連付け解除

親展ボックスに関連づけられているジョブフローを解除します。

■関連付けの設定 / 変更

［ジョブフローの関連付け］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［ジョブフローの関連付け］画面について」(P.435) を参照してください。

■ジョブフローを選択して実行

文書を選択している場合にボタンを押すと、［ジョブフローを選択して実行］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［ジョブフローを選択して実行］画面」(P.438) を参照してください。

［ジョブフローの関連付け］画面について

親展ボックスに関連づけるジョブフローの設定、変更ができます。

補足

- 親展ボックス作成時にも関連づけ、関連づけの解除、自動実行の設定は可能です。

1 関連づけるジョブフローを選択します。



注記

- ジョブフローを選択しないで［決定］を押すと、関連づけは設定されません。すでに関連づけられているジョブフローがある場合は、解除されます。

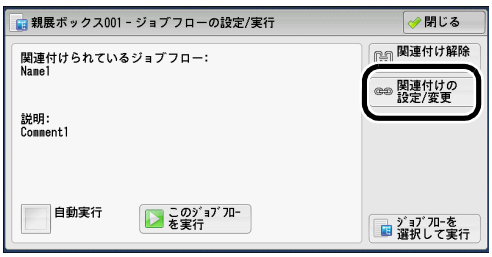
補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ［名称］または、［更新日］を押すと、それぞれ昇順、または降順でソートできます。

2 ［ジョブフローの設定 / 実行］を押します。



3 ［関連付けの設定 / 変更］を押します。



4 任意の項目を選択します。



■表示更新

最新の情報に更新します。

■新規作成

［ジョブフローの新規作成］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」>「ジョブフローの新規作成」を参照してください。

■内容確認（変更 / 削除）

［内容確認］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」>「内容確認（変更 / 削除）」を参照してください。

■名称で検索

ジョブフロー作成時に登録された名称を対象に、入力した文字列と部分一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

■キーワードで検索

ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、入力したキーワードと完全一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角で 12 文字、全角で 6 文字以内で入力できます。機械管理者モードで、検索キーワードが登録されている場合は、その中から選択することもできます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

■キーワードを選択して検索

［キーワードを選択して検索］画面が表示されます。機械管理者モードで登録済みのキーワードを選択して、ジョブフローを検索できます。ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、選択したキーワードと完全一致するジョブフローを検索します。

■表示するジョブフロー

［表示するジョブフロー］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［表示するジョブフロー］画面」(P.437) を参照してください。

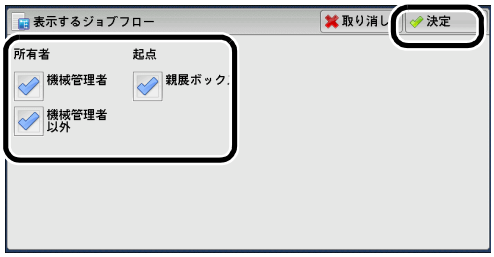
［表示するジョブフロー］画面

表示するジョブフローの絞り込みができます。

参照

- ユーザー認証機能によって、表示されるジョブフローが異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>「ジョブフローと親展ボックスの認証」を参照してください。

1 絞り込む条件を選択して、［決定］を押します。



補足

- ［ボックス操作］で表示できるジョブフローは、親展ボックスが起点で、本機に保存されているジョブフローだけです。

■所有者

表示するジョブフローの所有者の条件を選択します。

■起点

表示するジョブフローの、作業が開始される起点の条件を選択します。

［ジョブフローを選択して実行］画面

選択した文書に対して、ジョブフローを指定して実行できます。

1 ジョブフローを選択して、［スタート］を押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ［名称］または、［更新日］を押すと、それぞれ昇順、または降順でソートできます。

■スタート

選択したジョブフローを実行します。

■表示更新

最新の情報に更新します。

■内容確認

［内容確認］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ジョブフロー登録」>「内容確認（変更 / 削除）」を参照してください。

■設定の一時変更

選択したジョブフローに変更できる設定がある場合は、［設定の一時変更］画面が表示されて一時的に設定を変更できます。

■名称で検索

ジョブフロー作成時に登録された名称を対象に、入力した文字列と部分一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

■キーワードで検索

ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、入力したキーワードと完全一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角で 12 文字、全角で 6 文字以内で入力できます。機械管理者モードで、検索キーワードが登録されている場合は、その中から選択することもできます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

■キーワードを選択して検索

［キーワードを選択して検索］画面が表示されます。機械管理者モードで登録済みのキーワードを選択して、ジョブフローを検索できます。ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、選択したキーワードと完全一致するジョブフローを検索します。

■表示するジョブフロー

［表示するジョブフロー］画面が表示されます。

参照

- 詳しくは、「［表示するジョブフロー］画面」（P.437）を参照してください。

ジョブフローの操作制限について

ジョブフローには、個人で使用するもの、共有して使用するもの、および特定の親展ボックスにだけ関連づけて使用するものなどがあります。

参照

- ユーザー認証機能によって、ジョブフローの操作制限が異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>「ジョブフローと親展ボックスの認証」を参照してください。

7 ジョブフロー

この章では、本機に登録したジョブフローを使ってスキャンする操作について説明します。

ジョブフローとは、スキャン文書などの、配信方法や配信先など一連の処理の流れをあらかじめ本機に設定しておくことによって、定型的な配信作業を効率化することができる機能です。

補足

- スキャン文書に対するジョブフロー機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。

- ジョブフロー操作の流れ 442
- ジョブフローを選択 / 変更する 444



ジョブフロー操作の流れ

ジョブフローには、親展ボックスに蓄積された文書を対象とするものと、スキャン文書を対象とするものの 2 種類があります。ここではスキャン文書を対象とするジョブフローについて説明します。

参照

- 親展ボックスに蓄積された文書を対象とするジョブフローは、「[ジョブフローを選択して実行］画面」(P.438) を参照してください。

ここでは、ジョブフロー操作の流れについて説明します。参照先は、次のとおりです。

ジョブフローの作成、登録はコンピューターで行います。

Step1 ［ジョブフロー］画面を表示する.....442
Step2 ジョブフローを選択する.....443
Step3 ジョブフローを確認 / 変更する.....443
Step4 ジョブフローを実行する.....443

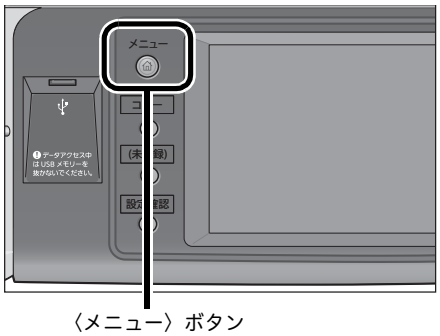
補足

- ネットワーク上にあるコンピューターを使って、ジョブフローを作成するには、Device Setup（デバイス設定ツール）を使用します。Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社公式サイトの ApeosWare Management Suite（アペオスウエア マネージメント スイート）からダウンロードできます。

Step1 ［ジョブフロー］画面を表示する

［ジョブフロー］画面の表示方法は、次のとおりです。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2 ［ジョブフロー］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

Step2 ジョブフローを選択する

1 ジョブフローを選択します。

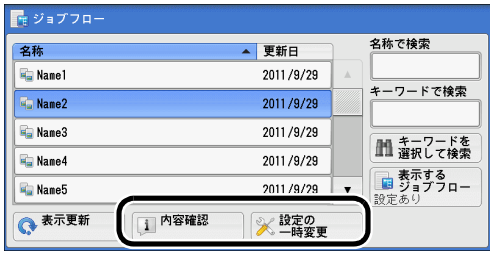


参照

- 詳しくは、「ジョブフローを選択 / 変更する」(P.444) を参照してください。

Step3 ジョブフローを確認 / 変更する

1 内容を確認する場合は［内容確認］、設定を変更する場合は［設定の一時変更］を押します。



参照

- 詳しくは、「ジョブフローを選択 / 変更する」(P.444) を参照してください。

Step4 ジョブフローを実行する

1 原稿をセットします。

補足

- アプリケーション連携のジョブフローを実行する場合は、原稿セットは不要です。

2 〈スタート〉ボタンを押します。

注記

- ジョブフロー実行後、必ずジョブ履歴レポートをプリントして、実行結果を確認してください。ジョブ履歴レポートについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「ジョブ履歴レポート」を参照してください。

ジョブフローを選択 / 変更する

Device Setup（デバイス設定ツール）で作成したジョブフローを、選択 / 変更する手順について説明します。

注記

- ジョブフロー名やジョブフロー説明に、本機でサポートしていない文字が含まれる場合、画面に表示されなかったり、文字化けして表示されます。ジョブフロー名やジョブフロー説明に使用できる文字は、『管理者ガイド』の「16 付録」>「注意 / 制限事項について」>「本機使用上の注意 / 制限」を参照してください。

補足

- ネットワーク上のコンピューターと通信するためには、本機側で SOAP ポートを起動する必要があります。
- ネットワーク上のコンピューターで作成されたジョブフローは、削除できますが、変更 / 複製はできません。ただし、変更が許可されている項目は、一時的に変更して使用できます。
- プールサーバーに保存されているジョブフローは、変更 / 複製 / 削除できません。ただし、変更が許可されている項目は、一時的に変更して使用できます。

参照

- ポートの起動については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「ポート設定」を参照してください。

1 ジョブフローを選択します。



補足

- ユーザー認証機能の設定によって、表示されるジョブフローが異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>「ジョブフローと親展ボックスの認証」>「ジョブフローの作成 / 利用について」を参照してください。
- [▲] を押して前画面、[▼] を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- [名称] または、[更新日] を押すと、それぞれ昇順、または降順でソートできます。

■表示更新

最新の情報が表示されます。

■内容確認

[内容確認] 画面が表示されます。ジョブフローの名称、更新日時、起点、所有者、保存場所の説明を確認できます。 ボタンを押すと、ジョブフローを作成したときに設定した、説明の全文が表示されます。

■設定の一時変更

［設定の一時変更］画面が表示されます。一時変更可能な設定があるとき設定内容を変更できます。

参照
- 詳しくは、「［設定の一時変更］画面」(P.445) を参照してください。

■名称で検索

ジョブフロー作成時に登録された名称を対象に、入力した文字と部分一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角で 128 文字、全角で 64 文字以内で入力できます。

■キーワードで検索

ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、キーワードと完全一致するジョブフローを検索します。検索文字は半角で 12 文字、全角で 6 文字以内で入力できます。機械管理者モードで、検索キーワードが登録されている場合は、その中から選択することもできます。

■キーワードを選択して検索

［キーワードを選択して検索］画面が表示されます。機械管理者モードで登録済みのキーワードを選択して、ジョブフローを検索できます。ジョブフロー作成時に登録されたキーワードを対象に、キーワードと完全一致するジョブフローを検索します。

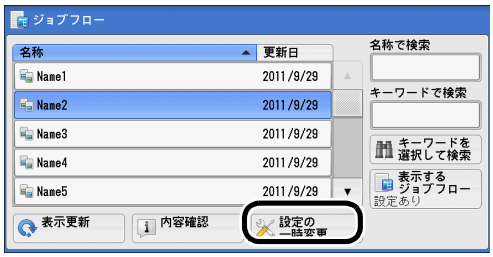
■表示するジョブフロー

［表示するジョブフロー］画面が表示されます。表示するジョブフローの絞り込みができます。

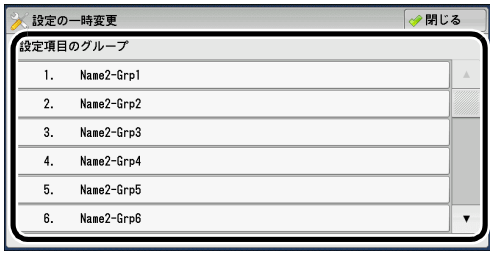
参照
- 詳しくは、「［表示するジョブフロー］画面」(P.446) を参照してください。

［設定の一時変更］画面

1 ［設定の一時変更］を押します。

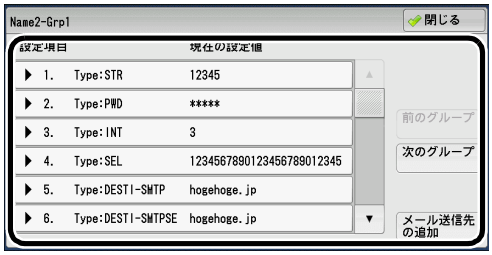


2 ［設定項目のグループ］から変更するグループを選択します。



補足
- グループが 1 つしかないときは、この画面は表示されません。

3 変更する項目を選択します。



補足
- 設定が必要な項目の左側には、三角のアイコンが表示されます。

4 任意の項目を選択します。

■設定項目

ジョブフローに記載されている設定項目です。

■現在の設定値

ジョブフローに記載されている設定値です。

■前のグループ

前のグループを表示します。

■次のグループ

次のグループを表示します。

■メール送信先の追加

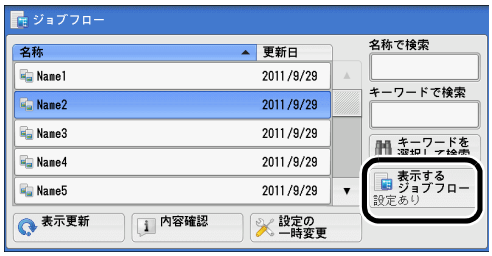
メールの送信先を追加します。

［表示するジョブフロー］画面

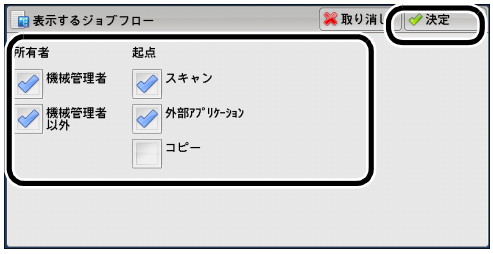
表示するジョブフローの絞り込みができます。認証機能の設定によって、画面の表示が異なります。

参照
- ユーザー認証機能の設定によって、表示されるジョブフローが異なります。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>「ジョブフローと親展ボックスの認証」>「ジョブフローの作成 / 利用について」を参照してください。

1 ［表示するジョブフロー］を押します。



2 絞り込む条件を選択して、［決定］を押します。



■保存場所

ジョブフローが保存されている場所を選択します。

補足

- ［保存場所］の［プールサーバー］は、プールサーバーが設定されている場合に使用できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ジョブフロー設定」>「プールサーバーの使用」を参照してください。
- プールサーバーは、［起点］の［コピー］からの絞り込み表示に対応していません。プールサーバーから絞り込む場合は、［起点］の［コピー］のチェックを外してください。

■所有者

表示するジョブフローの所有者を選択します。

■起点

表示するジョブフローの、作業が開始される起点を選択します。

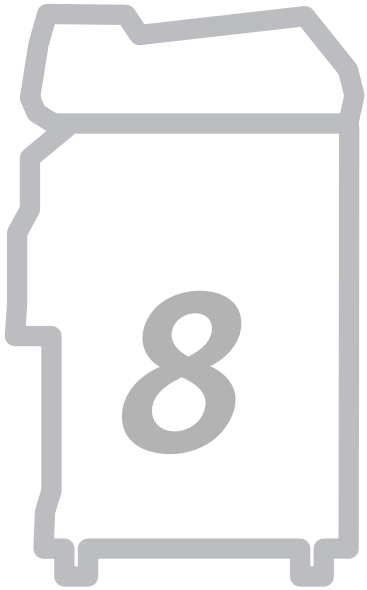
補足

- 親展ボックスが起点のジョブフローは、ボックス操作からしか使用できません。

8 ジョブメモリー

この章では、本機に操作のステップを記憶させることができる、ジョブメモリーについて説明します。

- ジョブメモリーの概要 450
- ジョブメモリーの登録 / 削除 / 変更 451
- ジョブメモリーの呼び出し 459



ジョブメモリーの概要

よく使う機能の設定をジョブメモリーに登録しておくと、ボタン 1 つで呼び出すことができます。また、表示したい画面を登録できるので、ショートカットボタンとして使用できます。

ジョブメモリーは、機能の設定を記憶するだけでなく、一連の操作ステップを記憶できるので、操作ステップによって表示される画面の階層なども記憶できます。

たとえば、「〈機械確認（メーター確認）〉ボタンを押すところから、レポート / リストの［ジョブ履歴レポート］をプリントする画面を表示するまでのステップを登録したい」ということにも対応できます。

また、ビルドジョブの実行中に、読み込む原稿の束の 2 番め以降の設定として、ジョブメモリーを呼び出すこともできます。

参照

- ビルドジョブについては、「ビルドジョブ（異なる設定の原稿をまとめてコピーする）」（P.183）を参照してください。

補足

- ドラッグおよびフリック操作は、ジョブメモリーに登録することはできません。

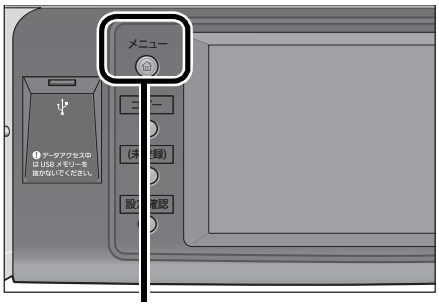
ジョブメモリーの機能と参照先は、次のとおりです。

ジョブメモリーの登録 / 削除 / 変更.....451
ジョブメモリーの呼び出し 459

ジョブメモリーの登録 / 削除 / 変更

ジョブメモリーの登録や削除は、［ジョブメモリー登録］画面で行います。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。

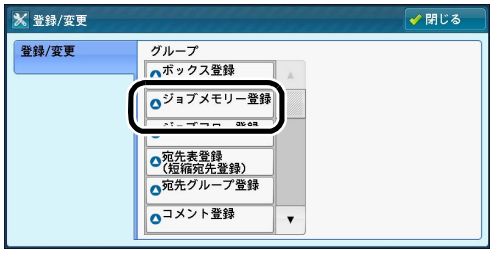


〈メニュー〉ボタン

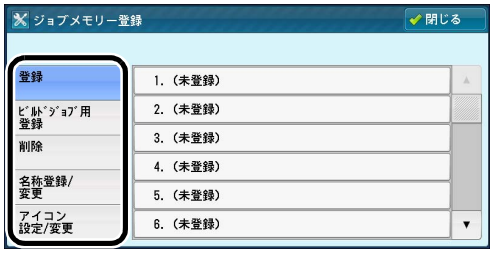
2 ［登録 / 変更］を押します。



3 ［ジョブメモリー登録］を押します。



4 機能を選択します。



■登録

ジョブメモリーを登録します。

参照

- 詳しくは、「ジョブメモリーを登録する」(P.452) を参照してください。

■ビルドジョブ用登録

ビルドジョブ用のジョブメモリーを登録します。

参照
- 詳しくは、「ビルドジョブ用ジョブメモリーを登録する」(P.455) を参照してください。

■削除

ジョブメモリーを削除します。削除する番号を選択して削除します。

参照
- 詳しくは、「ジョブメモリーを削除する」(P.456) を参照してください。

■名称登録 / 変更

登録したジョブメモリーの名称を登録したり、変更したりできます。

参照
- 詳しくは、「ジョブメモリーの名称を登録 / 変更する」(P.456) を参照してください。

■アイコン設定 / 変更

登録したジョブメモリーごとにアイコンを設定できます。

参照
- 詳しくは、「ジョブメモリーのアイコンを設定する」(P.457) を参照してください。

ジョブメモリーを登録する

ジョブメモリーには、1 つのジョブメモリーに最大で 100 の操作ステップを記憶させることができます。登録できるジョブメモリーは 40 個です。

なお、ジョブメモリーの 1 番と 2 番、または 1 ～ 12 番に登録した内容は、ワンタッチボタンの〈M01〉～〈M02〉ボタン、または〈61〉～〈M02〉ボタンでも対応できるようになります（ファクス取り付け機）。

ジョブメモリーに操作ステップを登録する方法について説明します。

注記
- ジョブメモリー登録後に、コメントや用紙トレイの用紙サイズなどの登録内容や、仕様設定で初期値を変更すると、ジョブメモリーの登録内容も変更されます。

補足
- 仕様設定、ジョブフロー、および宛先表を使用するサービスの内容は登録できません。
- 〈割り込み〉ボタンが押された場合や、自動リセット機能でのタイムアウト、ポップアップ画面（紙づまり画面など）の表示などによって、ジョブメモリーの登録操作は中止されます。
- ワンタッチボタンは、次のどちらかの登録方法で割り当てることができます。
  - ［タイプ 1］
    1 ～ 70 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0070 に対応）で、M01 ～ M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 番と 2 番に対応）
  - ［タイプ 2］
    1 ～ 60 は短縮宛先番号用（登録した短縮宛先番号の 0001 ～ 0060 に対応）で、61 ～ 70、M01、M02 は、ジョブメモリー用（登録したジョブメモリーの 1 ～ 12 番に対応）

1 ［登録］を押します。



2 登録する番号を選択します。

補足
- 登録済みのボタンには上書きできません。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 登録する機能を設定します。

補足
- ジョブメモリー登録中は音が鳴ります。
- 登録を中止する場合は、〈割り込み〉ボタンを押してください。

参照
- ジョブメモリーの登録中を知らせる音量は変更できます。設定方法については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ジョブメモリー登録音」を参照してください。

4 〈スタート〉ボタンまたは〈リセット〉ボタンを押します。

補足
- 登録したジョブメモリーに名前を付けないと、「名称未設定」と表示されます。

参照
- 登録したジョブメモリーに名前を付ける方法については、「ジョブメモリーの名称を登録/変更する」(P.456) を参照してください。

ジョブメモリー登録時の注意

ジョブメモリーを登録する場合、次の制限があります。

- 手差しトレイの用紙サイズや紙質を選択するジョブメモリーを登録する場合は、用紙サイズと紙質の両方を登録してください。用紙サイズだけ、または紙質だけを登録すると、ジョブメモリーを正しく呼び出せないことがあります。
- ジョブメモリー登録中に、次の操作を実施すると、ジョブメモリーの登録、および登録されたジョブメモリーが正しく実行できないことがあります。
  - 用紙トレイの抜き差し
  - 手差しトレイへの用紙のセットまたは再セット
  - DocuLyzer へのカードの抜き差し操作
- ジョブメモリー登録後に、次の操作を実行すると、登録されたジョブメモリーが正しく呼び出せないことがあります。
  - ジョブメモリーに複製管理機能が登録されている場合に、複製管理機能の初期値をジョブメモリー登録時から変更した場合
  - 親展ボックスを操作するジョブメモリーで、操作の対象となる親展ボックスのパスワードがジョブメモリー登録時と異なる場合
  - 操作パネルの設定を変更した場合

- 〈登録〉ボタンに登録されている機能を変更した場合
- ［仕様設定 / 登録］>［仕様設定］>［コピー設定］>［プリセットボタンの設定］で内容を変更した場合
- 宛先表やジョブフローの一覧から選択する場合
- オプション（フィニッシャーなど）の変更によりボタンが機能しなくなった場合
- ミリ、インチなど単位設定を変更した場合
- ジョブ確認（保存文書）で文書一覧から文書を選択する場合
- スクロールバーによる項目選択

- ジョブメモリーには、次の機能や操作を登録することはできません。
  - ジョブメモリーの登録や実行
  - EP 診断
  - 各仕様の設定
  - メニュー画面の［文書プリント］ボタン
  - メニュー画面の［スキャナー（USB メモリー保存)］ボタン
  - メニュー画面の［ジョブフロー］ボタン、［外部アクセス］ボタン（ApeosPort シリーズのみ）
  - ジョブフロー機能が登録されている〈登録〉ボタン（ApeosPort シリーズのみ）
  - ファクス / インターネットファクス、スキャナー（メール送信)、スキャナー（PC 保存）の宛先表
  - 選択できないボタン
  - メニュー画面の［言語切り替え Language］ボタン
  - メニュー画面の［画面輝度調整］ボタン
  - プレビュー表示時のスクロール操作
  - ドラッグおよびフリック操作
  - スキャナー（PC 保存）の［ネットワーク参照］ボタン
  - BMLinkS の［ネットワーク保存］>［保存先を選択］ボタン
  - スキャナー（メール送信）のアドレス編集操作（[宛先名 / メールアドレス］や［送信者］を選択すると表示されるポップアップメニューの［キーボード］、［削除]、[確認 / 変更])
  - 〈節電〉ボタン
- 〈割り込み〉ボタンが押された場合や、自動リセット機能でのタイムアウト、ポップアップ画面（紙づまり画面など）の表示などによって、ジョブメモリーの登録操作は中止されます。
- ファクス装着時にはワンタッチボタンが使用できます。

ビルドジョブ用ジョブメモリーを登録する

ジョブメモリーには、ビルドジョブ用として、1 つのジョブメモリーに最大で 100 の操作ステップを記憶させることができます。登録できるジョブメモリーは 40 個です。

ジョブメモリーに操作ステップを登録する方法について説明します。

1 ［ビルドジョブ用登録］を押します。



2 登録する番号を選択します。

補足

- 登録済みのボタンには上書きできません。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 登録する機能を設定します。

補足

- ジョブメモリー登録中は音が鳴ります。
- 登録を中止する場合は、〈割り込み〉ボタンを押してください。

参照

- ジョブメモリーの登録中を知らせる音量は変更できます。設定方法については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ジョブメモリー登録音」を参照してください。

4 〈スタート〉ボタンまたは〈リセット〉ボタンを押します。

補足

- 登録されたビルドジョブ用のジョブメモリーには、ジョブメモリーの一覧の左側にアイコンが表示されます。
- 登録したジョブメモリーに名前を付けないと、「名称未設定」と表示されます。

参照

- 登録したジョブメモリーに名前を付ける方法については「ジョブメモリーの名称を登録 / 変更する」(P.456) を参照してください。

ジョブメモリーを削除する

登録されているジョブメモリーを削除する方法について説明します。

1 ［削除］を押します。

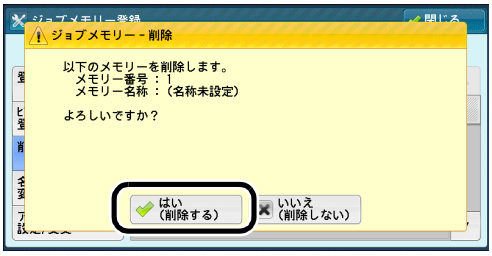


2 削除する番号を選択します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 ［はい（削除する）］を押します。



■はい（削除する）

ジョブメモリーを削除します。

補足

- 削除したジョブメモリーは、元に戻すことはできません。

■いいえ（削除しない）

ジョブメモリーの削除を取り消します。

ジョブメモリーの名称を登録 / 変更する

登録したジョブメモリーの名前を登録 / 変更する方法について説明します。

ジョブメモリーの名前は、全角で 18 文字以内で入力できます。半角では登録できません。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

1 ［名称登録 / 変更］を押します。

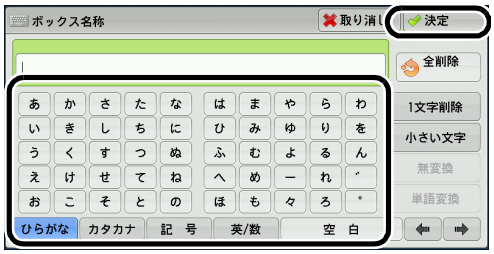


2 名前を登録または変更する番号を選択します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 名前を入力し、［決定］を押します。



ジョブメモリーのアイコンを設定する

登録したジョブメモリーのアイコンを設定 / 変更する方法について説明します。

アイコンは、12 種類から選択できます。

1 ［アイコン設定 / 変更］を押します。



2 アイコンを設定または変更する番号を選択します。

補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 アイコンを選択し、［決定］を押します。



■アイコン設定しない

登録したジョブメモリーにアイコンを設定しません。

■アイコン

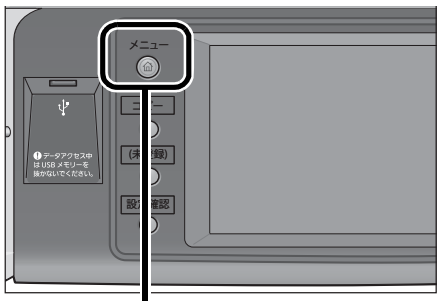
登録したジョブメモリーの内容に合わせて、アイコンを選択します。

ジョブメモリーの呼び出し

登録されたジョブメモリーを選択する手順について説明します。

指定したジョブメモリーを呼び出すと、登録したときに最後に表示していた画面が表示されます。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2 ［ジョブメモリー］を押します。



3 呼び出したい機能が登録されている、ジョブメモリーの番号を選択します。



補足

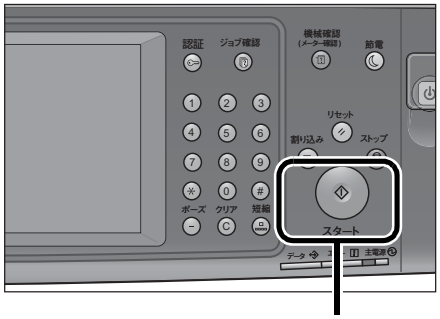
- 登録されている番号だけを選択できます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ジョブメモリーの呼び出しが完了すると音が鳴ります。また、呼び出しに失敗したときは異常終了音が鳴ります。

参照

- ジョブメモリーの呼び出し完了音の音量を調整する場合は、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ジョブメモリー呼び出し完了音」を参照してください。

4 ジョブメモリーが呼び出されたら、必要に応じて、そのほかの機能を設定します。

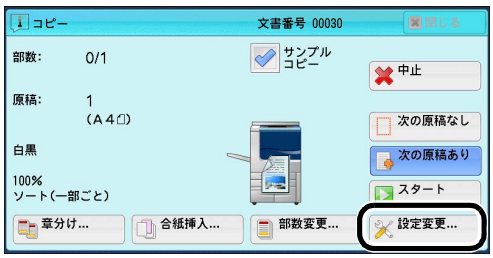
5 〈スタート〉ボタンを押します。



ビルドジョブ用ジョブメモリーを呼び出す

ビルドジョブ実行中に表示されるコピー画面で、ビルドジョブ用のジョブメモリーを呼び出せます。

1 ［設定変更 ...］を押します。



2 ［ジョブ編集］タブを選択します。

3 ［ジョブメモリー］を押します。

4 呼び出したい機能が登録されている、ジョブメモリーの番号を選択します。

補足

- 登録されている番号だけを選択できます。
- ジョブメモリーの呼び出しが完了すると音が鳴ります。また、呼び出しに失敗したときは異常終了音が鳴ります。
- ジョブメモリーの呼び出し完了音の音量を調整する場合は、『管理者ガイド』の「5　仕様設定」>「共通設定」>「音の設定」>「ジョブメモリー呼び出し完了音」を参照してください。

9　外部アクセス

この章では、外部アクセスの操作について説明します。

補足

- この機能は、ApeosPort シリーズだけが対応しています。
- 外部アクセスを利用するには、外部アクセスキット（オプション）が必要です。

- 外部アクセスの概要 462
- 外部サービスに接続する 462
- メニュー画面に登録されたボタンを使って接続する 464



外部アクセスの概要

外部アクセスとは、本機に組み込まれたブラウザーからネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり、表示したりできる機能です。

本機では次の機能が使用できます。

- 外部サービスにアクセスして、Web アプリケーション画面を表示する
- スキャン文書を Web アプリケーション上のフォルダーに格納する
- 外部のサーバーに格納してあるファイルをプリントする

注記

- 表示できる Web アプリケーションは、連携済みのものだけです。インターネットのホームページなどにはアクセスできません。

参照

- 外部アクセスを使用するにはあらかじめ設定が必要です。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「外部アクセス」を参照してください。

外部サービスに接続する

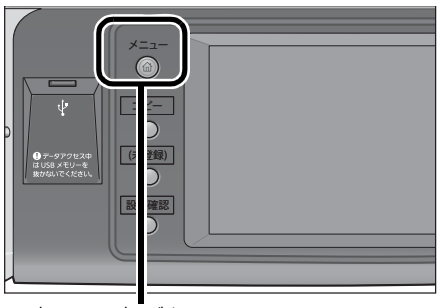
外部サービスにアクセスする方法について説明します。

接続先をあらかじめ登録しておく必要があります。

参照

- 接続先の登録は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「外部アクセス」>「接続先の登録」を参照してください。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

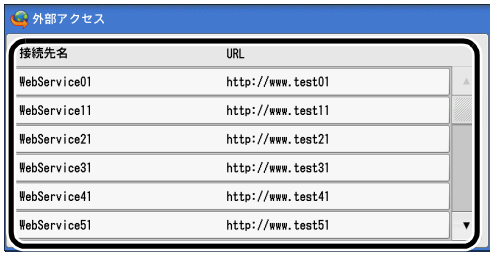
2 ［外部アクセス］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 接続先を選択します。



4 表示されるポップアップメニューの［開く］を選択します。



■開く ...

設定された外部サービスに接続します。

■詳細 ...

設定された外部サービスの情報を確認できます。

■取り消し

ポップアップメニューの表示を取り消します。

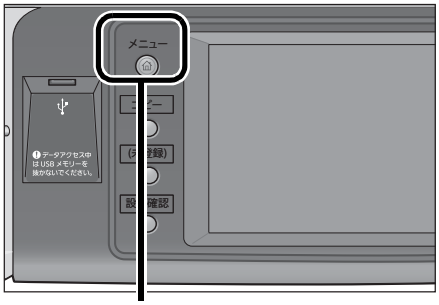
メニュー画面に登録されたボタンを使って接続する

アクセスする頻度が高い外部サービスをメニュー画面にボタンとして登録できます。ボタンを押すだけでアクセスできる方法について説明します。

参照

- メニュー画面にボタンを登録する手順は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「画面 / ボタンの設定」>「メニュー画面の機能配列」を参照してください。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2 メニュー画面に登録された［本社］を押します。



補足

- ジョブフローの位置に［本社］という名称の接続先を登録した例です。任意の位置にボタンを配置できます。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

10 BMLinkS

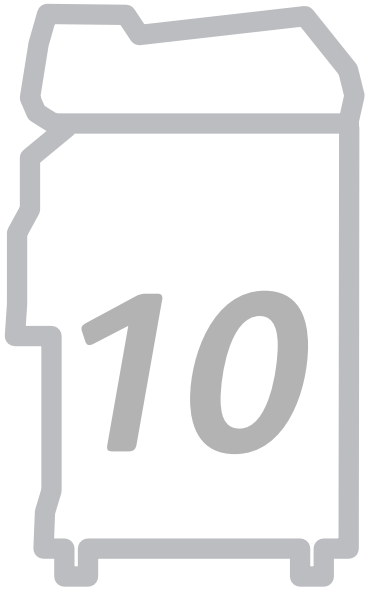
この章では、BMLinkS の操作について説明しています。

BMLinkS とは、Business Machine Linkage Service の略で、OA 機器でジョブや機器の制御を統一的に行うための標準仕様のことです。

BMLinkS 対応機器と BMLinkS ソフトウェアを使うと、弊社の異機種間や、他社の BMLinkS 対応機で、それぞれ固有のドライバーをインストールすることなくプリントやスキャンができます。

また、BMLinkS 対応機器を自動で検索できるので、プリンターやスキャン文書を保存するコンピューターを指定するのに便利です。

- BMLinkS の概要 466
- BMLinkS ストレージサービスへのスキャン文書の保存 467
- BMLinkS ストレージサービスにある文書のプリント 471



BMLinkS の概要

BMLinkS ストレージサービスを対応コンピューターにインストールして起動しておくと、弊社の異機種間や、他社の BMLinkS 対応機で、それぞれ固有のドライバーをインストールすることなくプリントやスキャンができます。また、同一ネットワーク上で BMLinkS 対応機器を自動で検索できるので、簡単な操作で保存先を指定したり、プリントしたい文書が保存されているコンピューターを検索することができます。

本機では次の機能を使用できます。

- ネットワーク保存

  本機でスキャンしたデータをコンピューターのハードディスクに保存できます。スキャン文書の閲覧には、BMLinkS ドキュメントビューアが必要です。BMLinkS ドキュメントビューアは、次からダウンロードできます。

  http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/

- 保存文書印刷

  コンピューターのハードディスクに保存されている文書を呼び出して、本機からプリントできます。

参照

- 本機能を使うには本機の設定が必要です。詳しくは、『管理者ガイド』の「10 BMLinkS 機能の設定」を参照してください。

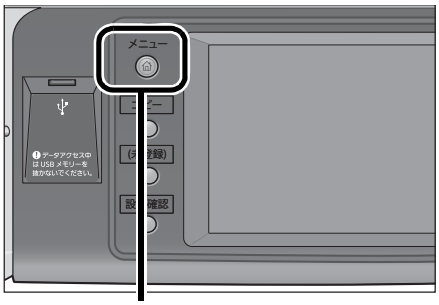
参照先は、次のとおりです。

BMLinkS ストレージサービスへのスキャン文書の保存.....467
BMLinkS ストレージサービスにある文書のプリント 471

BMLinkS ストレージサービスへのスキャン文書の保存

スキャンした文書を BMLinkS ストレージサービスに対応しているコンピューターに保存できます。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2 ［BMLinkS］を押します。



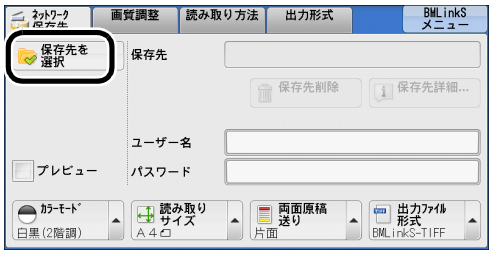
補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 ［ネットワーク保存］を押します。



4 ［保存先を選択］を押します。

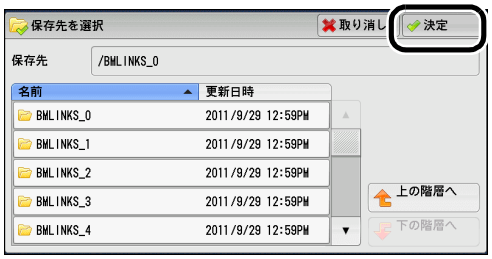


5 一覧から保存先を選択します。
［上の階層へ］、［下の階層へ］を押して階層を変更できます。



補足
- ユーザー名やパスワードを入力する画面が表示された場合は、ユーザー名、パスワードを入力してください。

6 ［決定］を押します。



7 ［ユーザー名］を押します。

8 表示されるキーボードでユーザー名を入力し、［決定］を押します。
半角で 32 文字以内で入力できます。

参照
- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

9 ［パスワード］を押します。

10 表示されるキーボードでパスワードを入力し、［決定］を押します。
半角で 32 文字以内で入力できます。

11 必要に応じて、各タブから、設定する機能を選択します。

12 〈スタート〉ボタンを押します。

■保存先

選択しているコンピューターが保存先に設定されます。

■保存先削除

選択している保存先が削除されます。

■保存先詳細 ...

保存先を確認できます。

■BMLinkS メニュー

［BMLinkS メニュー］画面に戻ります。

■ユーザー名

保存先サーバーの認証用のユーザー名を入力します。

■パスワード

保存先サーバーの認証用のパスワードを入力します。

■上の階層へ

現在の階層の１つ上の階層に移動します。

補足

- このボタンは、上に階層がない場合は選択できません。

■下の階層へ

現在の階層の１つ下の階層に移動します。

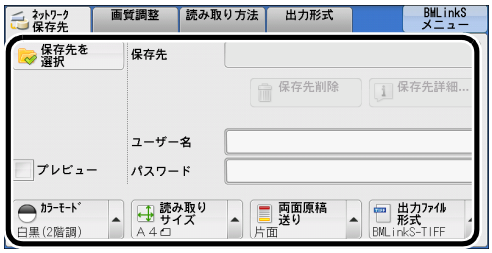
補足

- このボタンは、フォルダーを選択している場合に使用できます。

ネットワーク保存先

［ネットワーク保存先］タブで設定できる機能を説明します。

1 ［ネットワーク保存先］画面で、機能を選択します。



プレビュー

原稿の読み込み中に、保存またはプリントする原稿を確認できます。この機能はスキャンのプレビュー機能と同じです。

参照

- 詳しくは、「プレビュー（原稿の読み込み中にスキャン済みの原稿を確認する）」(P.346) を参照してください。

カラーモード

ファイルを保存するときのカラーモードを設定できます。この機能はスキャンのカラーモード機能と同じです。

参照

- 詳しくは、「カラーモード（スキャンの色を選択する）」(P.346) を参照してください。

補足

- カラーモードの制限が設定されている場合、プリントできる色が制限されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「集計管理」>「ユーザー登録 / 集計確認」>「サービスの利用制限」を参照してください。

両面原稿送り

両面原稿の両面を自動で保存できます。
原稿の綴じ方を設定すると、原稿のうらとおもての天地をそろえて読み取ります。
この機能はスキャンの両面原稿送り機能と同じです。

参照
- 詳しくは、「両面原稿送り（原稿の両面をスキャンする）」（P.347）を参照してください。

原稿の画質

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。
この機能はスキャンの原稿の画質機能と同じです。

参照
- 詳しくは、「原稿の画質（原稿の画質タイプを選択する）」（P.349）を参照してください。

出力ファイル形式

原稿を読み取るときの原稿画質を選択します。
この機能はスキャンの出力ファイル形式機能と同じです。

参照
- 詳しくは、「出力ファイル形式（スキャンしたデータの種類を選択する）」（P.349）を参照してください。

画質調整

原稿を読み取るときの読み込み濃度やコントラストなど、画質の調整をします。
この機能はスキャンの機能と同じです。

参照
- 詳しくは、「画質調整」（P.396）を参照してください。

読み取り方法

原稿を読み取るときの解像度や読み取りサイズなど、読み取り方法を設定します。
この機能はスキャンの機能と同じです。

参照
- 詳しくは、「読み取り方法」（P.402）を参照してください。

出力形式

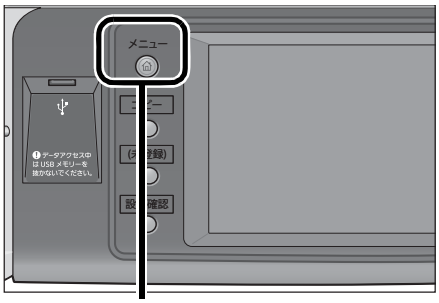
原稿を読み取るときのファイル名の指定や暗号化など、出力形式を設定します。
この機能はスキャンの機能と同じです。

参照
- 詳しくは、「出力形式」（P.411）を参照してください。

BMLinkS ストレージサービスにある文書のプリント

BMLinkS ストレージサービスに対応しているコンピューターにある文書をプリントできます。

1 〈メニュー〉ボタンを押します。



〈メニュー〉ボタン

2 ［BMLinkS］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 ［保存文書印刷］を押します。



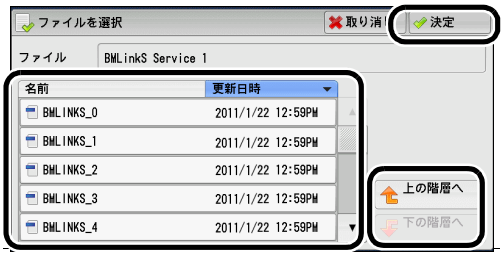
4 ［ファイルを選択］を押します。



5 接続先のコンピューター名を選択して、［下の階層へ］を押します。



6 一覧からプリントするファイルを選択し、［決定］を押します。
［上の階層へ］、［下の階層へ］を押して階層が変更できます。



補足

- ユーザー名やパスワードを入力する画面が表示された場合は、ユーザー名、パスワードを入力してください。

7 ［ユーザー名］を押します。



8 表示されるキーボードでユーザー名を入力し、［決定］を押します。

半角で 32 文字以内で入力できます。

参照

- 文字の入力方法は、「文字の入力方法について」(P.97) を参照してください。

9 ［パスワード］を押します。

10 表示されるキーボードでパスワードを入力し、［決定］を押します。半角で 32 文字以内で入力できます。

11 必要に応じて、［プリント文書］タブ、［応用プリント］タブから、設定する機能を選択します。

12 〈スタート〉ボタンを押します。

■ファイル名

プリントするファイル名を設定します。

■ファイル名削除

ファイル名が削除されます。

■BMLinkS メニュー

［BMLinkS メニュー］画面に戻ります。

■ユーザー名

接続先コンピューターの認証用のユーザー名を入力します。

■パスワード

接続先コンピューターの認証用のパスワードを入力します。

■上の階層へ

現在の階層の１つ上の階層に移動できます。

補足

- このボタンは、上に階層がない場合は選択できません。

■下の階層へ

現在の階層の１つ下の階層に移動できます。

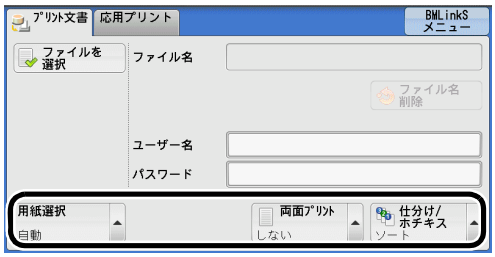
補足

- このボタンは、フォルダーを選択している場合に使用できます。

プリント文書

［プリント文書］タブで設定できる機能を説明します。

1 ［プリント文書］画面で機能を選択します。



用紙選択

プリントしたい用紙がセットされている用紙トレイを選択して、プリントできます。

■自動

原稿サイズと設定した倍率を基準に、適切な用紙トレイが自動的に選択されます。

■トレイ（2 ～ 5 段目）

あらかじめ設定されている用紙トレイから選択します。

■他のトレイ ...

［用紙選択］画面が表示されるので、設定されている用紙トレイから選択します。

補足

- トレイ（2 ～ 5 段目）にすべてのトレイが表示されている場合、［他のトレイ ...］ではなく［詳細設定 ...］と表示されます。

参照

- ［用紙選択］画面は、コピー機能の［用紙選択］画面と同じです。詳しくは、「用紙選択（コピーする用紙を選択する）」(P.121) を参照してください。

［手差し］を選択すると、［トレイ 5（手差し）］画面が表示されます。

参照

- ［トレイ 5（手差し）］画面は、コピー機能の［トレイ 5（手差し）］画面と同じです。詳しくは、「［トレイ 5（手差し）］画面」(P.123) を参照してください。

両面プリント

両面にプリントできます。

■しない

両面プリントしません。

■長辺とじ

長辺をとじて、両面プリントします。

■短辺とじ

短辺をとじて、両面プリントします。

仕分け / ホチキス

区切りがわかるように排出位置を交互にずらして排出されます。また、ホチキス留めして排出できます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■ソート

プリントした用紙を 1 部ごとにまとめて、ページ順に並べて排出できます。

■スタック

プリントした用紙をページごとにまとめて、入力した部数を排出できます。

■ホチキス左上 1ヵ所

プリントした用紙の左上 1 か所にホチキスを留めて排出できます。

応用プリント

［応用プリント］タブでは、次の機能を設定できます。



まとめて 1 枚（N アップ）

2 枚、4 枚の原稿を 1 枚にまとめてプリントできます。

［まとめて 1 枚（N アップ）］を選択すると、本機が自動的に倍率を設定して、選択した用紙に画像が収まるようにプリントします。

補足

- ［プリント文書］タブの［用紙選択］で選択する用紙トレイは、［自動］以外を選択してください。

1 ［まとめて 1 枚（N アップ）］から任意の項目を選択します。

■しない

まとめて 1 枚（N アップ）をしません。

■2 枚→ 1 枚 左→右

2 枚の原稿を左から右の順に 1 枚にまとめてプリントします。

■2 枚→ 1 枚 右→左

2 枚の原稿を右から左の順に 1 枚にまとめてプリントします。

■4 枚→ 1 枚　左上→右

4 枚の原稿を左上から右の順に 1 枚にまとめてプリントします。

■その他 ...

［その他 ...］を選択すると、ページをまとめる順番をイラストで確認しながら設定できます。

11 文書プリント

この章では、USB メモリーキットを装着した場合の文書プリントの基本的な操作と機能について説明します。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

- 文書プリントの概要 478
- USB メモリーの挿入.....481
- 文書プリント 485
- プリントオプションの設定.....487



文書プリントの概要

本機に USB メモリーキット（オプション）を取り付けると、文書（PDF、TIFF、XPS、XDW、XBD、JPEG（JFIF））ファイルを取り込んでプリントできます。これをメディアプリント機能と呼んでいます。

USB メモリーを本機に接続して、USB メモリーに保存したデータをプリントします。スキャナー（USB メモリー保存）で保存したデータのプリントもできます。

注記

- USB メモリー内のデータは、次のような理由により消失、破損するおそれがありますので、必ず内部のデータをバックアップしてからご使用ください。
  - マニュアルに記載された方法以外で USB メモリーの抜き差しをしたとき
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  - 故障、修理などのとき
  - 天災による被害を受けたとき
- お客様のデータ消失による直接、間接の損害につき、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 文書プリントは、サムネール表示およびプレビュー表示ともに対応していません。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 文書プリントでは、市販のシングルスロット*1 タイプのメモリーカードリーダーを使用できますが、動作保証はできません。マルチスロット*2 のメモリーカードリーダーでは、特定の 1 つのスロットだけしか使用できません。どのスロットを使用できるかはリーダーの機種毎に異なり、お客様が使いたいメディア / メモリーカードのスロットを複合機では使えない場合があります。また、動作保証はできません。

*1 メディア / メモリーカードの挿入口が 1 か所のものです。1 つの挿入口に 1 種類のメディア / メモリーカードだけ挿入できるリーダーと、SD カードと xD ピクチャカードなど、複数種類のものを挿入できるリーダーがあります。

*2 メディア / メモリーカードの挿入口が 2 か所以上あるものです。

- CentreWare Internet Services 上での設定によっては、本機能を使用できないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「6 CentreWare Internet Services の設定」>「CentreWare Internet Services を使って設定する」を参照してください。
- スキャナー（USB メモリー保存）機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

文書プリント機能には、文書フォーマットで格納されたデータをプリントする文書プリントモードがあります。また、読み込まれたファイルの一覧をプリントするインデックスプリントがあります。

対応ファイル

使用できる対応ファイルは、次のとおりです。

- PDF ファイル

  拡張子：pdf、PDF1.3 以上
- TIFF ファイル

  拡張子：tif、グレースケール 4 ビット /8 ビット非圧縮、8 ビット /24 ビット JPEG 圧縮、MH/MMR 圧縮
- XML Paper Specification（XPS）ファイル

  拡張子：xps、oxps
- DocuWorks 文書

  拡張子：xdw

- DocuWorks バインダー文書
  拡張子：xbd
- JPEG（JFIF）ファイル
  拡張子：jpg

注記
- 保存先を指定するときに、保存先リストに表示されるのは、フォルダー名だけです。ファイル名とショートカット（シンボリックリンクとエイリアス）は、表示されません。
- ファイル名に、本機でサポートしていない文字が含まれる場合は、画面に表示されないことがあります。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 認識できるファイル名は、半角で 255 文字、全角で 83 文字以内です。
- メディアプリントで処理できるファイル数は、900 ファイルです。
- メディアは、コンピューターでフォーマットしたものを使用してください。（対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32、VFAT のみです。NTFS、exFAT フォーマットには対応していません。）
- メディアは、USB2.0 対応のもので、最大容量が 128GB までのものを使用してください（USB1.1 には対応していません）。
- ファイル名に機種依存コードを使用している場合は、ファイル認識や画面表示が正しく行われない場合があります。

メディアプリント使用時の注意

メディアプリントを使用するときは、次のことに注意してください。

- メディアに異常がある場合は、数分で処理を中断し、エラー表示します。
- 本機の電源を切るときには、メディアを取り出してから行ってください。
- メディアは、プリントが終了したら必ず手順に従って取り出してください。
- メディアは、必ず内部のデータをバックアップしてから使用してください。
- メディア内のファイル数や容量によっては、プリントに数分から数十分かかることがあります。
- メディアは、コンピューターでフォーマットしたものを使用してください。（対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32、VFAT のみです。NTFS、exFAT フォーマットには対応していません。）
- メディアプリントで PDF ファイルをプリントする場合、[PDF エミュレーション設定] の [プリント処理モード] の設定にかかわらず、[PDF Bridge] が使用されます。

参照
- プリント処理モードについては、『管理者ガイド』の「16 付録」>「PDF ダイレクトプリントを使用するには」を参照してください。

- USBホストアダプターを利用して、お客様がお持ちのUSBメモリーおよびUSBケーブル（必要に応じて）からプリントできますが、動作保証はできません。
- 複数の USB メモリーを同時に装着して使用することはできません。
- USB2.0 対応のメモリーが対象です。USB1.1 には対応していません。
  次の USB メモリーは対象外です。
  - USB メモリーのコンテンツにアクセスするために別途ユーティリティが必要なメディアパーティションが複数ある USB メモリー
  - 外付けのハブを介して接続した USB メモリー

- 著作権保護機能付きの音楽データなどのバックアップできないデータが保存されたメディアは使用しないでください。データの破損・消失による直接・間接の損害につき、弊社は一切の責任を負いかねます。
- USB メモリーにアクセス中の取り出しを回避するためのメニューは提供していません。

USB メモリーの挿入

1 USB メモリー差込口に、USB メモリーを差し込みます。

2 次のいずれかの状態になります。

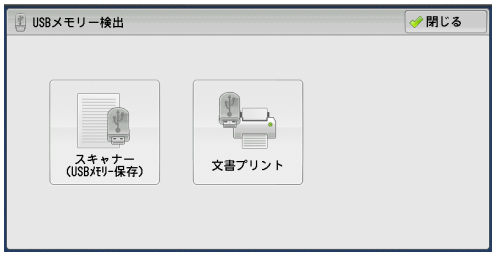
- ［USB メモリー検出］画面が表示される
- ［USB メモリー保存］画面が表示される
- ［文書プリント］画面が表示される
- 画面表示は変わらない

補足

- 上記のうちのどの状態になるかは、設定によって異なります。詳しくは、機械管理者にお問い合わせください。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。〈節電〉ボタンを押して節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込みなおすか、メニュー画面で［スキャナー（USB メモリー保存）］を押してください。節電状態を解除するその他の方法については、「節電状態から復帰する」(P.79) を参照してください。
- 暗号化されたデータが保存されたUSBメモリーや、本機が対応していないフォーマットのUSBメモリーを差し込んだときでも、上記のいずれかの状態になります。その場合、操作の途中で警告メッセージが表示され、操作は中断されます。
- 市販のメモリーカードリーダーを、本機の USB メモリー差込口に差し込んだ場合も、上記のいずれかの状態になります。メモリーカードリーダーにメディアが挿入されていない状態でも、同じ動作となります。
- 市販のメモリーカードリーダーをお使いで、本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。
- 差し込んだ USB メモリーやメモリーカードリーダーを、差込口から取り外しても、タッチパネルディスプレイの画面表示は変わりません。続けて別の操作を行う場合は、〈メニュー〉ボタンを押すなどして、表示を変更してください。

［USB メモリー検出］画面が表示された場合

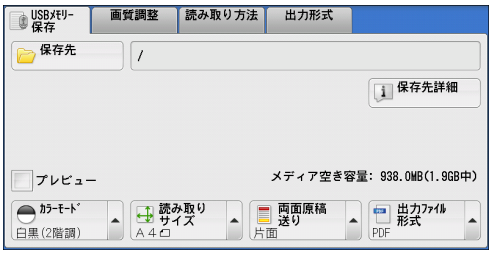
1 ［文書プリント］を押します。



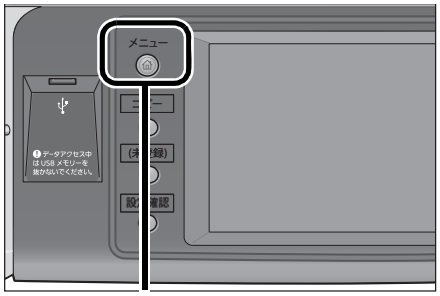
2 ［文書プリント］画面が表示されます。



［USB メモリー保存］画面が表示された場合



1 〈メニュー〉ボタンを押して、メニュー画面を表示させます。



〈メニュー〉ボタン

2 メニュー画面で［文書プリント］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 ［文書プリント］画面が表示されます。



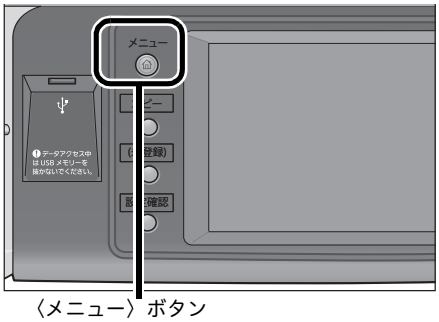
［文書プリント］画面が表示された場合

［文書プリント］画面で機能を選択します。



画面表示が変わらなかった場合

1 メニュー画面以外の画面が表示されたままになっている場合は、〈メニュー〉ボタンを押して、メニュー画面を表示させます。



〈メニュー〉ボタン

2 メニュー画面で［文書プリント］を押します。



補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

3 ［文書プリント］画面が表示されます。



注記

- USB メモリー内のデータは、次のような理由により消失、破損するおそれがありますので、必ず内部のデータをバックアップしてからご使用ください。
  - マニュアルに記載された方法以外で USB メモリーの抜き差しをしたとき
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  - 故障、修理などのとき
  - 天災による被害を受けたとき
- お客様のデータ消失による直接、間接の損害につき、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

補足

- 保存先を指定しない場合、スキャンデータはルートディレクトリー直下に保存されます。

文書プリント

ファイルの選択

ファイルの選択方法には、次の 3 種類があります。

- 全ファイル一括選択
- ファイル一覧表示画面からのファイル選択
- インデックス番号による選択（1 つまたは範囲）

補足

- 一度に選択できるファイルの数は、32 ファイルまでです。

1 ［すべてを選択］、［一覧から選択 ...］または［インデックス番号で範囲指定］でファイルを選択します。



2 ファイルの選択が終了したら、プリントオプションを設定します。

参照

- プリントオプションについては、「プリントオプションの設定」（P.487）を参照してください。

補足

- ファイルを選択して表示されるポップアップメニューで、選択の解除、詳細の表示ができます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」（P.94）を参照してください。

■すべてを選択

すべてのファイルが選択されます。

補足

- メディアに格納されているファイルの種類やディレクトリー構成によっては、選択したすべてのファイルをプリントできないことがあります。

■一覧から選択 ...

［一覧から選択］画面が表示されます。

参照

- 「［一覧から選択］画面」（P.486）を参照してください。

■インデックス番号で範囲指定

［最初の写真］と［最後の写真］の［+］［−］を使って、範囲を指定します。

補足

- ［一覧から選択］を押して、ファイルを一覧表示させると、選択の目安になります。

■インデックスプリント

選択したファイルを、自動的に割り当てられた番号を付けて、一覧でプリントします。

参照
- インデックスプリントについては、「インデックスプリント」(P.488) を参照してください。

[一覧から選択] 画面

1 ファイルを選択します。



補足
- [▲] を押して前画面、[▼] 押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- [番号]、[名前] または [更新日時] を押すと、それぞれ昇順、または降順でソートできます。
- 選択したファイルには、チェックが付きます。ファイルが選択されている状態（反転表示）で再度押すと、選択が解除されます。
- フォルダー名またはファイル名が、日本語で全角 85 文字を超える場合、対象のフォルダー名またはファイル名は表示されません。
- 本機でサポートしていない文字を含むフォルダー名は、正しく表示されないときがあります。また、そのフォルダーを選択した場合には、エラーとなります。
- Windows 環境で作成された半角 8 文字以下のフォルダーまたはファイルは、大文字と小文字の区別ができません。すべて大文字で表示されます。

■この階層のすべてを選択

現在の階層内のすべてのファイルを選択します。

■詳細 ...

選択されている（反転表示）ファイルの詳細が表示されます。[詳細] 画面の [プリントする] にチェックすると、プリント対象になります。

■上の階層へ

現在の階層の 1 つ上の階層に移動します。

補足
- このボタンは、上に階層がない場合は選択できません。

■下の階層へ

現在の階層の 1 つ下の階層に移動します。

補足
- このボタンは、フォルダーを選択している場合に使用できます。

プリントオプションの設定

プリントオプションの設定は、［文書プリント］タブ、および［応用］タブで設定します。

工場出荷時の設定では、登録 3（設定確認）ボタンを押すと、設定値が一覧で表示されます。

文書プリント

タブ	項目	設定値
ー	部数	〈数字〉ボタンを使って 1 ～ 999 部の範囲で 1 部単位に指定できます。
文書プリント	用紙選択	トレイ 1 ～ 4、6 ～ 7（オプション） **補足** • ［自動］または A3、B4、A4、A4□、B5、B5□、A5、A5□、8.5×11"、8.5×11"□、8.5×14"、11×17" がセットされている用紙トレイを選択してください。 • ［自動］を選択した場合、文書のサイズの用紙トレイが自動的に選択されて等倍でプリントします。 • 使用したいトレイが表示されていないときは、［他のトレイ ...］を押して表示される画面で、トレイを選択してください。 ［他のトレイ ...］または［詳細設定 ...］を押して［手差し］を選択した場合は、［用紙サイズ］と［用紙種類］が設定できます。 • 用紙サイズ A3、B4、A4、A4□、B5、B5□、A5、A5□、8.5 × 11"、8.5 × 11"□、8.5 × 14"、11 × 17" • 用紙種類 画面に表示される用紙種類が選択できます。
	両面プリント	しない、長辺とじ、短辺とじ
	ホチキス/パンチ	ホチキス / パンチ位置が選択できます。 画面に表示されていない位置を設定したいときは、［詳細設定 ...］を押します。 **注記** • 複数の文書を選択してプリントすると、すべての文書がまとめてホチキスされます。文書ごとにホチキス留めしたい場合は、1 文書ずつプリントしてください。
応用	まとめて 1 枚（N アップ）	しない、2 枚→ 1 枚（2 アップ）、4 枚→ 1 枚（4 アップ）
	スムージング	しない、する

補足

- 文書に設定されているサイズより小さい用紙が選択された場合は、自動的に縮小します。大きい用紙が選択された場合は、等倍でプリントします。
- ［文書プリント］タブ・［応用］タブの表示内容は、オプションの組み合わせにより変更することがあります。

インデックスプリント

- 文書プリントの場合は、ファイル名、メディアへの書き込み日時、総ファイル数がプリントされます。

インデックスプリントでは、部数（1 ～ 999 部の範囲で 1 部単位に指定可能）だけ設定できます。部数以外の項目は、画面に表示されている設定（インデックスプリントモード実行前の、文書プリントの設定）でプリントされます。設定を変更したい場合は、インデックスプリントのチェックを外してから設定を変更して、インデックスプリントを実行してください。なお、設定値は本機を再起動すると初期値に戻ります。

インデックスプリントを選択した場合に制限される項目は、次のとおりです。

項目	設定値
用紙選択	トレイ 1 ～ 4、6 ～ 7（オプション） **補足** • 設定されている用紙トレイに、A3、A4、またはレター（8.5×11"）の用紙がセットされている必要があります。
両面プリント	しない
ホチキス / パンチ	設定できません。
まとめて 1 枚（N アップ）	設定できません。

12 ジョブ確認

この章では、ジョブの確認と操作について説明します。

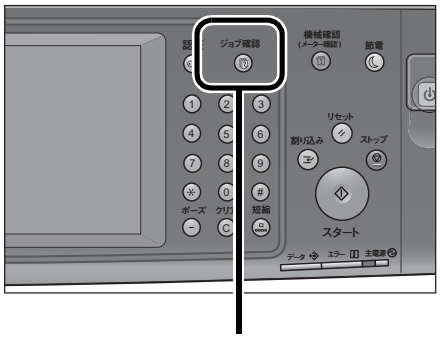
- ジョブ確認の概要.....490
- 実行中 / 実行待ちのジョブを確認する.....491
- 完了したジョブを確認する.....493
- 保存文書をプリント / 削除する.....495
- プリント待ち / 操作待ちジョブを強制的にプリントする.....520
- 異常終了したときの処理方法.....521



ジョブ確認の概要

ジョブ確認では、実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。また、プリントを中止したり、プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントしたりできます。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

［ジョブ確認］画面では、次のことができます。

■ジョブの確認

実行中や実行待ちのジョブをリストで確認したり、詳細を表示したりできます。また、実行中や実行待ちのジョブを中止できます。

参照

- 詳しくは、「実行中 / 実行待ちのジョブを確認する」(P.491) を参照してください。

■完了したジョブの状態確認

完了したジョブの状態を表示できます。また、詳細を表示できます。

参照

- 詳しくは、「完了したジョブを確認する」(P.493) を参照してください。

■保存文書の確認

認証プリント、セキュリティープリント、プライベートプリント、サンプルプリント、時刻指定プリントなどの機能によって保存された文書を、プリントしたり削除したりできます。

参照

- 詳しくは、「保存文書をプリント / 削除する」(P.495) を参照してください。

■ジョブのプリント

プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントできます。

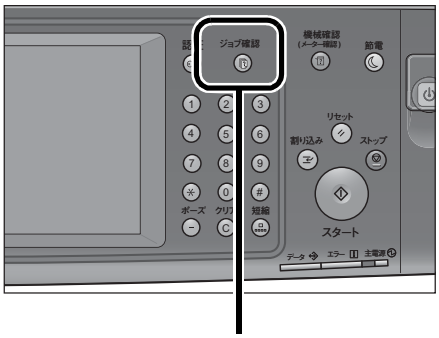
参照

- 詳しくは、「プリント待ち / 操作待ちジョブを強制的にプリントする」(P.520) を参照してください。

実行中 / 実行待ちのジョブを確認する

実行中や実行待ちのジョブを確認する方法について説明します。確認画面では、ジョブを中止したり、ジョブを優先的に実行したりできます。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

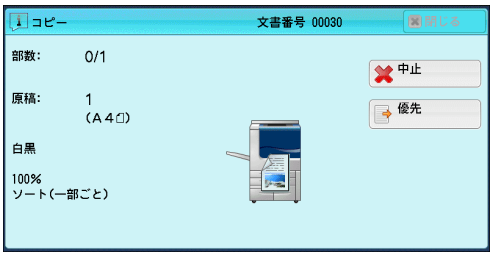
2 ジョブを中止したり、優先的に実行する場合は、該当するジョブを選択します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールできます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ドロップダウンメニューから、ジョブの種類を選択して表示できます。

3 ［中止］または［優先］を押します。



■プリント待ちジョブを出力

プリント待ちや操作待ちのジョブを強制的にプリントします。

参照

- 詳しくは、「プリント待ち / 操作待ちジョブを強制的にプリントする」(P.520) を参照してください。

■中止

実行中や実行待ちのジョブの処理を中止します。

■優先

ジョブが実行される順位が上がります。

［優先］を指示したジョブの［状態］には、「」マークが付きます。

■ストップ

ジョブの処理を一時停止します。

■次原稿なし

原稿の読み込みを終了する場合に選択します。ジョブが開始されます。

■次原稿あり

次の原稿がある場合に選択します。

■スタート

一時停止されたジョブを再開します。

■部数変更 ...

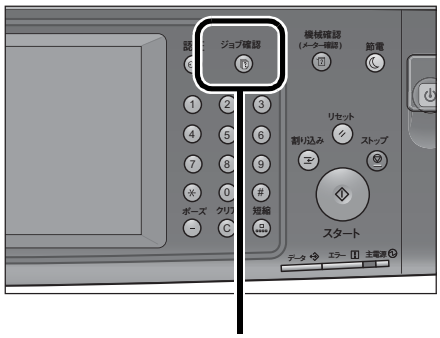
［部数変更］画面が表示され、最初に入力した部数を変更できます。〈数字〉ボタンで入力します。

完了したジョブを確認する

完了したジョブを確認する方法について説明します。

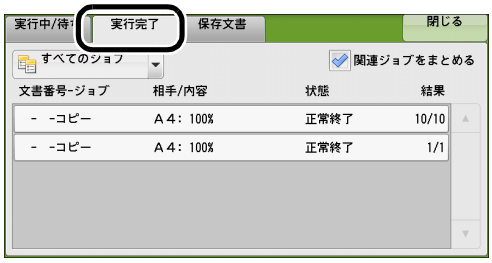
ジョブが正常に完了したかどうかを確認できます。また、ジョブを選択すると、詳細を表示できます。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

2 ［実行完了］タブを押します。



補足

- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ドロップダウンメニューから、ジョブの種類を選択して表示できます。
- ファクス同報送信のジョブを確認する場合、それぞれのジョブを表示させたいときは、実行完了画面の［関連ジョブをまとめる］のチェックを外します。表示された一覧から各項目を選択すると、ジョブの詳細を確認できます。［関連ジョブをまとめる］のチェックを付けている場合は、同報送信のジョブを選択してから、［関連ジョブの結果を表示］を押すと、同報送信をしたジョブの一覧が表示されます。表示された一覧から各項目を選択すると、ジョブの詳細を確認できます。
- 結果欄の単位（部数、ページ数、%）はコピー、プリント、スキャンで異なります。単位はジョブの詳細画面で確認することができます。

3 ジョブの詳細を確認する場合は、該当するジョブを選択します。

4 確認後、［閉じる］を押します。



■関連ジョブをまとめる

ジョブフローのジョブなど、関連ジョブの一覧や履歴を、1 つにまとめて確認できます。

■関連ジョブの結果を表示

1 つにまとめたジョブの一覧を表示できます。

■ジョブ結果レポート出力

ジョブの結果をプリントできます。

■ジョブ別集計レポート出力

ジョブ結果の詳細情報をプリントできます。

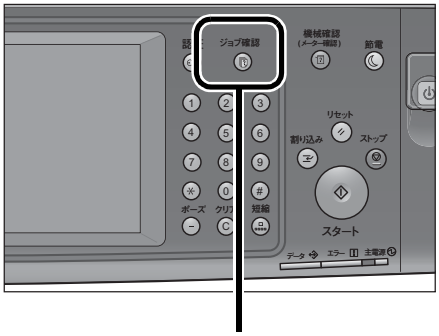
保存文書をプリント / 削除する

セキュリティープリントやサンプルプリントなどの機能によって保存された文書、または認証プリントの受信制御によって保存された文書を、プリントしたり、削除したりする方法について説明します。保存文書のプリント、および削除は、［ジョブ確認］画面で操作します。

参照先は、次のとおりです。

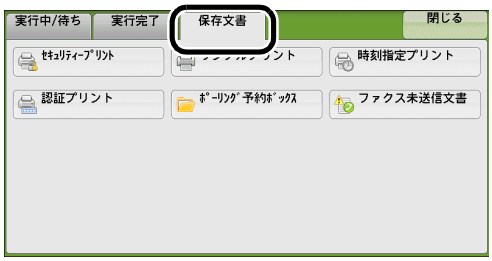
セキュリティープリント 496
サンプルプリント 500
時刻指定プリント 504
認証プリント 507
プライベートプリント 512
ポーリング予約ボックス 516
ファクス未送信文書 518

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

2 ［保存文書］タブを押します。



参照

- ［セキュリティープリント］と［プライベートプリント］は、同時には表示されません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。

セキュリティープリント

プリントを指示したデータを一時的に本機内に蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。パスワードを設定できるので、機密文書などをプリントする場合に便利です。

セキュリティープリントの機能によって保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

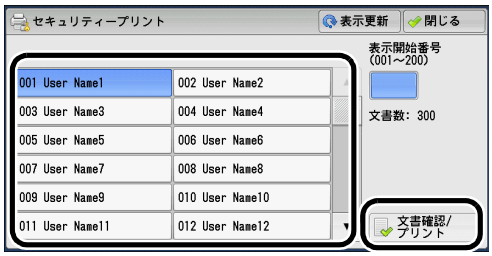
- この項目は、［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］が、次のどちらかに設定されている場合は表示されません。
  - ［プリンターの認証に従う］を選択し、［認証成功したジョブ］を［プライベートプリントに保存］に設定
  - ［プライベートプリントに保存］を選択

参照

- ［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］で、受信したジョブをプライベートプリントまたは認証プリントに保存するように設定した場合は、プリンタードライバーでセキュリティープリントを指示しても、［保存文書］の［セキュリティープリント］には保存されません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。
- セキュリティープリントの操作方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

1 ［セキュリティープリント］を押します。

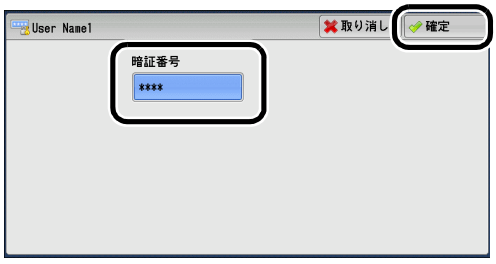
2 該当するユーザーを選択し、［文書確認 / プリント］を押します。



補足

- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ユーザーリストの途中から表示させたい場合は、［表示開始番号］に〈数字〉ボタンでその開始番号を入力します。

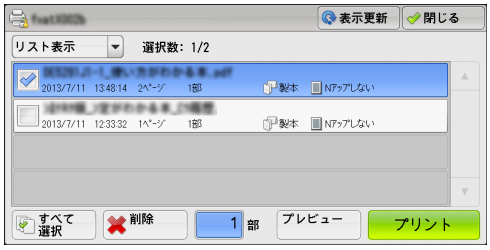
3 暗証番号を入力し、［確定］を押します。



補足

- 暗証番号が設定されていない場合、［暗証番号］画面は表示されません。

4 プリント、または削除する文書を選択します。



補足

- 文書は、最大 100 件まで同時に選択し、プリントまたは削除の指示ができます。複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- 保存文書のリスト表示 / サムネール表示の切り替えやプレビュー表示ができます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。
- 保存文書の一覧画面で、詳細情報を表示するかどうかを設定することができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント文書一覧の詳細表示」を参照してください。
- プリンタードライバーで製本を指定した場合、［製本］アイコンが表示されます。

5 任意の項目を選択します。

6 プリントするときは、〈数字〉ボタンで部数を入力します。

■すべて選択

すべての文書を選択できます。また、全文書選択を解除するには、もう一度ボタンを押します。

■削除

セキュリティープリント文書を削除します。

補足

- あるユーザー ID の文書をすべて削除すると、そのユーザー ID は削除されます。

参照

- 詳しくは、「［削除］を選択した場合」(P.498) を参照してください。

■プレビュー

選択した文書の先頭ページのプレビュー画像を表示します。

補足

- 複数の文書を選択した場合、［ プレビュー ］ボタンを押すことはできません。

参照

- 詳しくは、「［プレビュー］を選択した場合」(P.498) を参照してください。

■プリント部数

プリントする部数を〈数字〉ボタンで入力します。

■プリント

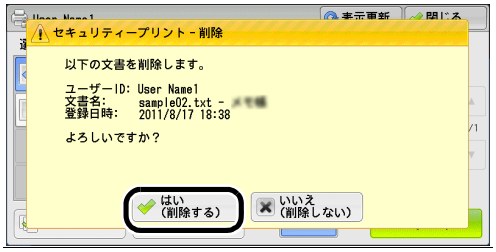
セキュリティープリント文書をプリントします。

参照

- 詳しくは、「［プリント］を選択した場合」(P.499) を参照してください。

［削除］を選択した場合

1 ［はい（削除する）］を押します。



■はい（削除する）

文書を削除します。

注記

- 削除した文書は、元に戻せません。

■いいえ（削除しない）

文書の削除を取り消します。

［プレビュー］を選択した場合

1 任意の項目を選択します。

補足

- セキュリティープリントでは、プレビュー画像を回転させることはできません。

■  （ページビュー）

プレビュー画像を全体表示します。

ページビューでは、プレビューエリアの右側にファイル名、登録日時、ページ数、ホチキス、パンチの設定値が表示されます。

プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。



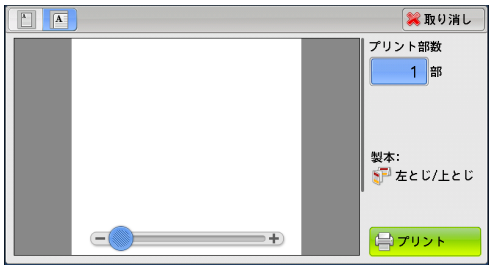
■  （拡大ビュー）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

拡大ビューでは、以下の操作ができます。

- プレビュー画像をドラッグまたはフリックすると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。

- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。



■プリント部数

プリントする部数を指定します。

■両面プリント

片面、両面（短辺とじ）、両面（長辺とじ）が表示されます。

■製本

左とじ / 上とじ、右とじ / 下とじが表示されます。

補足

- プリンタードライバーで製本を指定した場合に表示されます。
- とじ方向が判明できない場合は、「製本」のみが表示されます。

■プリント

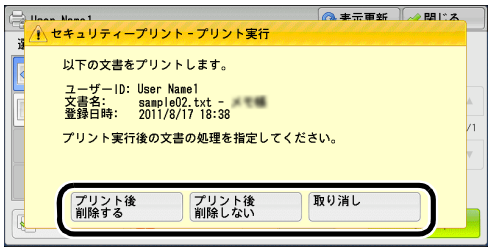
セキュリティープリント文書をプリントします。

参照

- 詳しくは、「[プリント］を選択した場合」(P.499) を参照してください。

［プリント］を選択した場合

1 プリントしたあとの文書の処理を選択します。



補足

- 機械管理者モードで［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント時の確認画面表示」を参照してください。

■プリント後削除する

文書のプリントを開始します。プリントしたあと、文書は削除されます。

■プリント後削除しない

文書のプリントを開始します。プリントしたあとも、文書はそのまま保存されています。

■取り消し

文書のプリントを取り消します。

サンプルプリント

複数の部数をプリントする場合、試しに 1 部だけプリントして内容を確認したあと、残りの部数を本機側からプリントできます。

サンプルプリントの機能によって保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

参照

- サンプルプリントの操作方法は、プリンタードライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

補足

- ［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］で、受信したジョブをプライベートプリントまたは認証プリントに保存するように設定した場合は、プリンタードライバーでサンプルプリントを指示しても、［保存文書］の［サンプルプリント］には保存されません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。

1 ［サンプルプリント］を押します。

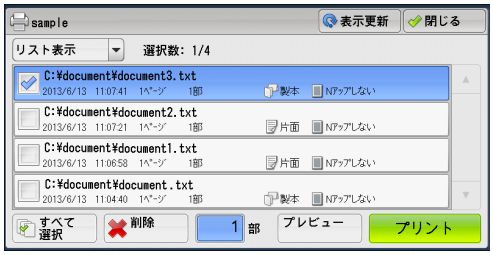
2 確認したいユーザーを選択し、［文書確認 / プリント］を押します。



補足

- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ユーザーリストの途中から表示させたい場合は、［表示開始番号］に〈数字〉ボタンでその開始番号を入力します。

3 プリント、または削除する文書を選択します。



補足

- 文書は、最大 100 件まで同時に選択し、プリントまたは削除の指示ができます。複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- 保存文書のリスト表示 / サムネール表示の切り替えやプレビュー表示ができます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。
- 保存文書の一覧画面で、詳細情報を表示するかどうかを設定することができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント文書一覧の詳細表示」を参照してください。
- プリンタードライバーで製本を指定した場合、［製本］アイコンが表示されます。

4 任意の項目を選択します。

5 プリントするときは、〈数字〉ボタンで部数を入力します。

■すべて選択

すべての文書を選択できます。また、全文書選択を解除するには、もう一度ボタンを押します。

■削除

サンプルプリント文書を削除します。

参照

- 詳しくは、「［削除］を選択した場合」(P.502) を参照してください。

■プレビュー

選択した文書のプレビュー画像を表示します。

補足

- 複数の文書を選択した場合、［プレビュー］ボタンを押すことはできません。

参照

- 詳しくは、「［プレビュー］を選択した場合」(P.502) を参照してください。

■プリント部数

プリントする部数を〈数字〉ボタンで入力します。

■プリント

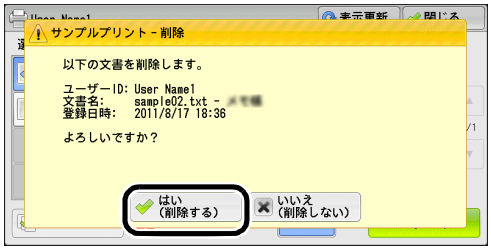
サンプルプリント文書をプリントします。残り部数をプリントしたあと、文書は削除されます。

参照

- 詳しくは、「［プリント］を選択した場合」(P.503) を参照してください。

［削除］を選択した場合

1 ［はい（削除する）］を押します。



■はい（削除する）

文書を削除します。

注記

- 削除した文書は、元に戻せません。

■いいえ（削除しない）

文書の削除を取り消します。

［プレビュー］を選択した場合

1 任意の項目を選択します。

補足

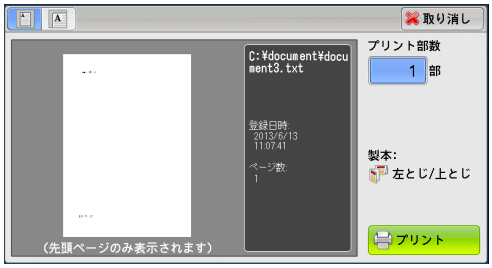
- サンプルプリントでは、プレビュー画像を回転させることはできません。

■（ページビュー）

プレビュー画像を全体表示します。

ページビューでは、プレビューエリアの右側にファイル名、登録日時、ページ数、ホチキス、パンチの設定値が表示されます。

プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。



■（拡大ビュー）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

拡大ビューでは、以下の操作ができます。

- プレビュー画像をドラッグまたはフリックすると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。

- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。



■プリント部数

プリントする部数を指定します。

■両面プリント

片面、両面（短辺とじ）、両面（長辺とじ）が表示されます。

■製本

左とじ / 上とじ、右とじ / 下とじが表示されます。

補足

- プリンタードライバーで製本を指定した場合に表示されます。
- とじ方向が判明できない場合は、「製本」のみが表示されます。

■プリント

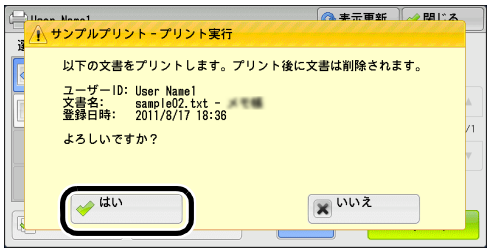
サンプルプリント文書をプリントします。残り部数をプリントしたあと、文書は削除されます。

参照

- 詳しくは、「[プリント] を選択した場合」(P.503) を参照してください。

［プリント］を選択した場合

1 ［はい］を押します。



補足

- 機械管理者モードで［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント時の確認画面表示」を参照してください。

■はい

文書のプリントを開始します。プリントしたあと、文書は削除されます。

補足

- 1 部めをプリントしたあと、何も操作をしない状態で［ジョブ自動解除］で設定している時間が経過すると、自動的に 2 部めがプリントされます。自動的に 2 部めをプリントしない場合は、［ジョブ自動解除］を［しない］に設定します。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「ジョブ自動解除」を参照してください。

■いいえ

文書のプリントを取り消します。

時刻指定プリント

プリントを指示したデータを一時的に本機内に蓄積させ、指定した時刻にプリントできます。

時刻指定プリントで同時に実施（待機）できるジョブ数は 100 以下です。また、印刷待機中（指定したプリント時刻より前）に本機の電源を切った場合、指定時刻が過ぎたジョブは、次に本機の電源を入れた直後に自動的に印刷が開始されます。

時刻指定プリントの機能によって保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

参照

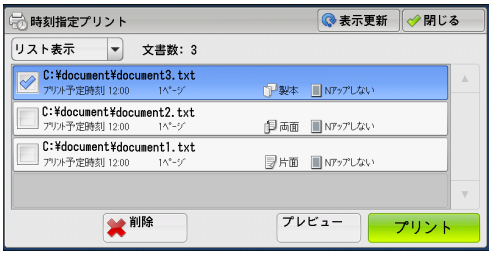
- 詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

補足

- ［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］で、受信したジョブをプライベートプリントまたは認証プリントに保存するように設定した場合は、プリンタードライバーで時刻指定プリントを指示しても、［保存文書］の［時刻指定プリント］には保存されません。
  詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。

1 ［時刻指定プリント］を押します。

2 プリント、または削除する文書を選択します。



補足

- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。
- ［プリント予定時刻］は、プリントを開始する時刻です。
- 保存文書のリスト表示 / サムネール表示の切り替えやプレビュー表示ができます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。
- 保存文書の一覧画面で、詳細情報を表示するかどうかを設定することができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント文書一覧の詳細表示」を参照してください。
- プリンタードライバーで製本を指定した場合、［製本］アイコンが表示されます。

3 任意の項目を選択します。

■削除

時刻指定プリントで保存されている文書を削除します。

参照
- 詳しくは、「[削除] を選択した場合」(P.505) を参照してください。

■プレビュー

選択した文書のプレビュー画像を表示します。

参照
- 詳しくは、「[プレビュー] を選択した場合」(P.506) を参照してください。

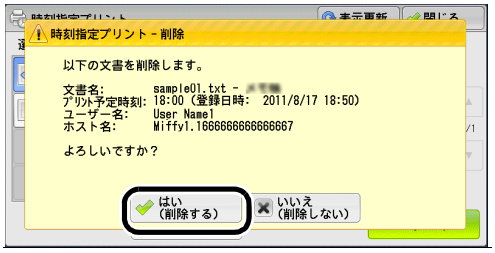
■プリント

時刻指定プリントで保存されている文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。また、手動でプリント指示をすると、予定時刻になってもプリントされません。

参照
- 詳しくは、「[プリント] を選択した場合」(P.507) を参照してください。

[削除] を選択した場合

1 [はい（削除する）] を押します。



■はい（削除する）

文書を削除します。

注記
- 削除した文書は、元に戻せません。

■いいえ（削除しない）

文書の削除を取り消します。

［プレビュー］を選択した場合

1 任意の項目を選択します。

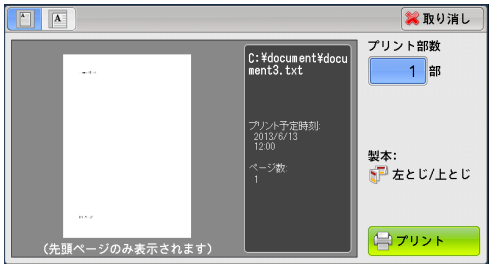
補足
- 時刻指定プリントでは、プレビュー画像を回転させることはできません。

■  （**ページビュー**）

プレビュー画像を全体表示します。

ページビューでは、プレビューエリアの右側にファイル名、登録日時、ページ数、ホチキス、パンチの設定値が表示されます。

プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。

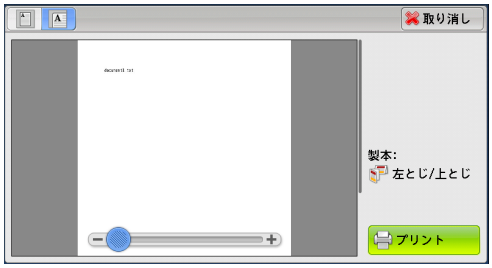


■  （**拡大ビュー**）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

拡大ビューでは、以下の操作ができます。

- プレビュー画像をドラッグまたはフリックすると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。



■プリント部数

プリントする部数を指定します。

■両面プリント

片面、両面（短辺とじ）、両面（長辺とじ）が表示されます。

■製本

左とじ / 上とじ、右とじ / 下とじが表示されます。

補足
- プリンタードライバーで製本を指定した場合に表示されます。
- とじ方向が判明できない場合は、「製本」のみが表示されます。

■プリント

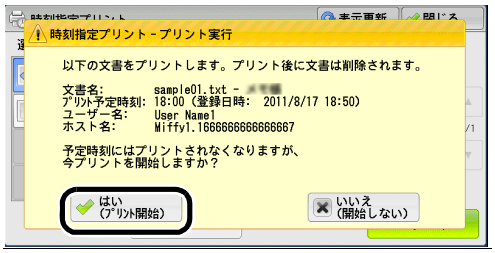
時刻指定プリントで保存されている文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。また、手動でプリント指示をすると、予定時刻になってもプリントされません。

参照

- 詳しくは、「[プリント] を選択した場合」(P.507) を参照してください。

[プリント] を選択した場合

1 [はい (プリント開始)] を押します。



補足

- 機械管理者モードで [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント時の確認画面表示」を参照してください。

■はい (プリント開始)

文書のプリントを開始します。プリントしたあと、文書は削除されます。

■いいえ (開始しない)

文書のプリントを取り消します。

認証プリント

認証プリントは、本機にユーザーを認証させることにより、不正なプリントをさせない機能です。認証されたユーザーのジョブだけを、プリントできます。また、本機の設定により、一時的に本機にプリントジョブを蓄積してから本機の操作でプリントできます。

[仕様設定 / 登録] > [認証 / セキュリティ設定] > [認証の設定] > [認証 / プライベートプリントの設定] の [受信制御] で、認証プリントに保存するよう設定した場合、受信したプリントジョブは、蓄積用ユーザー ID ごとに保存されます。プリンタードライバーで蓄積用ユーザー ID が設定されていないジョブは、[ユーザー ID なしのジョブ] に保存されます。

参照

- 本機でユーザー ID を設定するには『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「集計管理」>「ユーザー登録 / 集計確認」を参照してください。

補足

- 認証プリントは、Coinkit または Dispenser による不特定ユーザーのプリント課金に向いています。また、プライベートプリントには保存できない、ユーザー ID なしのジョブ (ContentsBridge、

CentreWare Internet Services を使用したプリント、メールプリントなど）も保存できるため、ユーザー ID なしのジョブも認証してプリントできます。

- この項目は、認証プリントへの保存が設定されている場合に表示されます。認証プリントへの保存をするには、機械管理者モードで次のどれかを設定します。
  - ［受信制御］を［認証プリントに保存］に設定。
  - ［受信制御］を［プリンターの認証に従う］に設定し、［認証が不正のジョブ］を［認証プリントに保存］に設定。
  - ［受信制御］を［プリンターの認証に従う］または［プライベートプリントに保存］に設定し、［User ID なしのジョブ］を［認証プリントに保存］に設定。

参照

- 認証プリントの設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。

認証プリントに保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

1 〈認証〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。

2 User ID を入力し、［確定］を押します。



補足

- パスワードを設定した場合は、User ID を入力したあと［次へ］を選択し、パスワードを入力してから［確定］を押します。
- ユーザー認証されると、操作パネルの〈認証〉ボタンが点灯します。
- 認証状態からログアウトするには、操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。タッチパネルディスプレイ右上の認証情報の表示エリアを押して、ポップアップメニューから［認証解除］を選択してもログアウトできます。

3 ［認証プリント］を押します。

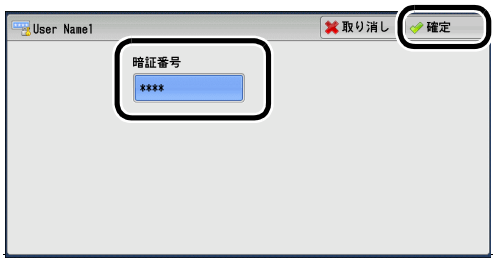
4 対象となるユーザーを選択し、［文書確認 / プリント］を押します。



補足

- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ユーザーリストの途中から表示させたい場合は、［表示開始番号］に〈数字〉ボタンでその開始番号を入力します。

5 暗証番号を入力し、［確定］を押します。



補足

- 暗証番号が設定されていない場合、［暗証番号］画面は表示されません。

6 プリント、または削除する文書を選択します。



補足

- 文書は、最大 100 件まで同時に選択し、プリントまたは削除の指示ができます。複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- Coinkit と Dispenser 2 を接続している場合は、全文書および複数文書の選択ができません。1 文書ずつ選択し、プリントまたは削除の指示をしてください。
- 保存文書のリスト表示 / サムネール表示の切り替えやプレビュー表示ができます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。
- 保存文書の一覧画面で、詳細情報を表示するかどうかを設定することができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント文書一覧の詳細表示」を参照してください。
- プリンタードライバーで製本を指定した場合、［製本］アイコンが表示されます。

7 任意の項目を選択します。

8 プリントするときは、〈数字〉ボタンで部数を入力します。

■すべて選択

すべての文書を選択できます。また、全文書選択を解除するには、もう一度ボタンを押します。

■削除

認証プリントで保存された文書を削除します。

参照

- 詳しくは、「［削除］を選択した場合」(P.510) を参照してください。

■プレビュー

選択した文書のプレビュー画像を表示します。

補足
- 複数の文書を選択した場合、［プレビュー］ボタンを押すことはできません。

参照
- 詳しくは、「［プレビュー］を選択した場合」(P.510) を参照してください。

■プリント部数

プリントする部数を〈数字〉ボタンで入力します。

■プリント

認証プリントで保存された文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。

参照
- 詳しくは、「［プリント］を選択した場合」(P.512) を参照してください。

［削除］を選択した場合

1 ［はい（削除する）］を押します。



■はい（削除する）

文書を削除します。

注記
- 削除した文書は、元に戻せません。

■いいえ（削除しない）

文書の削除を取り消します。

［プレビュー］を選択した場合

1 任意の項目を選択します。

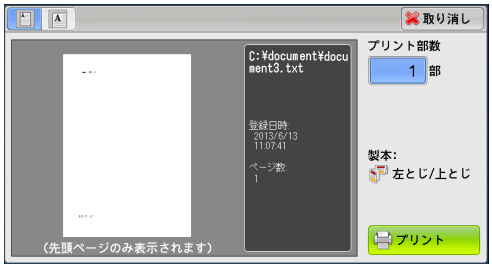
補足
- 認証プリントでは、プレビュー画像を回転させることはできません。

■  （ページビュー）

プレビュー画像を全体表示します。

ページビューでは、プレビューエリアの右側にファイル名、登録日時、ページ数、ホチキス、パンチの設定値が表示されます。

プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。

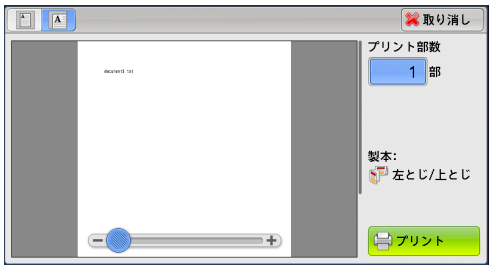


■  （拡大ビュー）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

拡大ビューでは、以下の操作ができます。

- プレビュー画像をドラッグまたはフリックすると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。



■プリント部数

プリントする部数を指定します。

■両面プリント

片面、両面（短辺とじ）、両面（長辺とじ）が表示されます。

■製本

左とじ / 上とじ、右とじ / 下とじが表示されます。

補足

- プリンタードライバーで製本を指定した場合に表示されます。
- とじ方向が判明できない場合は、「製本」のみが表示されます。

■プリント

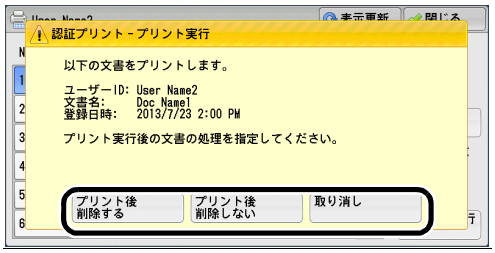
認証プリントで保存された文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。

参照

- 詳しくは、「[プリント] を選択した場合」(P.512) を参照してください。

［プリント］を選択した場合

1 プリントしたあとの文書の処理を選択します。



補足

- 機械管理者モードで［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント時の確認画面表示」を参照してください。

■プリント後削除する

文書のプリントを開始します。プリントしたあと、文書は削除されます。

■プリント後削除しない

文書のプリントを開始します。プリントしたあとも、文書はそのまま保存されています。

■取り消し

文書のプリントを取り消します。

プライベートプリント

プリントを指示したデータを一時的に認証用ユーザー ID ごとに蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。必要な文書だけ選択してプリントできるため、無駄な出力を抑えることができます。また、認証されたユーザーの文書およびユーザーに関連づけられたサブユーザーの文書しか本機に表示されないため、プライバシーの保護を図ることができます。機械管理者によって管理されている特定ユーザーの認証 / 集計管理に向いています。

プライベートプリントへの保存が設定されている場合、受信したプリントジョブは、認証用 User ID ごとに保存されます。

補足

- 認証ユーザーのUserIDにサブユーザーを関連づける機能を利用するには､別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- この項目は、［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］が、次のどちらかに設定されている場合に表示されます。
  - ［プリンターの認証に従う］を選択し、［認証成功のジョブ］を［プライベートプリントに保存］に設定
  - ［プライベートプリントに保存］を選択
- プライベートプリント機能を設定した場合、プリンタードライバーから通常のプリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリントは使用できなくなります。

参照

- プライベートプリントは、User ID 認証のほかに、カード認証（IC Card Gate のみ）や、カード認証と User ID 認証の併用でも使用できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 認証と集計管理機能について」>『認証機能と集計管理機能の概要』>「認証の種類について」を参照してください。
- 誤った User ID を付けたプリントジョブを削除する場合は、機械管理者で認証し、表示された一覧から削除する User ID を選択してください。詳しくは、『管理者ガイド』の「3 日常の管理」>「誤った User ID を付けたプライベートのプリントジョブを削除する」を参照してください。

User ID の設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。

プライベートプリントに保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

1 〈認証〉ボタンまたはタッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアを押します。

2 User ID を入力し、［確定］を押します。



補足

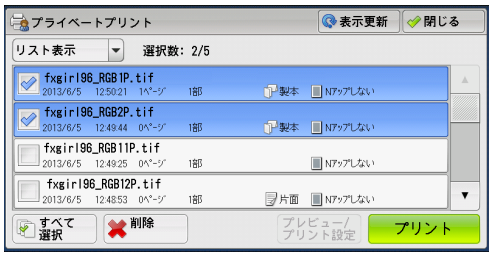
- パスワードを設定した場合は、User ID を入入力したあと［次へ］を選択し、パスワードを入力してから［確定］を押します。
- ユーザー認証されると、操作パネルの〈認証〉ボタンが点灯します。
- 認証状態からログアウトするには、操作パネルの〈認証〉ボタンを押します。タッチパネルディスプレイ右上の認証情報の表示エリアを押して、ポップアップメニューから［認証解除］を選択してもログアウトできます。

3 ［プライベートプリント］を押します。

補足

- 機械管理者で認証した場合は、User ID の一覧が表示されます。対象となるユーザーID を選択して、［文書確認 / プリント］を押すと文書一覧が表示されます。

4 プリント、または削除する文書を選択します。



補足

- 文書は、最大 100 件まで同時に選択し、プリントまたは削除の指示ができます。複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- 保存文書の一覧画面で、詳細情報を表示するかどうかを設定することができます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント文書一覧の詳細表示」を参照してください。
- 保存文書のリスト表示 / サムネール表示の切り替えやプレビュー表示ができます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。
- プリンタードライバーで製本を指定した場合、［製本］アイコンが表示されます。

5 任意の項目を選択します。

6 プリントするときは、〈数字〉ボタンで部数を入力します。

■全文書選択

すべての文書を選択できます。また、全文書選択を解除するには、もう一度ボタンを押します。

■削除

プライベートプリント文書を削除します。

補足
- すべての文書が削除されたユーザー ID は削除されます。

参照
- 詳しくは、「[削除] を選択した場合」(P.514) を参照してください。

■プレビュー

選択した文書のプレビュー画像を表示します。

補足
- 複数の文書を選択した場合、[プレビュー] ボタンを押すことはできません。

参照
- 詳しくは、「[プレビュー] を選択した場合」(P.515) を参照してください。

■プリント部数

プリントする部数を〈数字〉ボタンで入力します。

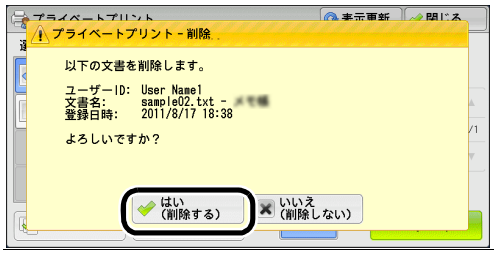
■プリント

プライベートプリント文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。

参照
- 詳しくは、「[プリント] を選択した場合」(P.516) を参照してください。

[削除] を選択した場合

1 [はい（削除する）] を押します。



■はい（削除する）

文書を削除します。

注記
- 削除した文書は、元に戻せません。

■いいえ（削除しない）

文書の削除を取り消します。

［プレビュー］を選択した場合

1 任意の項目を選択します。

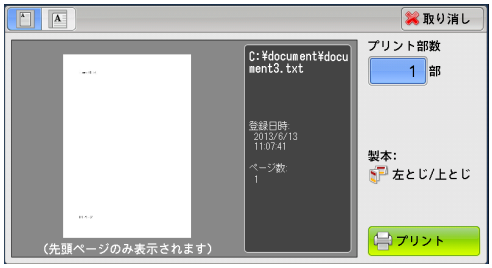
補足
- プライベートプリントでは、プレビュー画像を回転させることはできません。

■（ページビュー）

プレビュー画像を全体表示します。

ページビューでは、プレビューエリアの右側にファイル名、登録日時、ページ数、ホチキス、パンチの設定値が表示されます。

プレビュー画像をダブルタップすると拡大ビューに切り替わります。

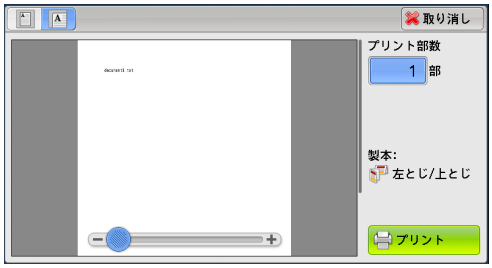


■（拡大ビュー）

プレビュー画像のサイズの拡大 / 縮小ができます。

拡大ビューでは、以下の操作ができます。

- プレビュー画像をドラッグまたはフリックすると表示位置の移動ができます。
- プレビュー画像をダブルタップすると画像サイズの拡大率を変更できます。
- スライダーをドラッグすると画像サイズの拡大率を変更できます。



■プリント部数

プリントする部数を指定します。

■両面プリント

片面、両面（短辺とじ）、両面（長辺とじ）が表示されます。

■製本

左とじ / 上とじ、右とじ / 下とじが表示されます。

補足
- プリンタードライバーで製本を指定した場合に表示されます。
- とじ方向が判明できない場合は、「製本」のみが表示されます。

■プリント

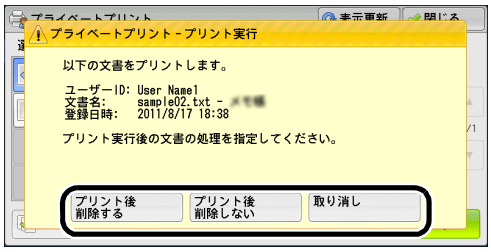
プライベートプリント文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。

参照

- 詳しくは、「[プリント] を選択した場合」(P.516) を参照してください。

[プリント] を選択した場合

1 プリントしたあとの文書の処理を選択します。



補足

- 機械管理者モードで [プリント時の確認画面表示] が [しない] に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「保存文書設定」>「プリント時の確認画面表示」を参照してください。

■プリント後削除する

文書のプリントを開始します。プリントしたあと、文書は削除されます。

■プリント後削除しない

文書のプリントを開始します。プリントしたあとも、文書はそのまま保存されています。

■取り消し

文書のプリントを取り消します。

ポーリング予約ボックス

本機内にデータを蓄積させ、相手先からの操作で送信できます。

ポーリング予約ボックスに保存されている文書のプリント、および削除方法について説明します。

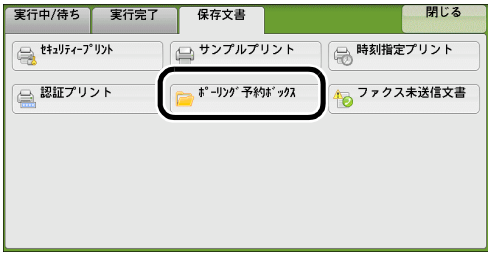
参照

- ポーリング予約の操作方法は、「ポーリング予約（相手先が取り出せるファクス文書を蓄積する）」(P.291) を参照してください。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［ポーリング予約ボックス］を押します。



2 プリント、または削除したい文書を選択します。



補足

- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 任意の項目を選択します。

■全文書選択

［全文書選択］を選択すると、すべての文書を選択できます。また、全文書選択を解除するには、再度ボタンを押します。

■削除

ポーリング予約ボックスに保存されている文書を削除します。

参照

- 詳しくは、「［削除］を選択した場合」(P.518) を参照してください。

■プリント実行

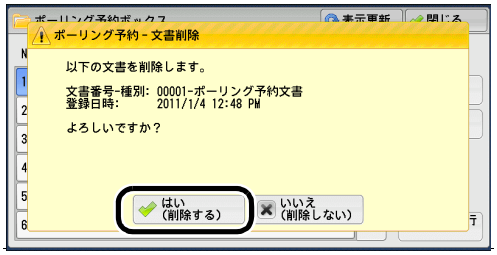
ポーリング予約ボックスに保存されている文書をプリントします。

参照

- 詳しくは、「［プリント実行］を選択した場合」(P.518) を参照してください。

［削除］を選択した場合

1 ［はい（削除する）］を押します。



■はい（削除する）

文書を削除します。

注記

- 削除した文書は、元に戻せません。

■いいえ（削除しない）

文書の削除を取り消します。

［プリント実行］を選択した場合

文書のプリントを開始します。

ファクス未送信文書

ファクスを送信して未送信となった文書の再送信、および削除方法について説明します。

補足

- 機械管理者モードの設定によっては、表示されないことがあります。
- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

1 ［ファクス未送信文書］を押します。

2 再送信または削除したい文書を選択します。



補足

- ［表示更新］を押すと、最新の情報が表示されます。
- ［▲］を押して前画面、［▼］を押して次画面を表示できます。
- ドラッグまたはフリック操作でリストをスクロールすると、表示する画面の切り替えができます。ドラッグまたはフリック操作については、「タッチパネルの使い方」(P.94) を参照してください。

3 任意の項目を選択します。

宛先を変更しないで再送信する場合は、〈スタート〉ボタンを押します。



■この文書を削除

ファクス未送信文書を削除します。

参照

- 詳しくは、「[この文書を削除] を選択した場合」(P.519) を参照してください。

■宛先変更して再送信

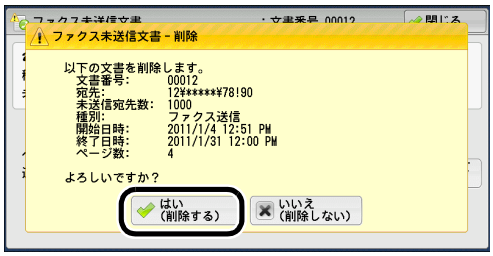
ファクス未送信文書の宛先を変更して再送信します。

参照

- 詳しくは、「[宛先変更して再送信] を選択した場合」(P.519) を参照してください。

[この文書を削除] を選択した場合

1 [はい（削除する）] を押します。



■はい（削除する）

ファクス未送信文書を削除します。

■いいえ（削除しない）

ファクス未送信文書の削除を取り消します。

[宛先変更して再送信] を選択した場合

ファクス未送信文書の宛先を指定します。

宛先以外に操作パネルから変更できる機能は、次のとおりです。

- ファクスの種類
- 通信モード

注記

- 宛先を変更した場合、発信元記録を付けるように設定していても発信元記録は付きません。

参照

- 宛先を指定する操作方法は、「Step3 宛先を指定する」(P.201) を参照してください。

プリント待ち / 操作待ちジョブを強制的にプリントする

本機では、操作パネルの最終操作後、［プリント起動］で設定されている時間が経過するまで、すぐにプリントをしないでプリント待ちになります。［プリント起動］の時間を待たないで、プリント待ちになっているジョブを強制的にプリントします。

また、〈ストップ〉ボタンによって一時中断され、操作待ちになっているジョブがある場合は、プリントを再開します。ジョブが複数ある場合は、一時停止したジョブのプリントが終了したあと、後続のジョブがプリントされます。

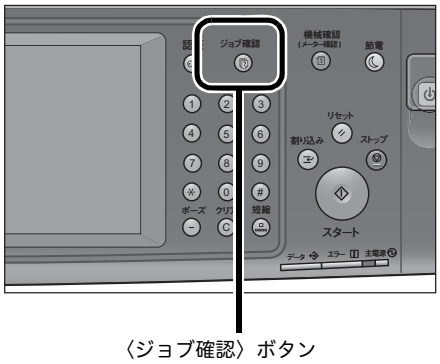
補足

- プリント待ち / 操作待ちのジョブがない場合は、［プリント待ちジョブを出力］は選択できません。

参照

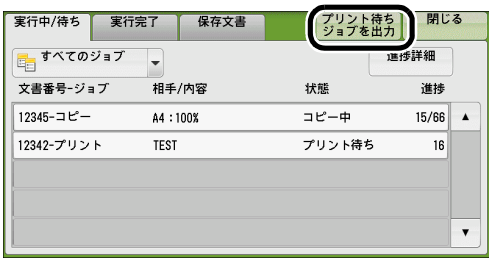
- プリント起動については、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「システム時計 / タイマー設定」>「プリント起動」を参照してください。

1 〈ジョブ確認〉ボタンを押します。



〈ジョブ確認〉ボタン

2 ［プリント待ちジョブを出力］を押します。



異常終了したときの処理方法

異常終了したときの処理方法について説明します。

■プリントジョブの場合

［実行完了］タブに表示された、異常終了のジョブを選択すると、エラーコードを確認できます。エラーコードに従って、対処してください。

プリント時に何らかのエラーが発生した場合、プリンターを止めて、ユーザーが確認するまで次のジョブ以降をプリントしない設定と、エラーのジョブをキャンセルして次のジョブをプリントさせる設定を選択できます。

参照

- 設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「プリンター設定」を参照してください。
- エラーコードについては、『管理者ガイド』の「15 トラブル対処」>「エラーコード」を参照してください。

■ファクスジョブの場合

未送信レポートがプリントされます。

参照

- 未送信レポートについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「自動的にプリントするレポート / リストについて」>「未送信レポート」を参照してください。また、未送信レポートを自動的にプリントするかどうかを設定する方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「未送信レポート」を参照してください。

■スキャンジョブの場合

未送信レポートがプリントされます。

参照

- 未送信レポートについては、『管理者ガイド』の「4 機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「自動的にプリントするレポート / リストについて」>「未送信レポート」を参照してください。また、未送信レポートを自動的にプリントするかどうかを設定する方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「転送モニターレポート」を参照してください。

■そのほかのジョブの場合

ジョブ履歴レポートをプリントして、実行結果を確認してください。

参照

- ジョブ履歴レポートについては、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「共通設定」>「レポート設定」>「ジョブ履歴レポート」を参照してください。
- 「未送信レポート」や「ジョブ履歴レポート」にエラーコードが表示されている場合は、『管理者ガイド』の「15 トラブル対処」>「エラーコード」を参照してください。

13 コンピューターからの操作

この章では、プリント、スキャン文書の取り込み、ダイレクトファクス、CentreWare Internet Services の操作など、コンピューターから行う操作について説明しています。

補足

- 本章で説明している機能は、お使いの機種によっては利用できません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 本章で使用しているコンピューターの画面イメージは、2014 年 9 月現在のものです。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウェアのバージョンアップによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。

- 機能の紹介 524
- プリント 525
- メールプリント 529
- ファクス送信 533
- スキャンデータの取り込み 542
- CentreWare Internet Services 552



機能の紹介

コンピューターから操作する機能の概要について説明します。

■プリント

コンピューターから本機にプリントします。

参照
- 詳しくは、「プリント」(P.525) を参照してください。

■メールプリント

コンピューターや携帯電話などから本機に、文書を添付したメールを送信したり、転送したりできます。受信したメールは、本機の設定に応じて自動的にプリントされます。

参照
- 詳しくは、「メールプリント」(P.529) を参照してください。

■ファクス送信

コンピューターから直接ファクス送信をします。

参照
- 詳しくは、「ファクス送信」(P.533) を参照してください。

■スキャンデータの取り込み

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込みます。

参照
- 詳しくは、「スキャンデータの取り込み」(P.542) を参照してください。

■CentreWare Internet Services

CentreWare Internet Services を使って、本機の状態やジョブ状態の表示、設定を変更できます。また、親展ボックスに保存されている文書の取り込みもできます。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services」(P.552) を参照してください。
- 親展ボックスに保存されているスキャンデータの取り込み方法は、「CentreWare Internet Services を利用して取り込む」(P.549) を参照してください。

最新ソフトウェアの入手方法について

プリンタードライバー、ファクスドライバー、ネットワークスキャナードライバー、ユーティリティーなどの、最新版のソフトウェアは、弊社公式サイトから入手できます。なお、通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

次の URL にアクセスして、ダウンロードしてください。

http://www.fujixerox.co.jp/download/index.html

プリント

コンピューターから操作して、本機でプリントする方法について説明します。

主なプリント機能について

本機の主なプリント機能について紹介します。

プリンタードライバーを使用したプリント

参照

- プリント機能については、プリンタードライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるプリンタードライバーのヘルプを参照してください。プリント方法は、「プリントする」(P.527) を参照してください。

補足

- ［プリンター構成］タブで、装着しているオプションの設定をしないと使用できない機能があります。使用できない機能は、グレー表示されて選択できません。

■まとめて 1 枚（N アップ）

1 枚の用紙に、複数のページを割り付けてプリントします。

■両面プリント

用紙の両面にプリントします。

■ポスター

1 ページ分のプリントデータを、複数枚の用紙に分割して指定したサイズに拡大してプリントします。大型ポスターなどを作成するときに使用します。

■製本

正しいページ順の冊子になるように、両面プリントとページ配分を組み合わせてプリントします。

■OHP 合紙

OHP フィルムを 1 枚プリントするごとに、自動的に用紙を挿入します。

■スタンプ

プリントデータに「社外秘」などの特定の文字を重ね合わせてプリントします。

■セキュリティープリント

プリントを指示したデータを一時的に本機内に蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。パスワードを設定できるので、機密文書などをプリントする場合に便利です。

参照

- 詳しくは、「セキュリティープリント」(P.496) を参照してください。

■サンプルプリント

複数の部数をプリントする場合、試しに 1 部だけプリントして内容を確認したあと、残りの部数を本機側からプリントできます。

参照

- 詳しくは、「サンプルプリント」(P.500) を参照してください。

■時刻指定プリント

プリントを指示したデータを一時的に本機内に蓄積させ、指定した時刻にプリントできます。

参照
- 詳しくは、「時刻指定プリント」(P.504) を参照してください。

■ボックス保存プリント

あらかじめ登録しておいた親展ボックスに、データを一時的に蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。

注記
- ボックス保存プリントのプリント結果は、ボックス保存プリント以外のプリント結果に比べ、画質が劣ることがあります。

参照
- 詳しくは、「親展ボックスの文書をプリントする」(P.429) を参照してください。

ダイレクトプリント

コンピューターから本機に TIFF 形式、PDF 形式、JPEG 形式、XPS 形式 (Microsoft XPS フォーマット、OpenXPS フォーマット)、XDW 形式 (DocuWorks 文書)、XBD 形式 (DocuWorks バインダー文書) のファイルをプリンタードライバーを使用せずにプリントできます。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。

参照
- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプの「プリント」>「プリント指示」を参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

メールプリント

コンピューターや携帯電話などから本機に、TIFF 形式、PDF 形式、JPEG (JFIF) 形式、XPS 形式 (Microsoft XPS フォーマット、OpenXPS フォーマット)、TXT 形式、XDW 形式 (DocuWorks 文書)、XBD 形式 (DocuWorks バインダー文書) の文書を添付したメールを送信したり、転送したりできます。本機が受信したメールは、自動的にプリントされます。

補足
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 本機が認証モードに設定されている場合は、自動的にプリントされません。
- TEXT 形式の一部の形式はプリントされません。

参照
- 詳しくは、「メールプリント」(P.529) を参照してください。

認証情報を使用したプリント

■認証プリント

認証プリントは、本機にユーザーを認証させることにより、不正なプリントをさせない機能です。認証されたユーザーのジョブだけを、プリントできます。また、本機の設定により、一時的に本機にプリントジョブを蓄積してから本機の操作でプリントできます。

Coinkit または Dispenser による不特定ユーザーのプリント課金に向いています。また、あらかじめ本機に認証用ユーザー ID とパスワードを登録しておくことによって、登録ユーザー以外はプリントできないようにすることもできます。

補足

- 自分の文書を自分以外の人に操作させたくない場合は、プリンタードライバーで蓄積用ユーザーIDに加えて、暗証番号も設定しておく必要があります。

参照

- 認証プリントの設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。プリント方法は、「認証プリント」(P.507) を参照してください。

■プライベートプリント

プリントを指示したデータを一時的に認証用ユーザー ID ごとに蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。必要な文書だけ選択してプリントできるため、無駄な出力を抑えることができます。また、認証されたユーザーの文書およびユーザーに関連づけられたサブユーザーの文書しか本機に表示されないため、プライバシーの保護を図ることができます。機械管理者によって管理されている特定ユーザーの認証 / 集計管理に向いています。

補足

- 無駄な文書を蓄積させたくない場合は、認証成功したジョブだけ蓄積するように設定する必要があります。
- 認証ユーザーの User ID にサブユーザーを関連づける機能を利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

参照

- プライベートプリントの設定方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「認証 / セキュリティ設定」>「認証の設定」>「認証 / プライベートプリントの設定」を参照してください。プリント方法は、「プライベートプリント」(P.512) を参照してください。

プリントするための準備をする

コンピューターからプリントするために、コンピューターにプリンタードライバーをインストールします。

参照

- プリンタードライバーのインストール方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。

補足

- 認証情報を使用したプリントをする場合は、お使いのコンピューターでプリンターを設定する必要があります。プリンターのプロパティ画面［プリンター構成］タブで、必要に応じて項目を設定します。詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

プリントする

プリントの手順について説明します。

プリントの手順はお使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳しくは、各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

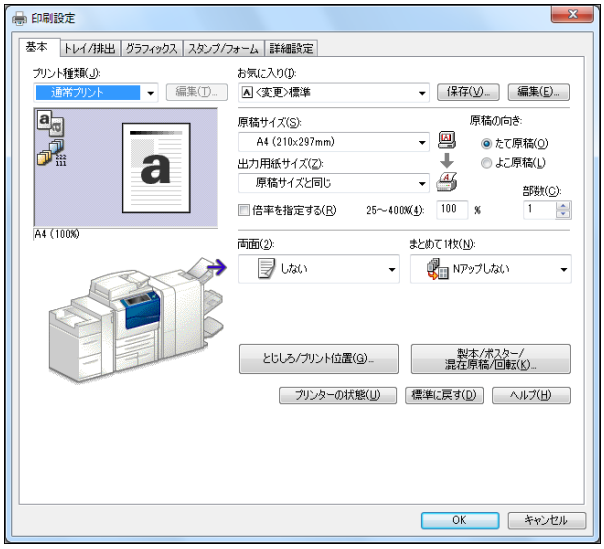
参照

- プリント機能については、プリンタードライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

1 アプリケーションソフトウェアの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。

2 プリンター名を確認し、必要に応じて［詳細設定］をクリックします。

3 必要に応じて、各項目を設定します。



補足

- ［プリント種類］で、プリント機能を変更できます。

4 ［OK］をクリックします。

5 ［印刷］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

補足

- ドキュメントモニターがインストールされ、本機をモニターするよう設定されている場合は、プリントが完了すると、完了通知画面が表示されます。ドキュメントモニターは、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っています。インストール方法については、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。
- 通知画面上には、どれくらい環境に配慮したプリントができたかが、リーフの数によって示されます。この情報は、［プリント種類］が［通常プリント］または［サンプル］の場合にのみ表示されます。

メールプリント

コンピューターや携帯電話などから本機に、文書を添付したメールを送信したり、転送したりできます。受信したメールは、本機の設定に応じて自動的にプリントされます。

この機能を「メールプリント」といいます。

補足

- 本機が認証モードに設定されている場合は、自動的にプリントされません。

メールプリントするための準備をする

メールプリント機能を使用するためには、次の設定が必要です。設定が済んでいるかどうか、システム管理者やネットワーク管理者に確認してください。

■メールアカウント登録

本機でメールプリントを使用するには、あらかじめメールアカウントを登録する必要があります。

■本機の設定

本機でメールプリントに必要な設定をします。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「8 メール機能の設定」を参照してください。

メールを受信する

ここでは、Microsoft® Outlook® 2007 を例に、本機がコンピューターからメールを受信する方法を説明します。

1 お使いのメールソフトウェアで本文を作成し、添付文書がある場合は添付します。

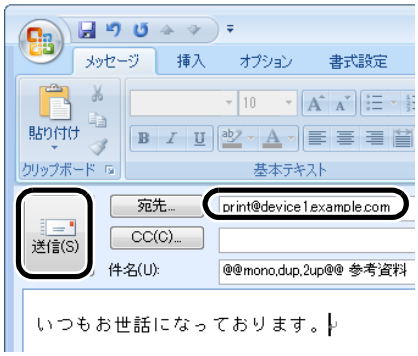
補足

- メール本文には、テキスト形式および HTML 形式を使用できます。HTML 形式の場合は、テキスト部分のみプリントされます。なお、HTML 形式でもテキスト部分が送信されない場合、本文はプリントされません。
- 添付ファイルの拡張子が「.tif」、「.tiff」、「.pdf」、「.jpeg」、「.jpg」、「.jpe」、「.jfif」、「.xps」、「.oxps」、「.xdw」、「.xbd」以外は、正しくプリントされないことがあります。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 添付ファイルの拡張子が「.txt」の場合は、Content-Type に「text/plain」が指定され、charset に「us-ascii」または「iso-2022-jp」が指定されている場合のみ、プリントされます。
- 添付ファイルの拡張子は、大文字 / 小文字の区別はされません。
- 31 文書まで添付できます。
  なお、本機でプリントできない形式の文書は、添付文書数にカウントされません。
- 本機がサポートする Web メールは次のとおりです。
  - Orangesoft xgate
  - beat モバイルメール
  - Yahoo Mail
  - Google Gmail

参照

- 本機がサポートするWebメールであっても、送信方法によっては正しくプリントされないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 トラブル対処」>「メールプリントのトラブル」を参照してください。

2 宛先に本機のメールアドレスを入力します。



3 メールを送信します。

メールを転送する

ここでは、Webメールを例に、コンピューターや携帯電話で受信したメールを本機に転送する方法を説明します。

1 携帯電話などからWebメールを転送指示します。添付文書がある場合はメール本文に添付します。

補足

- メール本文には、テキスト形式およびHTML形式を使用できます。HTML形式の場合は、テキスト部分のみプリントされます。なお、HTML形式でもテキスト部分が送信されない場合、本文はプリントされません。
- 添付ファイルの拡張子が「.tif」、「.tiff」、「.pdf」、「.jpeg」、「.jpg」、「.jpe」、「.jfif」、「.xps」、「.oxps」、「.xdw」、「.xbd」以外は、正しくプリントされないことがあります。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 添付ファイルの拡張子が「.txt」の場合は、Content-Typeに「text/plain」が指定され、charsetに「us-ascii」または「iso-2022-jp」が指定されている場合のみプリントされます。
- 添付ファイルの拡張子は、大文字/小文字の区別はされません。
- 31文書まで添付できます。
  なお、本機でプリントできない形式の文書は、添付文書数にカウントされません。
- 本機がサポートするWebメールは次のとおりです。
  - Orangesoft xgate
  - beatモバイルメール
  - Yahoo Mail
  - Google Gmail

参照

- 本機がサポートするWebメールであっても、転送方法によっては正しくプリントされないことがあります。詳しくは、『管理者ガイド』の「14 トラブル対処」>「メールプリントのトラブル」を参照してください。

2 転送先に本機のメールアドレスを入力します。

例：print@device1.example.com

3 メールを転送します。

ジョブ属性を指定してメールプリントする

コンピューターや携帯電話などから、本機にメールを送信または転送するときにジョブ属性を指定すると、カラーモードや用紙サイズなどを設定してメールプリントできます。

設定できるジョブ属性、項目、およびその指定方法は、次のとおりです。

ジョブ属性	指定できる項目	指定方法
カラーモード	モノクロ	mono
両面 / 片面	片面	simp
	両面（長辺とじ）	dup
	両面（短辺とじ）	tumble
N-up[*1] [*2]（まとめて一枚）	1 アップ[*3]	1up
	2 アップ	2up
	4 アップ	4up
用紙サイズ[*2]	A3	a3
	B4	b4
	A4	a4
	B5	b5
	レター（8.5 × 11"）	letter
	リーガル	legal

[*1] 添付文書の拡張子が「.pdf」の文書は、［PDF エミュレーション設定］の［プリント処理モード］を［PS］に設定している場合、N-up 指定は無効となります。1 アップ以外を指定しても 1 アップでプリントされます。

[*2] メールヘッダー、メール本文、および添付文書の拡張子が「.txt」の場合、指定は無効となります。

[*3] ［1アップ］を指定した場合は、出力サイズに印刷内容が収まるように、原稿を自動的に拡大縮小して印刷されます。

補足

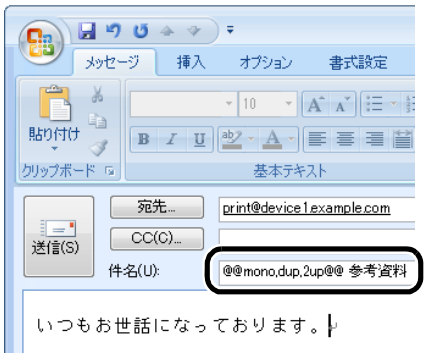
- 本文と添付文書のジョブ属性は、個別に設定できません。転送メールの場合、本文とその添付文書、転送メールの本文とその添付文書のジョブ属性を個別に設定できません。添付文書は本文の設定に従ってプリントされます。
- 原稿サイズと用紙サイズが異なる場合、添付ファイルの種類により、拡大縮小されるものとされないものがあります。

1 お使いのメールソフトウェアで本文を作成し、添付文書がある場合は添付します。

2 メールの件名の前に「@@ ジョブ属性 @@」と入力します。

ジョブ属性を複数指定する場合は、カンマ（,）で区切り、「@@ ジョブ属性（, ジョブ属性）(, ジョブ属性）@@」と入力します。

例）件名が「参考資料」で、モノクロ、両面（長辺とじ）、2 アップでプリントする場合



@@mono,dup,2up@@ 参考資料

補足

- ジョブ属性を指定するときに、大文字、小文字の区別はありません。
- ジョブ属性、カンマ（,）、およびアットマーク（@）は、半角で入力してください。

参照

- メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の［受信メールシートのプリント］でも設定できます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

3 メールの件名を確認し、送信します。

補足

- ジョブ属性を件名のあとに入力したり、本機がサポートしていないジョブ属性を指定したり、ジョブ属性を指定しないでメールを送信した場合、メール本文と添付文書は、次の設定でプリントされます。定義されたジョブ属性以外の文字列が指定された場合も、次の設定でプリントされます。
  - TIFF、または JPEG 形式の添付文書：CentreWare Internet Services の［エミュレーション設定］にある、［TIFF/JPEG］の［使用するメモリー設定］で設定されている論理プリンターの設定値。
  - PDF 形式の添付文書：［PDF エミュレーション設定］の設定値。ただし、［PDF エミュレーション設定］の［プリント処理モード］を［PS］に設定していて、CentreWare Internet Services の［エミュレーション設定］にある［PostScript3］のデフォルト論理プリンターを設定している場合は、論理プリンターの設定値が［PDF エミュレーション設定］の設定値に優先して適用されます。
  - XDW、または XBD 形式の添付文書：［DocuWorks プリント設定］で設定されている設定値。

ファクス送信

コンピューターから直接ファクスする方法について説明します。

ファクスドライバーをインストールすると、アプリケーションソフトウェアで作成した文書を、プリントする場合と同じ操作で、コンピューターから直接ファクス送信できます。この機能を「ダイレクトファクス」といいます。

補足

- この機能は、お使いの機種によっては表示されません。利用するにはオプションが必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

主なダイレクトファクス機能について

本機の主なダイレクトファクス機能について紹介します。

参照

- そのほかのダイレクトファクス機能については、［ヘルプ］をクリックして表示されるファクスドライバーのヘルプを参照してください。詳しくは、「ファクスを送信する」(P.534) を参照してください。

補足

- ［ファクス構成］タブで、装着しているオプションの設定を行わないと使用できない機能があります。使用できない機能は、グレー表示されて選択できません。

■宛先を指定する

宛先を指定します。指定方法は 3 種類あり、組み合わせて複数の宛先を指定することもできます。

- ファクス番号を入力する
- 短縮宛先番号を指定する

  短縮宛先番号は、本機の操作パネル、または CentreWare Internet Services を使って登録 / 変更できます。
- 宛先表を使って指定する

  宛先表ツールは、付属のメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）からコンピューターにソフトウェアをインストールして、宛先を登録します。

参照

- 操作パネルを使用した登録 / 変更方法は、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。
- CentreWare Internet Services を使用した登録 / 変更方法は、「宛先を登録する」(P.536) を参照してください。
- 宛先表ツールのインストール方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。

■送信シートを付ける

送信する原稿の先頭に表紙（送信シート）を付けることができます。送信シートには、標準フォームのほかに、任意に作成したフォームを指定できます。

ダイレクトファクスするための準備

ダイレクトファクス機能を使用するために、コンピューターにファクスドライバーをインストールします。

参照

- ファクスドライバーのインストール方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。

補足

- 認証情報を使用したプリントをする場合は、お使いのコンピューターでプリンターを設定する必要があります。プリンターのプロパティ画面 [プリンター構成] タブで、必要に応じて項目を設定します。詳しくは、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ファクスを送信する

ここでは、Windows 7 のワードパッドを例に、ダイレクトファクスの送信手順について説明します。

ダイレクトファクス送信の手順は、お使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳しくは、各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

補足

- ファクス宛先表ツールを利用する場合は、Ver.6.0.0 以降をご利用ください。
  IP ファクス（SIP）の宛先に対応しています。

参照

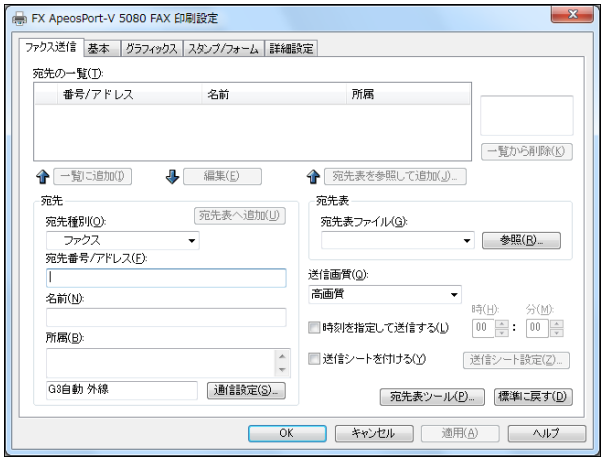
- ダイレクトファクス機能を使用するには、コンピューターにファクスドライバーをインストールする必要があります。詳しくは、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。
- ダイレクトファクス機能については、ファクスドライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるヘルプを参照してください。

1 アプリケーションソフトウェアの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。

2 ［プリンター名］から、使用するファクス用プリンターを選択します。

3 ［詳細設定］をクリックします。

4 ［ファクス送信］タブで、［宛先種別］を選択し、宛先を指定します。



補足

- 宛先表を使って指定する場合は、［宛先種別］の選択は不要です。宛先表に登録された宛先種別に設定されます。
- G3 増設ポートキット 2（オプション）を装着し、本機の仕様設定の［内線設定］で内線に使用する回線を選択している場合は、［通信設定］をクリックして表示される画面で［内線 / 外線］のドロップダウンリストから、［外線］または［内線］を選択すると、外線または内線の専用ポートが割り当てられます。
  詳しくは、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。
- プロパティ画面の［初期設定］タブで［ファクス宛先の再入力］を［する］に設定した場合には、［ファクス送信］タブでファクス番号を入力して［一覧に追加］をクリックしたあとに、［ファクス宛先の再入力］ダイアログボックスが表示されます。この場合、送信先に指定した宛先をもう一度入力してください。
- 問題が発生するとエラーメッセージが表示されますので、メッセージに従って対処してください。

5 必要に応じて、各項目を設定します。

6 ［OK］をクリックします。

7 ［印刷］ダイアログボックスで、［OK］をクリックします。

8 ［ファクス送信の設定 / 確認］ダイアログボックスで内容を確認し、［送信開始］をクリックします。

宛先を指定する

プロパティ画面の［ファクス送信］タブや、［ファクス送信の設定 / 確認］ダイアログボックスでは、次の方法で宛先を指定できます。

- ファクス番号を入力する
- 短縮宛先番号を指定する
- 宛先表を使って指定する

また、上記の方法を組み合わせて、複数の宛先（200 件までで、短縮宛先番号のワイルドカード（*）を使った指定を含めた宛先数は、最大で 600 宛先まで）を指定することもできます。

［送信シート］ダイアログボックスで［複数宛先のとき、同じ送信シートを使う］のチェックを外して指示をすると、宛先数によっては、途中で複合機の［ジョブ確認］

画面に表示される実行中 / 実行待ちのジョブ数が 114 件に達し、複合機がジョブを受け付けないことがあります。

補足

- プロパティ画面の［初期設定］タブで、［宛先の指定方法］を［短縮番号のみ］または［宛先表参照のみ］に設定した場合には、ファクス番号を入力する方法で宛先を指定できません。この場合は、短縮宛先番号または宛先表を使う方法のどちらかで指定します。また、同報送信時の誤送信を防止するために［同報送信の制限］を［する］に設定した場合、複数の宛先を指定できません。

参照

- 以前に入力したファクス番号は、最大 10 件まで入力ボックスに表示されます。宛先の指定方法は、ファクスドライバー画面の［ヘルプ］をクリックして表示されるヘルプを参照してください。

宛先を登録する

本機に登録されている宛先を、コンピューターを介して、ほかの ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N に一括で登録する方法について説明します。

ほかの ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N から本機に登録する方法も同様です。

登録には、CentreWare Internet Services を使用します。

参照

- CentreWare Internet Services については、『管理者ガイド』の「6 CentreWare Internet Services の設定」>「CentreWare Internet Services を使って設定する」を参照してください。
- 操作パネルを使用すると個別に宛先を登録できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「宛先表登録（短縮宛先登録）」を参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services には、複数のユーザーが同時にアクセスできるため、管理者 / パスワードを設定していないと、登録データを上書きされる可能性があります。管理者 / パスワードを設定し、編集は管理者が行うことをお勧めします。
- 本機操作パネルからの短縮宛先登録と同時に設定しないでください。
- 登録先の宛先と登録番号が同じ宛先は、上書きされます。
- CentreWare Internet Servicesを使用して取り出したCSVフォーマットのファイル（宛先表のデータ）は、編集用ソフトウェアによるデータの編集 / 変更を意図した仕様ではありません。編集 / 変更した場合は、本機に登録することができなくなります。CSV フォーマットのファイル（宛先表のデータ）を Excel などのソフトウェアを使用して編集 / 変更しないでください。

補足

- ファクスドライバーから指定したファクス番号を、宛先表に登録できます。宛先表のデータを登録または編集して、ファクスドライバーから宛先を参照する場合は、宛先表ツールをご使用ください。
- 本機以外で作成した CSV フォーマットのファイル（宛先表のデータ）を、CentreWare Internet Services を使って本機の宛先表に取り込むことができます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
  CSV フォーマットのファイルのバージョンや、機種によっては、本機の宛先表に取り込めない場合があります。
- CentreWare Internet Servicesから、宛先表作成用に用意されたCSVフォーマットのファイルをダウンロードして、コンピューターで宛先表の情報を登録できます。また、コンピューターで作成した宛先表のデータ（CSV フォーマットのファイル）は、CentreWare Internet Services を使用して、本機に一括で登録できます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

1 コンピューターを起動し、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせた「URL」を使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、「URL」は「myhost.example.com」となります。
- 入力する IP アドレス、インターネットアドレスについては、機械管理者に確認してください。
- ポート番号を指定する場合には、アドレスのあとに、「:」に続けて「80」（工場出荷時のポート番号）を指定してください。
- 本機で、認証機能を使用している場合、［ユーザー名］と［パスワード］に User ID とパスワードを入力してください。User ID とパスワードについては、機械管理者に確認してください。
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

3 ［プロパティ］タブをクリックし、表示された画面の左側フレームから、［サービス設定］＞［メール］＞［宛先表］をクリックします。



4 ［データのエクスポート（一括取り出し）］の［エクスポートする］をクリックします。

5 ［ファイルのダウンロードセキュリティ警告］ダイアログボックスで、［保存］をクリックします。

6 ファイルの保存先を指定して、ファイルを保存します。

7 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、宛先を登録したいほかの ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N、DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

8 ［プロパティ］タブをクリックし、表示された画面の左側フレームから、［宛先表］をクリックします。

補足
- ［宛先表］タブの［登録用テンプレートの取り出し］、［記入例付きテンプレートの取り出し］からダウンロードした CSV ファイルを使って作成した宛先表ファイルを、［宛先表］タブまたは［プロパティ］タブの［データのインポート］で読み込むことはできません。［宛先表］タブの［テンプレートによる新規登録］から読み込んでください。

9 ［データのインポート（一括登録）］の［参照］ボタンをクリックして、手順 6 で保存したファイルを指定します。

10 ［インポートする］ボタンをクリックします。

注記
- 読み込めるデータは、ファクスの宛先だけです。インターネットファクス /IP ファクス（SIP）/ メール / サーバーのデータは読み込めません。

ファクス宛先表ツールを利用する

同じ相手に頻繁にファクスを送る場合などは、ファクス宛先表ツールを使用すると便利です。あらかじめ宛先表に宛先を登録しておくと、送信時に宛先表から宛先を選択するだけで、送信の準備ができます。

ファクス宛先表ツールのインストールについて

ファクス宛先表ツールは、同梱されているメディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）からコンピューターにインストールして使用します。

参照
- インストール方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っているマニュアルを参照してください。

ファクス宛先表ツールの起動

ファクス宛先表ツールを起動するには、コンピューター側で次の操作を行います。

1 ［スタート］メニューをクリックし、［プログラム］>［Fuji Xerox］>［ユーティリティ］>［ファクス宛先表ツール］>［ファクス宛先表ツール］の順にクリックします。

ファクス宛先表ツールの機能概要

ファクス宛先表ツールには、次のような機能があります。

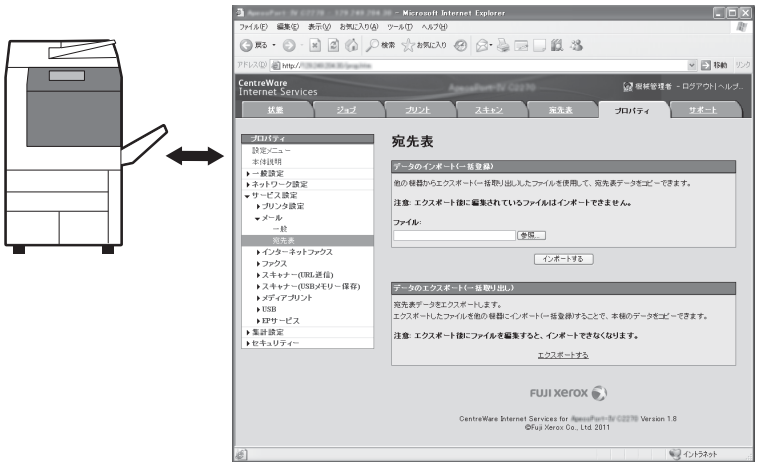
- 1 つの宛先表ファイルに 2000 件まで、宛先を登録できます。また、複数の宛先表ファイルを作成できます。必要に応じて任意の宛先表を読み込んで使用します。
- 同一原稿を一度に送信することが多い宛先をまとめて、1 つの宛先グループに登録できます。

補足
- すでに作成した宛先表に宛先を追加する場合は、［ファクス宛先表ツール - 新規ファイル］ダイアログボックスの［ファイル］メニューの［宛先表を開く ...］をクリックして、表示する宛先表ファイル（拡張子が「.fxt」のファイル）を選択してください。

参照
- 操作方法は、宛先表ツールのヘルプを参照してください。

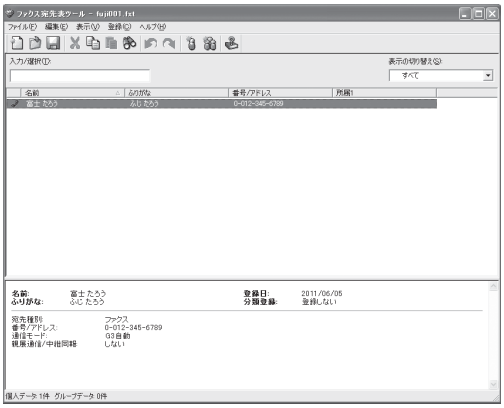
また、CentreWare Internet Services を使用して、本機に登録されている短縮宛先情報を取り込み、宛先表に登録できます。

CentreWare Internet Services画面



取り込んだ
データを読み込み

ファクス宛先表ツール画面



操作方法は、次のとおりです。

1 コンピューターを起動し、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせた「URL」を使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、「URL」は「myhost.example.com」となります。
- 入力する IP アドレス、インターネットアドレスについては、機械管理者に確認してください。
- ポート番号を指定する場合には、アドレスのあとに、「:」に続けて「80」（工場出荷時のポート番号）を指定してください。
- 本機で、認証機能を使用している場合、［ユーザー名］と［パスワード］に User ID とパスワードを入力してください。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

3 ［プロパティ］タブをクリックし、表示された画面の左側フレームから、［サービス設定］＞［メール］＞［宛先表］をクリックします。



4 ［データのエクスポート（一括取り出し）］の［エクスポートする］をクリックします。

5 ［ファイルのダウンロードセキュリティ警告］ダイアログボックスで、［保存］をクリックします。

6 ファイルの保存先を指定して、ファイルを保存します。

7 宛先表ツールを起動します。

8 ［ファイル］メニューから、［読み込み］＞［Internet Services 宛先表 CSV ファイル］を選択し、手順 6 で保存したファイルを指定します。

送信シートを付けて送信する

送信する原稿の先頭に表紙（送信シート）を付けることができます。送信シートには、標準フォームのほかに、任意に作成したフォームを指定できます。

任意のフォームを使用する場合は、あらかじめアプリケーションソフトウェアでフォームデータファイルの原稿を作成し、そのあとプリンタードライバーを使って登録しておく必要があります。

アプリケーションソフトウェアでフォームデータファイルを作成する場合は、宛先や所属情報の印字位置に注意して、重ならないように作成してください。

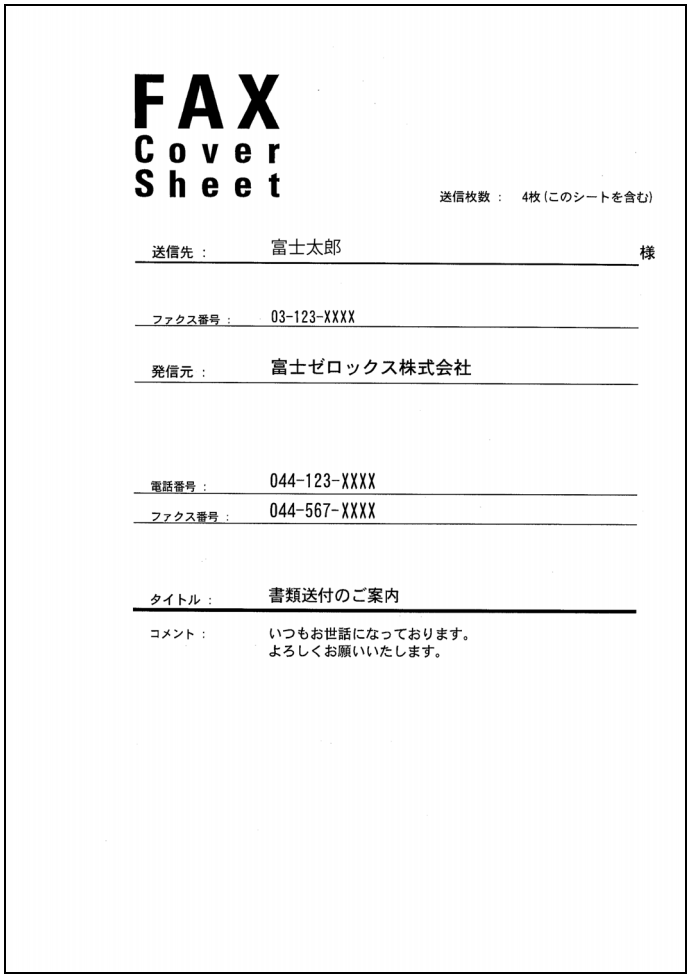
注記

- コンピューターから直接ファクスを送信するときに添付できる送信シートと、本機での設定によって添付できる送信シートは異なります。本機で添付する送信シートは、「送信シート（表紙を付けて送信する）」(P.271) を参照してください。

参照

- 送信方法、送信シートについては、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。

■標準の送信シートのプリント例



FAX
Cover
Sheet

送信枚数 ： 4枚 (このシートを含む)

送信先 ： 富士太郎 様

ファクス番号 ： 03-123-XXXX

発信元 ： 富士ゼロックス株式会社

電話番号 ： 044-123-XXXX

ファクス番号 ： 044-567-XXXX

タイトル ： 書類送付のご案内

コメント ： いつもお世話になっております。
よろしくお願いいたします。

スキャンデータの取り込み

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込むには、次の3つの方法があります。それぞれの手順について説明します。

TWAIN 対応アプリケーションから取り込む.....542
親展ボックスビューワー 3 から取り込む 545
CentreWare Internet Services を利用して取り込む.....549

TWAIN 対応アプリケーションから取り込む

本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、アプリケーションソフトウェアに取り込む方法について説明します。

蓄積文書の取り込みには、ネットワークスキャナードライバーを使用します。

ネットワークスキャナードライバーは、ネットワークを介して、本機の親展ボックスに蓄積されている文書（スキャンデータ）をコンピューター上のアプリケーションソフトウェアに取り込むためのソフトウェアです。

ネットワークスキャナードライバーを使用するためには、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

補足

- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使って、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をインストールします。
- セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合、Ethernet2 の IP アドレスを指定しても、「ネットワークスキャナユーティリティ 3」は動作しません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「プロトコル設定」>「TCP/IP 設定（Ethernet2）」を参照してください。

参照

- 親展ボックスの文書を取り込むには、ポートの起動など、あらかじめ設定しておく項目があります。詳しくは、『管理者ガイド』の「9 スキャン機能の設定」>「スキャナー（ボックス保存）の設定」を参照してください。また、アプリケーション側の操作方法は、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。
- ネットワークスキャナードライバーのインストール方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っている「Readme」ファイルを参照してください。
- 表示されるダイアログボックスの項目は、[ヘルプ] をクリックして表示されるネットワークスキャナードライバーのヘルプを参照してください。

1 文書を取り込むアプリケーションソフトウェアを起動します。

注記

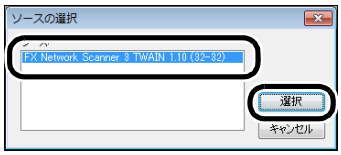
- アプリケーションソフトウェアは、TWAIN に対応している必要があります。TWAIN とは、スキャナーなどの入力装置向けの規格です。

補足

- アプリケーションソフトウェアを使用するときの注意制限事項は、ネットワークスキャナユーティリティ 3 の「Readme」ファイルを参照してください。

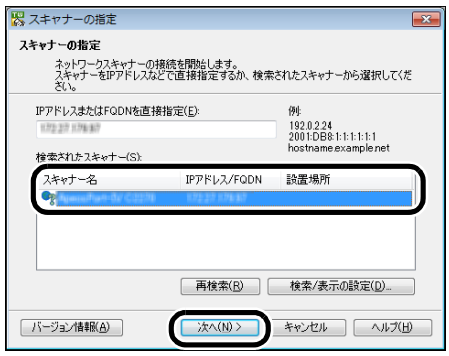
2 ［ファイル］メニューから、スキャナー（ソース）を選択するコマンドを選択します。

3 ［FX Network Scanner 3 TWAIN］を選択し、［選択］ボタンをクリックします。



4 ［ファイル］メニューから、スキャナーから画像を取り込むコマンドを選択します。

5 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックし、［次へ］ボタンをクリックします。



補足

- 何も表示されない場合は、［再検索］ボタンをクリックしてください。スキャナーの再検索を行います。
- スキャナー名の表示方法は、［検索 / 表示の設定］ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで変更できます。詳しくは「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.544)を参照してください。
- 自動的にスキャナー名が表示されるのは、同一ネットワーク内にあるスキャナーだけです。ほかのネットワークにあるスキャナーを表示するには、［検索 / 表示の設定］ボタンをクリックして、IPアドレスとスキャナー名を登録してください。詳しくは、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.544) を参照してください。

6 ［ボックス番号］に取り込む文書が蓄積されている親展ボックス番号（001 ～ 200 の半角数字）と、［パスワード］にパスワード（20 桁以内の半角数字）を入力します。



補足

- ［登録済みのボックス］に表示されたボックス番号を選択できます。
- ［スキャナー選択画面へ］ボタンをクリックすると、手順 5 の画面に戻り、スキャナーの再選択ができます。

7 ［決定］ボタンをクリックします。

8 リストから取り込む文書を選択し、［取り込み］をクリックします。



補足

- 複数の文書を選択して取り込むことができます。
- ［取り込み］［最新の情報に更新］［削除］は、リスト上で右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

文書の取り込みが開始すると、親展ボックスからスキャンデータがコンピューターに転送されます。

転送が終了すると、文書がアプリケーションソフトウェアに取り込まれ、親展ボックス内の文書が削除されます。

補足

- ページ単位で取り込みした場合で取り込まれていないページのある文書は、リスト内のその文書の先頭に、取り込み途中を示すアイコンが表示されます。
- DocuWorks を除くほとんどのアプリケーションソフトウェアの場合、ネットワークスキャナードライバーは、圧縮データを伸長し、BMP フォーマットでアプリケーションソフトウェアに渡します。DocuWorks の場合は、伸長処理を行わず、データをそのままアプリケーションソフトウェアに渡すため、データの転送に時間がかかりません。
- 転送後、親展ボックス内の文書を削除しないように設定できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「登録 / 変更」>「ボックス登録」を参照してください。

ネットワークスキャナードライバーの設定変更

参照

- 表示されるダイアログボックスの項目は、［ヘルプ］をクリックして表示されるネットワークスキャナードライバーのヘルプを参照してください。

■スキャナー名の表示方法を設定する

スキャナーを選択するときに、リストに表示されるスキャナー名の表示方法を変更できます。

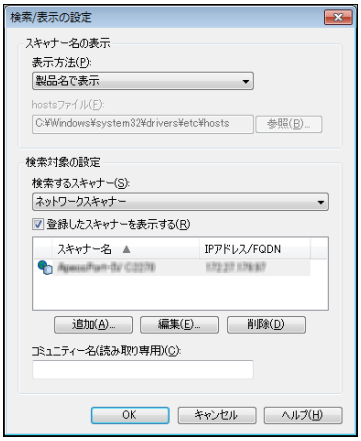
スキャナー名の表示方法は、スキャナーを選択するダイアログボックスで、［検索 / 表示の設定］ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで設定します。

［スキャナー名の表示］で［検索するスキャナー］に表示するスキャナー名の表示方法を変更できます。

［検索対象の設定］で検索対象とするスキャナーを指定します。

補足

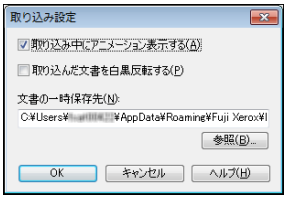
- ［追加］ボタンをクリックしてスキャナーを登録すると、異なるサブネットワークにあるスキャナーを表示できます。



■スキャンした文書の取り込み方法を設定する

親展ボックスの文書を取り込むときの文書の表示方法や取り込み方法を変更できます。

取り込み方法は、取り込む文書を選択するダイアログボックスで、［ファイル］メニューから［取り込み設定］を選択して表示されるダイアログボックスで設定します。



親展ボックスビューワー 3 から取り込む

本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、親展ボックスビューワー 3 からコンピューターに取り込む方法について説明します。

親展ボックスビューワー 3 を使用すると、アプリケーションを介さずに、本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、コンピューターに取り込めます。

親展ボックスビューワー 3 を使用するためには、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

補足

- メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）を使って、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をインストールします。
- セカンダリーイーサネット（オプション）を装着している場合、Ethernet2 の IP アドレスを指定しても、「ネットワークスキャナユーティリティ 3」は動作しません。詳しくは、『管理者ガイド』の「5 仕様設定」>「ネットワーク設定」>「プロトコル設定」>「TCP/IP 設定（Ethernet2）」を参照してください。

参照

- 親展ボックスの文書を取り込むには、ポートの起動など、あらかじめ設定しておく項目があります。詳しくは、『管理者ガイド』の「9 スキャン機能の設定」>「スキャナー（ボックス保存）の設定」

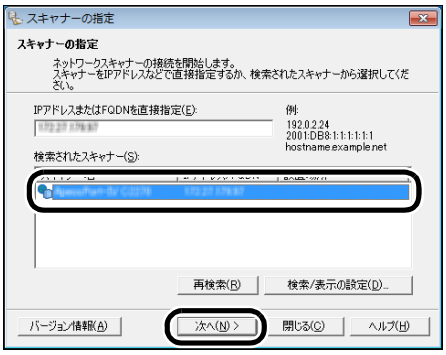
を参照してください。また、アプリケーション側の操作方法は、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

- ネットワークスキャナユーティリティ 3 のインストール方法は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）に入っている「Readme」ファイルを参照してください。
- 表示されるダイアログボックスの項目は、[ヘルプ] をクリックして表示される親展ボックスビューワー 3 のヘルプを参照してください。

1 [スタート] メニューをクリックし、[プログラム] > [Fuji Xerox] > [ネットワークスキャナユーティリティ 3] > [親展ボックスビューワー3] の順にクリックします。

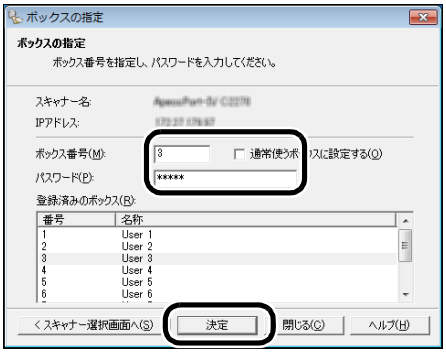
補足
- インストール時にディレクトリーを変更した場合は、そのディレクトリーを指定してください。

2 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックし、[次へ] ボタンをクリックします。



補足
- 何も表示されない場合は、[再検索] ボタンをクリックしてください。スキャナーの再検索を行います。
- スキャナー名の表示方法は、[検索 / 表示の設定] ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで変更できます。詳しくは、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.547) を参照してください。
- 自動的にスキャナー名が表示されるのは、同一ネットワーク内に本機が接続されている場合だけです。ほかのネットワークにある本機を表示するには、[検索 / 表示の設定] ボタンをクリックして、IP アドレスとスキャナー名を登録してください。詳しくは、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.547) を参照してください。

3 [ボックス番号] に取り込む文書が蓄積されている親展ボックス番号（001 ～ 200 の半角数字）と、[パスワード] にパスワード（20 桁以内の半角数字）を入力します。



補足
- [登録済みのボックス] に表示された親展ボックス番号を選択できます。
- [スキャナー選択画面へ] ボタンをクリックすると、手順 2 の画面に戻り、スキャナーの再選択ができます。

4 ［決定］ボタンをクリックします。

5 リストから取り込む文書を選択します。選択した文書をコンピューターに取り込むには、次の方法があります。

■[取り込み] をクリックして取り込む

［取り込み］をクリックします。

文書が取り出され、指定した保存先に保存されます。



補足

- 複数の文書を選択して取り込むことができます。
- 取り込み方法の設定で、［文書の保存］が［毎回保存先を指定する］に設定されていると、保存先を設定するダイアログボックスが表示されます。文書の保存先を設定して［OK］ボタンをクリックします。
  ［文書の保存］が［保存先を固定する］に設定されていると、［文書の保存先］で指定されている場所に保存されます。
  取り込み方法の設定は、「スキャンした文書の取り込み方法を設定する」(P.548) を参照してください。

■ドラッグ & ドロップで取り込む

デスクトップなどの保存先にドラッグ & ドロップします。

ドロップした文書は親展ボックス内に残ります。

補足

- コピー＆ペーストで取り込むこともできます。ペーストした文書は親展ボックス内に残ります。
- 親展ボックス内の文書を削除するには、ツールバーの［削除］ボタンをクリックします。

親展ボックスビューワー 3 の設定変更

参照

- 表示されるダイアログボックスの項目は、［ヘルプ］ボタンをクリックして表示される親展ボックスビューワー 3 のヘルプを参照してください。

■スキャナー名の表示方法を設定する

スキャナーを選択するときに、リストに表示されるスキャナー名の表示方法を変更できます。

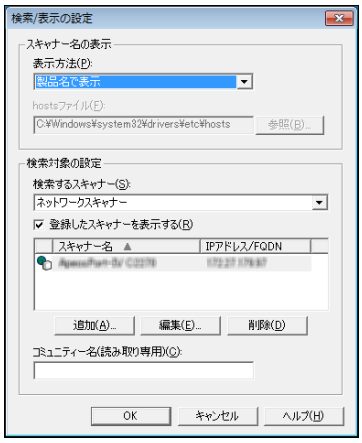
スキャナー名の表示方法は、スキャナーを選択するダイアログボックスで、［検索 / 表示の設定］ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスで設定します。

［スキャナー名の表示］で［検索するスキャナー］に表示するスキャナー名の表示方法を変更できます。

［検索対象の設定］で検索対象とするスキャナーを指定します。

補足

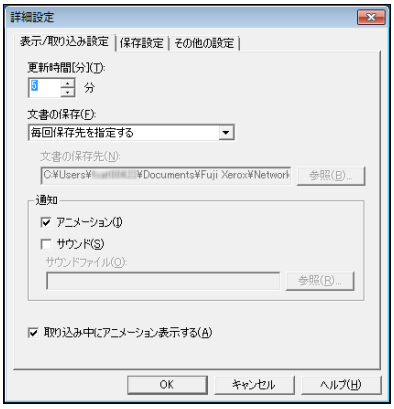
- ［追加］ボタンをクリックしてスキャナーを登録すると、異なるサブネットワークにあるスキャナーを表示できます。

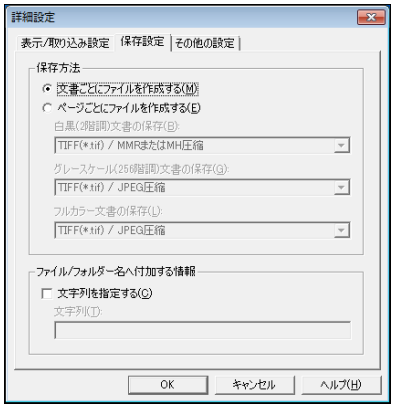


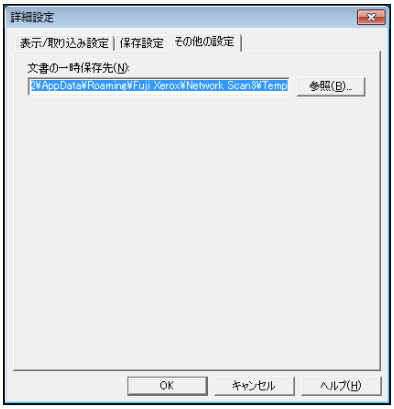
■スキャンした文書の取り込み方法を設定する

親展ボックスの文書を取り込むときの文書の表示方法や取り込んだ文書の保存先を変更できます。

取り込み方法は、取り込む文書を選択するダイアログボックスで、［ファイル］メニューから［詳細設定］を選択して表示されるダイアログボックスで設定します。







CentreWare Internet Services を利用して取り込む

本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、CentreWare Internet Services を使用して取り込む方法について説明します。

CentreWare Internet Services は、TCP/IP 環境が利用できる場合、お使いのコンピューターから Web ブラウザーを介して本機にアクセスし、本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、コンピューターに取り込むことができます。Web ブラウザーを利用するので、Macintosh からもスキャン文書を取り出せます。

補足

- 親展ボックス内の文書を取り出す場合、DocuWorks、PDF のファイル形式で取り出すことはできますが、取り出すときに、DocuWorks、PDF ファイルを暗号化、または署名することはできません。

参照

- CentreWare Internet Services の概要については、「CentreWare Internet Services」(P.552) を参照してください。
- 操作については、上部フレームの［ヘルプ］ボタンをクリックして表示されるヘルプを参照してください。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

1 コンピューターを起動し、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- 入力する IP アドレス、インターネットアドレスについては、機械管理者に確認してください。
- ポート番号を指定する場合には、アドレスのあとに、「:」に続けて「8080」のように指定してください。
- 本機で、認証機能を使用している場合、［ユーザー名］と［パスワード］に User ID とパスワードを入力してください。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

3 ［スキャン］タブの［ボックス］をクリックします。



4 取り込む文書が蓄積されている親展ボックスの［文書の一覧表示］ボタンをクリックします。

補足

- パスワードを設定している場合は、［パスワード］にパスワード（20 桁以内の半角数字）を入力します。

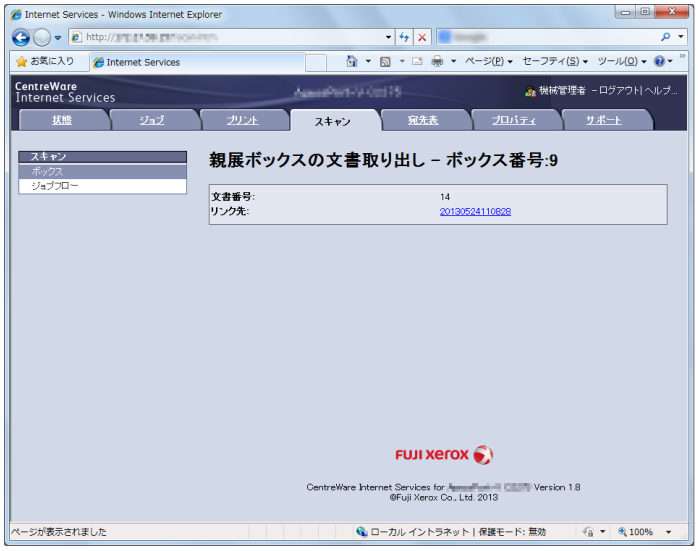
5 取り込む文書にチェックを付け、任意の項目を選択して、［文書取り出し］ボタンをクリックします。



補足

- 親展ボックス内の文書をPDFファイル形式で取り出すときに、Web表示用に最適化することはできません。

6 取り込む文書名をクリックします。



注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

7 ［保存］をクリックします。



CentreWare Internet Services

CentreWare Internet Services は、TCP/IP 環境が使用できる場合に、Web ブラウザーを介して、本機の状態やジョブ状態の表示、設定を変更するためのサービスです。また、親展ボックスに保存されている文書の取り込みもできます。

参照

- 文書の取り込み方法は、「CentreWare Internet Services を利用して取り込む」(P.549) を参照してください。
- CentreWare Internet Services の設定は、『管理者ガイド』の「6 CentreWare Internet Services の設定」を参照してください。

CentreWare Internet Services の画面構成

「CentreWare Internet Services」の画面は、5 つのフレーム（分割された画面）から構成されています。

使う機能のカテゴリー（状態、ジョブ、プリント、スキャン、宛先表、プロパティ、サポート）に合わせて、各フレームの表示情報が切り替わります。

補足

- 上部フレームの［ヘルプ］をクリックすると、ヘルプが表示され、CentreWare Internet Services についての説明を見ることができます。

注記

- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。



■上部フレーム

本機の機種名、ヘルプへのリンク、ユーザー情報が表示されます。また、各カテゴリに移動するためのタブ（リンク）も表示されます。

認証機能を使用している場合に認証ユーザーでログインしたときや、機械管理者でログインしたときは、ユーザー情報の右横に［ログアウト］が表示されます。

［ログアウト］をクリックすると、認証を解除、または機械管理者からログアウトできます。

参照
- CentreWare Internet Services の各機能については、このフレームの［ヘルプ］をクリックして表示されるヘルプを参照してください。

注記
- CentreWare Internet Services のヘルプを表示するには、インターネットに接続できる環境が必要です。通信費用はお客様の負担になりますのでご了承ください。

■左側上部フレーム

選択したカテゴリーのメニューツリー（設定項目の一覧）が表示されます。メニューツリーで選択した項目に応じて、右側上部フレームの画面が切り替わります。

［プリント］タブおよび［サポート］タブでは、メニューツリーは表示されず、本機の情報や状態、［表示更新］ボタンが表示されます。［表示更新］ボタンをクリックすると、表示されている情報を更新できます。

■右側上部フレーム

カテゴリータブまたは左側上部フレームに表示されるメニューツリーで選択した項目の情報や設定を表示、または編集する画面が表示されます。

■左側下部フレーム

本機の情報や状態、および［表示更新］ボタンが表示されます。［表示更新］ボタンをクリックすると、表示されている情報を更新できます。

■右側下部フレーム

弊社のロゴマークと CentreWare Internet Services のバージョンが表示されます。ロゴマークをクリックすると、弊社公式サイトが表示されます。

CentreWare Internet Services で使用できる主な機能は、次のとおりです。

タブ名	主な機能
状態	• 本機の状態の表示 用紙トレイ・排出トレイの状態、およびトナーなど消耗品の状態を表示します。 • カウンター表示 サービスごとに利用したページ数や回数の合計を表示します。 • 稼動状況別の累積時間 出力や読み取りの稼動時間、待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、ウオームアップ時間、電源オフ時間の累積時間を分単位で表示されます。
ジョブ	• ジョブ一覧およびジョブの削除、ジョブ履歴およびエラー履歴の表示
プリント	• プリント指示 コンピューターに保存されているファイルを指定してプリントできます。
スキャン	• ボックス 親展ボックスを登録または設定します。 親展ボックスに保存された文書を削除したり、コンピュータに取り込んだりします。 • ジョブフロー ジョブフローを登録または設定します。
宛先表	• 宛先の追加、編集、削除 • 宛先表 一覧表示、宛先表データの一括削除、宛先表へのアクセス制限設定 • CSV ファイル 本機以外で作成した CSV ファイルのインポート、サンプル CSV ファイルやブランク CSV ファイルのダウンロード
プロパティ	• 各種設定内容の確認と変更 本機のシステム、インターフェイス、エミュレーションに関する項目などについて、設定内容の確認と変更を行います。
サポート	• サポート情報の表示

補足

- 項目によっては、再起動後（本機の電源をいったん切って再度入れる、または操作パネルを使ってシステム設定をしたあと）に有効になるものがあります。
- 操作パネルの操作中は、CentreWare Internet Services で設定を変更できません。
- 管理者が設定する項目は、設定変更時にユーザー名とパスワードの入力が必要になります。ユーザー名とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。

Web ブラウザーの設定

本サービスを使用する前に、使用する Web ブラウザーで次の設定を確認してください。

Internet Explorer® 8.0 での設定手順は、次のとおりです。

補足

- お使いのWebブラウザーによっては、CentreWare Internet Servicesが正しく動作しない場合があります。

1 ［ツール］メニューから［インターネットオプション］を選択します。

2 ［全般］タブにある、［閲覧の履歴］の［設定］ボタンをクリックします。

3 ［設定］ダイアログボックスの［インターネット一時ファイルと履歴の設定 ］で、［web サイトを表示するたびに確認する］または［Internet Explorer を起動するたびに確認する］を選択します。

4 ［OK］ボタンをクリックします。

プロキシサーバーとポート番号

本サービスを使用する場合の、プロキシサーバーの設定とポート番号について説明します。

■プロキシサーバー

本サービスを使用する場合には、プロキシサーバーを経由しないで直接接続することをお勧めします。

補足

- プロキシサーバーを経由する場合は、Web ブラウザーで本機の IP アドレスを指定すると応答が遅くなり、画面が表示されないことがあります。そのときは、Web ブラウザー側で本機の IP アドレスを、プロキシサーバーを経由しない設定にする必要があります。詳しくは、使用している Web ブラウザーのマニュアルを参照してください。

■ポート番号

本サービスのポート番号は、工場出荷時は「80」に設定されています。ポート番号は［プロパティ］>［プロトコル設定］>［HTTP］で変更できます。設定できるポート番号は「1」から「65535」です。

なお、ポート番号を変更した場合には、Web ブラウザーに入力するときに、IP アドレス、またはインターネットアドレスのあとに、「:」に続けてポート番号を指定する必要があります。

たとえば、ポート番号を「8080」にした場合には、次のように指定します。

http://［本機の IP アドレス］:8080/

または

http://［本機のインターネットアドレス］:8080/

参照

- ポート番号は、機能設定リストで確認できます。詳しくは、『管理者ガイド』の「4　機械確認」>「機械状態 / レポート出力」>「レポート / リストの出力」を参照してください。

補足

- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

CentreWare Internet Services の起動

本サービスを使用する場合は、コンピューター側で次の操作を行います。

1 コンピューターを起動し、Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせた「URL」を使っ

て本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。

- 入力する IP アドレス、インターネットアドレスについては、機械管理者に確認してください。
- ポート番号を指定する場合には、アドレスのあとの「:」に続けて「8080」のように指定してください。
- 本機で、認証機能を使用している場合、［ユーザー名］と［パスワード］に User ID とパスワードを入力してください。User ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。
- 機械管理者の認証に失敗すると、Web ブラウザーの右側フレーム内に、次のメッセージが表示されます。
「認証に失敗しました。」
- 機械管理者の認証に設定回数を超えて失敗すると、Web ブラウザーの右側フレーム内に、次のメッセージが表示されます。
「管理者認証するには、本体の電源を切 / 入してください。」

14 付録

保守サービスと用語について説明します。

• 保守サービスについて 558
• 用語集.....559



保守サービスについて

本機を安心してお使いいただくために、トータルサービス契約とスポット保守サービス方式の 2 種類の保守サービス方式があります。

トータルサービス契約

ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品および保守サービス料金が含まれている保守サービス契約です。ただし、用紙代・ホチキス針代は含まれておりません。トータルサービス契約の有効期間は 5 年間です。

■機械の修理と点検

機械が故障した場合は、お客様のご要請により当社技術員が訪問し修理をいたします。また、必要に応じて故障箇所以外の点検・調整を実施いたします。

■トナーカートリッジなどの配送

機械をいつも正常な状態でご使用いただくために必要な、トナーカートリッジなどをお届けいたします。(用紙は除く)

■部品の交換

修理や点検で、部品の交換が必要な場合には、これを交換いたします。

スポット保守サービス方式

お客様のご要請の都度、当社営業時間内に保守サービスを有料でお引き受けする方式です。ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品は、機械本体とは別にお買い上げいただきます。

補修用性能部品の保有期間について

弊社は本製品の補修用性能部品（機械の機能を維持するために必要な部品）を機械本体の製造終了後 7 年間保有しています。

用語集

A

■A3

420×297mm の用紙のことです。

■A4

297×210mm の用紙のことです。

■A5

210×148mm の用紙のことです。

■ART

Advanced Rendering Tool の略で、弊社がページプリンター用に開発したプリンター制御言語です。

■ART EX

弊社製のページ記述言語です。

B

■B4

364×257mm の用紙のことです。

■B5

257×182mm の用紙のことです。

C

■CSV ファイル

表計算ソフトやデータベースソフトがデータを保存するときに使う、カンマ（,）で区切ったファイル形式です。

D

■DPI

Dot Per Inch の略で、1 インチ幅に印字できるドット数を表す単位です。解像度を示す単位として使います。

E

■ECM

「Error Correction Mode（誤り再送方式）」の略です。

G3 通信の一種で、データが相手に正しく送られたかどうかをチェックし、正しく送られていない場合はそのデータを再送信する方式です。

［通信管理レポート］などの受信の相手先に「ECM」と表示された場合は、相手機がこの方式で送信してきたことを示します。

F

■F コード通信

ITU-T で標準化された T.30* のサブアドレスの使い方について、情報通信ネットワーク産業協会が定めた通信手順のことです。F コード機能を持つ機種間の通信では、他社機の場合も F コードを使用したさまざまな機能を使用できます。(* 通信の規格のことです)

本機の IP ファクス（SIP）通信、インターネットファクス機能では、F コードを使って親展送信されたファクス文書のメール転送ができます。

■FQDN

FQDN（Fully Qualified Domain Name）はネットワーク上で、ドメイン名、サブドメイン名、ホスト名等をすべて省略せずに指定する形式です。

G

■G3

CCITT（現 ITU-T: 国際電信電話諮問委員会）が標準化したファクシミリの通信方式です。

I

■Image Enhancement（イメージエンハンスメント）

白黒の境目を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。

J

■JCL

JCL とは、Job Control Language の略で、ジョブ制御言語と呼ばれます。ジョブの名前や使用する装置の種類などを記述できます。オペレーティングシステムはこの記述を解読して処理をします。

M

■MIME 方式

「Multipurpose Internet Mail Extension」の略です。

メールで受信したデータが、どのようなデータであるかがわかるようにするための取り決めのことです。MIME タイプとは、データの種類を示すものです。

N

■NAT/NAPT

NAT（Network Address Translation）とは、プライベート IP アドレスをグローバル IP アドレスに変換する機能です。

NAPT（Network Address Port Translation）とは、NAT と同様にプライベート IP アドレスをグローバル IP アドレスに変換する機能ですが、NAPT では、ポート番号も変換されます。

■NGN

従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた、次世代の情報通信ネットワークです。NTT が提供する

「フレッツ光ネクスト」のひかり対応ゲートウェイを経由して、IP ファクス（SIP）NGN 通信が可能になります。

■NV メモリー

電源を切ってもプリンターの設定内容を保持しておくことができる、不揮発性のメモリーです。

O

■OHP コピー

OHP フィルムにコピーしたり、コピーした OHP フィルムの間に、白紙やコピーを差し込んで排出させる機能です。

P

■PJL

「Printer　Job　Language」の略です。

Hewlett Packard 社が開発したプリンターを制御する印刷用コマンド言語です。

■POP3 方式

「Post Office Protocol Version3」の略です。

一般的に使われている通信プロトコル（通信の約束ごと）のひとつで、メールの受信プロトコルです。

プロバイダのメールサーバーに私書箱のようなメールボックスを設け、接続時にメッセージを受信します。POP3 方式は受信専用です。メール送信では SMTP を使います。

Q

■QoS

QoS（Quality of Service）は、ネットワーク上で、特定の通信に一定の速度を確保する技術です。

R

■RAM

Random Access Memory の略で、情報の読み出しと書き込みができる記憶装置（メモリー）です。

■ROM

Read Only Memory の略で、情報の読み出し専用の記憶装置（メモリー）です。

S

■SIP

SIP（Session Initiation Protocol）とは、IP ネットワーク網で通信するために必要な呼制御プロトコルです。

■SIP サーバー

SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーなどがあります。

■SIP プロキシサーバー

SIP 端末からのリクエストを、ほかの SIP 端末または SIP サーバーに転送する機能を持つサーバーです。

■SIP ユーザー名

SIP 通信で相手を特定する場合、「xxx@yyyy」形式（例：「1111@192.0.2.1」）で指定します。「@」の前の部分（例では「1111」）を SIP ユーザー名と呼びます。

■SIP レジストラーサーバー

SIP 端末などからの登録要求を受け付けて、それらの情報を登録する機能を持つサーバーです。

■SMTP 方式

「Simple Mail Transfer Protocol」の略です。

メールの送受信で一般的に使われている通信プロトコルです。

■Super G3 （SG3）

ITU V.34 に準拠した G3 通信の方式です。

通常の G3 通信より高速（33.6kbps）の通信ができるようになります。

T

■T.38

従来ファクスのやり取りを IP ネットワーク上でリアルタイムなファクス通信制御を行うためのプロトコルです。また既存の公衆電話回線網と IP ネットワーク網とでファクス通信するためにも必要です。

U

■UNC 表記

Microsoft Networks（SMB）で、ネットワーク上にあるコンピューターの資源（共有フォルダーや共有プリンター）を指定する表記方法です。

表記方法は、ホスト名の前には「\\」を付け、ホスト名と資源名の間は「\」で区切ります。

ホスト名が「myhost」、そのホストの共有フォルダー名が「sharefolder」の場合は、次のように表現されます。

\\myhost\sharefolder

V

■VoIP ゲートウェイ

IP ネットワークと公衆電話回線網との間で、音声信号（ファクス通信を含む）を中継する装置です。VoIP を使用した通信と、公衆電話回線網側での G3 ファクス通信とを相互変換する機能を持っています。

あ

■合紙

コピーを排出するときに差し込む白紙、色紙、コピーのことです。

■相手局

通信の相手方のこと。加入者回線の端末（電話、ファクス、コンピューターなどの機器）を総称していいます。

■宛先

本機では送信の相手方のこと。「宛先を指定する」という場合は、相手方の電話番号などを入力することをいいます。

インターネットファクスでは相手のメールアドレスのことをさします。

い

■印字領域

用紙に対して実際に印字可能な領域です。

■インターネットファクス

一般のファクス通信のように電話回線を経由せず、企業内ネットワークやインターネットを経由し、本機で読み取った原稿を、メール（TIFF の添付文書）として送受信できるファクスのことです。

■インターネットファクスダイレクト

インターネットファクスは SMTP サーバーを経由してメールを送信しますが、インターネットファクスダイレクトは SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス対応機に直接送信します。

■インターネット網

さまざまな通信網を結びつけた、広範囲に広がる通信網のことです。

え

■エイリアス

本機メールアドレスの別名です。

たとえば、本機メールアドレスが abc@mb1.abc.example.com の場合に、abc@example.com のような別名（エイリアス）を設定できます。

■エミュレーション

他社のプリンターでプリントした場合と同等の印字結果を得ることができるように、プリンターを動作させることです。このモードをエミュレーションモードと呼びます。

■エラーコード

何らかのトラブルが発生した場合、操作パネルやレポートなどに表示されるコードです。

お

■オートクリア

一定の時間本機に触れないとき、タッチパネルディスプレイの表示を自動的に初期画面に戻す機能です。

■オフセット排出

コピーを排出するときに、その区切りがわかるように排出位置を交互にずらす機能です。

■オフフックダイヤル

受話器を上げて、ダイヤルすることです。

■オプション

別売品のことです。その機種の基本構成のほかに、追加できる機能を別売品として提供しています。(別売品については、弊社営業担当までご確認ください。)

■オンフックダイヤル

受話器を置いた状態で、ダイヤルすることです。

か

■解像度

画像の細かさを表します。通常 1 インチあたりのドット数（単位は dpi）で表し、この数値が大きいほど解像度が高い（細部まで表現できる）といいます。

■カット紙

A4、B5 などの定形サイズの用紙のことです。

■画面

タッチパネルディスプレイに表示される画面のこと。メッセージや操作項目が表示されます。

け

■原稿イメージ

本機が読み取った原稿のイメージのことです。

こ

■国際通信

国外の相手局と通信すること。

また、送信モードを設定するときに表示される選択肢の 1 つ。通信状態の悪い所へも確実に送信できるように、送信速度を下げて送信するモードです。

し

■しきい値（ページ分割しきい値）

1 枚の用紙サイズを超えた原稿の長さが少しであっても、用紙はもう 1 枚分使用します。受信した内容の後端に余白がある場合には、後端部分をある程度切り捨て、1 枚の用紙に収めることができます。

切り捨てる後端部分の長さがしきい値です。しきい値が小さいほど、2 枚めの用紙を使用しやすくなります。逆に、しきい値が大きいほど、切り捨てる部分が増える代わりに、1 枚に収まりやすくなります。

■自局

お使いいただいている本機のこと。加入者回線の端末（電話、ファクス、コンピューターなどの機器）を称していいます。

■自動トレイ切り替え

コピー中に用紙がなくなったとき、同一サイズ、同一方向の用紙がセットされているほかの用紙トレイから自動的に用紙を送るようにする機能です。

■自動画像回転

原稿と同じ向きの用紙がセットされていないとき、原稿イメージを 90° 回転させてコピーする機能です。

■自動用紙選択

セットした原稿と選択した倍率に合わせて、適した用紙を本機が自動的に選択する機能です。

■受信紙宣言

受信した文書をどのサイズの用紙に出力するかを設定しておくこと。設定したサイズは、受信側から送信側に宣言されます。

■受信バッファ

本機のメモリーまたはハードディスクで、コンピューターからの受信データを一時的に蓄積するための領域です。

■準備完了音

電源を入れたときなど、本機が待機状態から使用可能になったときに発する音です。

■初期画面

電源を入れた直後や、〈リセット〉ボタンを押したとき、およびオートクリア機能が働いたときに表示される、タッチパネルディスプレイの画面です。

■初期値

工場出荷時の値、または機械管理者モードで設定した値です。

■状態表示コード

本機の状態を表すコード。本機にトラブルが発生したときにタッチパネルディスプレイに表示されます。

■ジョブメモリー

一連の操作を登録しておくと、同じ操作でコピーするときにボタンを 1 つ押すだけで、その操作が実行できる機能です。

す

■スタート予約

電源を入れた直後などに、原稿をセットして機能を設定し、〈スタート〉ボタンを押しておくこと。本機が使用可能な状態になりしだい、コピーが自動的に開始されます。

せ

■節電機能

一定の時間使用しないときに本機を待機状態にさせる機能です。

本機では、次の節電機能を設定できます。

◆低電力モード

一定の時間（秒）本機を使用しないとき、定着部ヒーターおよびモーターが自動的に待機状態になる機能。このときタッチパネルディスプレイは消灯し、〈節電〉ボタンだけが点灯している状態になります。

◆スリープモード

本機のほとんどが待機状態になり、消費電力は最も少ない状態になります。

■センター移動

原稿の中央を用紙の中央に自動的に移動させてコピーする機能です。

そ

■ソート

コピーを 1 部ごとにページ順に並べて排出する機能です。

た

■ダイヤル種別

接続している回線のダイヤル方式。本機の設定では、PB（プッシュ式回線）、10PPS（ダイヤル式回線 /10PPS）、20PPS（ダイヤル式回線 /20PPS）の 3 種から選択します。

■ダイヤルする

本書では、送信の相手先のファクス番号を入力すること。

ダイヤルする方法には、〈数字〉ボタンで全桁を入力する方法、短縮宛先番号を使う方法、ワンタッチボタンを使って指定する方法、宛先表を使う方法などがあります。

■ダイヤルトーン

回線側から発信される音。目的の回線につながったことを確認できます。

■たてよこ独立変倍

原稿イメージをたて長やよこ長に変形してコピーする機能です。

ち

■蓄積

本書では、原稿の画像を読み取って、その画像データを本機に保存することです。

つ

■通信

通信回線を使って、音声データ（電話）、画像データ（ファクス）、映像データ（ビデオテックス）、コンピューターのデータ（パソコン通信）をやり取りすることです。

本書では特に、画像データの送信／受信と通話を合わせて「通信」といいます。

■通信インターバル

通信の終了後、次の送信を始めるまでの間隔です。

と

■トナー残量警告音

トナーカートリッジの交換が必要になったときに鳴る音です。

な

■中とじしろ

製本作成の場合に、真ん中のとじ部分にとじしろを付ける機能です。

は

■パスワード送信

ファクス番号のあとに、「S」と相手先の ID を付加して、相手先を指定します。誤送信を防ぎます。

■発信元

通信の送り元。「宛先」に対応することばとして使用されます。

ふ

■ファクシミリ通信網

従来の電話網（一般公衆回線網）とは別に NTT が提供しているファクシミリ通信専用の通信網。加入すると、簡易機能しか持たないファクシミリでも、短縮宛先番号や同報送信、親展送信、着払い送信、情報案内、情報取り出しなどの機能を使用できます。また、夜間大量同報の機能を活用して、通信料金の軽減を図ることもできます。

■ファクスゲートウェイ

インターネット網と一般電話回線を接続し、メール文書を一般ファクスにファクス文書として転送することです。

■プリントページバッファ

本機のメモリーで、実際のプリントイメージを格納する領域です。

■プロファイル

インターネットファクスを使用して送受信するときに、画像の解像度や紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。相手先のインターネットファクス対応機によって、処理できるプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、相手先のインターネットファクス対応機で処理できるプロファイルを確認してください。

へ

■ヘッダー

発信元記録のこと。受信した用紙の先端に、印字されます。

■ページ連写

見開き原稿の左右のページを片面ずつ別々の用紙にコピーする機能です。

ほ

■ポーリング

本機からの操作で送信させることです。

ま

■まとめて 1 枚

2 枚または 4 枚の原稿を、左右上下に並べて 1 枚の用紙にコピーする機能です。

よ

■読み取り

原稿を光学的に読み取って、画像データに変換して取り込むことです。

本機には、読み取り装置として、原稿ガラスと原稿送り装置が用意されています。

ら

■ラインモニター

ダイヤルしてから相手先に接続されるまでの間、回線上の音をスピーカーから聞くことができます。

わ

■わく消し

上下や左右、中央の原稿イメージを消してコピーする機能です。

索引　※ →【　】のカッコ内はマニュアル中の用語です

記号・英数

100% 119
10BASE-T/100BASE-TX コネクター 63
1 枚の原稿を 1 枚の用紙に繰り返してコピーする
→【ダブルコピー】.....171
1 枚の原稿を複数の用紙に分けて拡大コピーする
→【ポスター】.....153
1 枚の用紙に画像を繰り返してコピーする
→【画像繰り返し】.....154
2 枚→ 1 枚（らくらくコピー）.....115
CentreWare Internet Services 549, 552
DocuWorks 350
DocuWorks 署名 354
DTMF 信号 251
DTMF 方式 295, 299
EXT.LINE 66
FAX 信号方式 295, 299
FAX 送信中止→【ファクスを中止する】.....206
F コード通信をする 281
F コード方式 295, 299
G3 266
HANDSET 66
ID カードのおもてとうらをコピーする 181
IP ファクス（SIP）.....220
IP ファクス（SIP）を受信する 226
IP ファクス（SIP）を送信する 225
JPEG 351
LINE 1 66
LINE 2/ISDN 1 66
LINE 3/ISDN 2 66
MDN 413
NGN 222
OCR 352, 355
OHP 合紙 172, 525
OHP トレイ 173
OHP フィルムの間に用紙を差し込む 172
PDF 350
PDF 署名 353
S/MIME で暗号化する 286, 418
S/MIME でデジタル署名する 287, 418
SIP（シップ）サーバー 220
TEL 66
TIFF-F 286
TIFF-J 286
TIFF-S 286
USB2.0 インターフェイスコネクター 63
USB メモリー差込口 82
USB メモリー保存 91, 315, 381
VoIP ゲートウェイ 221
XPS 署名 354
Z 折りする
→【仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り】.....175

ア

合紙トレイ 173
合紙 / 配布用トレイ 174
相手先の応答を確認して送信する 292
相手先の文書を取り出す 288
アジャスターフット 63
宛先グループ番号指定 201
宛先表 236, 366
宛先表
（宛先表タイプ 1 でアドレスを指定する）.....331
宛先表
（宛先表タイプ 2 でアドレスを指定する）.....334
宛先表（コンピューター）を登録する
→【ファクス宛先表ツール】.....538
宛先表データをコンピューターに取り込む
→【短縮宛先情報を取り込む】.....539
宛先表を使って宛先を指定する 236, 241
宛先名 / メールアドレス 343
宛先を指定する 201
宛先を指定する（IP ファクス（SIP））.....221
アノテーション 156
暗号化 286, 418

イ

異常終了したときの処理方法 521
色空間を設定する 400
印画紙スキャン 397
インターネットファクスコメント 273
インターネットファクスの件名を指定する 273
インターネットファクスプロファイルを

指定する 285
インデックス紙コピー 168
インデックスプリント 486, 488
イントラネット 220

ウ

上とじ原稿 133, 261, 404
裏写り 397
裏写り防止（スキャン）.....399
裏面読み取りガラス 65

エ

エラーランプ 81, 85

オ

大型カラー操作パネル 63, 84
オンフック 292

カ

カール補正ボタン 69
海外ファクスを送る→【国際通信】.....267
回線（ポート）を指定する 249
外部アクセス 462
開封確認 264, 413
隠し印刷 165
隠し印字 167
拡大コピー→【倍率選択】.....114, 118
確認ランプ 65
各部の名称と働き 62
画質調整 126, 396
画像繰り返し 154
画像の圧縮率を設定してスキャンする 412
画像のシャープさ 127
画像を反転してコピーする 141
片面にコピーする 124, 130
紙折り指定 170
紙折りユニット CD1 68
紙折りユニットカバー 68
画面輝度調整 92
カラーの印画紙写真をスキャンする 397
カラーモード 346
完了したジョブを確認する 493

キ

キーボード 341
キーボードで宛先を指定する 247
機械確認（メーター確認）ボタン 80, 86
機密文書を印刷する
　→【セキュリティープリント】 496, 525
キャスター 63
鏡像 / ネガポジ反転 141
共有名 376

ク

クリア（C）ボタン 81, 86

ケ

原稿受け 65
原稿受けストッパー 65
原稿送りトレイ 65
原稿ガイド 65
原稿カバー 62
原稿ガラス 62, 102, 198, 314
原稿サイズ入力 134
原稿セット向き指定 142
原稿の裏写りを防止する 399
原稿の画質タイプを選択する
.....232, 255, 349
原稿の状態 130, 255, 348
原稿のセキュリティー管理をする 166
原稿の背景にある色を除去する 128, 398
原稿の読み取りサイズを指定してコピーする ..134
原稿の読み取りサイズを指定して
　スキャンする 405
原稿の読み取りサイズを指定して送信する 258
原稿の両面をスキャンする 347
原稿の両面を読み取って送信する 232, 253
原稿の枠やとじしろの影を消してコピーする ..137
原稿の枠やとじしろの影を消して
　スキャンする 408
原稿読み取りガラス 65
原稿をセットする 100, 196, 312
原稿を追加する 190
原稿を読み取る倍率を指定して
　スキャンする 409
原稿を読み取る倍率を指定して送信する 262

言語切り替え 92
件名 345

コ

高圧縮 352
国際通信 266
こちらの名前や番号を付けて送信する 270
異なる設定の原稿をまとめてコピーする 183
コピー 117
コピー濃度 127
コピー濃度（らくらくコピー）.....115
コピーを中止する 108
個別プリント 430
コントラストを調整する 398
コンピューターから直接ファクス
→【ダイレクトファクス】.....534

サ

サーバー 376
サイズが異なる原稿を一度に読み取る
.....136, 259, 406
サムネール表示 424
サンプルコピー 188
サンプルプリント 500, 525

シ

地色除去 128, 398
自局情報 249
時刻指定 268
時刻指定プリント 504, 526
時刻を指定して送信する 268
指示局 296, 299
実行中 / 実行待ちのジョブを確認する 491
指定した宛先を削除 / 確認する 252
指定した領域を抽出 / 削除してコピーする 192
自動 120
自動（ちょっと小さめ）.....120
自動 % 119
自動画像回転 143
自動検知 135, 406
自動受信 305
自動両面原稿送り装置
→【原稿送り装置】..... 100, 196
シャープネス 398
写真 349
縮小コピー→【倍率選択】..... 114, 118
出力形式 145, 411
出力結果を確認してから印刷する
→【サンプルプリント】.....500
出力ファイル形式 349
主電源スイッチ 64
主電源ランプ 81
手動受信 305
手動送信 292
受話器 292
省エネ→【節電機能について】.....78
少数色で圧縮する 353
正面カバー 63
上面カバー 65
章分け 186
ジョブ確認 490
ジョブ確認（通信中止）ボタン 80
ジョブ確認ボタン 86
ジョブ結果レポート出力 494
ジョブ属性 531
ジョブの状態を確認する 107, 204, 321
ジョブフロー 223, 442
ジョブ別集計レポート出力 494
ジョブ編集 183
ジョブメモリー 223
ジョブメモリーの名称を登録 / 変更する 456
ジョブメモリーの呼び出し 459
ジョブメモリーを削除する 456
ジョブメモリーを登録する 452
仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り 175
親展通信する 278
親展ポーリング 289
親展ポーリング予約 291
親展ボックス 421
親展ボックスビューワー 3 ..... 321, 545
新聞をきれいにコピー / スキャンする
→【地色除去】.....398

ス

ズーム 118, 409
数字ボタン 81, 86
スキャナー（PC 保存）.....364
スキャナー（URL 送信）.....388

スキャナー（USB メモリー保存）.....381
スキャナー（ボックス保存）.....379
スキャナー（メール送信）.....329
スキャンしたデータの種類を選択する 349
スキャンデータを取り込む 321
スキャンの色を選択する 346
スキャン濃度や画像のシャープさを
　調整する 398
スキャンを中止する 322
スタートボタン 81, 86
スタンプ 156, 525
スタンプを付けてコピーする 156
ストップボタン 81, 86
スリープモード 78
寸法指定変倍 120

セ

製本 146, 525
製本トレイ 68, 69
製本排出ボタン 69
セカンダリーイーサネット
　コネクター 63
セキュリティープリント 496, 525
節電機能について 78
節電ボタン 80, 86
セットした原稿の向きを指定する 142

ソ

ソートする
　→【仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り】.....175
操作パネル 62
送信オプション 264
送信画質 231, 255
送信結果を確認する 264
送信先で複数部プリントする 275
送信先の確認 / 変更 343
送信先部数 275
送信シート 271, 540
送信者アドレスを追加 342
送信者のアドレスを設定する 344, 389
送信する文書のファイル名を指定する 414
送信濃度を調整する 253

タ

ダイヤルトーン 251
ダイヤル入力で宛先を指定する 228
大量原稿 190
ダイレクトファクス 533
タッチパネルディスプレイ 80, 84
たてよこ独立変倍 120
たてよこに画像を回転させてコピーする 143
短縮宛先情報を取り込む 539
短縮宛先番号指定 201
短縮ボタン 81, 86

チ

中止 491
抽出 / 削除 192
長尺 196
ちょっと小さめ（全面）.....119

ツ

通信モードを選択する 266
次の原稿があるとき 106, 203, 319

テ

データランプ 81, 85
定形サイズ 135, 259, 406
定形変倍 118, 119, 409
定着ユニット 64
低電力モード 78
できあがり状態 130
できあがり状態を確認してコピーする 188
デジタル署名 287, 418
電源スイッチ 62
転写ユニット 64
転送先の指定 375
転送プロトコル 365

ト

同時 120
同報 294
同報送信 294
登録 1 ボタン 81, 85

登録 2 ボタン 82, 85
登録 3 ボタン 82, 85
特殊記号を入力する 251
とじしろ 139, 408
トナーカートリッジ 64
トナー回収ボトル 64
トナー回収ボトルカバー 64
トランスポートユニット S1 フロントカバー 68

ナ

中とじ冊子になるようにコピーする 146
中とじフィニッシャー C3 68
中とじフィニッシャー D2 69
中とじホチキスカートリッジ 69
中とじユニット 68
中とじ用ホチキスカートリッジ 68

ニ

認証情報の表示エリア 89
認証プリント 507, 526
認証ボタン 80, 86

ネ

ネットワーク参照 374
ネットワークスキャナードライバー 544

ハ

背景に管理番号を印字する 163
排出トレイ 64, 68, 69
排出面指定 169
配布用コピートレイ 174
倍率 % 120
倍率選択 118
倍率選択（コピー）.....118
倍率選択（らくらくコピー）.....114
白紙ではない原稿面だけを送信する
　→【両面（白紙スキップ)】..... 233, 254
パスワード送信 251
発信元記録 270
パンチ穴を開ける
　→【仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り】.....175
パンチダストボックス 68, 69
ハンドセット 292

ヒ

左奥カバー 63
左カバー 65, 70
左側面下部カバー 63
左向き 349, 407, 409, 410
日付を付けてコピーする 156
非定形サイズの原稿 134, 258, 405
表紙を付けてコピーする 150
表紙を付けて送信する 271
平とじ用ホチキスカートリッジ 68
ビルドジョブ 183
ビルドジョブ用ジョブメモリーを呼び出す 460

フ

ファイル名 414
ファイル名が重複したときの処理を設定する ..416
ファクス / インターネットファクス 234
ファクス宛先表ツール 538
ファクス情報サービス 288, 293, 308
ファクス送信中止→【ファクスを中止する】....206
ファクスドライバー 533
ファクスの種類を指定して送信する 235
ファクス未送信文書 518
ファクスを中止する 206
フィニッシャー C3 68
フィニッシャー D2 69
フィニッシャートレイ 68, 69
複数箇所に一斉に送る→【同報】.....294
複数の宛先に送信する 235
複数の原稿を 1 枚に合成して送信する 277
複数の原稿を 1 枚にまとめてコピーする 152
複数の用紙に分けて拡大コピーする 153
複製管理 163
ブック両面 133
プライベートプリント 512, 527
プリセット % 120, 410
プリンタードライバー 527
プリント 527
プリント待ちジョブを強制的にプリントする ..520
ブレーカー 77
ブレーカースイッチ 64
プレビュー表示 426

フロントカバー 68
分割して送信する 414
文書プリント 487
文書名 417

ヘ

ページ番号を付けてコピーする 156
ページ連写 131, 260, 404
ペーパーセキュリティー 166
並列合成送信 277
返信先アドレス 415
返信先のアドレスを設定する 415

ホ

ポーズ（-）ボタン 81, 86
ポートを指定して送信する
　→【回線（ポート）を指定する】..... 249
ポーリング 288
ポーリング（相手から取り出し）..... 288
ポーリング予約 291
ポーリング予約ボックス 516
保守サービス 558
ポスター 153, 525
保存する文書名を指定する 417
保存文書を削除する 495
保存文書をプリントする 495
ホチキスカートリッジ 69
ホチキスする
　→【仕分け / ホチキス / パンチ /Z 折り】..... 175
ホチキスダストボックス 69
ホチキス左上 1 ヵ所（らくらくコピー）..... 116
ボックス 421
ボックス操作 419
ボックス保存プリント 526
本文 346, 389
本やカタログなどをコピーする
　→【次の原稿があるとき】..... 106
本やカタログなどをスキャンする
　→【次の原稿があるとき】..... 319
本やカタログなどをファクスする
　→【次の原稿があるとき】..... 203
本をページ順にとる
　→【ページ連写】..... 131, 260, 404

マ

まとめて 1 枚（N アップ）..... 475, 525, 152
マルチポーリング 288

ミ

右カバー 69
三つ折り排出トレイ 68, 69
三つ折り排出トレイボタン 68, 70
ミックスサイズ原稿送り 136, 259, 406
見開き原稿を左右に分割してコピーする 131
見開き原稿を左右に分割してスキャンする 404
見開き原稿を左右に分割して送信する 260
見開き原稿を分割して両面コピーする 133

メ

メールプリント 529
メッセージエリア 89
メニュー画面 88
メニューボタン 80, 86

モ

文字 127, 232, 255, 349
文字 / 写真 127, 232, 255, 349
文字認識（OCR）..... 352
文字認識（OCR）画面 355
文字の入力方法 97
モニターレポート 264

ユ

ユーザー名 377
優先 492
優先させて通信する 268
優先通信 268

ヨ

用紙選択 121
用紙選択（コピー）..... 121
用紙トレイ（らくらくコピー）..... 112
用紙トレイ 1 63
用紙トレイ 2 63

用紙トレイ 3 63
用紙トレイ 4 63
用紙トレイ 5（手差し）.....63, 67
用紙トレイ 5（手差し）上面カバー 63
用紙トレイ 6 .....63, 67
用紙トレイ 6 上面カバー 63
用紙トレイ 7 67
用紙トレイ T1（インターポーザー）.....69
用紙の残量を確認する 113, 122
用紙の排出面を設定する 169
用紙を二つ折りにして排出する 170
用紙を三つ折りにして排出する 170
読み込み濃度 398
読み取り解像度 403
読み取りサイズ 134, 258, 405
読み取り倍率 262, 409
読み取り方法 129, 257, 402
読み取る解像度を指定してスキャンする 403
読み取る解像度を指定して送信する 231, 255
読める向き 348, 407, 409, 410

ラ

らくらくコピー 112
らくらくファクス 227

リ

リセットボタン 69, 81, 86
リモート操作で電源を切る 76
リモート中継同報 299
両面 / 片面選択（らくらくコピー）.....114
両面 / 片面選択 130
両面原稿送り 253, 347
両面にコピーする 124, 130
両面プリント 525

レ

冷却モード 98
レバー 64

ワ

わく消し 137, 408
割り込みボタン 81, 86
ワンタッチパネル 82
ワンタッチボタン 83, 229, 246
ワンタッチボタンで宛先を指定する 229, 246

ApeosPort-V 7080 N/6080 N/5080 N
DocuCentre-V 7080 N/6080 N/5080 N
ユーザーズガイド

著作者 – 富士ゼロックス株式会社　　発行年月 – 2018 年 8 月　第 1 版
発行者 – 富士ゼロックス株式会社

（帳票番号：ME7130J1-4）

困った！が解決しないときは

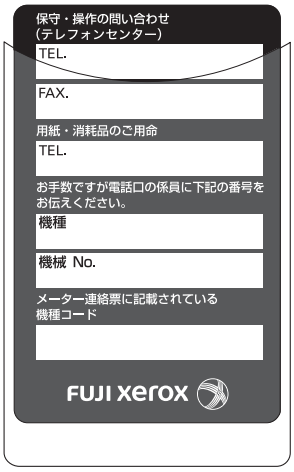
保守・操作・修理（内容・期間・費用など）のお問い合わせ、消耗品のご注文は、カストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。

電話番号は、機械本体に貼付のカードやシールに書かれています。

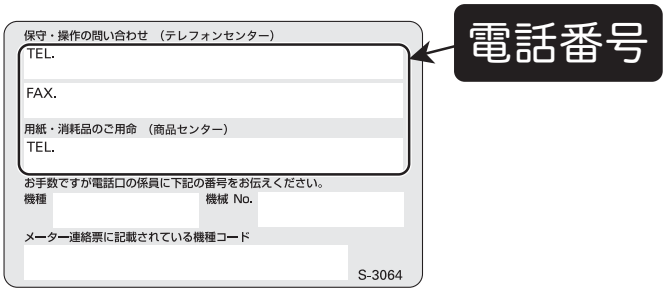
受付時間　土曜、日曜、祝日を除く **9時 ～ 17時30分**（一部の地域では異なります）

電話番号　機械本体の 貼付カード をご確認ください。

カードの例 ❶



ここに書いてあります



カードの例 ❷



- カードは、名刺くらいの大きさです。
- 色やイメージが、イラストと異なる場合もあります。
- 問い合わせ先がわからない場合は、お客様相談センターで電話番号を確認してください。

- 本機を廃棄する場合は、弊社の営業担当者にご連絡ください。

ご意見やご相談の受付窓口

お客様相談センター　電話：0120-27-4100（通話料無料）
FAX：0120-05-5035（通話料無料）

- フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。

土、日、祝日および弊社指定休業日を除く　9時～12時、13時～17時
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

商品全般に関する情報

公式サイト　URL http://www.fujixerox.co.jp/

- 商品全般に関する情報、最新ソフトウェアなどを提供しています。

◎ この取扱説明書は、再生紙を使用しリサイクルに配慮して製本されています。不要となった際は回収、リサイクルに出しましょう。

富士ゼロックス株式会社

2018年 8月　帳票番号：ME7130J1-4　1版